

北谷町文化財調査報告書 第24集

北谷町の地名

- 戦前の北谷の姿 -

2006年3月

沖縄県 北谷町教育委員会

正誤表

本文

頁	行	誤	正
14	16行	ON14245 071-2	ON24145 071-2
68	25行	サーラバシ	サーラバシ 【※編注:p23「戦時中の北谷ヌ前屋取」の地図に記載】
74	39行	払い下げであるという言い伝えが	払い下げであるという言い伝えが
81	33行	戸数14軒の小さな集落	戸数15軒の小さな集落
97	4行	【※編注:P199「戦時中の謝苺屋取～桃原屋取」	【※編注:P211「謝苺屋取 集落の周辺」
120	3行	戦前のウフモーの感じが	戦前の ウフモー の感じが
166	27行	屋号ホーイ:8の東隣	屋号ホーイ:8の南
171	40行	米海軍病院の西側一帯	米海軍病院の東側一帯
174	19行	集落の西側にあった。	集落の東側にあった。
180	21行	昭和13～14(1937～38)年頃に	昭和13～14(1938～39)年頃に
271	19行	集落の右側を南北に走っていた。	集落の東側を南北に走っていた。
279	18行	青年たちがムートートウエーヤ	青年たちがムートウトウエーヤ
292	11行	質屋は、昭和10(1953)年までに	質屋は、昭和10(1935)年までに
329	39行	ノーリグワーの河口。	ノーリグワー の河口。
338	18行	昭和7～8(1932～38)年頃に	昭和7～8(1932～33)年頃に
350	17行	サクガーヤードウイ(佐久川屋取)である。	サクガーヤードウイ (佐久川屋取)である。
414	8行	戦前、お年りたちは	戦前、お年寄りたちは

語注

頁	誤	正
283、292、 293、333、 334	■十・十空襲:昭和19(1945)年…	■十・十空襲:昭和19(1944)年…
277、292、 342、360	■嘉手納農林学校:…大正3(1916)年…	■嘉手納農林学校:…大正5(1916)年…
313	■千原エイサー:現在の嘉手納町域にあった千原屋取のこと。…	■千原エイサー:現在の嘉手納町域にあった千原屋取のエイサー。…
377	■ウシオーラセー:…ウシオーラセーとも言う。	■ウシオーラセー:…ウシオーラシーとも言う。

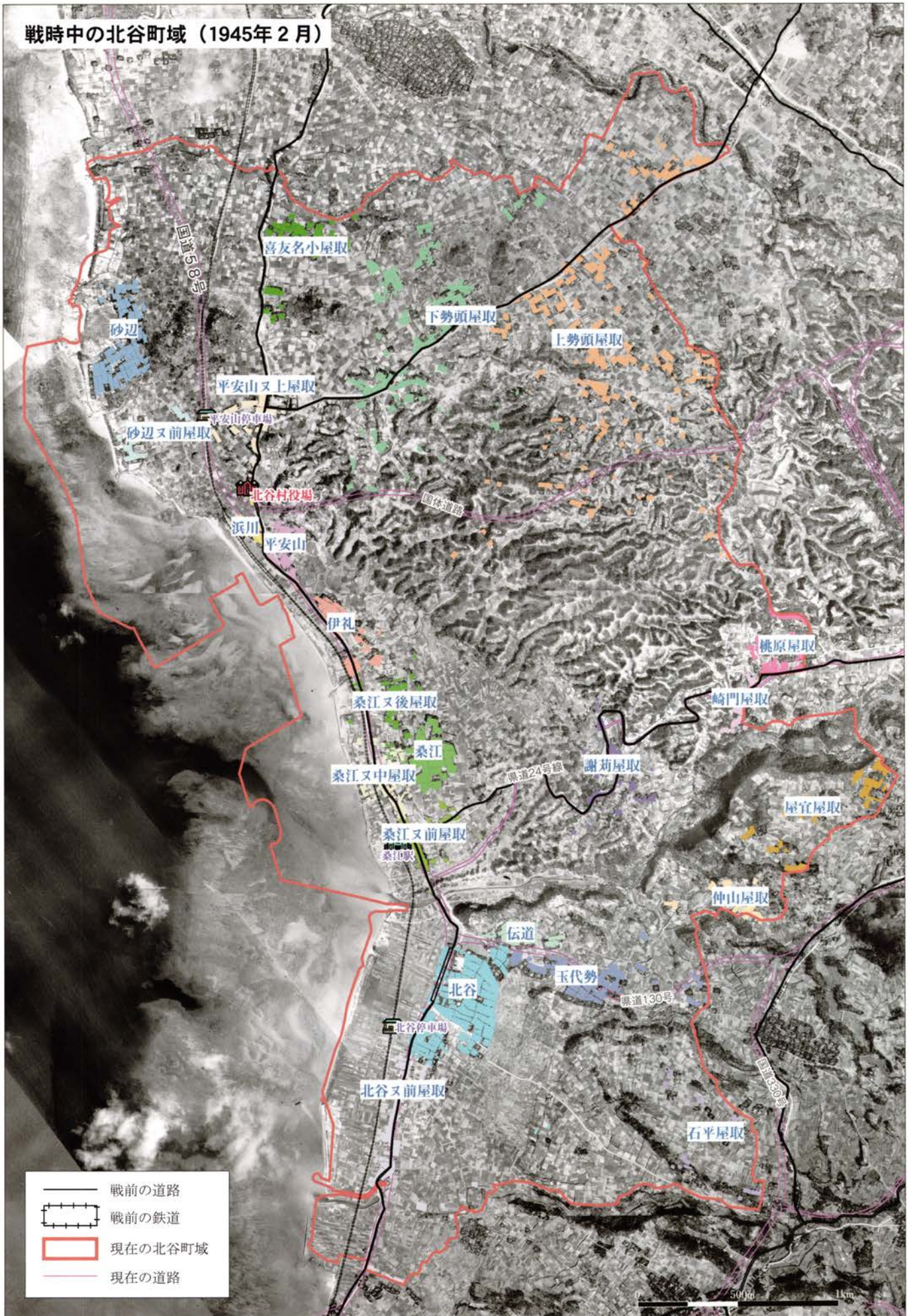
北谷町の地名

- 戦前の北谷の姿 -

現在の北谷町 (2002年)



戦時中の北谷町域（1945年2月）



現在の北谷町（伊平から桑江、北谷にかけての海岸線を北から）



戦前の記念撮影写真

北玉尋常高等小学校の生徒と教員が写っている記念写真。左端の眼鏡をかけた男性は校長、その隣の男性は片岡教諭である。

片岡教諭は、ジュショーイン（樹昌院）の住職も務めていた。

この2葉の記念写真の背景に写っているのは、戦前の北谷付近を白比川北側から見た風景である。

上の写真は、おそらくイチグスクの上で撮影されたもの。下の写真は、シルヒージャーの河口付近と思われ、昭和に入ってから建造された護岸がはっきりと写っている。



発刊によせて

地名は、その地域の自然・歴史・文化に根ざした貴重な歴史的遺産です。しかし、北谷町は沖縄戦において米軍の上陸地点となった地であり、戦後は全域が米軍の占領地となりました。その後、部分的に返還されたものの、かつての集落域の多くは、現在も米軍基地として使用されている状況です。そのため、地形や人々の生活様式も大きく変化してしまいました。それにともなって多くの地名も埋もれてしまい、今まさに消えようとしています。

こうしたことから、北谷町教育委員会では町内の地名の記録保存・継承をはかるために、平成11年度より地名調査として聞き取り調査を実施してまいりました。戦前の集落の様子を今に伝える方々も高齢に達し、聞き取りが難しい面も多々ありましたが、多くの貴重な話を伺うことができました。そのなかから、地名の呼称や由来、土地利用の方法、生活とのかかわり、集落で行なわれる祭祀・行事などについて、町内のご年配の方々から教えていただいた内容を中心にまとめたものが、この報告書となっております。北谷町の自然・歴史・文化を理解する一助となることと思います。また、町の事業や文化行政を行なう上でも利用・活用されれば幸いです。

最後になりましたが、本報告書を調査から刊行までご指導していただき、立派に完成させていただきました名嘉順一先生、そして、本調査にご協力いただきました話者の方々ならびに関係者の方々に深く感謝申し上げます。これからも教育委員会では、民俗文化財の掘り起こし事業に努めていきたいと考えておりますので、町民のみなさまの、なお一層のお力添えをお願い申し上げます。

平成18年3月

北谷町教育委員会
教育長 瑞慶覽朝宏

はじめに

本報告書は、平成11年度から平成17年度にかけて行なわれた「北谷町陸地地名調査」の成果をまとめたものである。

北谷町は、沖縄戦における米軍上陸地点となり、戦後は全域が米軍の占領地となった。そのため、住民は村外への居住を余儀なくされた。その後、部分的に土地が返還されたものの、依然として嘉手納基地・キャンプ桑江・キャンプ瑞慶覧の3つの米軍基地があり、町面積の約53%を占めている状態である。

米軍基地建設にともない、土地の様子は急激に、かつ大規模に変わった。嘉手納地域とも分村することにもなった。また、米軍用地以外の場所も、都市開発や宅地開発などによって、現在も変貌が続いている。このように地形や地理が変わってゆくなかで、かつてあった風景、そして地形や地理にまつわる民俗知識の多くが忘れ去られ、失われつつある状況である。

土地にまつわる民俗知識は、生産や漁労、祭祀、儀礼、経済活動、政治にいたるまで、人々の生活のさまざまな側面に深く関わっている。そして、土地についての知識・記憶・空間感覚といったものは、忘れ去られつつあるものもあり、一方で現在生きている人々の地理・空間感覚のなかに強固に存続しているものもあるが、いずれにせよ、過去、人々の生活のなかに息づいていた土地や風景の記憶の一つ一つが、「現在」の土地や風景をより良く知るために貴重な資料であり、可能なかぎり正確に記録・保存され、後世に残されるべきものである。

そのため、今回、土地の様子が大きく変わった沖縄戦以前、現在の北谷町域に相当する地域に存在していた23集落を対象とし、そこで使用されていた地名と、それにまつわる民俗知識の調査を行なった。戦前の景観を記憶する方々の記憶を頼りに、地籍図や米軍撮影空中写真を用いながら、戦前の北谷の復元を行ない、その結果を文字記録として保存することを目的としたのが本報告書である。

この報告書によって、戦前を知る方々には懐かしい北谷の姿を、また戦後生まれの方々には新たな北谷の姿を発見をしていただけることと思う。北谷町民をはじめ、北谷町域の地理や民俗についての知識を求める人々に、広く活用されるよう願ってやまない。

最後に、本報告書の発刊にあたり、ご指導・ご協力いただきました多くの町民の方々、さらに各関係者の方々に対し、深く御礼申し上げるとともに、今後ともなお一層のご協力をお願い申し上げたい。

調査方法

調査は、現在の北谷町域内に存在した23集落を対象とし、調査員が直接話者に会い、聞き取りを行なった。話者は、沖縄戦以前の集落を記憶している世代（大正～昭和初期生まれで、およそ65歳以上）の方々を対象とした。性別・職業には特にこだわらなかった。

調査方法は、まず『北谷町史 第三巻 民俗下』の「第三章 地名」「第六章 名所・旧跡」などから抜き出した地名を基本とした調査項目票を作成した。話者宅、各郷友会事務所、公民館、北谷町役場などにおいて、2～6名の話者に集まっていただき、調査票・屋号地図・地籍併合図・米軍撮影空中写真などを見てもらいながら、地名の呼称・由来・土地利用の仕方・生活との関わりなどの聞き取り調査を行なった。

聞き取り調査は、集落の規模によって数回行ない、カセットテープに録音した。また、話者同伴による現地調査も可能な限り行なった。

調査で得られた情報は、パーソナルコンピュータを用いて、整理・記録した。具体的には、録音情報はテープ起こしをし、Microsoft Wordで文字化・記録した。さらに、項目ごとの情報は、データベースソフト桐 ver.9やMicrosoft Excelなどを用いて整理した。また、地点の位置情報については、地理データ管理ソフトMapinfoを用いて、地図上に項目ひとつひとつの位置や範囲を記録した。

なお、これらのデータ及び録音テープ、写真などについては、北谷町教育委員会に保管されている。

作業分担

- 調査計画作り：名嘉順一・花城末子
- 調査資料作成（調査票・地図作り）：花城末子・東恩納みさき・八田夕香
- 調査：名嘉順一・花城末子・喜友名朝代・島袋理加・上里しのぶ・高良由加利
東恩納みさき・八田夕香
- 調査資料の記録（テープ起こし・データ入力）：花城末子・東恩納みさき・八田夕香
- 地図作成：八田夕香
- 報告書作成（執筆・編集）：名嘉順一・東恩納みさき・八田夕香
- 監修：名嘉順一

各作業の段階で、以下の北谷町教育委員会関係者にも協力していただいた。

松田盛・嘉手納昇・幸地清・大城操・安次嶺承一・中村愿・山城安生・東門研治・比嘉ゆかり・玉木順彦・町田数子・亀田篤・佐久川志麻・山口まゆみ・我如古真弓・島袋春美・尾木綾・縄田雅重・稲嶺日沙子・文化係一同

調査に協力してくださった方々

調査及び本報告書の作成にあたり、多くの町民の方々をはじめ、各郷友会ならびに関係諸機関からのご指導・ご協力をいただき、また写真・絵・資料などの提供も受けた。以下にお名前を記し、深く感謝の意を表したい。

話者名簿

(※集落別に記載。話者名の敬称略。順序不同。)

北谷又前屋取

德里進（昭和5年生）・新田宗信（昭和10年生）

石平屋取

新垣善春（昭和5年生）

北谷

新城馨（大正15年生）・仲村渠敏子（昭和2年生）

玉代勢

大城喜信（大正9年生）・知念チヨ（大正15年生）・島袋雅夫（昭和4年生）
嘉手納永周（昭和13年生）

伝道

座喜味忠正（大正14年生）

仲山屋取

崎浜盛栄（大正8年生）

屋宜屋取

米須清太郎（昭和8年生）

桑江又前屋取

仲本朝信（昭和2年生）・真栄城兼徳（昭和6年生）・桑江又前屋取郷友会の皆さん

桑江又中屋取

比嘉昌信（昭和3年生）

桑江

仲村渠操（大正11年生）・石川良栄（昭和2年生）・座喜味次郎（昭和5年生）

桑江又後屋取

知念清（昭和3年生）

謝苺屋取

目取真興正（大正14年生）

崎門屋取

比嘉思保（昭和3年生）

桃原屋取

津嘉山ムト（明治41年生）・津嘉山寛信（昭和4年生）・目取真浩二（昭和8年生）

伊礼

田里加那（明治39年生）・砂辺鉄正（大正3年生）・屋良朝盛（大正5年生）
安和守礼（大正10年生）・渡慶次賀享（大正10年生）・島袋文助（大正11年生）
幸地真正（大正11年生）・島袋文栄

平安山

照屋文吉（大正9年生）・糸村昌吉（昭和8年生）・玉城清松（昭和10年生）
島袋豊吉（昭和13年生）・比嘉忠光（昭和15年生）・島袋善吉

浜川

新垣高明（大正10年生）・島袋吉盛（大正13年生）・島袋正雄（昭和9年生）
新垣政男（昭和10年生）・新垣裕（昭和10年生）

平安山又上屋取

新城長佐（大正3年生）・町田宗盛（大正10年）・町田宗棟（大正10年）
新城勇・新城長助

喜友名小屋取

糸村昌輝（大正3年生）・糸村ツル（大正7年生）・比嘉文清（昭和5年生）
安次嶺主栄（昭和10年生）・比嘉静子

砂辺又前屋取

新城弘（大正10年生）・新城タケ（大正12年生）・嘉手苺林興（昭和6年生）
島袋正章（昭和6年生）

砂辺

照屋徳吉（大正3年生）・糸数基（大正4年生）・渡慶次盛明（大正4年生）
新里眞盛（大正7年生）・国場永信（大正14年生）・砂辺孝正（昭和4年生）
松田静造（昭和4年生）・与儀正仁（昭和7年生）

上勢頭屋取

稲嶺盛幸（大正13年生）・高宮城實（昭和4年生）・喜友名朝昭（昭和4年生）

下勢頭屋取

喜友名朝永（大正8年生）・花城可祐（大正11年生）・源河朝金（大正14年生）
花城可盛（昭和6年生）

千原屋取

知花包喜（大正11年生）

残念なことに、本報告書作成中に、聞き取り調査でお世話になった数名の方がお亡くなりになりました。心からご冥福をお祈りいたします。

協力者名簿

調査協力団体

北前郷友会・旧字北谷郷友会・旧字玉代勢郷友会
旧字伝道郷友会・玉上向上会・崎門屋取郷友会
桑江又前郷友会・桑江又中郷友会・旧字桑江郷友会
桑江又後郷友会・謝苺郷友会・旧字桃原郷友会
旧字伊礼郷友会・旧字平安山郷友会・旧字浜川郷友会
平安山又上郷友会・砂前郷友会隣組・砂辺戸主会
喜友名小郷友会・旧字上勢頭郷友会・旧字下勢頭郷友会
千原郷友会・宇地原区公民館・砂辺区公民館
那覇防衛施設局

協力者名

渡邊康志・金城至佑・末吉文・末吉清信・末吉健男・伊禮清
崎原盛喜・知念良夫・花城隆・亀谷長久・仲地信夫・仲地明吉
新垣義彦

目次






口絵	2
発刊によせて	5
はじめに	6
調査方法	7
調査に協力してくださった方々	8
目次	12
凡例	14
北谷町概況	16
1 北谷ヌ前屋取 (チャタンヌメーヤードゥイ)	21
2 石平屋取 (イシンダヤードゥイ)	35
3 北谷三箇	49
北谷 (チャタン)	53
玉代勢 (タメーシ)	77
伝道 (リンドー)	89
4 屋宜仲山	105
仲山屋取 (ナケーマヤードゥイ)	109
屋宜屋取 (ヤジヤードゥイ)	123
5 桑江一带	133
桑江ヌ前屋取 (クエーヌメーヤードゥイ)	137
桑江ヌ中屋取 (クエーヌナカヤードゥイ)	151
桑江 (クエー)	165
桑江ヌ後屋取 (クエーヌクシヤードゥイ)	185
6 謝苜・桃原	197
謝苜屋取 (ジャーガルヤードゥイ)	201
崎門屋取 (サチジョーヤードゥイ)	213
桃原屋取 (トーバルヤードゥイ)	225
7 伊礼・平安山	233
伊礼 (イリー)	237
平安山 (ハンザン)	251
8 浜川一带	261
浜川 (ハマガー)	265
平安山ヌ上屋取 (ハンジャヌウィーヤードゥイ)	281
喜友名小屋取 (チュンナーグワーヤードゥイ)	297

9 砂辺一帯	307
砂辺ヌ前屋取 (シナビヌメーヤールイ)	311
砂辺 (シナビ)	321
10 上勢頭屋取 (ウィーシードゥヤードゥイ)	345
11 下勢頭屋取 (シチャシードゥヤードゥイ)	373
小字名	401
調査の経過	415
おわりに	423
〈資料〉 屋号一覧	425
サーターグミ (砂糖組)	482
項目索引	485




凡例

- 一、本報告書は、現在の北谷町域の範囲に沖縄戦以前に存在していた23の集落出身の話者に、大正年間から昭和初期頃に用いていた生活圏内の地名について、聞き取り調査を行なった結果を記載したものである。
- 一、調査の地理的範囲は、現在の北谷町域内を原則とし、沖縄戦以前に存在していた23集落を対象とした。
- 一、調査内容を記録した録音テープ・写真、得られた情報を整理したデータは、北谷町教育委員会が保管している。
- 一、聞き取り調査によって得られた情報は、集落単位で章立てして記載した。一つの章のなかには、集落全体の立地・特徴・年中行事などをまとめた節と、地名一語ごとに辞書的に記述した節を設けている。また、地名が示す場所は、空中写真と地図の合成図版、および集落の屋敷配置を復元した屋号地図の図版によってあらわした。
- 一、集落全体の特徴および地名の解説は、話者の語った説明をまとめたものである。
- 一、空中写真と地図の合成図版のうち、空中写真は、北谷町役場が所有する2002年の北谷町域の空中写真、および沖縄県公文書館所蔵の「米軍撮影空中写真」(1945年2月28日撮影、表題:ON24146 057-1,057-2,058-1,058-2,059-1,059-2, ON14245 071-2)を用いた。地図は、現在の地籍図のベクトルデータを土台に、聞き取りで得られた情報と上記の「米軍撮影空中写真」を参照しながら、戦前の道路・河川・ランドマーク・集落の屋敷配置などを復元したものである。
- 一、本報告書の編集にあたっては、次の点に留意した。
 - ・方言の表記は、原則的として話者の発音に沿ったカタカナ表記を用いた。
 - ・本報告書中で項目としてとりあげた地名は、文中でもゴシック体で表記した。
 - ・方言語彙など、解説が必要と思われる単語に注を付した。
 - ・植物名、動物名は原則としてカタカナ書きにし、()で和名を記した。
 - ・紀年の表記は原則として元号を用い、()で西暦を示した。
- 一、地名項目は右の一覧表に従って分類し、おおむね分類順に記述してあるが、説明内容や、前後の項目との関連性などから、分類順によらない場合がある。
- 一、掲載写真については、主に北谷町教育委員会(文化係)所蔵写真を使用した。他に浜川出身の新垣政男氏から提供していただいた。
- 一、掲載イラストについては、桑江又中屋取の比嘉昌信氏が描いたものを提供していただいた。
- 一、調査にあたって、各集落の郷友会長をはじめ、各区長のみなさまに便宜をはかっていただいた。記して感謝の意を表したい。
- 一、本報告書で地図によって示された場所には、米軍用地、個人有地、私設の設備・建築物等が含まれている。本報告書を参照に地名の示す場所を訪ねる場合には、土地所有者や周辺住民の権利を侵害することのないよう、充分ご配慮いただきたい。

地名の分類および地図上の記号表現についての凡例

社会的区分	集落、「組」「小屋取」など、組分け、集落内のより細かい区画や集団区分。	・屋敷位置は以下の記号のように表した。 屋号地図（灰色） 空中写真合成図（色つき）  
河川	常に流水がある河川	名称：青色の文字 
	降雨時などに流水がある河川、排水路等。	名称：青色の文字 
地域	山地、谷間、耕作地（小ハル名）、イノーなど、一定の広がりを持つ空間。	名称：緑色の文字
交通網	道路（県道、村道、生活道など）	名称：白色を黒で囲んだ文字 
	鉄道	名称：白色を黒で囲んだ文字 +++++
地点	以下の一覧を参照。	名称：ゴシック体の黒字

地点の記号一覧

									
岩山	洞窟	割れ目	林	丘	土手	野原	池沼	岩瀬	魚垣
									
礫池	湧水井戸	掘井戸	水タンク	橋	十字路	トンネル	駅	停車場	鉄橋
									
建築物	役場	公共施設	交番	学校	病院	工場	建物	製糖小屋	
									
田	採石場	灰焼窯	拝所	神家	寺	獅子屋	集会所	馬場	広場
									
龕屋	掘込墓	亀甲墓	碑	境界標	標木	塚	その他		

北谷町の概況



北谷町は沖縄本島中部の西海岸に位置し、南側は宜野湾市、東側は沖縄市と北中城村、北側は嘉手納町に接して、西側には東シナ海が広がっている。東西に最大約4.3km、南北に最大で約5.9kmの幅があり、総面積は13.62 km²である。面積の53%ほどが米軍によって使用されており、米軍用地以外は住宅地や商業地がほとんどである。

北谷町の地形は、東側は標高50～100mほどの台地、西側は標高5m前後の海に面した平地となっている。西側の平地の多くは米軍のキャンプや基地が占めるが、東側の丘陵斜面にあたる部分や丘陵上部は返還され、住宅地になっている。また、国道58号線より西側の海岸沿いも返還され、

埋立地とあわせて、新しい住宅地および商業地となっている。

幹線道路は、国道58号線が海岸に近い平地を南北に走っているほか、東西に走る県道が3本ある。沖縄市に向かう県道23号線（国体道路）と県道24号線、そして北中城村に向かう県道130号線である。

戦前の北谷町域の集落

沖縄戦以前は、現在の北谷町域と嘉手納町域とを合わせた地域が「北谷村」というひとつの行政区画だった。北谷村役場は、はじめは琉球王府時代の北谷間切のバンジュ（番所）があったチャタン（北谷）におかれ、明治44（1902）年にハンジャヌウィーヤードウイ（平安山ヌ上屋取）に移されて、沖縄戦が始まるまで同じ場所にあった。

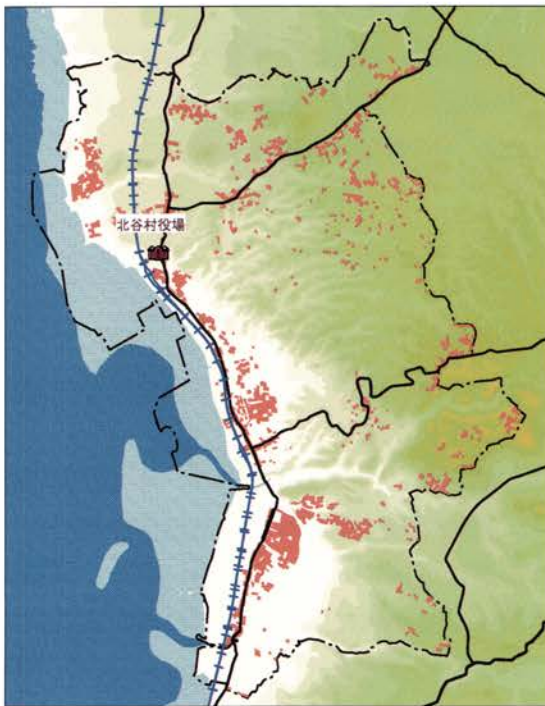
近代の北谷村には全部で50近くの集落があり、そのうち、現在の北谷町域には23の集落があった。この23の集落は、成り立ちの違いから、近世期以前に成立した古い集落と、近世期に成立した開拓集落の2種類にわけることができる。昭和初期頃の北谷町域では、古い集落は「本字（ホンアザ）」「ムラ」などと呼ばれ、開拓集落は「屋取（ヤードウイ）」と呼ばれていた。この章では、古い集落を「本字」、開拓集落を「屋取」と呼ぶことにする。

本字は、チャタン（北谷）・タメーシ（玉代勢）・リンドー（伝道）・キュー（桑江）・イリー（伊礼）・ハンザン（平安山）・ハマガー（浜川）・シナビ（砂辺）の8集落である。この8集落はすべて1700年代前半までには成立していたとみられ、古い聖域を拝所として崇めていた。家屋敷や耕地のほとんどが標高0～50m以下の平地に展開していた。

屋取は、チャタンヌメーヤードウイ（北谷ヌ前屋取）・イシンダヤードウイ（石平屋取）・ナケーマヤードウイ（仲山屋取）・ヤジヤードウイ（屋宜屋取）・キューヌメーヤードウイ

(桑江ヌ前屋取)・キューヌナカヤードゥイ(桑江ヌ中屋取)・キューヌクシヤードゥイ(桑江ヌ後屋取)・ジャーガルヤードゥイ(謝苺屋取)・サチジョーヤードゥイ(崎門屋取)・トールバルヤードゥイ(桃原屋取)・ハンジャヌウィーヤードゥイ(平安山ヌ上屋取)・チュンナーグワーヤードゥイ(喜友名小屋取)・シナビヌメーヤールイ(砂辺ヌ前屋取)・ウィーシードゥヤードゥイ(上勢頭屋取)・シチャシードゥヤードゥイ(下勢頭屋取)の15集落である。この15集落は、1700年代後半以降、首里・那覇などから入植してきた開拓民が作り上げた集落である。拝所は開拓初期からのものが多く、開拓民みずから設置したピジュル(土地を守るとされる神)や、湧き水や井戸を拝所とすることが多い。また、集落内に拝所を置かず、別の集落にある拝所を祈願する場合もある。本字と連続するように平地に展開していた集落もあれば、本字から遠く、丘陵上部に家屋敷や耕地が散在していた集落もある。

戦前の北谷町域の景観



沖縄戦が始まる前までの北谷町域は田んぼや畑の広がる農村地帯だった。

町域の西側は海に面した平地で、田んぼや芋畑やサトウキビ畑が一面に広がり、その耕地のなかに家屋敷がかたまって集落をなしていた。町域の東側は台地で、山林が多く、薪を取るのに利用された。

台地と平地が接するあたりは入り組んだ谷間地形をなしていて、谷の底に田畑が作られていた。また、台地の斜面から台地上部にかけてところどころに比較的平坦な土地があり、山林を切り開いて畑や家屋敷が作られていた。

農業用水や生活用水は、湧き水や川から得ていた。北谷町域は水利に恵まれた環境で、台地にしみ込んだ雨水が斜面や平地

に湧き出し、川となって流れ出て、より低地の田畑をうるおしていた。川は、いつも水が流れている川と、雨が降ったときだけ水が流れる川があり、その他に、耕地に引水・排水するための用水路も作られていた。

湧き水や井戸の水は家事や飲料に用いることが多かった。平地の地下水脈は浅く、井戸を掘るとだいたい1~6mくらいで水が出た。海に近い場所では井戸水に潮気が混ざることもあった。台地上部は地下水脈が深くにあり、8~15mほど掘らないと水が出なかった。場所によっては40m近い深さの井戸も掘られた。このような台地上部の地域は水の便が悪いため、天水をためて飲料水にあてるところも多かった。

交通網は陸路中心で、人や馬車が行き来する道路と軽便鉄道があった。

もっとも大きな道路は、那覇を起点に沖縄本島西海岸沿いを北上して名護に向かう県

道・国頭街道で、住民はもっぱらケンドーと呼んでいた。徒歩の人、人力車、荷馬車や客馬車、乗り合いバスなどがさかんに行き来した。ケンドーの支線として、北谷町域の東側、宜野湾村（現在の宜野湾市）、中城村（現在の北中城村）、越来村（現在の沖縄市）に向かう県道や村道が数本あった。他に、集落内や耕地の間を走る無数の生活道があった。

軌道交通としては、大正11（1922）年に開通した県営鉄道嘉手納線があった。嘉手納線は、那覇市の古波蔵駅を起点に、沖縄本島西海岸側を通過して嘉手納駅にいたる路線で、北谷町域内には北谷駅、桑江駅、平安山駅があった。普段はサトウキビや黒糖の積みおろし、通学客の乗り降りがあり、ときにはシーミー（清明）の時期の門中墓参りの客や、出稼ぎや出兵の見送りで那覇に向かう親戚一団で混み合うこともあった。なかでも桑江駅は、越来村など近隣地域から那覇や嘉手納に行き来するための交通要所の一つとなっていて、利用客も比較的多かった。

鉄道とは別の軌道交通路として、嘉手納製糖工場に向かう荷馬車用のトロッコ軌道もあった。トロッコ軌道は越来村を中心に何本も敷設されていたが、その一部が北谷町域にも走っていて、サトウキビの運搬に利用されていた。

海上交通は、鉄道の開通で大幅に縮小していたものの、以前は山原船での輸送が盛んに行なわれていた。キュー（桑江）の沖にあった大きな入り江が港代わりに利用され、山原から運んできた薪や炭などの林産物が降ろされたり、那覇向けの黒糖を積みこんだりと、さまざまな物品が山原船によって運搬された。

戦前の北谷町域の暮らし

戦前の北谷町域は農業が主産業だった。おもな産物はサトウキビと芋で、立地によっては米作も行なわれていた。自家消費用に蔬菜の栽培、豚・山羊といった食肉用家畜の飼育も行なわれていた。農作業や運搬用に牛馬を飼育していた家もあった。

芋は日々の主食であり、自家消費にあてられる割合が大きかった。一方、サトウキビは、ほとんどが換金された。サトウキビの換金には二種類の方法があった。各集落に数軒あったサターヤー（製糖小屋）で製糖した黒糖を那覇に出荷するか、嘉手納にあった製糖工場にサトウキビを買い取ってもらうかである。昭和10年代には、製糖業自体が衰退したり、嘉手納製糖工場への持ち込みが増加したため、サターヤーが使われなくなった集落もあった。しかし、買い取りや運搬費用によって利益が減ることを嫌う農家も多く、沖縄戦直前まで、サターヤーでの製糖作業は北谷町域のあちこちでみられる光景だった。

農業以外に、ごく小規模ながら漁業、手工業、商業活動も行なわれていた。

戦前の北谷町域では漁業にたずさわる家は少なく、キューヌメーヤードゥイ（桑江ヌ前屋取）やシナビヌメーヤールイ（砂辺ヌ前屋取）に数軒しかなかった。これら漁師家庭の男性たちは、海岸に発達した広いイノー（礁池）に小舟を出して、追い込みや投げ網、素潜りなどで魚貝を捕っていた。女性たちは、収穫物を近隣の集落で売り歩いたり、家屋敷で販売したりした。漁師以外の一般家庭では、干潮時にイノー（礁池）内にイジャイ（漁り）に行き、貝やタコ、エビ、小魚などを捕ってその日の食卓の足しにする程度だった。

工業も、もっぱら家庭あるいは個人単位の内職として行なわれる小規模なもので、機械に頼らない手工業がほとんどだった。綿・麻・芭蕉などの織物、豆腐製造、醤油製造、焼酎・泡盛などの酒製造、日常品を製造・修理する鍛冶、鍋蓋・ざる・籠などの竹細工、大工に

よる家屋敷の建築、石工による橋や墓の建造、漆喰製造などがあった。ただし、これらの手工業を専業としていた家は少なく、農業と兼業していることが多かった。機械を使った工業としては、昭和17(1942)年頃にキューヌクシヤードウイ(桑江ヌ後屋取)の北端にデンブンコージョー(澱粉工場)が建設された。経営者は日本本土の人で、軍需品として芋を原料とするデンブンを製造していたという。

商業活動もそれほど盛んではなかったが、北谷村役場に隣接して建てられたソンエイシチャ(村営質屋)や、チャタン(北谷)のサンギョークミアイ(産業組合)による貸し付けといった金融活動がみられた。また、桑江駅前には、旅館や食堂、大きな商店、写真館、地方巡業の沖縄芝居劇団のための露天劇場、馬車の休憩所や蹄鉄屋などが立ち並び、北谷町域の他集落とは一風ことなる、にぎやかな景観をつくっていた。ただし、ほとんどの集落では、マチヤと呼ばれる小さな商店が集落内に2~3軒散在しているくらいだった。常設の店舗以外に、北谷町内外から行商が来て、魚・肉・薬・石油・小間物・衣類などを売り歩くこともあった。しかし、日々の生活に必要なもののほとんどは、各家庭ごとに自家生産でまかなわれるのが普通だった。

自給自足の暮らしとはいえ、金銭収入には重きがおかれ、各家庭では金銭の取得と貯蓄に熱心だった。一方では、農作物、特にサトウキビによる収入は不安定で、飢饉や恐慌によって困窮におちいる農家が多かった。このような状況を背景に、明治末期から昭和にかけての沖縄県では日本本土への出稼ぎや海外への移民が盛んになったが、北谷町域も例外ではなく、若者たちが日本本土に数年間出稼ぎに出たり、一家あるいは親戚ぐるみで海外に移住するといったことが、ごく一般的におこなわれていた。これに徴兵による人口流出も加わり、昭和初期から沖縄戦直前の時期にかけての北谷町域では、青年~壮年層の人口が減少する傾向があった。

日々の営みには苦労も多かったが、辛さを慰める楽しみもあった。若者たちは夜になると広場などに集まって、男女入り交じって歌ったり踊ったりした。また、運動会や発表会といった学校行事は、集落の人々みんなで楽しむものだった。そして、時節にめぐってくる年中行事は、人々にとって特に大きな楽しみとなっていた。

年中行事で最も大きなものは、作物の収穫期、特に製糖期の終わり頃に作業の終了を祝う行事であった。北谷町域内では旧暦2月2日頃に行なわれることが多く、方言でニングワチャーとか、クスツキイーと言う。人々は、祖先や集落内の重要な拝所に祈願を捧げ、2~3日のあいだ、ごちそうを食べたり、歌い踊ったりして楽しみのかぎりをつくした。

他にも、旧暦6月末頃に豊年感謝として行なわれる綱引き、旧暦7月の盆、旧暦8月15日頃のジューグヤ(十五夜)などの行事の折には、集落の人々が綱引きやエイサー演舞、歌舞の披露や沖縄相撲といった娯楽に興じた。どの集落にも、このような集まりに使われる広場があった。

チャタン(北谷)、キュー(桑江)、シナビ(砂辺)の3集落には、それぞれ200~300mほどの長さのンマイ(馬場)があり、綱引きなどの行事に使われたほか、ンマスーブ(馬比べ)に使われていた。

牛同士を闘わせるウシオーラサー(闘牛)も大きな娯楽のひとつだった。シチャシードウヤードウイ(下勢頭屋取)とウィーシードウヤードウイ(上勢頭屋取)の間には大きな

ウシモー（闘牛場）があり、農閑期に闘牛が開催されて近隣の人々を集めていた。

そのほか、旧暦5月4日は、糸満漁業の流れを汲むクエヌナカヤードゥイ（桑江又中屋取）の漁師たちがハーリースープ（肥龍船競争）を行なった。北谷村はこの祭を海神祭と呼んで北谷村三大祭の一つとし、補助金を出していた。この日は沖縄相撲やムラ芝居も行なわれて夜までにぎわいをみせ、北谷町内外の見物客が集まったと言う。

北谷町域の戦後の状況



このような生活と景観は、沖縄戦と、その後の60年という月日を経て大きく変容し、現在の北谷町の風景に至った。

生活と景観の変容が起こったのは、社会の仕組みが変わったことや、経済成長、生活様式の変化などに原因がある。日本や沖縄各地と同じように、工業化、道路整備、住宅地・商業地開発などが、北谷町の風景を変える大きな要因となった。

しかし、北谷という土地に激的な変化をもたらし、現在も大きな影響を持ち続ける、最大にして直接的な要因は、米軍による占有的な土地利用である。

沖縄戦終結直後、北谷町域の90%以上が米軍に接収された。やがて米軍用地内では戦前の土地利用形態を無視した土地整

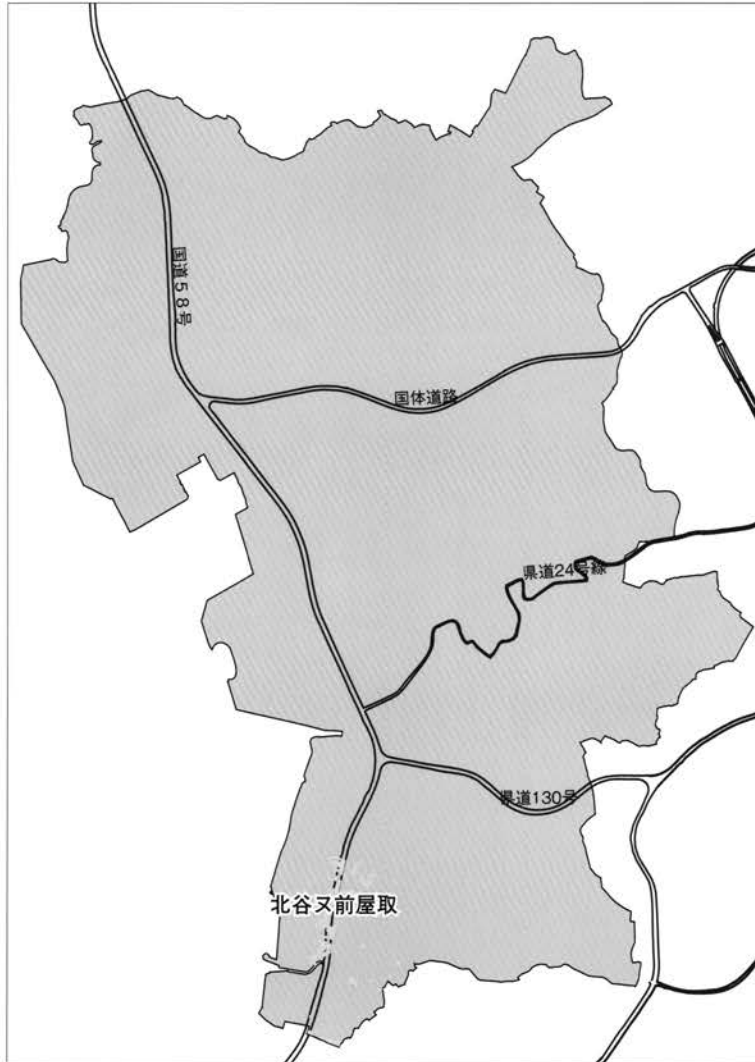
備と施設建設がすすめられ、家屋敷、田畑、道路、鉄道などの人工物も、河川、岩山、丘陵などの自然景観も、大規模な改変にさらされた。

また、従来の居住地を接収された住民の大部分は、北谷町域内外の別の地域に移住せざるを得なかった。戦後数年の間に、北谷町域内の台地上部の土地がわずかに返還されたので、従来は家屋敷の分布が少なかったこの狭い地域に住民が流入し、新しい住宅地を形成していった。

この新しい住宅地の分布は、現在の行政区という概念につながっている。北前区、北玉区、宇地原区、謝苺区、栄口区、桃原区、桑江区、上勢区、砂辺区、宮城区、美浜区という11の行政区は、住民を居住地によって区分したものである。行政手続きや地域活動の多くが行政区を単位として行なわれ、地縁的コミュニティとして機能している点が戦前の集落に似ている。しかし、行政区の持つ空間的範囲と構成員は戦前の集落とはまったく異なるもので、戦前にあった23の集落は、物理的には沖縄戦を境に消滅したといえる。

しかし、23の集落それぞれの共同体意識は現在も続いている。同じ集落出身の人々とその子孫たちが、郷友会や旧字戸主会と呼ばれる組織を作って交流を続けており、祈願行事や伝統芸能の継承に取り組んでいる。郷友会を組織していない集落でも、同じ集落だった家庭の名簿を作成したり、拝所を再建するなどして、集落という共同体の概念を共有し、継承している。

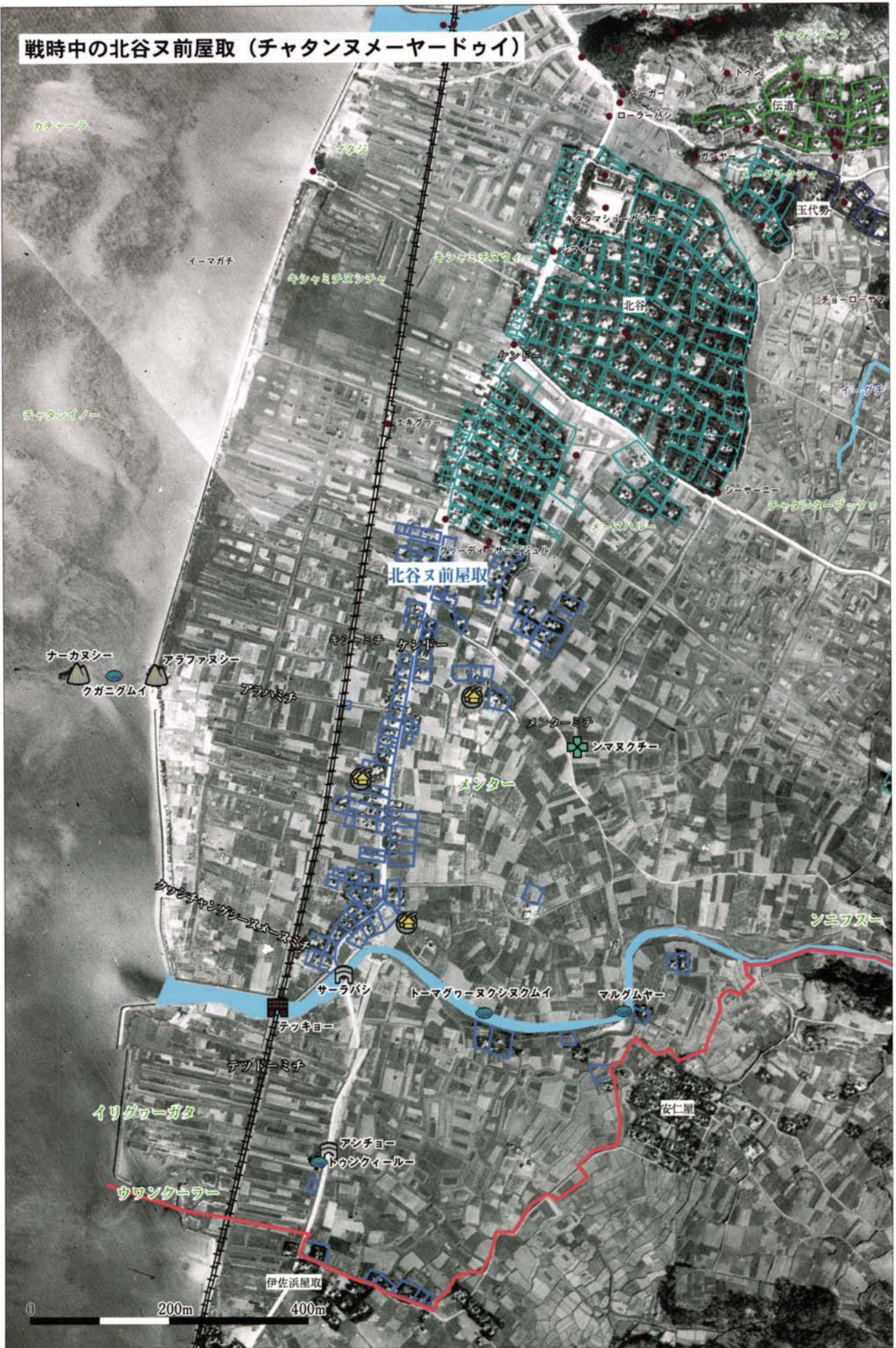
北谷又前屋取



現在の北前



戦時中の北谷又前屋取 (チャタンヌメーヤードゥイ)



チャタンヌメーヤードゥイ（北谷ヌ前屋取）

北谷町域南端に位置する屋取集落。ケンドー沿いにあり、北側はチャタン（北谷）、南側は宜野湾村に隣接していた。戸数105軒で、そのうちカーラヤーは26軒だった。

集落名はチャタンヌメーヤードゥイ（北谷ヌ前屋取）だが、普通はチャタンヌメーと言うことが多かった。

イシダヤードゥイ（石平屋取）と同じく、地籍上の字は北谷に属していた。昭和12（1937）年に行政字北前として分離独立した。その後はキタマエと言うようになった。

集落の組分けは、メーヤードゥイ、ナカヤードゥイ、クシヤードゥイの3組に分かれていた。クシヤードゥイはさらにアガリヤードゥイとイリヤードゥイに分かれる。

主業は農業で、芋やサトウキビなどを作っていた。キューヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）にデンブンコージョーがあり、そこで芋の澱粉を作っていたので、工場に芋を売りに行くこともあった。畑以外に田んぼもあり、米も作っていた。また、チャギーも多くあった。農業以外にも、荷馬車引き、人力車引き、役場吏員、大工、サンジンソーなどの職を持つ人たちもいた。

サーターヤーが、集落の南側の屋号カカジ（嘉数）：28の東側に1か所、集落の真ん中あたりの屋号ウフナカチ（大仲地）：50の西側に1か所、集落の東端に1か所の計3か所あった。それぞれ、南組、中組、東組に分かれて共同使用していたと思われるが、はっきりとした区分はわからない。

集落の人たちの墓はイトウシにあった。洗骨を行なうので、墓は川沿いに造ることが多かった。イトウシには、チャタンヌメーヤードゥイ（北谷ヌ前屋取）だけではなく、チャタン（北谷）や伊佐浜の人たちの墓もあった。

ガンは、チャタンヌメーヤードゥイ（北谷ヌ前屋取）所有のものがなかったので、チャタンサンカのガンを借りていた。昭和28（1953）年にキタマエのものとして作られたガンがあったが、昭和55（1980）年に北谷町教育委員会に寄贈され、現在は「北谷町手作り資料館」に保管・展示されている。

カヤモーは川の両岸に多く、特に北岸側が多かった。川岸は崩れやすく、畑はできないので、カヤモーとすることが多かった。

フナウクイはアラファヌシーの上で行なっていた。

現在の北前区公民館敷地は、500～600坪ぐらいの広さの沼地で、ウワンクーラーと呼ばれていた。アシデーク（セイコノヨシ）がたくさん生えていた。

■カーラヤー：瓦ぶきの家。

■チャギー：田んぼの真ん中に盛り土をして畑としたもの。

■サンジンソー：易者。

■サーターヤー：製糖小屋。

■洗骨：死後数年の間に遺骨を取り出し、洗い清める儀式。

■伊佐浜：現在の宜野湾市域にあった屋取集落。

■ガン：竈。葬式のとき、死者の棺を入れて墓地まで運ぶためのもの。

■北谷町では昭和28（1953）年に沖縄市の火葬場を使用するようになり、従来の風葬から火葬へと移行したため、ガンは使われなくなった。

■北谷町手作り資料館：町民の方々からの寄贈品や、町内遺跡からの出土品を展示した施設。夏休み限定で開館している。

■カヤモー：屋根を葺くのに使う茅を生やしていた野原。

■フナウクイ：見はらしのいい場所から、旅に出る人の安全を願い、船を見送ること。

【集落で行なわれる主な年中行事】

●旧暦2月1～2日<ニングワチャー>：ナーカヌシーを^{おが}拜^{しお}む。潮が引くと、^{とほわた}徒歩で渡ることができた。しかし、米軍の^{ほつでんせん}発電船を入れるために^{けず}削られて、深くなってしまった。そのため、現在はナーカヌシーへ行くときには船を使っている。

●旧暦7月<エイサー>：エイサーの練習はアラファヌシーの前の浜でしていた。男性のみ参加する。イシндаヤードウイ（石平屋取）の青年団と一緒に^{いっしょ}行なわれた。

集落域は米軍上陸直後に^{ほりよしゅうようじょ}捕虜収容所となっていた。その後、^{かつそう}滑走路が建設され、ハンビー飛行場となったが、昭和56（1981）年に返還されている。現在はサンエーハンピータウンを中心とした商業施設や、^{あらかほ}安良波公園、アラハビーチなどが整備されて、にぎわいをみせており、返還後の^{あとちりよう}跡地利用の^{せいこうれい}成功例とされている。

■ニングワチャー：旧暦2月に行なわれる行事。集落や組単位で酒宴を開き、余興をして楽しむ。

■エイサー：旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。

■ハンビー飛行場：米海兵隊のヘリ基地。昭和56（1981）年に返還された。



《聞き取り調査風景》

北谷又前屋取 屋号地図

北谷又前屋取の家の配置
(数字は屋号番号)



河川

道路

緑の文字

地域の名称
(小さい文字は他の集落の呼び名)





北谷ヌ前屋取の家の配置
(数字は屋号番号)



鉄道



河川



道路

緑の文字

地域の名称
(小さい文字は他の集落の呼び名)



チャタンヌメーヤードゥイ（北谷ヌ前屋取）

組

メーヤードゥイ

集落の組分けの1つ。メーヤードゥイ、ナカヤードゥイ、クシヤードゥイの3つに分かれ、メーヤードゥイは、集落の南側に位置していた。

ナカヤードゥイ

集落の組分けの1つ。メーヤードゥイ、ナカヤードゥイ、クシヤードゥイの3つに分かれ、ナカヤードゥイは、集落の真ん中に位置していた。

クシヤードゥイ

集落の組分けの1つ。メーヤードゥイ、ナカヤードゥイ、クシヤードゥイの3つに分かれ、クシヤードゥイは、集落の北側に位置していた。さらにその中で、東側はアガリヤードゥイ、西側はイリヤードゥイに分かれていた。

アガリヤードゥイ

集落の組分けの1つ。クシヤードゥイの中で東側に位置していた。

イリヤードゥイ

集落の組分けの1つ。クシヤードゥイの中で西側に位置していた。

行政字名

キタマエ

北前。チャタンヌメーヤードゥイ（北谷ヌ前屋取）は、イシンダヤードゥイ（石平屋取）とともに、地籍上の字^{あざ}は北谷に属していたが、昭和12（1937）年に、行政字北前^{ぎょうせいあざ}として^{ふん りどくりつ}分離独立した。

集落

イシンダヤードゥイ

石平屋取。チャタンヌメーヤードゥイ（北谷ヌ前屋取）とともに、地籍上の字^{あざ}は北谷に属していたが、昭和12（1937）年に、行政字北前^{ぎょうせいあざ}として^{ふん りどくりつ}分離独立した。青年団もチャタンヌメーヤードゥイ（北谷ヌ前屋取）と一緒にあった。



〈聞き取り調査風景〉

小ハル名

メンター

畑地で、土質はジャーガルであった。田んぼはなかった。

イトウシ

【※編注：P37「戦時中の石平屋取」の地図に記載】

宇江登志と漢字を当てることもある。

チャタンヌメーヤードウイ（北谷ヌ前屋取）の人たちの墓があった。洗骨せんこつを行なっていたので、水がある川沿いに墓を造ることが多かった。フィンチャーバカがほとんどで、カーミナクーバカは2～3基だった。チャタン（北谷）や伊佐浜いさはまの人たちの墓もあった。イトウシは墓が多く、怖いところだった。

潟

イリグワーガタ

屋号マツトーマ（松当真）：6から西方向へ行ったところにあった潟。所有者は屋号クシイリグワー（後西小）であった。護岸沿いは砂地。

現在の北前区公民館きたまえのあたりである。

ウワンクーラー

屋号マツトーマ（松当真）：6から西方向へ行ったところにあった沼地。500～600坪ぐらいの広さがあり、アシデーク（セイコノヨシ）がたくさん生えていた。トントンミー（トビハゼ）やカタチミガニグワー（シオマネキ）がたくさんいた。護岸ごがんがあったが、波で穴が開き、潮しおの満ち引きのときに水が入ってきていた。特に利用価値のない場所であった。喜友名きゆうなの大湾おおわんという人の土地だったらしい。

現在の北前区公民館きたまえのあたりで、広さも公民館敷地ぐらいだった。

県道

ケンドー

県道。集落の中を南北に走っている道。

現在の国道58号線である。

馬車道

クワシチャングシーヌメーヌミチ

チャタンヌメーヤードウイ（北谷ヌ前屋取）唯一の馬車道。

■ジャーガル：粘土質の灰色の土。ジャーガル土質で作られた芋は、大きいけど味はあまりよくない。

■洗骨：死後数年の間に遺骨を取り出し、洗い清める儀式。

■フィンチャーバカ：岩石や堅い土質の斜面に掘られた横穴の墓。

■カーミナクーバカ：屋根が亀の甲のような形をした墓。



◀聞き取り調査風景▶

生活道

アラハミチ

屋号ナカンダカリヌメ（仲村渠ヌ前）：62のところからアラファヌシーへ行く道。

池沼



マルグムヤー

屋号ウサーアンナヤー：12の西側にあったクムイ。川の流れの中にあり、浅いが、広いクムイであった。

トーマグワーヌクシヌクムイ

屋号トゥクトーマグワー（徳当真小）：sの北側にあったクムイ。川の流れの中にあり、深さは2m40～50cmぐらいであった。

トゥンクィールー

屋号ハシヌフェヌナンミグワー（橋ヌ南ヌ稲嶺小）：7の北側にあったクムイ。ケンドーに接したところにあった。一步で飛び越えることができる。

また、モーがあって、そこでモーアシビをしていた。

イトウシグムイ

【※編注：位置不明確のため、地図上には記載していない】

イトウシの下の方にあったクムイ。200～300坪ぐらいの広さだが、普段水が溜まっている範囲はそれほどではなかった。墓が多く、怖い場所だったので、普段は行かなかった。

話者によると、現在もクムイの跡が残っていると言う。

岩瀬



アラファヌシー

集落の西方向へ行った、海の中にあった岩。屋号ナカンダカリヌメ（仲村渠ヌ前）：62のところからアラハミチを^{とお}通って行った。

岩の上でフナウクイをしていた。

エイサーの練習をアラファヌシーの前の浜でしていた。

骸骨がいっぱいあったが、日本軍が銃座^{じゅうざ}を設置するために、戦争前には片付けられていた。

現在、安良波公園の護岸^{ごがん}にくっついた形で残っている。

ナーカヌシー

アラファヌシーと並んで、海の中にあった岩。

旧暦2月1～2日のニングワチャーのときに^{おが}拝んでいた。

■クムイ：池。沼。

■モー：原野。野原。原っぱ。

■モーアシビ：農村で夜、若い男女が野原に出て遊ぶこと。三味線・歌・踊りなどを楽しむ。

■クムイ：池。沼。

■フナウクイ：見はらしのいい場所から、旅に出る人の安全を願い、船を見送ること。

■エイサー：旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。

■ニングワチャー：旧暦2月に行なわれる行事。集落や組単位で酒宴を開き、余興をして楽しむ。

現在も安良波公園の西端から見ることができる。

礁池



クガニグムイ

アラファヌシーとナーカヌシーの間、海の中にあったクムイ。2坪ぐらいの広さがあり、潮が引いたときの深さは30cmぐらいであった。足でかき回しても濁らなかった。野菜を持って行って、クムイの塩水でもんでチキナーを作ると、家に着くまでには塩味がついて、いい味になっていた。豆腐作りにも使用した。

■クムイ：池。沼。

■チキナー：漬け菜。

橋



アンチョー

トゥンキールーの近くにあった暗渠。

サーラバシ

屋号ハシヌフェーナカチグワー（橋ヌ南仲地小）：16の南側にあった橋。アーチ型のきれいな橋だった。欄干があり、そこで三味線を弾いて遊んでいた。満潮のときには、橋から飛び込めた。かなりの高さがあった。

十字路



ンマヌクチャー

屋号メンタートーマグワー（メンター当真小）：15から北東方向に行ったところにあった。三方向からの道で、三角形になっていた。いた。メンターミチが突き当たる三叉路のあたりで、アガリヤードゥイからの道が合流するところである。

鉄橋



テッキョー

沖縄県営鉄道嘉手納線の鉄橋。橋よりも下流にあった。両端は橋げただが、途中は枕木しかなかった。大人は歩いて渡れたが、子どもは怖がって這って渡っていた。

■沖縄県営鉄道 嘉手納線：嘉手納・野国・平安山・桑江・北谷・大山・真志喜・大謝名・牧港・城間・内間・安里・与儀・古波蔵・那覇の15駅があった。

製糖小屋



サーターヤー

共同製糖小屋。集落の東端にあったアガリグミのサーターヤーである。

■サーターヤー：製糖小屋。



＜聞き取り調査風景＞

サーターヤー

共同製糖小屋。屋号ウフナカチ（大仲地）：50の西側にあったナカグミのサーターヤーである。

サーターヤー

共同製糖小屋。屋号カカジ（嘉数）：28の東側にあった南組のサーターヤーである。

■サーターヤー：製糖小屋。

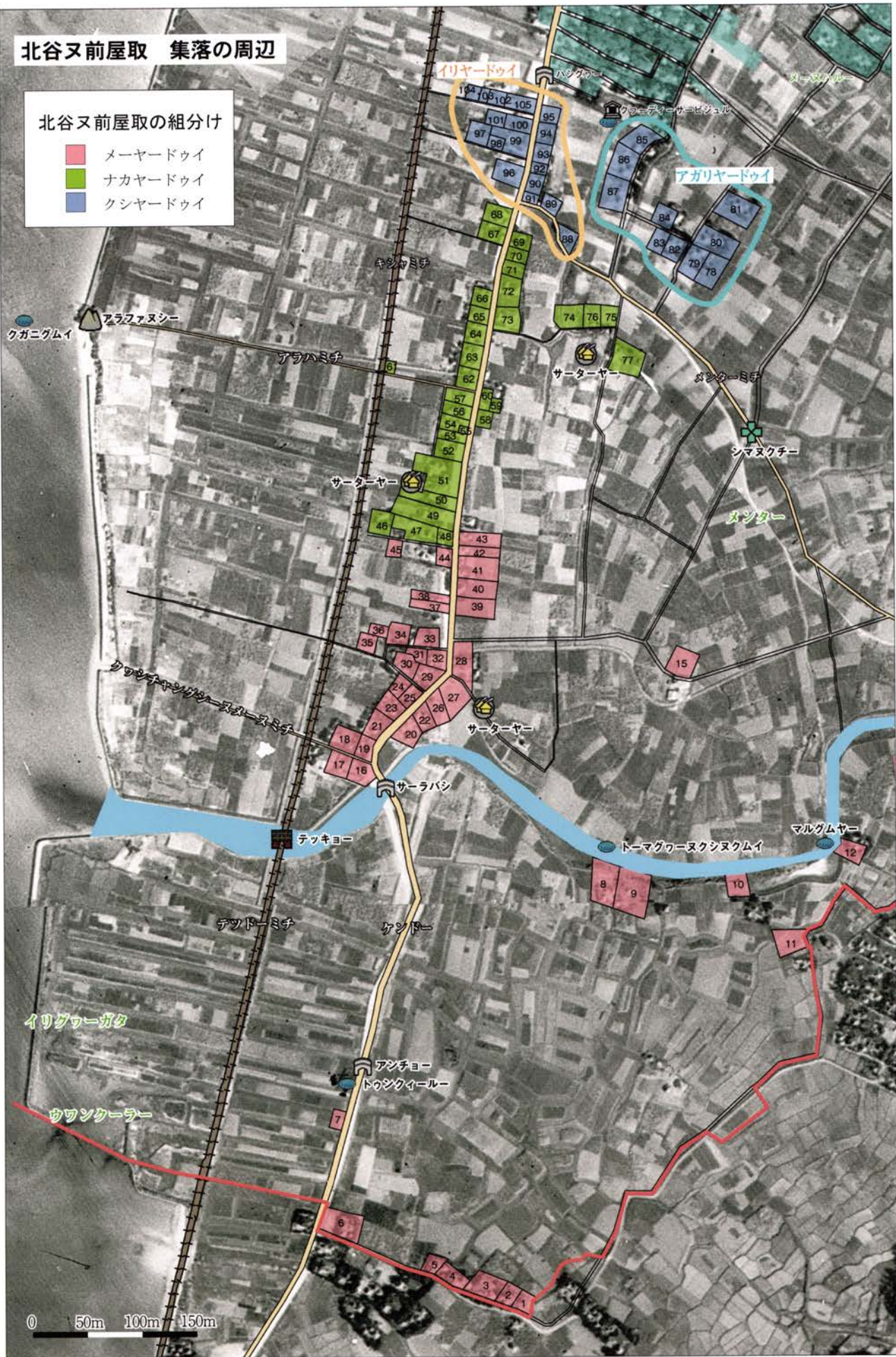


《聞き取り調査風景》

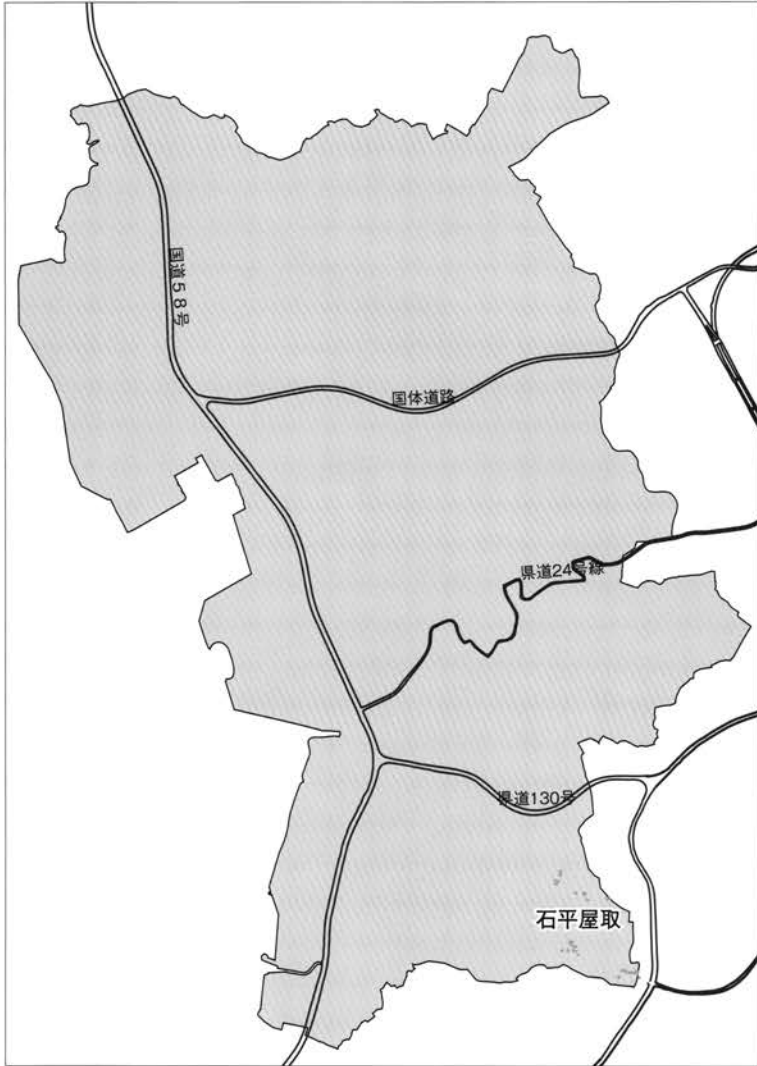
北谷ヌ前屋取 集落の周辺

北谷ヌ前屋取の組分け

- メーヤードゥイ
- ナカヤードゥイ
- クシヤードゥイ

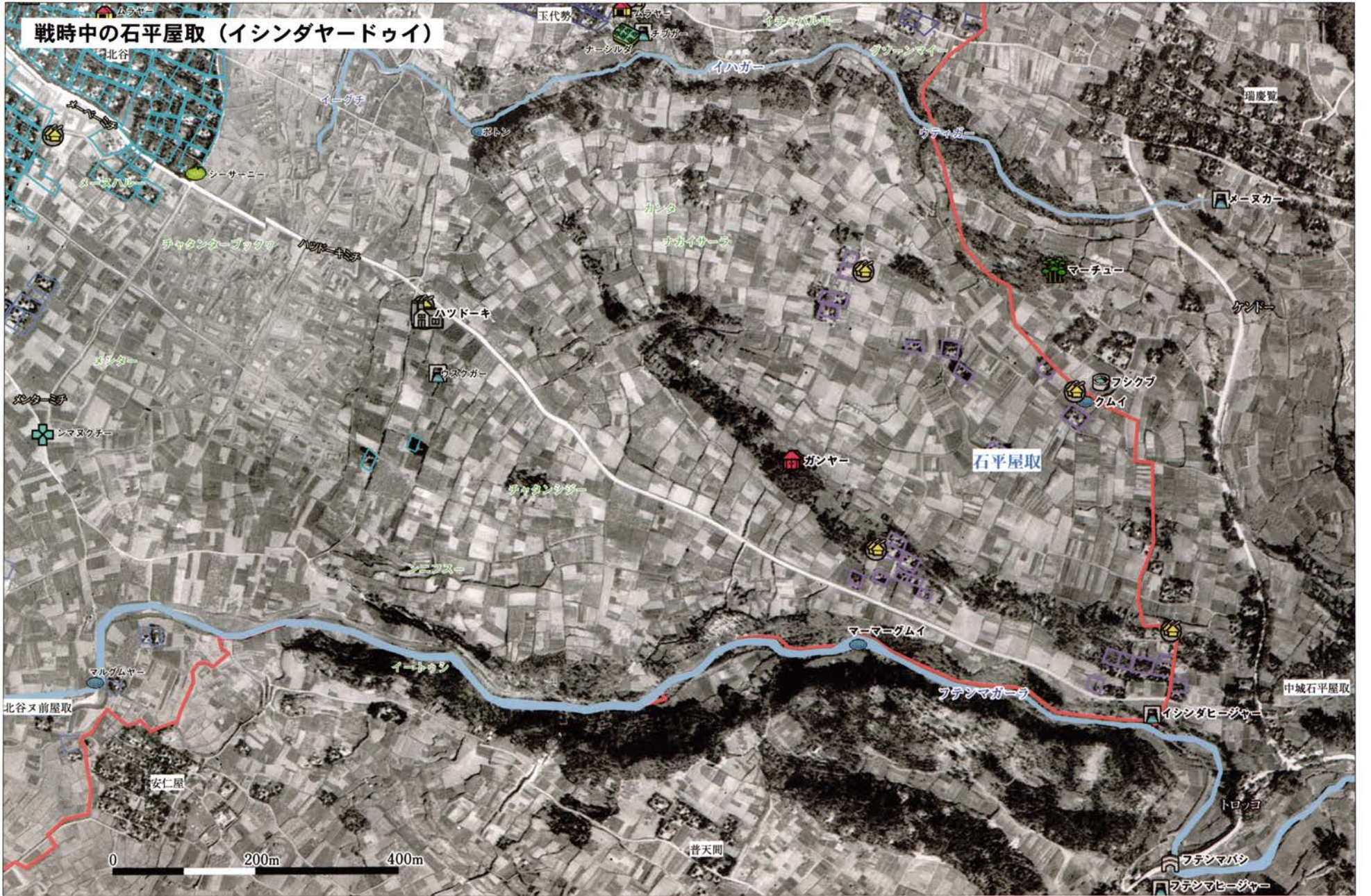


石平屋取





戦時中の石平屋取 (イシダヤドゥイ)



イシダヤードゥイ（石平屋取）

北谷町域東南にあった屋取集落。東側は中城村に隣接しており、その中城村の一部も含めてイシダヤードゥイ（石平屋取）だが、中城村側と区別してチャタンイシダ（北谷石平）と言うこともある。県議会で、チャタンイシダ（北谷石平）とナカグスクイシダ（中城石平）を1つにしようと決議されたが、その発行日が昭和20（1945）年4月1日だったため、米軍上陸で実現しなかった。

戸数26軒で、そのうちカーラヤーは6軒であった。

チュンナーグワヤードゥイ（喜友名屋取）や屋宜原屋取と嫁取り婿取りがあった。

主業は農業で、農作物は芋やサトウキビなどを作っていた。土質はマージであった。

イシダヤードゥイ（石平屋取）は水の便が良くて、何か所かあった個人の井戸もヒヤーイになると涸れてしまっていた。そのため、イシダヒージャーを集落の人みんなで利用していた。また、クシヤードゥイのサーターヤーの道をへだてて北側に共同井戸があった。フシクブと言う。話者によると、星が落ちて窪んだという言い伝えがあると言う。

サーターグミは、アガリヤードゥイ、メーヤードゥイ、イリヤードゥイ、クシヤードゥイの4つに分かれた。サーターヤーは、アガリヤードゥイとクシヤードゥイはナカグスクイシダ（中城石平）の人たちと共同利用していた。

ガンヤーは集落の西側の丘の上にあった。昭和16～17（1941～42）年頃に作られた。それ以前は、ガンをチャタン（北谷）や安谷屋などから借りていた。

墓はアガリヤードゥイの北側あたり、屋号ンジュグワー（伊集小）：10や屋号ナカマヌクシ（仲間ヌ後）：11の後ろの小高い丘あたりにあった。イシダヤードゥイ（石平屋取）の人たちの墓があり、マチ墓もいくつかあった。現在のアメリカ・リージョンクラブのあたりとなる。墓だったところに、現在は建物が建っている。

薪取りには、屋号カニクバルグワー（兼久原小）：20や屋号サチハマヌメー（崎浜ヌ前）：18と瑞慶覧との境にある松林に行っていた。台風のと看きなども、風で落ちる松葉や枝を拾いに行った。

ハルヤマスーブはチャタンイシダ（北谷石平）とナカグスクイシダ（中城石平）で一緒に行っていた。場所はアガリヤードゥイのサーターヤーで行なわれていた。

学校の運動会には、イシダヤードゥイ（石平屋取）の人はチャタン（北谷）の選手として参加していた。

馬車道が、屋号シムカタ：1のところからチャタン（北谷）の屋

■カーラヤー：瓦ぶきの家。

■屋宜原屋取：中城村（現在の北中城村）屋宜原にあった屋取集落。

■マージ：赤土質の土壤。マージでできた芋は小さいが美味しい。

■ヒヤーイ：日照り。早魃。

■サーターヤー：製糖小屋。

■サーターグミ：製糖の作業をする組。

■ガンヤー：竈を納めておく小屋。

■ガン：竈。葬式のと看き、死者の棺を入れて墓地まで運ぶためのもの。

■マチ墓：亀甲墓の一種。墓のてっぺんにつむじの形の文様がある大きい墓。

■ハルヤマスーブ：耕地や農作物の優劣を競う行事。

号シーサーニーへと続いていて、イシダヤードゥイ（石平屋取）の子どもたちの通学路^{つうがくろ}だった。その途中にはチャタン（北谷）のハツドーキがあった。話者は、子どもの頃にハツドーキに入り込んで、砂糖のつまみ食いをしたことがあると言う。ハツドーキはイシダヤードゥイ（石平屋取）の人たちは使わなかった。

集落の東側^{きゅうりょう}に丘陵^{いしんだ}があった。現在の石平交差点あたりの、リージョンクラブの丘陵と米軍のヘッドコーラーの丘陵のことである。もともとは1つの丘陵だったが、大正3（1914）年頃に丘陵を割り取って道を造った。その道がない時代は、首里^{しゅり}への街道は安谷屋橋^{アダンナバシ}を経由^{けいゆう}して普天間^{ふてんま}へと^{いしだたみち}のぼって行った。石畳道^{いしだたみち}だった。話者によると、現在でも石畳の跡が残っているのではないかと言う。

【集落で行なわれる主な年中行事】

●旧暦2月2日<クスッキー（ニングワチャー）>：2か所に分かれて行なわれた。メーヤードゥイ、イリヤードゥイ、クシヤードゥイの人たちは一緒にやり、アガリヤードゥイ^{なかくすくそん}の人は中城村の人たちと一緒にしていた。大きい屋敷を持ち回りで^か借りて、集まる場所^{とうふ}にしていた。豆腐^{とうふ}や天ぷら^{てんぷら}などのごちそうを作って盛り合わせ、ヤマモモの花^{さき}を挿^さしていた。トゥイグワー オーラセーもした。16歳以上からクスッキーに参加することができた。

●旧暦7月<エイサー>：エイサーの練習は墓^{きふ}の庭^{にわ}でしていた。当日は各家^けを回り、酒^{さけ}や寄附^{きふ}をもらっていた。他集落へ行くことはなく、他集落のエイサーが来ることもなかった。イシダエイサーは千原エイサー^{ちげん}を習ったものである。

集落域^{せつしやう}は米軍に^せ接收^{けつしやう}され、キャンプ瑞慶覧^{ずげらん}内^{うち}となっている。現在の沖縄リージョンクラブの西側、国道330号線から西側一帯である。そのため、集落の人たちの多くは北中城村石平^{きたなかくすくそんいしんだ}に居住している。

■ヘッドコーラー：headquarters
（軍の）司令部。

■クスッキー：農繁期のあとにする骨休みの行事。

■トゥイグワー オーラセー：闘鶏。

■エイサー：旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。

■千原エイサー：現在の嘉手納町域にあった千原屋取のエイサー。エイサーが有名な集落だった。

■キャンプ瑞慶覧（キャンプ・フォスター）：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。



◀聞き取り調査風景▶

石平屋取 屋号地図



石平屋取の家の配置 (数字は屋号番号)



鉄道



河川

(小さい文字は他の集落の呼び名)



道路

(小さい文字は他の集落の呼び名)

緑の文字 地域の名称 (小さい文字は他の集落の呼び名)

イシダヤードウイ（石平屋取）

組

アガリヤードウイ

東屋取。集落の組分けの1つ。集落の東南側にあった屋号メーナカマ（前仲間）：9を含めた6軒を言う。

サーターグミの1つでもあった。サーターヤーは中^{なかぐすくそん}城村の人たちと共同使用していた。

旧暦2月2日のクスツキイーは、中城村の人たちと一緒にこなっていた。イシダヒージャーのカーウガミもする。

メーヤードウイ

前屋取。集落の組分けの1つ。集落の南西側にあった屋号マチダ（松田）：4を含めた8軒を言う。

サーターグミの1つでもあった。メーヤードウイ所有のサーターヤーがあった。

旧暦2月2日のクスツキイーは、イリヤードウイとクシヤードウイの人たちと一緒にこなっていた。

イリヤードウイ

西屋取。集落の組分けの1つ。集落の北西側にあった屋号メーヤジ（前屋宜）：22を含めた5軒を言う。

サーターグミの1つでもあった。イリヤードウイ所有のサーターヤーがあった。

旧暦2月2日のクスツキイーは、メーヤードウイとクシヤードウイの人たちと一緒にこなっていた。

クシヤードウイ

後屋取。集落の組分けの1つ。集落の北東側にあった屋号サンラーナンミグワー（三良稲嶺小）：17を含めた7軒を言う。

サーターグミの1つでもあった。サーターヤーは中^{なかぐすくそん}城村の人たちと共同使用していた。

旧暦2月2日のクスツキイーは、メーヤードウイとイリヤードウイの人たちと一緒にこなっていた。

その他

チャタンイシダ

北谷石平。イシダヤードウイ（石平屋取）のなかで、北谷村に含まれていた地域を言う。イシダヤードウイ（石平屋取）は北谷

- サーターグミ：製糖の作業をする組。
- サーターヤー：製糖小屋。
- クスツキイー：農繁期のあとにする骨休みの行事。
- カーウガミ：井戸の神様を拝む。



＜聞き取り調査風景＞

村と中城村にまたがっていたので、北谷側のイシンダだと区別して言う必要があるときにはチャタンイシンダ（北谷石平）と表現していた。行政的にはメーヤードゥイとイリヤードゥイの全部と、アガリヤードゥイとクシヤードゥイの一部が北谷村に属していた。チャタンイシンダの子どもたちは、北谷の小学校に通い、運動会もチャタン（北谷）の選手として参加していた。地番は、戦前は北谷、戦後は北前に含まれる。

ナカグスクイシンダ

中城石平。イシンダヤードゥイ（石平屋取）のなかで、中城村に含まれていた地域を言う。イシンダヤードゥイ（石平屋取）は北谷村と中城村にまたがっていたので、中城側のイシンダだと区別して言う必要があるときにはナカグスクイシンダ（中城石平）と表現していた。行政的にはクシヤードゥイのほとんどが中城村（現・北中城村）瑞慶覧に、アガリヤードゥイのほとんどが中城村（現・北中城村）安谷屋に属していた。

河川

イハガー

集落の北側、タメーシ（玉代勢）に向かって流れ、チャタン（北谷）のターブックワに流れ込んでいた川。水源は瑞慶覧のメーヌカーであった。

話者によると、昭和19（1944）年頃、陣地造りをしていた日本軍の兵士が亡くなったときに、この川の側で火葬していたのを見たと言う。

フテンマガーラ

普天間川。宜野湾村と中城村の境界だった。石橋が架かっており、橋から水面までは15～20mぐらいあった。夏場には子どもたちが橋の上から飛び込んで泳いだりしていた。

話者によると、以前はものすごい水量だったが、現在は少なくなっていると言う。

現在の北谷町北前あたりに流れていく。

道

ケンドー

県道。集落の東側を南北に走っていた道。

■ターブックワ：田んぼ。田のたくさんあるところを言う。地名としてはチャタンターブックワ（北谷田んぼ）、ハニジターブックワ（羽地田んぼ）などが有名。



《フテンマガーラ》

トロッコ軌道

トロッコ

ケンドーに沿ってトロッコのレールが敷かれており、瑞慶覧から大山駅まで、サトウキビを載せて運んでいた。3000斤（1800kg）のサトウキビを載せることができた。瑞慶覧から普天間まではのぼり坂だった。それから喜友名を通り、大山駅から鉄道で嘉手納の製糖工場へと運ばれていた。

林

マーチャー

イハガーの南側、屋号カニクバルグラー（兼久原小）：20や屋号サチハマヌメ（崎浜ヌ前）：18の北側にあった松林。瑞慶覧に属する。

台風が来たときには、松葉や枝が落ちるので、それを拾い集めに行っていた。土地は個人有地だが、落ちた松葉や枝は誰が取っても良いことになっていた。

池沼

クムイ

クシヤードゥイのサターヤーの側にあったクムイ。正方形で、10m以上の長さがあり、サターグルマの軸木を漬けられるぐら이었다。深いところは1m超すぐらいあった。日照りでも涸れることはなく、年中水があった。家畜（馬・牛）に水浴びをさせる場所だった。

マーマーグムイ

屋号シムカタ：1の南側あたりにあった大きなクムイ。フテンマガーラの流れの中にあった。川幅の倍ぐらいに広がってクムイになっており、深さは2m以上あった。

クムイの側にはアカギが生えており、子どもたちはその木から飛び込んで泳いでいた。遊ぶのにいい場所だったので、普天間の子どもたちと奪い合いをしながら遊んでいた。

湧水井戸

イシダヒージャー

屋号ヤマーアラカチ（ヤマー新垣）：13あたりから石畳道があり、そこをおりて行ったところにあった。話者によると、その石畳道は現在も少し残っているのではないかと言う。

イシダヤードゥイ（石平屋取）は水が少なかったので、集落の人たちみんな、飲み水や洗濯などに利用していた。

■大山駅：沖縄県営鉄道 嘉手納線の駅の1つ。

■嘉手納製糖工場：沖縄製糖株式会社の嘉手納工場のこと。明治45(1912)年創業。



＜聞き取り調査風景＞

■クムイ：池。沼。

■サターグルマ：サトウキビを圧搾する装置。

個人のチンガーも何か所かあったが、ヒヤーイになると涸れるので、イシダヒージャーを利用して。ヒヤーイのときでもイシダヒージャーの水は涸れずに、ずっと湧いていた。

草刈り場の1つでもあった。

旧暦2月2日のクスツッキーのときには、アガリヤードウイの人たちがカーウガミをしていた。現在はキャンプ瑞慶覧内であるため、フテンマガーラ沿いに行き行って拝んでいる。

終戦後も一時期利用していたが、現在ではコンクリートが張られており、水量は少なくなっている。

フテンマヒージャー

現在の宜野湾スイミングスクールの向かいあたりにあった。下において行くと、ものすごい水量のフテンマヒージャーがあった。

フテンマヒージャーの水を利用したユーフルヤーがあった。ユーフルヤーの余り水を利用して、たくさんの鯉を飼っていた。

普天間拝みをする人たちは、そこでいったん体を清めていた。

メーヌカー

戦前の瑞慶覧集落の南側にあったワク。そこから流れ出した水はイハガーと呼ばれる小川になり、タメシ（玉代勢）の方へと流れていった。

現在はキャンプ瑞慶覧内である。このあたり一帯は窪地になっていたが、今は埋められて住宅地となっている。

掘井戸

フシクブ

クシャードウイのサーターヤーの道をへだてて北側にあった共同井戸。浅いが、水はどんどん湧いていた。掘った井戸で、深さが2～3mぐらいだった。水がいっぱいときにはニープで汲めるほどだった。

星が落ちて窪んだという言い伝えがある。

クスツッキーのときに拝む井戸である。

橋

フテンマバシ

大正3(1914)年にできた橋。石橋で頑丈にできていた。橋から水面までは15～20mぐらいあった。夏場には、子どもたちが橋の上から飛び込んで泳いだりしていた。

ケンドーに架かる橋で、バスも通れるぐらいの幅があった。

■チンガー：つるべ井戸。

■ヒヤーイ：日照り。旱魃。

■クスツッキー：農繁期のあとにする骨休みの行事。

■カーウガミ：井戸の神様を拝む。

■キャンプ瑞慶覧（キャンプ・フォスター）：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。

■ユーフルヤー：風呂屋。

■普天間拝み：琉球八社の1つである普天間宮を拝むこと。人々の尊崇を集め、現在も参拝者が絶えない。

■ワク：湧き水。

■キャンプ瑞慶覧（キャンプ・フォスター）：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。

■ニープ：ひしゃく。

■クスツッキー：農繁期のあとにする骨休みの行事。

日本軍が爆弾で橋を破壊したが、全壊はせず、一部残っていた。それを米軍が鉄骨で補強して、一時利用していた。

その後、残っていた欄干を野嵩高校生が近道として利用していたが、危険であるとして、宜野湾市が歩道を作った。それが現在の普天間・石平人道橋である。

工場



ハツドーキ

チャタン（北谷）にあった製糖工場。ハツドーキと呼んでいたが、イシダヤードゥイ（石平屋取）の人たちが利用することはなかった。

イシダヤードゥイ（石平屋取）の子どもたちの通学路の途中にあった。話者は、子どもの頃にハツドーキに入り込んで、砂糖のつまみ食いをしたことがあると言う。

製糖小屋



サーターヤー

共同製糖小屋。4か所あるうちの1つ。アガリヤードゥイのサーターヤーで、屋号イーザトゥ（上里）：14の北側にあった。中城村の人たちと一緒に使用していた。

ハルヤマスーブを行なう場所でもあり、芋、サトウキビ、野菜などが一坪からいくら収穫できたかを競った。優秀な人は表彰状がもらえた。

サーターヤー

共同製糖小屋。4か所あるうちの1つ。メーヤードゥイのサーターヤーで、屋号ヤマームラユシ（山村吉）：3の西側にあった。

サーターヤー

共同製糖小屋。4か所あるうちの1つ。イリヤードゥイのサーターヤーで、屋号サチバルグワー（崎原小）：25の東側にあった。

サーターヤー

共同製糖小屋。4か所あるうちの1つ。クシヤードゥイのサーターヤーで、屋号サンラーナンミグワー（三良稲嶺小）：17の北西側にあった。中城村の人たちと一緒に使用していた。

サーターヤーの側には、クムイや立派なデイゴの木があった。

■野嵩高等学校：県立普天間高等学校の前身。



《普天間・石平人道橋》



《いしんだじんどうきょう》

■ハルヤマスーブ：耕地や農作物の優劣を集落同士で競う行事。

■クムイ：池。沼。

龕屋



ガンヤー

屋号マチダ（松田）：4から西側に行った、丘の上にあった。

昭和5（1930）年生まれの話者が小学校5～6年生の頃に、みんなからの寄附を集めて作られたと言う。ガンヤー完成祝いも行なわれた。

中城村なかぐすくそんも含め、アガリヤードゥイ、イリヤードゥイ、メーヤードゥイ、クシヤードゥイの4組で使用していた。それまでは、安谷屋あだにややチャタン（北谷）のガンを借りていた。

■ガンヤー：龕を納めておく小屋。

■ガン：龕。葬式の時、死者の棺を入れて墓地まで運ぶためのもの。

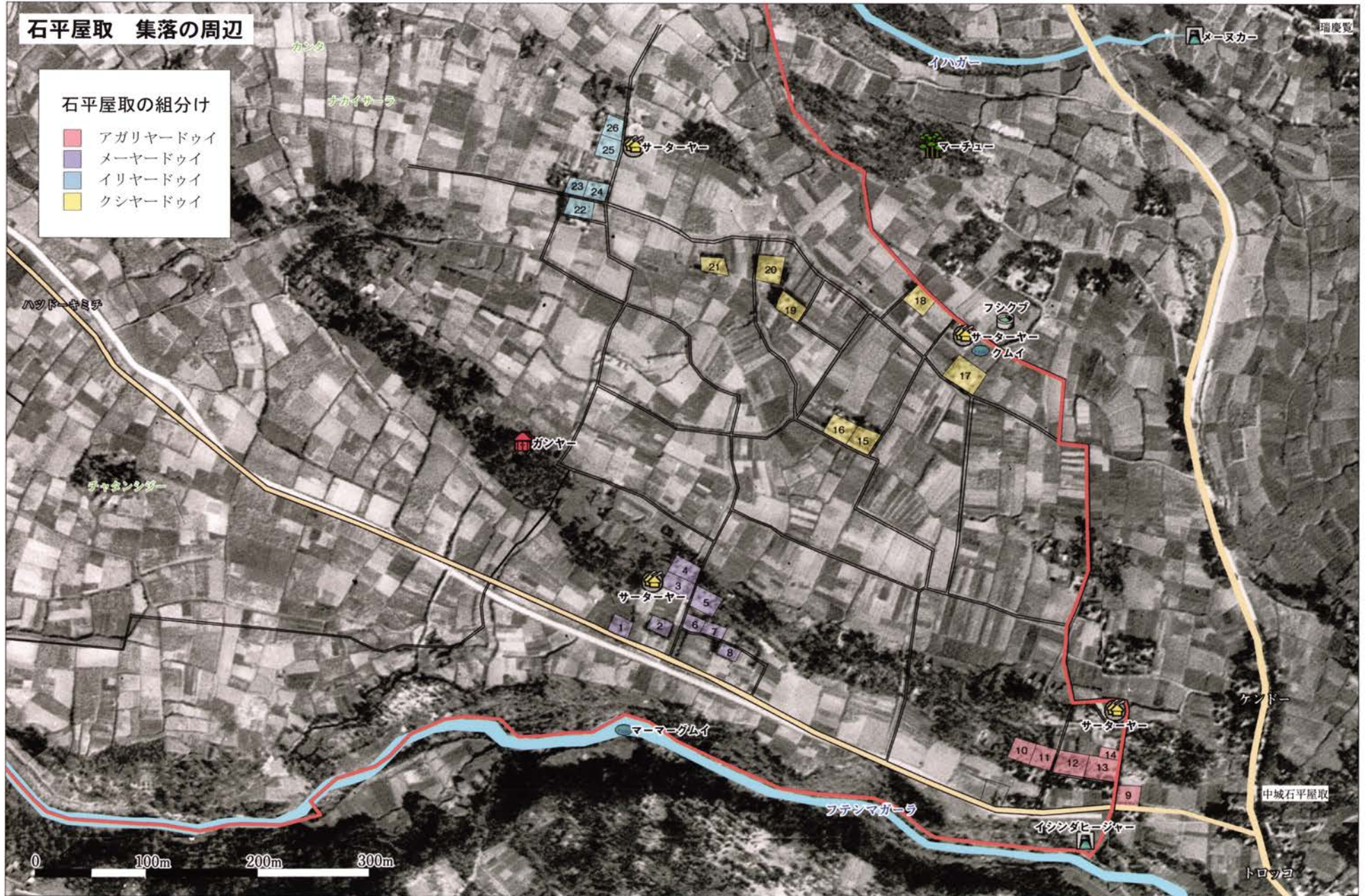
～ フテンマガーラ ～



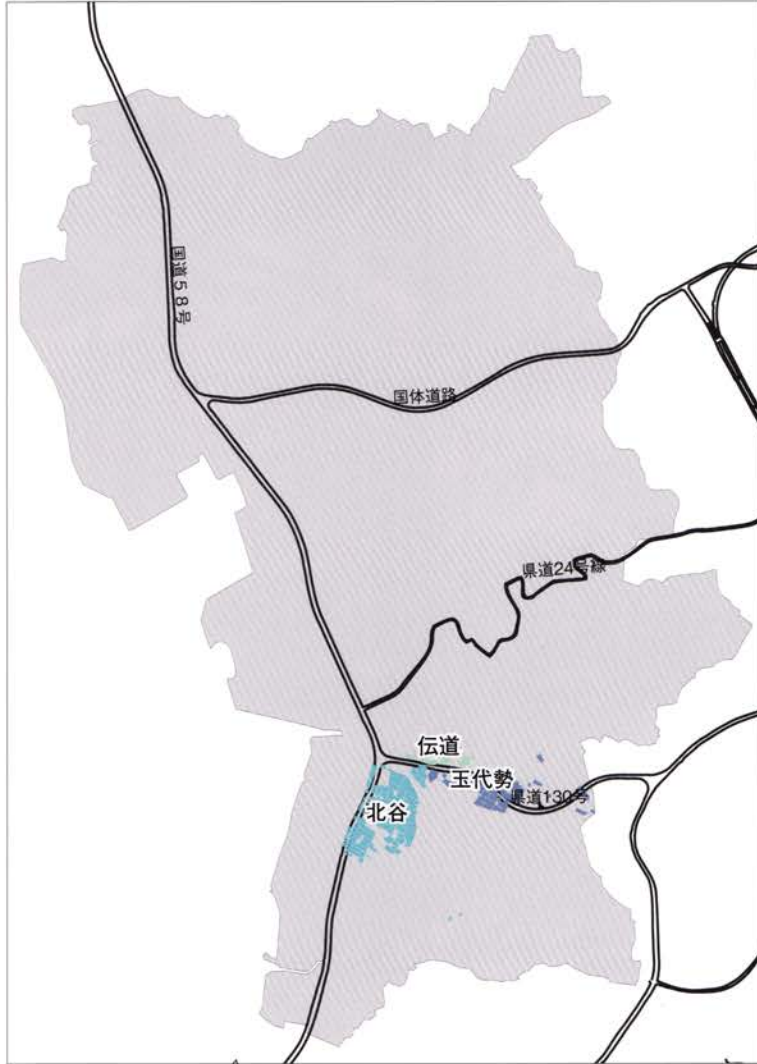
石平屋取 集落の周辺

石平屋取の組分け

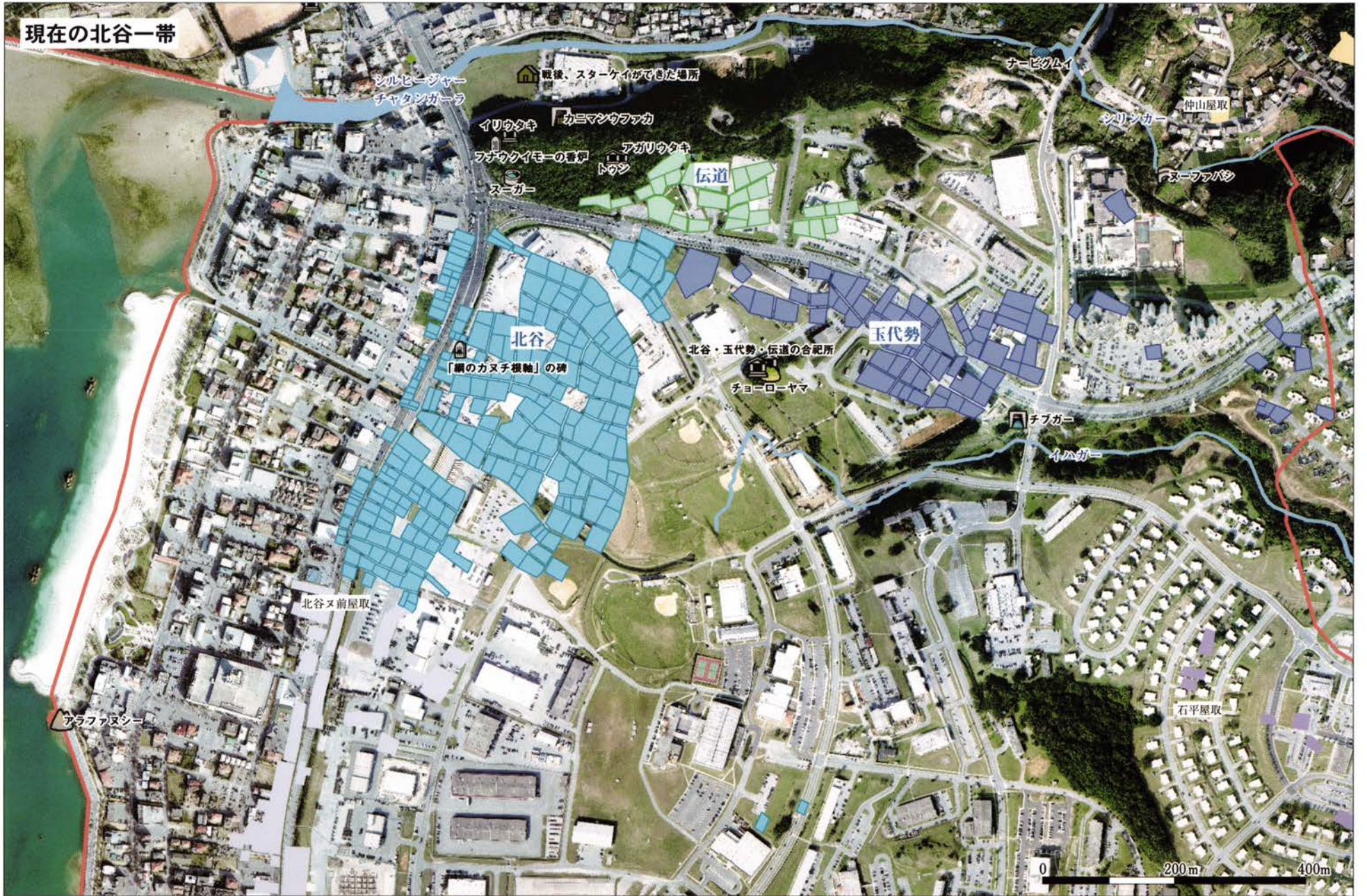
- アガリヤードゥイ
- メーヤードゥイ
- イリヤードゥイ
- クシヤードゥイ



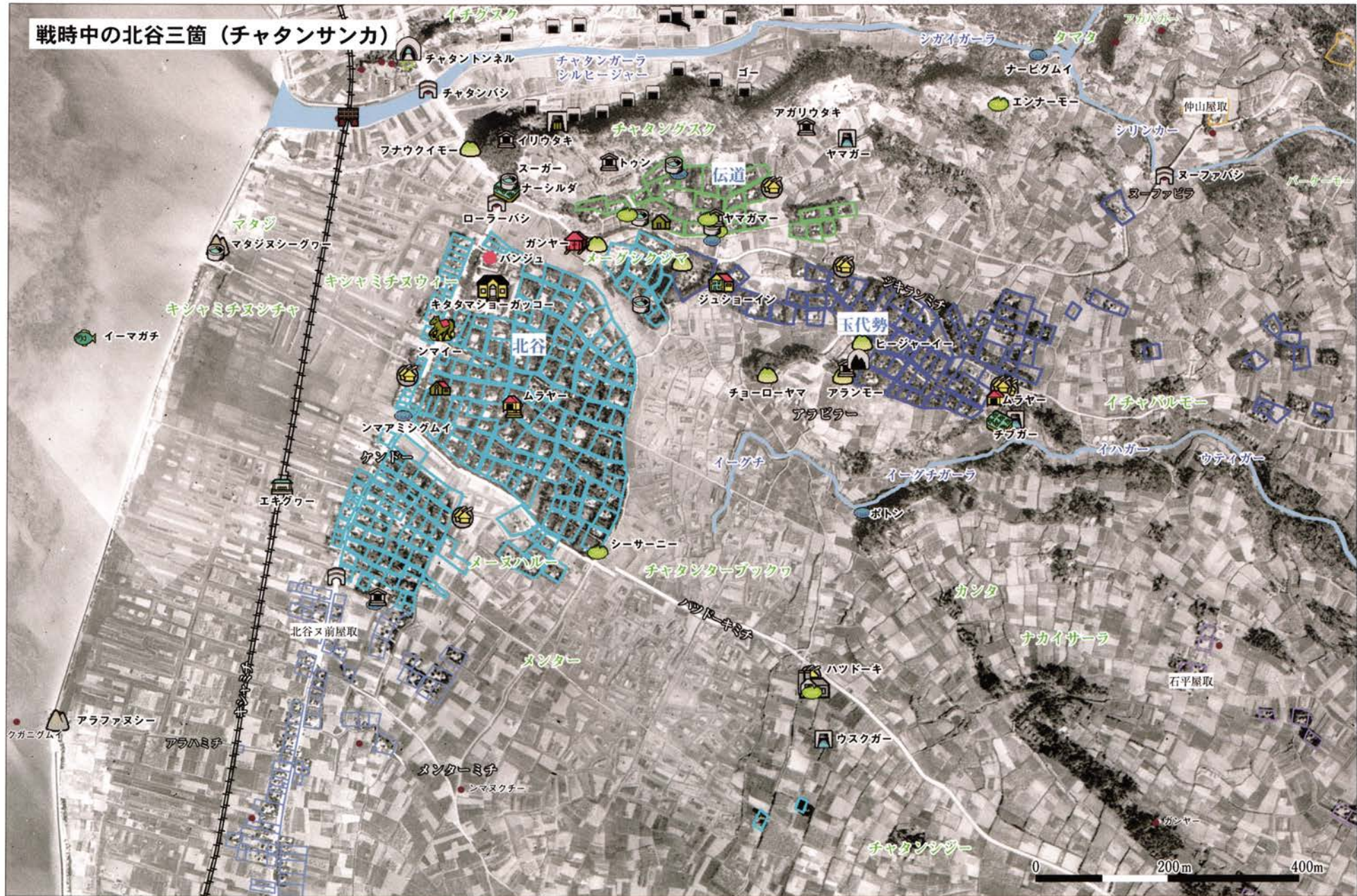
北谷三箇



現在の北谷一帯



戦時中の北谷三箇 (チャタンサンカ)



～ 北谷ウーンナ ～



北谷

チャタン

チャタン（北谷）

北谷町域西側、チャタングスクの南側に位置した集落。北東側にはリンドー（伝道）やタメーシ（玉代勢）があり、南側にはチャタンヌメーヤードゥイ（北谷ヌ前屋取）があった。タメーシ（玉代勢）やリンドー（伝道）とともに、チャタンサンカと称される。ほとんどの行事を、この3集落合同で行なっていた。なかでも、寅年に行なわれるウーンナが有名である。

戸数239軒で、そのうちカーラヤーは64軒であった。普通、母屋にはダキガヤ（リュウキュウチク）、納屋やフルなどにはモーカーヤ（マカヤ）を使用していた。フクギで屋敷を囲っており、夜の路地は真っ暗だった。道をたどるために、空を見上げながら歩いていた。

旧制度では区長は1人だったが、昭和13～15（1938～40）年頃に集落をイチゴ（一号）、ニゴ（二号）、サンゴ（三号）の3つに分けて、それぞれに区長を置くようになった。話者によると、行政が配給や供出がしやすいように、適当に分けたのではないかと言う。

主業は農業で、米、芋、サトウキビなどを作っていた。チャタンターブックワと言う、県下に知られた田んぼ地帯があった。

農業以外にも大工、石工、荷馬車引き、客馬車引き、公務員、事務、筆耕など、さまざまな職業を持つ人たちがいた。また、ケンドー沿い、ンマイのところには、診療所、郵便局、風呂屋、商店、菓子屋、自転車屋、散髪屋、牛乳屋、馬車宿などが立ち並んでいた。

診療所が1軒、ンマイ沿いにあった。ヤマシロビョーイン（山城病院）、タイショーイイン（大正医院）、ミヤギビョーイン（宮城病院）など、医師が変わると病院の名前も変わっていた。そのため、普段は屋号であるイサヌヤー（医者ヌ屋）：196と呼んでいた。家の前には医師が乗る人力車が置いてあった。雑用や事務を兼ねた集金人が雇われており、診療費はその集金人が各家をまわって徴収していた。

また、郵便局もケンドー沿いに1軒あり、屋号ユービンチク（郵便局）：145の家が郵便局だった。屋根は瓦ぶきで、表が郵便局、裏手が住居という造りだった。配達人は2人ぐらいで、自転車で配達していた。配達人は給料制だった。ポストは郵便局前にあり、近くの人には直接入れに行ったが、遠い人たちは配達人に託すこともあった。集配物はキューエキで貨車に積み下ろしをしていた。郵便貯金も扱っていた。

ンマイの北端にはユーフルヤーが1軒あり、屋号タンナファ（玉那覇）：208が営業していた。この風呂屋ができる以前はキュー



《ウーンナ》

- ウーンナ：大綱引き。
- カーラヤー：瓦ぶきの家。
- フル：便所。石で囲んだもので、中に豚を飼い、糞は豚の飼料となった。

- ターブックワ：田んぼ。田のたくさんあるところをいう。地名としては、チャタンターブックワ（北谷たんぼ）、ハニジターブックワ（羽地たんぼ）など。



《聞き取り調査風景》



《聞き取り調査風景》

- ユーフルヤー：風呂屋。

ヌメーヤードゥイ（桑江ヌ前屋取）の風呂屋に行っていた。風呂に使う水は、大きな井戸から汲み上げて沸かしていた。利用者は、主にチャタンサンカの人たちだった。週に1度ぐらい入りに行っていた。桶は備え付けのものがあつた。風呂屋は多くの人たちが集まるので、色々な話が聞けるところだった。話者によると、戦時中に廃業していたと思うと言う。

サーターヤーが数か所あつたが、牛馬を借りたり、その牛馬を追ってサーターグルマを回すのは大変だった。サーターヤーで処理できない分は嘉手納の製糖工場へ運んでいた。その後、ハツドーキができて、サーターヤーはあまり使われなくなった。

ガンヤーはメーグシクジマの西端にあつた。チャタンサンカの人を使う場合にはお金はとらなかった。チャタンヌメーヤードゥイ（北谷ヌ前屋取）はこのガン（かいたい）を借りていた。ガンは解体してガンヤー（おさ）に納めてあり、喪家に持って行って組み立てる。棺（ひつぎ）を墓に運んだあと、ガンは墓で解体し、ガンヤーに持って行って納めた。話者によると、このガンは首里からの払い下げという言い伝えがあつたと言う。

屋号ユービンチク（郵便局）：145の北隣にあつたウククヌメーヌモーグラーが青年たちの遊び場所で、マイサーを置いてあつた。大・中・小の3つあり、大きいものは100斤（60kg）ぐらいあつた。

【集落で行なわれる主な年中行事】

●旧暦6月<綱引き>：夜8時ぐらいから行なわれていた。集落の真ん中を東西に走る道によって2つに組分けされ、南側がメンダカリ、北側がクシンダカリである。頭に色違いのマンサージを巻いて、区別していた。また、クシンダカリには、タメーシ（玉代勢）やリンドー（伝道）のほか、キュー（桑江）、イリー（伊礼）、ハンザン（平安山）などからも加勢が来ていた。対するメンダカリには、チャタンヌメーヤードゥイ（北谷ヌ前屋取）や伊佐などから加勢が来ていた。

●<ウーンナ>：寅年にはチャタンサンカ合同でウーンナが行なわれる。昼に行なう大綱引きで、300年の歴史があると言う。戦争で中断したものの、戦後、昭和49（1974）年に復活し、その後も昭和61（1986）年、平成10（1998）年の寅年に行なわれている。

集落域は米軍に接收され、キャンプ瑞慶覧内となっている。現在の北谷交差点南東側、米軍のモータープール一帯である。そのため、人々は他集落へ分散して暮らしている。しかし、現在でも屋号ヌンドゥルチや郷友会を中心として、諸行事を行なっている団結の強い集落である。

■サーターヤー：製糖小屋。

■サーターグルマ：サトウキビを圧搾する装置。

■嘉手納製糖工場：沖縄製糖株式会社の嘉手納工場のこと。明治45（1912）年創業。

■ガンヤー：籠を納めておく小屋。

■ガン：籠。葬式の時、死者の棺を入れて墓地まで運ぶためのもの。

■マイサー：集落の広場などに置いてある大小の堅い、丸い石。青年たちが力試しをする。

■マンサージ：はちまき。綱引きのときなどの装束。ターバンのように頭に巻くもの。



◀五月ウマチー▶



◀五月ウマチー▶

■キャンプ瑞慶覧（キャンプ・フォスター）：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。

北谷 屋号地図

北谷の家の配置
(数字は屋号番号)

+++++ 鉄道

河川

道路

緑の文字
地域の名称 (小さい文字は他の集落の呼び名)



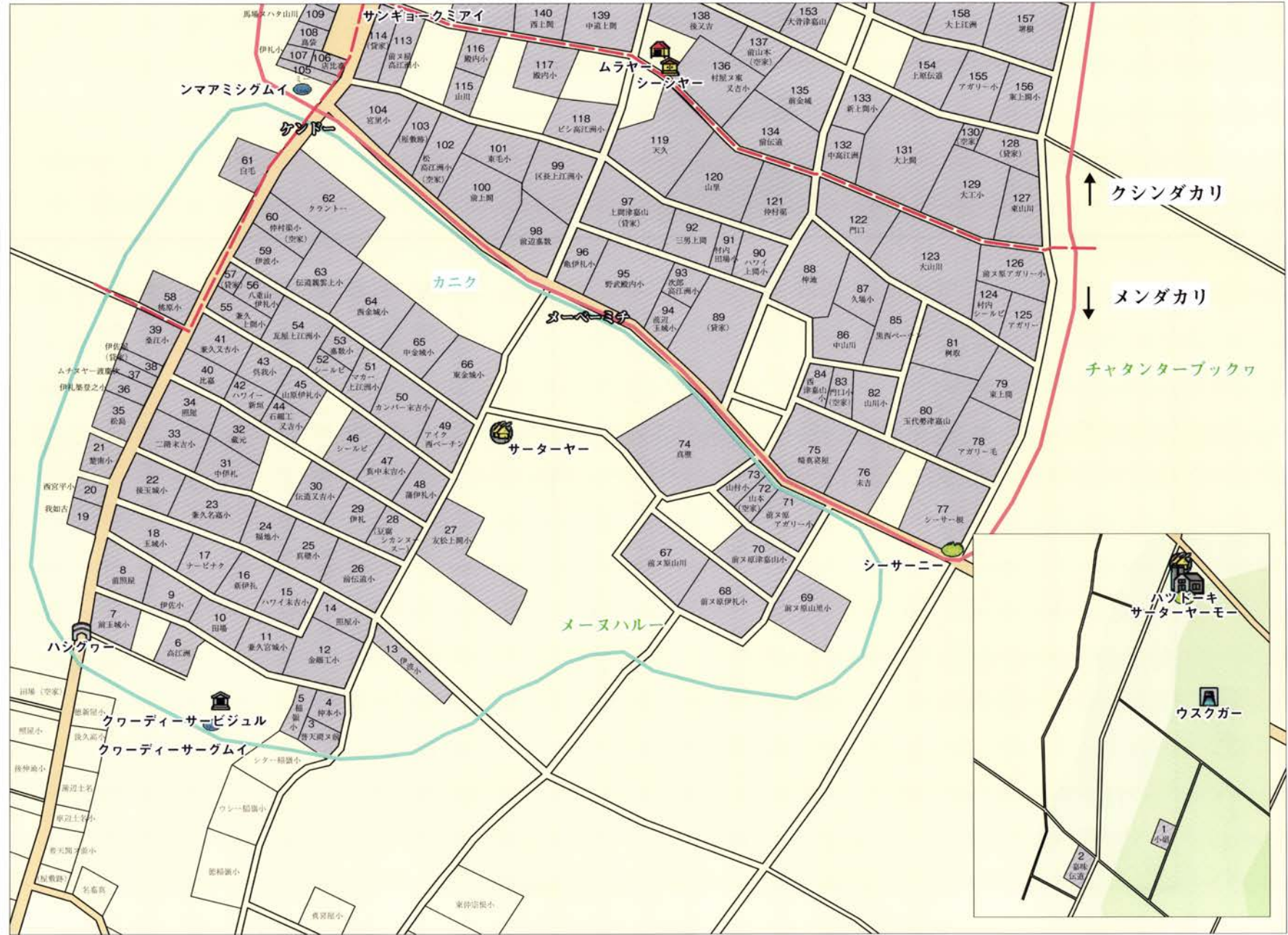
北谷の家の配置
(数字は屋号番号)

++++
鉄道

河川

道路

緑の文字
地域の名称
(小さい文字は
他の集落の呼び名)



↑ クシンダカリ
↓ メンダカリ

チャタンターブックワ

ハツトキー
サターヤーモー
ウスクガー

チャタン（北谷）

組

イチゴー

一号。集落の組分けの1つ。屋号サケーニー（堺根）：157 から屋号オームラ（大村）：191 まで東西に走る道を境にして、道の北側にある家がイチゴーであった。

ハツドーキができた頃に、イチゴー、ニゴー、サンゴーの3つに分けて、それぞれに区長を置いた。それまでは区長はチャタン（北谷）の集落全体で一人だけだった。

ニゴー

二号。集落の組分けの1つ。屋号サケーニー（堺根）：157 から屋号オームラ（大村）：191 まで東西に走る道を境にして、道の南側からハツドーキミチの北側までにある家がニゴーであった。

サンゴー

三号。集落の組分けの1つ。ハツドーキミチの南側にある家がサンゴーであった。カニクとほぼ一致する。

村渠

メンダカリ

集落の組分けの1つ。屋号アガリヤマガー（東山川）：127 からサンギョークミアイまで東西に走る道を境にして分かれた。道の南側にある家がメンダカリで、北側はクシダカリだった。綱引きのときの組分けで、色違いの鉢巻を締めていた。集落内の人だけではなく、チャタン（北谷）の南に位置するチャタンヌメーヤードウイ（北谷ヌ前屋取）や伊佐などの人がメンダカリに加勢して綱を引いていた。

クシダカリ

集落の組分けの1つ。屋号アガリヤマガー（東山川）：127 からサンギョークミアイまで東西に走る道を境にして分かれた。道の北側にある家がクシダカリで、南側はメンダカリだった。綱引きのときの組分けで、色違いの鉢巻を締めていた。集落内の人だけではなく、タメーシ（玉代勢）、リンドー（伝道）、キュー（桑江）、イリー（伊礼）、ハンザン（平安山）などの人がクシダカリに加勢して綱を引いていた。クシダカリが勝つと、豊作になると言われていた。



《聞き取り調査風景》

小集落

ムラウチ

村内。イチゴとニゴリの家が集まっている一帯を言う。

カニク

カニクヤールイとも言う。サンゴとほぼ同じ範囲である。カニクにはイチゴ、ニゴリからのヤーフカヤが多かった。

社会的区分・その他

チャタンサンカ

北谷三箇。チャタン（北谷）、タメシ（玉代勢）、リンドー（伝道）の3集落のことを言う。ほとんどの行事をこの3集落一緒に行っていた。行事のときには、ナナクミワイといって、集落の規模にあわせてチャタン（北谷）4、タメシ（玉代勢）2、リンドー（伝道）1の割合で費用を分担していた。ガンも共有していた。また、チャタンサンカの中の他の2つの集落に嫁いだときには、ンマザキは出さなくても良かった。ジュショインも、チャタンサンカで運営していた。

集落

イシンダヤードウイ

石平屋取。チャタン（北谷）集落の東南方向、北谷町域の南端に位置した屋取集落。チャタン（北谷）との付き合いはあまりなかったが、キタタマショーガッコの運動会などの学校行事は一緒に参加していた。また、チャタン（北谷）の綱引きを見物に来たりもしていた。

現在のリージョンクラブから北中城村向けの一帯にあった集落である。

河川

イハガー

ユナフイバルの北側にあった川。

→石平屋取のイハガーを見よ。

イトウシガーラ

 【※編注：P37「戦時中の石平屋取」の地図に記載】

サーラガーの上流で、フテンマバシからイトウシあたりの流れを言う。

→石平屋取のフテンマバシを見よ。

■ヤーフカヤ：分家。

■ガン：籠。葬式の時、死者の棺を入れて墓地まで運ぶためのもの。

■ンマザキ：他集落から嫁をもらう婿が、女性の集落の青年たちに出す酒代。



〈聞き取り調査風景〉

イーグチ

イーグチガーラとも言う。タメーシ（玉代勢）のチブガーから流れてくる川。川幅は2mぐらいで、長さは20mぐらいだった。流れの途中にンマアミシグムイがあった。水が溜まっていた。

→玉代勢のイーグチガーラ、チブガーを見よ。

シルヒージャー

チャタングスクの北側を流れる川。ウフンダの方から流れてきていた。ケンドーから下流はチャタンガーラと言う。シガイガーラと言う部分もある。

川の流れるあたり一帯を指すハルナーでもある。

戦後直後に、キャンプ瑞慶覧からの洗濯排水で浜が汚染されるとい問題が起きたため、排水を沖に流すためのパイプがシルヒージャーの南側につくられた。現在、そのパイプは壊されている。

現在の白比川のこことである。

→伝道のシガイガーラを見よ。

丘陵

チャタングスク

北谷城。集落の北側に広がる標高40mぐらいの丘陵である。グスクとも言う。話者によると、学校では「大川城」と教えられ、クルマボーで戦ったという話などを聞いたと言う。

チャタングスク内にはアガリウタキ、イリウタキ、トゥン、ジュースンウコール、カニマンウファカ、グスクヒヌカンといった多くの拝所がある。現在はフナウクイモーの拝所も設けられている。拝所の中でも、特にイリウタキとグスクヒヌカンは聖域とされ、屋号ヌンドゥルチの家人だけしか入ることができなかった。イリウタキとグスクヒヌカン以外の場所は自由に立ち入りできたので、個人で畑を作ったり、子どもが遊びに入ったりしていた。上の方にはシークワサー（ヒラミレモン）やバンシルー（グアバ）などがたくさん生えていた。インギーマー（ハリツルマサキ）やイチユビグワー（いちご）などもあった。

チャタンシジー

屋号クンミ（小嶺）：1と屋号カミリンダー（嘉味伝道）：2のあたりから100mほど東の方角に行ったところの丘陵を言う。ハツドーキの近くである。松が2～3本とソテツや雑木などが生えていた。チャタンシジーにのぼると、チャタン（北谷）やシナビ（砂辺）の浜が見えた。墓が3基、放置されている墓が1基あった。イ

■ンマアミシグムイ：家畜（馬・牛）に水浴びをさせる場所。

■ウフンダ：中城村（現・北中城村）にあった大平屋取。

■キャンプ瑞慶覧（キャンプ・フォスター）：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。

■クルマボー：穀竿。麦や豆などの脱穀用具。



《チャタングスク》



《グスク火の神》

■イビ墓：神の墓。

ビ墓であった。後ろの方には石を掘り出した跡があった。

チャタン（北谷）の発祥の地と言われ、チャタンシジーに住み着いたら家族の伝承がある。話者によると、戦前、すでに屋敷跡はわからなくなっていたが、「どこそこには誰々の屋敷があった」ということは覚えられていたと言う。

小ハル名

クシユバー

ムラウチとメーグシクジマを隔てる深田。メーグシクジマの南西側とイリメンターは、ポトンからの水がそれぞれに分水されていたため、ユバーとなっていた。1～2月頃にバナナの木などの丸太を沈めて足場に使っていた。

キシヤミチヌウイー

キシヤミチの東側一帯を言う。田んぼとサトウキビ畑が点在していた。キシヤミチヌシチャよりは塩害が少なかった。

キシヤミチヌシチャ

キシヤミチの西側一帯を言う。海が近いので塩害があり、サトウキビ畑はなかった。ほとんどが田んぼで、ヒジグミという品種を植えていた。

カンタ

カンタバルとも言う。ソートウクバルをのぼり切って少し平坦になったあたりを言う。畑地が多かった。

ナカイサーラ

ナカイサーラバルともいう。ウフドーバルの後ろで、ユナファイバルの一部を言う。土質はマージだった。山になっているところがあり、麓の方に北向きの墓があった。高台になっていて涼しく、大根がよくできた。

メンター

チャタン（北谷）の屋敷地の南側一帯。メンターグワーとも言う。

マタジ

チャタンターブックワからの排水が海に流れ込むところ。小さい石垣があった。満潮になると水がいっぱい入ってきた。干潮になると潮が引き、そこに田の水が流れ込んでいた。干潮時はセーグワー



《聞き取り調査風景》

■ユバー：泥が深い田んぼ。

■ヒジグミ：稲の一種で、のぎが長いのが特徴。

■マージ：赤土質の土壌。マージでできた芋は小さいが美味しい。

(小エビ)などがよくとれた。

マタジー帯の海岸はアダンが生えていたが、護岸ごがんが作られるときに潰つぶされた部分がある。護岸ができてからはモクマオー(トキワギョリュウ)が植うえられていた。

戦前は何もなかったが、現在は碑ひが建てられており、屋号ヌンドゥルチおがが拝ひらんでいる。

イトウシ

【※編注：P37「戦時中の石平屋取」の地図に記載】

サーラガーの上流の傾斜地けいしゃち帯。イトウシバルとも言う。急な傾斜地にたくさんの墓があった。チャタン(北谷)やチャタンヌメーヤードゥイ(北谷ヌ前屋取)の人の墓が多かった。戦時中、チャタンヌメーヤードゥイ(北谷ヌ前屋取)の人たちは、このあたりに避難ひなんした人が多かった。

→北谷ヌ前屋取のイトウシを見よ。

メーグシクジマ

ムラウチからクシユバーをはさんで北東にある一帯。11軒の家とガンヤーがある。

メーグシクジマの入口に細長い、楕円形だえんけいの石碑せきひが立っていたが、何も刻きざまれていなかった。直径1～1.5m、高さ1m弱の築山つきやまもあった。話者によると、マーイシひの碑ひだったかもしれないと言う。

メーヌハルー

サンゴーの一部とカニクの東側一帯。

このあたりの家は、屋号メーヌハルーヤマガー(前ヌ原山川)、屋号メーヌハルーイリーグワー(前ヌ原伊礼小)のように、屋号にメーヌハルーとついていることが多い。

ヌールジ

チャタングスクのなかにヌールジと呼ばれる土地があり、畑として整地せいちされていた。チャタン(北谷)のヌールりゅうきゅうおうふが琉球王府はいから拝領りようした土地と言われている。もともとヌールは屋号ヌンドゥルチの家から出ていたが、ヌールが嫁に出るときにヌールジを持っていったので、屋号クシイサヤグワー(後伊佐屋小)が持ち主になっていた。

水田地帯

チャタンターブックワ

集落の東側に広がっていた田んぼ地帯。西側にも田んぼは多かつ



《マタジ》

■マーイシ：黒色の堅い石。

■ヌール：神女。

たが、そこは海が近く塩害が出るため、ヒジグミという品種しか植えられなかった。

■ヒジグミ：稲の一種で、のぎが長いのが特徴。

イノー

チャタンイノー 【※編注：P23「戦時中の北谷ヌ前屋取」の地図に記載】

シルヒージャー河口からアラファヌシーのやや南のあたりまでの珊瑚礁。幅の広い干潟で、ほとんど砂地だった。アーサ（ヒトエグサ）やナチョーラ（マクリ）などの海藻が生えていた。ところどころに岩盤が出ている。塩などを作った。戦前はスクが寄ってきていた。夜はイジャイをしてタコなどを取る。しかし、話者によると、危ないとか畑仕事が忙しいという理由で、海に行くことを嫌う人が多く、イジャイは好きな人だけが行っていたと言う。

■スク：アイゴの幼魚。

■イジャイ：いさり。火を使う、夜の漁。

チャタンイノーは、現在の安良波公園の北側3分の2くらいにあたる。

干瀬

ウランダビシ

【※編注：記載した地図の範囲外にあるため、地図上には記載していない】

話者によると、場所はよくわからないが、名前は聞いたことがあると言う。名前の由来はわからない。

県道

ケンドー

県道。チャタン（北谷）の西側を通っていた道。バスがすれ違いできるほど広い道だった。バスは一日2往復走っていた。新垣バスが運行していたが、いつも乗客がいっぱいで、なかなか停まらなかった。ハツドーキができる前までは、製糖の時期になると嘉手納製糖工場にサトウキビを運ぶための荷馬車がたくさん並んでいた。ケンドーの補修工事は集落ではやらなかった。請負人がいて人足を集めて行っていた。

■新垣平尾バス：戦前の乗合自動車。那覇～名護間を運行。

■嘉手納製糖工場：沖縄製糖株式会社の嘉手納工場のこと。明治45(1912)年創業。

タメーシ（玉代勢）の間取り情報によると、補修工事の一日の賃金は35銭で、監督はヤマトンチューだったと言う。

現在の北谷交差点あたりは、ケンドーとその下の畑との段差が1丈（1.8m）ほどもあった。

■ヤマトンチュー：日本人。沖縄に対して日本本土の人を言う。

村道

クシミチ

タメーシ（玉代勢）の後ろを通る道。タメーシミチ、ディンドーミチ、ジキランミチともいう。リンドー（伝道）を抜けて瑞慶覧に向かう道。

ハツドーキミチ

イシンダヤードウイ(石平屋取)に向かう道。ミーミチとも言う。もともとあった道を拡張した。その工事のときには、チャタン(北谷)でも人足の募集が行なわれた。

メーペーミチ

ハツドーキミチの一部。ハツドーキミチのうち、屋敷のある地帯にかかっている部分だけを言う。屋敷のある地帯を過ぎたあたりからは、ハツドーキミチ、ミーミチ、サーターヤーミチなどと言う。

生活道

メンターミチ

メンターにある道。2本あり、1本は屋号シーサーニー：77のところからのびる道。もう1本は、さらに東側にあり、2本は南北にほぼ平行に走っていた。

坂道

アラビラー

ハツドーキミチと交差する畑の中の道から、タメーシ(玉代勢)のナカミチに通じる坂。タメーシ(玉代勢)の屋号ウフグシク(大城)までが坂になっていた。

鉄道

キシヤミチ

沖縄県営鉄道嘉手納線の線路。大雨でも浸水しないように、盛り土や埋土した上にレールが敷かれていた。1日に1回は1両のガソリンカーが走っていた。周囲に柵がついていたので、外からぶらさがって乗ることができた。

戦争で石炭の質が悪くなってからは汽車の速度が遅くなっていた。

現在の牧港あたりは、ワイトウイになっていたために人気がなく、フェーレーが出ると噂されていた。

丘

チョーローヤマ

チータチ ジュープニチ
一日と十五日には、チャタンサンカの小学校5～6年生が当番で清掃に入っていた。

北谷村が行なう三大祭りの一つとして、長老祭を行なっていた。もともとはチョーローヤマでの祭りは、旧暦8月15日に行なっていたが、野国総官祭と日程ががちあってしまうので、長老祭は旧暦



《聞き取り調査風景》

■沖縄県営鉄道 嘉手納線：嘉手納・野国・平安山・桑江・北谷・大山・真志喜・大謝名・牧港・城間・内間・安里・与儀・古波蔵・那覇の15駅があった。

■ワイトウイ：切り通し。山などを切り開いて作った道。

■フェーレー：追いはぎ。

■北谷村の三大祭り：①北谷長老祭 ②海神祭 ③野国総官祭

9月15日に変更された。長老祭では何度かムラ芝居も行なったが、それを観るために集落内が無人的になってしまい、盗難があったり、人が集まるのでチョーローヤマの整地が悪くなるという理由で、キタマシヨーガッコーに場所を移してやるようになった。ムラ芝居の演目は「阿麻和利」・「八重山節」・「八重瀬万歳」・「ミルク節」・「加那ヨー天川」・「双児物語」などで、演じるのはすべてチャタン（北谷）の男性だった。

現在、入口にある石碑や階段は、戦前のままである。長老祭も毎年、旧暦9月15日に行なわれている。

フナウクイモー

那覇から出る船のフナウクイをした丘。チャタングスクの西側崖の麓にあった。戦後の1号線（現在の国道58号線）の建設によってなくなってしまったので、その代わりに崖の上にウコールを置いてある。

キューヌメーヤードゥイ（桑江ヌ前屋取）の聞き取り情報によると、チャタングスク内の北谷モーシーの墓とスーガーとの間あたりにあったと言う。ちょっと小高い丘になっており、そこで女性たちが太鼓を叩いたり、煙を出したりして、航路の無事を祈っていた。主に紡績に行く人たちを見送っていた。昭和12（1937）年以降はフナウクイをする余裕はなくなっており、あまり行なわなくなった。

イーザチンヤマ

屋号イーザチン（上座喜味）：238 とタメーシ（玉代勢）の屋号キュードゥンチ（桑江殿内）の間にあった山。周囲から4mくらい盛り上がっていた。木が鬱蒼と茂っていて、近隣の家が影になるほどだった。昼でも暗く、寂しいところだった。話者によると、墓はなかったが、戦時中は防空壕を掘ってあったかもしれないと言う。

イーヌアタイ

集落を見下ろせる小高い丘。メーグシクジマの西端のあたりを言う。土質はニービだった。

タマガイ ンジドゥクルーだったので、旧暦8月10日のトゥカウガミのときにはタマガイを見るために、青年たちがこの山にのぼっていた。集落内にはマータク（竹の一種）を持った青年たちがいて、タマガイが上がったら、イーヌアタイから集落内に合図があって、どこの家からタマガイが上がったかを確認していた。

■ムラ芝居：集落の人たちが演じる芝居。



《長老祭》

■フナウクイ：見はらしのいい場所から、旅に出る人の安全を願い、船を見送ること。

■ウコール：御香炉。線香をたてる炉。

■北谷モーシー：絶世の美声の持主と言われる伝説的な女性。

■紡績：大正・昭和期に盛んだった阪神や中京の製糸紡績工場への出稼ぎ。

■ニービ：赤くざらざらした堅い土質。

■タマガイ ンジドゥクルー：タマガイを見る場所。

■タマガイ：凶兆。火の玉が家の上に高く上がったりすること。

池沼

ポトン

イグチの流れが終わるところにあった池。3 m弱の滝^{たき}のようになっていた。その周りはユパーになっていた。

ンマアミシグムイ

屋号ミー：105の南側にあったクムイ。ケンドーに架かる溝^{かみぞ}のところがクムイになっていて、家畜^{かちく}（馬・牛）に水浴びをさせていた。

クワディーサーグムイ

チャタン（北谷）とチャタンヌメーヤードゥイ（北谷ヌ前屋取）の境界^{きょうがい}にあったクムイ。昭和に入った頃には水は干上^{ひあ}がっていて、手足を洗うぐらいの広さになっていた。クムイの側に、クワディーサー（モモタマナ）の木があった。木のところにビジュルがあり、クワディーサービジュルと呼ばれていた。

岩瀬

アラファヌシー

チャタンヌメーヤードゥイ（北谷ヌ前屋取）の西方向へ行った、海の中にあった岩。

ナカヌシーへのウトゥーシをする場所だった。旧暦5月4日にはチャタン（北谷）の人みんなでシーに行き、子どもたちは肉をもらって食べていた。旧暦6月25日の綱引きのときに^{おが}拌んでいた。

現在のアラファヌシーは、昔の10分の1の大きさになっている。

→北谷ヌ前屋取のアラファヌシー、ナーカヌシーを見よ。

ナカヌシー

【※編注：P23「戦時中の北谷ヌ前屋取」の地図に記載】

チャタン（北谷）の浜の沖にあった岩。ヒヌカンが^{まつ}祀られている。ウマチーと旧暦5月4日に^{おが}拌みに行っていた。

現在も拌みが行なわれている。

→北谷ヌ前屋取のナーカヌシーを見よ。

マタジヌシーグワ

マタジのところにあった岩礁。1 mぐらいの高さがあった^{こがん}護岸よりもさらに高かった。

魚垣

イーマガチ

話者によると、場所ははっきりわからないが、イジャイをよくす

■ユパー：泥が深い田んぼ。

■クムイ：池。沼。

■ビジュル：靈石として祀られる石。

■ウトゥーシ：通拝。

■シー：岩。



《ユッカヌヒーの拌み》

■イジャイ：いさり。火を使う、夜の漁。

る人たちには知られた場所だったらしいと言う。

キュー（桑江）の聞き取り調査によると、チャタン（北谷）の方にあり、戦前、すでにあまり使われていなかったが、浅瀬に石で囲みを作って魚を捕らえる場所で、その石積みの跡が残っていたと言う。

湧水井戸



ウスクガー

ハツドーキの近くにあった湧き水。ウスクヌイジュングワーとも言う。広さは半間四方で、ニープで汲めた。水は冬でも温かった。屋号クンミ（小嶺）：1と屋号カミリンドー（嘉味伝道）：2の2軒が使っていた井戸である。近くに、他にも2か所のイジュングワーがあった。

現在、チョーローヤマの合祀所に祀られている。

カンタヌカー

【※編注：位置不明確のため、地図上には記載していない】

カンタヌカーグワーとも言う。ナカイサーラバルの中にあった。ユナファイバルとナカイサーラの山がぶつかるころにあった。1～2mの滝のようになっていた。雨が降らないと涸れるぐらいの井戸だった。周囲に家はない。ヤジナケーマからの排水が流れ込んでいた。水量は少ない。

現在、チョーローヤマの合祀所に祀られている。

掘井戸



スーガー

チャタングスクの西麓にある井戸。この井戸からウブミジを汲んでいた。きれいな澄んだ水で、お茶を入れるための水や豆腐を作るのに向いていた。1mぐらいのつるべ縄があったが、ニープで汲める深さだったので、ニープで汲んでいた。

スミムンガー

屋号カーヌハタグワー（川又端小）：230の屋敷内にあった井戸。泥水が溜まっていたため、普段の飲み水や生活用水としては使われていなかったが、造りは立派な井戸だった。泥染めに使う井戸だという言い伝えがあった。

現在、チョーローヤマの合祀所に祀られている。

橋



ハシグワー

【※編注：位置不明確のため、地図上には記載していない】

クシユバーから流れる水路に架かっていた橋。平たい石を置いた

■ニープ：ひしゃく。

■イジュングワー：泉。



《カーの合祀所》

■ウブミジ：産湯に使う水。

■ニープ：ひしゃく。



《スーガー》

だけの簡単な造りだった。

シルバシ

シルヒージャーに架かっていた石橋。橋から水面までは3mぐら이었다。子どもたちが、飛び込んで遊んでいた。橋の石材はユンタンジャー石で、橋の路面にあたる場所はフルに使うような、畳一畳くらいの広さの平らな石だった。欄干は高さ1尺(0.3m)、幅1尺(0.3m)で、やはりユンタンジャー石でできていた。

ティーチバシグワー

ケンドーに架かっていた橋。ローラーで橋が崩れる事件が起きてからは、ローラーバシと呼ばれるようになった。

ローラーバシ

ケンドーに架かっていた橋。スーガーの南側で、クシユバーからの排水の上に石橋が架けられていた。

もともとはティーチバシグワーと呼ばれていたが、昭和11(1936)年12月8日に、ジャーガルミチの工事に使われたローラーが橋を渡ろうとしたときに橋が崩れてしまい、ローラーを見物に来ていた子どもたちが巻き込まれて数名の死傷者が出た。この事件のあとからローラーバシと呼ばれるようになった。

現在の北谷交差点のあたりである。

→謝苜屋取のジャーガルミチを見よ。

サーラバシ

イトゥシガーラの下流で、ケンドーに架かっていた橋。

トンネル



チャタントンネル

チャタン(北谷)とキューヌメーヤードゥイ(桑江又前屋取)の間にあったトンネル。馬車がすれ違いできるくらいの幅があった。話者によると、バスも通れたので、幅5m以上で、高さは2m20~50cm、長さは長かった印象だと言う。セメントか石積みだった。トンネルの中は涼しかった。

キューエキの近くにはセーマイジョがあったため、そこまで馬車で米を運んでいたが、チャタントンネルのあたりは高地になっていたため、人手が2人分必要だった。

チャタントンネルの上の丘陵などでモーアシビをしていた。2~3人で座れるような場所が2~3か所あった。屋良飛行場の建設を

■ユンタンジャー石：読谷の海岸から掘り出される石。

■フル：便所。石で囲んだもので、中に豚を飼い、糞は豚の飼料となった。

■モーアシビ：農村で夜、若い男女が野原に出て遊ぶこと。三味線・歌・踊りなどをして楽しむ。

■屋良飛行場：昭和19(1944)年に日本陸軍が建設した飛行場。中飛行場。米軍に接收され、現在の嘉手納基地となった。

していた頃に、^{こくぼぐみ}国場組が^{はっば}発破をかけて^{こわ}壊した。トンネルの土台の平たい石は戦後まで残っていた。

→桑江又前屋取のキューエキ、セーマイジョを見よ。

停車場

エキグワー

沖縄県営鉄道嘉手納線の^{か で な}北谷停車場。チャタンエキとも言う。木製の屋根がついていた。^{いす}椅子もあったため、青年たちの遊び場所ともなっていた。

エキグワーから朝6時30分に出て、1時間半ぐらいで^{あさと}安里駅に着いた。料金は片道36銭だった。学生用の4か月分の定期は10円50銭した。

ももとは田んぼで、その中にレールを敷くため、工事が大変だった。土を^も盛ってあるので、ちょっと高くなっている。

■沖縄県営鉄道 嘉手納線：嘉手納・野国・平安山・桑江・北谷・大山・真志喜・大謝名・牧港・城間・内間・安里・与儀・古波蔵・那覇の15駅があった。

鉄橋

テッキョー

沖縄県営鉄道嘉手納線の鉄橋。シルヒージャーに架かっていた橋。

公共施設

サンギョークミアイ

シンヨークミアイ、クミアイ、クミエーとも呼んでいた。^{きんゆうき}金融機関のようなものであった。^{せいまい}精米作業もしており、^{けいえい}経営するセーマイジョが^{かこ}キューヌメーヤードゥイ（桑江又前屋取）にあった。

サンギョークミアイの建物は、石垣に囲まれた二階建てのカーラーという造りだった。^{きゆうじ}給仕が1人雇われていて、^{やと}事務仕事をしていた。昭和15～16（1940～41）年頃には閉鎖していた。

→桑江又前屋取のセーマイジョを見よ。

■カーラー：瓦ぶきの家。

学校

キタタマショーガッコー

^{きたたまじんじょう}北玉尋常高等小学校。のちの国民学校。男女共学で、一学年3～40名ぐらいで、高等科は30名ぐらいだった。先生方は^{かこ}チャタン（北谷）や近くの集落の^{かしや}貸家を借りている人が多かった。なかには^{きしやば}喜舎場から^{つうきん}自転車で通勤してくる先生もいた。教頭先生は馬で通勤していた。

学校敷地は^{しきち}ルガイ（リュウゼツラン）で^{かこ}囲われていた。ケンドー沿いには高さ1mの^{へい}塀が作られていた。校門はケンドーに面して2か所あり、南側の門が^{りょうわき}正門だった。門を入ると両脇にアカギの木が

■北玉尋常高等小学校：北谷尋常高等小学校の分教場であった。大正3（1914）年に北玉尋常小学校として開校し、大正6（1917）年に高等科を設けて北玉尋常高等小学校となった。

生えていた。校庭には他にデイゴ、アカギ、ガジマル、カシノキ(檜の木)といった木が植えられていた。校庭の南東側には大きなガジマルが生えていて、校庭の半分近くが影になっていた。昔はこのガジマルのあたりまで海で、ガジマルはフナチナジボーだったと言ひ伝えがあった。大雨が降ると、学校の周りは膝まで水浸しになった。また、校庭は砂場になっていて、高跳びや走り幅跳びができた。キタタマショーガッコーになる以前は、校庭の真ん中に築山があったが、校舎を改築したときに崩した。校庭の西側にはキカイボーが4~5基備えられていた。

校舎は瓦ぶきだった。コの字型をしており、北側が高等科の棟で、東側が1・2年生の棟、南側が3・4年生の棟だった。高等科の棟の北側が校長室だった。校長室のならびに宿直室、築山、池などがあった。キタタマショーガッコーができる前は、このあたりにバンジュがあったという。

ケンドーの下の方の田んぼと畑を借りて農場にしていた。高等科の先生が畑を耕していた。

戦時中は日本軍の球部隊・石部隊の野戦病院として使われたために、大きい家やムラヤーを分教場にして、学年ごとにわかれて授業を行っていた。

戦後は、現在の謝苜区の方に移った。最初は昭和22(1947)年に山をならしてコンセットの校舎を建てた。その後、茅ぶきの校舎、瓦とタン屋根の校舎、コンクリート校舎へと建て替えられていった。

工場

ハツドーキ

ウフドーバルにあった製糖工場。キョードーセーターとも言うが、普通はハツドーキと呼んでいた。騒音が大きかった。チャタンサンカの人々が使っていた。サンギョークミアイが管理していた。話者によると、使用料というのはなく、サンギョークミアイがサトウキビを買い取るというかたちで運営していたのではないかと言う。

もともと、チャタン(北谷)には6~7軒のサーターヤーがあった。サーターヤーで製糖する以外に、嘉手納の製糖工場にサトウキビを運んで製糖することもあった。ハツドーキができてからは、サーターヤーは使われなくなった。

製糖小屋

サーターヤー

製糖小屋。ハツドーキのところには4軒のサーターヤーが集まっ

■フナチナジボー：船をつなぐ棒。

■キカイボー：鉄棒。

■球部隊：牛島満中尉の率いる第32軍の通称。

■石部隊：第62師団独立歩兵第12大隊の通称。

■ムラヤー：集落の集会所。

■嘉手納製糖工場：沖縄製糖株式会社の嘉手納工場のこと。明治45(1912)年創業。

ていた。瓦ぶき屋根だった。

ハツドーキができてからは、ハツドーキから出るサトウキビの殻からを集積する場所になっていた。

サーターヤー

製糖小屋。マタジに行く途中にあった。

サーターヤー

製糖小屋。カニクにあった。

田



ナーシルダ

タメーシ（玉代勢）のタメーシガーの近くにあった苗代なわしろ。タメーシガーから流れ出る水を利用して、苗代を作っていた。旧正月のあとの初午もみの日に初まきをして、2月に苗なえを植える。チャタンサンカ合わせて400～500坪以上あった。幅は50mぐらいで、長さは100mぐらいである。

→玉代勢のチブガーを見よ。

ナーシルダ

スーガーの足下にナーシルダと呼ばれる土地があった。ミフダ、カミグサイヌナーシルダとも呼ばれていた。2坪ぐらいの広さだった。苗代なわしろに使われているわけでもなく、特になんの用途ようどにも使ってはいなかったが、水はいつも張ってあった。

拝所



アガリウタキ

チャタングスク内にある拝所はいしよの1つである。旧暦5月15日のグングウチウマチーのときに拝おがんでいた。ウンサクを各家庭で作って、集落の役員がそれを集め、屋号ヌンドゥルチに納めた。現在はお米おさを集めて、米ほうのうを奉納している。

平成16（2004）年に北谷町指定文化財となった。

イリウタキ

チャタングスク内にある拝所はいしよの1つである。旧暦5月15日のグングウチウマチーのときに拝おがんでいた。戦前、チャタングスク内に自分の土地を持っている人もいたし、畑も作ってあって、一般の人が自由に立ち入りしていたが、イリウタキの付近だけは立ち入らなかった。イリウタキに行くのは屋号ヌンドゥルチの家人だけだった。



《ミフダの碑》

- グングウチウマチー：5月に行なわれる農耕に関する祭り。ノロ（神女）が祈願をささげる。
- ウンサク：神に供える酒。
- 北谷町指定文化財：平成16（2004）年3月26日に①ハマガーウガン ②アガリウタキ ③トゥン ④チブガーの4か所が指定された。



《東り御嶽》

トウン

チャタングスクの頂上にある拝所。戦前は現在の位置より北北東15mほどの位置にあった。現在は、トウンの祠に隣接してアガリウタキの祠が立っている。また、祠の東側には畑の痕跡や屋敷の跡らしい石積みが残っていた。屋敷2つ分くらいの長さで、高さは1尺(30cm)ぐらいだった。石積みの中は芋畑になっていた。

平成16(2004)年に北谷町指定文化財となった。

ジュースンウコール

話者によると、戦前、この拝所は屋号ヌンドウルチの人たちだけが拝んでいたもので、知らなかったと言う。

戦後、チョーローヤマの方に遷座していたが、現在はチャタングスク内の元の場所に戻してある。平成10(1998)年のウーナのときには元の場所で行なうことができた。

戦前のウコールは石灰岩でできていたので、線香を供えるたびにだんだん焼けいって、ぼろぼろになっていた。戦後、セメントで型をとって新たに作り直した。古いウコールは新しいウコールの中に埋め込んである。

ビジュル

【※編注：P23「戦時中の北谷ヌ前屋取」の地図に記載】

ナカヌシーにあった拝所。シーの上にビジュルがあって、毎年ウマチーと旧暦5月4日などに拝みが行なわれていた。

戦前は人骨があったが、戦後はなくなっていた。

戦後、ハンビー飛行場が返還されてから入れるようになった。返還されるまでは拝みも絶えていた。

話者によると、現在は石のウコールが置いてあるが、戦前もあったかどうかはわからないと言う。

→北谷ヌ前屋取のナーカヌシーを見よ。

クワーディーサービジュル

チャタン(北谷)とチャタンヌメーヤードウイ(北谷ヌ前屋取)の境、クワーディーサーグムイのところにあった拝所。屋号タケーシ(高江洲):6の西側あたりで、ケンドー沿いに、クワーディーサー(モモタマナ)の木とビジュルがあった。土に埋まった石を、小さな石の祠で囲ってあった。

寺

ジュショーイン

樹昌院。タメーシ(玉代勢)の集落入口にあった寺。カーラヤー



◀殿▶



◀西御嶽・十三御香爐▶

- ウーナ：大綱引き。
- ウコール：御香炉。線香をたてる炉。

- シー：岩山。
- ビジュル：靈石として祀られる石。
- ウマチー：稲麦などの農耕に関して行なわれる祭り。
- ハンビー飛行場：米海兵隊のヘリ基地。昭和56(1981)年に返還された。
- ウコール：御香炉。線香をたてる炉。

- ビジュル：靈石として祀られる石。

- カーラヤー：瓦ぶきの家。

だった。

庭でエイサーやシーシモーラシをやった。エイサーやシーシモーラシはジュショーインから出発し、屋号ヌンドウルチ:239 とムラヤーを回った。

ジュショーインはチャタンサンカの所有で、チャタン（北谷）4、タメーシ（玉代勢）2、リンドー（伝道）1の割合で費用を分担していた。葬式、年忌、法要などはジュショーインの住職にお願いする。住職は、昭和初期には片岡先生という方で、北玉尋常高等小学校の教師でもあった。そのため、ジュショーインの部屋を使って、法話や補習などを行っていた。中学校受験をする生徒が受験勉強をしていた。片岡住職が移動になったあと、高江洲恵信氏が住職となった。戦後、高江洲氏が亡くなった後は、喜瀬氏が住職を継いでいる。

獅子屋



シーシヤー

獅子舞の獅子を置く小屋。ムラヤーと同じ敷地の東角にあった。旧暦7月や、旧暦8月の十五夜ジュウグヤのときなどに獅子舞を行なった。屋号ヌンドウルチ:239、ジュショーイン、ムラヤーの順に回っていた。獅子舞は昼に行なわれ、夜にはムラアシビがあった。

集会所



ムラヤー

チャタン（北谷）の集会所。ムラウチの真ん中いたばにあった。平屋で瓦ぶきだった。床は板張りで、アマハジや雨戸もあった。ムラヤーと隣接してシーシヤーが建ててあった。

ムラヤーの前の広場で、フェヌシマの練習をしていた。フェヌシマは、ウーンナやムラ芝居よきょうのときの余興として行なわれていた。

馬場



ンマイー

馬場。ムラウチの西側たねもみにあった。ケンドーの途中がンマイーになっていて、そこだけ倍の道幅になっていた。

ンマスープはしていなかったが、アブシバレーのときにンマイーでハルヤマスープを行っていた。

普段はニクブクしを敷いて、稲や種籾などの干し場などに使っていた。

■エイサー：旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。

■シーシモーラシ：獅子舞。

■ムラヤー：集落の集会所。

■北玉尋常高等小学校：北谷尋常高等小学校の分教場であった。大正3（1914）年に北玉尋常小学校として開校し、大正6（1917）年に高等科を設けて北玉尋常高等小学校となった。

■ムラアシビ：歌・三味線・踊りなどを楽しむこと。また、村芝居・祭りなど、仕事を休んで行なう演芸・娯楽。

■アマハジ：軒の差し出した庇。

■ウーンナ：大綱引き。



＜フェヌシマ＞

■ンマスープ：馬の飾りや歩き方の美しさを競う。

■アブシバレー：旧暦4月頃に行なわれる害虫よけの行事。

■ハルヤマスープ：耕地や農作物の優劣を集落同士で競う行事。

■ニクブク：藁縄で編んだむしろ。

広場

サーターヤーモー

ハツドーキの近くにあった。ハツドーキができる以前、サーターヤーが集まっていたあたりにあった広場。エイサーの練習に使ったりしていた。

ウククヌメヌモーグラー

郵便局の隣にある小さな広場。以前、この広場の側^{そば}にウククという屋号の家があったので、この名がついた。

ターンム（田芋）の畑になっていた。

マーイサーが置いてあって、青年の遊び場所になっていた。マーイサーは大・中・小の3つあり、大きいものは100斤（60kg）あった。

綱引きが終わると、この広場で、メンダカリとクシンダカリに分かれてのシーチャー勝負などをして遊んだ。広場の前はカニチグチだった。

現在はキャンプ瑞慶覧^{ずけらん}のフェンスのすぐ内側の地点にあたり、その場所に小さい石碑^{せきひ}を建てて拝所^{はいしよ}としている。

シーサーニー

屋号シーサーニー（シーサー根）：77の屋敷の東角に石のシーサーがあった。シーサーは東向きに立っていて、周りは石積み^{いしづみ}で囲われ^{かこ}ていた。シーサーの高さは1mぐらいで、子どもがまたがれるほどの大きさだった。背中はずつづつしていた。マーイシだった。

龕屋

ガンヤー

メーグシクジマの西端にあった。チャタンサンカの人を使う場合にはお金はとらなかった。チャタンヌメヤードゥイ（北谷ヌ前屋取）の人たちは、ここのガン^{かん}を借りていた。話者によると、ガンヤーの鍵^{かぎ}は区長^{かんり}が管理していたようだという。

ガンヤーは、ガンが納まるように幅4mぐらいで、高さは1m50cmぐらいだった。屋根は瓦ぶきだったが、普段はあまり人がこないので草が生えていた。葬式のあるときなどに手入れしていた。

ガンの長さは3m50cmぐらいだった。普段は解体^{かいたい}してガンヤーに納めてあり、葬式のあるときに喪家^{そうか}に持って行って組み立てる。棺^{ひつぎ}を墓に運んだあとは、墓でそのまま再び解体し、ガンヤーに納めた。このガンは首里^{しゅり}からの払い下げであるという言い伝えがあった。

■エイサー：旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。

■マーイサー：集落の広場などに置いてある大小の堅い、丸い石。青年たちが力試しをする。

■シーチャー：おしくらまんじゅうみたいな遊び。

■カニチグチ：綱引きの中央。雄綱と雌綱をつなぐ場所。

■キャンプ瑞慶覧（キャンプ・フォスター）：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。



◀綱のカヌチ根軸の碑▶

■シーサー：魔除けの獅子像。

■マーイシ：黒色の堅い石。

■ガン：龕。葬式のとき、死者の棺を入れて墓地まで運ぶためのもの。

■ガンヤー：龕を納めておく小屋。

掘込墓



カニマンウファカ

チャタングスク北面の崖^{がけ}にあったフィンチャーバカ。掘り込んだ跡^{あと}のようなものがあり、ウコールが置いてあった。中に骨が見えた。カニマンアンジという人の墓だったとか、チャタングスクの主^{ほん}が葬^{ほうむ}られているという言い伝えがある。

チャタン（北谷）のなかでも、山川門中^{ムンチュー}がカミウシーミーのとき^{おが}に拝^{おが}んでいた。他に伊礼、嘉手納門中も拝^{おが}んでいた。

話者によると、内容はわからないが、何か書かれた碑文^{ひぶん}が建てられていたと言う。

現在は、ヤマガーバルに近いほうに場所を移してある。

■フィンチャーバカ：岩石や堅い土質の斜面に掘られた横穴の墓。

■ウコール：御香炉。線香をたてる炉。

■ムンチュー：門中。父系血縁による一族。主に祖先祭祀を行なう集団。

■カミウシーミー：本家の墓で行なう祖先供養の行事。

その他

バンジュ

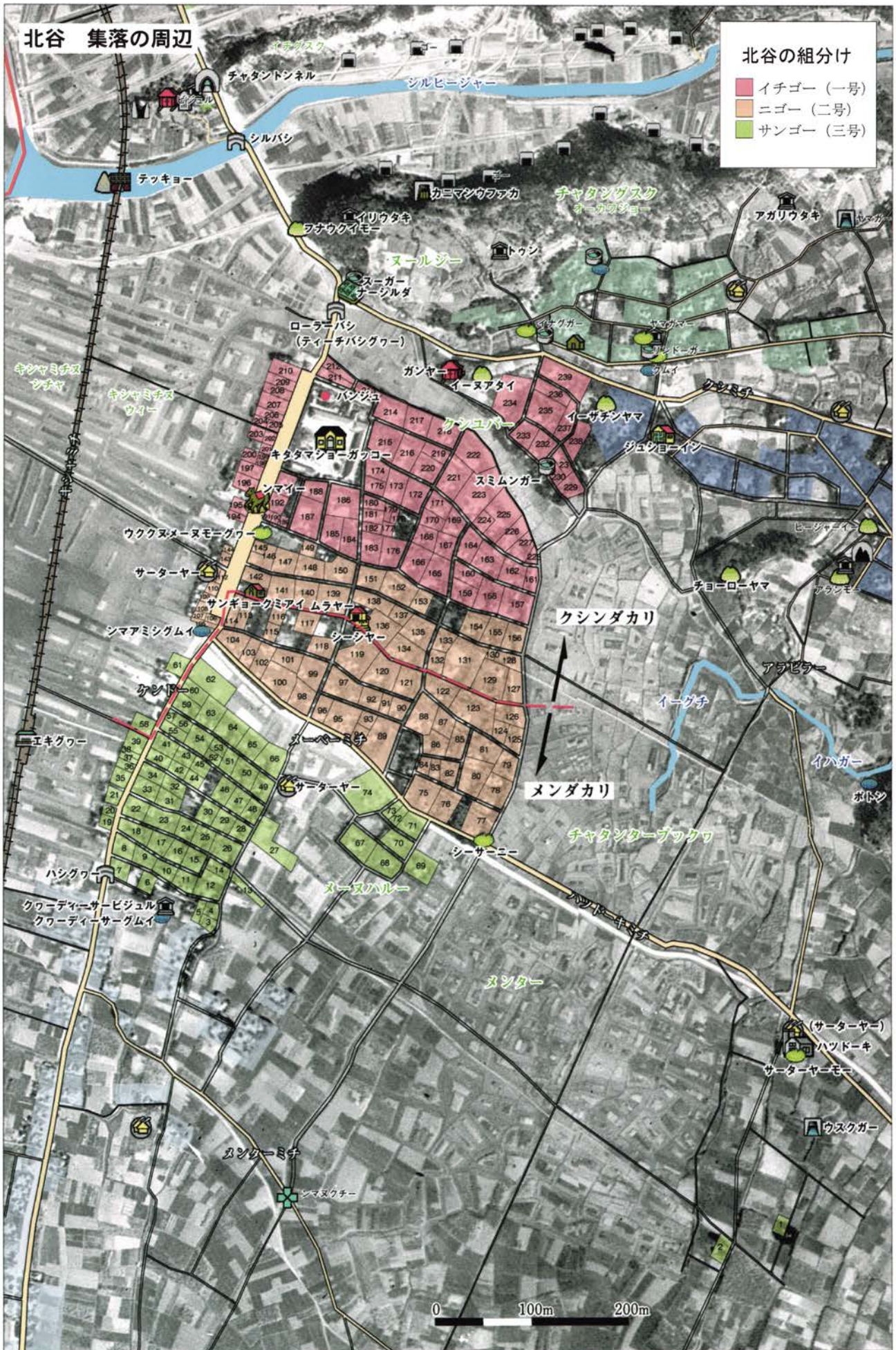
番所。キタタマショーガッコ^{しきち}敷地内にあった。学校の北東角^{つきやま}に築山と池があり、このあたりにバンジュがあったと言う。

キタタマショーガッコからケンドーをはさんで北西に向かい合う屋号マチヤイーマグワー（マチヤ上間小）：210は、かつてはバンジュヌイリーと呼ばれていた。

北谷 集落の周辺

北谷の組分け

- イチゴ一 (一号)
- ニゴ一 (二号)
- サンゴ一 (三号)



玉代勢

タメーシ

タメシ（玉代勢）

チャタングスクの南東側に位置していた集落。北西側はリンドー（伝道）、西側はチャタン（北谷）に隣接していた。戸数76軒で、そのうちカーラヤーは16軒だった。

チャタン（北谷）やリンドー（伝道）とともにチャタンサンカと称される。「チャタン、タメシ、リンドーヤ イーサンカ。ドゥーティーチ。ククル ティーチ。（北谷、玉代勢、伝道は同じ三箇。体1つ。心1つ。）」と表現する。ほとんどの行事を、この3集落合同で行なっていた。なかでも、寅年^{とら}に行なわれるウーンナが有名である。

イチャバルヤードゥイ（板原屋取）、ヤジヤードゥイ（屋宜屋取）、ナケーマヤードゥイ（仲山屋取）を含めて、字玉代勢^{あざ}を形成していた。そのなかでも、集落の東側に隣接していたイチャバルヤードゥイ（板原屋取）は、タメシ（玉代勢）と関わりが深く、運動会や向上会^{こうじょうかい}などを一緒に行なっていた。

集落の真ん中を走る道、屋号メーウフグスク（前大城）：31から屋号アラカチグワー（新垣小）：49までの道^{さかい}を境にしてイーダカリとシチャダカリに分けられていた。これは、ワラビジナ^{わらびじな}のときの組分けである。また、サーターグミも2つあり、血縁関係^{けつえんかんけい}でイーグミとシチャグミに分かれていた。ニングワチャーのときの組分けでもある。

集落の西側、クシミチの南側をムラウチと言う。ムラウチの北東側、クシミチの北側はクシヌヤードゥイグワーと言う。

主業は農業で、芋やサトウキビなどを作っていた。ユビダーやチヤギーも多くあり、米も作っていた。

井戸は各家にあった。屋号ナカマ（仲間）：5には、レンガ造りの水タンクがあった。集落の東端には、タメシ（玉代勢）のンブガーであるチブガー^{がんだん}があった。元旦のワカミジはチブガーから汲んでいた。

共同のサーターヤーが、ムラヤーの北側に2か所あった。東側がイーグミ、西側がシチャグミのサーターヤーであった。個人のサーターヤーも1か所あり、屋号ハナウチ（花打）のものであった。

集落の西端に、北谷長老^{ちやたんちやうろう}ゆかりのジュショーインという寺があった。チャタンサンカの人たち^{だんか}が檀家である。エイサーやシーシモラシなどは、ジュショーインで奉納舞踊^{ほうのうぶよう}をしてから出発していた。

ジュショーインの南東側には、北谷長老^{ちやたんちやうろう}が葬られた^{ほうむ}チョーローヤマがあった。旧暦9月15日には、北谷村^{ちやたんそん}の三大祭りの1つである長老祭^{ちやうろうさい}が行なわれる。

メーグスクジマのところにガンヤーがあった。チャタンサンカで



《聞き取り調査風景》

■カーラヤー：瓦ぶきの家。

■ウーンナ：大綱引き。

■向上会：集落の産業を向上させるための会。優秀な人には賞状や商品が与えられた。現在の産業まつりのようなもの。

■ワラビジナ：子どもたちによる綱引き。

■サーターグミ：製糖の作業をする組。

■ニングワチャー：旧暦2月に行なわれる行事。集落や組単位で酒宴を開き、余興をして楽しむ。

■ユビダー：底なし田。深田。

■チヤギー：田んぼの真ん中に盛り土をして畑としたもの。

■ンブガー：産湯に使う水を汲む井戸。

■ワカミジ：元旦に初めて汲む水。

■サーターヤー：製糖小屋。

■ムラヤー：集落の集会所。

■北谷長老：沖縄に初めて臨済宗妙心寺派を伝えたと言われる僧。玉代勢の出身で、俗に北谷長老と呼ばれた。

■エイサー：旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。

■シーシモラシ：獅子舞。

■北谷村の三大祭り：①北谷長老祭 ②海神祭 ③野国総官祭

■ガンヤー：籠を納めておく小屋。

利用していた。話者によると、このガン（コーとも言う）は、ウドゥンからいただいたものだという言い伝えがあったと言う。ガンは4人で担ぎ、さらに荷物持ちの1人がついた。墓までの道順は特に決まっていなかった。ガンが家の前を通るときには、門の前にカラフェーを置いた。墓から戻ってきたら、トートーメーの前で2尺（60cm）ぐらいの棒に板をつけたものを振る。カンカンブーと音が鳴る。「ウネウネ、クネクネ」と唱えながら、臼に置いたまな板と包丁を蹴飛ばし、7回まわって、塩をまいた。

結婚式のときのいたずらとして、ミームークを棒に乗せ、顔に鍋の煤を塗りつけた。なお、チャタンサンカ内の結婚には、ンマディマは必要なかった。

【集落で行なわれる主な年中行事】

●旧暦2月2～3日<ニングワチャー（クシユクワシ）>：サータグミであるイーグミとシチャグミの2つに分かれて行なわれる。イチャバルヤードゥイ（板原屋取）も一緒だった。初日は集落の入口5か所に、しめ縄と肉を吊り下げて、フーチゲーションを行なった。アランモーのトゥーティークーを拝む。豚1頭を2世帯で半分にし、シシジュシーなどのごちそうを作った。男性は豆腐3丁を持ち寄ったが、女性が持ってくるものは特になかった。集まる場所は、輪番制で大きな家があてられていた。

●旧暦6月25日<ワラビジナ>13～14歳以下の子どもたちが参加する綱引きで、毎年行なわれていた。

●<ウーンナ>：寅年にはチャタンサンカ合同でウーンナが行なわれる。昼に行なう大綱引きで、300年の歴史があると言う。戦争で中断したものの、戦後、昭和49（1974）年に復活し、その後も昭和61（1986）年、平成10（1998）年の寅年に行なわれている。

●旧暦7月15～16日<盆>：エイサーは、ジュショーインに集まってから始めた。チャタン（北谷）とリンドー（伝道）も、それぞれジュショーインに集まって奉納舞踊をしていた。シチャンダカリからイーンダカリへと各家をまわり、酒を2合ずつもらっていた。

集落域は米軍に接収され、現在の県道130号線の南側、キャンプ瑞慶覧内である。そのため地形は変化し、人々も他集落へ分散して暮らしている。しかし、郷友会を中心に、諸行事を行なっている団結の強い集落である。米軍基地内ではあるものの、チョーローヤマでは毎年長老祭が行なわれている。また、平成16（2004）年には、チブガーが復元され、同年に北谷町指定文化財の1つとなった。

■ガン：龕。葬式のとて、死者の棺を入れて墓地まで運ぶためのもの。

■ウドゥン：王子、按司（位階名）の家敬称。

■カラフェー：灰。

■トートーメー：祖先の位牌。

■ミームーク：新郎。

■ンマディマ：他集落から嫁をもらう婿が、女性の集落の青年たちに出す酒代。

■ニングワチャー：旧暦2月に行なわれる行事。集落や組単位で酒宴を開き、余興をして楽しむ。

■サータグミ：製糖の作業をする組。

■フーチゲーション：悪疫を防ぐためのまじないの行事。

■トゥーティークー：土帝君。中国起源の土地関係の神。沖縄本島では農業の神とされる。

■シシジュシー：肉を入れた炊き込み御飯。

■ワラビジナ：子どもたちによる綱引き。

■ウーンナ：大綱引き。

■エイサー：旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。

■キャンプ瑞慶覧（キャンプ・フォスター）：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。

■北谷町指定文化財：平成16（2004）年3月26日に①ハマガーウガン ②アガリウタキ ③トゥン ④チブガーの4か所が指定された。

玉代勢の家の配置
(数字は屋号番号)

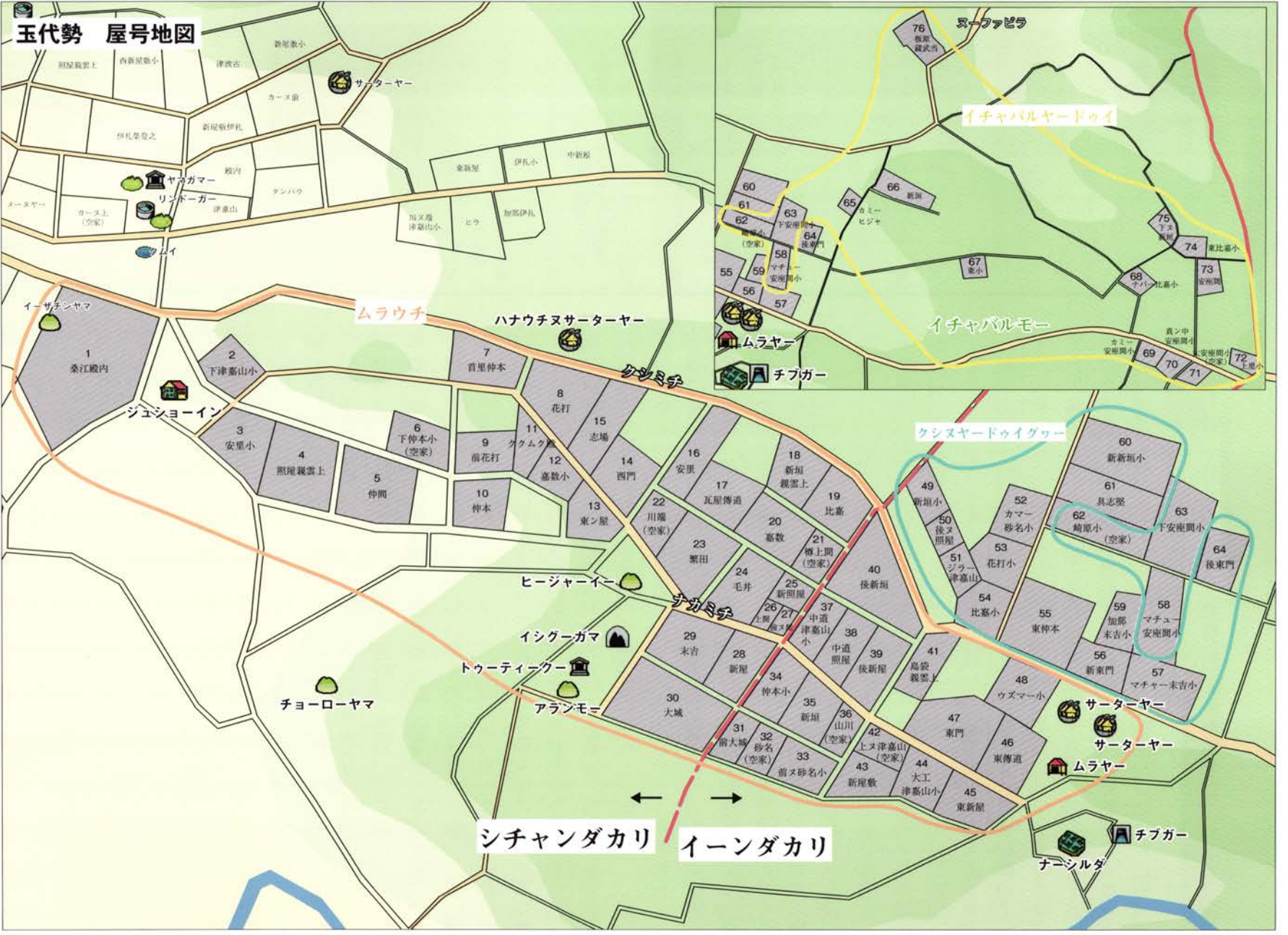
+++++
鐵道

河川

道路

緑の文字

地域の名称
(小さい文字は他の集落の呼び名)



タメーシ（玉代勢）

村渠

イーダカリ

上村渠。集落の組分けの1つ。ワラビジナ^{ワラビジナ}のときに、屋号メーウフグスク（前大城）：31 から屋号アラカチグワー（新垣小）：49 までの道を境^{さかい}にして分けていた。道から東側がイーダカリである。

シチャンダカリ

下村渠。集落の組分けの1つ。ワラビジナ^{ワラビジナ}のときに、屋号メーウフグスク（前大城）：31 から屋号アラカチグワー（新垣小）：49 までの道を境^{さかい}にして分けていた。道から西側がシチャンダカリである。

砂糖組

イーグミ

上組。サーターグミの1つで25軒あった。ニングワチャー^{ニングワチャー}のときの組分けでもある。

シチャグミ

下組。サーターグミの1つで26軒あった。ニングワチャー^{ニングワチャー}のときの組分けでもある。

小集落

ムラウチ

村内。集落の西側、クシミチ^{クシミチ}の南側一帯を言う。

クシヌヤードウイグワー

後ヌ屋取小。クシヤードウイグワーとも言う。ムラウチ^{ムラウチ}の北東側で、クシミチ^{クシミチ}より北側一帯を言う。

イチャバルヤードウイ

板原屋取。タメーシ（玉代勢）の東側一帯に広がっていた屋取集落^{ヤードウイ}。戸数14軒の小さな集落だった。タメーシ（玉代勢）と一緒に運動会や向上会^{こうじょうかい}などを行っていた。しかし、綱引きは別で、ガン^{ガン}を利用することもなかった。

社会的区分・その他

チャタンサンカ

北谷三箇。チャタン（北谷）、タメーシ（玉代勢）、リンドー（伝道）の3集落のことを言う。「チャタン、タメーシ、リンドーヤ

■ワラビジナ：子どもたちによる綱引き。

■サーターグミ：製糖の作業をする組。

■ニングワチャー：旧暦2月に行なわれる行事。集落や組単位で酒宴を開き、余興をして楽しむ。



◀聞き取り調査風景▶

■向上会：集落の産業を向上させるための会。優秀な人には賞状や賞品が与えられた。現在の産業まつりのようなもの。

■ガン：籠。葬式^{葬式}のとき、死者の棺を入れて墓地まで運ぶためのもの。

イーサンカ。ドゥー ティーチ。ククル ティーチ。(北谷、玉代勢、伝道は同じ三箇。体1つ。心1つ。)」と表現した。ほとんどの行事をこの3集落一緒に行っていた。なかでも、寅年に行なわれるウーナが有名である。行事のときには、ナナクミワイといって、集落の規模に合わせてチャタン(北谷)4、タメーシ(玉代勢)2、リンドー(伝道)1の割合で費用を分担していた。ジュショーインもチャタンサンカで運営していた。ガンも共有していた。

集落

イシンダヤードゥイ

石平屋取。タメーシ(玉代勢)集落の東南方向、北谷町域の南端に位置した屋取集落。戸数も少なく、小さな集落だった。タメーシ(玉代勢)と交流があり、嫁取りもあった。

田んぼはなく、畑地で、農作物はサトウキビを作っていた。山があり、松が多く生えていた。松葉を取りに行くこともあった。

現在のリージョンクラブのところがイシンダヤードゥイ(石平屋取)の中心地だった。

河川

イーグチガーラ

チブガーからの水が流れとなり、チャタンターブックワへと流れ込んで行く川。

→北谷のチャタンターブックワを見よ。

ウティガー

イーグチガーラの上流を言う。

シルヒージャー

チャタンガーラとも言う。チャタングスクの北側を流れる川。喜舎場、屋宜原の方から流れてきていた。

現在の白比川のことである。

→北谷、伝道のチャタングスクを見よ。

丘陵

イチャバルモー

イチャバルヤードゥイ(板原屋取)の屋号カミーアジャマグワー(カミー安座間小):69の西方向に行ったところにあった。ソテツが生えていた。モーアシビをする場所だった。マジムンがいたと言う。



《ウーナ・ミルク(弥勒)》

■ウーナ：大綱引き。

■ガン：籠。葬式の時、死者の棺を入れて墓地まで運ぶためのもの。



《聞き取り調査風景》

■モーアシビ：農村で夜、若い男女が野原に出て遊ぶこと。三味線・歌・踊りなどをして楽しむ。

■マジムン：魔物。化物。精。

谷間

タマタ

集落の北方向に行ったところにあった。アカギが生えており、現在でも残っている。タマタの下にはナービグムイがあった。

小ハル名

グゾーンマイー

イチャバルヤードゥイ（板原屋取）の南側にあった平坦地。大きな広っぱだった。名前の由来は不明。

村道

イシンダミチ

石平道。馬車がすれ違いできるほどの道幅があった。嘉手納方面へサトウキビを運ぶのに便利な馬車道だった。コーラルで舗装され、ローラーで敷き均されていた。

話者によると、1日35銭の賃金で補修作業が行なわれていたが、タメシ（玉代勢）集落の人たちは補修作業はしていないと言う。終戦直後まで道は残っていた。

クシミチ

ケンドーから屋号マチャーシーシグワー（マチャー末吉小）:57あたりまでの範囲を言う。話者によると、その先からはイチャバルミチと呼ぶかもしれないと言う。

クシミチの補修工事はタメシ（玉代勢）集落の人たちで行ない、その作業に出ないと罰金となった。

馬車道

ナカミチ

集落の真ん中を東西に走る道で、ムラヤーからヒージャーイーまでの範囲を言う。荷馬車が通れるぐらいで、6尺（1.8m）以上の道幅があった。

ワラビジナをする場所でもあった。

坂道

アラビラー

急な坂道だったので、馬車は通れなかった。道幅は9尺（2.7m）ぐらいだった。チャタン（北谷）へと続く道。



◀聞き取り調査風景▶

■コーラル：サンゴの死骸が小石や砂利になったもの。

■ワラビジナ：子どもたちによる綱引き。

洞窟



イシグーガマ

屋号ウフグスク（大城）：30の北西側にあったガマ。道の補修工事に使うイシグーを取るところだった。

丘



チョーローヤマ

長老山。集落の南側の山。タメーシ（玉代勢）出身で、沖縄にはじめて臨済宗妙心寺派を伝えたと言われる僧（南陽紹弘禅師）がおり、俗に北谷長老と呼ばれていた。その僧をはじめとして、ジュショーインの住職を葬ったところだと言われている。このチョーローヤマでは、旧暦9月15日に長老祭が行なわれていた。北谷村が行なう三大祭りの1つである。

現在、チョーローヤマはキャンプ瑞慶覧内となっており、長老祭は基地内で行なわれている。チョーローヤマ入口の石碑や階段は、戦前のままである。また、チャタン（北谷）やリンドー（伝道）の合祀所もある。米軍から立ち入り許可を得て、拝みに行っている。タメーシ（玉代勢）のチブガーのウコールも、戦後の一時期はチョーローヤマに遷座してあったが、現在は元の場所に返されている。

ヒージャーイー

屋号ハンタ（繁田）：23の西側にあった。上の方にヒージャーの水口が2つあった。

平坦地で、遊び場所だった。ガジマルや大人が4～5人で抱えるほどのヒラマーチューがあった。中は空洞の老木だった。

ヒージャーイーにはマイサーが置かれていたが、後にムラヤーに移された。

アランモー

屋号ウフグスク（大城）：30の西側にあった。アラニモー、クガニモーとも言う。トゥーティーカーが祀られていた。

フナウクイをする場所でもあり、読谷村残波岬のあたりまで船を見送ることができた。

池沼



ナービグムイ

タマタのところにあったクムイ。木が鬱蒼としていて怖いところだった。マジムンがいると言われていた。

軽便鉄道の用水補給にも利用された。現在もコンクリートで堰き

■ガマ：洞窟。ほら穴。

■イシグー：さんご礁などを砕いた細かい砂利。



＜長老山＞

■北谷村の三大祭り：①北谷長老祭 ②海神祭 ③野国総官祭

■キャンプ瑞慶覧（キャンプ・フォスター）：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。

■ウコール：御香炉。線香を立てる炉。

■ヒージャー：樋川。

■ヒラマーチュー：平松。

■マイサー：集落の広場などに置いてある大小の堅い、丸い石。青年たちが力試しをする。

■ムラヤー：集落の集会所。

■トゥーティーカー：土帝君。中国起源の土地関係の神。沖縄本島では農業の神とされる。

■フナウクイ：見はらしのいい場所から、旅に出る人の安全を願い、船を見送ること。

■クムイ：池。沼。

■マジムン：魔物。化物。精。

止めた跡が残っている。

湧水井戸



チブガー

集落の東側にあり、ンブガーであった。ヒージャガーで、水が落ちるようになっていた。ニープやターグなどで水を汲んでいた。元旦のワカミジや毎日のお茶水もチブガーから汲んでいた。お茶水以外の雑用水は、各家の井戸から汲んでいた。また、洗濯をするための足場用の板が2枚浮いていた。ディージと言う。板の材質はリュウキュウマツで、サーターヤーで利用し終わったものを再利用していた。ハーイのときでも水が涸れることはなかった。話者によると、大ウナギ（鰻）もいたと言う。

チブガーの側にはウコールがあった。そのウコールは、戦後、一時期チョーローヤマに移されていた。

戦後は米軍に接收され、その後、県道130号線の工事による石の崩落によって、チブガーは埋没してしまっていた。いまだ、キャンプ瑞慶覧内ではあるものの、米軍の文化財保護政策の一環として、平成16(2004)年に復元され、記念式典も行なわれた。戦前のチブガーを知る人たちによると、元の姿と変わらないと言う。違う点は、洗濯足場用の板に脚をつけたことと、ウコールを置いていた場所が少し違うことだと言う。ウコールは、現在の県道130号線となっているところにあったため、今回、チブガーの側に復元された。

平成16(2004)年に北谷町指定文化財となった。

停車場



エキグワー

県営鉄道嘉手納線の北谷停車場。ノリバとも言う。無人駅。那覇や嘉手納へ行くときに利用していた。昭和17～18(1942～43)年頃、那覇へ行くには片道16銭かかった。

→北谷のエキグワーを見よ。

製糖小屋



サーターヤー

共同製糖小屋。2か所あったうちの1つ。イーグミのサーターヤー。集落の東端にあり、シチャグミのサーターヤーの東隣で、一段高いところに位置していた。25軒で共同利用していた。

サーターヤー

共同製糖小屋。2か所あったうちの1つ。シチャグミのサーター

- ンブガー：産湯に使う水を汲む井戸。
- ヒージャガー：樋川の井戸。
- ニープ：柄杓。
- ターグ：桶。
- ワカミジ：元旦に初めて汲む水。
- ディージ：台木。
- サーターヤー：製糖小屋。
- ハーイ：日照り。早魃。

- ウコール：御香炉。線香をたてる炉。

- キャンプ瑞慶覧（キャンプ・フォスター）：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。



《チブガーとウコール》

- 北谷町指定文化財：平成16(2004)年3月26日に①ハマガーウガン ②アグリウタキ ③タウン ④チブガーの4か所が指定された。

- 沖縄県営鉄道 嘉手納線：嘉手納・野国・平安山・桑江・北谷・大山・真志喜・大謝名・牧港・城間・内間・安里・与儀・古波蔵・那覇の15駅があった。



《聞き取り調査風景》

ヤー。集落の東端にあり、屋号ウズマーグワー（ウズマー小）：48とイーグミのサーターヤーの間にあった。イーグミのサーターヤーより、一段低いところに位置していた。26軒で共同利用していた。

ハナウチヌサーターヤー

製糖小屋。屋号ハナウチ（花打）：8の個人所有。屋敷の南側にあった。

田

ナーシルダ

チブガーのあたりは、全部ナーシルダだった。

拝所

トゥーティークー

アランモーに祀られていた。トゥーティークーはニービ石だった。4人で担ぐほどの大きな石で、ニングワチャーのときに拝んでいた。

寺

ジュショーイン

樹昌院。集落の西端、屋号クエードウンチ（桑江殿内）：1の東側にあった。セメント瓦で、きれいな寺だった。

チャタン（北谷）、タメーシ（玉代勢）、リンドー（伝道）のチャタンサンカのエイサーは、ジュショーインに集まり、奉納舞踊を行なってから、集落の各家を回っていた。

集会所

ムラヤー

集落の東端、屋号アガリリンドー（東傳道）：46の東側にあった。

もともとはヒージャーイーにあったマイサーが、ムラヤーに移されてきていた。そのマイサーには臍みたいな窪みがあった。マイサーは、戦前で無くなっていた。

ムラヤーの東側には、チブガーから水を汲んだ帰りにひと休みする場所があった。

龕屋

ガンヤー

集落の西方向、メーグシクジマのところにあった。ガンは、チャタンサンカの人たちで共同利用していた。話者によると、イチャバルヤードゥイ（板原屋取）の人たちは利用しなかったと言う。



《聞き取り調査風景》

■ナーシルダ：苗代田。

■トゥーティークー：土帝君。中国起源の土地関係の神。沖縄本島では農業の神とされる。

■ニービ石：砂岩の堅い石。

■ニングワチャー：旧暦2月に行なわれる行事。集落や組単位で酒宴を開き、余興をして楽しむ。

■エイサー：旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。

■ムラヤー：集落の集会所。

■マイサー：集落の広場などに置いてある大小の堅い、丸い石。青年たちが力試しをする。

■ガンヤー：龕を納めておく小屋。

■ガン：龕。葬式の時、死者の棺を入れて墓地まで運ぶためのもの。

ガンヤーの屋根の^{こうばい}勾配はゆるやかだった。ガンヤーに行くのは、葬式があってガンを取り出すときだけなので、普段は手入れすることはなく、草が生えていた。

→北谷のメーグシクジマを見よ。

- ガンヤー：竈を納めておく小屋。
- ガン：竈。葬式のとき、死者の棺を入れて墓地まで運ぶためのもの。

～ 復元されたチブガー ～



玉代勢 集落の周辺



伝道

リンドー

リンドー（伝道）

チャタングスク南側の麓^{ふもと}にある集落。戸数25軒で、そのうちカーラヤーが5軒あった。

チャタン（北谷）やタメーシ（玉代勢）とともにチャタンサンカ^{しやう}と称される。ほとんどの行事を、この3集落合同で行なっていた。

ジャーガルヤードウイ（謝苺屋取）、トーバルヤードウイ（桃原屋取）、サチジョーヤードウイ（崎門屋取）を含めて、字伝道^{あざ}を形成していた。

集落を南北に走る道によって、イーндаカリとシチャндаカリに組分けされていた。道から東側をイーндаカリ、またはアガリндаカリと言ひ、西側をシチャндаカリ、またはイリндаカリと言っていた。ワラビジナ^{イモ}のときだけの組分けであった。

主業は農業で、芋^{イモ}やサトウキビを作っていた。フィリピンやペルーなど、南洋へ出稼ぎ^{なんよう でかせ}に行っていた人も多かった。マチヤが1軒もなかったので、日用雑貨などはチャタン（北谷）へ買いに行っていた。

個人で井戸があったのは屋号ウフヤー：12の1軒だけで、その他の人はチンガー、リンドーガー、ヤマガーなどを利用していた。

サーターヤーは、屋号ミーヤシチグワー（新屋敷小）：25の南側に共同のものが1か所あった。サーターグルマがあり、馬で引いていた。馬は持っている人に借りて、イーマール^{マツ}で返していた。松やサトウキビの絞り^{しぼ}かす^ほを干したものを燃料^{ねんりやう}にしており、さらに強い火力が必要^{かま}なときには石炭を少し混ぜていた。製糖期が終わると、窯^{かま}はそのままにしておいたが、サーターグルマははずして、横に倒して置いた。サーターグルマの軸木^{じくぎ}は、屋号イーバシガー：17の東南にあるクムイ^つに漬けた。サーターヤーで処理できなかった分は、荷馬車に乗せ、ケンドー^{とお}を通り、嘉手納^{かてな}の製糖工場へ持って行った。工場から委託^{いたく}を受けて、屋号メーヌヤーがサトウキビ^{うんぼん}運搬の順番^{しゅっか}や出荷の日^{しゅっか}にちななどを決めていた。また、チャタン（北谷）にハツドーキ^{しゅっか}があったが、リンドー（伝道）の人たちが使うことはなかった。

拝所^{はいしよ}は、集落のほぼ真ん中にヤマガマーと呼ばれる拝所^{おが}があった。ニングワチャーのとき^{おが}に拝^{おが}んでいた。リンドー（伝道）^{はっしやう}発祥^{はっしやう}の地だと言われている。

ガンヤーはメーグスクジマグワーのところにあり、チャタンサンカで利用していた。ガンの材質はチャーギ（イヌマキ）で、坊さんの絵が描かれていた。ガンをガンヤー^{そうか}から喪家^{そうか}まで持って行き、そこで組み立てて、棺^{りつぎ}を入れる。墓^{かづ}まで4名で担^{かづ}いで行った。墓でガンを解体^{かいたい}して、ガンヤー^{おさ}に持って行って納^{おさ}める。リンドー（伝道）の人たちの墓はほとんどヤマガマーバルにあった。

ガヤモーは、チャタングスクの中にあるグスクバルや、シルヒー

■カーラヤー：瓦ぶきの家。



《聞き取り調査風景》

■ワラビジナ：子どもたちによる綱引き。

■マチヤ：店。

■サーターヤー：製糖小屋。

■サーターグルマ：サトウキビを圧搾する装置。

■イーマール：順番に労力交換を行なうこと。

■クムイ：池。沼。

■嘉手納製糖工場：沖縄製糖株式会社の嘉手納工場のこと。明治45（1912）年創業。

■ニングワチャー：旧暦2月に行なわれる行事。集落や組単位で酒宴を開き、余興をして楽しむ。

■ガンヤー：籠を納めておく小屋。

■ガン：籠。葬式のとき、死者の棺を入れて墓地まで運ぶためのもの。

■ガヤモー：屋根を葺くのに使う茅を生やしていた野原。

ジャーの川べりなどにあった。いずれも個人所有であった。

学校は、ジキランミチからケンドーへ出て、キタタマショーガッコへ通学していた。

ナケーマヤードウイ（仲山屋取）の人とは婚姻を結ぶことがあった。

【集落で行なわれる主な年中行事】

●旧暦2月2～3日<ニングワチャー（クスツクィー）>：ヤマガマーを拝んだあと、ごちそうを食べ、三味線を弾いたり、踊ったりして遊んだ。毎年持ち回りで、大きい家を借りて行なわれていた。男女一緒に参加した。話者によれば、昔は青年と年寄り組に分かれていたらしい。会費はみんなから徴収しており、15歳以上からは全額徴収であった。

●旧暦6月25日<ワラビジナ>：豊年祝い。子どもだけでやる綱引きのこと。集落を南北に走る道を境にして、イーダカリとシチャンダカリに分かれて行なわれた。夜に行なうので、大人たちは松明を持って応援する。子どもは昼からチナウチをしていた。

●<ウーンナ>：寅年にはチャタンサンカ合同でウーンナが行なわれる。昼に行なう大綱引きで、300年の歴史があると言う。戦争で中断したものの、戦後、昭和49（1974）年に復活し、その後も昭和61（1986）年、平成10（1998）年の寅年に行なわれている。

●旧暦7月<エイサー>：忌中の家以外、全部の家を回る。ごちそうを食べながら、酒をもらい、その酒を飲みながら回っていた。余った酒は売って、費用にあてた。チャタン（北谷）の屋号ヌンドウルチとジュショーインの2か所には必ず行って、奉納舞踊をしていた。奉納舞踊はチャタン（北谷）とタメーシ（玉代勢）もそれぞれ行なっていた。

●旧暦8月<シマクサラシ>：魔よけ。病気や災害が入ってくるのを防ぐための行事。集落の入口6か所に、馬車が通るぐらいの高さで竹を2本立て、そこにしめ縄を張り、真ん中に豚肉をつるした。また、豚の血はナカミチに置いておき、各自でギキチャー（ゲッキツ）で豚の血を家の四隅につけた。

集落域は米軍に接収され、キャンプ瑞慶覧内である。米軍のエンジニア部隊がいた。現在も米軍の倉庫が立ち並んでいる。県道130号線の北側で、米軍消防署の西側あたりとなる。そのため、人々は他集落へ分散して暮らしている。

■北玉尋常高等小学校：北谷尋常高等小学校の分教場であった。大正3（1914）年に北玉尋常小学校として開校し、大正6（1917）年に高等科を設けて北玉尋常高等小学校となった。

■ニングワチャー：旧暦2月に行なわれる行事。集落や組単位で酒宴を開き、余興をして楽しむ。

■ワラビジナ：子どもたちによる綱引き。

■チナウチ：綱引きの綱を綯うこと。

■ウーンナ：大綱引き。

■エイサー：旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。

■シマクサラシ：集落に悪疫が入ってくるのを防ぐための行事。

■キャンプ瑞慶覧（キャンプ・フォスター）：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。

伝道 屋号地図

伝道の家の配置
(数字は屋号番号)

+++++
鉄道

河川

道路

緑の文字

地域の名称
(小さい文字は
他の集落の呼び名)



リンドー（伝道）

村渠

イーンダカリ

集落の組分けの1つ。ワラビジナのとときに、集落を南北に走る屋号メヌヤー：11から屋号ティラペーチン（照屋親雲上）：19までの道を境にして分けていた。道から東側がイーンダカリ、またはアガリンダカリとも言っていた。綱引きに使う綱はカーニーモーで綱なっていた。

シチャンダカリ

集落の組分けの1つ。ワラビジナのとときに、集落を南北に走る屋号イーバシガー：17から屋号ウフヤー：12までの道を境にして分けていた。道から西側がシチャンダカリ、またはイリンダカリとも言っていた。綱引きに使う綱はモーグワーヌメーで綱なっていた。

社会的区分・その他

チャタンサンカ

北谷三箇。チャタン（北谷）、タメーシ（玉代勢）、リンドー（伝道）の3集落のことを言う。ほとんどの行事をこの3集落一緒に行なっていた。行事のときには、ナナクミワイといて、チャタン（北谷）4、タメーシ（玉代勢）2、リンドー（伝道）1の割合で費用を分担ようぶんたんしていた。

ジュショーインの檀家だんかである。

集落

ジャーガルヤードゥイ

謝苜屋取。リンドー（伝道）の北東方向の集落。ジャーガルミチを境にして、東側は字伝道、西側は字桑江あざに属していた。

リンドー（伝道）からジャーガルヤードゥイ（謝苜屋取）へ行くには、シガイピラとおを通り、シガイガーラこを越えて、チヌマタバルとおを通って行った。

現在の県道24号線沿いにある集落である。

河川

シルヒージャー

白比川。集落の北、チャタングスクこを越えたところを流れていた川。チャタンガーラとも言う。タマタから下流のことをシルヒージャーと言う。

■ワラビジナ：子どもたちによる綱引き。



◀聞き取り調査風景▶

シルヒージャーの流れの中、ナービグムイの下あたりに岩があり、そこは子どもの遊び場所で、泳いで岩まで行っていた。岩はそんなに高くなく、子どもが2～3名のぼって遊ぶことができた。その岩の周囲の深さは1m50cmぐらいだった。

シガイガーラ

シルヒージャーの一部を言う。ナービグムイを含んだ下流がシルヒージャーで、上流をシガイガーラと言う。タマタからシガイピラあたりの100mぐらいの範囲をシガイガーラと言う。

アラカー

新川。現在の^{おきなわし}沖繩市にある「沖繩子どもの国」あたりから、^{しまぶくろ}島袋を伝って、^{きゅうよう}県立球陽高等学校の裏側を流れてくる川。

アラカーと、^{きしやば}喜舎場方面から流れてくる^{ごうりゅう}シリンカーが合流するところをタマタと言い、そこから下流のことはシルヒージャーと言う。

シリンカー

^{ずけらん}瑞慶覧方面から流れてくる川。

シリンカーと^{しまぶくろ}島袋方面から流れてくる^{ごうりゅう}アラカーが合流するところをタマタと言い、そこから下流をシルヒージャーと言う。

丘陵

チャタングスク

北谷城。オーカワジョー（大川城）とも言う。屋号イーバシガー：17のすぐ上はチャタングスクとなっていた。屋号ナガタイ（長田井）：14の側から、^{そば}チャタングスクへのぼる道があった。その道の名前は特になかった。

大正14（1925）年生まれの話者が子どもの頃には、^{ほんでん}東側の本殿はなくなっており、^{じょうへき}城壁の石は^{つく}ケンドーを造るために使用されたと言う。

話者によると、夏休みなどには草刈りのため、チャタングスクによく行っていたと言う。チャタングスク内では、草刈りはしてもいいが、木の枝を切ったりしてはいけないと言われていた。

個人所有のガヤモーもあった。

シルヒージャー沿いにはゴーがあった。

現在の国道58号線と^{ごうりゅう}県道130号線の合流地点のところにある丘陵がチャタングスクである。チャタングスク内にある「アガリウタキ」と「トゥン」は、平成16（2004）年に北谷町指定文化財と



《チャタングスク》

- グスクやウタキなどの聖域とされる場所では、木を切ったり、石を持ってきてはいけないとする風習が沖縄全域で見られる。
- ガヤモー：屋根を葺くのに使う茅を生やしていた野原。

なった。

→北谷のチャタングスクを見よ。

イチグスク

チャタントネルが造られた丘陵地帯^{きゅうりょう}。南側は畑地であった。

現在の謝荷入口^{じやーがら}とシルヒージャー^{あいだ}の間あたりであるが、全部住宅地になっており、イチグスクの丘陵は残っていない。

谷間

タマタ

アラカーとシリンカー^{ごうりゅう}が合流するところを言う。タマタから下流をシルヒージャーと言う。

アカギが生えており、そのすぐ下にナービグムイがあった。

現在の北谷造園土木の近くにある。

小ハル名

ウージバル

アガリウージバルとイリウージバルがある。

チヌマタバル

ほとんどリンドー（伝道）の人の山で、草刈り^{たきぎ}や薪取り^{とど}に行っていた。チヌマタバルへ行くには、シガイピラ^{とど}を通り、シルヒージャーを渡^{わた}って行った。シルヒージャーに橋は架かっていたいなかったが、浅いところは、30cmぐらいの深さしかなかったので渡ることができた。

現在の北玉区^{きたたま}公民館がある一帯である。

水田地帯

チャタンターブックウ

チャタンサンカの南側に広がる田んぼ地帯。チョーローヤマあたりから、現在の普天間川^{ふてんまがわ}あたりまでを言う。

ユビダーやチアギーがあった。チアギーは、田を掘^ほって水を通りやすくし、真ん中にその掘^ほった土^もを盛り上げたものである。盛り上げたうえでは野菜などを栽培^{さいばい}していた。

県道

ケンドー

県道。ケンドーを造るときに、チャタングスクの城壁^{じょうへき}の石が使用された。

■北谷町指定文化財：平成16（2004）年3月26日に①ハマガーウガン ②アガリウタキ ③トゥン ④チブガーの4か所が指定された。

■ユビダー：底なし田。深田。

■チアギー：田んぼの真ん中に盛り土をして畑としたもの。

現在の国道58号線のことである。

郡道

ジャーガルミチ【※編注:P199「戦時中の謝苜屋取～桃原屋取」の地図に記載】

現在の県道24号線のことで、謝苜^{じゃーがる}入口から山里^{やまざと}まで行く道を言う。

→謝苜屋取・桑江ヌ前屋取のジャーガルミチを見よ。

村道

ジキランミチ

集落の南側を走る道。

現在の県道130号線のことで、瑞慶覧^{ずけらん}へ行く道。

ミーミチ

昭和10(1935)年頃にできた新しい道なのでミーミチと言う。他にも、イシンダヤードウイ(石平屋取)からチャタン(北谷)へ行く道なのでイシンダミチと言ったり、発動機^{はつどうき}があったので、ハツドーキミチとも言ったりしていた。

→北谷のハツドーキミチを見よ。

生活道

メーミチ

集落の前を東西に走る道で、屋号タンバラ:7や屋号ウフヤー:12の前を通る^{とお}道を言う。リンドーミチとも言う。

ナカミチ

集落の真ん中を東西に走る道で、屋号カーヌメー(カーヌ前):23や屋号イリーチクルン(伊礼築登之):21の前を通る^{とお}道を言う。

クシミチ

集落の後ろを東西に走る道。屋号ミーヤシチイリー(新屋敷伊礼):22から屋号ティラペーチン(照屋親雲上):の前を通る^{とお}道を言う。

坂道

シガイピラ

シガイガーラに行く坂道。リンドー(伝道)からジャーガルヤードウイ(謝苜屋取)へ行くときにも利用していた。ヒラの部分は石畳^{いしだみ}となっていた。馬は通れたが、馬車は通れなかった。薪^{たきぎ}などを運んでいた。シガイガーラ^{わた}を渡るところは石を積んで浅瀬^{あさせ}にしてあつ



◀聞き取り調査風景▶

■ヒラ:坂。

た。

現在も原型げんけいが残っている。

ジャーガルビラ 【※編注：P199「戦時中の謝苺屋取～桃原屋取」の地図に記載】

ジャーガルミチの途中にある坂道。雨が降ったら滑るので、石を敷き詰めて石畳道いしだたみちにしてあった。馬車とこは通れなかった。

ジャーガルビラには、イニンピーが出るという有名な話がある。話者も旧暦8月14～15日の夜にイニンピーを見ようとしたが、見たことがないと言う。

道筋は現在も残っている。

→謝苺屋取のジャーガルビラを見よ。


野原 

エンナーモー

エンナーとも言う。集落の北東方向にあった広場で、チュラガサーにかかった人を隔離かくりしていた場所である。チャタンサンカの人たちが使用していた。山のでっぺんで、風通しがよい場所だった。松林マツだが、鬱蒼うっそうとしているわけではなく、陽が差し込んでいたので怖い場所ではなかった。話者によれば、ガマなどはないが、集落から離れているので、隔離場所にされたのではないかと言う。

エンナーモーの周囲には墓やガヤモーがあった。

現在、米軍消防署から謝苺じゅーがるに向かう道の左側あたりとなる。

池沼 

クムイ

リンドーガーから道をはさんだ南側で、リンドーガーの水が流れ込んでクムイになっていた。深さは50cmぐらいで、深いところでも70～80cmぐらいであった。サーターグルマの軸木じくぎを漬けるクムイであった。軸木は水に漬けておけば、シロアリ（白蟻）が入らず、何年でも使えた。泥沼なので、そこで遊んだりすることはなかった。字有地である。

クムイ

屋号イーバシガー：17の東南側で、チンガーの水が流れ込んでクムイになっていた。水が道に溢あふれないように排水溝はいすいこうがあって、イナグガーの下に流れるようになっていた。字有地である。

ナービグムイ

シガグムイとも言う。タマタのところにあったクムイ。汽車きしゃの水

■イニンピー：ひとだま。死者の遺念が火となって現れるとされるもの。

■チュラガサー：天然痘。疱瘡。

■ガマ：洞窟。ほら穴。

■ガヤモー：屋根を葺くのに使う茅を生やしていた野原。

■米軍消防署：キャンプ瑞慶覧（キャンプ・フォスター）の消防署。県道130号線沿いにある。

■クムイ：池。沼。

■サーターグルマ：サトウキビを圧搾する装置。

■クムイ：池。沼。

を取るために堰き止めてられて、深くなっていた。

現在の北谷造園土木の近くにある。

湧水井戸



ヤマガー

湧き水で、簡単に^{かこ}囲いがされていた。ニープですぐ^く汲めるようになっていた。南側にはナーシルダーがあった。

ウージガー

アガリウージバルとイリウージバルの^{さかい}境にある^わ湧き水。石積み^{いしづ}のカーだった。ウージバルにはウージガーの水を利用した田んぼが少しあった。その近くに、他にも小さい^{いずみ}泉が2つくらいあった。

戦後、全域が米軍^{せんりょうち}の占領地となった北谷村^{ちやたんそん}のなかで、^{じょーがる}謝莉はいち早く^{きょじうきよかちく}居住許可地区になったため、人がたくさん入ってきた。その人たちが、ウージガーを飲料水や生活用水として利用していた。下の方にゴムホースで水を流し、^{せんたくば}洗濯場^{せんたくば}にしていた。ゴムホースを入れて^{はいすい}配水^{はいすい}していたので、戦後はホースガーとも言われるようになった。現在はホースガーの呼び方が一般的になっている。コンクリート^{せいび}で整備^{せいび}されている。

→謝莉屋取のホースガーを見よ。

掘井戸



チンガー

屋号^{やごう}リンドー（伝道）：18の北東側にあった井戸。深さが5尋（7.5 m）ぐらいで、^{かつしやく}滑車^くで汲んでいた。下の方は、井戸から^{あふ}溢れた水で^{しつてい}シッティ^{しつてい}になっていた。

リンドーガー

ヤマガマーの南側にあった井戸。深さが1尋（1.5 m）ぐらいで、ニープで汲んでいた。あまり美味しい水ではなかったが、水量は^{ほう}豊富^{ほう}だった。

ニングワチャーのときに^{おが}拝む^{おが}井戸であった。

スーガー

集落の西、^{ふもと}チャタングスク^おの麓^おにあった井戸。美味しい水だった。ニングワチャーのときに集落で^{おが}拝んで^{おが}いた。ムンチューでも旧暦1月3日に^{おが}拝んで^{おが}いた。

■ニープ：ひしゃく。

■ナーシルダー：苗代田。

■カー：井戸。

■シッティ：沼地。

■ニープ：ひしゃく。

■ニングワチャー：旧暦2月に行なわれる行事。集落や組単位で酒宴を開き、余興をして楽しむ。

■ムンチュー：門中。父系血縁による一族。主に祖先祭祀を行なう集団。

イナグガー

屋号バシガーイリー（バシガー伊礼）：15のところにあった井戸。水はあったが、飲み水としては利用せず、手足を洗うぐらいであった。ニープで汲むことができた。井戸の下の方がシッティになっていたの、そこにターンム（田芋）を植えたりしていた。

昔はチャタングスク配下の井戸で、その周辺には家がなかったの、女官たちが水浴びしたり、洗濯するのに利用していたという言い伝えがある。

集落行事としての拌みはないが、旧家のムンチューで個人的な拌みをしていた。

話者によれば、井戸は米軍に埋められてしまい、現在は残っていないかもしれないと言う。

■ニープ：ひしゃく。

■シッティ：沼地。

■ムンチュー：門中。父系血縁による一族。主に祖先祭祀を行なう集団。

橋



ヌーフアバシ

シリンカーに架かる橋。ナケーマヤードゥイ（仲山屋取）に向かう道の途中にあった。リンドー（伝道）の人たちも、ヌーフアバルに畑を持つ人などが利用していた。

→仲山屋取のヌーフアバシを見よ。

チャタンバシ

シルヒージャーに架かっていたアーチ型の石造りの橋。バスやブルトラーザなどが通れるぐらい頑丈な橋であった。

トンネル



チャタントンネル

イチグスクの丘陵を掘り抜いて造られたトンネル。ケンドーから、トンネルの上ののぼる小道があった。のぼったところは、松林になっていて、その木陰は、人が座れるぐらいの広さがあった。いい遊び場所だった。

坑内の高さは10～20mぐらいで、そんなに高くなかったため、トラックや重機が通れず、日本軍によって昭和19（1944）年頃に壊された。

現在の謝苺入口とシルヒージャーとの間あたりにあった。全部住宅地になっており、イチグスクも残っていない。

→北谷・桑江ヌ前屋取のチャタントンネルを見よ。

停車場

エキグワー

沖縄県営鉄道嘉手納線の北谷駅。話者は通学のため、毎日利用していたと言う。

→北谷のエキグワーを見よ。

■沖縄県営鉄道 嘉手納線：嘉手納・野国・平安山・桑江・北谷・大山・真志喜・大謝名・牧港・城間・内間・安里・与儀・古波蔵・那覇の15駅があった。

学校

キタタマショーガッコウ

北玉尋常高等小学校。バンジュの跡に作られた。

戦時中は日本軍の兵舎となっていたため、生徒たちは各集落のムラヤーや木陰などを利用して勉強していた。

→北谷のキタタマショーガッコウとバンジュを見よ。

■北玉尋常高等小学校：北谷尋常高等小学校の分教場であった。大正3(1914)年に北玉尋常小学校として開校し、大正6(1917)年に高等科を設けて北玉尋常高等小学校となった。

■ムラヤー：集落の集会所。

製糖小屋

サーターヤー

屋号ミーヤシチグワー(新屋敷小)：25の南側にあったサーターヤー。集落の人たちで共同使用していた。サーターグルマがあり、馬で引いて回していた。馬は持っている人に借りて、イーマールで返していた。絞った汁を鍋で煮詰めるために、松やサトウキビの絞りがらを干したものを燃料にしていた。もっと強い火力が必要なときには、石炭を少し混ぜた。製糖期が終わると、サーターグルマははずして、横に倒して置いた。サーターグルマの軸木は、屋号イーバシガー：17の東南にあるクムイに漬けておく。窯はそのまま置いた。サーターヤーで処理できなかった分は、荷馬車に積んで、ケンドーを通り、嘉手納の製糖工場へ持っていった。

エイサーの練習場所でもあった。

■サーターヤー：製糖小屋。

■サーターグルマ：サトウキビを压榨する装置。

■イーマール：順番に労力交換を行なうこと。

■嘉手納製糖工場：沖縄製糖株式会社の嘉手納工場のこと。明治45(1912)年創業。

■エイサー：旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。

拝所

ヤマガマー

拝所。鎮守の森。リンドー(伝道)の発祥の地と言われている。リンドーガーより一段高くなっており、屋号トウンチ(殿内)：9よりも少し上がったところに位置していた。屋号イリーチクルン(伊礼築登之)：21と同じぐらいの高さであった。祭壇があった。話者によると、ヤマガマーという、ガマの名がついているが、ガマについてはわからないと言う。

■ガマ：洞窟。ほら穴。

寺

ジュショーイン

樹昌院。タメーシ(玉代勢)の屋号クエードウンチ(桑江殿内)

の向かいにあった。チャタン（北谷）、タメーシ（玉代勢）、リンドー（伝道）のチャタンサンカが檀家となっている。

広場

モーグワーヌメー

屋号ナガタイ（長田井）：14の東南側にあった広場。4坪ぐらいの広さがあった。ガジマルが1本生えていた。

シチャンダカリはワラビジナに使う綱を、このモーグワーヌメーで綱なっていた。

カーニーモー

リンドーガそばの側にあった小さい広場。5坪ぐらいの広さがあり、ガジマルが生えていた。カーの側そばのモーだから、カーニーモーと言う。

マーイサーを置いてあった。17～8歳なら80斤（48kg）までは持ち上げることができた。100斤（60kg）以上は、相そう当とうの力持ちでないと無理だった。150斤（90kg）のものは転ころがすのがやっとなぐらい重かった。丸い石で、普段は片付けられており、練習する時に前に出してきた。持ち上げる人以外は、その周まわりで応援おうえんしていた。

イーンダカリは、ワラビジナに使う綱を、このカーニーモーで綱なっていた。ガジマルから下げて、3名ぐらいで綱なっていた。

ヤマガマーモー

ヤマガマーの東側にあった広場。ニングワチャーやエイサーの練習をするときなどに集まる場所だった。

龕屋

ガンヤー

集落の西、メーグスクジマグワーのところにあった。チャタンサンカで使用していた。ガンの材質はチャーギ（イヌマキ）で、その周囲には坊さんの絵が描かれていた。喪家そうかでガンを組み立てて、棺ひつぎを入れた。4名かつで担いで墓まで行く。ガンは墓地かいたいで解体して、ガンヤーおさに持って行って納めた。怖こわがりの人は、夜にガンヤーの近くを通るのを避けていた。

リンドー（伝道）の人たちの墓はほとんどヤマガマーバルにあった。
→北谷のメーグスクジマを見よ。

■ワラビジナ：子どもたちによる綱引き。

■カー：井戸。

■モー：原野。野原。原っぱ。

■マーイサー：集落の広場などに置いてある大小の堅い、丸い石。青年たちが力試しをする。

■ワラビジナ：子どもたちによる綱引き。

■ニングワチャー：旧暦2月に行なわれる行事。集落や組単位で酒宴を開き、余興をして楽しむ。

■エイサー：旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。

■ガン：龕。葬式そうじのとき、死者の棺を入れて墓地まで運ぶためのもの。

■ガンヤー：ガンを納めておく小屋。

建物

カーラグラ

屋号ウフヤー：12 の家の前、東側^{かど}の角^{かむら}にあった瓦^{たかくら}ぶきの高倉。米を納めるための倉^{くら}だった。話者によると、瓦は黒っぽく、現在の瓦とは色が違っており、ヤマトガーラでもなかったと言う。また、カーラグラは元々、ウフムラウドウン（大村御殿）のものだったのではないかと言う。

その他

スターケイ 【※編注：P50「現在の北谷一帯」の地図に記載】

チャタングスクとシルヒージャー^{あいた}の間^{せつしやう}にあった。米軍に接收され、ランドリーとなっていたが、2～3年後にはスターケイとなっていた。戦前は水田や畑地であった。

戦時施設

ゴー

特攻隊^{とっこうたい}の舟艇壕^{しやうていごう}。魚雷艇^{ぎょらいてい}が入れるようにしてあり、チャタングスクの下から、シルヒージャーの川べりに向けてトロッコのレールが敷かれていた。壕はチャタングスクに5基^{ごう}ぐらい、シルヒージャーの川べり全体では15基^{ごう}ぐらいあった。

■ヤマトガーラ：日本風の瓦。

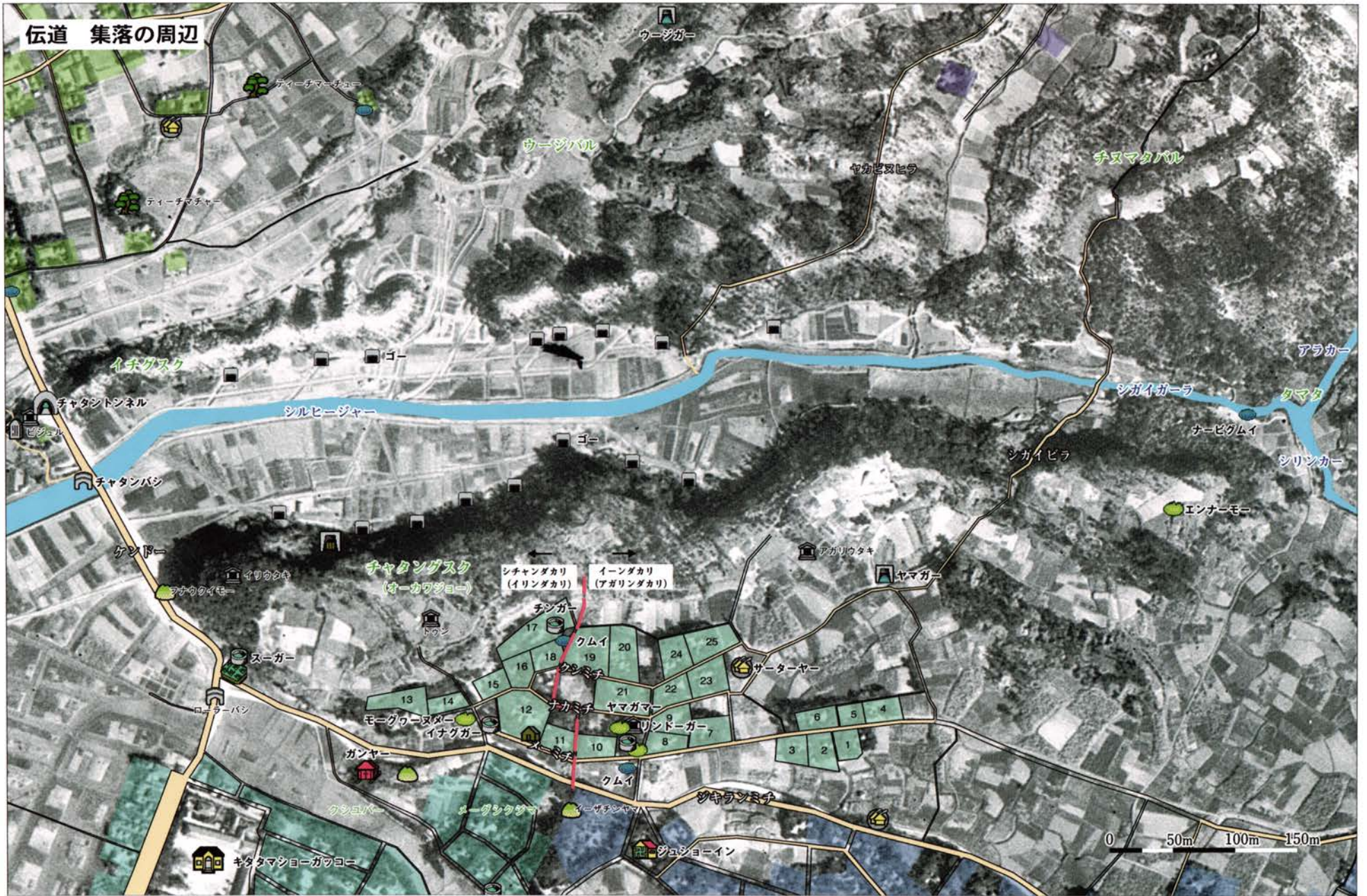
■ウドウン：王子・按司（位階名）の家の敬称。

■ランドリー：米軍のクリーニング施設。

■スターケイ：米軍営倉。

■日本陸軍の海上特攻隊（海上挺身隊）の特攻艇・マルレの秘置壕：昭和20（1945）年3月29日深夜に、北谷村の基地から17隻が出撃したが、ほぼ全艇未帰還となった。

伝道 集落の周辺



～ 北谷町指定文化財 ～

民俗文化財 北谷城内「東ノ御嶽」

Folk Cultural Property: Agari no Utaki in Chatan Gusuku

～北谷町文化財指定 第二号～

-Chatan Town Designated Cultural Asset No. 2-

東ノ御嶽は北谷城の五段の東側に位置し、『琉球国由来記』に記載されるヨシノ嶽、神名テンゴノ御イベに由来する拝所と考えられる。伝えによると右衛善守は今帰仁村のクボー御殿のお通しという。旧暦5月・6月ツマチーの時、北谷ノロと北谷三箇村(北谷・玉代勢・伝運)によって拝まれている神聖な場所である。また、北谷ダスクとの関わりや、信神嘗嘗を後世の人々に継承するためにも保存が必要である。

平成16年3月26日指定
北谷町教育委員会

Located on the east side of the Chatan Gusuku hill, Agari no Utaki is thought to be *Yoshi no Taki* (holly name: *Tenjo no Ohi*) recorded in the *Ryukyū-koku Yuraiji*, 1713 (Historical records of the Kingdom of the Ryukyū). According to a folk myth, the right income burner is an object to worship *Kabou Uta* in Nakijin Village. During the *Utsuchi* (harvest ritual) held in lunar May and June, this site is a holy worship ground for the Chatan Niro (the priestesses of Chatan) and three communities of Chatan, Tameeshi and Dindoo. In order to pass on religious manners and customs to following generations and because of its relation to Chatan Gusuku, preservation of this site is considered necessary.

Designated on March 26, 2004
Chatan Board of Education



東ノ御嶽: Agari no Utaki in Chatan Gusuku

民俗文化財 北谷城内「殿」

Folk Cultural Property: Tawn in Chatan Gusuku

～北谷町文化財指定 第三号～

-Chatan Town Designated Cultural Asset No. 3-

「殿」は北谷城の三ノ野に位置している。『琉球国由来記』に記載されている「北谷城内之殿」と考えられる。由来記によれば三箇村(北谷・玉代勢・伝運)で旧暦の5月、6月のツマチーが行なわれ、祭祀は北谷ノロが行なわれているとある。現在も三箇村によって拝まれている神聖な場所である。信神嘗嘗を後世の人々に継承するためにも保存が必要である。1993年にこの地に復元された。

平成16年3月26日指定
北谷町教育委員会

The Tawn is located in the third enclosure of Chatan Gusuku. It is thought to be the Chatan Gusuku nsi no Tawn recorded in the *Ryukyū-koku Yuraiji*, 1713 (Historical records of the Kingdom of the Ryukyū). According to these records, the *Utsuchi* (harvest ritual) was held by three communities (Chatan, Tameeshi and Dindoo) in lunar May and June and officiated by the Chatan Niro (the priestesses of Chatan). The site remains a holy worship ground for these three communities. To pass on religious manners and customs to following generations, preservation of this asset is considered necessary. The site that we see today was reproduced in 1993.

Designated on March 26, 2004
Chatan Board of Education



殿: Tawn in Chatan Gusuku

建造物 ちぶ川 ～北谷町文化財指定 第四号～

Historic Building: Chibugaa Spring and Spring Well - Chatan Town Designated Cultural Asset No. 4-

琉球石灰岩作りの井筒。正室外周には北圧防壁のための弧状の配石をし、正室内と副室には二段のあいだ積みと常積みでかまれている。正室中央下室に一枚石を弧状に切り込んだ湧水口がある。注ぎ口は湧出した溜池から降り出しにより3門設けられている。左側手前には出入口の下り階段が9段ある。手前の石垣中央には排水溝をもうけ、その上には渡りの一枚石の橋が架かっている。200年前の建築と考えられ往時を知る貴重な建造物である。

玉代勢ムラを中心として北谷ムラ、伝運ムラなどで使用していた。石水や炭湯として用いた神聖な湧水である。旧暦正月3日、8月11日のカウガミには北谷ノロが、2月のニングウチャーには北谷ノロとムラ人が拝む。下流域は前代田として、沖縄三大美田の一つである北谷ターブックの源流にあたる。2004年に米海兵隊により復元された。

平成16年3月26日指定
北谷町教育委員会

This spring well is made of Ryukyū limestone. Stones of the outer side of the well are laid in an arc to prevent caving. Stones on both sides and the inner side of the well are constructed in two levels using stones stacked in two different ways. One level uses stones of different sizes and shapes, and the other uses rectangular stones. The spring's mouth is a cut located at the center bottom of the frontal single stone. Water flows from the pool through three overhanging spouts. There is a nine-step stairway to the left, serving as an entrance. A drain is located under a single stone bridge. This spring well is thought to be a structure from 200 years ago and is an important architectural piece for understanding the past.

The spring well was used mainly by people from Tameeshi, but also by people from Chatan and Dindoo communities. Spring water from this well is considered holy. *Wakamizu*, the very first water drawn from a well on New Year's Day, and water for the first bath of newborns was taken from this well. The Chatan Niro (the priestesses of Chatan) prays to the spring well on January 3 and during the *Kau Ugami* ritual on August 11 of the lunar calendar. In February of the lunar calendar, the Chatan Niro and community members worship the spring well during the *Ningwachau*, a social gathering for farmers held during the agricultural off-season. Spring water from the basin flows down into rice nurseries and also to Chatan *Taahukhor*, one of Okinawa's three major beautiful rice paddies. The spring well was reproduced by the U.S. Marine Corps in 2004.

Designated on March 26, 2004
Chatan Board of Education



カウガミの様子: The Kau Ugami ritual

■北谷町指定文化財：平成16（2004）年3月26日

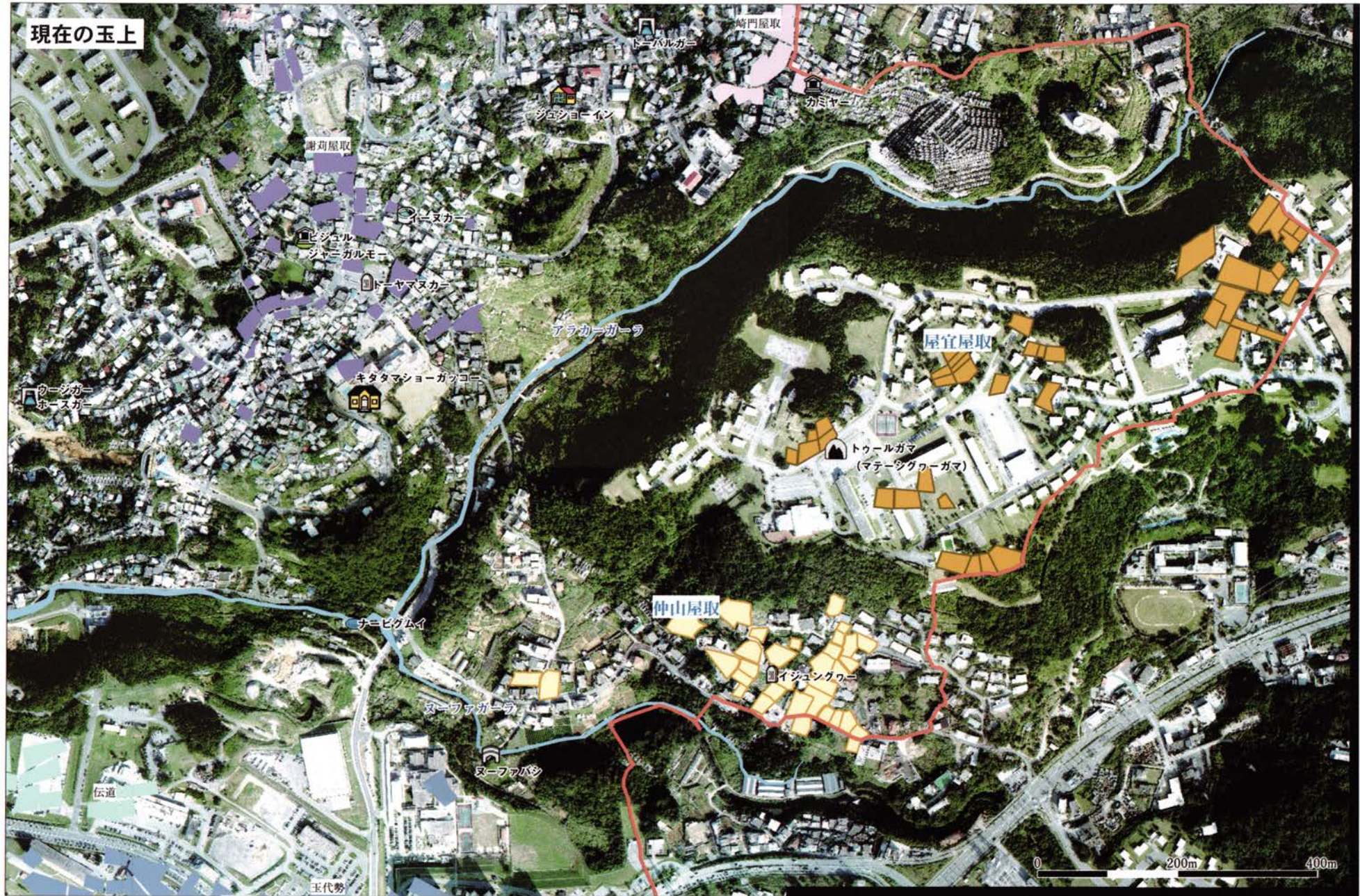
①ハマガーウガン ②アガリウタキ ③トウン ④チブガーの4か所が指定された。

【※編注：ハマガーウガンについては浜川集落参照。】

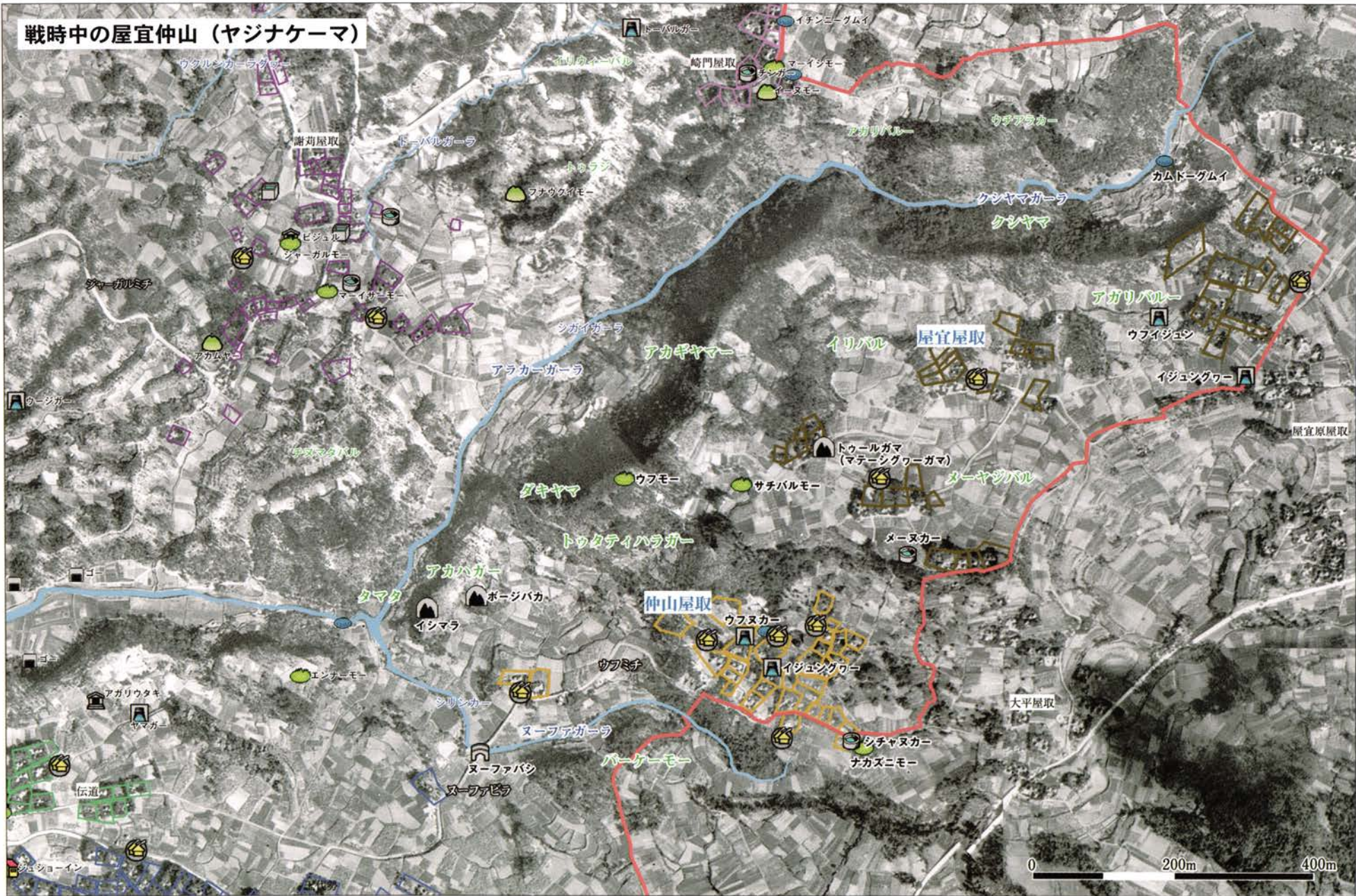
屋宜仲山



現在の玉上



戦時中の屋宜仲山 (ヤジナケマ)



～ キャンプ瑞慶覧の高台（ウフモー）～



キャンプ瑞慶覧の高台を北東側丘陵から撮影。



キャンプ瑞慶覧内の小さな丘から西向きに撮影。
(マテーシグワーガマ、ウフモーのあった方向)



丘の斜面に残る、埋もれた墓の一部。

仲山屋取

ナケーマヤードウイ

ナケーマヤードゥイ（仲山屋取）

北谷町域東側の高台に位置する屋取集落。戸数33軒で、そのうちカーラヤーは10軒あった。

ヤジヤードゥイ（屋宜屋取）と併称し、ヤジナケーマ（屋宜仲山）と言うこともある。

本字はタメーシ（玉代勢）であった。昭和14（1939）年にはヤジヤードゥイ（屋宜屋取）とともに行政字として分離独立し、「玉上（たまうえ）」となった。これは、タメーシ（玉代勢）より標高が高いところに位置しているという意味でついた名前である。それが、戦後には「玉上（たまがみ）」と呼ばれるようになり、現在に至る。

ナケーマヤードゥイ（仲山屋取）、ヤジヤードゥイ（北谷・屋宜屋取）、ウフンダヤードゥイ（中城・大平屋取）、ヤジヤードゥイ（中城・屋宜屋取）の4集落は土族が拓いた屋取集落である。カーラヤー造り・（マチ）墓造りなどの大きな仕事は、この4集落共同で行なっていた。

主業は農業で、芋やサトウキビなどを作っていた。また、集落の33軒のうち2軒以外からは、フィリピン・ペルー・ブラジル・アルゼンチンなどに出稼ぎに出ている。

各家に井戸があった。丘陵の斜面から泉が湧いていたので、ナケーマヤードゥイ（仲山屋取）は水が豊かだった。

集落の真ん中を東西に走る道を境に、ウィーグミとシチャグミに分かれており、それぞれサターヤーを持っていた。ウィーグミは屋号マチューアガリグワー（マチュー東小）：31の西側の三叉路のところにあり、シチャグミは屋号ナーカグワー（ナーカ小）：7の北東側にあった。サターヤーの維持費は、砂糖1丁あたりいくらかという風に賄われていた。個人のサターヤーも3か所あった。嘉手納の製糖工場も利用していたが、ナケーマヤードゥイ（仲山屋取）は地形が悪いため、工場へ運ぶのが大変だった。そのため、すべて自分で製糖して、自分で売っていた。屋号マチューアガリグワー（マチュー東小）と屋号ハナドーサチバルグワー（花堂崎原小）が馬車を持っており、製糖の時期だけ馬車を出していた。タルガーは、砂糖120斤（72kg）、樽と蓋で15斤（9kg）を合わせて135斤（81kg）であった。那覇まで運ぶのに1丁15～20銭かかった。大平で積む場合には15銭だったので、そこまで担いで持って行って積んでいた。

ガンやガンヤーなどはナケーマヤードゥイ（仲山屋取）所有のものになかったため、タメーシ（玉代勢）のガンを借りていた。

屋号ヤマアガリ（ヤマ東）：20の三叉路のところが広っぱに

■カーラヤー：瓦ぶきの家。



◀聞き取り調査風景▶

■マチ墓：亀甲墓の一種。墓のてっぺんにつむじの形の文様がある大きい墓。

■サターヤー：製糖小屋。

■嘉手納製糖工場：沖縄製糖株式会社の嘉手納工場のこと。明治45（1912）年創業。

■タルガー：砂糖用の樽。

■ウフンダ：中城村（現・北中城村）にあった大平屋取。

■ガン：籠。葬式のとき、死者の棺を入れて墓地まで運ぶためのもの。

■ガンヤー：籠を納めておく小屋。

なっており、そこにマ－イサーを置いてあった。重さが140斤(84kg)・120斤(72kg)・100斤(60kg)・70斤(42kg)・40斤(24kg)・30斤(18kg)などのものが、10個ぐらいあった。そのうちの2～3個は現存している。

チャタンエキを利用して^ないた。そこから那覇まで、汽車賃は32銭だった。

集落の真ん中を東西に走る道をウフミチと言った。荷馬車が1台^{とお}通れるぐらいの道幅であった。道のところどころに、馬車がすれ違^{ちが}うための場所を作っていた。以前、この道は、屋号ナーカグワー(ナーカ小):7あたりまでしか、荷馬車が入ることができなかった。そのため、昭和9～10(1934～35)年頃、日本政府の^{えんじよ}援助を受けて造ることになった。しかし、^{のうどう ほじょきん}農道補助金では足りず、ヤードウイジンミを行ない、集落の人たちで夜間工事をするようになった。^{びん}瓶などに石油を入れ、カコーに火をつけて道の周囲に置いて行なわれた。ヌチシンもした。エーキンチュからは、ジュシーメーおにぎりの差し入れなどもあった。工事後は、屋号ナーカヌアガリ(ナーカヌ東):25のところまで荷馬車が入れるようになった。タメーシ(玉代勢)へ行く道につながる。

【集落で行なわれる主な年中行事】

●旧暦2月1～2日<クシユクワシー(クスツクイー)>:ウィーグミとシチャグミに分かれて行なわれた。ヤードウは毎年変わるが、カーラヤーや大きい家などがあてられていた。10銭ぐらいずつ^{ちようしやう}徴取された。1日目は男性のみで行なわれ、2日目は男性がウケーメーを炊いて、女性にふるまった。

●旧暦7月<盆>:屋号ヤマーアガリ(ヤマー東):20の^{さん さろ}三叉路のところ^{さん}が広^さっぱになっており、そこでエイサーの練習していた。

集落域は米軍に^{せつしやう}接収され、キャンプ^{ず けらん}瑞慶覧となり、軍司令部や軍の住宅地などに使用されていた。現在は返還され、元の屋敷地一帯は住宅地となっている。

■マ－イサー:集落の広場などに置いてある大小の堅い、丸い石。青年たちが力試しをする。



◀聞き取り調査風景▶

■ヤードウイジンミ:集落の協議。

■カコー:使い古したぼろきれ。

■ヌチシン:募金。

■エーキンチュ:金持ち。財産家。

■ジュシーメー:炊き込みご飯。

■クシユクワシー:農繁期のあとにする骨休みの行事。

■ヤードウ:一時的に集会所にあてられる家。

■カーラヤー:瓦ぶきの家。

■ウケーメー:おかゆ。

■エイサー:旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。

■キャンプ瑞慶覧(キャンプ・フォスター):沖縄本島中部にある米海兵隊基地。

仲山屋取 屋号地図 ダキヤマ



仲山屋取の家の配置
(数字は屋号番号)



鉄道



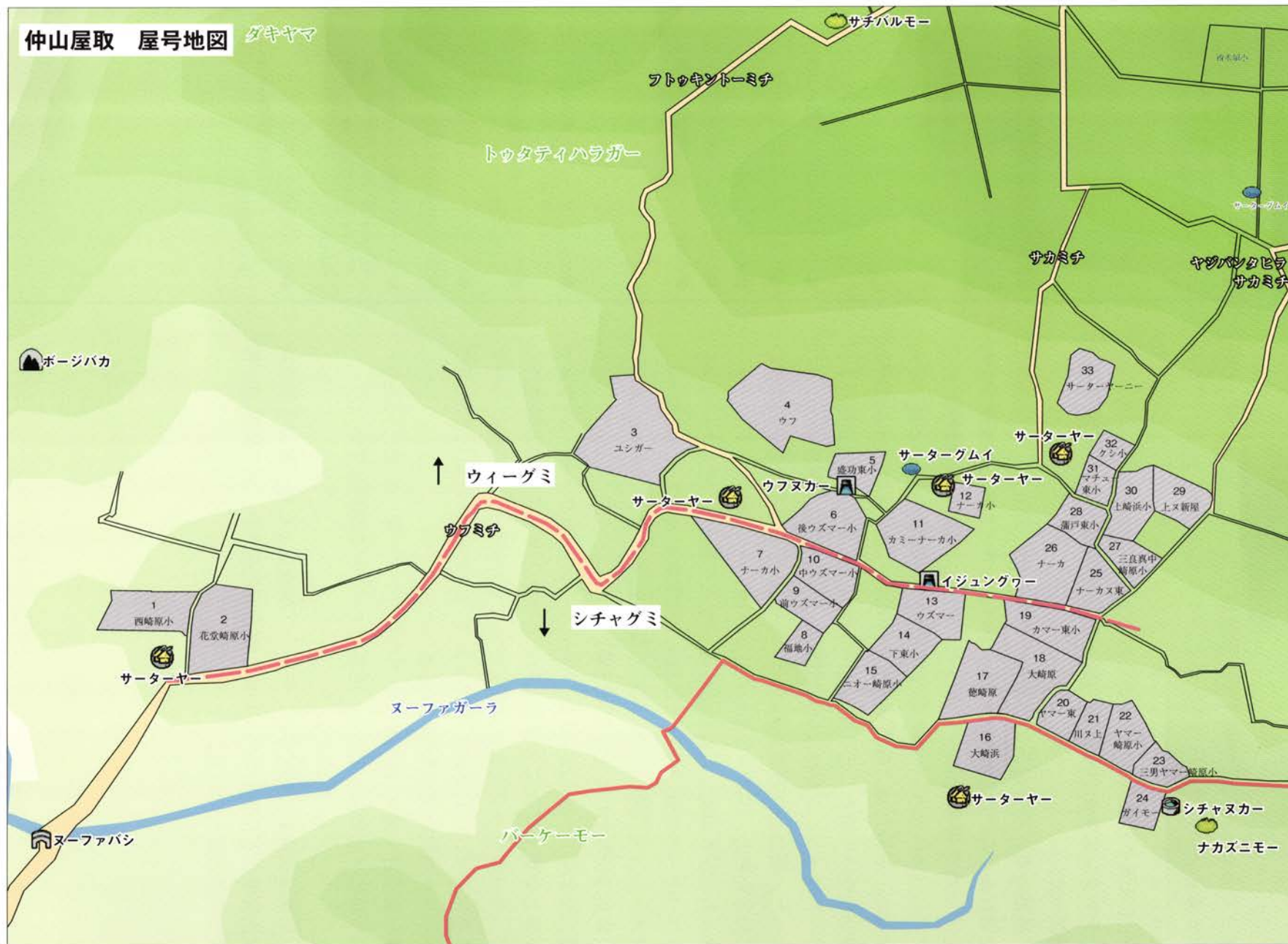
河川



道路

緑の文字

地域の名称
(小さい文字は他の集落の呼び名)



ナケーマヤードゥイ（仲山屋取）

行政字名

タマウエ

字玉代勢あごに属していたが、昭和14(1939)年にヤジヤードゥイ（屋宜屋取）とともに行政字ぎょうせいあごとして分離独立し、ぶんりどくりつ「玉上（たまうえ）」となった。これは、タメーシ（玉代勢）より標高が高いところに位置しているという意味でつけた名である。それが、戦後に「玉上（たまたがみ）」と呼ばれるようになり、現在に至る。

社会的区分・その他

ヤジナケーマ

屋宜仲山。ヤジヤードゥイ（屋宜屋取）と併称へいしょうして言う。

組

ウィーグミ

上組。サーターグミの1つ。集落の真ん中の道さかいを境にして分けていた。道から北側がウィーグミである。

シチャグミ

下組。サーターグミの1つ。集落の真ん中の道さかいを境にして分けていた。道から南側がシチャグミである。

河川

ヌーフアガーラ

集落の南側を流れる川。ウフンダから流れてくるので、上流はウフンダガーラと言う。アラカーガーラほんりゅうの本流である。ヌーフアガーラとアラカーガーラが合流するところをタマタと言う。タマタから上流に向かい、右側がヌーフアガーラで、左側がアラカーガーラである。

流れは現在と同じぐらいで、カニ、エビ、ウナギ、フナなどがいた。

アラカーガーラ

集落の北方向から流れてくる川。現在の北中城村きたなかぐすくそんと沖縄市おきなわしの間から流れてくる川。ヌーフアガーラしりゅうの支流である。アラカーガーラとヌーフアガーラが合流するところをタマタと言う。タマタから上流に向かい、左側がアラカーガーラで、右側がヌーフアガーラである。

アラカーガーラで家畜かちく（馬・牛）に水浴びをさせていた。



◀聞き取り調査風景▶

■サーターグミ：製糖の作業をする組。

■ウフンダ：中城村（現・北中城村）にあった大平屋取。



◀ヌーフアガーラ▶

山地

ダキヤマ

集落の北西方向にあった山。ヤマダキ（リュウキュウチク）やクサンダキ（ホテイチク）などの竹が生えていた。

イリヌヤマ

【※編注：位置不明確のため、地図上には記載していない】

マーチ松、アカギ、竹などが生えていた。畑はなかった。イシグジェーラという石ばかりのところもあった。

現在はキャンプ瑞慶覧内である。

アカギヤマ

メーヤジの西側の傾斜面^{けいしゃめん}。アカギがたくさん生えていた。話者によると、植えたわけではなく、自然に繁茂^{はんも}したものと言う。

現在はキャンプ瑞慶覧内である。

→屋宜屋取のメーヤジを見よ。

崖

アカハガー

イシマラの上の方を言う。マーチ松がたくさんあり、そのため下草が生えなかった。シメジがよく採^とれた。

トゥタティハラガー

ウフモーの下あたりで、戸を立てたような真っ直ぐな絶壁^{ぜつぺき}。山道があり、草刈りや薪^{たきぎ}取りのときに利用していた。

現在はキャンプ瑞慶覧内である。以前、米軍将校クラブがあったあたりの南側で、現在も山になっている。

谷間

タマタ

ヌーフアガーラとアラカーガーラが合流するところ。シガイガーラ、タマタガーラ、シガイグムイ、ナービグムイとも言う。

小ハル名

カーラグラジ

【※編注：位置不明確のため、地図上には記載していない】

リンドー（伝道）の屋号カーラグラの畑だったが、そこをナケーマヤードゥイ（仲山屋取）の人が買い取った。

■キャンプ瑞慶覧（キャンプ・フォスター）：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。

バーケーモー

間切時代のジーワイの境界。山の分水嶺で分けられ、西側が北谷間切で、東側が中城間切だった。

ウフチドー

【※編注：位置不明確のため、地図上には記載していない】

ヌーフアバルの中にある平坦な場所を言う。

シチャヌトー

【※編注：位置不明確のため、地図上には記載していない】

ヌーフアガーラ沿いの平坦な道。

村道

ウフミチ

ガッコーミチとも言う。荷馬車が1台通れるぐらいの道幅だったので、ところどころに馬車がすれ違いをするための場所を作っていた。タメーシ（玉代勢）へつながる道である。

昭和9～10（1934～35）年頃に日本政府の援助によって造られた農道で、荷馬車を入れるための道だった。しかし、農道補助金だけでは足りず、ヤードウイジンミを行ない、集落の人たちで夜間工事をすることになった。瓶などに石油を入れ、カコーに火をつけたものを道の周囲に置いて行なわれた。ヌチシンもした。エーキンチュからは、ジュシーメーおにぎりの差し入れなどもあった。道の工事後は、屋号ナーカヌアガリ（ナーカヌ東）：25まで荷馬車が入れるようになった。それ以前は屋号ナーカグワー（ナーカ小）：7あたりまでしか入れなかった。

生活道

フトウキントーミチ

ウマニーミチとも言う。屋号ユシガー：3の側を通り、ヤジヤードウイ（屋宜屋取）へ行く道。ナケーマヤードウイ（仲山屋取）とヤジヤードウイ（屋宜屋取）をつなぐ大きな道だったが、坂道で地形が悪かった。馬車は通ることができず、馬の背中に荷物を載せて運んでいた。そのため、ウマニーミチとも言っていた。サトウキビや砂糖など2丁ずつ載せて運んでいた。

坂道

ヌーフアピラ

タメーシ（玉代勢）へ行く道で、ヌーフアバシを越えると坂になっていた。100mぐらい急な坂があり、その後、道がゆるやかになって下っていく。わりあい広く、2間（3.6m）ぐらいの道幅だ

■間切：明治40（1907）年まで使用されていた沖縄独自の行政区画単位。現在の市町村とほぼ同じである。

■ジーワイ：地割。耕地その他の割替制度。

■ヤードウイジンミ：集落の協議。

■カコー：使い古したぼろきれ。

■ヌチシン：募金。

■エーキンチュ：金持ち。財産家。

■ジュシーメー：炊き込みご飯。

ったので荷馬車も通ることができた。しかし、普通は砂糖を10丁積むところを、坂が急なために半分ずつに分けて運んでいた。

ナージクビラ

【※編注：記載した地図の範囲外にあるため、地図上には記載されていない】

現在のライカム交差点あたり。キャンプ瑞慶覧の島袋側のゲートあたりから米軍アワセゴルフ場の方へと下って行く坂道。

サカミチ

ヤジヤードゥイ（屋宜屋取）のメーヤジへ行く道。急な坂道で、道幅は1間半（2.7m）ぐらいであった。馬は通れたが、馬車は上ることができなかった。

→屋宜屋取のメーヤジを見よ。

サカミチ

ヤジヤードゥイ（屋宜屋取）のイリヤジへ行く道。急な坂道で、道幅は1間半（2.7m）ぐらいであった。馬は通れたが、馬車は上ることができなかった。屋号サターヤーニー：33の側の道。

→屋宜屋取のイリヤジを見よ。

ヤジバンタビラ

ナケマヤードゥイ（仲山屋取）からヤジヤードゥイ（屋宜屋取）へ行く坂道。人がやっと上がれるぐらい急な坂道。

洞窟

ヒージャーガマ 【※編注：位置不明確のため、地図上には記載していない】

トウタティハラガーの真ん中あたりにあるガマ。シーがあり、その下にあった。4～5坪ぐらいの広さがあった。草刈りに行ったときの雨風よけの場所だった。ガマの入口の方は、立ったまま入れるが、奥の方は無理だった。

話者によると、水が流れるヒージャーの意味でつけた名前ではないかと言う。

ボージバカ

上には岩が出ていて、その下にまんまるい穴が開いていた。イーフだった。

以前はジーシガミがあったが、揉んでいる人はいなかった。草刈りに行く場所だった。

ハルナーもボージバカーと言う。

■キャンプ瑞慶覧（キャンプ・フォスター）：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。



《聞き取り調査風景》

■ガマ：洞窟。ほら穴。

■シー：岩山。

■ヒージャー：樋川。

■イーフ：大雨などで運ばれてきた土。流出土。多くは肥えている。

■ジーシガミ：厨子糞。洗骨後の遺骨を納めるためのもの。

イシマラ

ジャーガルヤードゥイ（謝苺屋取）の人の畑があった。上の方にはナケーマヤードゥイ（仲山屋取）とタメーシ（玉代勢）の人の山もあった。墓もいくつもあった。イーフで、掘りやすい土壌なので、そこを掘り込んでガマにして、遺体を入れた。ンナトゥグワー石やシマ石で蓋をした。

ガマの中は、雫が垂れ下がってきて柱のようになっている（鍾乳石）。石が生まれるということでイシマラと言った。大雨のときには水が流れ込み、流される危険があるため、近寄るなど言われていた。

以前の米軍将校クラブがあったところと、ナケーマバルの間にある。現在、崖にセメントが張られているところの下あたりで、墓が多く造られている。

トゥールガマ

マテーシグワーガマとも言う。ヤジヤードゥイ（屋宜屋取）の屋号ハンタクミシグワー（ハンタ米須小）の側にあったガマ。

普段、ほとんど水は無かった。メーヤジとナカヤジからの水が流れ込んでいた。大雨や長雨が続いたときには、トゥールガマから水が流れ出し、アラカーガーラへ流れ込んでいた。話者によると、流される危険があるので、大雨のときには近寄るなど言われていたと言う。

現在はキャンプ瑞慶覧内で、軍の排水に利用されている。

→屋宜屋取のマテーシグワーガマを見よ。

丘

ヒージャーモー 【※編注：位置不明確のため、地図上には記載していない】

ヒージャーガマの前はモーだった。そんなに広くなかった。

野原

サチバルモー

メーヤジへ行くサカミチを上って、ちょっと平らになるところにあった。カヤモーだったが、開墾して畑にしていた。農作物は、サトウキビ、芋、豆などを作っていた。屋号チーチャーサチバル（乳屋崎原）が所有していたので、サチバルモーと言う。

→屋宜屋取のメーヤジを見よ。

池沼

サーターグムイ

屋号ナーカグワー（ナーカ小）：12の西側にあったクムイ。ウィー

■イーフ：大雨などで運ばれてきた土。流出土。多くは肥えている。

■ガマ：洞窟。ほら穴。

■ンナトゥグワー石：具志頭村港川で採石される黄褐色の石灰岩。粟石。

■シマ石：サンゴ石灰岩。

■ガマ：洞窟。ほら穴。

■キャンプ瑞慶覧（キャンプ・フォスター）：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。

■モー：原野。野原。原っぱ。

■カヤモー：屋根を葺くのに使う茅を生やしていた野原。

■クムイ：池。沼。

グミのサターグルマの軸木を漬けていた。

湧水井戸

イジュングワー

共同井戸。3か所あったうちの1つ。屋号ウズマー：13の北側にあった。ニープで汲むことができた。日照りのときには水量が減っていた。

現在、井戸があった場所は道になってしまったが、ウジュマーヌクシヌカーとして、ナケーマヌカーとウフヌカーとともに合祀され、碑が建てられている。

ウフヌカー

共同井戸。3か所あったうちの1つ。屋号クシウズマーグワー（後ウズマー小）：6と屋号セーコーアガリグワー（盛功東小）：5の間にあった井戸。イーフから湧き、豊富に水が流れ出していた。ニープで汲むことができた。石やセメントで作りこんだ井戸ではなく、簡単な造りだった。水がどんどん流れ出し、ヌーフアガーラに流れ込んでいた。

話者によると、現在でも残っており、畑に流れ込んでいると言う。

現在はイジュングワーだったところに碑が建てられ、合祀されている。

掘井戸

シチャヌカー

共同井戸。3か所あったうちの1つ。屋号サンナンヤマーサチバルグワー（三男ヤマー崎原小）：23の近くにあった。サターグルマの軸木を漬けるためにも利用していた。中城地番だった。

橋

ヌーフアバシ

昭和の初め頃に造られた石橋。イシジェークーだった屋号ハナドーサチバルグワー（花堂崎原小）が造った橋。幅は2間半（4.5m）で、長さは6間（10.8m）だった。橋から水面までは5mぐら이었다。両方に欄干があった。

ヌーフアバシを境にして、ナケーマヤードウイ（仲山屋取）の土地とタメーシ（玉代勢）の土地に分かれる。

話者によると、橋は戦争で破壊されたが、現在も跡が残っていると言う。

■サターグルマ：サトウキビを圧搾する装置。

■ニープ：ひしゃく。



《カーの碑》

■イーフ：大雨などで運ばれてきた土。流出土。多くは肥えている。

■ニープ：ひしゃく。

■サターグルマ：サトウキビを圧搾する装置。

■イシジェークー：石工。



《ヌーフアバシがあった付近》

製糖小屋

サーターヤー

共同製糖小屋。屋号マチューアガリグワー（マチュー東小）：31の西側、三叉路のところにあったサーターヤー。ウィーグミの人たちで共同使用していた。維持費は1丁あたり、いくらというふうに賄っていた。サーターグルマの軸木を漬けるサーターヤーグムイがあった。

■サーターグルマ：サトウキビを圧搾する装置。

サーターヤー

共同製糖小屋。屋号ナーカグワー（ナーカ小）：7の北東側角にあったサーターヤー。シチャグミの人たちで共同使用していた。維持費は1丁あたり、いくらというふうに賄っていた。

サーターヤー

製糖小屋。屋号ナーカグワー（ナーカ小）：12の北西側にあったサーターヤーである。屋号ナーカの個人所有だった。

サーターヤー

製糖小屋。屋号ハナドーサチバルグワー（花堂崎原小）：2の個人所有のサーターヤーである。屋敷の南側にあった。

サーターヤー

製糖小屋。屋号ウフサチハマ（大崎浜）：16の個人所有のサーターヤーである。屋敷の南側にあった。

広場

ナカズニモー

屋号サンナンヤマーサチバルグワー（三男ヤマー崎原小）：23の東南側にあった。平坦で広く、南側にちょっと斜めになっていた。ナケーマヤードゥイ（仲山屋取）の人たちの遊び場所だった。モーアシビをしたり、相撲をとったりして遊んでいた。大きい松があり、その枝を取って、ウンケーのトゥブシにした。

■モーアシビ：農村で夜、若い男女が野原に出て遊ぶこと。三味線・歌・踊りなどをして楽しむ。

■ウンケー：各家で祖霊を迎える盆入りの行事。迎え盆。

■トゥブシ：松の根元から取る木くず。火がつきやすいので火口に使われる。

ウフモー

集落の北西方向にあった。フナウクイモーとも言う。ナケーマヤードゥイ（仲山屋取）とヤジヤードゥイ（屋宜屋取）の人たちがフナウクイをする場所だった。船が出る場合には、必ずダンジュカリユシで見送っていた。見晴らしが良く、太平洋と東シナ海の両方を見ることができた。地主はナケーマヤードゥイ（仲山屋取）の人だった。

■フナウクイ：見はらしのいい場所から、旅に出る人の安全を願い、船を見送ること。

■ダンジュカリユシ：船出の祝い歌。身内のものが旅をするとき、一族が集落の広場あるいは高台に集まって、航海の無事を祈願し、これを歌った。

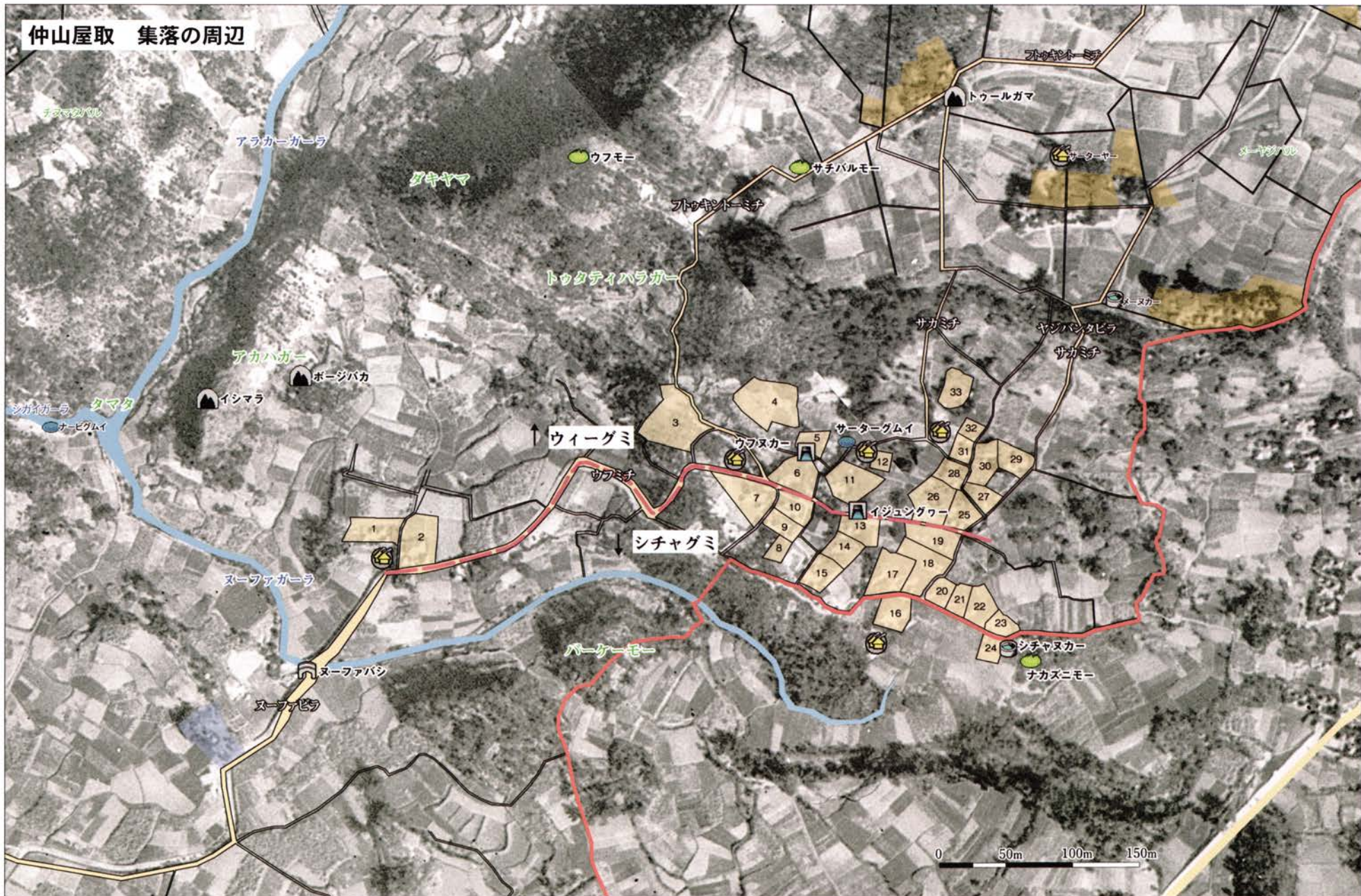
現在、キャンプ瑞慶覧^{ずけらん}内となっている。戦前、ウフモーの上の方は平坦だった。話者によると、現在も米軍による埋め土^うはなく、均^{なら}されているので、戦前のウフモーの感じがわかるという。以前、米軍の将校クラブがあったところで、現在は米軍住宅地となっている。

■キャンプ瑞慶覧（キャンプ・フォスター）：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。

～ トゥールガマ調査 ～



仲山屋取 集落の周辺



屋宜屋取

ヤジヤードウイ

ヤジヤードゥイ（屋宜屋取）

北谷町域東側、高台に位置した屋取集落。東側は中城村に隣接していた。戸数40軒であった。

ナケーマヤードゥイ（仲山屋取）と併称し、ヤジナケーマ（屋宜仲山）と言うこともある。

集落は3つに組分けされていた。一番西側の13軒がメーヤジで、メーヤードゥイとも言った。次に、集落の真ん中に位置した12軒をナカヤジと言い、ナカヤードゥイとも言う。また、一番東側に位置した15軒がクシヤジで、クシヤードゥイとも言った。

本字はタメシ（玉代勢）であった。昭和14（1939）年にはナケーマヤードゥイ（仲山屋取）とともに行政字として分離独立し、「玉上（たまうえ）」となった。これはタメシ（玉代勢）の上（高台）に位置しているという意味でつけた名前である。それが戦後には「玉上（たまがみ）」と呼ばれるようになり、現在に至る。

ヤジヤードゥイ（北谷・屋宜屋取）、ナケーマヤードゥイ（仲山屋取）、ウフンダヤードゥイ（中城・大平屋取）、ヤジヤードゥイ（中城・屋宜屋取）の4集落は土族が拓いた屋取集落である。カーラヤー造り、（マチ）墓造りなどの大きな仕事は、この4集落共同で行っていた。

主業は農業で、芋やサトウキビなどを作っていた。田んぼも少しあった。また、フィリピン・ペルー・ブラジル・アルゼンチンなどに出稼ぎに出る人も多かった。

集落内には泉が少なかった。メーヤジには屋号マチークミシグワー（松米須小）：1の西側にメーヌカーがあったが、水量は少なく、日照りには涸れるため、ナケーマヤードゥイ（仲山屋取）まで水汲みに行っていた。クシヤジのイジュングワーとウファイジュン（ウフイジュン）は日照りでも水が涸れることはなかった。特に屋号サーターヤーニューヒングワー（砂糖屋根饒辺小）：30の西側にあったウファイジュンは、溢れた水が流れになるほどであった。

集落の西側にはウフモーと言うフナウクイをする場所があった。ヤジヤードゥイ（屋宜屋取）とナケーマヤードゥイ（仲山屋取）の人たちが利用していた。現在はキャンプ瑞慶覧内で、米軍の住宅地になっているものの、埋め土はなく、均されているだけなので、戦前のウフモーの感じがわかるという。

ヤジヤードゥイ（屋宜屋取）は地形が悪く、フトウキントーミチをはじめ、急な坂道が多かった。道幅も1間半（2.7m）ぐらいしかないような道で、馬車は通れず、馬の背に荷物を積んで運んでいた。

集落の西側、ウフモーの下あたりには絶壁があった。戸を立てた



◀聞き取り調査風景▶

■カーラヤー：瓦ぶきの家。

■マチ墓：亀甲墓の一種。墓のてっぺんにつむじの形の文様がある大きい墓。

■フナウクイ：見はらしのいい場所から、旅に出る人の安全を願い、船を見送ること。

■キャンプ瑞慶覧（キャンプ・フォスター）：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。

ように真っ直ぐな崖^{がけ}だったので、トゥタティハラガーと言った。

【集落で行なわれる主な年中行事】

●旧暦2月2～3日<ニングワチャー(クスツクィー)>:ニーセーカタとトゥスイカタの2組に分かれて行なわれた。初日にはヒャーナーウガミとして山里^{やまざと}のビジュル^{おが}を拝みに行っていた。

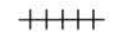
集落域は米軍に接收^{せつしゅう}され、キャンプ瑞慶覧^{ずけらん}内である。現在も米軍の住宅地が立ち並んでいるライカムあたりである。

- ニングワチャー：旧暦2月に行なわれる行事。集落や組単位で酒宴を開き、余興をして楽しむ。
- ニーセーカタ：若者の組。
- トゥスイカタ：年寄りの組。
- ヒャーナー：首里から逃げてきて山里で子を産み育てた美しい娘を祀ったと伝えられている。普天間宮へ遥拝する場所である。
- ビジュル：霊石として祀られる石。
- キャンプ瑞慶覧(キャンプ・フォスター)：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。

屋宜屋取 屋号地図



屋宜屋取の家の配置
(数字は屋号番号)



鉄道



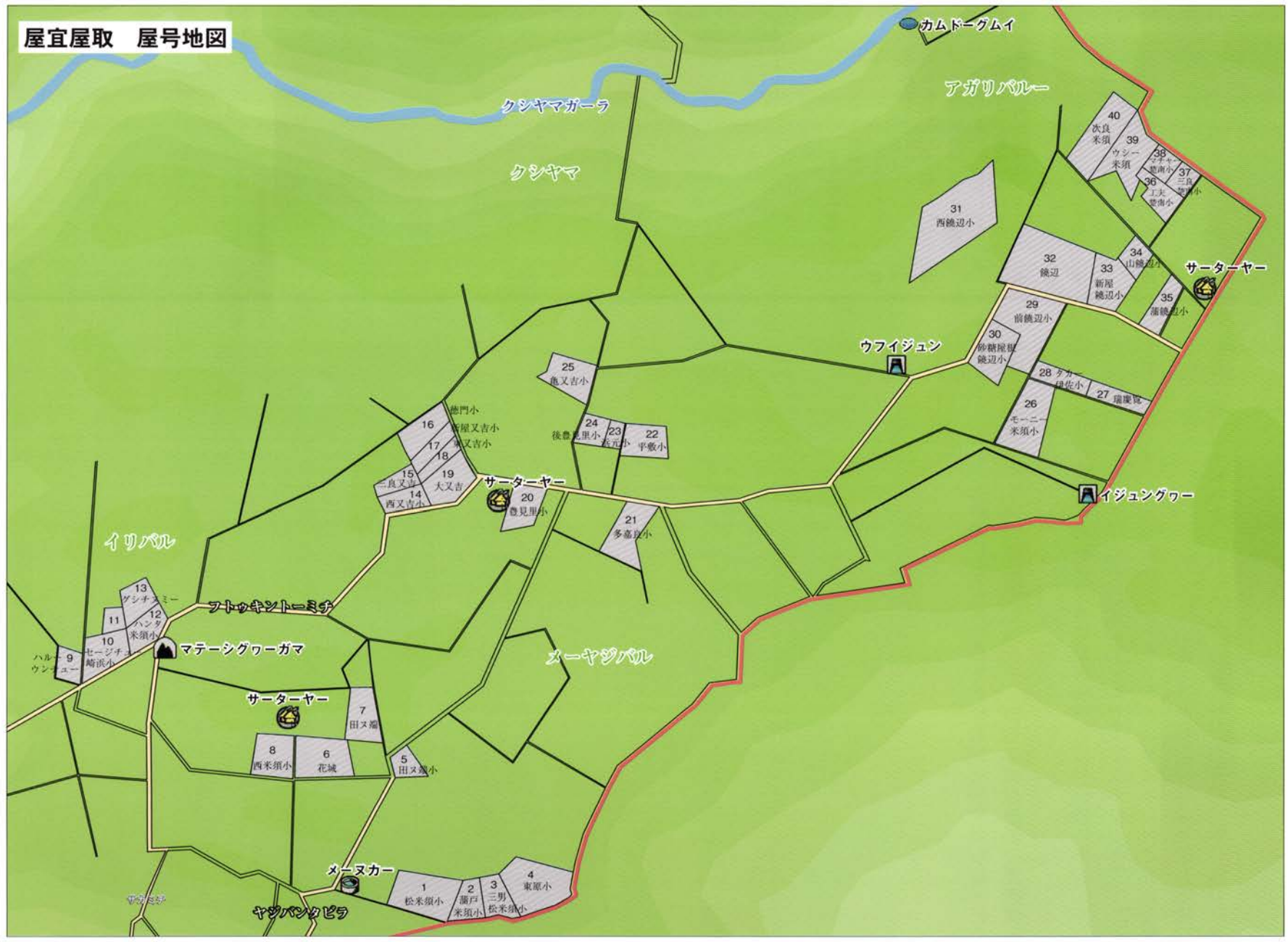
河川



道路

緑の文字

地域の名称
(小さい文字は他の集落の呼び名)



ヤジヤードウイ（屋宜屋取）

行政字名

タマウエ

字玉代勢あざに属していたが、昭和14(1939)年にヤジヤードウイ（屋宜屋取）とともに行政字ぎょうせいあざとして分離独立ぶんりどくりつし、「玉上（たまうえ）」となった。これはタメシ（玉代勢）の上（高台）に位置しているという意味でついた名である。それが戦後に「玉上（たかがみ）」と呼ばれるようになり、現在に至る。

社会的区分・その他

ヤジナケーマ

屋宜仲山。ナケーマヤードウイ（仲山屋取へいしやう）と併称して言う。

組

メーヤジ

前屋宜。メーヤードウイとも言う。集落の組分けの1つ。集落の西側に位置した13軒を言う。

ナカヤジ

中屋宜。ナカヤードウイとも言う。集落の組分けの1つ。集落の真ん中、メーヤジとクシヤジあいだの間に位置した12軒を言う。

クシヤジ

後屋宜。クシヤードウイとも言う。集落の組分けの1つ。集落の東側に位置した15軒を言う。

河川

クシヤマガーラ

アラカーガーラの一部を言う。クシヤマそばの側を流れているので、その部分をクシヤマガーラと言う。

→仲山屋取のアラカーガーラを見よ。

山地

クシヤマ

アラカーガーラそばの側にある山。集落の後ろ側の山という意味でクシヤマと言う。松マツの木が生え、ヤマモモの木も1～2本生えていた。

→仲山屋取のアラカーガーラを見よ。



《聞き取り調査風景》

崖

トゥタティハラガー

ウフモーの下あたりで、戸を立てたような真っ直ぐな^{ぜつべき}絶壁。山道があり、草刈りや薪取り^{たきぎ}に利用していた。現在、キャンプ瑞慶覧^{ず けらん}内である。以前、米軍将校クラブがあったあたりの南側で、今でも山になっている。

■キャンプ瑞慶覧（キャンプ・フォスター）：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。

小ハル名

イリバル

ウフモーのあるあたりを言う。土質はマージ。現在、キャンプ瑞慶覧^{ず けらん}内である。

■マージ：赤土質の土壤。マージでできた芋は小さいが美味しい。

メーヤジバル

メーヤジの家屋敷と畑地がある一帯。農作物はサトウキビ、芋^{イモ}などを作っていた。土質は主にマージで、一部はジャーガル。現在、キャンプ瑞慶覧^{ず けらん}内である。

■ジャーガル：粘土質の灰色の土。ジャーガルでできた芋は大きいが味はあまりよくない。

アガリバルー

クシヤジの家屋敷と畑地がある一帯。農作物はサトウキビ、芋^{イモ}などを作っていた。土質はマージ。昔の開墾地^{かいこんち}であるため、真ん中にジャーガル地が少しあり、その周囲はマージだった。田んぼの近くに、雨が降ったときだけ流れる川があり、その周辺はチューチチジャーガルだった。現在、キャンプ瑞慶覧^{ず けらん}内である。

■チューチチ：固い土。

生活道

キューウリグチ

【※編注：位置不明確のため、地図上には記載していない】

屋号ハルーウンチュー：9のところから西側へ行き、崖つぶちから^お下りて行く山道。キューエキへ下りて行く道。坂道で、人が歩いて^{とお}通れるぐらいの道だった。

→桑江ヌ前屋取のキューエキを見よ。

フトウキントーミチ

ウマニーミチとも言う。ナケーマヤードウイ（仲山屋取）の屋号ユシガーの側^{そば}を通り、ウフミチにつながる道。ヤジヤードウイ（屋宜屋取）とナケーマヤードウイ（仲山屋取）をつなぐ大きな道だったが、坂道で地形が悪かった。馬車は通ることができず、馬の背中に荷物を載せて運んでいた。そのため、ウマニーミチとも言っていた。サトウキビや砂糖など2丁^のずつ載せて運んでいた。

→仲山屋取のウフミチを見よ。

坂道

ナージクビラ

【※編注：記載した地図の範囲外にあるため、地図上には記載していない】

現在のライカム交差点あたり。キャンプ瑞慶覧^{ずけらんしまぶくろ}の島袋側のゲートあたりから米軍アワセゴルフ場の方へと下って行く坂道。

ヤジバンタビラ

ナケーマヤードゥイ（仲山屋取）からヤジヤードゥイ（屋宜屋取）へ行く坂道。人がやっと上れる^{のぼ}ぐらい急な坂道。

洞窟



ヒージャーガマ

【※編注：位置不明確のため、地図上には記載していない】

トゥタティハラガーの真ん中あたりにあるガマ。

→仲山屋取のヒージャーガマを見よ。

マテーシグワーガマ

トゥールガマとも言う。

→仲山屋取のトゥールガマを見よ。

池沼



カムドーグムイ

アラカーガーラの川岸にあった。水が豊富だった。

→仲山屋取のアラカーガーラを見よ。

湧水井戸



ウフイジュン

屋号サーターヤーニューヒングワー（砂糖屋根饒辺小）：30の西側にあった井戸。ニープで汲むことができた。日照りでも^{ひで}涸れなかった。立派なセメント^ぽ張りで、タンクみたいな造りだった。ウフイジュンから溢れた水は流れとなり、その下の方は洗濯場として利用されていた。

イジュングワー

屋号ジキラン（瑞慶覧）：27から南方向へ行ったところにあった井戸。

■キャンプ瑞慶覧（キャンプ・フォスター）：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。

■ガマ：洞窟。ほら穴。



《マテーシグワーガマ調査風景》

■ニープ：ひしゃく。

掘井戸



メーヌカー

共同井戸。メーヤジの人たちが飲み水として利用していた。ニープで水を汲むことができた。水量は少なく、日照りには涸れるのでナケーマヤードゥイ（仲山屋取）へ水汲みに行っていた。

■ニープ：ひしゃく。

製糖小屋



サーターヤー

製糖小屋。屋号イリクミシグワー（西米須小）：8と屋号ハナグスク（花城）：6の北側にあったサーターヤー。

サーターヤー

製糖小屋。屋号トゥミザトゥグワー（豊見里小）：20の西側にあったサーターヤー。

サーターヤー

製糖小屋。屋号カマーユヒングワー（蒲饒辺小）：35の北側にあったサーターヤー。

広場



ウフモー

ヤジヤードゥイ（屋宜屋取）とナケーマヤードゥイ（仲山屋取）の人たちがフナウクイをする場所として利用した。

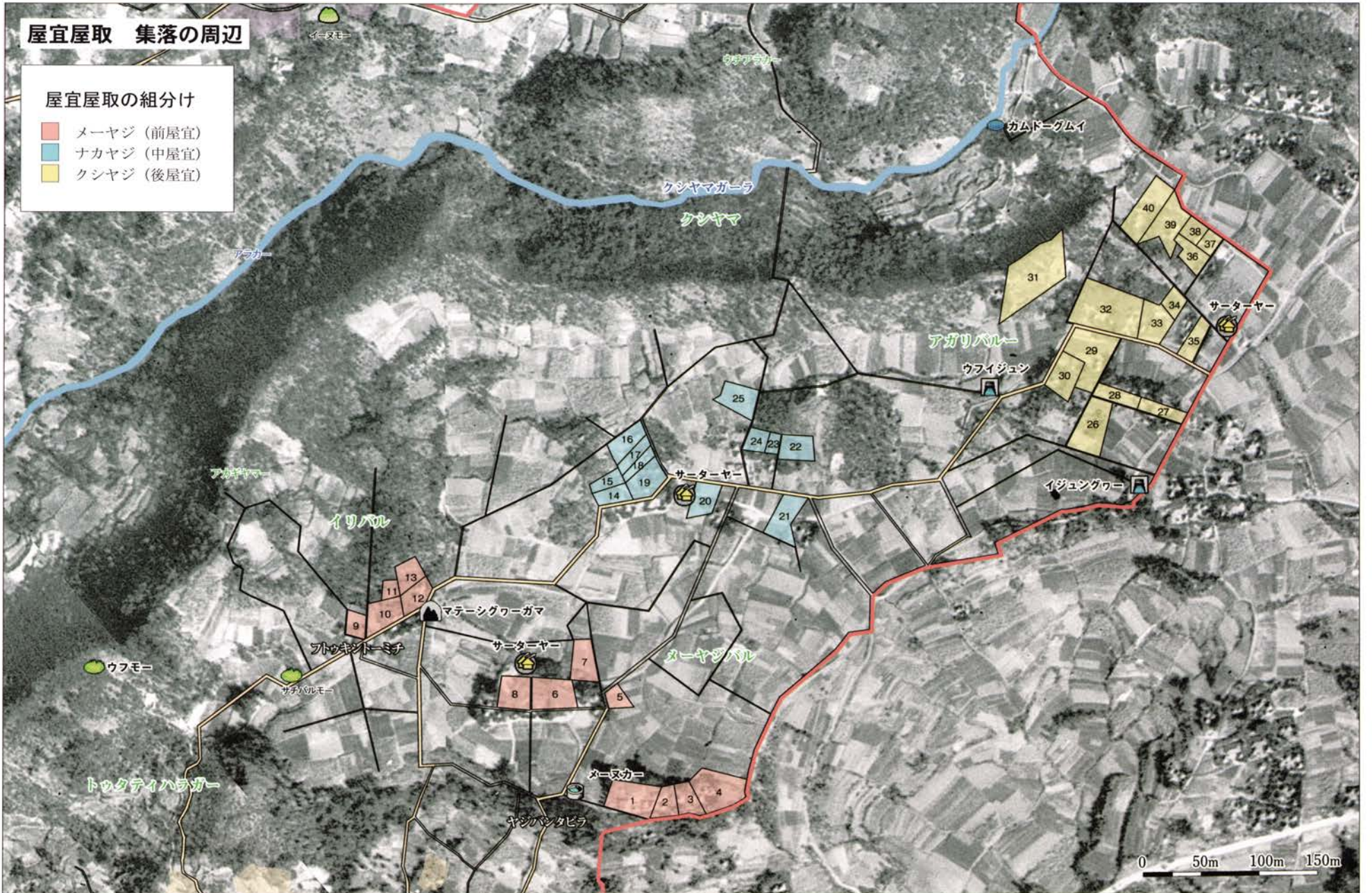
→仲山屋取のウフモーを見よ。

■フナウクイ：見はらしのいい場所から、旅に出る人の安全を願い、船を見送ること。

屋宜屋取 集落の周辺

屋宜屋取の組分け

- メーヤジ (前屋宜)
- ナカヤジ (中屋宜)
- クシヤジ (後屋宜)

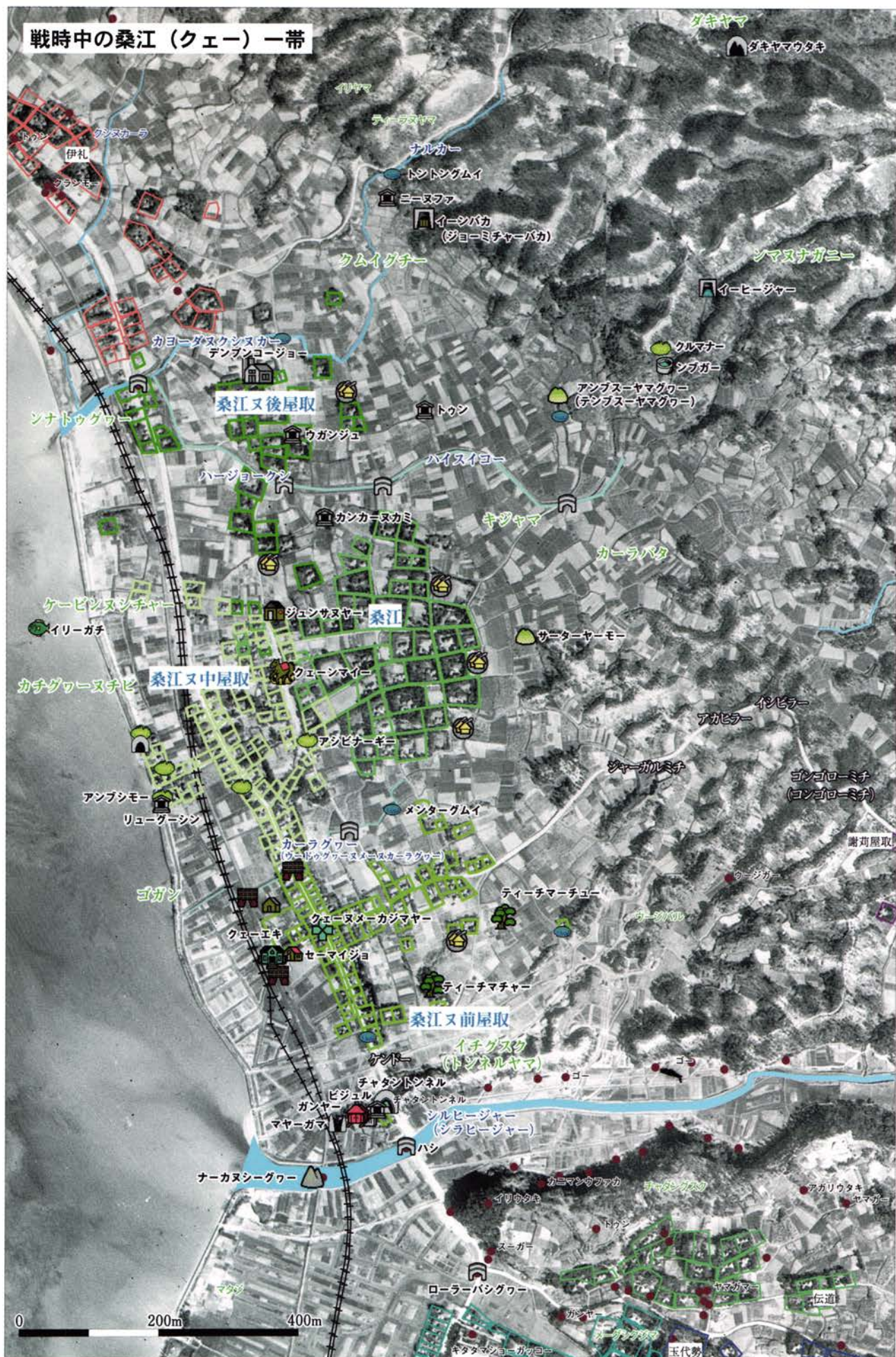


桑江一带

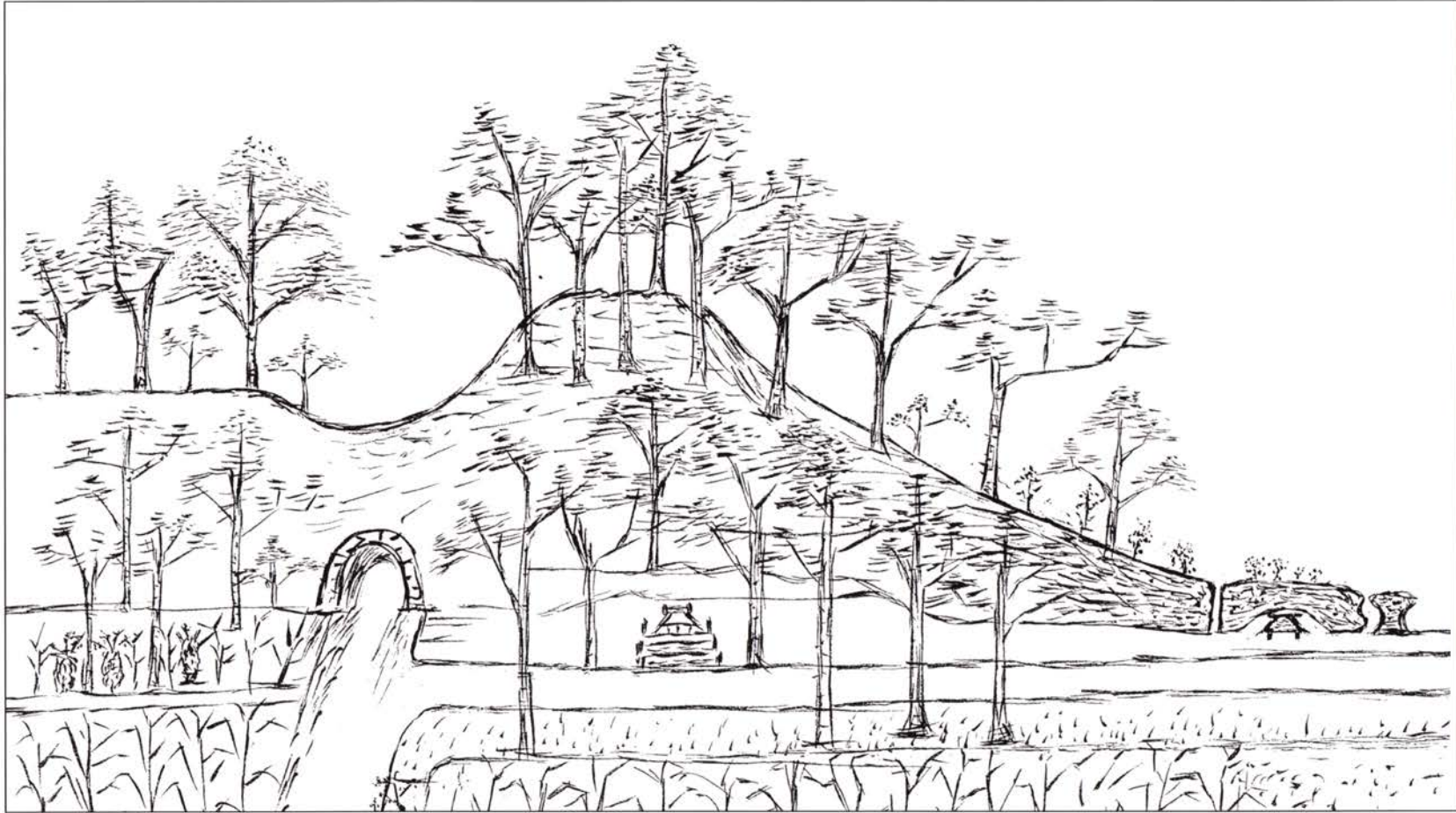




戦時中の桑江（クー）ー ー帯



～ チャタントンネルとその周辺 ～



《画・比嘉昌信氏》

桑江又前屋取

クエーヌメーヤードウイ

クェヌメーヤードゥイ（桑江ヌ前屋取）

北谷町域西側、ケンドー沿いの^{ヤードゥイ}屋取集落。北側はクェヌナカヤードゥイ（桑江ヌ中屋取）に隣接し、南側には沖縄で最初にできたと言われるチャタントンネルがあった。

戸数82軒で、そのうちカーラヤーが19軒あった。

集落名はクェヌメーヤードゥイ（桑江ヌ前屋取）だが、略称としてクェヌメー（桑江ヌ前）、クェーメー（桑江前）、メーヤードゥイ（前屋取）、クワマエ（桑前）と言うこともある。クェヌメーヤードゥイ（桑江ヌ前屋取）の人や近隣集落のあいだでは、メーヤードゥイと言うことが多かった。また、^{なかし}仲地姓が多いため、ナカチヤードゥイ（仲地屋取）とも言った。

主業は農業であった。砂地が多いので、^{らっかせい}落花生を作っていた。また、組合を作って、本格的にトマトの栽培・出荷をしていた。フィリピン、南洋移民が多く、働き盛りの青年は、ほとんど出稼ぎに行っていた。

集落を南北にケンドーが走っており、その道沿いには飲食店、マチヤ、写真館、理髪店、旅館などが立ち並んでいた。屋号クワシーヤーマグスク（菓子屋山城）：65のところにあったクェヌメーカジマヤーは他集落の人も知っているぐらいに有名だった。また、集落の西側にはクェエキがあり、交通の^{ようしよ}要所となっていた。そのため、クェヌメーヤードゥイ（桑江ヌ前屋取）は、人や荷馬車が行き交うにぎやかな集落として有名であった。

集落内は、深く掘らなくても水が出たので、井戸は各家にあった。つるべを1回で引き上げられる1m50cmぐらいの深さだった。海に近い集落だが、水は^{しおから}塩辛くなく、水質が良かった。

サーターヤーは共同のものが1か所、屋号サーターヤーチズカグワー（サーターヤー喜如嘉小）：38の南側にあったが、^{かでな}嘉手納製糖工場ができてからは、あまり利用されなくなっていた。

チャタントンネルとマヤーガマの中間ぐらいに^{はいしよ}拝所があった。祠の中に3体のビジュルがあり、クェヌメーヤードゥイ（桑江ヌ前屋取）だけではなく、クェー（桑江）、クェヌナカヤードゥイ（桑江ヌ中屋取）、クェヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）の人たちも^{おが}拝んでいた。

ムラヤーはなかったが、その代わりに、屋号カジマヤーターバグワー（カジマヤー田場小）：35に集まったりしていた。

ガンヤーは集落の南端にあった。ガンはクェー（桑江）、クェヌメーヤードゥイ（桑江ヌ前屋取）、クェヌナカヤードゥイ（桑江ヌ中屋取）、クェヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）の4集落合同で使用していた。

■カーラヤー：瓦ぶきの家。



〈聞き取り調査風景〉

■マチヤ：店。



〈聞き取り調査風景〉

■サーターヤー：製糖小屋。

■嘉手納製糖工場：沖縄製糖株式会社の嘉手納工場のこと。明治45（1912）年創業。

■ビジュル：霊石として祀られる石。

■ムラヤー：集落の集会所。

■ガンヤー：籠を納めておく小屋。

■ガン：籠。葬式のとき、死者の棺を入れて墓地まで運ぶためのもの。

フナウクイをする場所が2か所あった。チャタントネルの頂上あたりと、チャタングスク内にある北谷モーシーの墓とスーガーの間あたりの小高い丘で行なわれていた。煙をたてたり、女性たちが太鼓を叩いたりして船を見送った。主に紡績へ行く人たちに対して行なわれていて、昭和12(1937)年以降からは行なわれなくなった。

マーイサーは、ビジュル、サーターヤー、屋号ヒャージョー(比屋定):30のところなど、あちらこちらに置いてあった。7~8名が車座になって遊べるような場所や、ちょっとした広さがある道端などにあった。大・中・小の2~3個ほど置かれていた。これらのマーイサーは戦争でなくなってしまった。

学校はチャタントネル、シラヒージャー、チャタングスクを越えて、北玉尋常高等小学校へ通っていた。

【集落で行なわれる主な年中行事】

●旧暦2月<クシュクイー(ニングワチャー)>:13~30歳ぐらいのワカカタ、30~40歳ぐらいのナカカタ、50歳以上のトゥスイカタ(ウヤカタとも言う)の3か所に分かれ、ジュシーメーや肉などのごちそうを作り、3日間行なわれた。ヤードゥは持ち回りで、毎年変わる。1日目は晩から、それぞれのヤードゥで行なう。2日目は、年長者のところへ、代表者が挨拶へ行く。その日の晩には、トゥスイカタのところに、ワカカタもナカカタも集まり、組踊りや舞踊をして遊んだ。3日目は、そろってビジュルまで道ジュネーをした。ビジュルで解散となる。クシュクイーと同じ日に、学事奨励会や向上会も行なわれた。これらは昭和16(1941)年頃まで行なわれていた。

●旧暦7月<エイサー>:エイサーの練習は、屋号ヒャージョー(比屋定):30のところの空き地や、テツヤー(蹄鉄屋)のところの空き地などで行なわれた。ビジュルですることもあった。男性のみで行なわれた。1日目は晩から翌日まで集落内の各家を回った。特に新築の家はカーリーをつけるために優先的に回っていた。2日目も同じく、各家を回った。近くの集落へ行くこともあった。3日目は、道ジュネーをしながら、ビジュルへ行った。そこで拝んだら終了。

現在、集落域の東側はキャンプ桑江内である。しかし、西側のキューエキだったところは町立桑江中学校となり、その付近には店が立ち並んでいる。昔と同じく、にぎやかさをみせている。

■フナウクイ:見はらしのいい場所から、旅に出る人の安全を願い、船を見送ること。

■北谷モーシー:絶世の美声の持主と言われる伝説的な女性。

■紡績:大正・昭和期に盛んだった阪神や中京の製糸紡績工場への出稼ぎ。

■マーイサー:集落の広場などに置いてある大小の堅い、丸い石。青年たちが力試しをする。

■北玉尋常高等小学校:北谷尋常高等小学校の分教場であった。大正3(1914)年に北玉尋常小学校として開校し、大正6(1917)年に高等科を設けて北玉尋常高等小学校となった。

■クシュクイー:農繁期のあとにする骨休みの行事。

■ワカカタ:若者の組。

■ナカカタ:壮年の組。

■トゥスイカタ:年寄りの組。

■ジュシーメー:炊き込みご飯。

■ヤードゥ:一時的に集会所にあってられる家。

■道ジュネー:行事などのとき、芸を披露しながら道を練り歩くこと。

■学事奨励会:学童の勉強を励ます会。

■向上会:集落の産業を向上させるための会。優秀な人には賞状や賞品が与えられた。現在の産業まつりのようなもの。

■エイサー:旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。

■カーリー:めでたい、縁起のよいこと。

■キャンプ桑江(キャンプ・レスター):沖縄本島中部にある米海兵隊基地。米海軍病院がある。

桑江又前屋取 屋号地図

桑江又前屋取の家の配置
 (数字は屋号番号)

+++++ 鉄道

河川

道路

緑の文字
 地域の名称 (小さい文字は他の集落の呼び名)



クエヌメーヤードゥイ（桑江ヌ前屋取）

河川

シラヒージャー

クエヌメーヤードゥイ（桑江ヌ前屋取）とチャタン（北谷）の間を流れる川。昭和初期頃にはチャタンガーラと呼ばれるのが普通になっていた。

学校帰りには、シラヒージャーで泳いで遊んでいた。下流では家畜（馬・牛）に水浴びをさせていた。

現在の白比橋の下あたりに飛び石があり、橋が架かる前は、その飛び石を渡っていた。その中でも大きい石をナーカヌシーグワーと言う。

戦時中には川べりに特攻隊の基地があった。干潮時でも出撃できるようにするため、シラヒージャーを堰き止め、流水を調整できるように工事もされていた。海までレールが敷かれていた。

現在の白比川のことである。

→桑江のナーカヌシーグワーを見よ。

カーラグワー

クエヌメーヤードゥイ（桑江ヌ前屋取）とクエヌナカヤードゥイ（桑江ヌ中屋取）の境界を流れていた川。

川の北側にはクエヌナカヤードゥイ（桑江ヌ中屋取）の屋号ウードゥグワー（小渡小）があったので、ウードゥグワーヌメーヌカーラグワーと言うこともある。また、ウナガヌクシヌカー、ハイスイロとも言う。

川幅はそれほど大きくなかった。畑に降った雨水が海まで流れていた。

ンナジ（ウナギ）やターイユ（フナ）などがいた。雨が降った後、水量が増えると、橋の下でも釣りをしていた。水量が少ないときには、上流の方に水がちょっと溜まる場所があったので、そこで釣りをしていた。

→桑江のウードゥグワーヌメーヌカーラグワー、エキヌメーヌカーラグワー、桑江ヌ中屋取のカーラグワーを見よ。

丘陵

イチグスク

チャタントンネルが掘られた丘陵。トンネル開通後はトンネルヤマと言っていた。松林があり、30～40本ぐらいの松が生えていたが、昭和19（1944）年に、特攻隊の船の枕木にするために日



◀聞き取り調査風景▶

■日本陸軍の海上特攻隊（海上挺身隊）の特攻艇・マルレの秘匿壕：昭和20（1945）年3月29日深夜に、北谷村の基地から17隻が出撃したが、ほぼ全艇未帰還となった。



◀聞き取り調査風景▶

■日本陸軍の海上特攻隊（海上挺身隊）：白比川沿いに特攻艇・マルレの秘匿壕があった。

本軍に伐採された。

チャタントンネル開通前は、ビジュアルとマヤーガマの間から、4尺(1.2m)幅ぐらいの道があった。トンネルヤマを越えて、南側にあった屋号トンネルヤ-4の前に出る道で、その近くに幅70cm、高さ1m50cmぐらいの碑文があった。話者によると、全部漢字で書かれており、縦書きだったと言う。

地域・その他

ゴガン

シラヒージャーのあたりから、北へ向けて、海岸沿いにずっとゴガンが続いていた。ゴガンの切れ目から舟を出していた。馬車も通れるようになっていた。

ゴガンは昭和11~13(1936~38)年の頃に作られた。基礎工事は、砂を1mぐらい掘り、そこに直径15cmぐらいの松を橋のように組み、ボルトで留めていた。その上に石を積んでいた。

ゴガンが作られる前は、白浜でアダンが生えており、防風林となっていた。

県道

ケンドー

県道。集落の中を南北に走っていた。キューエキへ行く道と交差するところはキューヌメーカジマヤーと言い、店が立ち並び、人や荷馬車などが行き交う、交通の要所としてにぎやかな場所だった。

県道なので、県から工夫が2~3名来て、補修工事を行っていた。トラックで運んできた石を、道のあちらこちらに置いて、それを工夫がパーキグワーに入れて運び、窪んだところを埋めていた。話者によると、人手が足りない場合には区長に頼んで、集落の人たちが出る場合もあったかもしれないと言う。

戦争前には大きな工事はなかったが、戦争が激しくなる頃には日本軍が道幅を拡張していた。そのため、ケンドー沿いの屋敷の石垣が崩されたり、フクギなどの植木が伐採された。このような工事は国場組が請け負っていた。

現在の国道58号線である。

郡道

ジャーガルミチ

ジャーガルヤードゥイ(謝苺屋取)へと上る道。キューヌメーカジマヤーを通り、キューエキへ行く道とつながっていた。

現在の県道24号線を言う。戦前の謝苺入口よりも北側で、キャ



◀聞き取り調査風景▶

■工夫：道路・鉄道などの土木工事の作業員。

■パーキグワー：ざる・かごなど。

ンブ桑江第1ゲート（軍病院入口）あたりから始まり、北谷郵便局の湾曲したあたりに通っていた。この部分以外は、戦前の道と同じである。話者によると、ジャーガルミチというのは、道の側にあったジャーガルヤードウイ（謝苺屋取）と、粘土質の土質からついた名前ではないかと言う。

坂道

アカヒラー

ジャーガルヤードウイ（謝苺屋取）の屋号コンゴロトーヤマ（コンゴロー当山）へ行く坂道。ジャーガルミチの一部を言う。県道24号線とほぼ同じだが、戦前の道の始まりは、現在の謝苺入口よりも北側にあった。キャンプ桑江第1ゲート（軍病院入口）あたりから始まり、北谷郵便局の湾曲したあたりに通っていた。その部分が坂道になっており、アカヒラーと言った。周辺の山は赤土で赤く見えていた。

割れ目



マヤーガマ

イチグスクにあった割れ目。ガンヤー寄りにあった。上の方は1m80cmぐらいの幅が開いており、そこを助走をつけて飛び越すという遊びをしていた。高さは8mぐらいあった。

話者によると、マヤーガマの名称の由来はわからないと言う。

丘



アンブシモー

キュー（桑江）にあった。現在の県立北谷高等学校の下あたりである。大昔、その周辺まで海で、このアンブシモーに網を干していたという言い伝えがある。

→桑江のアンブスーヤマグワーを見よ。

アンブシモー

【※編注：位置不明確のため、地図上には記載していない】

チョーローヤマのところにあった。大昔、その周辺まで海で、そこに網を干す場所があったという言い伝えがある。

→タメーシ（玉代勢）のチョーローヤマを見よ。

池沼



クムイ

屋号カーラヤーカンジャーグワー（瓦屋カンジャー小）：3のところにあった。家畜（馬・牛）に水浴びをさせるのがやっとの広さだっ

■キャンプ桑江（キャンプ・レスター）：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。米海軍病院がある。

■ジャーガル：粘土質の灰色の土。ジャーガル土質で作られた芋は、大きいけど味はあまりよくない。



◀聞き取り調査風景▶



◀聞き取り調査風景▶

た。

クムイ

屋号ウフハマジョー（大浜門）：39のところにあったクムイ。

十字路

キューヌメーカジマヤー

集落内で一番大きなカジマヤー。屋号クワーシヤーヤマグスク（菓子屋山城）：65のところだったので、クワーシヤーカジマヤーとも言う。キューエキへ行く道とケンドーが交差するところだった。店が立ち並び、人や荷馬車などが行き交う、交通の要所としてにぎやかな場所だった。他集落の人たちも知っているぐらいに有名なカジマヤーだった。

→キュー（桑江）のクワーシヤーカジマヤーを見よ。

トンネル

チャタントンネル

キューヌメーヤードゥイ（桑江又前屋取）とチャタン（北谷）の間にあったトンネル。荷馬車が2台通れるぐらいの幅があった。高さは5mぐらいだった。

トンネルの頂上から、船が沖を通っていくのが見えたので、そこでフナウクイをしていた。

幅や高さがなく、大きな車は通れなかった。トンネル内の天井にはこすった跡がついていた。屋良飛行場の整備のためのトラックが通れなかったために、昭和19（1944）年の十・十空襲以後、日本軍によってダイナマイトで爆破された。爆破で出た瓦礫はもっこやスコップなどで人力で片づけていた。

駅

キューエキ

県営鉄道嘉手納線の桑江駅。キューヌメーエキ、キューヌエキとも言う。

無人駅ではなく、駅長がいた。嘉手納から那覇まで15駅あり、キューエキは大きな駅の1つだった。他には、安里駅・大山駅・嘉手納駅が大きかった。キューエキの周辺は店が多く、にぎやかだった。那覇以外で、マチャヤ写真屋まであるのは、キューエキと嘉手納駅ぐらいだった。グヤカジマヤー（現在のゴヤ十字路）のヤマシタという店から、キューエキまでの連絡馬車もあった。

具志川や越来などからも砂糖樽を運んできていた。キューエキか

■クムイ：池。沼。

■カジマヤー：十字路。道が交差するところ。



＜聞き取り調査風景＞

■フナウクイ：見はらしのいい場所から、旅に出る人の安全を願い、船を見送ること。

■屋良飛行場：昭和19（1944）年に日本陸軍が建設した飛行場。中飛行場。米軍に接收され、現在の嘉手納基地となった。

■十・十空襲：昭和19（1944）年10月10日、南西諸島に対して行なわれた米軍最初の大空襲のこと。

■沖縄県営鉄道 嘉手納線：嘉手納・野国・平安山・桑江・北谷・大山・真志喜・大謝名・牧港・城間・内間・安里・与儀・古波蔵・那覇の15駅があった。

■マチャヤ：店。

ら那覇へと運ばれた。駅の側には砂糖樽を保管する倉庫があり、その管理は、屋号ヤラグワー（屋良小）：76がしていた。

駅の側に、溜め池みたいなものがあり、そこから汽車の水を吸い上げ給水していた。蒸気機関車だった。

現在の町立桑江中学校のあたりである。

鉄橋



テッキョー

キューヌメーヤードウイ（桑江ヌ前屋取）とキューヌナカヤードウイ（桑江ヌ中屋取）の境界を流れていたカーラグワーに架かっていた鉄橋。

公共施設



セーマイジョ

精米所。屋号ヤラグワー（屋良小）：76の南側にあった。北谷村内で取れた米を精米していた。農業組合が管理していた。

建物



ゲキジョー

劇場。屋号イチバルグワー（池原小）：79の西側にあった。掘っ建て小屋で、客席は露天だった。話者によると、ゲキジョーを建てた人ははっきりわからないが、劇団が建てたのではないかと言う。地方回りの劇団がやってきて、一定期間滞在しては入れ替わるというかたちで、毎日芝居をしていた。くじ引や福引などもあり、米一俵などが当たった。昭和12～13（1937～38）年にできて、昭和18（1943）年頃までであった。

製糖小屋



サーターヤー

共同製糖小屋。1か所だけだった。屋号サーターヤーチズカグワー（サーターヤー喜如嘉小）：38の南側にあった。サーターグミはなかった。嘉手納製糖工場が盛んになってからは、サーターヤーはあまり利用されなくなっていた。話者によると、戦争で働き手が少なくなったせいもあると言う。

拝所



ビジュアル

チャタントンネルとマヤーガマの間にあった拝所。7～8段ぐらいの簡単な石積みの階段があり、そこを上ると香炉が置いてあ



◀聞き取り調査風景▶

■サーターグミ：製糖の作業をする組。

■嘉手納製糖工場：沖縄製糖株式会社の嘉手納工場のこと。明治45（1912）年創業。

■ビジュアル：霊石として祀られる石。

て、神様が祀られていた。三方を石で囲み、屋根も石造りの祠があった。1m四方ぐらいだった。背後には松の木が生えていた。昭和12～13(1937～38)年頃に、石造りからコンクリート造りで瓦屋根の祠に改築した。ビジュルは埋まっており、地上に40～50cmほどしか出ていなかったが、改築するとき掘り起こしてみると、1m20～30cmぐらいの高さがあった。他にもビジュルが出てきて、計3個になったので、3個並べて、祠の中に入れた。そのときに石段もコンクリート造りにした。話者によると、改築の費用はキュー(桑江)だけではなく、北谷村からも出たらしいと言う。

キュー(桑江)、キューヌメヤードウイ(桑江ヌ前屋取)、キューヌナカヤードウイ(桑江ヌ中屋取)、キューヌクシヤードウイ(桑江ヌ後屋取)の4集落の人たちが拝んでいた。旧暦2月2日のニングワチャーや、兵士が出征するときにも拝んでいた。

ビジュルの前は広場になっており、そこでラジオ体操やエイサーの練習をしていた。

現在、ビジュルは町立第四保育所入口あたりに移されて、祀られている。



《ビジュル》



《ビジュル》

- ニングワチャー：旧暦2月に行なわれる行事。集落や組単位で酒宴を開き、余興をして楽しむ。
- エイサー：旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。

馬場

クェーンマイー

桑江馬場。キュー(桑江)とキューヌナカヤードウイ(桑江ヌ中屋取)の間にあった。年に一度、ンマスーブが行なわれた場所である。マイサーも置いてあり、担いで遊んでいた。

→桑江のクェーンマイーを見よ。

- ンマスーブ：馬の飾りや歩き方の美しさを競う。
- マイサー：集落の広場などに置いてある大小の堅い、丸い石。青年たちが力試しをする。

龕屋

ガンヤー

キュー(桑江)、キューヌメヤードウイ(桑江ヌ前屋取)、キューヌナカヤードウイ(桑江ヌ中屋取)、キューヌクシヤードウイ(桑江ヌ後屋取)の4集落でガンとガンヤーを共同使用していた。

ガンヤーは崖のへこみに小屋を建て、その前に石積みをしてあるという簡単な造りだった。話者によると、ガンヤーのところは怖いのであまり行かなかったと言う。

ガンは喪家で組み立て、墓まで4名で担いで行った。ガンは前に2人、後ろに2人の合計4人で担いでいた。一度担いだら人を交代することができず、肩を変えることもできなかった。人の家の前で休んではいけなかった。ニンブチャーを先頭にして、ガンを担いだ4人と、芭蕉布をかぶった5～6人の泣き女がその後続いた。喪家以外、屋敷の門のところに霊が入ってこないようにという意味

- ガンヤー：龕を納めておく小屋。
- ガン：龕。葬式の時、死者の棺を入れて墓地まで運ぶためのもの。
- ニンブチャー：葬式のために鉦をたたき、念仏歌を歌う人。ときには経文を読み、僧の代わりをつとめた。

で、デアク（ダンチク）を置いた。デアクがない場合には、^{かまど}竈の灰を^ま撒いた。ガンは墓で^{かいたい}解体してから持ち帰って、ガンヤーに^{おさ}納めた。現在のまつしま歯科のあたりにあった。

標木 

ティーチマーチャー

ティーチマーチャーとも言う。サーターヤーの近くにあった一本松。ちょっと小高い岩から生えていた。岩はそんなに大きくなく、1m50cmぐらい盛り上がっていた。話者によると、ウコールが置いてあったが、誰が^{おが}拝んでいたかはわからないと言う。

ティーチマーチャーの下あたりにワクがあった。

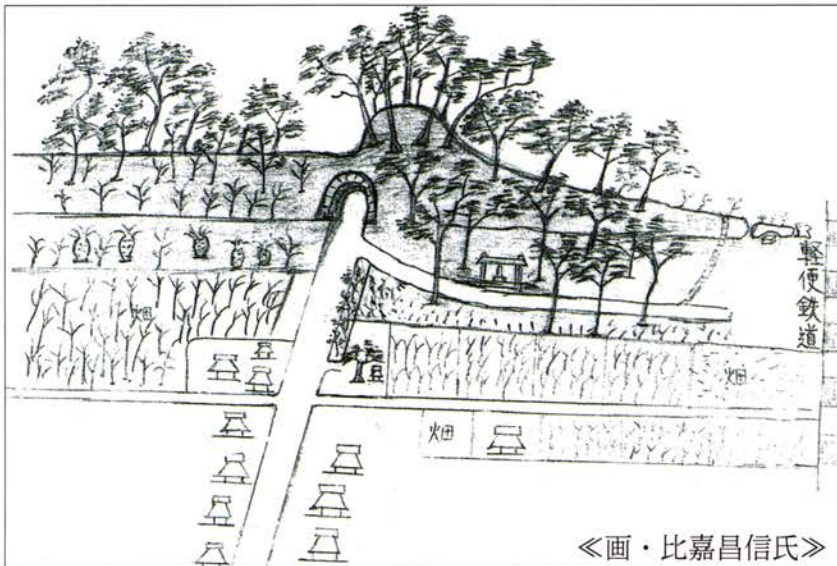
■ガン：竈。葬式の時、死者の棺を入れて墓地まで運ぶためのもの。

■ガンヤー：竈を納めておく小屋。

■ウコール：御香炉。線香をたてる炉。

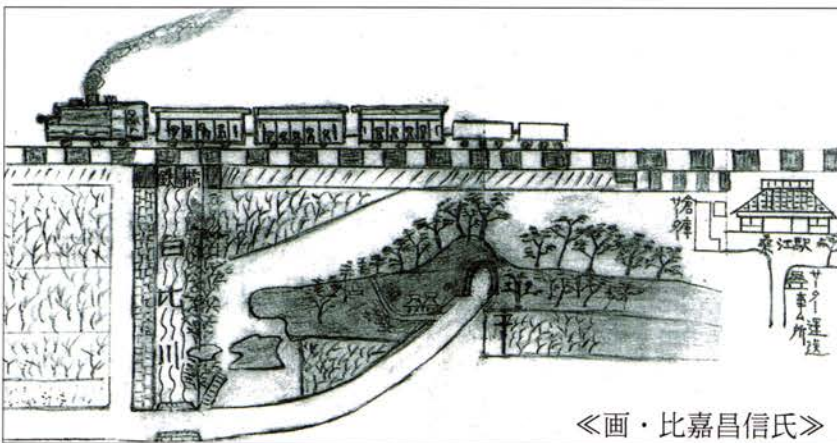
■ワク：湧き水。

「チャタントネル・ビジュール」



《画・比嘉昌信氏》

「軽便鉄道・桑江駅」



《画・比嘉昌信氏》

桑江駅周辺のにぎわい



番号	屋号	備考
	テツヤ マウチマサ (馬又爪クマサー)	蹄鉄屋。屋号ヒャージョー(比屋定):30の敷地を借りて作業場を作り、馬の蹄鉄をはめる仕事をしていた。桑江又前屋取の人ではなく、別のところから通ってきて仕事をしていた。
10	ユーフルヤ	風呂屋、鍛冶屋。日進食堂という食堂もしていた。鍛冶は鍬、釜、鍋などを作っていた。
12	ショーユ屋	醤油を仕入れてきて、それをおばあさんが売っていた。
13	マチヤ宮里小	宮里商店。雑貨、お菓子を売っていた。大きな店だった。
14	スパヤ仲地小	ソバ屋をしていたが、昭和10年代には廃業していた。家の造りは普通の民家だった。
15	トゥクータンメ	雑貨を売っていた。
16	豆腐屋城間小	豆腐を作って売っていた。
17	仲本	ブリキ屋、洋裁店、傘屋、理髪店、自転車屋。父がブリキ屋で、ジョウロややかんなどを作って売っていた。息子は洋裁店を開いて仕立てをしていた。店は家の向かいの屋敷を借りてやっていた。自転車は、越來村役場の職員の人がよく修理などで使っていた。
18	ハーヤ	歯医者。準医師。
20	マチヤ仲地小	商店。雑貨を売っていた。
21	駐車場真栄城	バシムチャー(馬車運送業者)の休憩所。お茶やちょっとした茶請けを出したりしていた。屋敷内に馬も馬車も10台ぐらいつなげる場所があった。
27	酒屋城間	酒を販売していた。大正の頃、首里から移ってきた。
58	チーチャー	北谷、屋宜仲山から牛乳を仕入れていたらしい。自転車で配達していた。
60	照屋旅館	簡易宿。
64	喜友名	理髪店をしていた。
65	菓子屋山城	山城菓子店。昭和12年頃までアイスクッキー(アイスクャンデー)、氷など菓子の製造と販売をおこなっていた。卸しを取って配達していた。
66	牧志	牧志写真館。商店と写真屋をしていた。通り沿いは雑貨商で奥は写真屋。
68	マチヤ渡嘉敷	瀬戸物屋。陶器、茶碗などの陶器類を売っていたほか、米などの食料品も売っていた。
73	ダンパチャー稲嶺	理髪店。ヤマチが南洋移民に出たあと、戦争直前の時期にダンパチャーナンミが入っていた。
74	新仲村渠	商店。タバコ、塩などの専売品を売っていた。
75	旅館小	宿を経営していた。宿泊部屋は3~4畳半ほどの広さだった。
76	屋良小	桑江駅に搬入・搬出する運送業者のとりまとめ役をしていた。大きな堀があり、鯉を養殖していた。一時期、ソバ屋もしていた。
78	醤油屋島袋	商店。雑貨、醤油などを売っていた。
79	池原小	池原商店。大きな新しい商店。
81	マチヤ仲地小	商店。そうめん、油、駄菓子、雑貨などを扱っていた。

桑江ヌ前屋取 集落の周辺



桑江又中屋取

クエーヌナカヤードウイ

クェーナカヤードゥイ（桑江又中屋取）

北谷町域西側、東シナ海に面する^{ヤードゥイ}屋取集落。集落の東側はクェー（桑江）、南側はクェーナメーヤードゥイ（桑江又前屋取）、北側はクェーヌクシヤードゥイ（桑江又後屋取）に隣接している。

戸数87軒で、そのうちカーラヤーが13軒あった。

集落名はクェーナカヤードゥイ（桑江又中屋取）だが、略称として、クェーナカ（桑江又中）、クェーナカ（桑江中）、ナカヤードゥイ（中屋取）、クワナカ（桑中）と言うこともある。昭和14（1939）年からショーワドーリ（昭和通り）の名がつき、そう呼ばれることもあった。

主業は農業と漁業であった。その他に雑貨商、専売品の売店、^{しょうゆ}醤油の製造・販売店、^{とうふ}豆腐屋、旅館などがケンドー沿いに立ち並んでいた。

漁業に携わる人が多く、網を干す場所である^ほアンブシモーが2か所あった。リュウゲーシンの北側にあったものは300坪ぐらいの広さで、3～4軒で使用していた。もう1か所は、ヘーヤチガマの北側にあり、500～600坪ぐらいの広さがあった。

井戸は各家にあったが、鉄道から海側の井戸には潮が混ざるので、飲み水は他に汲みに行っていた。

集落内にリュウゲーシンがあり、旧暦5月4日に^{おが}拝んでいた。

ガンヤーはクェーナメーヤードゥイ（桑江又前屋取）の南端にあった。クェーナメーヤードゥイ（桑江又前屋取）、クェーナカヤードゥイ（桑江又中屋取）、クェー（桑江）、クェーヌクシヤードゥイ（桑江又後屋取）の4集落合同でガンやガンヤーを使用していた。

【集落で行なう主な年中行事】

●旧暦2月2～3日<ニングワチャー（クシユクワシー）>：親睦会。ビジュルとリュウゲーシンを^{おが}拝む。男性のみで行なわれていた。13～25歳のワカカタ、25～39歳のナカカタ、40歳以上のトゥスイカタの3か所に分かれて行なっていたが、昭和12～13（1937～38）年頃からは、戦争のために人が少なくなったので、1か所で行なうようになっていた。若い人たちが先輩のところへ酒などを持って^{あいさつ}挨拶に行っていた。13歳以上から5～10銭の会費徴収があったが、^{ちやうしょう}グムチもあったので、そんなにお金を出さないうですんでいた。最終日にはサンミンジリが行なわれた。

●旧暦5月4日<ハーリー>：海神祭。リュウゲーシンを^{おが}拝む。クェーナカヤードゥイ（桑江又中屋取）を中心として、クェー（桑江）、クェーナメーヤードゥイ（桑江又前屋取）、クェーヌクシヤードゥイ（桑江又後屋取）の4集落合同で行なわれた。北谷村の^{ちやたんそん}三大祭りの1つだったので、費用は北谷村から出していた。中部地区

■カーラヤー：瓦ぶきの家。



《聞き取り調査風景》



《聞き取り調査風景》

■ガンヤー：籠を納めておく小屋。

■ガン：籠。葬式のとき、死者の棺を入れて墓地まで運ぶためのもの。

■ニングワチャー：旧暦2月に行なわれる行事。集落や組単位で酒宴を開き、余興をして楽しむ。

■ワカカタ：若者の組。

■ナカカタ：壮年の組。

■トゥスイカタ：年寄りの組。

■グムチ：集落の財産。

■サンミンジリ：決算報告。

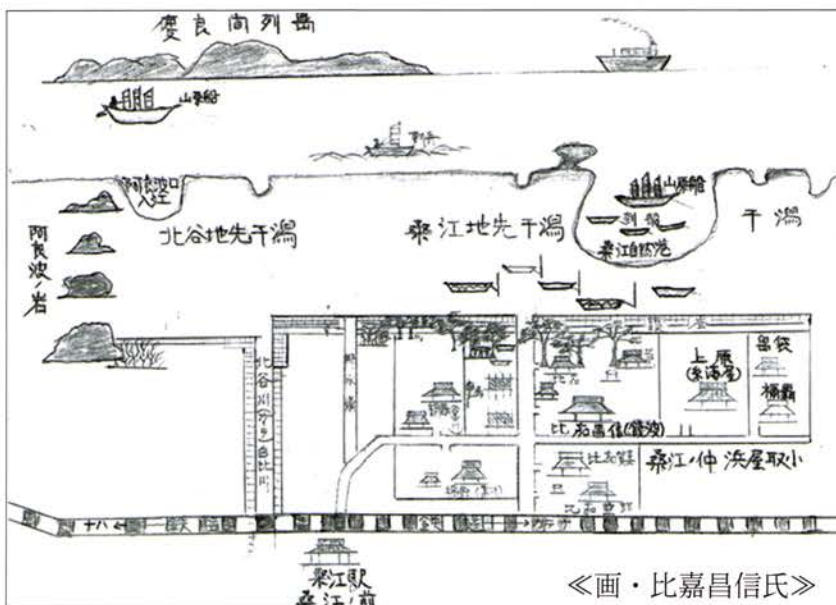
■ハーリー：旧暦5月4日に行なわれる船の競争行事。

■北谷村の三大祭り：①北谷長老祭 ②海神祭 ③野国総官祭

の人たちが見物にきた。ハーリーに使う船は、10日ぐらい前から陸揚げして手入れをしたり、旗を立てたりして準備していた。ウガンバーリーは2隻で、アガリバーリー（スーパバーリー）は3隻で行なわれた。1隻に12人乗っていたが、実際に漕ぐのは10人だった。残りの1人は鉦をうつ人で、もう1人は舵取りであった。クェヌナカヤードゥイ（桑江ヌ中屋取）の人を中心にして、クェヌ（桑江）、クェヌメヤードゥイ（桑江ヌ前屋取）、クェヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）の人たちも漕ぎ手として出ている。力量が偏らないように、漁労長が乗る人を調整し、決定していた。ハーリーは昭和16（1941）年頃まで行なわれていた。ハーリーを終えた後は、アンブシモーで沖縄相撲やムラ芝居が行なわれた。相撲は他集落からも参加者が集まった。嘉手納農林学校の生徒が多く出場していた。芝居は、クェヌナカヤードゥイ（桑江ヌ中屋取）の人が演じるムラ芝居であった。北玉尋常高等小学校から教壇を借りてきて、10畳ぐらいの広さで、高さ60～70cmの舞台を作っていた。

●旧暦7月13～15日<盆>：先祖への供物をガチに横取りされないために、ミンヌク、ガンシナ、カーサグワーに包んだ食べ物などを用意した。エイサーはクェヌナカヤードゥイ（桑江ヌ中屋取）のみで行ない、集落内の家を1軒ずつ回る。エイサーシンカの30～40名が入れる家は屋敷内で行ない、入れない場合は家の前の道で行なう。男性のみの参加で、空手の型のエイサーである。

集落域は、現在の58号線沿いとなる。東側は米軍に接收され、キャンプ桑江内となっている。西側は店が立ち並ぶ地域で、戦前の地形は変化してしまったものの、昔と同じく、にぎやかさをみせている。



- ハーリー：旧暦5月4日に行なわれる船の競争行事。
- ウガンバーリー：神仏への祈願として最初に行なわれるハーリー。
- アガリバーリー（スーパバーリー）：勝敗をかけて競いあうハーリー。
- ムラ芝居：集落の人たちが演じる芝居。
- 嘉手納農林学校：沖縄県立農林学校。国頭農学校がその前身。大正5（1916）年に嘉手納に移設された。
- 北玉尋常高等小学校：北谷尋常高等小学校の分教場であった。大正3（1914）年に北玉尋常小学校として開校し、大正6（1917）年に高等科を設けて北玉尋常高等小学校となった。
- ガチ：餓鬼。食をむさぼる霊。
- ミンヌク：餓鬼に供えるもの。
- ガンシナ：荷物を頭に乘せて運ぶ時に敷く、藁で編んだ丸い輪。
- カーサグワー：食べ物を盛ったり、包んだりする大きな葉のこと。
- エイサー：旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。
- エイサーシンカ：エイサー仲間。
- キャンプ桑江（キャンプ・レスタ）：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。米海軍病院がある。

桑江ヌ中屋取 屋号地図



	桑江ヌ中屋取の家の配置 (数字は屋号番号)		河川 (小さい文字は他の集落の呼び名)
	鉄道		道路 (小さい文字は他の集落の呼び名)
			地域の名称 (小さい文字は他の集落の呼び名)

キューヌナカヤードゥイ（桑江ヌ中屋取）

行政字名

ショーワードーリ

昭和通り。キューヌナカヤードゥイ（桑江ヌ中屋取）の別名。一部の有識者によってつけられた名称。昭和14（1939）年頃から昭和18（1943）年頃まで、一時的に使用されていた。

キューヌナカヤードゥイ（桑江ヌ中屋取）は、クワナカ（桑中）、ナカヤードゥイ（中屋取）と呼ぶことが多く、現在でもナカヤードゥイと言うほうが一番わかりやすい。

河川

カーラグワー

キューヌナカヤードゥイ（桑江ヌ中屋取）とキューヌメーヤードゥイ（桑江ヌ前屋取）の境界を流れていた川。排水路であった。

キュー（桑江）の聞き取り情報によると、川の北側にはキューヌナカヤードゥイ（桑江ヌ中屋取）の屋号ウッドゥグワー（小渡小）：1があったので、ウッドゥグワーヌメーヌカーラグワーとも言い、ウナガヌクシヌカーとも言う。

→桑江のウッドゥグワーヌメーヌカーラグワー、桑江ヌ前屋取のカーラグワーを見よ。

丘陵

トンネルヤマ

チャタントンネルが掘られた丘陵。トンネル開通前は、イチグシクと言っていた。松林があり、30～40本ぐらいの松が生えていたが、昭和19（1944）年に、特攻隊の船の枕木にするために日本軍に伐採された。

チャタントンネル開通前は、ビジュールとマヤーガマの間から、4尺（1.2m）幅ぐらいの道があった。トンネルヤマを越えて、南側にあったキューヌメーヤードゥイ（桑江ヌ前屋取）の屋号トンネルヤーの前に出る道で、その近くに幅70cm、高さ1m50cmぐらいの碑文があった。話者によると、全部漢字で書かれており、縦書きだったと言う。

→桑江ヌ前屋取のイチグシクを見よ。

イノー

ニシハラガー

クエーグチから入って北側の一带を言う。ニシヌトーングワーの



＜聞き取り調査風景＞

■日本陸軍の海上特攻隊（海上挺身隊）：白比川沿いに特攻艇・マルレの秘匿壕があった。

リーフ側^{がわ}一帯である。現在の浜川漁港^{はまがわ}の第1ポール^{さかい}を境にして、ニシハラガーとフェーハラガーに分かれる。

漁師^{しお}は、潮の流れによって、ハンジャンイノーとニシハラガーをはっきり区別していたが、一般の人はニシハラガー付近も含めて、全体をハンジャンイノーと言っていた。

フェーハラガー

現在のサンセットビーチの下あたり。現在の浜川漁港^{はまがわ}の第1ポール^{さかい}を境にして、ニシハラガーとフェーハラガーに分かれる。

カチャーラ

【※編注：記載した地図の範囲外にあるため、地図上には記載していない】

フェーハラガーの南側にあった。カチ^{いしづ}があったところで、石積みが残っていた。

カチグワーヌチビ

イリーガチの下にあった。

津口

クェーグチ

サンゴ礁の切れ目から船が出入りできる場所であった。クチを含めてクェーナトウと言うこともある。潮^{しお}が引いたときに、ある程度の水深^{すいしん}があった。話者によると、入り江の下は10mぐらいの深さがあり、一番深いところでは17～18mぐらいあったのではないかと言う。そこで旧暦5月4日の干潮時^{かんちよう}にはハーリーが行なわれていた。ハーリーを行なうのは、クェーナカヤードウイ（桑江又中屋取）の人たちが中心で、周囲の集落の人たちは見物^{けんぶつ}に来ていた。薪^{たきぎ}などを積んだ山原船^{つ やんばるせん}も来ていた。その船員が水汲みに来たり、船頭^{せんどう}が酒やタバコ買いに来たりしていた。そうめん^{こんぶ}・昆布^ななどを那覇^はから積んで来て、山原に帰るときに寄ったりするようだった。昔は砂糖も積んで行った。

6～7月頃には、クェーグチにガチュン（アジ）が入ってきていた。

現在のサンセットビーチのあたりである。

→桑江又後屋取のクェーナトウを見よ。

ニシヌトーングワー

【※編注：記載した地図の範囲外にあるため、地図上には記載していない】

クェー（桑江）の聞き取り情報によると、沖に向かって、クェーグ



◀聞き取り調査風景▶

■カチ：魚垣。魚を捕るために浅瀬に積んだ石垣。

■ハーリー：旧暦5月4日に行なわれる船の競争行事。

■山原船：沖縄本島北部、俗称ヤンバルと中南部を往来していた交易船。

チの北側がニシヌトーングワーで、その反対側はフェーヌトーングワーであると言う。3月の干潮かんちようのときは腰ぐらいの深さだが、大潮おおしおのときは2mぐらいの深さになる。ニシヌトーングワーは、フェーヌトーングワーに比べて少し浅かった。また、冬にはフェーヌトーングワーより早く波が来ていた。ニシヌトーングワーは、天気の良いときに漁をしており、ハイユ（サユリ）、シージャ（ダツ）などの魚が捕れた。しかし、サンゴが多く、踏み潰つぶしてからでないとな網を張ることができなかった。また、ブナー（フグ）も多く、網を食い破られることもあった。ニシヌトーングワーは、いい魚が捕れるが、これらの理由で、フェーヌトーングワーを利用することが多かった。

フェーヌトーングワー

クエー（桑江）での聞き取り情報によると、沖に向かって、クエーグチの南側がフェーヌトーングワーで、その反対側はニシヌトーングワーであると言う。ちょっとした入り江になっており、深いところは7尋（10.5m）ぐらいだった。大きい船は入れないが、小舟はゆっくりとなら入ることができた。潮しおが出入りするため、魚の出入りも多く、追い込み漁のときにはクチを使った。建干網たてぼしによく利用していた。

スニ

ムーズニ

【※編注：記載した地図の範囲外にあるため、地図上には記載していない】

現在のハンビーの下のあたりで、イノーの外側。サザエ・ヒロセ貝・タカセ貝などの貝が多く取れた。満潮時に1m50cm～60cmぐらいの深さだった。

普段は岩は見えないが、旧暦の3月3日には水面に出る。

地域・その他

ゴガン

護岸ぼうふうりん。防風林としてアラン（アダン）が植えられていた。

→桑江のゴガンを見よ。

県道

ケンドー

集落の中を南北に走っていた。

現在の国道58号線である。

→桑江のケンドーを見よ。



＜聞き取り調査風景＞

■イノー：礁池。

郡道

ジャーガルミチ

キューヌメーヤードウイ（桑江ヌ前屋取）の屋号ヤラグワー（屋良小）の前を^{とお}通って、ジャーガルヤードウイ（謝苺屋取）へと^{のぼ}上る道。

現在の町立^{くわえ}桑江中学校のところから、キャンプ^{くわえ}桑江内を通り、北^{ちや}谷^{たん}郵便局へとつながっていた。

→桑江ヌ前屋取のジャーガルミチを見よ。

■キャンプ桑江（キャンプ・レスター）：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。米海軍病院がある。

生活道

ワチナグイスージ

スージグワーの1つ。屋号ワチナグイ（湧稲国）：85の前を^{とお}通る道。ケンドーとクェーンマイーを結ぶ道だった。

■スージグワー：路地。小道。

クラニスージ

スージグワーの1つ。屋号クラニー：67の前を^{とお}通る道。ケンドーとクェーンマイーを結ぶ道だった。

ニーファグワースージ

スージグワーの1つ。屋号ニーファグワー（禰覇小）：24の前を^{とお}通る道。道幅は3mで、馬車が1台通れるぐらいの道幅で、2台すれ違うことはできなかった。ケンドーとクェーンマイーを結ぶ道だった。道の両側は何百年もたつようなフクギ並木があった。太さが1mぐらいあるようなフクギだった。昼でも薄暗く、子どもにとっては^{こわ}怖い感じの道だった。しかし、大人にとっては、フクギ並木があるため、真夏でも涼しく、お母さんたちが^{ジューバタ}地機織りをする場所になっていた。

■地機織り：脚のない布織機で、地面に座って布を織ること。

ンナンミスージ

スージグワーの1つ。屋号ムランナンミ（村稻嶺）：13につながる道。道幅は1mぐらいだった。テラグワースージとヒラカースージへと合流する道。

テラグワースージ

スージグワーの1つ。屋号テラグワー（平良小）：14の前の道。道幅は5mあり、馬車が^{ちが}すれ違えるぐらいだった。クェーンマイーとケンドーを結ぶ道だった。ンナンミスージと合流するところから、クェーンマイーまでの範囲を言う。ケンドーに向かう道は、ヒラカースージと言う。

ヒラカースージ

スージグワの1つ。屋号ヒラカー（平川）：9の前の道。道幅は5mあり、馬車がすれ違^{ちが}えるぐらいだった。ケンドーとクェーンマイヤーを結ぶ道である。ンナンミスージと合流するところから、ケンドーまでの範囲を言う。クェーンマイヤーに向かう道は、テラグワースージと言う。

割れ目

マヤーガマ

トンネルヤマにあった割れ目。上の方は1m80cmぐらいの幅があった。

→桑江ヌ前屋取のマヤーガマを見よ。

野原

アンプシモー

漁師が網を干す場所。2か所あったうちの1つ。リュウグーシンの北側にあった。300坪ぐらいの広さがあり、3～4軒ぐらいで使用していた。芝^{しばふ}生が生えていた。

旧暦5月4日のハーリーの後には、このアンプシモーで沖縄相撲や芝居が行なわれていた。

現在は道になっている。北谷町公共駐車場東側、北谷運動公園前バス停あたりである。

アンプシモー

漁師が網を干す場所。2か所あったうちの1つ。ヘーヤチガマの北側にあった。500～600坪ぐらいの広さがあった。屋号イチマンヤー（糸満屋）が主に使っていた。

昭和17（1942）年頃には畑になっていた。

現在の北谷町公共駐車場東側あたりである。

魚垣

イリーガチ

キュー（桑江）の聞取り情報によると、ヘーヤチガマの下の方で、ゴガンから20～30mぐらい離れたところにあったと言う。

→桑江のイリーガチを見よ。

湧水井戸

ウミノカーグワ

【※編注：位置不明確のため、地図上には記載していない】

ウミノカーとも言う。話者によると、海の井戸という意味ではな

■スージグワ：路地。小道。



＜聞き取り調査風景＞

■ハーリー：旧暦5月4日に行なわれる船の競争行事。

■カチ：魚垣。魚を捕るために浅瀬に積んだ石垣。

いかと言う。リュウグーシンの近くにあった。水が出て、海へと流れていた。

現在は埋め立てられ、美浜^{みはま}となっている。

→キューヌナカヤードウイ（桑江ヌ中屋取）のリュウグーシンを見よ。

橋

ハシ

シラヒージャーに架かっていた橋。昭和20（1945）年3月頃に米軍が渡れないようにするため、日本軍によって爆破された。

→桑江ヌ前屋取のシラヒージャーを見よ。

トンネル

チャタントンネル

キューヌメーヤードウイ（桑江ヌ前屋取）とチャタン（北谷）の間にあったトンネル。荷馬車が2台通れるぐらいの幅があった。高さは5mぐらいだった。昭和19（1944）年末～20（1945）頃に日本軍によってダイナマイトで爆破された。爆破で出た瓦礫はもっこやスコップなどで人力で片づけていた。

→桑江ヌ前屋取のチャタントンネルを見よ。

駅

キューヌエキ

キューヌメーヤードウイ（桑江ヌ前屋取）にあった県営鉄道嘉手納線の桑江駅。嘉手納から那覇まで15駅あった。

駅の側に、溜め池みたいなものがあり、そこから汽車の水を吸い上げていた。蒸気機関車だった。

具志川や越来などからも砂糖樽を運んできていた。キューヌエキから、那覇へと運ばれた。砂糖樽を入れておく倉庫もあり、その管理は、キューヌメーヤードウイ（桑江ヌ前屋取）の屋号ヤラグワー（屋良小）がしていた。

現在の町立桑江中学校のあたりである。

→桑江ヌ前屋取のキューヌエキを見よ。

鉄橋

テッキョー

両端はセメントで、そこに枕木を置き、レールを敷いたものだった。排水路の上を汽車が走れるようにしただけの小さい橋で、3mぐらいだった。



＜聞き取り調査風景＞

■沖縄県営鉄道 嘉手納線：嘉手納・野国・平安山・桑江・北谷・大山・真志喜・大謝名・牧港・城間・内間・安里・与儀・古波蔵・那覇の15駅があった。

公共施設

セーマイシヨ

精米所。農業組合のもので、北谷村内で取れた米を精米していた。

→桑江ヌ前屋取のセーマイシヨを見よ。

灰焼窯

ヘーヤチガマ

テーブルサンゴを海から取ってきて焼いていた場所。炭焼き窯のような形をしており、ゴガンと一つになっていた。満潮時には、船をつけて、ゴガンの上を取ってきたサンゴを置くことができた。焼いたものはヘー、あるいはサーターペーと言い、石灰のことである。製糖のときに砂糖を固めるために入れたり、ムチに使ったりする。また、ヘーを水に溶かし、それを草にかけて、肥やしを作ったりもした。サバニの苔落としなどにも使っていた。

ヘーヤチガマの持ち主は、クエー（桑江）、クエーヌメーヤードゥイ（桑江ヌ前屋取）、クエーヌナカヤードゥイ（桑江ヌ中屋取）、クエーヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）の人ではなく、どこからか通ってきており、毎日焼いていたわけではなかった。話者によると、この人がどこに売っていたかはわからないと言う。昭和13～14（1938～39）年頃までやっていた。

■ムチ：しっくい。防風用として屋根瓦の接合に多く用いられる。

■サバニ：松や椎の木で作った沖縄の伝統的な漁船。

拝所

リュウゲーシン

龍宮神。最初は屋敷内の井戸の側にあったが、昭和11～12（1936～37）年頃に、ゴガンのすぐ側にあった広場に移した。戦後、ゴガンはなくなったが、リュウゲーシンは同じ場所に新しく作り直した。

旧暦5月4日のハーリーのとくに拝む。

現在の北谷町公共駐車場の近くにある。



＜龍宮神＞

■ハーリー：旧暦5月4日に行なわれる船の競争行事。

ビジュル

チャタントンネルとマヤーガマの間にあった拝所。5～6段の階段があり、そこを上がると香炉が置いてあって、神様が祀られていた。

昭和12～13（1937～38）年頃に、石造りからセメント造りになった。三方を囲み、屋根もある造りだった。

旧暦2月2日のニングワチャーのときに拝んでいた。クエーヌナカヤードゥイ（桑江ヌ中屋取）だけではなく、クエー（桑江）、クエーヌメーヤードゥイ（桑江ヌ前屋取）、クエーヌクシヤードゥイ

■ニングワチャー：旧暦2月に行なわれる行事。集落や組単位で酒宴を開き、余興をして楽しむ。

(桑江ヌ後屋取)の4集落が^{おが}拝んでいた。
→桑江ヌ前屋取のビジュアルを見よ。

馬場

クェーンマイー

桑江馬場。年に一度、ンマスーブが行なわれていた場所。
→桑江のクェーンマイーを見よ。

■ンマスーブ：馬の飾りや歩き方の美しさを競う。

広場

アシビナーギー

クェーンマイーの一角で、屋号トゥクーマージャ（徳マージャ）：19の東側にあった。1mぐらい盛り上がり、大きなガジマルの木があった。10坪ぐらいの広さがあった。話者によると、昭和12（1937）年頃まで、クェー（桑江）、クェーヌメーヤードゥイ（桑江ヌ前屋取）、クェーヌナカヤードゥイ（桑江ヌ中屋取）、クェーヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）の4集落合同でムラ芝居をしていたと言う。
→桑江のアシビナーギーを見よ。

■ムラ芝居：集落の人たちが演じる芝居。

アシビモーグラー

屋号ニーファグラー（禰覇小）：24の西側にあった広場。ケンドーより1mぐらい上がり、石が積まれていた。4畳ぐらいの広さがあった。涼み場所だった。

フナウクイモー

屋号イチマンヤー（糸満屋）：51の南側にあった広場。50坪ぐらいの広っぱで、何百年もたつような大きなガジマルとユーナ（オオハマボウ）の木が生えていた。幹は2人でも抱えきれないぐらい太かった。雨が降っても、木の下だと濡れなかった。
フナウクイをする場所で、アンマーたちが集まって行なっていた。



《聞き取り調査風景》

■フナウクイ：見はらしのいい場所から、旅に出る人の安全を願い、船を見送ること。

■アンマー：お母さん。

龕屋

ガンヤー

クェーヌメーヤードゥイ（桑江ヌ前屋取）にあった。ガンやガンヤーは、クェー（桑江）、クェーヌメーヤードゥイ（桑江ヌ前屋取）、クェーヌナカヤードゥイ（桑江ヌ中屋取）、クェーヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）の4集落共同で使用していた。
→桑江ヌ前屋取のガンヤーを見よ。

■ガン：龕。葬式のとき、死者の棺を入れて墓地まで運ぶためのもの。

■ガンヤー：龕を納めておく小屋。

桑江ヌ中屋取 集落の周辺



桑江

クエー

クエー（桑江）

北谷町域西側に位置する集落。その周りには3つの屋取集落があった。北側はクエーヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）、西側はクエーヌナカヤードゥイ（桑江ヌ中屋取）、南側はクエーヌメーヤードゥイ（桑江ヌ前屋取）に隣接していた。

戸数は47軒で、そのうちカーラヤーは9軒あった。ほとんどの家が100坪ぐらいの広さがあり、母屋、アサギグワー（メーヌヤグワー）、豚小屋、炊事小屋なども別々に作ってあった。土質はほとんど砂地だった。話者によると、軽便鉄道の線路を作るときに、各家の敷地内から砂を掘って、売っていたという話を聞いたことがあると言う。そのため、どの家にも砂を掘った後の丸い穴があり、そこに池を作り、アヒルを飼っていた。

クエーヌマイーの一番北端には、ジュンサヌヤーがあり、「嘉手納警察署 桑江駐在所」の看板がかかっていた。首里から来た巡査と、その家族が住んでいた。

ムラヤーはなかったが、屋号ユナグスク（与那城）：21に集まったりしていた。エイサーの最終日には、そこに報告に行き、慰労会のようなこともしていた。

集落内は2mぐらい掘れば水が出るので、ほとんどの屋敷に井戸があった。2m50cmぐらい掘れば、そのうち1mは水が溜まっていた。大雨の場合はさらに水位が上がって、ニープで水を汲むことができた。

組分けは集落の中央の道を境にして、北側はクシンダカリ、南側はメンダカリの2つに分けられた。

サーターヤーは2か所あり、屋号チカジャングワー（津嘉山小）：5の南隣がメンダカリ、屋号ホーイ：16の東隣がクシンダカリのサーターヤーだった。以前は、屋号イリー（伊礼）：36近くにもあったようだ。また、クエーヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）の話者によると、クエーヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）の屋号ナンヨーチニングワー（南洋知念小）の南隣にあったサーターヤーは、ムラヌサーターヤーと呼ばれており、クエー（桑江）のものだったと言う。

ゴガンの切れ目のところから浜に下りたところでフナウクイをしていた。アダンや浜に打ち寄せられたものを燃やして煙を出し、アンマーやオーバーたちが、テークグワーを叩き、ダンジュカーリーをして踊り、旅に出る人を見送っていた。以前は、サーターヤーモーの側にあるちょっとした広場でも行なわれていたと言う。

クエーヌマイーがあり、昭和17（1942）年頃まで、馬勝負をしていた。朝10時頃から、昼をはさみ、夕方頃までやっていた。ひげを生やし、クンジーを着た年寄りが審判をしていた。北谷村外の



《聞き取り調査風景》

■カーラヤー：瓦ぶきの家。

■アサギグワー：農村などで母屋の前にある離れ。メーヌヤー（前の屋）とも言う。



《聞き取り調査風景》

■ムラヤー：集落の集会所。

■エイサー：旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。

■ニープ：ひしゃく。

■サーターヤー：製糖小屋。

■フナウクイ：見はらしのいい場所から、旅に出る人の安全を願い、船を見送ること。

■アンマー：お母さん。

■オーバー：おばあさん。

■テークグワー：太鼓。

■ダンジュカーリユシ：船出の祝い歌。身内のものが旅をするとき、一族が集落の広場あるいは高台に集まって航海の無事を祈願し、これを歌った。

■馬勝負：馬の飾りや歩き方の美しさを競う。

■クンジー：藍染の着物。

読谷村、中城村などからも来ていた。キュー（桑江）の人たちも参加していた。また、キューンマイーには昭和15～16（1940～41）年頃に作られた鉄棒があった。五寸角ぐらいの杉材やパイプなどで作られたもので、高いものが1つ、中ぐらいのものが1つ、低いものが3つの計5つぐらいあった。キューヌナカヤードゥイ（桑江ヌ中屋取）の屋号ナカチグワー（仲地小）の家の前、西側にあった。砂場もあった。他にもキューンマイー内には、マーイサーもあった。話者は楕円形とやや丸形の2つは覚えていると言う。別の集落の人がマーイサーを自分の集落へ持って行き、持ち帰れるなら持っていってみろという風に勝負することもあったようだ。

浜や、チャタントネルの下の拝所のところでモーアシビをしていた。昭和5（1930）年生の話者が小学校5～6年生の頃まで行なわれていたのを覚えていると言う。戦争のため、取締りが入るようになってからは、やらなくなった。

話者によると、キュー（桑江）とチャタン（北谷）はチャタントネルを隔てただけだが言葉が違うと言う。

【集落で行なわれる主な年中行事】

●旧暦2月1～3日<ニングウチャー>：男性のみの参加で、3日間行なわれた。メンダカリとクシンダカリに分かれ、さらに13～25歳ぐらいまではワカカタ、30代はナカカタ、50代以上はトゥスイカタの3組に分かれて行なっていた。トゥスイカタのところにワカカタとナカカタは挨拶に行っていた。13歳以上の人からは10銭ぐらい会費として徴収された。2日目は、皿に豆腐や蒲鉾を盛り、真ん中に芭蕉を立てたシンムイを持って、ビジュルやトゥンをおがに行つた。シンムイを持つのはワカカタであった。3日目は役員がかかった費用のサンミンをした。

●旧暦6月<綱引き>：メンダカリとクシンダカリに分かれて行なう。屋号ナカミチジャチングワー（中道座喜味小）：34のアジマーで綱を引く。

●旧暦7月15～17日<エイサー>：大太鼓としめ太鼓を用いてエイサーを行なった。3日目には、屋号ユナグスク（与那城）：21に行き、神さまに無事終了したという報告を行なった。そこで慰労会のようなこともしていた。

集落域は米軍に接收され、キャンプ桑江内となっている。現在の軍病院あたり一帯である。そのため、人々は他集落に分散して暮らしているが、郷友会を中心にさまざまな行事を行ない、親睦を深めている。



◀聞き取り調査風景▶

■マーイサー：集落の広場などに置いてある大小の堅い、丸い石。青年たちが力試しをする。

■モーアシビ：農村で夜、若い男女が野原に出て遊ぶこと。三味線・歌・踊りなどをして楽しむ。

■ニングウチャー：旧暦2月に行なわれる行事。集落や組単位で酒宴を開き、余興をして楽しむ。

■ワカカタ：若者の組。

■ナカカタ：壮年の組。

■トゥスイカタ：年寄りの組。

■シンムイ：ごちそうの盛りつけ。

■サンミン：計算。勘定。

■アジマー：交差点。

■エイサー：旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。

■キャンプ桑江（キャンプ・レスタ）：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。米海軍病院がある。



	桑江の家の配置 (数字は屋号番号)		河川 (小さい文字は他の集落の呼び名)
			道路 (小さい文字は他の集落の呼び名)
	鉄道		緑の文字 地域名称 (小さい文字は他の集落の呼び名)

キュー（桑江）

村渠

メンダカリ

綱引きのときの組分けの1つ。集落の中央を東西に走る屋号ホーイ:16からキューンマイーにつながる道を境さかいにして分けていた。道から南側がメンダカリである。

クシンダカリ

綱引きのときの組分けの1つ。集落の中央を東西に走る屋号ホーイ:16からキューンマイーにつながる道を境さかいにして分けていた。道から北側がクシンダカリである。

集落

キューヌメヤードゥイ

桑江ヌ前屋取。キューヌメ（桑江ヌ前）、キューメー（桑江前）、クワマエ（桑前）、メヤードゥイ（前屋取）とも言う。

キューヌナカヤードゥイ

桑江ヌ中屋取。キューヌナカ（桑江ヌ中）、キューナカ（桑江中）、クワナカ（桑中）、ナカヤードゥイ（中屋取）とも言う。

キューヌクシヤードゥイ

桑江ヌ後屋取。キューヌクシ（桑江ヌ後）、キュークシ（桑江後）、クワクシ（桑後）、クシヤードゥイ（後屋取）とも言う。

ジャーガルヤードゥイ

謝菴屋取。大正時代まで字桑江あざに属し、青年団もキュー（桑江）と一緒にいたので、キュー（桑江）のエイサーはジャーガルヤードゥイのぼ（謝菴屋取）の方まで上って行った。しかし、婚姻こんいんなどのつきあいはあまりなかった。昆布こんぶ、そうめん、酒などを売る小さな商店があった。

河川

ナルカー

キューヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）とイリー（伊礼）との境界きょうかいを流れていた川。

ハージョークシ

キューヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）の屋号ウフハージョー



《聞き取り調査風景》



《聞き取り調査風景》



《現地調査風景》

(大比屋定)の後ろから流れていたの、ハージョークシと言う。流れはナルカーに合流していた。

昭和9～13(1934～38)年頃に、いくつもの小さな流れを大きくして、最後には合流するようにした排水工事が行なわれた。そのため、この流れをハイスイコーとも言う。

上流はそれほど深くなく、脛ぐらいの深さで、幅は土手と土手の間でみると3～4mぐらいたった。土手は石やコンクリートで造られていた。

このハージョークシの流れには、コンクリート造りのハシグワーが架かっていた。

ウードゥグワーヌメヌカーラグワー

キューヌメヤードゥイ(桑江ヌ前屋取)とキューヌナカヤードゥイ(桑江ヌ中屋取)の境界を流れていた川。

川の北側にはキューヌナカヤードゥイ(桑江ヌ中屋取)の屋号ウードゥグワー(小渡小)があったので、ウードゥグワーヌメヌカーラグワーと言う。また、ウナガヌクシヌカーとも言う。

常に水は流れており、橋が3か所架かっていた。ミーミチと交差するところにはコンクリート造りのハシグワーが架かり、ケンドーとテツドーが交差するところにはテッキョーが架かっていた。テッキョーを越えたあたりの流れはエキヌメヌカーラグワーと言う。

ンナジ(ウナギ)やターイユ(フナ)などがいた。雨が降った後、水量が増えると、橋の下でも釣りをしていた。水量が少ないときには、上流の方に水がちょっと溜まる場所があったので、そこで釣りをしていた。

→桑江ヌ前屋取・桑江ヌ中屋取のカーラグワーを見よ。

エキヌメヌカーラグワー

【※編注：位置不明確のため、地図上には記載していない】

ウードゥグワーヌメヌカーラグワーの流れの一部を言う。キューエキ近くのテッキョーを越えたあたりの流れを言う。

→桑江ヌ前屋取のキューエキを見よ。

シルヒージャー

シラヒージャー、シラヒカワとも言う。若い世代はチャタンガラと言っていた。現在の白比橋の下あたりに飛び石があり、橋が架かる前は、その飛び石を渡っていた。その中でも大きい石をナーカヌシーグワーと言っていた。

学校帰りには、シルヒージャーで泳いで遊んでいた。

戦時中には川べりに特攻隊の基地があった。干潮時でも出撃でき



《聞き取り調査風景》



《聞き取り調査風景》

■日本陸軍の海上特攻隊(海上挺身隊)の特攻艇・マルレの秘匿壕：昭和20(1945)年3月29日深夜に、北谷村の基地から17隻が出撃したが、ほぼ全艇未帰還となった。

るようにするため、シルヒージャーを堰き止め、流水を調整できるように工事もされていた。海までレールが敷かれていた。

現在の白比川のことである。

→桑江ヌ前屋取のシルヒージャーを見よ。

山地

ンマヌナガニー

集落の北東方向にあった山。馬の背中に似て真っ直ぐにのびていたので、ンマヌナガニー（馬の背中）と言う名がついた。畑はなく、全部松林であった。

現在のユニオン北谷店のあたりの信号から西にのびていた。

ダキヤマ

集落の北東方向にあった竹林の山。太さ10cmぐらいのモースークがたくさん生えていた。竹は物干し竿などに利用していた。後に、ススキがたくさん生え、竹が育たなくなっていた。

現在、桑江公園内にある。



《ダキヤマ周辺》

小ハル名

ユヒングワーヌハタ

【※編注：P199「戦時中の謝苺屋取～桃原屋取」の地図に記載】

屋号ユヒングワー（饒辺小）の近くを言う。東側にはジャーガルヤードゥイ（謝苺屋取）の屋号サクマ（佐久間）の屋敷があった。

現在の北谷スポーツセンターのあたりである。

クムイグチー

集落の北方向、キューヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）の北側一帯を言う。50～100坪ぐらいの水田があった。土質はタードーシに似ているがもっとホロホロしている。ナーシルダーもあった。

現在の北谷町役場の北西側一帯である。

キジャマ

キューヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）の聞き取り情報によると、キュー（桑江）集落の北東側一帯がキジャマであると言う。

現在のキャンプ桑江内、米海軍病院のあたりである。

カーラバタ

集落西側の畑地を流れる川の周辺を言う。川は普段はちよろちよろとしか流れていなかった。土質がよく、畑が多かった。

現在のキャンプ桑江内、米海軍病院の西側一帯である。

■タードーシ：田の水を干して畑としたもの。

■ホロホロ：もろくて崩れやすい様子。

■ナーシルダー：苗代田。

■キャンプ桑江（キャンプ・レスタ）：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。米海軍病院がある。

その他

ゴガン

護岸。シルヒージャーのあたりから、北へ向けて、ずっとゴガンが続いていた。ゴガンの切れ目から舟を出していた。馬車も通れるようになっていた。

ゴガンは昭和11～13(1936～38)年頃に作られた。基礎工事は、砂を1mぐらい掘り、そこに直径15cmぐらいの松を橋のように組み、ボルトで留めていた。その上に石を積んでいた。

ゴガンが作られる前は白浜で、アダンが生えていた。

道

ケンドー

県道。県から工夫が2～3名来て補修工事を行っていた。トラックで運んできた石を道のあちらこちらに置いて、それを工夫がパーキグワーに入れて運び、窪んだところを埋めていた。話者によると、人手が足りない場合には、区長に頼んで、集落の人たちが出ることもあったかもしれないと言う。

戦争前には大きな工事はなかったが、戦争が激しくなる頃には日本軍が道幅を拡張していた。そのため、ケンドー沿いの屋敷の石垣が崩されたり、フクギなどの植木が伐採された。このような工事は国場組が請け負っていた。

郡道

ゴンゴローミチ

ジャーガルミチの一部を言う。石がたくさんあって、あまりいい道ではなかった。坂道で、でこぼこも多かった。道幅は馬車のすれ違いができるぐらいだった。道が険しいので、雨の日や日暮れなどには通行を避けていた。

現在の県道24号線の一部。戦前の道は、現在の謝荊入口よりも北側で、キャンプ桑江第1ゲート(軍病院入口)あたりであった。そこから、北谷郵便局の湾曲したあたりまでをゴンゴローミチと言った。500mぐらいの範囲である。

キューヌクシヤードゥイ(桑江ヌ後屋取)の聞き取り情報では、ゴンゴローミチと言う。

→桑江ヌ前屋取のジャーガルミチを見よ。

生活道

キジャマミチ

キジャマを通して、アンプスーヤマグワーへ向かう道。



◀現地調査風景▶

■工夫：鉄道・道路などの土木作業の作業員。

■パーキグワー：ざる・かごなど。

■キャンプ桑江(キャンプ・レスター)：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。米海軍病院がある。

ナカミチ

キュー（桑江）集落の中央を南北に走る道。屋号ヒガグワー（比嘉小）：8から屋号ジャチン（座喜味）：45までの範囲を言う。

ミーミチ

クエンマイーから真っ直ぐ南に行く道。昭和8～10（1933～35）年頃にできた。南へ向かい、ウッドゥグワーヌメーヌカーラグワーの流れと交差するところには、コンクリート造りのハシグワーが架かっていた。キューヌメーヤードゥイ（桑江ヌ前屋取）の屋号ティーラリョカン（照屋旅館）のところでジャーガルミチと交差し、さらにティーチマチャーのところまで通っていた。

→桑江ヌ前屋取のジャーガルミチを見よ。

クラニースージ

キューヌナカヤードゥイ（桑江ヌ中屋取）のスージグワーの1つ。屋号クラニーの家が面している。

→桑江ヌ中屋取のクラニースージを見よ。

ウミミチ

【※編注：位置不明確のため、地図上には記載していない】

リュエーグーシンのところから、クエンナトゥの方に真っ直ぐのびていた砂浜。途中、岩とリーフで狭くなっているところもあったが、幅は10mを超えるぐらいあった。ケガするようなものが何もないので、舟を担いで歩くことができた。昭和11～13（1936～38）年頃、砂利を取るために馬車も入っていた。

美浜一帯が埋め立てられるまで残っていた。

→桑江ヌ中屋取のリュエーグーシン、クエンナトゥを見よ。

坂道

イシビラー

ジャーガルミチの途中にあった大きな湾曲のあたりを言う。

→桑江ヌ前屋取のジャーガルミチを見よ。

洞窟

ダキヤマウタキ

集落の北東方向にあった洞窟。戦時中は防空壕として使われていた。戦後まで竹がたくさんあった。向かい側に井戸もある。

現在、桑江公園内にある。



◀現地調査風景▶

■スージグワー：路地。小道。



◀現地調査風景▶



◀竹山の祠（がま）▶

丘

アンブスーヤマグワー

アンブスーヤマグワー、アンブシモー、エンブスーモー、エンブスーモーグワー、テンブスーヤマグワーとも言う。

集落の北東方向にあった。周囲は畑で、畑より盛り上がった丘であった。あまり高くなく、200坪ぐらいの広さがあった。現在のキャンプ桑江^{くわえ}あたりが海だった時代に、そこに網を干^ほしていたという伝説が残っている。この伝説はクエヌメーヤードゥイ（桑江ヌ前屋取）とクエヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）でも聞くことができた。また、クエヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）の話者によると、キャンプ桑江^{くわえ}内は、戦時中に防空壕^{ぼうくうごう}を掘ると砂が出てきていたので、大昔はそこまで海であったと思われるという。

クエ（桑江）の話者によると、アンブスーヤマグワーは拝所^{はいしよ}のようで、丘の頂上には高さ2mぐらいの岩があったという。近くには松林^{まつ}や泉もあった。

現在の北谷町^{ちやたんちやう}役場庁舎の東側あたりとなる。

サーターヤーモー

集落の西側にあった。ちょっと丘になっていた。

現在のキャンプ桑江^{くわえ}内の軍病院裏側あたりとなる。

野原

アンブシモー

漁師が網を干^ほしていた場所。ハーリーの後にアシビをする場所でもあった。

→桑江ヌ中屋取のアンブシモーを見よ。

池沼

カヨーダヌクシヌクムイ

クエヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）のデンブンコージョー^{そぼ}の側にあったクムイ。幅はあまりなかったが、長さがあるクムイだったので、泳いで遊ぶのに良かった。川とつながっており、下流では家畜^{かちく}（馬・牛）に水浴びさせていた。

→桑江ヌ後屋取のカヨーダヌクシヌクムイ、デンブンコージョーを見よ。

イチ

屋号ヤマヒジグワー（山ヒジ小）：46の北側にあった池。話者によると、家を造るときの材木^つを漬けていたのを覚えているという。

■キャンプ桑江（キャンプ・レスター）：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。米海軍病院がある。

■ハーリー：旧暦5月4日に行なわれる船の競争行事。

■アシビ：歌・三味線・踊りなどを楽しむこと。また、村芝居・祭りなど、仕事を休んで行なう演芸・娯楽。

■クムイ：池。沼。

イチの側にはウガンジュがあった。カンカーヌカミで、そこでカンカーの行事を行っていた。

メンターグムイ

屋号ナーカダースー：1の南側にあった。ウードウグワーヌメーヌカーラグワーの一部で、流れの途中の幅が広がってクムイになっていた。

魚垣

イリーガチ

キューヌナカヤードゥイ（桑江ヌ中屋取）のフェーヤチガマの下の方にあった。ゴガンから20～30mぐらい離れたところにあった。話者によると、はっきりとはわからないが、古老からカチの話聞いたことがあり、キュー（桑江）の屋号イリー（伊礼）の所有ではなかったかと言う。

石の間隔は開いていたが石積みの跡は残っており、建干をするときに、そこに網を仕掛けていた。魚の通り道になっていた。

現在の県営美浜高層住宅あたりとなる。

岩瀬

ナーカヌシーグワー

シルヒージャーの中にあった飛び石の1つ。1m四方ぐらいの飛び石がいくつかあり、その中でも大きいものをナーカヌシーグワーと言った。

湧水井戸

イーヒージャー

普段はイーヒージャーの水を利用することはなかったが、草刈りや薪取りのときなどに、水を飲んだり、手足を洗ったりするために利用していた。

現在、湧き口は埋まっているが、その下の方に行くと、水が流れている。

ウミノカーグワー 【※編注：位置不明確のため、地図上には記載していない】

ウミノカーとも言う。話者によると、海の井戸という意味ではないかと言う。リュウゲーシンの近くにあった。水が出て、海へと流れていた。

現在は埋められ、美浜となっている。

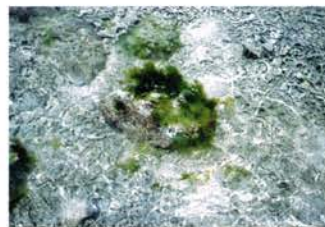
→キューヌナカヤードゥイ（桑江ヌ中屋取）のリュウゲーシンを見よ。

■ウガンジュ：拝所。

■カンカー：集落に悪疫が入ってくるのを防ぐための行事。

■クムイ：池。沼。

■カチ：魚垣。魚を捕るために浅瀬に積んだ石垣。



《カチの跡の石》



《現地調査風景》

掘井戸



ンブガー

ウカーとも言う。集落の北東方向にあった。大昔に使っていた井戸として^{おが}拝まれていた。キュー（桑江）^{はつしょう}発祥の地と言われる。石垣の跡が残っていた。

ドラム缶が入るぐらいの深さで、ニープで水を汲むことができた。早魃でも涸れなかった。普段は遠いので井戸を使うことはないが、シーミーや墓掃除のときには、ンブガーの水を汲んでお茶を^わ沸かし、墓に供えたり、墓掃除の水に使ったりしていた。

話者によると、現在は整地されて埋まっているが、モクマオー（トキワギョリュウ）が3本生えているあたりであると言う。

橋



イリーグワーヌメヌハシ

キューヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）とイリー（伊礼）^{さかい}の境にあった橋。コンクリート造りで、ケンドー^かに架かっていた。幅も広く、40～50cmの欄干^{らんかん}もあった。

橋の下の浜で、モーアシビをしていた。

→桑江ヌ後屋取のイリーグワーヌメヌハシを見よ。

ハシグワー

ハージョークシ^かに架かっていた橋の1つ。屋号ジャチン（座喜味）：45から20～30mぐらい離れていたところにあった。ハージョークシの流れには、あと2か所橋が架かっていたが、それぞれ特に名称はなく、3つともハシグワーと呼んでいた。

昭和12～13（1937～38）年頃にコンクリート橋の工事をしていった。橋の長さは5～6mぐらいで、水面までは2mぐらいだった。

ハシグワー

ハージョークシ^かに架かっていた橋の1つ。キジャマミチと交差するところに架かっていた。ハージョークシの流れには、あと2か所橋が架かっていたが、それぞれ特に名称はなく、3つともハシグワーと呼んでいた。

昭和12～13（1937～38）年頃にコンクリート橋の工事をしていった。他の2か所のハシグワーに比べると、やや小さめだった。

ハシグワー

ハージョークシ^かに架かっていた橋の1つ。キューヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）の屋号カマーアワグワー（カマー安和小）の南

■ニープ：ひしゃく。

■シーミー：清明祭。旧暦3月に行なう祖先供養の行事。

■モーアシビ：農村で夜、若い男女が野原に出て遊ぶこと。三味線・歌・踊りなどを楽しむ。



〈現地調査風景〉

東側にあった。ハーヨークシの流れには、あと2か所橋が架かっていたが、それぞれ特に名称はなく、3つともハシグワーと呼んでいた。

昭和12～13(1937～38)年頃にコンクリート橋の工事をしてきた。長さは5～6mぐらいで、水面までは2mぐらいだった。

エキヌメーヌハシグワー

キューエキの近くにあった鉄橋。ウードゥグワーヌメーヌカーラグワーとテツドーが交差するところに架かっていた。

橋をちょっと越えたところにポイントの切り替え機があった。

ハシグワー

ウードゥグワーヌメーヌカーラグワーとミーミチが交差するところに架かっていたコンクリート造りの橋。

ローラーバシグワー

チャタン(北谷)の方にあった橋。ジャーガルミチの工事に使われたローラーが通ったときに壊れた橋。そのとき、子どもたちが巻き込まれてしまい、数名の死傷者が出た。それ以降、この橋のことをローラーバシグワーと言うようになった。

→謝苺屋取のジャーガルミチ、北谷のローラーバシグワーを見よ。

十字路



クワーシヤーカジマヤー

キューヌメーヤードゥイ(桑江ヌ前屋取)の屋号クワーシヤーヤマグスク(菓子屋山城)のところにあったカジマヤー。

→桑江ヌ前屋取のキューヌメーカジマヤーを見よ。



◀聞き取り調査風景▶

■カジマヤー：十字路。道が交差するところ。

トンネル



チャタントンネル

キューヌメーヤードゥイ(桑江ヌ前屋取)とチャタン(北谷)の間にあったトンネル。屋良飛行場を整備するためのトラックが通らなかったため、昭和18(1943)年頃に日本軍によって壊された。壊す前から、すでにトンネル内の天井にはこすった跡がついていた。

→桑江ヌ前屋取と北谷のチャタントンネルを見よ。

■屋良飛行場：昭和19(1944)年に日本陸軍が建設した飛行場。中飛行場。米軍に接收され、現在の嘉手納基地となった。

駅



キューエキ

県営鉄道嘉手納線の桑江駅。キューヌメーヤードゥイ(桑江ヌ前

■沖縄県営鉄道 嘉手納線：嘉手納・野国・平安山・桑江・北谷・大山・真志喜・大謝名・牧港・城間・内間・安里・与儀・古波蔵・那覇の15駅があった。

屋取)にあった。無人駅ではなく、駅長がいた。キューエキの周辺は店が多く、にぎやかだった。

→桑江ヌ前屋取のキューエキを見よ。

鉄橋



テッキョー

ウッドゥグワーヌメヌカーラグワーとケンドーが交差するところに架かっていた鉄橋。

交番



ジュンサヌヤー

クェンマイーの一番北端にあった駐在所。チューザイショとすることもある。首里から来た城間巡査と、その家族が住んでいた。「嘉手納警察署 桑江駐在所」と書かれた看板があった。家はカーラヤーで、広さは3間×3間ぐらいだった。床は板葺きで縁側もあった。クェンマイーに面したところはガラス戸で、玄関もガラスの引き戸だった。屋敷の周囲は6尺ぐらいの板塀で囲われていた。塀には防腐剤が塗られ、黒かった。電話もあった。このジュンサヌヤーは昭和12～13(1937～38)年頃作られた。それ以前は、屋号ホーイ:16や屋号イリー(伊礼):36のアサギを借りていた。

■カーラヤー：瓦ぶきの家。

■アサギ：農村などで、母屋の前にある離れ。メヌヤーとも言う。

工場



デンブンコージョー

クェヌクシヤードゥイ(桑江ヌ後屋取)にあった工場。昭和15～16(1940～41)年頃に作られた。話者によると、日本本土の人が経営し、従業員は近辺の女性たちを雇っていたようだという。芋から澱粉を作っていた。北谷村内だけではなく、村外からも馬車で持ってきていた。建物はコンクリートではなく、石の板のようなものでできていた。キューエキの荷物置き場と同じような材質だった。話者によると、工場はカヨーダヌクシヌクムイの水を利用していただと言う。

昭和18(1943)年頃には、日本軍の石部隊の宿舎となっていた。戦後はすぐに壊されて、米軍のテントが建てられていた。

→桑江ヌ後屋取のデンブンコージョーを見よ。

■石部隊：第62師団独立歩兵第12大隊の通称。

製糖小屋



サーターヤー

共同製糖小屋。屋号チカジャングワー(津嘉山小):5の南側にあったサーターヤー。メンダカリの人たちで共同利用していた。

サーターヤー

共同製糖小屋。屋号アワ(安和):15の東側にあったサーターヤー。クシンダカリの人たちで共同利用していた。

サーターヤー

屋号イリー(伊礼):36の北側にあったサーターヤー。話者によると、あったという話は聞いたことがあると言ひ、屋号イリー(伊礼)の個人所有だったようだという。

サーターヤー

キューヌクシヤードゥイ(桑江ヌ後屋取)の聞取りによると、キュー(桑江)のサーターヤーでムラヌサーターヤーとも言っていたと言う。キューヌクシヤードゥイ(桑江ヌ後屋取)の屋号ナンヨーチニングワー(南洋知念小)の南隣にあった。話者によると、このサーターヤーの近くの人々はキュー(桑江)の人たちと一緒に使用したかもしれないと言う。しかし、この周辺にサトウキビ畑は少なかった。

→桑江ヌ後屋取のムラヌサーターヤーを見よ。

拝所

ニーヌファ

ナルカーの水源地のあたりで、トントングムイのすぐ側^{そば}にあった^{はいしよ}拝所。高さ1m、奥行60cmぐらいのセメント造りの^{ほこら}祠だった。

昭和13~14(1938~39)年頃に、出征軍人^{しゅうせいぐんじん}が^{おが}拝みに行くようになったので、もっと大きい祠に作り直した。

平成元(1989)年頃、他の^{はいしよ}拝所をニーヌファに移してきて^{ごうししよ}合祀所となった。

→桑江ヌ後屋取のトントングムイを見よ。

トゥン

集落の北方向にあった^{はいしよ}拝所。ちょっと盛り上がり^もがって、丘みたいになっていた。その周辺は下がって全部畑だった。話者によると、農業の神さまだったのではないかと言う。トゥンの本体は、石のかたまりで、それを四角い平たい石で三方を^{かこ}囲み、ウコーを^{おが}置けるようにしてあった。ニングワチャーの1日目、旧暦2月2日に^{おが}拝んでいた。

トゥンの先まで馬車が入れる道があった。工事のときの^{じゃり}砂利などを^つ積んで運んでいた。

現在の北谷町役場水道局の建物の近くとなる。



《現地調査風景》



《合祀所》

- ウコー：御線香。
- ニングワチャー：旧暦2月に行なわれる行事。集落や組単位で酒宴を開き、余興をして楽しむ。

カンカーヌカミ

イチの隣にあった^{はいしよ}拝所。話者によると、ちょっとした石があったぐらいだと言う。

カンカーのときには、集落の入口や十字路になったところに、肉を^つ吊り下げた。4か所ぐらいあった。しかし、昭和15～16(1940～41)年頃からは行なわなくなった。

カンカーヌカミの^{そば}側にはムイグワーがあった。

リュウゲーシン

龍宮神。最初は屋敷内のカーの^{そば}側にあったが、昭和11～12(1936～37)年頃に、ゴガンのすぐ^{そば}側にあった広場に移した。戦後、ゴガンはなくなったが、リュウゲーシンは同じ場所に、新しく作り直した。

現在の^{ちやたんちやう}北谷町公共駐車場の近くにある。

→桑江ヌ中屋取のリュウゲーシンを見よ。

ビジュル

チャタントネルとマヤーガマの^{はいしよ}中間にあった^{かこ}拝所。三方を石で^{ほこら}囲み、屋根も石造りの^{まツ}祠があった。1m四方ぐらいだった。背後には松の木が生えていた。

昭和13～14(1937～38)年頃にコンクリート造りで瓦屋根の^{かいちく}祠に改築した。ビジュルは埋まっており、地上に40～50cmほどしか出ていなかったが、改築するとき掘り起こしてみると、1m20～30cmぐらいの高さがあった。他にもビジュルが出てきて、計3個のビジュルが出てきた。3個並べて、祠の中に入れた。

^{ほこら}祠の前は広場で、さらにその前に7～8段ぐらいの^{いしづ}階段がついていた。簡単な石積みの階段だったが、祠の改築のときに石段もコンクリート造りにした。話者によると、改築の費用は^{ちやたんそん}キュー(桑江)だけではなく、北谷村からも出たらしいと言う。

兵士が^{しゅっせい}出征するとき^{おが}に^{おが}拝んでいた。

ンマヌファとも言っていた。話者によると、ニーヌファはイキガで、ンマヌファはイナグだと言われていたと言う。

→桑江ヌ前屋取のビジュルを見よ。

馬場

クエーンマイー

桑江馬場。ンマイーとも言う。キュー(桑江)とクエーンヌカヤードゥイ(桑江ヌ中屋取)との^{あいだ}間にあった。

昭和17(1942)年頃まで、年に一度、朝10時ぐらいから昼を

■カンカー：集落に悪疫が入ってくるのを防ぐための行事。

■ムイグワー：丘。築山。

■カー：井戸。



◀龍宮神▶

■ビジュル：靈石として祀られる石。

■イキガ：男。

■イナグ：女。

をはさんで夕方まで、馬勝負が行なわれていた。速さだけではなく、歩き方も競っていた。ひげを生やし、クンジーを着た年寄りが審判をしていた。沖縄馬を競わせる。鞍や馬の首などに飾りをつけ、きれいだった。話者によると、北谷村外の人、嘉手納、読谷、中城からも来ていたのではないかと言う。金持ちしか競争馬を持っておらず、クエー（桑江）では屋号イリー（伊礼）が持っていた。クエーンマイーの他にも、チャタンマイー（北谷馬場）・シナビンマイー（砂辺馬場）・ノザトゥンマイー（野里馬場）・ズケランマイー（瑞慶覧馬場）と、近くにたくさん馬場があり、相当盛んだった。

クエーンマイー内にはマイサーがあった。話者によると、楕円形とやや丸形のものの2つは覚えていると言う。別の集落の人が、マイサーを自分の集落へ持って行き、持ち帰れるなら持ち帰ってみるという風に勝負することもあった。

他にも、クエーンマイー内には砂場や鉄棒があった。クエーナカヤードゥイ（桑江又中屋取）の屋号ナカチグワー（仲地小）の前に鉄棒があった。昭和15～16（1940～41）年頃に、五寸角ぐらいの杉材やパイプなどで作られた。高いのが1つ、中ぐらいのが1つ、低いのが3つと、計5つぐらいあった。

自転車に乗って遊んだりもした。自転車はクエー（桑江）集落に2～3台ぐらいあった。

きれいな芝生があったので、夜は三味線を持った青年たちが集まり、モーアシビをする場所でもあった。話者によると、大正生まれの人たちがよくやっていたようだと言う。

クエーンマイーは、現在のキャンプ桑江第2ゲート隣にある基地内の学校のあたりとなる。

→北谷・砂辺のンマイーを見よ。

広場



クルマナー

集落の北東方向にあった広場で、ンブガーの反対側にあった。

アシビナーギー

クエーンマイーの南端、クエーナカヤードゥイ（桑江又中屋取）の屋号メーヌヤー（前ヌ屋）と屋号トゥクーマージャ（徳マージャ）の間あたりに、大きな平たいガジマルがあった。クエーンマイーより70～80cmぐらい上がったムイグワーだった。10坪ぐらいの広さがあった。そこで相撲を取ったり、かくれんぼをして遊んだ場所だった。話者が6～7歳ぐらいの頃に、ムラアシビをしていたのを覚えていると言う。クエーナカヤードゥイ（桑江又中屋取）

■クンジー：藍染の着物。

■マイサー：集落の広場などに置いてある大小の堅い、丸い石。青年たちが力試しをする。



《現地調査風景》

■モーアシビ：農村で夜、若い男女が野原に出て遊ぶこと。三味線・歌・踊りなどをして楽しむ。

■キャンプ桑江（キャンプ・レスター）：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。米海軍病院がある。

■ムイグワー：丘。築山。

■ムラアシビ：歌・三味線・踊りなどを楽しむこと。また、村芝居・祭りなど、仕事を休んで行なう演芸・娯楽。

の話者によると、昭和12(1937)年頃まで、クェー(桑江)、クェーヌメーヤードゥイ(桑江ヌ前屋取)、クェーヌナカヤードゥイ(桑江ヌ中屋取)、クェーヌクシヤードゥイ(桑江ヌ後屋取)の4集落合同でムラ芝居をしていたと言う。

龕屋



ガンヤー

クェー(桑江)、クェーヌメーヤードゥイ(桑江ヌ前屋取)、クェーヌナカヤードゥイ(桑江ヌ中屋取)、クェーヌクシヤードゥイ(桑江ヌ後屋取)の4集落で使用していた。ガンは喪家^{そうか}で組み立て、墓まで4名^{かつ}で担いで行った。人の家の前で休んではいけなかった。ガンは墓で解体してから持ち帰って、ガンヤーに納めた。ガンヤーは崖のへこみに小屋を建て、その前に石積みをしてあるという簡単な造りだった。ガンヤーのところは、怖いのであまり行かなかった。

現在のまつしま歯科のあたりにあった。

→桑江ヌ前屋取のガンヤーを見よ。

墓



イーンバカ

縁側がついている墓。屋号ジャチン(座喜味)の墓だった。ジョーが3つあるように見えるので、ジョーミチャーバカと言う人もいる。庇^{ひし}があり、15名ぐらいでも雨に濡れることはなかった。掘り込み墓で、表はシナトウグワーストを使っていて、2基あったが、1基は、県立北谷高等学校建設のときに土砂^{ちやたん}に埋もれてしまった。

標木



ティーチマチャー

クェーヌメーヤードゥイ(桑江ヌ前屋取)の南端近くに^{マツ}あった松の木。シーグワーストがあり、その北側斜面から生えていた。松は若者2人で抱きかかえるくらいの大きさだった。昭和18(1943)年頃に土地の所有者によって伐採された。

松が生えていたシーグワーストの南側は^{ぜつべき}絶壁になっていて、ガマがあり、そこに骨があった。シーグワーストは戦後、米軍住宅が作られたときに^{くず}崩された。

現在、キャンプ桑江内で、球陽交通の向かいあたりとなる。

→桑江ヌ前屋取のティーチマチャーを見よ。

■ムラ芝居：集落の人たちが演じる芝居。

■ガン：龕。葬式するとき、死者の棺を入れて墓地まで運ぶためのもの。

■ガンヤー：龕を納めておく小屋。



《現地調査風景》

■ジョー：門。

■シナトウグワースト：具志頭村港川で採石される黄褐色の石灰岩。粟石。

■シーグワースト：岩。

■ガマ：洞窟。ほら穴。

■キャンプ桑江(キャンプ・レスタ)：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。米海軍病院がある。

桑江 集落の周辺



桑江ヌ後屋取

クエーヌクシヤードウイ

キューヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）

北谷町域西側、東シナ海に面する^{ヤードゥイ}屋取集落。集落の南側はキュー（桑江）、北側はイリー（伊礼）と隣接している。

戸数42軒で、そのうちカーラヤーが6軒あった。

集落名はキューヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）だが、略称として、キューヌクシ（桑江ヌ後）、クエークシ（桑江後）、クシヤードゥイ（後屋取）、クワクシ（桑後）と言うこともある。キューヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）の人や近隣集落のあいだでは、クシヤードゥイと言うことが多かった。また、知念^{ちねん}姓が多いため、他の集落からチニンヤードゥイ（知念屋取）とも呼ばれていた。

キュー（桑江）の周りには、キューヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）をはじめ、キューヌメーヤードゥイ（桑江ヌ前屋取）、キューヌナカヤードゥイ（桑江ヌ中屋取）の屋取集落があった。その中でも、キューヌメーヤードゥイ（桑江ヌ前屋取）はキューエキや店などで有名だったため、北谷村以外の人から出身を聞かれた場合には、キューヌメーヤードゥイ（桑江ヌ前屋取）だと答えることもあった。北谷村内の人に聞かれた場合には、クシヤードゥイで通じていた。

主業は農業で、その他にはマチャグワーが2軒と漁業^{たづさ}に携わる家が1軒あった。

屋号サカヤチニングワー（酒屋知念小）が自転車を持っていた。キューヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）においては、自転車はこの1台だけであった。

1～2m掘れば水が出てくるので、ムラガーや水タンクなどはなく、各家に井戸があった。つるべで汲み、その縄は1m50cm～2mぐらいの長さだった。

サーターヤーは屋号ウフナーザトゥ（大宮里）^{ほいしよ}：18の北側にあった。この1か所だけだったが、小さな集落なので十分賄うことができた。しかし、戦争前にはあまり作らなくなり、屋号ウフチニン（大知念）^{かでな}の馬車などで、嘉手納製糖工場へ持っていくようになっていた。

屋号ウフチニン（大知念）^{ほいしよ}：15の西側の道に拝所のような場所があった。高さ60cm、幅40cmぐらいの石敢當^{いしがんと}があり、旧暦2月2日のクスツクイーのときに拝んでいた。昭和3（1928）年生まれの話者が小学生の頃、そこの草刈りや掃除をしていたと言う。キューヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）^{おが}内で拝む場所はここだけであった。

ガンヤーはキューヌメーヤードゥイ（桑江ヌ前屋取）にあり、キューヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）、キューヌナカヤードゥイ（桑江ヌ中屋取）、キュー（桑江）の4集落共同で使用していた。

■カーラヤー：瓦ぶきの家。



＜聞き取り調査風景＞

■マチャグワー：店。

■ムラガー：集落の共同井戸。

■サーターヤー：製糖小屋。

■嘉手納製糖工場：沖縄製糖株式会社の嘉手納工場のこと。明治45（1912）年創業。

■石敢當：中国起源の除災招福の石柱。

■クスツクイー：農繁期のあとにする骨休みの行事。

■ガンヤー：籠を納めておく小屋。

喪家からガンを担いで墓まで行く道と、その帰り道は道順を変えていた。墓は集落の東側、山手側にあった。現在のちゅうざん病院近くや県立北谷高等学校の西側と南側などにあたる。

屋号ウフチニン（大知念）：15の西側の道に、60斤（36kg）と130斤（78kg）の2つのマーイサーが置いてあった。

集落の北端に、澱粉を軍事用品として使うために作られたデンブンコージョーがあった。芋から澱粉を作っており、北谷村内だけではなく、他の集落からも芋を運んできていた。昭和17～19（1942～44）年頃までは稼動していたが、それ以降は生産を止めて、日本軍の兵舎となっていた。キューヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）は、この工場があったために十・十空襲を受け、集落の人が何名か亡くなった。

【集落で行なわれる主な年中行事】

●旧暦2月2日<クスクィー（ニングウチャー）>：屋号ウフチニン（大知念）：15の西側の道にある石敢當を拝む。豚を一頭潰したり、天ぷら、豆腐、タマナーイリチャーなどのごちそうを作った。それらのごちそうを膳に盛って、真ん中に大根の葉を飾る。三味線を弾きながら、ヤードゥから拝所まで道ジュネーする。ヤードゥは大きい屋敷を持ち回りで使っていた。男性のみが参加する。話者によると、以前はメーダカリとクシンダカリの2つに分かれて行なっていたらしいと言う。

●旧暦6月<綱引き>：キューヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）にはなく、キュー（桑江）の綱引きを見に行った。キューヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）はキュー（桑江）の北側なので、綱引きに参加する場合には北側の綱を引いていた。話者によると、キューヌメーヤードゥイ（桑江ヌ前屋取）は南側の綱を引いたかもしれないと言う。

●旧暦7月<エイサー>：男性のみ参加する。他集落へ行ったり、他集落から来たりすることもあったらしい。千原屋取から来たこともある。エイサーの練習は、屋号ウフチニン（大知念）：15の西側の道でやっていた。昭和19（1944）年からは青年も少ないので、やらなくなった。

集落域は米軍に接収され、キャンプ桑江内となっていたため、戦前の地形は変化してしまった。現在は土地が返還され、土地区画整理事業が進められている。北谷町役場西側一帯であり、北谷町の中心地として、新たに生まれ変わろうとしている。

■ガン：籠。葬式の時、死者の棺を入れて墓地まで運ぶためのもの。

■マーイサー：集落の広場などに置いてある大小の堅い、丸い石。青年たちが力試しをする。

■十・十空襲：昭和19（1944）年10月10日、南西諸島に対して行なわれた米軍最初の空襲のこと。

■クスクィー：農繁期のあとにする骨休みの行事。

■タマナーイリチャー：キャベツ炒め。

■ヤードゥ：一時的に集会所にあてられる家。

■道ジュネー：行事などのとき、芸を披露しながら道を練り歩くこと。

■エイサー：旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。

■千原屋取：現在の嘉手納町域にあった。エイサーが有名な集落だった。

■キャンプ桑江（キャンプ・レスター）：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。米海軍病院がある。

桑江又後屋取 屋号地図



桑江又後屋取の家の配置 (数字は屋号番号)



鉄道



河川 (小さい文字は他の集落の呼び名)



道路 (小さい文字は他の集落の呼び名)

緑の文字 地域の名称 (小さい文字は他の集落の呼び名)

クェヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）

河川

ナルカー

クェヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）とイリー（伊礼）との境界きょうがいを流れていた川。水がきれいで、エビやカニがたくさんいた。現在の桑江公園くわえ げんりこう内に源流がある。

カヨードヌクシヌカー

ナルカーの一部で、屋号ウフカヨード（大嘉陽田）：40の後ろの流れを言う。この流れの中にカヨードヌクシヌクムイがある。

ハイスイコー

排水溝はいすいこう。集落の西側、イーヒージャーあたりから流れてくる。屋号ウフハージョー（大比屋定）：9や、屋号イリムティーナーグスクグワー（西ムティー宮城小）：27そばの側を流れ、イリグワーヌメーヌハシでナルカーと合流し、海まで流れていた。雨が降らないときには、ほとんど水がないぐらいの流れだった。上流の方は兩岸をコンクリートで固めていた。

屋号カマーアワグワー（カマー安和小）：11の東南側にコンクリート造りのハシかが架かっていた。さらに上流には2つの橋が架かっていた。

屋号ウフハージョー（大比屋定）：9の後ろあたりは、ハージョークシヌカーラグワーとも言うが、普通はハイスイコーと言うことが多い。

→桑江のハシグワー、ハージョークシを見よ。

小ハル名

クムイグチー

集落の北東側一帯を言う。ジャーガルとニービまを混ぜたような感じの土質だった。話者によると、クムイグチーのクムイというのは、ナルカーのことではないかと言う。

現在の北谷町役場ちやたんちやうの北西側一帯である。

→桑江のクムイグチーを見よ。

ケービンヌシチャー

ケービンミチは、周辺より1m50cm～2mぐらい高く盛り上げていた。土を盛り、表面はコーラルこーらるを敷いていた。土地の低いところから見ると、ケービンミチは見えるが、海は見えなかった。



◀聞き取り調査風景▶

■ジャーガル：粘土質の灰色の土。ジャーガル土質で作られた芋は、大きいけど味はあまりよくない。

■ニービ：赤くざらざらした堅い土質。

■コーラル：サンゴの死骸が小石や砂利になったもの。

潟

ンナトゥグワー

イリグワーヌメヌハシの下流は入り江になっていたののでンナトゥグワーと言う。ナルカーとハイスイコーの流れが合流し、海へと流れ込んでいた。

津口

クェンナトゥ

潮が引いたときに、ある程度の水深すいしんがあったので、そこでハーリーをしていた。ハーリーを行なうのは、クェヌナカヤードゥイ（桑江ヌ中屋取）の人たちが中心で、クェヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）の人たちは見物けんぶつに行った。

現在のサンセットビーチのあたりである。

→桑江ヌ中屋取のクェグチを見よ。

■ハーリー：旧暦5月4日に行なわれる船の競争行事。

県道

ケンドー

県道。集落の西側を南北に走っていた。

現在の国道58号線である。

→桑江のケンドーを見よ。

郡道

ジャーガルミチ

現在の県道24号線と言う。現在の謝苺入口じょがらよりも北側で、キャンプ桑江第1ゲートくわえ（軍病院入口）あたりから始まり、北谷郵便局ちやたんの湾曲したあたりに通っていた。この部分以外は、戦前の道と同じである。話者によると、ジャーガルミチというのは、道の側そばにあったジャーガルヤードゥイ（謝苺屋取）と、粘土質の土質からついた名前ではないかと言う。

→桑江ヌ前屋取のジャーガルミチを見よ。

■キャンプ桑江（キャンプ・レスター）：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。米海軍病院がある。

■ジャーガル：粘土質の灰色の土。ジャーガル土質で作られた芋は、大きいが味はあまりよくない。

鉄道

ケービンミチ

集落の西側、ケンドーよりも西側を南北に走っていた。ケービンミチは、1m50cm～2mぐらい土を盛り上げて造られた。その周辺の低くなったところをケービンヌシチャーと言う。

丘



テンブスーヤマグワー

小さい山があり、そこに網を干したという言い伝えがあった。話者によると、現在のキャンプ桑江内は、戦時中に防空壕を掘ると砂が出てきたので、大昔はそこまで海であったと思われるという。

現在の北谷町役場庁舎の東側あたりとなる。

→桑江のアンブスーヤマグワーを見よ。

■キャンプ桑江（キャンプ・レスター）：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。米海軍病院がある。

池沼



トントングムイ

ナルカーの上流にあるクムイ。上流はワクなので、常に水が流れていた。1mぐらいの段差があり、滝のようになっていた。そこから落ちる水がトントンと音をたてるので、トントングムイの名がついた。丸い形のクムイで、泳げるぐらいの広さと、1m～1m50cmぐらいの深さがあった。

現在はキャンプ桑江の水源地として利用されている。今はクムイにはなっていない。キューヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）の拝所があり、旧暦2月2日と9月9日に拝みに行く。

■クムイ：池。沼。

■ワク：湧き水。

カヨーダヌクシヌクムイ

デンブンコージョーの北東側にあったクムイ。カヨーダヌクシヌカーの流れの中で、湾曲しているところに水が溜まっていた。クムイの形は四角形だった。長さが14～15mあったので、泳いで遊ぶのに良かった。畑仕事の帰りに、手足や農機具を洗ったりしていた。下流では家畜（馬・牛）に水浴びをさせていた。

クムイ

製糖期が終わった後、サーターグルマの軸木などを漬けるクムイであった。軸木の材質であるリュウキュウマツは、水に漬けた方が強く、長持ちし、シロアリ（白蟻）よけにもなっていた。集落の西方向にあり、サーターヤーからは、ちょっと離れた場所にあった。

■サーターグルマ：サトウキビを压榨する装置。

礁池



ジャリグムイ

【※編注：位置不明確のため、地図上には記載していない】

ケービンミチを造るときにできた海の中のクムイ。ケービンミチは土を盛り上げて造っており、表面にはコーラルを敷いた。そのコーラルを取ったために、クムイみたいなものができた。3～4個あり、深さは干潮時に1mぐらい、満潮時には1m50cmを超えるぐらいあった。

■コーラル：サンゴの死骸が小石や砂利になったもの。

現在の県営美浜高層住宅のあたりにあった。

橋

イリーグワーマーヌハシ

ハシとも言う。キューヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）とイリー（伊礼）の境界から流れるナルカーとケンドーが交差するところに架かっていた橋。コンクリート造りで、幅も広がった。40～50cmぐらいの欄干もあった。

このイリーグワーマーヌハシから下流は入り江になっていたの
でナトゥグワーと言う。

→桑江のイリーグワーマーヌハシを見よ。

ハシ

ハイスイコーに架かっていた橋の1つ。屋号カマーアワグワ
（カマー安和小）：Hの南東側にあったコンクリート造りの橋。昭和
9（1934）年頃に作られた。橋の下には、ちょっとした水溜りがあり、
そこで家畜（馬・牛）に水浴びをさせていた。

→桑江のハシグワーを見よ。

駅

キューエキ

桑江駅。キューヌメーヤードゥイ（桑江ヌ前屋取）にあった沖縄
県営鉄道嘉手納線の桑江駅。砂糖を積み込んだり、那覇へ行くため
に、越来や美里からの人々も利用していた。キューエキの側には、
砂糖樽を保管する倉庫があった。駅周辺には店も多く、にぎやか
だった。

→桑江ヌ前屋取のキューエキを見よ。

工場

デンポンコージョー

澱粉工場。昭和17（1942）年頃に作られた。話者によると、澱
粉を軍用品に使うために作られたらしいと言う。芋から澱粉を
作っていた。北谷村内だけではなく、村外からも馬車で運んで来て
いた。社長は日本本土の人だった。従業員は沖縄の人たちもいた
ようだったが、機械が全部やっていたので、従業員はあまりいな
かった。工場の建物は、コンクリートではなく石の板のようなもの
でできていた。キューエキの荷物置き場と同じような材質だった。
話者によると、工場はカヨーダヌクシヌクムイの水を利用していた
ようだと言う。



＜聞き取り調査風景＞

■沖縄県営鉄道 嘉手納線：嘉手納・野国・平安山・桑江・北谷・大山・真志喜・大謝名・牧港・城間・内間・安里・与儀・古波蔵・那覇の15駅があった。

工場として機能していたのは、昭和17～19(1942～44)年の2か年ぐらいだった。昭和19(1944)年以後は、工場生産を止めて日本陸軍(石部隊)の兵舎となっていた。

キューヌクシヤードゥイ(桑江ヌ後屋取)は、この工場があったために十・十空襲を受け、集落の人が何名か亡くなった。

戦後は、工場の建物はすぐ壊されて、テントが建てられていた。

製糖小屋

サーターヤー

共同製糖小屋。屋号ウフナーザトゥ(大宮里):18の北側にあったサーターヤー。集落が小さいため、このサーターヤー1か所だけで賄えた。特にサーターグミはなかった。サーターグルマを回すために、一頭の馬を一日中使っていた。小学校5～6年生から馬ウーヤーをしていた。屋号サカヤチニングワー(酒屋知念小)の土地だったが、借料は取らず、砂糖を作るときに燃やした薪の灰をもらっていた。灰は肥料となり、大豆を植えるときなどにかぶせると実りが良くなる。製糖時期が終わると、サーターグルマの軸木はシロアリ(白蟻)よけのためにクムイに漬けていた。サーターヤーの敷地内にはゲン(ススキ)が生えていたので、それでサーターヤーの屋根を葺いていた。

戦争前には、あまりサーターヤーを使用しなくなり、嘉手納製糖工場に出すことが多かった。屋号ウフチニン(大知念)の馬車などで運んでいた。

現在の北谷町役場水道課の西側あたりにあった。

ムラヌサーターヤー

屋号ナンヨーチニングワー(南洋知念小):5の南隣にあったサーターヤー。話者によると、キュー(桑江)のサーターヤーだったと言い、キューヌクシヤードゥイ(桑江ヌ後屋取)の人でも、ここの近くの人たちは使用したかもしれないと言う。しかし、この周辺にサトウキビ畑は少なかった。

拝所

ウガンジュ

拝所。屋号ウフチニン(大知念):15の西側の道に拝所みたいな場所があった。そこはT字路だが、カジマヤーと言うこともある。高さは60cmぐらいで、幅が40cmぐらいの石敢當があり、旧暦2月2日のクスツッキーのときに拝む場所であった。昭和3(1928)年生の話者が小学生の頃に、ここの草刈りや掃除をしたことが

■石部隊:第62師団独立歩兵第12大隊の通称。

■十・十空襲:昭和19(1944)年10月10日、南西諸島に対して行なわれた米軍最初の空襲のこと。

■サーターグミ:製糖の作業をする組

■サーターグルマ:サトウキビを圧搾する装置。

■馬ウーヤー:馬を追って、歩かせる役。

■クムイ:池。沼。

■嘉手納製糖工場:沖縄製糖株式会社の嘉手納工場のこと。明治45(1912)年創業。

■カジマヤー:十字路。道が交差するところ。

■石敢當:中国起源の除災招福の石柱。

■クスツッキー:農繁期のあとにする骨休みの行事。

あると言う。

エイサーの練習や、60斤（36kg）と130斤（78kg）の2つのマーイサーが置かれていた場所でもある。

現在はキャンプ桑江内に新しく拝所を作っているが、「石敢當」ではなく、「諸大明神」と書かれている。これは、お坊さんが名づけたものである。

馬場

クェーンマイー

桑江馬場。ケンドーより東側で、クェー（桑江）とクェーヌナカヤードゥイ（桑江ヌ中屋取）の間にあつた。沖繩馬の競争を行っていた。速さだけでなく、歩き方も競っていた。鞍や馬の首に飾りをつけ、きれいだった。金持ちしか競走馬を持っておらず、クェー（桑江）の屋号イリー（伊礼）が持っていた。クェーヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）には1人もいなかった。クェー（桑江）だけではなく、他集落からも参加したり、見物に来ていた。

チャタンマイー（北谷馬場）・シナピンマイー（砂辺馬場）・ヌザトゥンマイー（野里馬場）・ジキランマイー（瑞慶覧馬場）と、近くにたくさん馬場があり、相当盛んだった。

また、クェーンマイーは、夜には三味線を持った青年たちが集まり、モーアシビをする場所だった。話者によると、大正生まれの人たちがよくやっていたようだという。

現在のキャンプ桑江第2ゲート隣にある基地内の学校のあたりである。

→桑江のクェーンマイーを見よ。

籠屋

ガンヤー

籠屋。クェーヌメーヤードゥイ（桑江ヌ前屋取）にあつた。クェー（桑江）、クェーヌメーヤードゥイ（桑江ヌ前屋取）、クェーヌナカヤードゥイ（桑江ヌ中屋取）、クェーヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）の4集落の人たちで使用していた。

ガンは前に2人、後ろに2人の合計4人で担ぐ。一度担いだら人を交代することができず、肩を変えることもできなかった。ニンブチャーを先頭にして、ガンを担いだ4人と、芭蕉布をかぶった5～6人の泣き女がその後続いた。

クェーヌクシーヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）の人たちの墓は、集落の東側にあつた。現在のちゅうざん病院あたりや県立北谷高等学校の西側や南側などである。山手側にあつた。ガンを担いで墓まで

■エイサー：旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。

■マーイサー：集落の広場などに置いてある大小の堅い、丸い石。青年たちが力試しをする。

■キャンプ桑江（キャンプ・レスタター）：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。米海軍病院がある。

■モーアシビ：農村で夜、若い男女が野原に出て遊ぶこと。三味線・歌・踊りなどをして楽しむ。

■キャンプ桑江（キャンプ・レスタター）：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。米海軍病院がある。

■ガンヤー：籠を納めておく小屋。

■ガン：籠。葬式のとき、死者の棺を入れて墓地まで運ぶためのもの。

■ニンブチャー：葬式のときに鉦をたたき、念仏歌を歌う人。ときには経文を読み、僧の代わりをつとめた。

■芭蕉布：沖縄を代表する織物。糸芭蕉の繊維で織られる。

行く道と、その帰り道は道順を変えていた。喪家以外は、屋敷の門のところに^{れい}霊が入ってこないようにという意味で、デーク（ダンチク）を置いた。デークがない場合には、^{かまど}竈の^ま灰を撒いた。

14～15歳以下の子どもが亡くなった場合には、墓に20日ぐらいの間、ランプを点けておいた。話者によると、^{さび}寂しがらないようにという意味だったのではないかと言う。墓に4つの柱を立て、仮の屋根を作っていた。

→桑江ヌ前屋取のガンヤーを見よ。

掘込墓



ジョーミチャーバカ

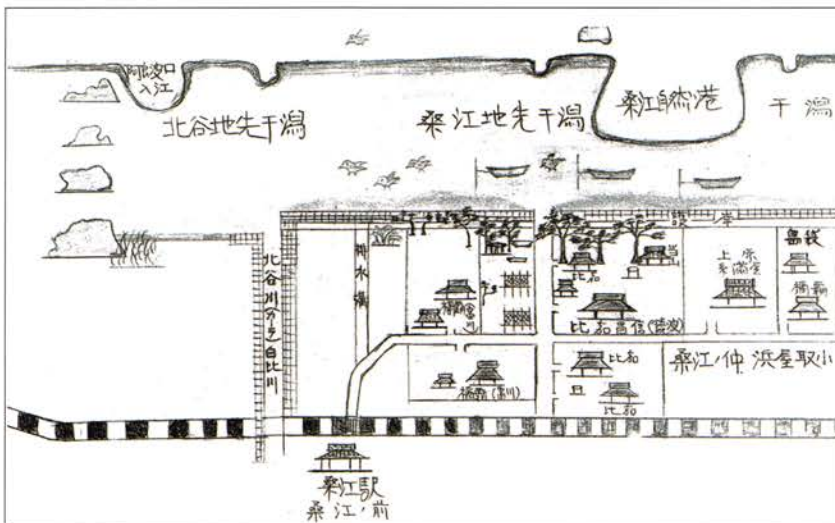
現在の県立北谷高等学校の北側斜面にあった墓。

→桑江のイーンバカを見よ。



《聞き取り調査風景》

「北谷の海」

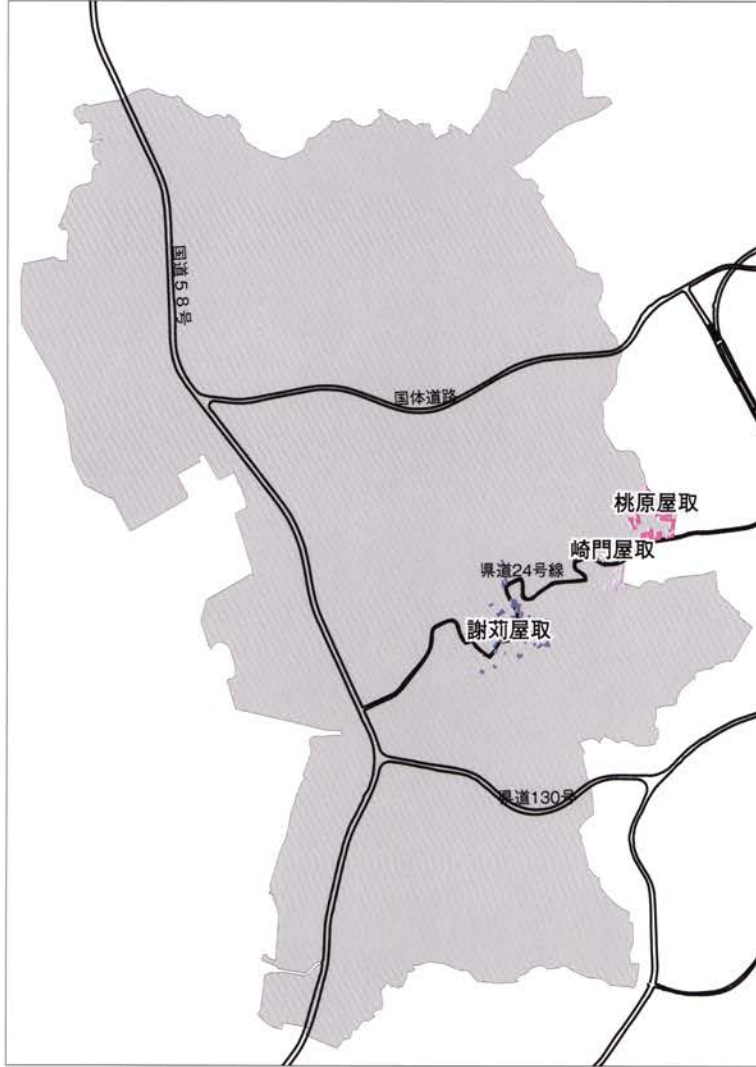


《画・比嘉昌信氏》

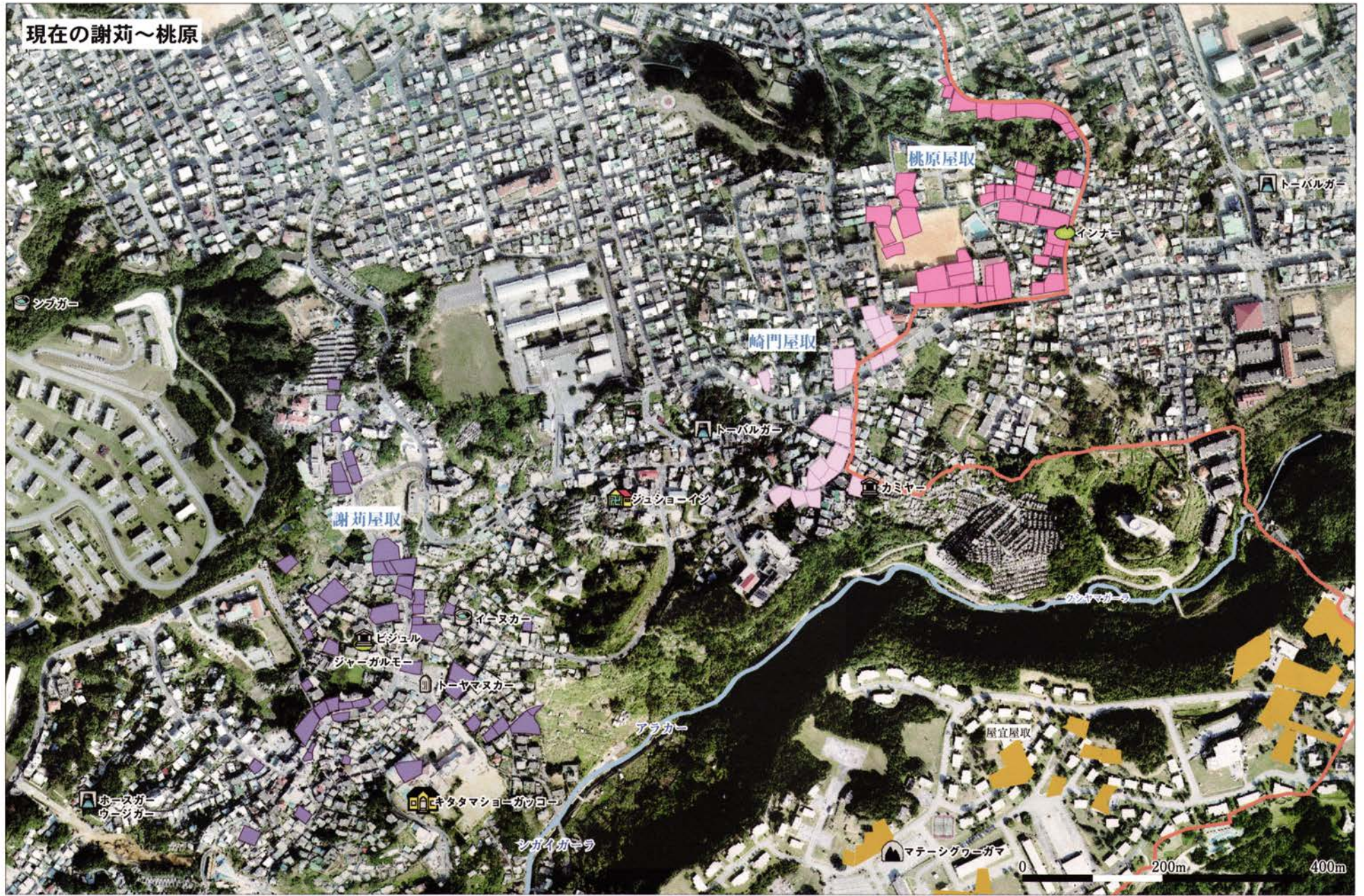
桑江又後屋取 集落の周辺



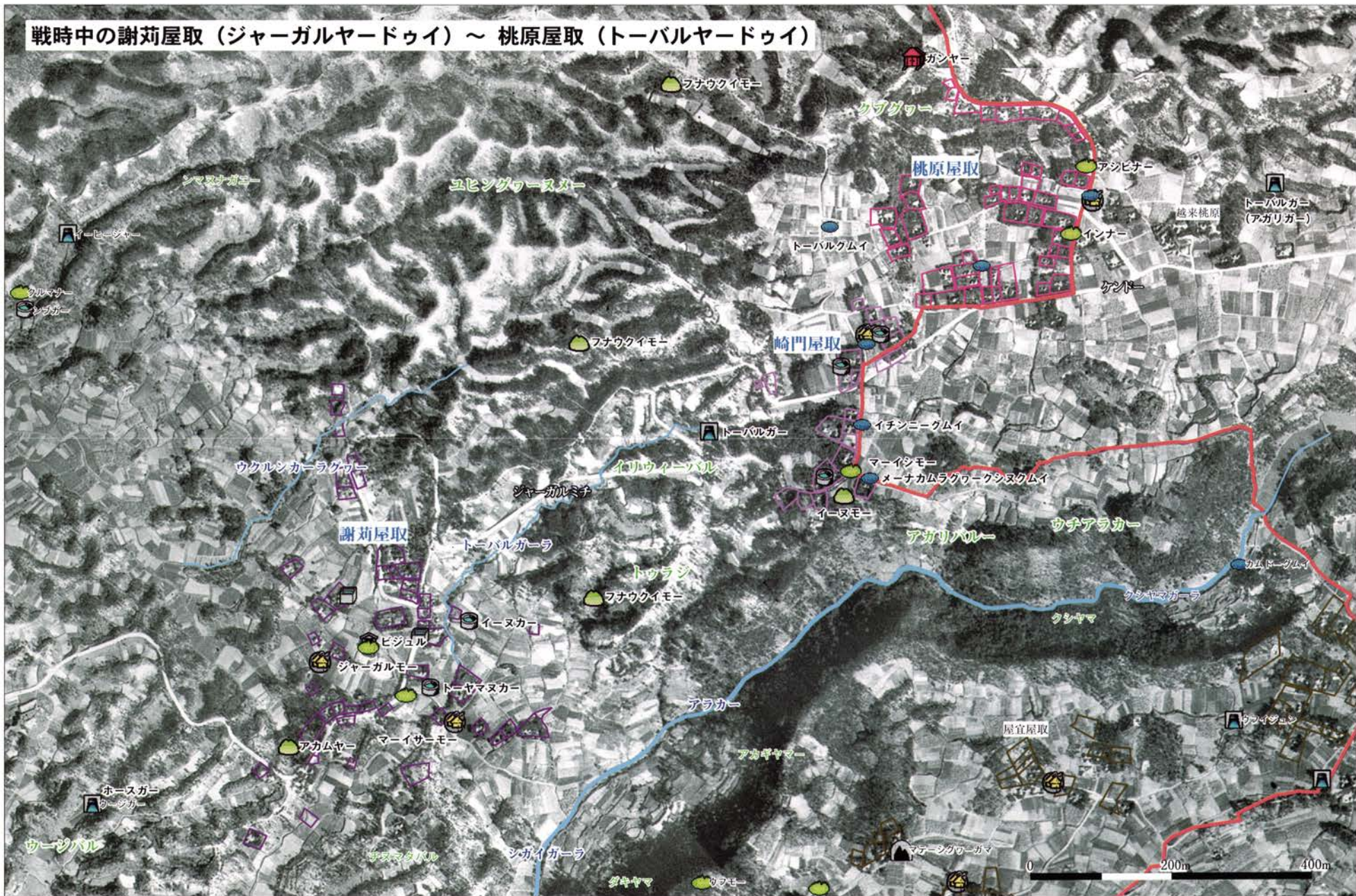
謝苺・桃原



現在の謝苺～桃原



戦時中の謝苺屋取（ジャーガルヤードゥイ）～ 桃原屋取（トーバルヤードゥイ）



～ 謝苺区のエイサー ～



謝苜屋取

ジャーガルヤードウイ

ジャーガルヤードウイ（謝苺屋取）

北谷町域、ほぼ中央に位置する^{ヤードウイ}屋取集落。町内で最も険しい地形に立地している。

戸数49軒で、そのうちカーラヤーは9軒であった。

集落はアガリ、イリ、ナカの3つの組に分かれていた。話者によると、^{たば}田場・^{ひが}比嘉・^{あらかき}新垣・^{おおみち}大道・^{なかもね}仲嶺・^{みやざと}宮里などの姓はアガリ、^め目取真・^{なこう}名幸・^{きゆうな}喜友名・^{うら}宇良などの姓はイリ、^{たみなと}田港・^{めどるま}目取真などの姓はナカというふうに、^{しんせき}親戚同士で分かれていたと思われるが、はっきりとは覚えていないと言う。ニングワチャーのときにだけ、この3つの組に分かれていた。

主業は農業で、^{イモ}芋やサトウキビを作っていた。日用雑貨を扱^{あつか}うマチヤが2軒、^{えきしや}易者が1軒あった。

個人井戸が7か所あったが、ニープガーが多く、^{かんぼつ}早魁には^か濁れていた。そのため、共同井戸の^{イーヌカー}イーヌカーと^{トーヤマヌカー}トーヤマヌカーを利用することが多かった。

共同の水タンクがあった。^{ほじよ}補助を受け、屋号^{ナーザトウグワー}ナーザトウグワー（宮里小）：32と屋号^{メヌミドウルマ}メヌミドウルマ（前ヌ目取真）：28の2か所の個人屋敷内に作られた。瓦の屋根から^{とい}樋を^{てんすい}伝わってきた天水をタンクに溜めていた。タンクの形は四角で、6畳ぐらいの大きさで、高さが1m80cmぐらいだった。^{てつきん}鉄筋の代わりにヤンバルダキ（リュウキュウチク）を入れたセメント造りだった。話者によると、タンクを作った時期は覚えていないが、^{こわ}取り壊したのは昭和54～55（1979～80）年頃だったと言う。水タンクは水道ができるまで利用されていた。

^{アガリグミ}アガリグミと^{イリグミ}イリグミの^{サーターヤー}サーターヤーがあった。集落の真ん中の^{さかい}道を境に、東側が^{アガリグミ}アガリグミで、西側が^{イリグミ}イリグミであった。^{しんせき}親戚同士で、10名ぐらいの^{サーターグミ}サーターグミを作っていた。1回に作る砂糖は2～3丁ぐらいであった。ウージガラを燃料としていた。サーターグルマは、製糖時期が終わると^{ぶんかい}分解した。^{じくぎ}軸木は製糖用の^{かま}釜を据えていた小屋に納め、サーターグルマはそのままそこに置いていた。サトウキビを^{かてな}嘉手納製糖工場へ持って行くこともあった。朝1回、晩1回の一日2回、馬車で運んでいた。

ジャーガルモーに^{たい}3体の^{ビジュル}ビジュルがあり、旧暦2月2日、旧暦8月15日、旧暦11月15日に^{おが}拝む。

ガンはジャーガルヤードウイ（謝苺屋取）^{しよゆう}所有のものがなかったので、^かキュー（桑江）から借りていた。話者によると、お金を出して借りていたのではないかと言う。ガンは^{そうか}喪家まで持ってきてから組み立てた。担ぐのは4人で、箱を持つ人が1人ついた。ガンを一度担ぐと、墓まで^お下ろすことはできなかった。墓まで行き、そこ

■カーラヤー：瓦ぶきの家。

■ニングワチャー：旧暦2月に行なわれる行事。集落や組単位で酒宴を開き、余興をして楽しむ。

■マチヤ：店。

■ニープガー：ひしゃくで汲めるような浅い井戸。



<聞き取り調査風景>

■サーターヤー：製糖小屋。

■サーターグミ：製糖の作業をする組。

■ウージガラ：サトウキビの絞り殻。

■サーターグルマ：サトウキビを圧搾する装置。

■嘉手納製糖工場：沖縄製糖株式会社の嘉手納工場のこと。明治45（1912）年創業。

■ビジュル：霊石として祀られる石。

■ガン：籠。葬式のとき、死者の棺を入れて墓地まで運ぶためのもの。

でガンを解体した。ガンが通ってはいけないという道はなく、通りやすい道を通っていた。墓は、他の集落の人たちの墓と入り混じって、ウジバルやトゥラジなどにあった。墓普請は集落の人たち全員で行なっていた。葬式は坊さんよりも、ウクルンバルに住んでいたニンブチャーに頼むことが多かった。

マーイサーはマーイサーモーに置いてあった。

現在の謝刈公園のすぐ下、一本松給油所のところと、宇地原区公民館のあたりに個人有地のカヤモーがあった。

学校は、チャタン（北谷）にあった北玉尋常高等小学校へ通っていた。学校へはケンドーをとお通って行くと遠いので、クンチリ道や山道から通っていた。

キューエキへ行くときはジャーガルミチを利用していた。

風呂はほとんど川ですませていた。風呂屋へ行くのは年に1～2回ぐらいだった。話者によると、風呂屋はチャタン（北谷）とキュー（桑江）の2か所にあったが、キュー（桑江）の風呂屋しか利用したことがないと言う。

【集落で行なう主な年中行事】

●旧暦2月<ニングワチャー>：アガリ・ナカ・イリの3つの組に分かれて行なっていた。

●旧暦7月<エイサー>：空手の型のエイサーだった。ビジュルをおが押んでから出発した。集落内を回るだけではなく、他の集落に行くこともあった。話者によれば、ウィーシードゥヤードゥイ（上勢頭屋取）やキュー（桑江）からも、ジャーガルヤードゥイ（謝刈屋取）に来たことがあったと言う。

戦後は、北谷町全域が米軍に接収されたなかで、いち早く居住許可地域となり、ジャーガルヤードゥイ（謝刈屋取）の人たちだけでなく、帰る場所を失った多くの人々が移り住んだ。

■ニンブチャー：葬式のときに鉦をたたき、念仏歌を歌う人。ときには経文を読み、僧の代わりをつとめた。

■マーイサー：集落の広場などに置いてある大小の堅い、丸い石。青年たちが力試しをする。

■カヤモー：屋根を葺くのに使う茅を生やしていた野原。

■北玉尋常高等小学校：北谷尋常高等小学校の分教場であった。大正3（1914）年に北玉尋常小学校として開校し、大正6（1917）年に高等科を設けて北玉尋常高等小学校となった。

■クンチリ道：近道。

■ニングワチャー：旧暦2月に行なわれる行事。集落や組単位で酒宴を開き、余興をして楽しむ。

■エイサー：旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。



《ビジュルの祠》

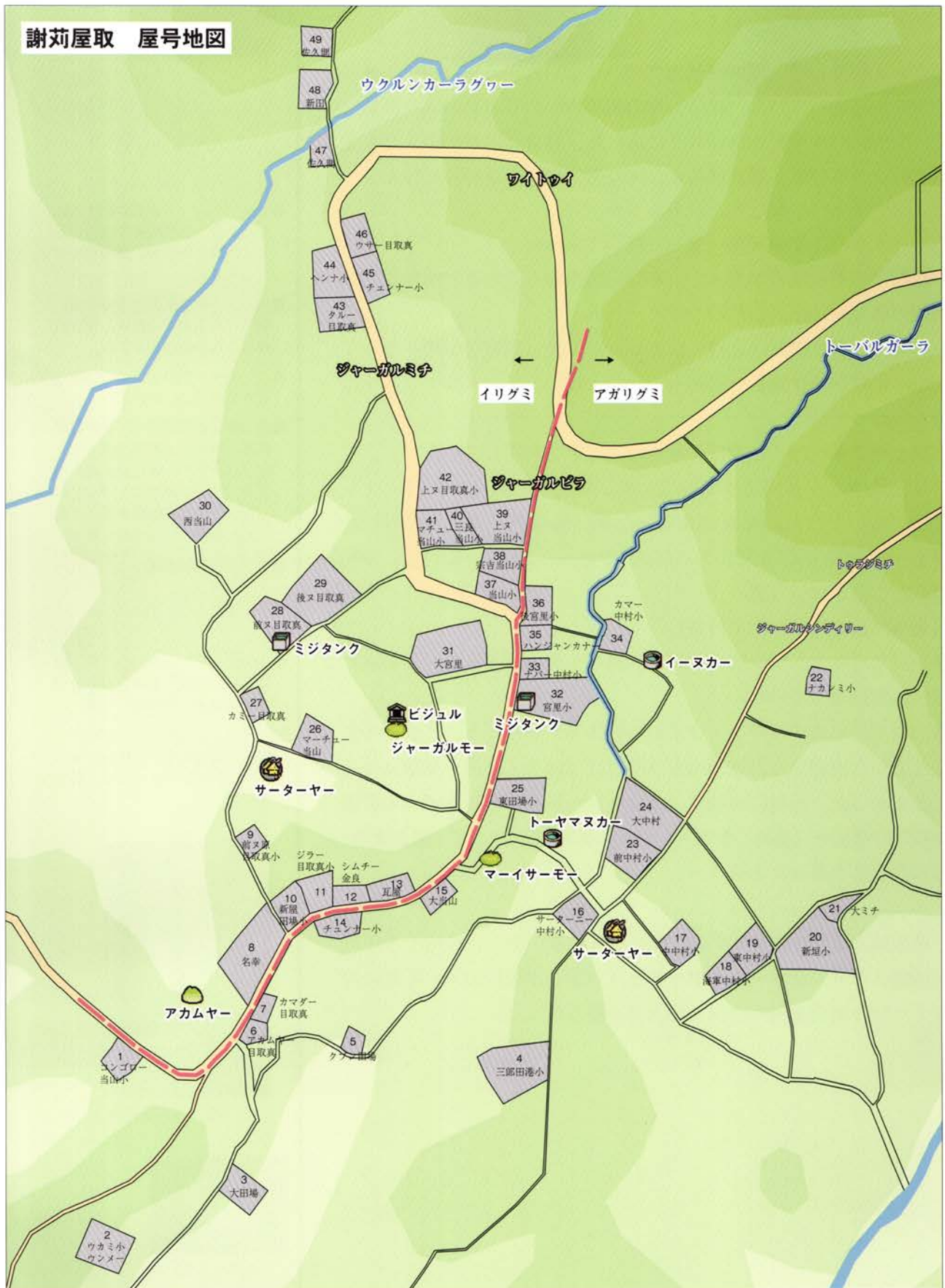


《マーイサー》



《マーイサー》

謝苺屋取 屋号地図



謝苺屋取の家の配置 (数字は屋号番号)



鉄道



河川

(小さい文字は他の集落の呼び名)



道路

(小さい文字は他の集落の呼び名)

緑の文字 地域の名称 (小さい文字は他の集落の呼び名)

ジャーガルヤードウイ（謝苺屋取）

組

アガリ

集落の組分けの1つ。話者によると、親戚同士で分け、田場・比嘉・新垣・大道・仲嶺・宮里などの姓がアガリだったと思われるが、はっきりとは覚えていないと言う。ニングワチャーのときだけの組分けだった。

ナカ

集落の組分けの1つ。話者によると、親戚同士で分け、目取真・田港などの姓がナカだったと思われるが、はっきりとは覚えていないと言う。ニングワチャーのときだけの組分けだった。

イリ

集落の組分けの1つ。話者によると、親戚同士で分け、目取真・名幸・喜友名・宇良などの姓がイリだったと思われるが、はっきりとは覚えていないと言う。ニングワチャーのときだけの組分けだった。

砂糖組

アガリグミ

集落の組分けの1つ。集落の真ん中の道を境にして分けていた。道から東側がアガリグミである。ほとんど親戚同士で組分けされ、製糖作業をするときに10名程度のサーターグミを作っていた。お金を出し合ってサーターヤーを維持していた。

イリグミ

集落の組分けの1つ。集落の真ん中の道を境にして分けていた。道から西側がイリグミである。ほとんど親戚同士で組分けされ、製糖作業をするときに、10名程度のサーターグミを作っていた。お金を出し合ってサーターヤーを維持していた。

集落名

サチジョーヤードウイ

崎門屋取。集落の東方向にあった屋取集落。ジャーガルヤードウイ（謝苺屋取）の人と婚姻を結ぶことがあった。

■ニングワチャー：旧暦2月に行なわれる行事。集落や組単位で酒宴を開き、余興をして楽しむ。



◀聞き取り調査風景▶

■サーターグミ：製糖の作業をする組。

■サーターヤー：製糖小屋。

河川

ウクルンカーラグワー

集落の北側にあった山の中から湧き出て、西へ向かって流れていた。流れの真ん中から水が盛り上がり吹き出していた。川幅はあまり大きくなく、飛び越えられるぐらいだったが、水が涸れることはなかった。良質な水だったが、そこに住んでいたニンプチャーの人だけしか利用していなかった。

現在はポリテクセンターの真下となっている。ポリテクセンター建設のときに埋め土され、湧き口は無くなってしまった。しかし、流れは教会の手前あたりからところどころ残っており、キャンプ桑江の方へと流れている。話者によると、戦前は海まで流れていたが、キャンプ桑江内は作り変えられているかもしれないと言う。

トーバルガーラ

トーバルガーから流れ出してくる小川。

現在のハッピー（北玉）児童館あたりに流れてくる。

→崎門屋取のトーバルガーを見よ。

シガイガーラ

集落の北東方向から南へと流れている川。もう1つの川と合流するところをタマタと言ひ、そこから下流はシルヒージャーガワと言う。上流は現在の沖繩市で、うぐいす谷墓地公園近くを流れてくる。

→伝道のタマタを見よ。

小ハル名

ウージバル

集落の南西方向一帯を言う。現在の小字のアガリウジバル・イリウジバルの範囲はまとめてウージバルと呼ばれていた。墓が多い場所で、ジャーガルヤードウイ（謝苺屋取）、チャタン（北谷）、クエー（桑江）の人たちの墓があった。松林もあった。

ウチアラカー

集落の東方向にあった。ほとんどが山で、松林があった。ジャーガルヤードウイ（謝苺屋取）の人たちの墓もあった。

現在のうぐいす谷墓地公園の下あたりである。

トゥラジ

集落の北東側にあった山。松が生えていた。トゥラジの下あた

■ニンプチャー：葬式のときに鉦をたたき、念仏歌を歌う人。ときには経文を読み、僧の代わりをつとめた。

■ポリテクセンター：沖縄職業能力開発促進センター ポリテクセンター沖縄

■教会：日本聖公会 沖縄教区 北谷諸魂教会

■キャンプ桑江（キャンプ・レスター）：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。米海軍病院がある。



《聞き取り調査風景》

りには墓が多かった。ジャーガルヤードゥイ（謝苜屋取）とトーバルヤードゥイ（桃原屋取）の人たちの墓が入り混じってあった。

日本軍が掘った立派な壕があった。壕は海に向かっており、機関銃が設置されていた。話者によると、壕掘りの徴用もあったのではないかと言う。

現在の町立北玉小学校の東側で、北谷町のタンクの南側あたりである。

郡道

ジャーガルミチ

県道だった。下の方は郡道。補修工事には、県から2人の工夫が来ていた。チャタン（北谷）の人だった。ジャーガルヤードゥイ（謝苜屋取）の人たちが補修工事に出ることはなかった。

道幅は約3mで、馬車が一台通るぐらいの幅だった。荷馬車だったらすれ違えてきたかもしれないが、あまり通らなかった。道には馬車の車輪の跡が残っていた。

ジャーガルミチの東側は字伝道、西側は字桑江だった。

現在の県道24号線のことで、宇地原区公民館から桃原あたりぐらいまでを言う。

坂道

ジャーガルビラ

ジャーガルミチの一部。相当急な勾配の坂道で、石畳道だった。頑丈に造られていた。話者によると、道の補修に出たことはなく、話を聞いたこともないと言う。馬車は通らなかった。林道である。

ジャーガルビラはイニンビーで有名で、旧暦8月15日には、ジャーガルビラの途中で青年たちが待っていた。しかし、話者は見たことがないと言う。イニンビーは、喜友名のアヒラービラグワから来て、ヤカビヌヒラを上り、ジャーガルビラに来るという話がある。

キューヌメーヤードゥイ（桑江ヌ前屋取）の聞き取り情報によると、米軍上陸前には、地雷を埋めて誰も通さないようにしていたと言う。

現在の「北玉小学校入口」バス停留所から上がっていく坂道のことである。セメントで固められている。

ヤカビヌヒラ

集落の南西方向にあった坂道。現在のミハマタクシーの近くにあった。絶壁みたいなところから人がやっと通れるぐらいの坂で、白比川の方に下りて行くことができた。階段のように作られていた。

■徴用：国家（軍）が国民を強制的に動員し、作業させること。

■工夫：道路。鉄道などの土木工事の作業員。



◀聞き取り調査風景▶

■イニンビー：ひとだま。死者の遺念が火となって現れるもの。

切り通し

ワイトウイ

集落の北側にあった。両方の山を削り取^{けず}って作られた。話者によると、相当高くて10m以上あったのではないかと言う。昼でも暗くて、怖いところだった。道幅は3mぐらいで、荷馬車がやっと通れる^{とお}ぐらいで、すれ違^{ちが}いはできなかつたと思われる。いつ頃できたかはわからないと言う。

丘

アカムヤー

屋号ナコー（名幸）：8のところにあった山。赤土で山が赤くなっていた。大きな山みたいにとんがっており、子どもたちが遊んだりした場所だった。

現在の幸地書店の向かいあたりである。

湧水井戸



ホースガー

水が豊富だったが、あまり上等な造りの井戸ではなかった。戦後作り直して立派になった。ホースガーの名は、戦後ついたものである。ゴムホースを入れて水を引いていたので、ホースガーの名がついた。

→伝道のウージガーを見よ。

掘井戸



イーヌカー

共同井戸。2か所あるうちの1つ。屋号カマーナカムラグワー（カマー中村小）：34の東側にあった。個人井戸があるのは数軒だけだったので、集落のほとんどの人たちがイーヌカーを利用していた。一番上等な井戸だった。深さは1mぐらいで、釣瓶^{つるべ}を使っていた。

カーウガミをする。

現在の水量は、戦前の半分ぐらいになっている。

トーヤマヌカー

共同井戸。2か所あるうちの1つ。屋号アガリターバグワー（東田場小）：25の南側にあった。チンガーで、相当深く、2～3m以上あった。ワクではなく、早魃^{かんぼつ}の場合には水が涸れた。

現在のハッピー（北玉）児童館のところである。井戸は埋められているが、碑^ひが建てられている。



《ホースガー》



《イーヌカー》

■カーウガミ：井戸の神様を拝む。



《トーヤマヌカー》

■チンガー：つるべ井戸。

■ワク：湧き水。

水タンク

ミジタンク

共同の水タンク。2か所あるうちの1つ。屋号ナーザトゥグワー（宮里小）：32にあった。昭和13～15（1938～40）年頃に作られた水タンク。6畳ぐらいの大きさで、タンクの形は四角だった。セメント造りで、鉄筋^{てっきん}の代わりにヤンバルダキ（リュウキュウチク）を使っていた。雨水を溜^ためていた。

戦後も残っていたが、水道が普及^{ふきゅう}してからはあまり使われず、昭和54～55（1979～80）年頃に取り壊^{こわ}された。

ミジタンク

共同の水タンク。2か所あるうちの1つ。屋号メーヌミドゥルマ（前ヌ目取真）：28にあった。昭和13～15（1938～40）年頃に作られた水タンク。6畳ぐらいの大きさで、タンクの形は四角だった。セメント造りで、鉄筋^{てっきん}の代わりにヤンバルダキ（リュウキュウチク）を使っていた。雨水を溜^ためていた。

戦後も残っていたが、水道が普及^{ふきゅう}してからはあまり使われず、昭和54～55（1979～80）年頃に取り壊^{こわ}された。

橋

ローラーバシ

ジャーガルミチを直すために来ていたローラーが、チャタン（北谷）にあった橋の上を通^{とお}ったときに、壊^{こわ}れてしまった。2～3名の子どもたちが巻き込まれて亡くなった。それ以後、ローラーバシと言うようになった。平たい石の橋だった。

→北谷のローラーバシを見よ。

製糖小屋

サーターヤー

共同製糖小屋。2か所あるうちの1つ。屋号サーターニーナカムラグワー（サーターニー中村小）：16の東側にあった。アガリグミの人たちで共同利用していた。

現在の町立北玉小学校^{きたたま}の門のあたりである。

サーターヤー

共同製糖小屋。2か所あるうちの1つ。屋号マーチュートーヤマ（マーチュー当山）：26の南西側にあった。イリグミの人たちで共同利用していた。



＜聞き取り調査風景＞



＜現地調査風景＞

拝所

ビジュル

ジャーガルモーに3体ある。このビジュルは山里^{やまざと}からウンチケーしてきたものである。旧暦2月2日、旧暦8月15日、旧暦11月15日に^{おが}拝む。

広場

ジャーガルモー

アザモー、マーチューモーとも言う。屋号ウフナーザトゥ（大宮里）：³¹の南西方向にあった。20～30坪ぐらいのモーグワーだった。

山里^{やまざと}からウンチケーしてきた3体のビジュルがある。ウンチケーしてくる前は、ただのモーグワーだった。ビジュルの祠^{ほくら}は、ソーマン箱を枠として、セメントで作られていた。すべて、ジャーガルヤードウイ（謝苺屋取）の人たちによって作られた祠であった。戦前、戦後とも、祠の位置や向きは変わっていない。

幹^{みき}の太さが2～3mぐらいの大きな松^{マツ}があった。ジャーガルモーに向かって右側で、碑^ひの反対側に生えていた。しかし、その松は戦後になって虫にやられて枯れてしまい、なくなってしまった。現在生えている松は戦後のものである。

旧暦2月2日と旧暦8月15日の2回^{おが}に拝んでいる。

フナウクイをする場所でもあった。おばあさんたちが太鼓をたたきながら見送っていた。話者によると、煙だけをたててやったこともあるらしいと言う。

周囲は畑だった。

現在の町立第一保育所のところである。

マーイサーモー

セーネンモーとも言う。トーヤマヌカーの南西側にあった。

マーイサーが置いてあり、それぞれ大きさ・重さが違っていた。ほとんどは卵形だが、1個だけ、コグワダチャーといって、鏡餅みたいな形のものがあった。話者によると、マーイサーの重さは100kg余りあったのではないかと言う。夜になると若者が集まって、力比べをして遊んでいた。

沖縄相撲や、エイサーの練習を行なう場所でもあった。

現在のハッピー（北玉）児童館の南西側あたりである。マーイサーはジャーガルモーに移してある。



《ビジュル》

■モーグワー：原野。野原。原っぱ。

■ビジュル：お招き。お連れすること。

■ウンチケー：霊石として祀られる石。



《ジャーガルモー》

■フナウクイ：見はらしのいい場所から、旅に出る人の安全を願い、船を見送ること。

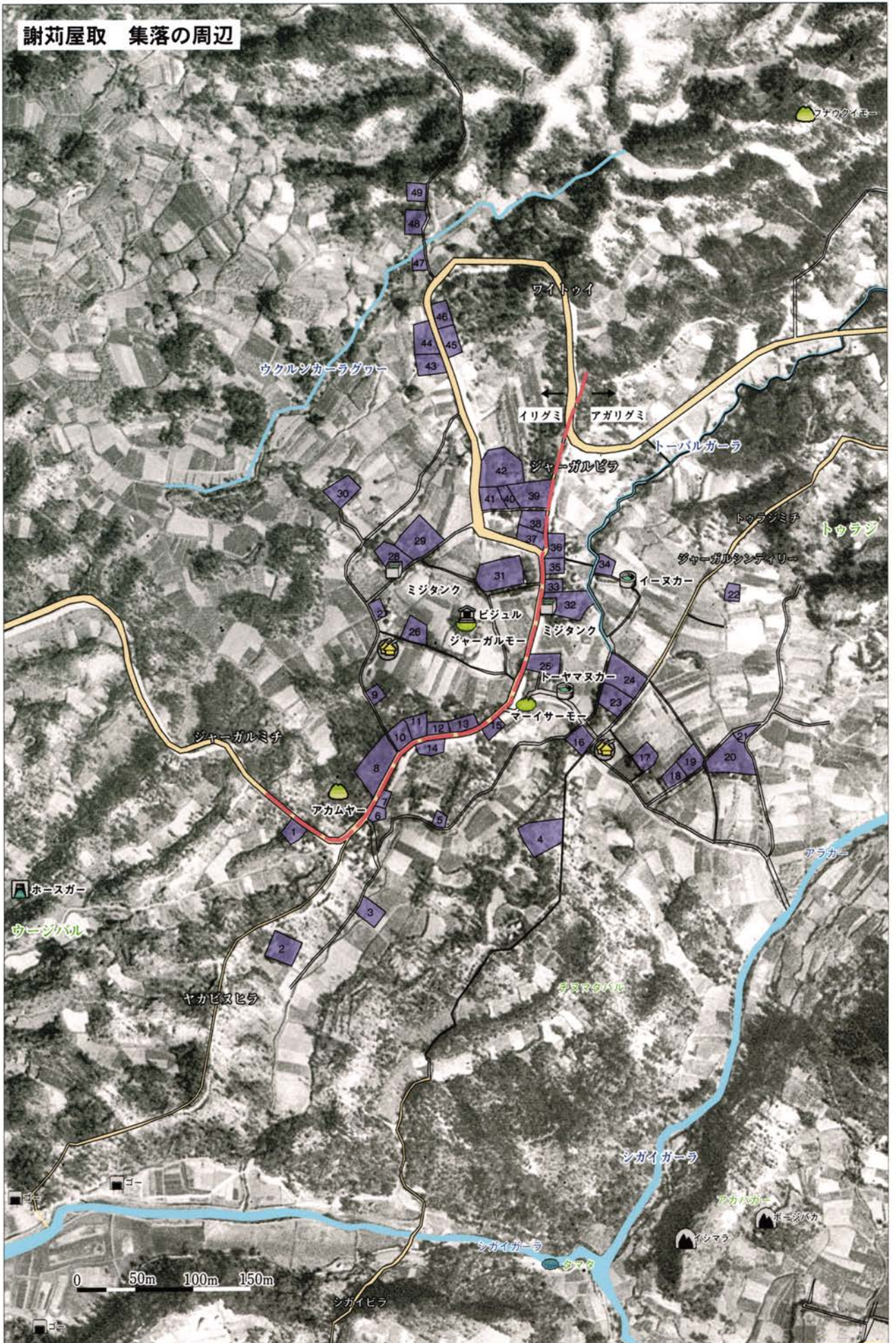


《マーイサー》

■マーイサー：集落の広場などに置いてある大小の堅い、丸い石。青年たちが力試しをする。

■エイサー：旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。

謝苺屋取 集落の周辺



崎門屋取

サチジョーヤードウイ

サチジョーヤードゥイ（崎門屋取）

北谷町域東端、東シナ海を望む高台に位置する屋取集落。東側はトーバルヤードゥイ（桃原屋取）と隣接している。そのため、サチジョーヤードゥイのことをイリトーバルと言うこともある。

戸数24軒で、そのうちカーラヤーが7軒あった。

集落は2つに組分けされた。南側の12軒がメーダカリ、北側の12軒がクシンダカリとなる。話者によれば、サーターグミや綱引きなどもなかったの、特に組単位で何かをしたというわけではなかったと言う。

サチジョーヤードゥイ（崎門屋取）は、首里・那覇から来た士族ではなく、現在の北中城村比嘉・島袋からの平民による移住集落である。北谷町内では他に例がなく、特殊な屋取集落であると言える。話者によると、移住時期については100歳以上の方々に聞いてもわからなかったと言う。しかし、移住するときの候補地としてヤジバルもあがっていたが、最終的にこの場所を選んだという話が伝わっていると言う。

主業は農業で、サトウキビ、芋、豆類などを作っていた。しかし、あまり土地が良くないので、南洋への出稼ぎも多く出ている。マチヤは2軒あり、そのうちの屋号マチヤ（店）:22は、米、味噌、缶詰類、酒、タバコなどを売る大きな店であった。サチジョーヤードゥイ（崎門屋取）の人たちだけではなく、トーバルヤードゥイ（桃原屋取）の人たちも買い物に来ていた。もう1軒は、屋号リーグンニグワー（リーグン根小）:15のメーヌヤーを借りていた屋号ナカガワ（中川）:16である。小さな店だった。

個人のクルマガーが3か所あった。集落は高台に位置していたので、17~18mぐらい深く掘っていた。水が涸れることはなかった。つるべ縄は、藁を編んで作っていた。また、カーラヤーである4軒には個人の水タンクがあった。瓦の屋根から樋を伝わってきた天水をタンクに溜めていた。

サーターヤーは1か所だけで、屋号サンラーサチジョー（三郎崎門）:21の西隣にあった。作った砂糖は、馬車やキューエキからテツドで那覇へ運んでいた。また、馬車で嘉手納の製糖工場へ運ぶこともあった。工場へ出す場合には、出来上がった砂糖を受け取るのではなく、運び込んだサトウキビの代金が支払われていた。

集落内に拝所はなく、山里のハーナムイに拝みに行っていた。戦後はイーヌモー近くにカミヤーを作り、そこにハーナーの神をお迎えして祀っている。

現在のうぐいす谷墓地公園のあたりに、個人のカヤモーがあり、屋根の葺き替えのときに、面積でいくらというふう売っていた。

■カーラヤー：瓦ぶきの家。

■サーターグミ：製糖の作業をする組。



◀聞き取り調査風景▶

■マチヤ：店。

■メーヌヤー：農村などで母屋の前にある離れ。アサギグワーとも言う。

■クルマガー：滑車につるべ縄をかけて水を汲む井戸。

■カーラヤー：瓦ぶきの家。

■サーターヤー：製糖小屋。

■嘉手納製糖工場：沖縄製糖株式会社の嘉手納工場のこと。明治45(1912)年創業。

■ハーナムイ：首里から逃げてきて山里で子を産み育てた美しい娘を祀ったと伝えられている。普天間宮へ遥拝する場所である。

■カヤモー：屋根を葺くのに使う茅を生やしていた野原。

屋号イチンニグワー（池根小）：7のところの三叉路をマーイシモーと言い、そこにマーイシが7～8個置いてあった。

学校は、チャタン（北谷）にあった北玉国民学校に通っていた。

サチジョーヤードゥイ（崎門屋取）やトーバルヤードゥイ（桃原屋取）の人たちの墓はトゥラジにあった。そこには、戦時中、防空壕も多く作られた。現在のうぐいす谷墓地公園の近くまで、たくさんのお墓があり、現存している。

【集落で行なわれる主な年中行事】

●旧暦2月2日<クスツクイー（クシユクワーシー・ニングワチャー）>：ほとんど男性だけで行なわれていた。大きな家を借りてヤードゥとし、そこに集まって、三味線を弾き、太鼓を叩いたりして遊んだ。ごちそうは膳に盛り、桃の花を挿して飾った。

●旧暦7月<エイサー>：2～3週間前から、マーイシモーに集まって練習していた。当日は集落内の各家を回っていた。

●旧暦8月<カーウガミ>：トーバルガーを掃除し、拝む。

集落域は米軍に接収され、通信隊の施設となり、その後は婦人部隊になっていた。現在は返還されている。白川園の北東側あたりで、住宅地となっている。

■マーイシ：集落の広場などに置いてある大小の堅い、丸い石。青年たちが力試しをする。

■北玉国民学校：北谷尋常高等小学校の分教場であった。大正3（1914）年に北玉尋常小学校として開校し、大正6（1917）年に高等科を設けて北玉尋常高等小学校となった。後に国民学校となる。

■クスツクイー：農繁期のあとにする骨休みの行事。

■ヤードゥ：一時的に集会所にあてられる家。

■エイサー：旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。

■カーウガミ：井戸の神様を拝む。

■白川園：社会福祉法人高洋会 老人保健施設 白川園



＜トーバルガー＞



＜トーバルガー周辺＞

崎門屋取 屋号地図



	崎門屋取の家の配置 (数字は屋号番号)		河川 (小さい文字は他の集落の呼び名)
			道路 (小さい文字は他の集落の呼び名)
	鉄道		緑の文字 地域の名称 (小さい文字は他の集落の呼び名)

サチジョーヤードゥイ（崎門屋取）

村渠

メーダカリ

前村渠。集落の組分けの1つ。南側の12軒である。北側はクシンダカリと言う。話者によると、サーターグミや綱引きなどもなかったの、特に何をしたというわけではないと言う。

■サーターグミ：製糖の作業をする組。

クシンダカリ

後村渠。集落の組分けの1つ。北側の12軒を言う。南側はメーダカリと言う。

集落名

イリトールバル

西桃原。サチジョーヤードゥイ（崎門屋取）のことである。普通はサチジョーヤードゥイ（崎門屋取）と言うが、イリトールバルという呼び名もよく使った。他集落の人が、イリトールバルとアガリトールバルのどちらの出身かと聞いてくることもあった。

アガリトールバル

東桃原。トールバルヤードゥイ（桃原屋取）のことである。

グィークトールバル

越来桃原。ごえく そんとうばる越来村桃原のことで、おきなわ し んなみとうばる現在の沖縄市南桃原側の集落。

河川

トールバルガーラ

トールバルガーから流れ出し、小川になっていた。集落の西方向、ジャーガルヤードゥイ（謝苺屋取）の方へと流れていた。

ウクルンカーラグワー

集落の西方向にあった小川。幅1mぐらいの小さな流れだが、年中水があり、なかなかか涸れなかった。そこに住んでいたニンプチャーの人だけが利用しており、他の人が利用することは、あまりなかった。

現在のポリテクセンターのあたりである。
→謝苺屋取のウクルンカーラグワーを見よ。

■ニンプチャー：葬式のときに鉦をたたき、念仏歌を歌う人。ときには経文を読み、僧の代わりをつとめた。

■ポリテクセンター：沖縄職業能力開発促進センター ポリテクセンター

小ハル名

アガリバルー

集落の東南側にあった。畑地で、ほとんどムジバルだった。
現在のうぐいす谷墓地公園一帯である。

ウチアラカー

集落の東南方向にあった谷底。谷を作っている川は、フテンマ
ガーラ・チャタンガーラにつながっていた。

家畜（馬・牛）に水浴びをさせていた。

現存する。

トゥラジ

集落の南西方向にあった。トゥラジバルとも言う。山で、チャタ
ン（北谷）の人が薪を取るために買い取った土地があり、チャタン
ジーと言った。底は畑で農作物は芋^{イモ}を作っていたが、非常に悪い土
地だった。トゥラジという意味は不明。

チャタンジー

【※編注：位置不明確のため、地図上には記載していない】

トゥラジの一部である山林を言う。薪を取るために、チャタン
（北谷）の人がこの土地を買ったため、こう呼ばれるようになった。

イリウィーバル

集落の西側一帯を言う。トーバルガーラの流れがきており、田ん
ぼがあった。

戦後、埋め土されている。

ユヒングワーヌメー

集落の北西方向にあった。深い山で、家もなかった。

郡道

ジャーガルミチ

ケンドーとも言う。ジャーガルヤードゥイ（謝苺屋取）から上^{のぼ}
てくる道。話者によると、明治28（1895）年生まれの方が10～
11歳の頃に、この道ができたという話を聞いたことがあると言
う。その道造りのときには、サチジョーヤードゥイ（崎門屋取）の
人たちがニンスクとして作業に出たと言う。

→謝苺屋取のジャーガルミチを見よ。

■ムジバル：麦畑。



＜聞き取り調査風景＞

■ニンスク：人足。

生活道

トゥラジミチ

ジャーガルシンディリーから上^{のぼ}ってくる道。屋号メーサチジョー（前崎門）：5へ行く道。道幅が狭^{せま}かった。
現在の玉那覇酒造のあたりである。

坂道

ジャーガルシンディリー

現在の町立北玉小学校の^{きたたま}ところから上^あがる、真っ直ぐな坂を言う。ジャーガルピラより急な坂道だった。非常に道が悪く、滑^{すべ}ったり転^{ころ}んだりしていた。道幅も人が通れるぐら^{とお}いだった。ニービなので、台風^{くづ}のときは崩れたりした。トゥラジミチとつながっており、屋号メーサチジョー（前崎門）：5へ行く道。

話者によると、土地はサチジョーヤードウイ（崎門屋取）のものなのに、なぜジャーガルシンディリーと言うかはわからないと言う。

ジャーガルピラ

ジャーガルヤードウイ（謝苺屋取）にあった坂道。石畳道だった。上の方に大きな松^{マツ}が2～3本あり、学校の帰りに一休みする場所だった。

ジャーガルピラの上にはイニンビーが出ることで有名である。話者によると、イシグー取りをしているときに石が倒れてきて死んだ人がおり、この人がイニンビーになったという話があったが、実際にイニンビーを見たことはないと言う。

→謝苺屋取のジャーガルピラを見よ。

切り通し

ウクルンワイトウイ

ジャーガルヤードウイ（謝苺屋取）の方^あにあった。長さは24～25mぐら^あいだった。右側は30mぐら^あいで、左側はあまり長くなかった。高さは相当高かった。掘ったときの跡^{あと}が残っていた。

丘

フナウクイモー

 【※編注：位置不明確のため、地図上には記載していない】

2か所あるうちの1つ。トゥラジにあった。

フナウクイモー

2か所あるうちの1つ。ウクルンバル^{へいたん}にあった。山の上が平坦になっていて、30名ぐら^あいで輪を作って座れる広さがあった。この

■ニービ：赤くざらざらした堅い土質。

■イニンビー：ひとだま。死者の遺念が火となって現れるとされるもの。

■イシグー：さんご礁などを砕いた細かい砂利。

フナウクモーでは、泊^{とまり}からスナベ（砂辺）まで船を見送ることができた。もう1つのフナウクイモーよりも海を広く見渡すことができたので、こちらの方がよく利用されていた。松葉^{マツ}を燃やして、煙を立たせ、隣近所の人や親戚のおばあさんたちが太鼓を叩いて、歌を歌い、フナウクイをしていた。

現在のポリテクセンターのところにあった。

イーヌモー

サチジョーヤードウイ（崎門屋取）で一番高いところだった。屋号トゥクンミ（徳嶺）：3や屋号メーナカムラグワー（前仲村小）：4の近くだった。南側は絶壁^{ぜつぺき}になっており、下はアラカーガーラが流れていた。

屋号イチンニー（池根）と屋号メーナカムラグワー（前仲村小）の畑があった。

池沼

メーナカムラグワークシヌクムイ

屋号メーナカムラグワー（前仲村小）：4の東側、道向かいにあったクムイ。30～40坪ぐらいの大きさで、深さは1mぐらいだった。道沿いに細長い形をしていた。畑仕事の帰りに、手足や農機具を洗うために利用していた。家畜^{かちく}（馬・牛）に水浴びをさせるウマアミシグムイではなかった。

イチンニーグムイ

屋号イチンニー（池根）：11と屋号ミーヤー（新屋）：12の東側、道向かいにあったクムイ。溜^たまり水だった。30～40坪ぐらいの広さで、深さは1mぐらいだった。道にくっついて、半円のような形をしていた。畑仕事の帰りに、手足や農機具を洗ったりするのに利用していた。家畜^{かちく}（馬・牛）に水浴びをさせる場所でもある。

サーターグムイ

サーターヤーのところにあったクムイ。製糖時期が終わると、シロアリ（白蟻）よけのためにサーターグルマの軸木^{じくぎ}を漬^つけていた。10坪ぐらいの広さだった。畑仕事の帰りに、手足や農機具を洗ったりするのに利用していた。

トーバルグムイ

集落の北方向にあったクムイ。70坪ぐらいで、道沿いに細長い形をしていた。深さは1mぐらいだったが、溜^たまり水だったので、

■フナウクイ：見はらしのいい場所から、旅に出る人の安全を願い、船を見送ること。

■ポリテクセンター：沖縄職業能力開発促進センター ポリテクセンター

■クムイ：池。沼。

■クムイ：池。沼。

■クムイ：池。沼。

■サーターグルマ：サトウキビを圧搾する装置。

■クムイ：池。沼。

長く雨が降らない場合には水位が下がっていた。サチジョーヤードウイ（崎門屋取）とトールバルヤードウイ（桃原屋取）の人たちで利用していた。周囲は畑だったので、畑仕事の帰りに手足や農機具を洗ったり、家畜（馬・牛）に水浴びをさせていた。

湧水井戸



トールバルガー

集落の西側にあった。話者によると、明治28(1895)年生まれの方も、いつ頃作られたのかわからないと話していたと言う。水汲みカンカラーで汲むことができた。敷地内に手足を洗う小さな井戸もあり、深くないので、ここでもすぐ水を汲むことができた。水が涸れるということはなかった。トールバルガーから水が豊富に流れ出して、トールバルガーラとなっており、その水を利用して田んぼが広がっていた。

学校帰りにエビやカニを捕って遊んでいた。

現存しているが、戦後、コンクリートで少し上げられ、1m50cmぐらいの深さとなった。そのため、ロープをつけないと水を汲むことができなくなった。また、敷地内の小さな井戸は埋められた。

現在もカーウガミをしている。

■カンカラー：空缶。



＜トールバルガー＞

■カーウガミ：井戸の神様を拜む。

製糖小屋



サーターヤー

共同製糖小屋。サチジョーヤードウイ（崎門屋取）はサトウキビを作る人は少なく、7～8軒ぐらいだった。そのため、ここ1か所だけで賄えた。サーターヤーで製糖した砂糖は那覇へ運ばれた。キューエキから軽便鉄道を使うこともあれば、直接馬車で那覇へ持って行くこともあった。サトウキビを嘉手納製糖工場に出すこともあり、山内まわりで馬車で運んでいた。トロッコ道はなかった。工場へサトウキビを出す場合には、出来上がった砂糖を受け取るのではなく、サトウキビ代が支払われていた。屋号リーグンニー（リーグン根）のおじいさんが、サトウキビを運ぶ日程調整やサトウキビ代を渡す仕事をしていた。

→桑江又前屋取のキューエキを見よ。

■軽便鉄道：沖縄県営鉄道。

■嘉手納製糖工場：沖縄製糖株式会社の嘉手納工場のこと。明治45(1912)年創業。

拝所



カミヤー

【※編注：P198「現在の謝苺～桃原」の地図に記載】

戦前、サチジョーヤードウイ（崎門屋取）には拝所がなかった。そのため、山里のハーナームイに拝みに行っていた。しかし、遠くて不便だということで、戦後、サチジョーヤードウイ（崎門屋取）

■ハーナームイ：首里から逃げてきて山里で子を産み育てた美しい娘を祀ったと伝えられている。普天間宮へ遥拝する場所である。

の集落内にカミヤーを作り、ハーナムイの神をお迎えした。イーヌモーの近くの個人宅敷地内にコンクリート作りの祠ほくらを建ててまつ祀まつっている。

ハーナムイ

【※編注：記載した地図の範囲外にあるため、地図上には記載していない】

ヒャーナーとも言う。現在の沖繩市山里おきなわし やまざとにある拝所はいしょ。

戦前、サチジョーヤードウイ（崎門屋取）の集落内には拝所がなかった。クスツクイーなど行事おがごとの拝みや、個人で拝みを行なうときには、ハーナムイに行った。ハーナムイの神は、首里しゅりから山里やまざとに逃げてきて、子を産み育てた美しい娘を祀まつったものだと伝えられている。戦後、このハーナムイの神をサチジョーヤードウイ（崎門屋取）にお迎えし、イーヌモー近くの個人宅にカミヤーを構えて祀まつっている。

広場

マーイシモー

屋号イチンニーグワー（池根）：7のところの三さん叉さ路ろにあった。大きさや重さが違うマーイシが7～8個あり、青年たちは仕事が終わると、そこに集まってマーイシを持ち上げる練習をしていた。

エイサーの練習もマーイシモーでしていた。

戦時中、日本軍が敵の戦車への攻撃のために使うと言って、マーイシモーからマーイシを持ち出し、屋号カマラーサチジョー（蒲田崎門）：14の東南にあった山のところに置いてあった。戦後、マーイシはそのままなくなってしまった。置いてあった山自体もなくなっている。



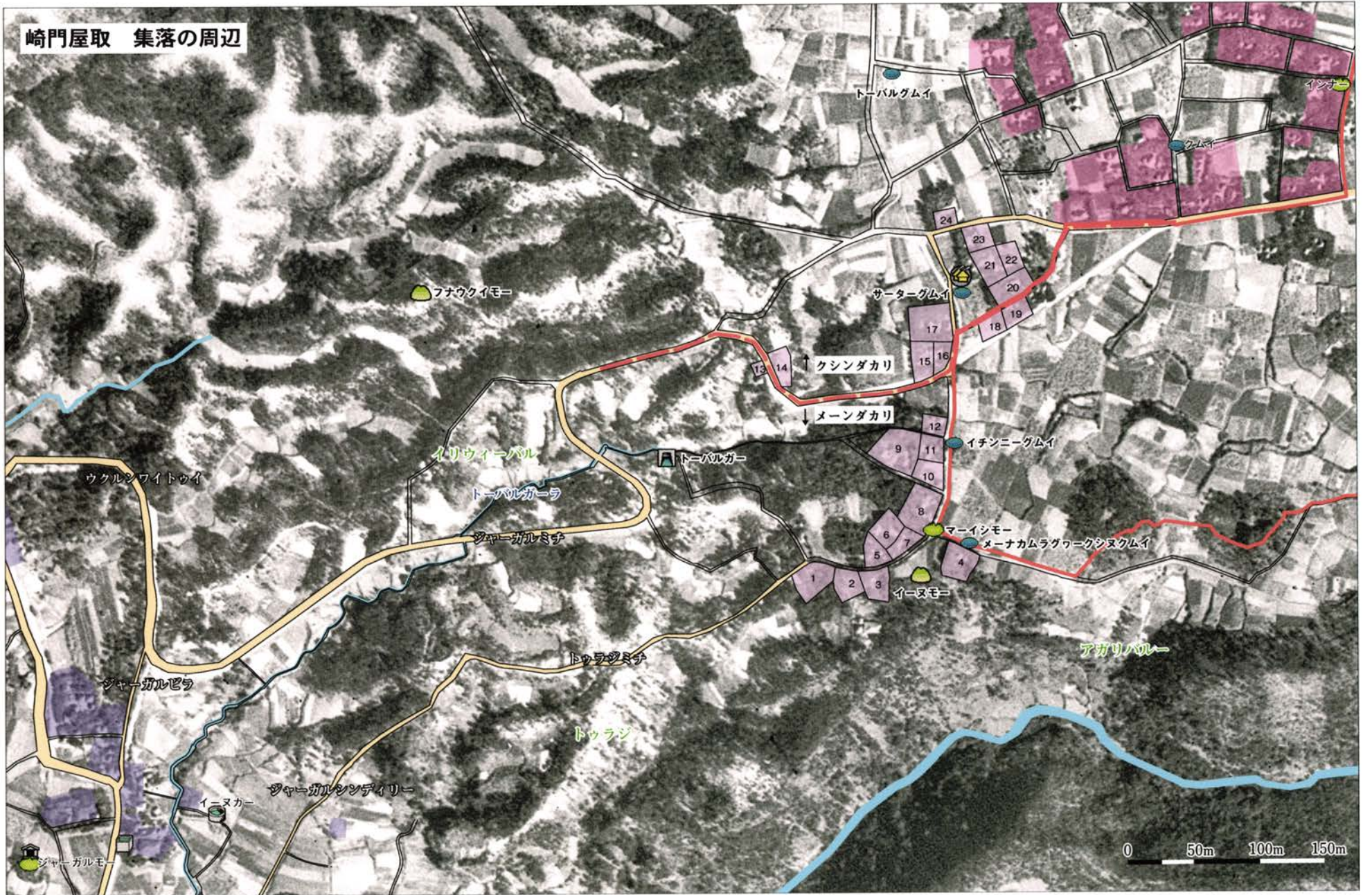
◀聞き取り調査風景▶

■クスツクイー：農繁期のあとにする骨休みの行事。

■マーイシ：集落の広場などに置いてある大小の堅い、丸い石。青年たちが力試しをする。

■エイサー：旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。

崎門屋取 集落の周辺



桃原屋取

トータルヤードウイ

トールバルヤードウイ（桃原屋取）

北谷町域東端、東シナ海を望む高台に位置する屋取集落。越来村と隣接しており、つきあいが盛んだった。トールバルヤードウイ（桃原屋取）とグィクトールバルを合わせてアガリトールバルと言うこともあった。

戸数は46軒で、そのうちカーラヤーは4軒だった。

話者によると、集落の組分けはアガリムティやイリムティなど、いくつかに分かれていたようだが、はっきりした区分は覚えていないと言う。

主業は農業で、芋やサトウキビなどを作っていた。竹細工も行なわれていた。また、大工の棟梁、教員、ヤブーなどをしている人たちもいた。マチヤが1軒あったが、扱っているのが菓子類ぐらいだったので、サチジョーヤードウイ（崎門屋取）のマチヤを利用することが多かった。

共同井戸は現在の沖繩市にあるトールバルガーであった。ワクで、ニープで汲むことができた。トールバルヤードウイ（桃原屋取）の集落内には井戸が少なかったので、よく水汲みに行っていた。朝から晩まで水汲みの人が絶えなかった。正月の若水も、トールバルガーから汲んでいた。個人井戸としては、屋号ウフヒャーグングワー（大比屋根小）：3に18尋（27m）の深さのクルマガーがあった。ちょっとした溜め池は各家にあり、野菜を洗ったり、手足を洗ったりするのに使っていた。竹細工に使う竹を漬けたりすることもあった。また、カーラヤーの家には、屋根から樋を伝わってきた天水を溜める水タンクがあった。

サターヤーは屋号アガリイラファ（東伊良波）：24の北東方向にちょっと行ったところにあった。作った砂糖は、那覇や泡瀬に運んでいた。嘉手納の製糖工場ができてからは、トールクを利用して、工場に持って行くようになった。

拝所はインナーで、クスツィー、ヤイサーの出發時、クングワチクニチーなどに拝んでいた。碑やウコールなどはなく、石垣を目印にして拝んでいた。インナーは何かと集落の人たちの集まり場所として使われていた。その他、集落外の普天間宮やヒャーナーなどに拝みに行くこともあった。

ガンヤーは集落の北端にあり、赤瓦屋根で、土壁造りだった。ガンは一度担ぐと、墓まで一度も下ろすことができなかった。どうしても交代という場合には、ガンを地面に下ろさずに担いだまま交代した。亡くなった人の近い親戚はガンを担がなかった。ガンが家の前を通る場合には、悪い霊が入ってこないようにという意味で、門の前にススキを2～3本地面に置いた。トールバルヤードウイ（桃原



《聞き取り調査風景》

■カーラヤー：瓦ぶきの家。

■ヤブー：鍼灸師。

■マチヤ：店。

■ワク：湧き水。

■ニープ：ひしゃく。

■クルマガー：滑車につるべ縄をかけて水を汲む井戸。

■カーラヤー：瓦ぶきの家。

■サターヤー：製糖小屋。

■嘉手納製糖工場：沖繩製糖株式会社の嘉手納工場のこと。明治45（1912）年創業。

■クスツィー：農繁期のあとにする骨休みの行事。

■ヤイサー（エイサー）：旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。

■クングワチクニチー：旧暦9月9日に菊酒を飲むなどして、健康・長寿を願う。

■ウコール：御香炉。線香をたてる炉。

■普天間宮：琉球八社の1つ。宜野湾市普天間にある。

■ヒャーナー：首里から逃げてきて山里で子を産み育てた美しい娘を祀ったと伝えられている。普天間宮へ遥拝する場所である。

■ガンヤー：籠を納めておく小屋。

■ガン：籠。葬式のとき、死者の棺を入れて墓地まで運ぶためのもの。

屋取) の人たちの墓は現在の県営北谷団地あたりにあった。

マーイサーがインナーにあった。大きさや重さが違うものが4～5個ぐらいあった。

正月には、チャンクルーをして遊んだ。屋号ウフヒヤーグングワー(大比屋根小):3の屋敷近くに遊ぶ場所があった。そこは広場というわけではなく、荷馬車が通るぐらいの道だったが、芝生が生えていて、遊ぶのに良い場所だった。

【集落で行なわれる主な年中行事】

●旧暦2月2～4日<クスツクイー(ニングワチャー)>:1日目は普天間^{ふてんまおが}拝みへ行った後、大きな家をヤードウとして借り、みんなで集まってごちそうを食べた。2日目はヒャーナーとインナーを拝みに行く。各家庭で豆腐^{とうふ}、天ぷら、チンヌク(サトイモの一種)、ゴボウ、野菜などのごちそうを大きな重箱^{かさね}に詰めて、インナーに持ち寄り、みんなで食べた。3日目はクスツクイージュージーを炊いて、ヤードウで食べる。男女一緒に行なわれていた。

●旧暦7月<ヤイサー>:青年男子のみで行なわれ、女子や子どもは参加しなかった。トーバルヤードウイ(桃原屋取)とグィークトーバルの人たちが一緒になって行なわれた。練習場所はインナーで、当日も^{おが}拝んでから出発した。集落内の各家を回った。ウィーシードウヤードウイ(上勢頭屋取)など、他集落へ行くこともあった。

●旧暦8月15日<ジュグヤー>:アシビナーで芝居が行なわれた。明治41(1908)年生まれの話者が17～18歳の頃までは行なわれていたと言う。トーバルヤードウイ(桃原屋取)のアシビは有名で、あちらこちらから見物人がたくさん来ていた。トーバルヤードウイ(桃原屋取)の人たちと山里の人たちが一緒になって「伊江^{いえ}しまハンドーグワー」を演じた。上手な人がたくさんいた。

集落域は現在の町立北谷^{ちやたん}中学校あたりである。

■マーイサー:集落の広場などに置いてある大小の堅い、丸い石。青年たちが力試しをする。

■チャンクルー:お金を投げて、裏返ったら自分のものになるという遊び。

■クスツクイー:農繁期のあとにする骨休みの行事。

■普天間拝み:琉球八社の1つである普天間宮を拝むこと。人々の尊崇を集め、現在も参拝者が絶えない。

■ヤードウ:一時的に集会所にあてられる家。

■ヒャーナー:首里から逃げてきて山里で子を産み育てた美しい娘を祀ったと伝えられている。普天間宮へ遥拝する場所である。

■ジュージー:炊き込みご飯。

■ヤイサー(エイサー):旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。

■ジュグヤー:十五夜。集落で芝居などをして楽しむ。

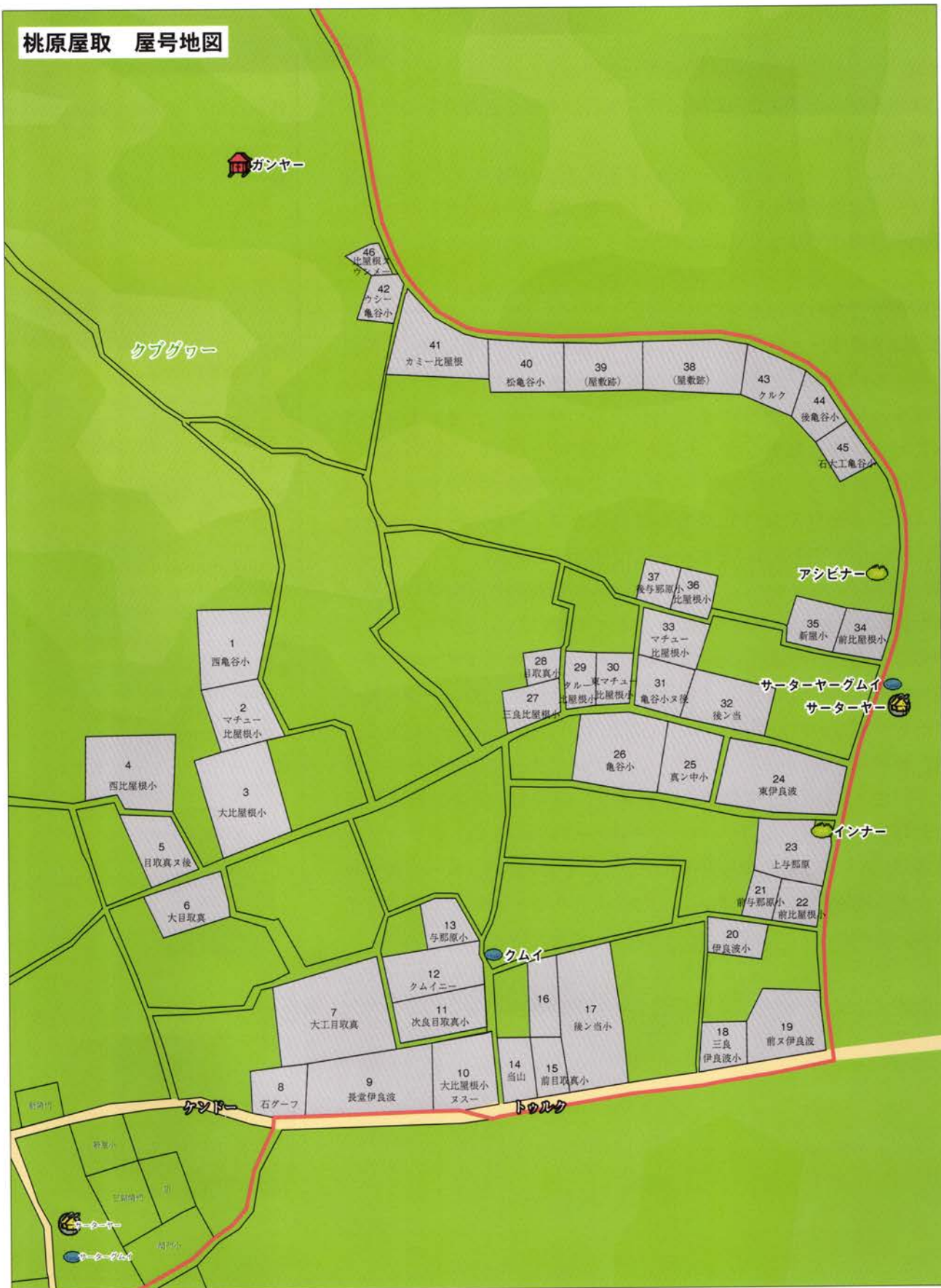
■アシビ:歌・三味線・踊りなどを楽しむこと。また、村芝居・祭りなど、仕事を休んで行なう演芸・娯楽。

■伊江島ハンドーグワー:沖縄三大悲歌劇の1つ。



《インナー》

桃原屋取 屋号地図



<p> 桃原屋取の家の配置 (数字は屋号番号)</p> <p> 鉄道</p>	<p> 河川 (小さい文字は他の集落の呼び名)</p> <p> 道路 (小さい文字は他の集落の呼び名)</p> <p> 緑の文字 地域の名称 (小さい文字は他の集落の呼び名)</p>
--	--

トールバルヤードウイ（桃原屋取）

社会的区分・集落

アガリトールバル

東桃原。北谷町域のトールバルヤードウイ（桃原屋取）のことである。グイクトールバルと合わせてアガリトールバルと言うこともあった。

社会的区分・その他

グイクトールバル

越来桃原。越来村桃原ごえくそんとうぼるのことで、現在の沖縄市南桃原側おきなわしみなみとうぼるの集落。トールバルヤードウイ（桃原屋取）と隣接しており、何かとつきあいが盛さかんだった。クスッキューは別だが、ヤイサーなどトールバルヤードウイ（桃原屋取）と一緒にこなう行事もあった。また、ガンやサーターヤーなどを共同使用したりもしていた。

河川

アラカー

集落の南方向にあった。家畜かちく（馬・牛）に水浴びをさせていた。現在のうぐいす谷墓地公園のところである。

谷間

クブグワー

屋号カミーヒヤグン（カミー比屋根）：41の南側は東西に走る谷間になっていた。

現在も谷間になっている。

郡道

ケンドー

県道。現在の県道24号線である。

トロッコ軌道

トゥルク

明治41（1908）年生の話者が小さい頃からトゥルクのレールがあったと言う。馬で引きいていた。軌道は屋号トールヤマ（当山）：14あたりから始はじまっていた。そこにサトウキビを置おいておくと、山内やまうちからグヤカジマヤーとおかでなを通して、嘉手納の製糖工場まで運はられた。工場ができてから、トゥルクはよく利用されるようになった。

■クスッキュー：農繁期のあとにする骨休みの行事。

■ヤイサー（エイサー）：旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。

■ガン：龕。葬式のとき、死者の棺を入れて墓地まで運ぶためのもの。

■サーターヤー：製糖小屋。



◀聞き取り調査風景▶

■グヤカジマヤー：現在の沖縄市胡屋十字路。

■嘉手納製糖工場：沖縄製糖株式会社嘉手納工場のこと。明治45（1912）年創業。

丘



フナウクイモー

集落の西方向にあったフナウクイをする場所。山の上で松葉を燃やして煙を出し、ダンジュカリユシで見送った。那覇から読谷あたりまで船を見送ることができた。

現在の桃原公園の展望台のあたりである。

池沼



サーターヤークムイ

サーターヤークの側にあった大きなクムイ。深いところは大人の腰丈ぐらいあったが、その周囲は浅かった。

クムイ

屋号クムイニー：12の東側にあったクムイ。直径10mぐらいで、あまり深くなかった。芋などを洗うのに利用していた。

湧水井戸



トーバルガー

共同井戸。集落の東方向にあった。アガリガーとも言う。ワクで、ニープで汲むことができた。トーバルヤードゥイ（桃原屋取）には井戸が少なかったので、みんなトーバルガーに水汲みに行っていた。朝から晩まで人が絶えなかった。飲料や洗濯などの生活用水にするほか、正月の若水もトーバルガーから汲んでいた。

カーウガミのときには、ヒャーナー、トーバルガー、インナーの順で拝んだ。クスツッキーやクングワチクニチーにも拝む。

製糖小屋



サーターヤーク

屋号アガリイラファ（東伊良波）：24の北東方向にあった。5軒ぐらいで共同使用していた。作った砂糖は那覇と泡瀬に運んでいた。近いので、泡瀬に運ぶことが多かった。砂糖を運ぶときには馬車を使うとお金がかかるので、担いで持って行った。一樽100斤（60kg）ぐらいなので、両方の肩に担ぎ、200斤（120kg）持って行った。トーバルヤードゥイ（桃原屋取）で馬車を持っていたのは1～2軒だけだった。

広場



インナー

屋号ウエユナバル（上与那原）：23の東側の角のところにあった

■フナウクイ：見はらしのいい場所から、旅に出る人の安全を願い、船を見送ること。

■ダンジュカリユシ：船出の祝い歌。身内のものが旅をするとき、一族が集落の広場あるいは高台に集まって航海の無事を祈願し、これを歌った。

■クムイ：池。沼。



《聞き取り調査風景》

■ワク：湧き水。

■ニープ：ひしゃく。

■カーウガミ：井戸の神様を拝む。

■ヒャーナー：首里から逃げてきて山里で子を産み育てた美しい娘を祀ったと伝えられている。普天間宮へ遥拝する場所である。

■クスツッキー：農繁期のあとにする骨休みの行事。

■クングワチクニチー：旧暦9月9日に菊酒を飲むなどして、健康・長寿を願う。



《トーバルガー》

拝所。碑やウコールなどはなく、屋号ウエユナバル（上与那原）：23の石垣に向かって^{おが}拝んでいた。クスツクイーやクングツクニチーに拝む。

直径10mぐらいの広場になっていて、行事のときなどはインナーに集まっていた。ヤイサーの練習をする場所でもあった。インナーを^{おが}拝んでから、ヤイサーは出発し、各家を回った。

マイサーもインナーに置いてあった。大きさ・重さも色々違うマイサーが4～5個ぐらいあった。夕方になると、青年が集まって力比べをしていた。

アシビナー

屋号メーヒャーグングワー（前比屋根小）：22の北側にあった。ちょっとした広場になっており、芝居をする場所だった。広場を見下ろすように段になっているところがあり、そこに^{のぼ}上って見ていた。広場はとでも低くなっていたので、普段の集まり場所としてはインナーを使うことが多かった。

龕屋 ガンヤー

集落の北方向にあった。赤瓦屋根で、4か所に柱を立て、周囲は土壁だった。グイクトーバルと共同使用していた。

ガンは、喪家から墓まで一度も^お下ろさなかった。どうしても交代という場合には、ガンを地面に下ろさずに、^{かつ}担いだまま交代していた。亡くなった人と近い親戚はガンを担がなかった。同じトーバルヤードゥイ（桃原屋取）の集落内の人で、亡くなった人の親戚ではない人が担いだ。ガンの^{とお}通り道になった家は、悪い霊が入ってこないようにという意味で、門の前にススキを2～3本地面に置いた。

話者によると、幽霊話を色々聞かされたので、子どもの頃は昼でも一人ではガンヤーのところを歩けなかったと言う。

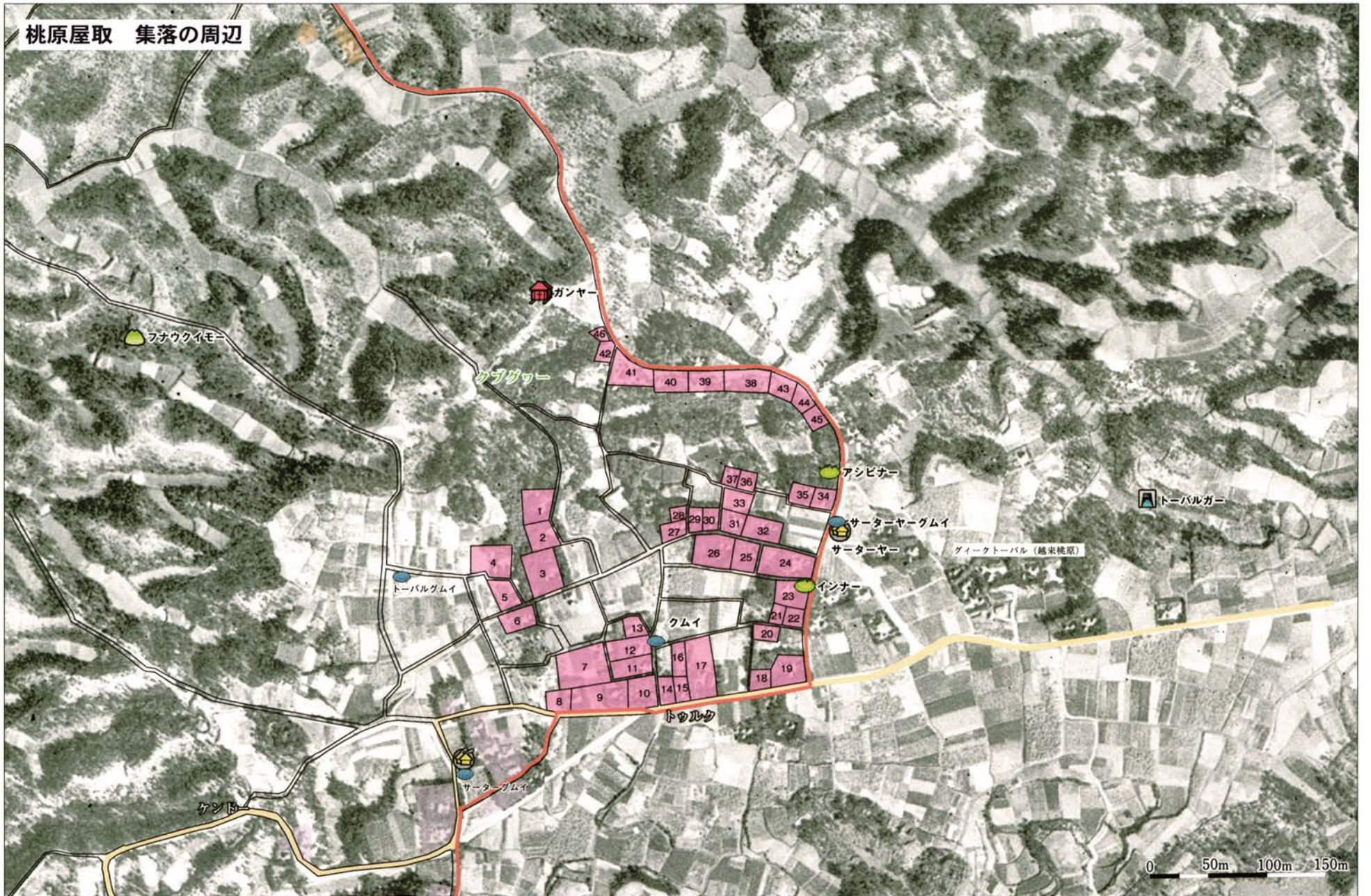
トーバルヤードゥイ（桃原屋取）の人たちの墓は現在の^{ちやたん}県営北谷団地あたりにあった。

- ウコール：御香炉。線香を立てる炉。
- クスツクイー：農繁期のあとにする骨休みの行事。
- クングツクニチー：旧暦9月9日に菊酒を飲むなどして、健康・長寿を願う。
- ヤイサー（エイサー）：旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。
- マイサー：集落の広場などに置いてある大小の堅い、丸い石。青年たちが力試しをする。

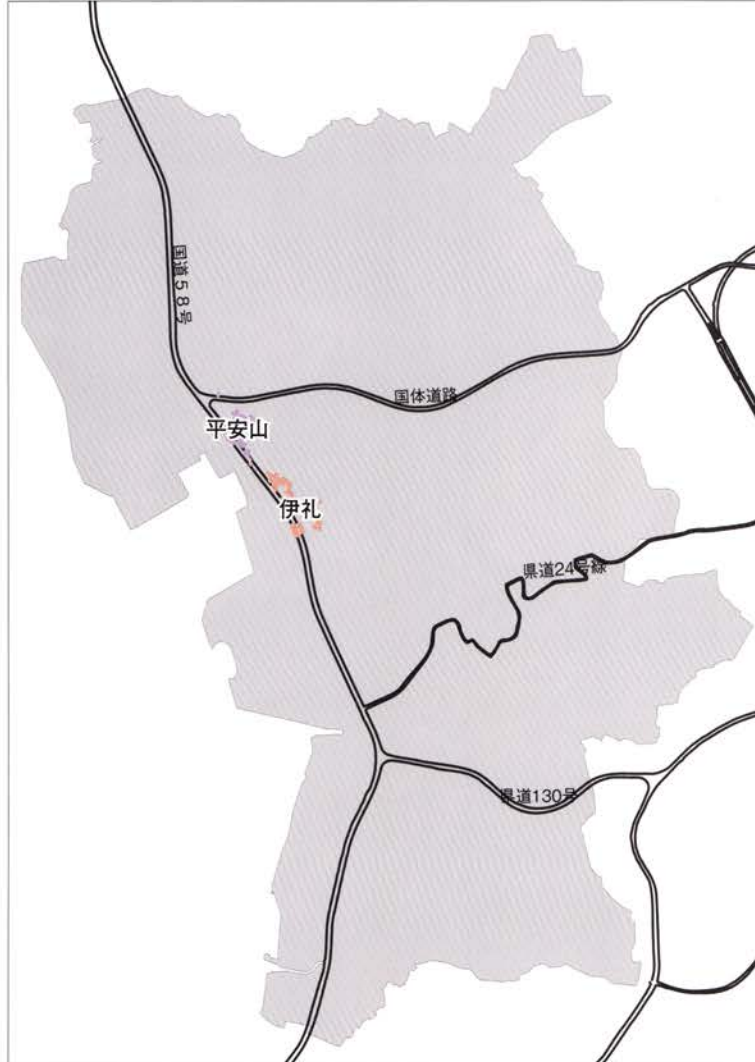
- ガン：龕。葬式の時、死者の棺を入れて墓地まで運ぶためのもの。

- ガンヤー：龕を納めておく小屋。

桃原屋取 集落の周辺



伊礼・平安山





戦時中の伊礼（イリー）・平安山（ハンザン）



～ 伊礼原B遺跡範囲確認調査で出土した井戸の跡 ～



伊礼

イリー

イリー（伊礼）

北谷町域西側、東シナ海に面した集落。集落の人たちはイリーグワールと言うことが多い。イリー（伊礼）^{ホンアザ}本字21軒、南側のイーマガニク（上間兼久）という屋取集落^{ヤードウイ}18軒の合わせて39軒からなる集落であった。そのうちカーラヤーがイリー（伊礼）に2軒、イーマガニク（上間兼久）に3軒あった。

主業は農業で、芋^{イモ}、サトウキビ、米などを作っていた。それ以外にもマチャ、ユーフルヤー、客馬車、荷馬車、人力車、^{やくぼりいん}役場吏員、石工、大工、竹細工、^{ぼうし}帽子クマー、^{サンシン}三味線作り、^{とうふや}豆腐屋などを営む人たちもいた。また、ケンドー^い沿いにはサカナヤーもあった。

イリー（伊礼）には、共同井戸がクシヌカー、クランモーヌカー、クランモーヌフェヌカーの3か所あり、イーマガニク（上間兼久）にはイーマガニクヌカーがあった。現在、これらのカーの神はクランモーヌフェヌカー^{ごうし}に合祀されている。また、集落内のほとんどの家にカーがあった。その1つだと思われるカーの跡^{あと}が、平成14（2002）年に行なわれた伊礼原B遺跡^{いれいばる}範囲^{いせきはん}確認^{いかくにんちゆうさ}調査で発見された。石灰石^{せっかいがん}の切石^{きりいし}の石積み^{いしづ}で、井戸^{ごうけい}の口径は1mで、北面には広さ1m²ほどの洗い場^{せうじやうば}が作られていた。これは屋号タルーチチンミグワール（樽チチンミ小）：13のカーであると思われる。

サーターヤーは、イリー（伊礼）、イーマガニク（上間兼久）ともに1か所ずつあった。共同使用しており、馬は持っている家が無料で貸し出していた。借りた人は作業が終わった後、馬を水浴びさせてから返していた。砂糖は平均10～15丁ぐらい作っていた。屋号メーマシ（前升）は個人でサーターヤーを持っており、50丁ぐらい作っていた。

マーイサーは、クランモーに50～60斤（30～36kg）ぐらいのものと、100斤（60kg）ぐらいのもの2つがあった。イーマガニク（上間兼久）は、中心地であるカジマヤーのところに45斤（27kg）、65斤（39kg）、95斤（57kg）の3つのマーイサーがあった。

イリー（伊礼）、ハンザン（平安山）、ハマガー（浜川）の3集落共同で運動会を行なった。その場合、それぞれの集落名の頭文字を取ってイハバマ（伊平浜）と言った。

【集落で行なう主な年中行事】

●旧暦2月2～3日<ニングワチャー（クシクイー・クスクイー）>：豊年祭。クランモー^{フタ}で豚^{つぼ}を潰してごちそうを作り、30歳以下のワカカタと、30歳以上のトシカタに分かれて宴会^{えんかい}をした。その宴会をする場所をニングワチャーヤードウと言う。大きな家、アシャギの広い家、ミーヤーなどで行なわれるが、基本的には輪番^{りんぱん}



◀聞き取り調査風景▶

■カーラヤー：瓦ぶきの家。

■マチャ：店。

■ユーフルヤー：風呂屋。

■帽子クマー：アダンの葉やこよりで帽子を作る内職。

■サカナヤー：料理屋。

■カー：井戸。



◀発掘調査で出土したカーの跡▶

■サーターヤー：製糖小屋。

■マーイサー：集落の広場などに置いてある大小の堅い、丸い石。青年たちが力試しをする。

■カジマヤー：十字路。道が交差するところ。

■ニングワチャー：旧暦2月に行なわれる行事。集落や組単位で酒宴を開き、余興をして楽しむ。

■ワカカタ：若者の組。

■トシカタ：年寄りの組。

■ニングワチャーヤードウ：ニングワチャーのときに一時的に集会所にあてられる家。

■アシャギ：農村などで、母屋の前にある離れ。メースヤーとも言う。

■ミーヤー：新しい家。新築した家。また、あらたに分家した家。

制で、ほとんどの家で行なわれていた。1日目は宴会があり、2日目は宴会の後に、ニングワチャーヤードウからサターヤーまで「唐船ドーイ」を伴奏に道ジュネーをした。ニングワチャーヤードウは毎年変わるので、決まった道順というものはない。子どもたちにはチビカタマヤー（オオバギ）の葉に肉を入れたものが配られた。

●旧暦2月<ニングワチウマチー>：ハンザンヌルが来て拝んでいたが、集落の人たちにはあまり関係がなかった。

●旧暦7月7～15日<旧盆>：エイサーは昭和14～15（1939～40）年頃までは行なっていた。女性は入らなかった。現在の嘉手納町域にあった千原屋取と交流があった。

●旧暦8月15日<シーサーモーイ>：十五夜。クランモーで獅子舞が行なわれた。悪疫払いと五穀豊穡を祈る。昔は鉦を鳴らした。

「大観口説」に合わせて、サル2匹が舞い、寝ている獅子を起こす。バカにされたと思った獅子はサルを追っかける。サルは木に逃げる。サルをつかまえることのできない獅子は歯ぎしりをしたりする。獅子舞の型は大正15（1926）年に完成した。獅子の重さは頭が5.6斤（3.4kg）で、全体の重さは18.3斤（11kg）ある。これだけの重さを支えながら、夏の夜に15～20分間舞うので、大変な重労働だった。獅子舞の後は、他集落の青年たちと沖繩相撲をした。獅子舞は、イリー（伊礼）、チャタン（北谷）、シナビ（砂辺）の3集落にあったが、現在、復活しているのはイリー（伊礼）とシナビ（砂辺）である。

集落域は、米軍に接収されキャンプ桑江内となっていたが、集落の人たちの努力により、昭和57（1982）年には拝所であるクランモーがいち早く返還された。また、平成15（2003）年には、残る土地も返還され、現在は土地区画整理事業が進められている。戦前の地形は変化したものの、獅子舞など、さまざまな行事を通して、郷友会のつながりは強い。

■ニングワチャーヤードウ：ニングワチャーのときに一時的に集会所にあてられる家。

■サターヤー：製糖小屋。

■唐船ドーイ：民謡の1つ。

■道ジュネー：行事などのとき、芸を披露しながら道を練り歩くこと。

■ニングワチウマチー：旧暦2月に行なわれる農耕に関する行事。ノロ（神女）が祈願をささげる。

■ハンザンヌル：平安山神女。伊礼、平安山、浜川、砂辺、桑江の5集落の祭祀を管轄していた。平安山の屋号ヌドウルチがヌルだった。

■エイサー：旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。

■千原屋取：現在の嘉手納町域にあった。エイサーが有名な集落だった。

■大観口説：琉球古典音楽の1つ。

■キャンプ桑江（キャンプ・レスタ）：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。米海軍病院がある。



＜聞き取り調査風景＞

伊礼 屋号地図



伊礼の家の配置 (数字は屋号番号)



鉄道



河川

(小さい文字は他の集落の呼び名)



道路

(小さい文字は他の集落の呼び名)

緑の文字

地域の名称 (小さい文字は他の集落の呼び名)

イリー（伊礼）

小集落

イーマガニク

上間兼久。イーマヤードゥイとも言う。イーマは「上間」のことで、最初^{にゅうしゅくしゃ}の入植者^{にゅうしゅくじき}の屋号である。入植時期はわからない。

戸数18軒で、そのうちカーラヤーは3軒であった。

屋号タルーアワグワー（樽安和小）：34のカジマヤーがイーマガニク^{イモ}の中心地で、ウブガーであるイーマガニクヌカーやマーイサーなどがあった。

土質は砂地とマージで、主な農作物は芋とサトウキビであった。イリー（伊礼）^{ホンアザ}本字ほどではないが、山の土が混ざって、良い土地であった。

河川

トゥクガー

水の湧き出し口と、そこから流れる流れのことをトゥクガーと言う。橋が架かっており、その橋から下流はナガサと言った。水が一番きれいだった。イリー（伊礼）とハンザン（平安山）両集落の所有であった。

ナガサ

トゥクガーの下流を言う。橋が架かっており、その橋から下流をナガサと言ひ、上流はトゥクガーと言う。水がきれいだった。人が水浴びをしたり、家畜（馬・牛）に水浴びをさせた。タナゲー（川エビ）、イーブー（トビハゼ）、ンナジ（ウナギ）などがたくさんいた。

ナルカー

イリー（伊礼）とキューヌクシヤードゥイ（桑江ヌ後屋取）との境界を流れる川。アヒルを飼育していた。

クシヌカーラ

ソイヤマの方から流れてくる川。屋号アガリティーラグワー（東照屋小）：6の東南側を流れ、ケンドーに突き当たったところからケンドー沿いに南へ流れ、屋号アシンミ（安次嶺）：22の北側に沿ってテツドーへ向かって流れる。さらに、フェーヤチガマの手前でまた南へと折れ、海へと注いでいた。

■カニク：砂地。地名に多くみられる。名護市大兼久、西原町兼久など。

■カーラヤー：瓦ぶきの家。

■カジマヤー：十字路。道が交差するところ。

■ウブガー：産湯に使う水を汲む井戸。

■マーイサー：集落の広場などに置いてある大小の堅い、丸い石。青年たちが力試しをする。

■マージ：赤土質の土壤。マージでできた芋は小さいが美味しい。



《聞き取り調査風景》



《獅子舞》

山地

イリヤマ

大正・昭和初期頃に、所有者がキュー（桑江）の伊礼家から、イリー（伊礼）の屋号メーマシ（前升）に変わった。2000坪ほどある。

ソイヤマ

【※編注：P349「戦時中の上勢頭屋取」の地図に記載】

村山。ちやたんせん北谷村の村有地であった。

現在の北谷町身障者等援産施設のあたりである。

ティーラヌヤマ

ハマガーターラヌヤマとも言う。1万坪ぐらいあった。

現在の北谷スポーツセンターのあたりである。

谷間

ヤマダ

集落の北東にあった谷間。ウシヌホーミと言う岩山があった。

畑地で、芋イモとサトウキビなどを作っていた。松マツとメリケンマールチュー（モクマオー）が生えていた。墓が多いところだった。

戦時中は、ここに防空壕ぼうくうごうを作って避難ひなんしていた。

潟

ンナトゥグワー

幅20mほどで、半分はナジチュー（ハイキビ）が生え、残りは満潮まんちょうになると海になった。トントンミー（トビハゼ）、アカガニグワー（小さい赤蟹あかがに）などがたくさんいた。

県道

ケンドー

県道。ケービンミチと平行に走っていた。

西海岸じゅうかんを縦貫くしていた国頭街道くにがみかいどうが明治38（1905）年にケンドーとして改修された。それに伴い、車の往来が自由となり、人力車や乗合馬車、荷馬車、人の往来も多くなった。ケンドー沿いには小料理屋が4～5軒でき、やがてイリー（伊礼）は“花のイリーグワー”と呼ばれるようになった。

新垣あらかきバスと昭和バスしやうわが運行うんこうしており、女性のバスガイドが乗っていた。話者によれば、嘉手納かてなへ買い物や遊びに行く場合などに利用していたが、バス停については覚えていないと言う。



《聞き取り調査風景》



《獅子舞》

■新垣平尾バス：戦前の乗合自動車。那覇～名護間を運行。

■昭和バス：戦前の乗合自動車。那覇～読谷山村喜名間、那覇～小禄～糸満～米須間を運行。

馬車道

メーミチ

集落の前を南北に走る道。屋号ミーヤグワー（新屋小）：8 から屋号ミーヤ（新屋）：38^{とお}を通り、ナルカーにぶつかるまでの範囲を言う。道幅は5mほどあり、荷馬車も通ることができた。

ナカミチ

集落の真ん中を南北に走る道。屋号ヒチャグイグワー（ヒチャグイ小）：10 から屋号タンパル（田原）：15 までの範囲を言う。道幅は4mほどで、馬車もすれ違^{ちが}うことができた。

クシミチ

集落の後ろを南北に走る道。屋号ヒチャグイグワー（屋号ヒチャグイ小）：10 からメーマシヌサーターヤ^{ちが}ーまでの範囲を言う。道幅は4mほどで、馬車もすれ違^{ちが}うことができた。

ヤマダヌミチ

集落からヤマダへ行く道。屋号コーチグワー（幸地小）：18 の西側から続いていた。

カンジャーヤーヌメーミチ

イーマガニク（上間兼久）の道。屋号イシジエークーカナグシク（石工金城）：36 の北東側にあった空き屋敷の前の道を言う。この屋敷は大正初期まではカンジャーヤーだったが、その後空き屋敷となり、トートーメーだけが残されていた。そのため、怖い場所だった。

鉄道

ケービンミチ

軽便道。キシヤミチとも言う。ケンドーと平行に走っていた。少しでも運賃^{うんちん}を安くするために、那覇^{なは}に行く場合はクエーヌメーエキ、嘉手納^{かてな}へ行く場合はハンジャヌウィーエキを利用していった。運賃は中学生の定期券は4か月で12円80銭であり、8割引きとなっていた。また、回数券は5割引だった。ハンジャヌウィーエキから嘉手納までは、大人料金が7銭だった。話者の1人は、汽車に乗らずに歩いて行って、浮いたお金で5銭のソバを食べたと言う。めったに食べることはなかったが、大盛りのソバは10銭だった。

→桑江ヌ前屋取のクエーヌメーエキを見よ。

→平安山ヌ上屋取のエキを見よ。



《クランモー》



《獅子舞のサル》

- カンジャーヤー：鍛冶屋。
- トートーメー：祖先の位牌。



《聞き取り調査風景》

岩山 キラマジー

イリー（伊礼）本字の西側、ケービンミチを越えた海寄りにあった拝所。他集落の人たちが拝みに来ることはなかった。

現在、県営美浜高層住宅の北東側にある。戦前は今の位置よりも10mぐらい北側にあった。

ウシヌホーミ

ヤマダにあった岩山。岩の形が牝牛のホーミーに似ている。

洞窟

タカガマ 【※編注：位置不明確のため、地図上には記載していない】

屋号アガリティーラグワー（東照屋小）の墓の近くにあったガマ。横穴で、大人が立って入れるぐらいの大きさだったが、ハブが怖いので中に入ったことはなかった。話者によれば、その近くの墓は防空壕に利用されていたらしいので、タカガマも戦時中には防空壕として利用したかもしれないと言う。

丘

クランモーヌムイ

イリー（伊礼）集落の鎮守の森。5～6mの丘。松などの木が鬱蒼としており、きれいな芝生が生えていた。

フナウキをする場所でもあった。ヤマトウなどへ旅立つ人を那覇まで見送りに行けない人は、キューヌメーエキで見送ったあと、クランモーヌムイで太鼓をたたき、ダンジュカーリーで見送った。主に女性が行っていた。那覇を出港して、読谷の残波までの30分～1時間ぐらいの間、船が見えていた。クランモーヌムイでフナウキをした後は、その旅立った人の家へ行って、ちょっとした宴会を行なった。

→桑江ヌ前屋取のキューヌメーエキを見よ。

土手

タカアブサー

ウーチヌカーの南西、シチブバルとイリーバルとの境界にあった3～4mの高いアブシを言う。そこは旧暦8月15日の夜にタマガイを見る場所だった。

タカアブサーの一角に、測量に必要な基準点の一種である図根点があった。



《けらまじー拝所》

■ホーミー：女性の陰部。

■ガマ：洞窟。ほら穴。



《クランモー》

■フナウキ：見はらしのいい場所から、旅に出る人の安全を願い、船を見送ること。

■ヤマトウ：日本。沖縄に対して日本本土を言う。

■ダンジュカーリー：船出の祝い歌。身内のものが旅をするとき、一族が集落の広場あるいは高台に集まって航海の無事を祈願し、これを歌った。

■アブシ：あぜ。田のあぜ。土手。

■タマガイ：火の玉が家の上高く上がったこと。凶兆。

池沼



クシヌクムイ

屋号アガリティーラグワー（東照屋小）：6の近くにあったクムイ。クシヌカーラの流れの中であり、ちょっと深くなったところを言う。

ンマアミシグムイ

キューヌクシャードゥイ（桑江ヌ後屋取）のデンブンコージョーの角^{かど}にあったクムイ。深さは2mぐらいで、馬に水浴びをさせるところだった。溜まり水ではなく、流れ水であった。子どもの遊び場所でもあった。

トゥントウグムヤー

ナルカーの山間を抜けたところに、落差2mぐらいの滝^{たき}があり、滝壺^{たきつぼ}が10坪ぐらいのクムイになっていた。イーマガニク（上間兼久）やキューヌクシャードゥイ（桑江ヌ後屋取）一带にトゥントウという水の音が聞こえていた。

イチ

池。トゥンの側^{そば}にあった。掘って作ったものだが、作られた年代はわからない。サーターグルマの軸木^{じくぎ}を漬^つけておくための池だった。広さは50坪ぐらいで、深さは2mぐらいだった。話者によると、はげ^{ぐち}口がない溜まり水だったが、大正初期頃には、ターイユ（フナ）やナジ（ウナギ）などがいたと言う。イチは低いところに位置していたので、上の方から流れてきたものが住みついたのではないかとのこと。字有地であった。

湧水井戸



ウーチヌカー

集落の北東に位置していたカー。周囲には木が生え、鬱蒼^{うっそう}としていた。旧暦5月15日のグングワチウマチーのときにハンザンヌル^{おが}が拝^{あまご}んでいた。雨乞^{アメガ}いのときにも拝^{つふ}む。豚^{そな}を漬^つして供えていた。現在はキャンプ桑江内^{くわえ}にあるが、今でも水が湧^わいている。

掘井戸



クランモーヌカー

蔵森の井戸。クランモーヌウブガーとも言う。イリー（伊礼）のウブガーであった。グングワチウマチー^{ヂューグヤ}と十五夜^{おが}のときなどに拝^{あまご}んでいた。

■クムイ：池。沼。

■サーターグルマ：サトウキビを圧搾する装置。



《発掘調査で出土したカーの跡》

■カー：井戸。

■グングワチウマチー：旧暦5月に行なわれる農耕に関する祭り。ノロ（神女）が祈願をささげる。

■ハンザンヌル：平安山祝女。伊礼、平安山、浜川、砂辺、桑江の5集落の祭祀を管轄していた。平安山の屋号ヌドゥルチがヌルだった。

■キャンプ桑江（キャンプ・レストー）：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。米海軍病院がある。

■ウブガー：産湯に使う水を汲む井戸。

クランモーフェーヌカー

蔵森の南の井戸。クランモーと屋号カーナーティーラグワー（加那照屋小）：4の間にあった井戸。

クシヌカー

アラカチヌカーとも言う。屋号タサトゥ（田里）：20の北東角にあった共同井戸。

イーマガニクヌカー

上間兼久の井戸。屋号タルーアワグワー（樽安和小）：34の南側、カジマヤーのところにあった井戸。イーマガニク（上間兼久）のウブガーであった。行事のときなどにウコーを^{そな}供えていた。行事以外にも、なにかと集落の人たちが集まる場所であった。

橋



ランカングワー

イーマガニク（上間兼久）にあったアンチャー。ンナトゥグワーの上^{すわ}にあり、10mぐらいある大きい石橋^{いしばし}だった。座^{すわ}って休むの^{なら}にいいぐらいの大きさの石が並んでいた。

ランカングワー

キラマジーに行くところにあるアンチャー。子どもたちが遊ぶ場所で、エビ、カニ、ウナギなどを手づかみでとることができた。

製糖小屋



イリーグワーヌサターヤー

ムラヌサターヤーとも言う。屋号コーチグワー（幸地小）：18のところにあった。イリー（伊礼^{ホンアザ}）本字の人たちで共同使用していたサターヤーである。平均10～15丁ほどの砂糖を作っていた。サターグルマを引く馬は、馬を持っている家が無料で貸し出していた。借りた人は作業が終わった後、馬を水浴びさせてから返していた。

メーマシヌサターヤー

屋号クシヌティーラグワー（後ヌ照屋小）：17の南側にあった。屋号メーマシ（前升）の個人所有である。

昭和15～16（1940～41）年頃に個人でサターヤーを作り、屋号メーマシ（前升）と屋号メーマシグワー（前升小）の2軒で共同使用するようになった。個人所有のサターヤーを作る前は、集



《カーの合祀所》

- カジマヤー：十字路。道が交差するところ。
- ウブガー：産湯に使う水を汲む井戸。
- ウコー：御線香。
- ランカングワー：欄干。手すり。
- アンチャー：暗渠。

- サターヤー：製糖小屋。
- サターグルマ：サトウキビを圧搾する装置。

- サターヤー：製糖小屋。

落の共同製糖小屋であるイリーグワヌサターヤーを使用して
いた。

普通は砂糖を平均10～15丁作るが、屋号メーマシは50丁ぐ
らい作っていた。

イーマガニクヌサターヤー

イーマガニク（上間兼久）の一番東端にあったサターヤー。

灰焼窯



フェーヤチガマ

サンゴ礁を焼く窯。イーマガニク（上間兼久）の屋号アシンミ
（安次嶺）：22と屋号アワ（安和）：23の間の道を海に向かい、護岸
に突き当たったところにあった。サンゴを焼いたあとの灰を、砂糖
作りやカーラヤーのムチに使う。窯の周りには石がたくさん置か
れていた。護岸が作られたのは昭和13（1938）年頃で、フェーヤ
チガマは護岸が作られる前からあった。屋号ナーグシク（宮城）の
個人所有であった。繁昌していた。

拝所



トゥン

グングワチウマチーのときにハンザンヌルが来て拝んでいた。

100～200年ぐらいのガジマルがあり、幹は4～5名でも抱
えきれないほど大きかった。話者によると、キジムナーがいたと言
う。ガジマルの根元にはウコールが置かれていた。

獅子屋



シーサーヤー

シーサーを納めておく小屋。瓦ぶき屋根だった。横幅が1間半
で、奥行が1間ぐらいの長方形だった。

戦後、シーサーヤーは残っていたが、中に納めていたシーサーは
無くなっていた。復元したシーサーは戦前のものよりも大きい。

広場



クランモー

イリー（伊礼）集落の西南部にある小高い丘。鎮守の森。集落の
中心地である。拝所があり、祭事を中心地でもある。十五夜や学事
奨励会などもここで行なわれていた。

マーイサーが2つあり、重さは100斤（60kg）と50～60
斤（30～36kg）だった。そのマーイサーも戦争でなくなっ



《聞き取り調査風景》

■カーラヤー：瓦ぶきの家。

■ムチ：しっくい。防風用として
屋根の接合に多く用いられる。

■グングワチウマチー：旧暦5月
に行なわれる農耕に関する行事。
ノロ（神女）が祈願をささげる。

■ハンザンヌル：平安山祝女。伊
礼、平安山、浜川、砂辺、桑江
の5集落の祭祀を管轄していた。
平安山の屋号ヌンドゥルチがヌ
ルだった。

■キジムナー：木の精。

■ウコール：御香炉。線香をたて
る炉。

■シーサー：獅子舞の獅子。



《シーサーヤー》

■学事奨励会：学童の勉強を励ま
す会。

■マーイサー：集落の広場などに
置いてある大小の堅い、丸い石。
青年たちが力試しをする。

てしまった。

2mぐらいのウスクガジマル（アコウ）の木があり、子どもの遊び場所でもあった。木登りやムートウトウエーなどをした。

クランモーの北側には5～6体の遺骨が納められている字伊礼祖霊之墓がある。

龕屋

ガンヤー

イリー（伊礼）、ハンザン（平安山）、ハマガー（浜川）の3集落共同でガンを使っていた。

→浜川のガンヤーを見よ。

建築物

ミジグルマー

イリーバルにあったミジグルマー。屋号チサバ（喜舎場）が水田の灌漑目的で作ったもの。話者によると、閉鎖時期はよくわからないが、ミジグルマーの礎石は終戦直後まで残っていたと言う。

■ムートウトウエー：子どもの遊び。プロレスごっこのようなもの。

■ガンヤー：龕を納めておく小屋。

■ガン：龕。葬式の時、死者の棺を入れて墓地まで運ぶためのもの。

■ミジグルマー：水車。

～ 獅子舞 ～



平安山

ハンザン

ハンザン（平安山）

北谷町域西側に位置する集落。ケンドーの東側で、南側はイリー（伊礼）、北西側はハマガー（浜川）に隣接していた。ハマガー（浜川）とともに「ハンザン・ハマガー（平安山・浜川）」と併称されることもある。戸数41軒であった。

主業は農業で、芋やサトウキビなどを作っていた。県から表彰されたこともあるほどの農業優良集落であった。

各家に井戸があり、深さは2mぐらいだった。

集落内にサーターヤーが3か所あった。屋号メーヌウフヤグワー（前ヌ大屋小）：11の東側に位置していたシマブクヌサーターヤーは個人所有で、北谷村内で1・2位を競うほどの生産高であった。また、屋号ナーカイトムラ（中糸村）：4の東側にあったイトムラヌサーターヤーも個人所有であった。集落の東端にあったサーターヤーが共同製糖小屋で、集落の人たちみんなで使用していた。嘉手納に製糖工場ができてからは、サーターヤーを利用することは少なくなり、工場へ出荷するようになった。

屋号ヌドウルチ（祝女殿内）がハンザンヌル（平安山神女）で、ハンザン（平安山）、ハマガー（浜川）、シナビ（砂辺）、キュー（桑江）、イリー（伊礼）の5集落の祭祀を管轄していた。しかし、すべての年中祭祀に関わっていたわけではなく、2月・3月・5月・6月のウマチーのときだけ、ハンザン（平安山）、ハマガー（浜川）、シナビ（砂辺）、キュー（桑江）、イリー（伊礼）の順で各集落のトゥンをまわっていた。ハンザンヌルによる祭祀は昭和19（1944）年まで行なわれていた。

現在の拝所は、成人病検診センター沿いの道を北方向へ進み、県営砂辺団地（15号棟）の道向かいにある。「宇地川之神」「殿之神」「白露之神」の3つを祀った合祀所である。ハマガー（浜川）、チュンナーグワーヤードゥイ（喜友名小屋取）の拝所と隣接している。

現在の国道道路のフェンス沿いあたりにはガンヤーがあった。ハンザン（平安山）、イリー（伊礼）、ハマガー（浜川）、ハンジャンヌウィーヤードゥイ（平安山ヌ上屋取）の4集落共同でガンを使用していた。

結婚はハマガー（浜川）、イリー（伊礼）、キュー（桑江）の人とが多く、屋取集落の人との結婚はほとんどなかった。

【集落で行なわれる主な年中行事】

●旧暦2月2～3日<ニングワチャー（クシユクワーシー・クスクイ）>：1日目にはシマクサラシも行なわれる。豚を1頭潰し、ギキチャー（ゲッキツ）の枝に、その血を塗り、悪鬼払いをした。拝所を男性だけで拝んだあと、ワカカタとトゥスイカタに分かれて、



◀聞き取り調査風景▶

■サーターヤー：製糖小屋。

■嘉手納製糖工場：沖縄製糖株式会社の嘉手納工場のこと。明治45（1912）年創業。

■ウマチー：稲麦などの農耕に関して行なわれる祭り。

■国道道路：県道23号線 国体記念道路

■ガンヤー：籠を納めておく小屋。

■ガン：籠。葬式のとき、死者の棺を入れて墓地まで運ぶためのもの。

■ニングワチャー：旧暦2月に行なわれる行事。集落や組単位で酒宴を開き、余興をして楽しむ。

■シマクサラシ：集落に悪疫が入ってくるのを防ぐための行事。

■ワカカタ：若者の組。

■トゥスイカタ：年寄りの組。

それぞれのヤードゥでごちそうを食べた。大きな家がヤードゥにあてられていた。2日目には、ワカカタがトゥスイカタにごちそうを持って行く。

●旧暦6月24日<綱引き>：屋号アガリジョーグワー（東門小）：23と屋号タマグスクグワー（玉城小）：10までの道を境にしてメーベークシペーに分かれた。屋号ヌンドウルチ（祝女殿内）：24の家の前で綱を引いた。

●旧暦7月<エイサー>：昭和11～12（1936～37）年頃まで行なわれていたらしい。

●旧暦9月<白露の御願>：ハンザンウガンとウーチヌカーで祈願が行なわれていた。各家から大豆を集めて豆腐を作り、その豆腐にカラスグワーをのせて供え、豊作を祈願した。

集落域は米軍に接収され、現在の国体道路の南側、キャンプ桑江内となっている。そのため、戦前の地形を窺い知ることは難しい。基地返還にあたってさらに地形が変化すると思われる。

■ヤードゥ：一時的に集会所に当てられる家。

■ワカカタ：若者の組。

■トゥスイカタ：年寄りの組。

■エイサー：旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。

■カラスグワー：スク（アイゴの幼魚）を塩漬けにしたもの。

■国体道路：県道23号線 国体記念道路

■キャンプ桑江（キャンプ・レスタ）：沖縄本島中部にある米海兵隊基地。米海軍病院がある。



◀聞き取り調査風景▶

平安山 屋号地図



■ 平安山の家の配置 (数字は屋号番号)

++++ 鉄道

■ 河川 (小さい文字は他の集落の呼び名)

■ 道路 (小さい文字は他の集落の呼び名)

■ 緑の文字 地域の名前 (小さい文字は他の集落の呼び名)

ハンザン（平安山）

村渠

メーベ

集落の組分けの1つ。綱引きのときに屋号アガリジョーグラー（東門小）：23と屋号タマグスクグラー（玉城小）：10までの道を境さかいにして2つに分かれた。東側がメーベであった。

クシベ

集落の組分けの1つ。綱引きのときに屋号アガリジョーグラー（東門小）：23と屋号タマグスクグラー（玉城小）：10までの道を境さかいにして2つに分かれた。西側がクシベであった。

河川

トゥクガー

泉いずみがあり、そこからの流れをトゥクガーと言う。ハンザン（平安山）とイリー（伊礼）の間を流れていた。

水がきれいで水量も多かったので、そこで水浴びをしたり、泳いだりした。また、家畜かちく（馬・牛）に水浴びをさせた。

話者によると、戦前に比べ、現在は水量が少なくなっているのので、米軍が取水しゅすいしているのではないかと言う。

→伊礼・平安山のトゥクガーを見よ。

谷間

カンジャーヤーヌスバ

ハマガー（浜川）の聞き取り情報によると、シリーヌサクの東側の窪地くぼちであると言う。

現在、嘉手納基地内となっている。

シリーヌサク

ヤクバの南側にあった谷間。雨が降ると小さな流れができていた。墓がたくさんあった。

現在、嘉手納基地内となっている。

県道

ケンドー

県道。集落の西側沿いで、キシヤミチと平行に走っていた。

新垣バスあらかきと昭和バスしやうわが運行しており、女性のバスガイドうんこうが乗っていた。嘉手納へ買い物や遊びに行く場合などに利用していた。



《聞き取り調査風景》

■嘉手納基地：沖縄本島中部にある極東最大の米空軍基地。



《シリーヌサク》

■新垣平尾バス：戦前の乗合自動車。那覇～名護間を運行。

■昭和バス：戦前の乗合自動車。那覇～読谷山村喜名間、那覇～小禄～糸満から米須間を運行。

干瀬

ハンジャンモーリー

【※編注：記載した地図の範囲外にあるため、地図上には記載されていない】

ハンザン（平安山）の沖にあった干瀬。

キュー（桑江）の聞き取り情報によると、北風が吹くと波が立ってきれいだったと言う。マンナグワー（サザエ）、タカセ貝、チビトゥガヤ（ヒロセ貝）などの貝が多く取れる場所だった。普段は見えないが、旧暦3月3日には水面に岩が出ていたと言う。北側は深さが7～8尋（10.5～12m）ぐらいあった。

現在の宮城区の下あたりとなる。

馬車道

ヤマガーミチ

ハマガー（浜川）の聞き取り情報によると、イリー（伊礼）の北、屋号シチャグイグワー（下庫裏小）のところで始まり、トゥクガーのミジグルマーの近くを渡って北東へ向かっていた道と言う。馬車も通ることができた。

→伊礼のミジグルマーを見よ。

キシャミチ

沖縄県営鉄道嘉手納線の線路。ケービンミチとも言う。ケンドーと平行に走っていた。ハンザンエキグワーがあった。

→平安山又上屋取のエキを見よ。

生活道

ナカミチ

集落の中を東西に走っている道。屋号イリウフヤグワー（西大屋小）：36からトゥンまでの範囲を言う。

岩山

ハンザンウガン

アルメピョーインの南側にあった岩山。ケンドーのすぐ側そばにあり、岩の根元ねもとはケンドーとくっついていた。

現在は、成人病検診センター沿いの道を北方向へ進み、県営砂辺団地（15号棟）の道向かいに合祀所を作り、「白露之神」として、「宇地川之神」と「殿之神」とともに祀られている。



《聞き取り調査風景》

■ミジグルマー：水車。

■沖縄県営鉄道 嘉手納線：嘉手納・野国・平安山・桑江・北谷・大山・真志喜・大謝名・牧港・城間・内間・安里・与儀・古波蔵・那覇の15駅があった。



《合祀所》



《白露之神の碑》

池沼



イチ

池。トーマヌカーの側^{そば}にあった。深さは1 mぐらいあった。

ハンザン（平安山）は各家に井戸^ほを掘ってあったので、特にイチを利用することはなかったが、子どもたちは水浴びをして遊んでいた。ウスクガジマル（アコウ）があり、池に影^{かげ}を作っていた。子どもたちはその木から飛び込んだりして遊んでいた。また、鯉^{コイ}を飼育^{しいく}していた。

テーラグワーグムイ

ハンザンメーバルとハマガーメーバルの境界^{きょうかい}のハマガー（浜川）寄りにあった。海の方に向かい、曲がったところに水が溜^たまるが、普段はあまり水がなかった。大雨の後にしか水浴びをすることができなかった。

人が一人通^{とお}れるぐらいの小さな道^{そば}が側^{とお}を通っていた。

現在は整地^{せいち}されている。

湧水井戸



ウーチヌカー

イリー（伊礼）集落の北東側にある井戸。

イリー（伊礼）の聞取り情報によると、戦前、グングウチウマチーのときにハンザンヌルが拝^{おが}んでいたと言う。雨乞^{あまご}いするときにも拝むカーで、豚^{ブタ}を潰^{つぶ}して供^{そな}えたと言う。

現在も水が湧^わいている。

掘井戸



カー

屋号ヤマトウシマグワー（大和島小）：22の北東方向にあった井戸。

トーマヌカー

屋号ウッドウグワー（小渡小）：34の南側にあった井戸。側^{そば}にはイチと呼ばれる溜池^{ためいけ}があった。

橋



ナガサンニーヌハシ

ハンザン（平安山）とイリー（伊礼）の境界^{きょうかい}あたりに架^かかる橋。現存^{げんぞん}している。



《聞取り調査風景》

■グングウチウマチー：旧暦5月に行なわれる農耕に関する行事。ノロ（神女）が祈願をささげる。

■ハンザンヌル：平安山神女。平安山、伊礼、浜川、砂辺、桑江の5集落の祭祀を管轄していた。平安山の屋号ヌドウルチがヌルだった。



《ウーチヌカー》

アンチョー

屋号ダンパチャー（断髪屋）：7の南側にあった暗渠^{あんきょ}。ケンドーの下^{した}が水が流れていくように作られていた。普段は水は流れておらず、雨が降ると流れていた。上の方は、両方に石を2尺（66cm）ぐらい積んであり、ランカングワーのように、人が座れるようになってあった。

病院

アルメビョーイン

有銘病院。アルミノイサヌヤーとも言う。ハンザンウガンの北側にあった診療所^{しんりょうじょ}。個人の病院で、もともとはナーファンチュの医者^{いしや}がいた。

話者によると、現在も嘉手納基地内に病院の跡^{あと}が残っているという。

製糖小屋

サーターヤー

共同製糖小屋。集落の東端にあったサーターヤーである。集落の人たちで共同使用していた。

イトムラヌサーターヤー

製糖小屋。屋号ナーカイトムラ（中糸村）：4の東側にあった。個人所有のサーターヤーである。

シマブクヌサーターヤー

製糖小屋。屋号メーヌウフヤグワー（前ヌ大屋小）：11の北東側にあった。

拝所

トゥン

集落の北側、屋号イリウフヤグワー（西大屋小）：36から西へ向かう道の角にあった。ハンザンヌルが拝^{おが}んでいたと言う。

現在は、成人病検診センター沿いの道を北方向へ進み、県営砂辺^{すなべ}団地（15号棟）の道向かいに合祀所^{ごうしじょ}を作り、「殿之神」として「白露之神」と「宇地川之神」とともに祀^{まつ}られている。

広場

ハンザンウシナー

アカミチーバルの北側にあった闘牛場^{とうぎゅうじょう}。シルー・クルー政争^{せいそう}にな

■ランカングワー：欄干。手すり。

■ナーファンチュ：那覇の人。

■嘉手納基地：沖縄本島中部にある極東最大の米空軍基地。

■サーターヤー：製糖小屋。



〈現地調査：大作原古墓群〉

■ハンザンヌル：平安山神女。平安山、伊礼、浜川、砂辺、桑江の5集落の祭祀を管轄していた。平安山の屋号ヌドゥルチがヌルだった。

■シルー・クルー政争：伊礼肇北谷村長が衆議院議員に出馬するときにおきた激しい派閥抗争。

ぞらえて、マックルーウシナーとも言った。

ウシオーラセーは、大正9(1920)年生まれの話者が生まれる前は盛^{さか}んだったようだが、その後はなかったようだ。話者は、ウシナーの形は覚えていると言う。

龕屋



ガンヤー

ガンは、ハンザン(平安山)、イリー(伊礼)、ハマガー(浜川)、ハンジャヌウィーヤードゥイ(平安山ヌ上屋取)の4集落共同で使用していた。

現在の国^{こくたい}体道路のフェンス沿いあたりとなる。話者によると、ガンヤー^{しきちあと}の敷地跡が残っているかもしれないと言う。

■ウシオーラセー：闘牛。牛と牛を闘わせる農村部の伝統的な娯楽競技。ウシオーラシーとも言う。

■ガンヤー：龕を納めておく小屋。

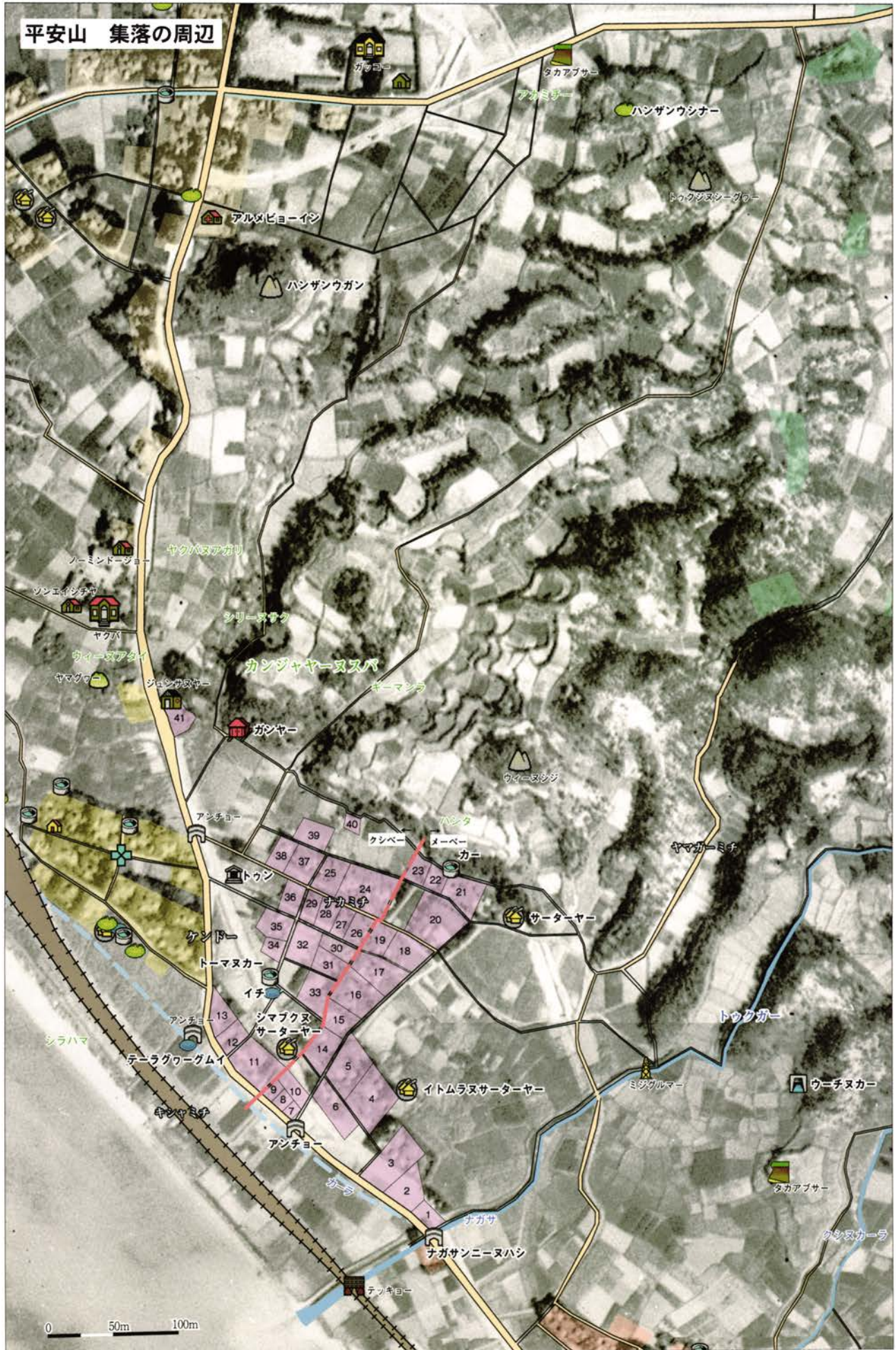
■ガン：龕。葬式の時、死者の棺を入れて墓地まで運ぶためのもの。

■国体道路：県道23号線 国体記念道路



《屋号ナカムトゥの墓》

平安山 集落の周辺



浜川一帯



現在の浜川一帯



～ 北谷町指定文化財 ～

史跡 **浜川ウガン遺跡** ～北谷町文化財指定 第一号～
Historic Site: Hamagaa Ugan Ruins - Chatan Town Designated Cultural Asset No. 1-

浜川ウガンは『琉球国由来記』（1713年）の「島森ヨリアゲノ嶽・神名イシノ御イベ」と称される石灰岩塊の拝所である。東面には按司墓があり、南面下に浜川ウガンの拝所とアコウの大木がある。拝所は石灰岩で香櫃造の家型祠があり、3つの香炉が安置されている。戦前まで旧暦2月にシマクサラサー、3月にはカミウシミーがおこなわれた。当地の南側には「殿之神」、「竜宮神」も建立されている。

浜川ウガン遺跡は、丘陵部の南側基部には8～10世紀の貝塚が形成され、丘陵上部より投棄されたものと考えられ、発掘調査の必要があるが祭祀遺跡の可能性が高い。類似遺跡として伊是名村アギギタラ貝塚がある。

平成16年3月26日指定
北谷町教育委員会

The Hamagaa Ugan is a place of worship made at the foot of a limestone rock. It is called *Shimamori Yoriage no Taki* (holy name: *Ishi no Oibe*) in the *Ryukyu-koku Yuraiiki*, 1713 (Historical records of the Kingdom of the Ryukyus). A tomb of a feudal lord is located to its east. The worship area and a large *Akou* tree (*Ficus superba* Miq. var. *Japonica* Miq) are found to the south. In the worship area, there is a small house-shaped limestone shrine with a *Yosemune*-style hip roof and three incense burners. The *Shimokusarasau*, a ritual held in lunar February to prevent evil from entering the community, and the *Kami-Ushimi*, a ritual to pray to gods held in lunar March, were held here before the war. The *Twun no Kami* and *Ryuuuga Shin* deities are also enshrined in the south side of the premises.

A shell mound dating from the 8th to 10th centuries is found north of the Hamagaa Ugan. It is believed that refuse was discarded from the top of the hill, presenting the possibility that a worship area might have existed on the top. Excavation of this site is considered required. A similar ruin known as the *Agigitara* shell mound is found in Izena Village.

Designated on March 26, 2004
Chatan Board of Education



戦前の航空写真（昭和20年2月28日撮影）～沖縄県公文書館所蔵～▲
Pre-war aerial photograph taken on February 28, 1945



浜川ウガン遺跡（アコウの大木）▲
Hamagaa Ugan Ruins and a large Akou tree

■北谷町指定文化財：平成16（2004）年3月26日

①ハマガーウガン ②アガリウタキ ③トゥン ④チブガーの4か所が指定された。

【※編注：他の3つについては、北谷・玉代勢・伝道集落参照。】

浜川

ハマガー

ハマガー（浜川）

北谷町域西側、東シナ海に面した集落。テツドーが通る前は海岸線の砂浜が集落の近くまで来ていた。テツドー開通後、海岸線は西側に寄り、海からの波はテツドーの線路で遮られて、集落に打ち寄せることはなかった。水遊びはたいてい海に行っていた。

戸数21軒からなる集落。戸数が少なく、行政上はハンジャヌウィーヤードウイ（平安山又上屋取）、チュンナーグワーヤードウイ（喜友名小屋取）も含めて字浜川となっていた。学事奨励会などは、この3つの集落で交替で行なっていた。村議員は3集落から1人選出という割合だった。役場職員数は30人で、昭和15（1940）年前後の北谷村の人口は約16,000人、村民500人に対して、役場職員1人の割り当てだった。区長交替は2年ごとだった。

ほとんどの屋敷にカーがあった。すべてチーガーで、深いところは2mぐらいあった。ニープガーはなかった。個人でカーを持つようになる以前は、イリガー、メーヌカー、クシヌカー、クラニークシヌカーの4つのムラガーを使用していた。これらのカーは、現存しているメーヌカーに「西之神井戸」「後之神井戸」「前之神井戸」「西後之神井戸」として合祀されている。

サーターヤーは、屋号メーヌウナファグワー（前ヌ小那覇小）：2の南側にあった1か所だけであった。集落の人たちで共同使用していた。

集落の北西にはハマガーウガンと言う拝所があった。現在の国道58号線と国体道路の合流地点近くであり、木が生い茂っている。また、ハマガーウガンの南に隣接して「龍宮神」と「殿之神」があり、現在も拝まれている。現在、成人病検診センター沿いの道を北方向へ進み、県営砂辺団地（15号棟）の道向かいにコーシビョー（孔子廟）と呼ばれる拝所がある。昔から拝まれている拝所だが、戦前からコーシビョーと呼ばれていたかは確かではない。チュンナーグワーヤードウイ（喜友名小屋取）とハンザン（平安山）の合祀所の間に位置している。

集落の人たちの墓はオータチャーヌシー周辺に多く、シリーヌサクにも5～6基ぐらいあった。

チャタンヌメーヤードウイ（北谷ヌ前屋取）やチャタン（北谷）のンマイーへ行って、モーアシビをしていた。

【集落で行なう主な年中行事】

●旧暦2月2日<シマクサラシ>：豚1頭を潰し、その血を塗ったギキチャー（ゲッキツ）の枝を、道路の角や十字路、各家の門や四隅などに挿した。豚の骨は、集落の出入口に吊り下げたヒジャイナーにはさんだ。



《聞き取り調査風景》

■学事奨励会：学童の勉強を励ます会。

■カー：井戸。

■チーガー：つるべ井戸。

■ニープガー：ひしゃくで汲めるような浅い井戸。

■ムラガー：村の共同井戸。



《合祀所》

■国体道路：県道23号線 国体記念道路



《孔子廟》

■モーアシビ：農村で夜、若い男女が野原に出て遊ぶこと。三味線・歌・踊りなどをして楽しむ。

■シマクサラシ：集落に悪疫が入ってくるのを防ぐための行事。

■ヒジャイナー：左纏りの縄。

その他、ニングワチャー、ニングワチウマチー、サングワチャー、ルクグワチウマチーなどの行事があった。これらの行事は、トウンで行なわれ、ウカミヤーと呼ばれる屋号クラニー（蔵根）の家が取り仕切っていた。

集落域は国道58号線に重なっている部分が多い。集落の拝所^{はいしよ}であるハマガーウガンは、平成16(2004)年に北谷町指定文化財^{ちやたんちよう}の1つとなった。

- ニングワチャー：旧暦2月に行なわれる行事。集落や組単位で酒宴を開き、余興をして楽しむ。
- ニングワチウマチー：旧暦2月に行なわれる農耕に関する行事。ノロ（神女）が祈願をささげる。
- サングワチャー：旧暦3月3日にごちそうを持って浜辺へ行き、身を清め、楽しく遊ぶ行事。子どもの健康祈願として、重箱のごちそうを食べさせる例もある。
- ルクグワチウマチー：旧暦6月に行なわれる農耕に関する行事。ノロ（神女）が祈願をささげる。
- 北谷町指定文化財：平成16(2004)年3月26日に①ハマガーウガン ②アガリウタキ ③トウン ④チブガーの4か所が指定された。



《ハマガーウガン》



《ハマガーウガン》

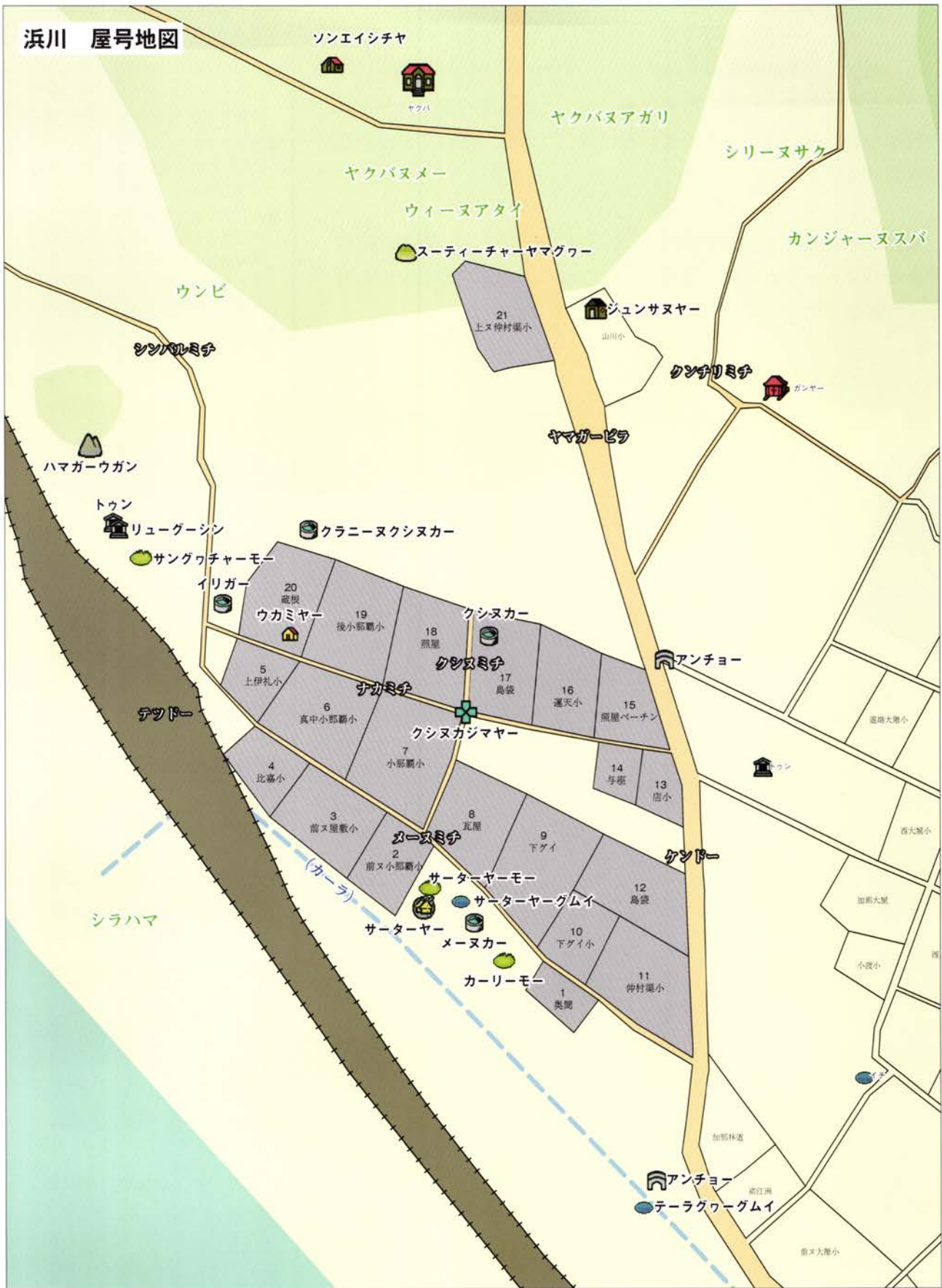


《ハマガーウガン》



《ハマガーウガン》

浜川 屋号地図



浜川の家配置 (数字は屋号番号)



鉄道



河川

(小さい文字は他の集落の呼び名)



道路

(小さい文字は他の集落の呼び名)



緑の文字

地域の名称 (小さい文字は他の集落の呼び名)

ハマガー（浜川）

河川

カーラ

トゥクガーのことである。ハンザン（平安山）とイリー（伊礼）の間を流れていた川。イリー（伊礼）の屋号チサバ（喜舎場）のところから北側へ向かい、ハマガー（浜川）集落沿いを流れていた。昭和7（1932）年に行なわれた護岸工事で、トゥクガーの流れはイリー（伊礼）で堰きとめられ、ハマガー（浜川）に向かわず、そのまま海に注ぐようになった。

川の水はきれいで、水浴びをしていた。また、かつてトゥクガーの上流にはミジグルマーの跡があり、そこで家畜（馬・牛）に水浴びをさせていた。戦前、ミジグルマーはすでになくなっていて、跡が残っていたただけだが、その場所はずっとミジグルマーと呼ばれていた。

→伊礼・平安山のトゥクガー、伊礼のミジグルマーを見よ。

崖

ハンタ

ハンザン（平安山）のタウンの北東側に広がる崖。ハンザン（平安山）集落の後ろにあるので、ハンジャヌクシーとも言う。また、ヤクバの東側でもあるので、ヤクバヌアガリーと言うこともある。ハンタの上には小さな岩があり、それをウィーヌシジと言っていた。現在は崩れて低くなっている。

→平安山のタウン、平安山ヌ上屋取のヤクバを見よ。

谷間

シリーヌサク

ヤクバの南側、ハンタの北側にあった谷。ハマガー（浜川）の人たちの墓が5～6基あった。

現在、国体道路と国道58号線が合流する地点から、やや東に入ったところで、国体道路の北側にのびている谷のこと。

→平安山ヌ上屋取のヤクバを見よ。

カンジャーヌスバ

シリーヌサクの東側にある窪地。

■ミジグルマー：水車。



◀聞き取り調査風景▶

■国体道路：県道23号線 国体記念道路

小ハル名

ヤクバヌアガリ

ヤクバの側^{そば}を走るケンドーの東側を言う。ジュンサヌヤーの北側あたりである。ハマガー（浜川）の人たちの畑が多くあった。

→平安山ヌ上屋取のヤクバを見よ。

ヤクバヌメー

ヤクバと屋号ウィーヌナカンダカリグワー（上ヌ仲村渠小）：21の間に広がる土地^{あいだ}を言う。畑地で、土質が良く、芋^{イモ}やウージ（サトウキビ）、野菜などを作っていた。

一部が小さな広場になっており、ヤクバを訪れた人の馬車や馬をつないでおくこともあった。

→平安山ヌ上屋取のヤクバを見よ。

ウィーヌアタイ

集落北側の畑地一帯を言う。ヤクバの向かいとも言う。

→平安山ヌ上屋取のヤクバを見よ。

ギーマンラ

クンチリミチの南側、ウィーヌシジのあたりを言う。地名の由来は不明。

畑と山であり、畑ではトーフマーミ（大豆）を主に作り、その他アカマーミ（小豆）、ウージ（サトウキビ）、芋^{イモ}などを作っていた。山には松^{マツ}が生えていたので、麓^{ふもと}は影になり、作物はあまりよく育たなかった。

→平安山のハンザンウガンを見よ。

ウンビ

オータチャーヌシーとハマガーウガン^{あいだ}の間の一帯。屋号ウィーヌナカンダカリグワー（上ヌ仲村渠小）：21の西側あたりを言う。

ハンザン（平安山）の人たちの畑が多かった。土質はマージであった。土が浅く、すぐ岩盤^{がんばん}にあたる土地だったので、クラガイモ（芋の一種）やマージン（黍）などを主に作り、その合間^{あいま}にトーフマーミ（そら豆）、インローマーミ（えんどう豆）、デアクニ（大根）などを植えた。土が浅いので、デアクニは下に根^ねざさず、地上に高く突きでていた。

現在、外人住宅が建っている。



◀現地調査・嘉手納基地内▶

■マージ：赤土質の土壤。マージでできた芋は小さいが美味しい。

アマジチメー

ハマガーウガンの西側一帯を言う。海岸沿いに墓がたくさんあった。病死した家畜や浜に流れついた水死体、無縁仏などを葬る土地だった。大きなカーミナクーバカがあった。この墓は昭和43(1968)年に改築されている。また、この地域にはナーファバカと呼ばれる墓があった。話者によると、その墓の主は那覇の人であると言われるが確かではないと言う。

浜

シラハマ

集落西側の海岸線の砂浜で、テツドーの西側にあった。

戦後、砂は米軍基地建設に使用されたと言う。話者によれば、キャンプ瑞慶覧の体育館建設には、この砂が使われたと言う。

現在は、国道58号線沿いの、やや西側に入ったあたりの地域にあたる。

県道

ケンドー

県道。集落の右側を南北に走っていた。話者によると、ケンドー沿いのナンマチは、名護親方の案を具志頭親方が実行したものだと言う。

ケンドーは雨が降ると、たくさんの窪みができてしまうため、よく補修工事が行なわれていた。よそから雇われた人たちが補修作業を行っていた。作業には男性だけでなく、女性もいた。

郡道

ガッコーミチ

学校道。北谷尋常高等小学校からシチャシードウヤードウイ(下勢頭屋取)へ続いている道。ハマガー(浜川)の人たちは、この道はあまり利用していなかった。

生活道

メーヌミチ

ハマガー(浜川)集落の前方を東西に走っている道。屋号ナカンダカリグワー(仲村渠小):11から屋号ウィーイリーグワー(上伊礼小):5の前を通る道。

ナカミチ

ハマガー(浜川)集落の中を東西に横切る道。屋号クラニー(蔵

■カーミナクーバカ:屋根が亀の甲のような形をした墓。

■ナーファバカ:那覇墓。

■キャンプ瑞慶覧(キャンプ・フォスター):沖縄本島中部にある米海兵隊基地。

■ナンマチ:松並木。

■名護親方:程順則のこと。沖縄で最初の学校である「明倫堂」を建てた。

■具志頭親方:蔡温のこと。三司官として農業・林業に大きな業績を残した。

■北谷尋常高等小学校:明治35(1902)年に北谷尋常小学校と野国尋常小学校の二校が合併し、平安山ヌ上屋取に開校した。昭和16(1941)年の「国民学校令」により、学校名が国民学校へと変わった。

根) : 20 から屋号ティーラペーチン (照屋ペーチン) : 15 の前を通る道。

クシヌミチ

集落の中を南北につらぬいて走っている道。屋号ウナファグワー (小那覇小) : 7 の東側、屋号ティーラ (照屋) : 18 と屋号シマブク (島袋) : 17 の間を通る道。

シンバルミチ

シナビヌメーヤールイ (砂辺ヌ前屋取) へ行く道。サングウチャーモーの側から始まり、ハマガーウガンの東側を^{とお}通って北へ向かい、ウフドーミチとテツドーが交差する地点までの部分を言う。

クンチリミチ

ハンザン (平安山) の屋号ヤマガーグワー (山川小) の南から始まり、北谷尋常高等小学校の方へ^{つうがく}続く道。通学やシチャシードウヤードウイ (下勢頭屋取) に行くときなどに利用していた。人が通れるぐらいの細い道だったので、馬車は通れなかった。

クンチリミチは途中で、シリーヌサクを抜けていく道とカンジャーヌスバを抜ける道の2つに分かれていた。シリーヌサクの道は、木が生い^{しげ}茂って薄暗く、両脇に墓があったので、子どもたちは怖がって通らず、カンジャーヌスバを抜ける道をよく使っていた。

坂道

ヤマガーピラ

ヤマガーグワーピラとも言う。ハマガー (浜川) からハンジャヌウィーヤードウイ (平安山ヌ上屋取) へのぼって行く坂道。雨降りには馬車は通りづら^{とお}い道だった。

鉄道

テツドー

県営鉄道嘉手納線。テツドーはハマガーウガン西側、シーの側^{そば}すれすれを^{とお}通っていた。

岩山



ハマガーウガン

拝所。ハマガー (浜川) 集落の北西、トゥンの北隣に位置する。あまり木は生えておらず、岩だけが東西南北、どこからでも見えていた。ウスク (アコウ) の木が生えていて、木の下には^{ふうそう}風葬された

■北谷尋常高等小学校：明治35 (1902) 年に北谷尋常小学校と野国尋常小学校の二校が合併し、平安山ヌ上屋取に開校した。昭和16 (1941) 年の「国民学校令」により、学校名が国民学校へと変わった。

■クンチリミチ：近道。

■沖縄県営鉄道 嘉手納線：嘉手納・野国・平安山・桑江・北谷・大山・真志喜・大謝名・牧港・城間・内間・安里・与儀・古波蔵・那覇の15駅があった。

■シー：岩山。



◀ハマガーウガン▶

遺骨^{いこつ}がたくさんあった。ハマガーウガンから北はゆるく坂になっていた。

子どもたちがハマガーウガン^{のぼ たこあ}に上り、凧上げをして遊んでいた。

現在、国道58号線と国体道路^{こくたい}の合流地点から北西側にある。岩が見えないほど木が繁^{しげ}っている。拝^{おが}みに来る人が今でも絶えない。

平成16(2004)年に北谷町指定文化財^{ちやたんちやう}となった。

カンシショー

監視哨。ハマガー(浜川)の北、ヤクバよりさらに北西に位置していた。高さが24~25mぐらいあった。ハマガー(浜川)と比べると、地形的にかなり高いところに位置していた。

ハマガー(浜川)では特に呼び名はなく、シーとだけ呼んでいたが、戦時中に監視哨ができてからは、カンシショーと呼ぶようになった。話者によると、哨員はノーミンドージョーでお茶などを飲んで休憩していたのではないかと言う。手旗信号を使用していた。

→平安山又上屋取のノーミンドージョーを見よ。

ウィーヌシジ

ハンザン(平安山)のタウンの北東側に広がるハンタのタカチジを言う。または、崖^{がけ}の上にあった小さい岩を言う。歩けないぐらい強い風の吹くところだった。

現在、国道58号線と国体道路^{こくたい}が合流する地点から東側、国体道路の南側一帯を言う。採石^{さいせき}によって平たくなっている。

オータチャーヌシー

オータチャーとも言う。集落の北西、シナビヌメーヤールイ(砂辺又前屋取)の入口付近にある岩山。高さは10~15mぐらいあった。木はあまり生えていなかった。地名の由来は不明。

周辺には畑があり、主に芋^{イモ}やマージン(きび)を植え、その合間に豆類やデークニ(大根)などを植えていた。

周囲には墓もあったので、子どもなどは怖^{こわ}がって近づかなかった。墓は現在も残っている。

現在、外人住宅となっている地域の北側である。

ボージャージー

集落の北側、テツドーの西側に位置していた岩山。木は少なく、背丈の低い植物がわずかに生えていた。高さは15mぐらいだった。木の少ない様子が坊主頭に似ていることから、ボージャージーと呼ばれていた。

■国体道路：県道23号 国体記念道路

■北谷町指定文化財：平成16(2004)年3月26日に①ハマガーウガン ②アガリウタキ ③タウン ④チブガーの4か所が指定された。

■シー：岩山。

■監視哨：敵の動きを監視するところ。

■タカチジ：てっぺん。頂上。

■国体道路：県道23号 国体記念道路



《聞き取り調査風景》

墓が3～4基あった。

ハマガー（浜川）集落からはやや離れていたため、足を運ぶことはあまりなかった。

現在の国道58号線沿いの左側である。国体道路と嘉手納基地第1ゲートの間あたりとなる。根元から削られて、現存しない。

洞窟



アーマンチュガマ

ハマガーウガンの北西側、海岸に位置する洞窟。戦前は這って入ることができた。洞窟の中には人骨があった。

戦前からハマガー（浜川）をはじめ、シナビ（砂辺）、ハンザン（平安山）、キュー（桑江）など海に関係する人々が、それぞれの一門ごとで拝んでいた。ハマガー（浜川）集落ではシーミーのとき、餅や豆腐、てんぷらなどを詰めた重箱を供えて拝んでいた。戦前はウコールはなく、設置したのは戦後になってからである。

丘



スーティーチャーヤマグワー

ヤマグワーとも言う。屋号ウィーヌナカンダカリグワー（上又仲村渠小）：21の西側で、ヤクバのやや南側に位置していた。小さな平たい丘で、石が多く、スーティーチャー（ソテツ）と小さな松が生えていた。

→平安山又上屋取のヤクバを見よ。

池沼



テラグワームイ

ハマガー（浜川）とハンザン（平安山）の境界にあるアンチョーから10mほど離れたところにあったクムイ。面積は大きく、深さも3～4mぐらいあった。流れがあるので、水がきれいだった。

水浴びもしていた。製糖のときに使った馬も、テラグワームイで水浴びをさせていた。

周辺は畑だった。

南側はきれいな白浜で、白浜に沿ってゲーン（ススキ）やアダンが防風林として植えられていた。

南から海岸線沿いに作られていたゴガンは、このあたりで切れていた。

→桑江のゴガンを見よ。

■国体道路：県道23号 国体記念道路

■嘉手納基地：沖縄本島中部にある極東最大の米空軍基地。

■シーミー：清明祭。旧暦3月に行なう祖先供養の行事。

■ウコール：御香炉。線香をたてる炉。

■クムイ：池。沼。



《聞き取り調査風景》

サターヤーグムイ

メヌカーの東側、サターヤーモーとカーリーモーあいだの間にあったクムイ。製糖の時期が終わったら、サターグルマじくぎや軸木などをこのクムイに沈めた。広さは直径7～8mぐらいで、深さは1m余りあった。底はすり鉢状になっていた。

ホテイアオイがたくさん生えていて、ときどき草取りをしていた。また、クムイの周囲にはゲンひで（ススキ）がたくさん生えていた。

話者によると、クムイの水は日照りが続いても干上ひあがることがなかったのわで、湧き水だったかもしれないと言う。

普段は子どもたちが泳いで遊んでいた。

掘井戸



メヌカー

4か所ある共同井戸の1つ。メヌウカミガーとも言う。サターヤーグムイの南隣たぐにあった。深さは2mぐらいで、カーチナを2回ほど手繰くるだけで水が汲めた。水量が多く、きれいな水だった。ハマガー（浜川）集落のウプガーはいしよでもあり、拝所おがとして拝まれていた。一番古い井戸ではないかと考えられている。

テツドふせつが敷設される前は、メヌカーのすぐ下が砂浜だったので、サングワチャーのときに集まる場所になっていた。

現在はなくなってしまったイリガー、クシヌカー、クラニーヌクシヌカーは、唯一現存するメヌカーごうしに合祀されている。

クシヌカー

4か所ある共同井戸の1つ。屋号シマブク（島袋）12の北東側みにあった。大きな井戸で、深さは3～4.5mぐらいあり、水が満ちていた。話者によると、昔はクバ（ビロウ）の葉で作った釣瓶つるべで水汲みをしていたという話が伝わっていると言う。明治時代の終わり頃まで、ハンジャヌウィーヤードウイ（平安山ヌ上屋取）の人も利用していた。ハンジャヌウィーヤードウイ（平安山ヌ上屋取）からクシヌカーまでは600mぐらいの道のりだった。

このクシヌカーの水は、ウガプトウチャーくのときに汲んでハマガー（浜川）のムートウヤーうぶゆに供えに行ったり、産湯やミジナディーのための水として利用していた。

現在、クシヌカーの正確な場所は不明である。国道58号線ちやうの中央分離帯おうぶんりたいあたりであると思われる。そのため、現存するメヌカーに、イリガー、クラニーヌクシヌカーごうしとともに合祀されている。

■クムイ：池。沼。

■サターグルマ：サトウキビを圧搾する装置。

■カーチナ：井戸の縄。

■ウプガー：産湯に使う水を汲む井戸。



《合祀所》



《後之神井戸・前之神井戸》

■ウガプトウチャー：神仏にかけた願を解くこと。

■ムートウヤー：本家。

■ミジナディー：水撫で。若水や産湯を汲むウプガーの水を指につけ、額を3回撫でる。

イリガー

4か所ある共同井戸の1つ。カミガー、あるいはイリヌカーとも言う。屋号クラニー（蔵根）：20の西側で、集落内の井戸のなかで一番西側にあった。すぐ側をテツドーが通っていた。

昭和年代にはいと、各屋敷に井戸ができはじめたため、飲料水としては使用しなくなった。しかし、行事のときにはこの井戸から水を汲んで、ハマガー（浜川）集落のムートゥにあたる屋号クラニー（蔵根）やナカムートゥにあたる屋号ウナファグワー（小那覇小）に供えに行っていた。

サングワチャーには集落の人たちが集まり、四角い石を目印にして拝んでいた。昔はイリガー、クシヌカー、メーヌカーなど集落内の古い井戸には、火のついてない線香を置いて拝んでいた。

現在、イリガーの正確な地点は不明である。国道58号線に重なっていると思われる。そのため、現存するメーヌカーに、クシヌカー、クラニーヌクシヌカーとともに合祀されている。その碑文にはイリヌカミガーとある。

クラニーヌクシヌカー

4か所ある共同井戸の1つ。屋号クラニー（蔵根）：20の北側にあった井戸の跡。戦前から水は涸れていて、土で埋まっていた。井戸の縁の石積みだけが残っており、線香が供えられていることがあった。拝所とされ、拝みが行なわれていた。周りにはソテツ（蘇鉄）が生えていた。

現在、クラニーヌクシヌカーの正確な地点は不明である。国道58号線に重なっていると思われる。そのため、現存するメーヌカーにイリガー、クシヌカーとともに合祀されている。その碑文ではイリクシヌカミガーとある。

橋



アンチョー

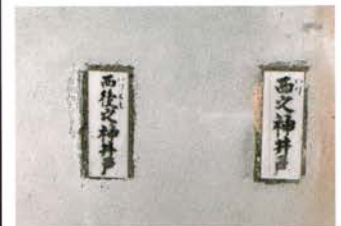
暗渠。2か所あったうちの1か所。ハマガー（浜川）とハンザン（平安山）の境界あたりでテツドーを横切る地下水路。

アンチョー

暗渠。2か所あったうちの1か所。屋号ティーラペーチン（照屋ペーチン）：15の北東側。ケンドーを横切る地下水路。

- ムートゥ：本家の先祖。
- ナカムートゥ：分家の先祖。

- サングワチャー：旧暦3月3日にごちそうを持って浜辺へ行き、身を清め、楽しく遊ぶ行事。子どもの健康祈願として、重箱のごちそうを食べさせる例もある。



《西後之神井戸・西之神井戸》

十字路

クシヌカジマヤー

屋号ティーラ（照屋）：18と屋号シマブク（島袋）：17の間にある十字路。ナカミチとクシヌミチが交差するところだった。

停車場

エキ

県営鉄道嘉手納線の平安山停車場。ハンジャヌウィーエキグワーとも言う。シナビヌメーヤールイ（砂辺ヌ前屋取）と北谷尋常小学校をつなぐ道とテツドーとが交差するあたりにあった。嘉手納方面に向けて、線路の右側に位置していた。ハンジャヌウィーヤードウイ（平安山ヌ上屋取）側から線路をまたいで駅の反対側に出ると、シナビヌメーヤールイ（砂辺ヌ前屋取）の入口だった。

ハマガー（浜川）集落で普段からテツドーを使うのは、那覇に通う中学生や農林学校の学生くらいだった。まれに、出征兵士を送るために、親戚一同で那覇まで汽車に乗って行くことがあった。

話者が小学生のときには、嘉手納の書店に教科書を買に行くからと親から汽車賃をもらい、実際には徒歩で行って、浮いた汽車賃でアイスケーキ（アイスキャンデー）を買い食いしたりしたこともあったと言う。

現在、嘉手納基地第一ゲートの南側あたりで、国道58号線と重なっている。

鉄橋

テッキョー

鉄橋。テツドーとトゥクガーが交わる地点にあった。コンクリートの土台を築いて、その上に線路を走らせたもの。長さは5mぐらいだった。

子どもたちはテッキョーから川に飛び込んで遊んでいた。

→伊礼のトゥクガーを見よ。

建築物

フミキリ

踏切。シナビヌメーヤールイ（砂辺ヌ前屋取）方面に向かうウフドーミチとテツドーが交差するところにあった。

→平安山ヌ上屋取のウフドーミチを見よ。

■沖縄県営鉄道 嘉手納線：嘉手納・野国・平安山・桑江・北谷・大山・真志喜・大謝名・牧港・城間・内間・安里・与儀・古波蔵・那覇の15駅があった。

■嘉手納農林学校：沖縄県立農林学校。国頭農学校がその前身。大正3（1916）年に嘉手納に移設された。

■嘉手納基地：沖縄本島中部にある極東最大の米空軍基地。



＜聞取り調査風景＞

公共施設

ソンエイシチャ

村営質屋。ヤクバの側^{そば}にあった。話者によると、利用者は目立たないようにこっそり質屋を使っていたので、利用状況はよくわからないと言ひ、質屋に近い集落では、かえって使っていなかったかもしれないと言う。

→平安山ヌ上屋取のヤクバを見よ。

交番

ジュンサヌヤー

交番。ヤクバの道向かいにあった。ハンザン（平安山）に属していた。

→平安山ヌ上屋取のヤクバを見よ。

製糖小屋

サーターヤー

共同製糖小屋。屋号メーヌウナファグワー（前ヌ小那覇小）：2の南側にあった。サーターヤーは1か所だけであった。

側^{そば}にはサーターヤーモーもあった。

拝所

リュウゲーシン

龍宮神。サングワチャーモーにあった^{はいしよ}拝所。豊漁を祈願していた。背の高いスーティーチャー（ソテツ）があり、それを目印にして祈願を行なっていた。旧暦3月3日に重箱を持ち寄り、神様にお供えするというかたち^{おが}で^ひ拝んでいた。

戦後、サングワチャーモーに碑がたてられ、リュウゲーシンと呼ばれるようになった。

現在も3月3日に祈願が行なわれている。

タウン

集落の北側、ハマガーウガンの南隣に位置する。^{ほくら}祠があった。

タウンで行なわれる行事には、ニングワチャー、ニングワチウマチー、サングワチャー、ルクグワチウマチーなどがあった。これらの行事はウカミヤーと呼ばれる屋号クラニー（蔵根）の家が取りしきっていた。



《龍宮神・殿之神》



《龍宮神》



《殿之神》

神家



ウカミヤー

屋号クラニー（蔵根）：20の屋敷内にあった。アサギとも言う。クラニー（蔵根）の屋敷に入ると、右側がアサギ、正面が母屋、左側がイチムシヌヤーだった。2坪ぐらいの広さで、床は板張りで筵を敷いてあった。たくさんのウコールが置かれていた。

祭りのときや、他集落に遊びに行つて帰りが遅くなった若者たちが、ここに泊まることがあった。

現在、^{こくたいどうろ} 国体道路が国道58号線につきあたる地点のやや南側になる。砂辺水園の南東側あたりである。

■アサギ：農村などで、母屋の前にある離れ。メヌヤーとも言う。

■イチムシヌヤー：家畜小屋。

■ウコール：御香炉。線香をたてる炉。

■国体道路：県道23号 国体記念道路

広場



カーリーモー

屋号ウクマ（奥間）：1の北西側にあった^{しばふ} 芝生のモー。サターヤーモーと隣合わせであった。^{あいだ} 間にサターヤーグムイをはさんで、カーリーモーが東側、サターヤーモーは西側に位置した。カーリーモーはサターヤーモーに比べて小さかった。

青年たちがムートトゥエーやチャンクルーをして遊ぶ場所だった。

■モー：原野。野原。原っぱ。

■ムートトゥエー：子どもの遊び。プロレスごっこのようなもの。

■チャンクルー：お金を投げて、裏返ったら自分のものになるという遊び。

サングワチャーモー

集落の北側で、ハマガーウガンの南側、トゥンの前の広場。北側にウスク（アコウ）の木が生えていた。

旧暦3月3日のサングワチャーには、女の人のごちそうを持ち寄って、一日遊んでいた。

■サングワチャー：旧暦3月3日にごちそうを持って浜辺へ行き、身を清め、楽しく遊ぶ行事。子どもの健康祈願として、重箱のごちそうを食べさせる例もある。

サターヤーモー

カーリーモーと隣合わせの広場。製糖小屋があった。^{あいだ} 間にサターヤーグムイをはさんで、サターヤーモーが西側、カーリーモーが東側に位置した。サターヤーモーはカーリーモーの2倍近い広さがあった。製糖時期以外は、トーマーミ（そら豆）などの豆類を干すのに使っていた。

昭和20（1945）年頃には、学校の校舎に日本軍が^{ちゅうりゅう} 駐留していたので、サターヤーモーに茅ぶきの教室を造り、そこで勉強をしていた。



〈現地調査・嘉手納基地内〉

平安山又上屋取

ハンジャヌウィーヤードウイ

ハンジャヌウィーヤードゥイ（平安山又上屋取）

北谷町域北西側で、ハンザン（平安山）の北側、坂の上の高台に位置していた^{ヤードゥイ}屋取集落。ハンジャヌウィーヤードゥイ（平安山又上屋取）を略してヘイジョー（平上）と言うこともある。ガッコー、エキ、ヤクバなどの公共施設があり、北谷村の中心地^{ちやたんそん}だった。

戸数は61軒で、団結の強い集落だった。

チュンナーグワーヤードゥイ（喜友名小屋取）とともに、^{あざ}字浜川に属していた。ハマガー（浜川）やチュンナーグワーヤードゥイ（喜友名小屋取）と一緒に^{こうじょうかい}向上会、^{がくじしゅうれいかい}学事奨励会、^{のうじしゅうれいかい}農事奨励会などを行っていた。

イシジェークー、キージェークーで有名だった。特にイシジェークーは棟梁が多く、シチャシードゥヤードゥイ（下勢頭屋取）やチュンナーグワーヤードゥイ（喜友名小屋取）から習いに来た弟子^{でし}がたくさんいた。久米島まで石普請^{いしふしん}に行っていた。スパヤーが、屋号スパヤーウンティングワー（蕎麦屋運天小）：20と屋号トゥンドーシマブク（通堂島袋）：48の2軒あった。てんぶらや今川焼きなども売っていた。屋号スパヤーウンティングワー（蕎麦屋運天小）は5銭と10銭のそばだったが、2銭分売ってくださいとおばあさんに言うと、5銭分のそばと変わらないぐらいの量を作ってくれた。近隣集落からの客も多かった。雑貨商は5軒あり、品物は、那覇へ行って^{おろし}卸をとったり、自転車^{ぎやうしやうにん}で来る行商人から買ったりして、それを小売りしていた。近隣集落からも買いに来ていた。その他、行商として、^{なかくすくそんあつた}中城村熱田から肉を赤箱^{アカバクー}に入れて担いで売りに来ていたが、病人^{びやうにん}でもいない限り、肉は買えなかった。宜野湾村大山のウヤマハーメー^{こんぶ}が昆布、煮干^{にぼし}、お茶などを、ロシア人のニコライという人は洋服^{たんもの}や反物などの行商をしており、ガッコーや屋号ニーケーシマブク（二階島袋）などをまわっていた。^{とんぶく}頓服薬やマンチンタンなどの薬類は、^{とやま}富山からの行商人が各家庭^{おろ}に卸していたが、めったに飲まず、風邪を引いたらヨモギの汁を飲んで治していた。熱が出たら屋号イリヌジツチャク（西又勢理客）のウフヤーのタンメーに針^つを突いてもらった。重病になったら嘉手納の大山という医者^{かてな}に往診^{おおやま}を頼んだ。アルメビョーインの医師は正式な医師ではなく、^{いかいほ}医介輔^いだったので、大山医師の監督を受けて診療していた。普段、現金で診察代金を支払うことは出来なかったため、七月かあるいは正月に払っていた。

移住当初はハマガー（浜川）へ水汲み^くに行っていた。^{おけ}桶に汲んで約1kmの距離を運んでいた。その後、ほとんどの家にクムイ^{くみい}が作られた。大体は丸い形だったが、屋号マツシマ（松島）のクムイは、4m×2mぐらいの長方形であった。

■向上会：集落の産業を向上させるための会。優秀な人には賞状や賞品が与えられた。現在の産業まつりのようなもの。

■学事奨励会：学童の勉強を励ます会。

■農事奨励会：集落の中で農業を奨励する会。

■イシジェークー：石工。

■キージェークー：大工。

■石工道具として、フィチ（石を動かす長い鉄の棒）、ユーチ（小型のおの。荒削り用と仕上げ用の2種類ある）、ヌミ（のみ）、イヤ（石を削るくさび）、チーシ（重い木や石に、木や竹の柄を立てたもの）、大ハンマー（直径約5寸、重さ約20kg、柄にはゲッキツを使用）、シーフィー（水平器）などがあり、クングワチクニチとトゥシヌユルーに、道具にも感謝した。仕事を休み、豚を漬して大きなお祝いした。大工の安全祈願である。

■スパヤー：そば屋。

■そばは、当時支那そばと言った。ガジマルを焼いて、その灰の上澄み水を使って作られる手打ちそばであった。三枚肉、かまぼこ、ネギなどがそばの上ののっていた。小さいじゃこでだしを取る。だしを取った後のものを、子どもたちは「カシグワーください」と言って、店のおばあさんから貰って食べていた。何の味もしなかったが、芋よりも美味しかったと言う。

■医介輔：医師不足を補うための制度。制限付きの医療従事者。

■屋敷の中のクムイ：雨が降ったら溜まるように、屋敷の水が流れるところを作った。そこで野菜や芋を洗ったり、農具や手足などを洗った。1か年に1回、クムイの中の泥を出して掃除する。

ムンチャリナーにマーイサーがあった。125斤(75kg)、100斤(60kg)、82斤(49.2kg)、50斤(30kg)の4個があった。100斤のマーイサーは屋号ヒーター(兵隊主)が作ったものだった。話者によると、尖^{とが}っていて持ちにくかったと言う。

【集落で行なう主な年中行事】

●旧暦2月2～4日<クシユクワーシー>：昔はサーターヤグミで3組に分かれて行なっていたが、その後、青年と年寄りの2組に分かれて行なうようになった。豚^{ブタ}を1頭潰^{つぶ}し、その2組で分けていた。青年たちの場合は、大根^{ダイコン}の和え物を作る者や肉を煮る者など役割分担をしていた。2日間は男性のみで行なっていたが、3日目には男性がジュシーメーなどのごちそうを作り、女性を招待した。この日にサンミンワカシーもあった。

●旧暦7月13～16日<盆>：13日がウンケーで、15日がウークイである。ユアキウクイということで、夜通しエイサーをした。エイサーの打ち合わせや練習を7日から始め、クシグミのサーターヤグミで練習していた。今年、ハンジャヌウィーヤードウイ(平安山又上屋取)から、シチャシードウヤードウイ(下勢頭屋取)にエイサーをしに行ったら、次の年はシチャシードウヤードウイ(下勢頭屋取)がハンジャヌウィーヤードウイ(平安山又上屋取)にエイサーをしに来る。これをイーシンケーシンと言った。他集落からのエイサーが来ると、舞って迎えた。そして、ゴボウ、豆腐^{とうふ}、ウケーメーなどのごちそうを作ってふるまった。ハンジャヌウィーヤードウイ(平安山又上屋取)のエイサーが他集落に行っても同じように迎えられた。カジマヤーになっているので、ウィーシードウヤードウイ(上勢頭屋取)、シチャシードウヤードウイ(下勢頭屋取)、クエヌメーヤードウイ(桑江又前屋取)、千原屋取、野国などのエイサーが通^{とお}って行った。戦後は1回だけエイサーが行なわれた。

●旧暦8月11日<ヤードウイジュリー(ヤードウイジンミ)>：集落内の1か年の規約を協議した。トウイバットや、他集落へ嫁ぐ場合の結納金^{ゆいのうきん}の額は酒一升なのか、お金なのかなど、さまざまな取り決めがあった。ヤードウイヌヌチジンも集めた。

ハンジャヌウィーヤードウイ(平安山又上屋取)は十・十空襲の被害はなかったが、米軍上陸時には屋号ナカドゥマイグワー(仲泊小)：36あたりの2～3軒の家が焼かれた。その後、集落域は米軍に接收^{せつしゅう}され、兵舎^{へいしや}を作るために、ほとんどの家が壊^{こわ}された。現在も嘉手納基地^{かてな}地内で、ゲート1から入ってすぐのあたりとなっている。人々は他集落での暮らしを余儀なくされているが、戦前から団結^{だんけつ}の強い集落で、現在も郷友会^{きょうゆうかい}を中心に、親睦^{しんぼく}を深めている。

■マーイサー：集落の広場などに置いてある大小の堅い、丸い石。青年たちが力試しをする。

■ニンクワチャー：旧暦2月に行なわれる行事。集落や組単位で酒宴を開き、余興をして楽しむ。

■サーターヤグミ：製糖の作業をする組。

■ジュシーメー：炊き込みご飯。

■サンミンワカシー：決算報告。

■ウンケー：各家で祖霊を迎える盆入りの行事。迎え盆。

■ウークイ：各家で祖霊を送る行事。送り盆。

■ユアキウクイ：夜通しかけて祖霊を送る。

■エイサー：旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。

■ウケーメー：おかゆ。

■カジマヤー：十字路。道が交差するところ。

■千原屋取：現在の嘉手納町域にあった。エイサーが有名な集落だった。

■野国：現在の嘉手納町域にあった。県営鉄道嘉手納線の野国駅があった。

■ヤードウイジュリー：集落の協議。

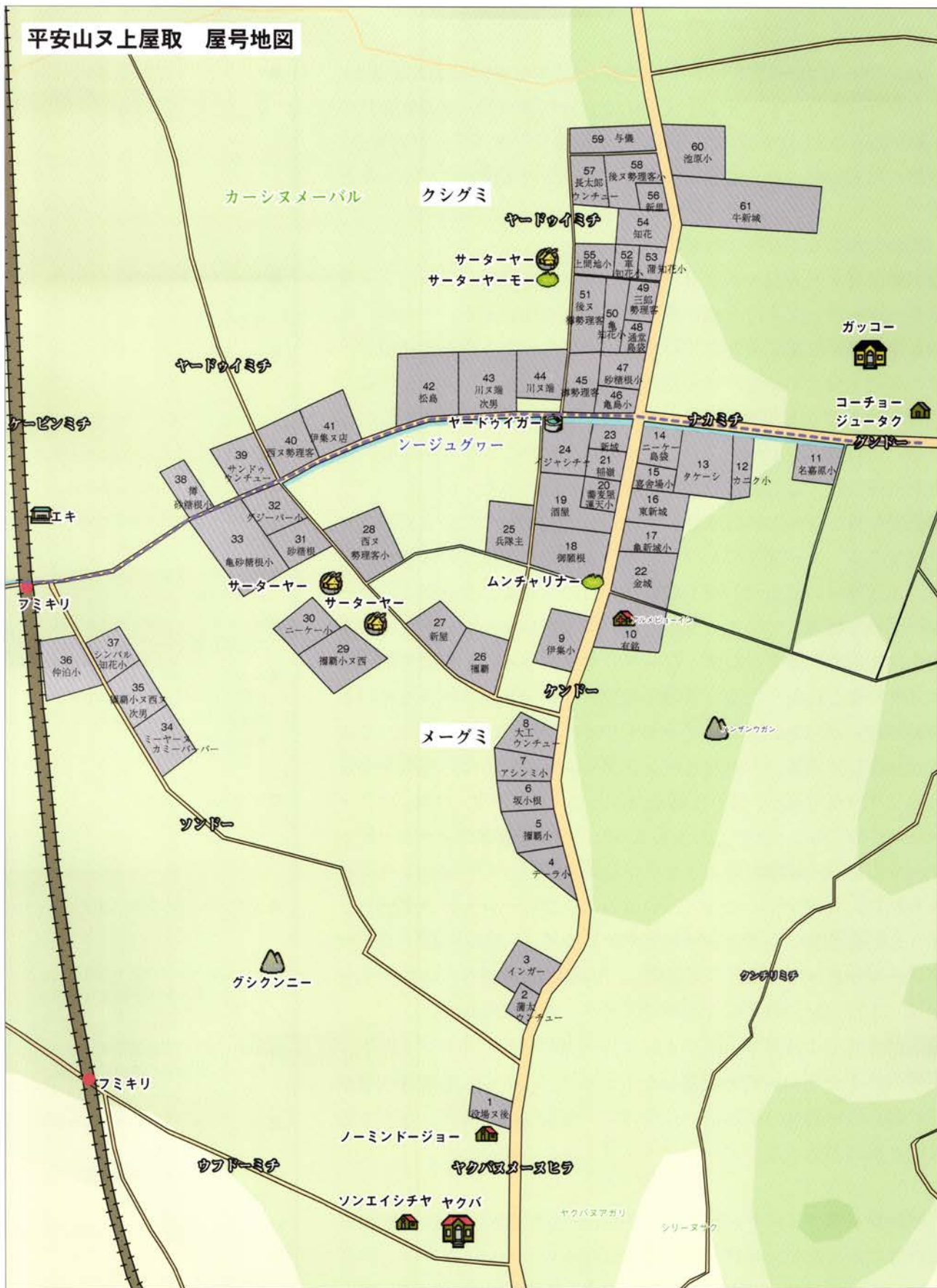
■トウイバット：鶏の放し飼いを禁止した決まり。

■ヤードウイヌヌチジン：募金。

■十・十空襲：昭和19(1945)年10月10日、南西諸島に対して行なわれた米軍最初の大空襲のこと。

■嘉手納基地：沖縄本島中部にある極東最大の米空軍基地。

平安山ヌ上屋取 屋号地図



	平安山ヌ上屋取の家の配置 (数字は屋号番号)		河川 (小さい文字は他の集落の呼び名)
	鉄道		道路 (小さい文字は他の集落の呼び名)
			緑の文字 地域の名称 (小さい文字は他の集落の呼び名)

ハンジャヌウィーヤードゥイ（平安山ヌ上屋取）

組

メーグミ

集落の組分けの1つ。ナカミチを境にして南北2組に分かれていた。道から南側の37軒がメーグミである。

クシグミ

集落の組分けの1つ。ナカミチを境にして南北2組に分かれていた。道から北側の24軒がクシグミである。

河川

クシントー

集落の北方向にあり、東西に流れていた川。クシントーヌカーラグワーとも言う。流れはシナビ（砂辺）のノーリグワーへと続いていた。ただし、雨が降らないと水は流れず、通常は溜まり水だった。

クシントーをチュンナーグワーヤードゥイ（喜友名小屋取）の人たちは、メーヌトーと言う。

→喜友名小屋取のメーヌトーを見よ。

ンージュグワー

ガッコーのデイゴの木の下から、屋号アラグシク（新城）：23の角に向かってあった溝。雨降りのときにだけ、ガッコー周辺の水が流れ込んでいた。流れの大きなところは幅1mぐらいあり、その流れは海へと続いていた。

小ハル名

ウィーバーケー

ウフドーミチとケーピンミチの間である。上質な畑地で、土質はアカマチクーと言うサラサラした黒味があった赤土だった。

アシジョー

クシントーとクンディヌシーの間一帯を言う。クンディヌシーの北側を通る農道よりも北側を言う。

アカミチー

ナカミチの南側で、ケンドーの東側一帯である。地籍はハンザン（平安山）に入るが、ハンジャヌウィーヤードゥイ（平安山ヌ上屋取）の一部である。畑が大多数を占めるが、アルメビョーインやハ



《聞き取り調査風景》

ンザンウガンなどもある。

→平安山のアルメビョーイン、ハンザンウガンを見よ。

カーシヌメーバル

カーシヌポントウの南側の平坦な土地で、土質がよく、畑が多かった。サトウキビがよくできた。

現在は嘉手納基地内のゴルフ場になっている。

県道

ケンドー

県道。集落内を南北に走っていた。道幅は6～7m余りあったので、カヤ（茅）7～8尺（約2.5m）を載せた馬車がすれ違うことができた。しかし、集落からチュンナーグワーヤードウイ（喜友名小屋取）へ行くところは狭くなっていた。

ケンドー沿いには蔡温松の並木があり、屋号ヤクバヌクシ（役場ヌ後）：1から屋号ウシーアラグシク（牛新城）：61じおを通って続いていた。北側に行くにしたがって、右手、東側に多く植えられていた。チュンナーグワーヤードウイ（喜友名小屋取）に入ると、松マツの数は多くなった。

ガッコー前のケンドーはナンマチの影ができ、道に陽があたるということはなかった。2つの屋敷を覆うほどの枝の広がりがあった。ガジマルもあった。木々が道にかかっても切ることはなかった。

ハンジャヌウィーヤードウイ（平安山ヌ上屋取）内のケンドー沿いの松マツで、一番大きくて見事だったのは、屋号ウシーアラグシク（牛新城）：61の門の右側にあった松で、大きな根が裂けるほどには張っていた。

ヤクバの下からハマガー（浜川）集落の入口までは坂道だったので、道の両側が土手どてになっており、松マツは植えられていなかった。ハマガー（浜川）集落内には松が植えられていたが、それより南のキュー（桑江）からチャタン（北谷）あたりのケンドー沿いには植えられていなかった。松は道沿いのアブシや屋敷などに植えられていた。

ガッコーの前には大きな側溝そっこうがあった。

郡道

アカミチー

ガッコーからクンディヌシーの方角へ延びる道。ウシモーに向かう、ガッコー前の道。シチャシードウヤードウイ（下勢頭屋取）のアカミチカジマヤーの屋号アカミチチュンナー（赤道喜友名）あた

■嘉手納基地：沖縄本島中部にある極東最大の米空軍基地。

■蔡温松：三司官として農業・林業に大きな業績を残した蔡温の指導によって植えられた松。

■ナンマチ：松並木。

■アブシ：あぜ。田のあぜ。土手。

りまでを言う。

→下勢頭屋取のウシモーを見よ。

グンドー

郡道。大正11(1922)年に郡道から県道に編入されたが、集落内では、その後もグンドーと言っていた。

中頭郡^{なかがみぐん}には11の集落があり、その集落が組合組織を作って、道路^{ほしゅう}の補修を行っていた。大正3(1914)年生の話者が17~18歳の頃にグンドーの補修工事を行なったと言う。補修工事はコーラル^しを敷き、石のドゥルジ(ローラー)で表面^{なら}を均していた。ドゥルジは長さ1.8m以上で、重さは2トンぐらいあった。5名がかりで動かしていた。ドゥルジはガッコーの門の右側にあった溝^{みぞ}に置いてあった。グンドーの補修工事のために、グシクンニーのイシアナーなどからイシグー^{かつ}を担いで運んでいた。女性は15日満勤で4円50銭であった。昭和7(1932)年の補修工事が最後だった。

■コーラル：サンゴの死骸が小石や砂利になったもの。

■イシアナー：採石場。

■イシグー：さんご礁などをくだった細かい砂利。

ナカミチ

集落の真ん中を通る生活道路。グンドーの一部である。クシグミとメーグミ^{きょうかい}の境界となる道。

集落内ではナカミチと言うが、他の集落の人たちは、ハンジャヌウィーミチと言っていた。

村道

ソンドー

村道。屋号カマダーウンチュー(蒲太ウンチュー)：2の南側から始まり、エキの方へと続く道。イシグー道だった。道幅は4mぐらいあったので、馬車^{とほ}が通ることができた。しかし、馬車同士のすれ違^{ちが}いはできなかった。昭和5~6(1930~31)年に農道を広げて作られた。

■イシグー：さんご礁などをくだった細かい砂利。

ウフドーミチ

ヤクバからシナビヌメーヤールイ(砂辺ヌ前屋取^{とほ})を通り、シナビ(砂辺)へ向かう道。シナビ(砂辺)の人たちがよく利用しており、ハンジャヌウィーヤードウイ(平安山ヌ上屋取)の人たちはあまり利用しなかった。

馬車道

ヤードウイミチ

集落内を北向きに走る生活道路。2か所あるうちの1つ。屋号

シェークーウンチュー (大工ウンチュー) : 8 から小高い岩山であるヤマグワンニーのところまでの道を言う。道幅は6~8尺(1.8~2.4 m) ぐらいあった。馬車が通れる道だった。

ヤードウイミチ

集落内を北向きに走る生活道路。2か所あるうちの1つ。屋号ニーファ (禰覇) : 26 から屋号ユージ (与儀) : 59 までの道を言う。道幅は6~8尺(1.8~2.4 m) ぐらいあった。馬車が通れる道だった。

生活道

アシジョー

クンディヌシーの北側を通る農道。馬車が通れないほどの小さい道だった。シチャシードウヤードウイ (下勢頭屋取) からシナビ (砂辺) へと続く道。シナビ (砂辺) の人たちが山へ薪取りに行くのによく利用していた。

坂道

ヤクバヌメーヌヒラ

ハマガー (浜川) の屋号ハマガーグワー (浜川小) からハンジャンヌウィーヤードウイ (平安山ヌ上屋取) の屋号ヒラグワンニー (坂小根) : 6 までの600 m 余りの坂道。ケンドーの一部で、ヤクバの前の坂道をヤクバヌメーヌヒラと言う。急な坂で、真っ直ぐではなく、曲がりくねった道だった。

他の集落の人たちはハンジャンヌウィーピラと言っていた。

鉄道

ケービンミチ

軽便道。県営鉄道嘉手納線。大正11(1922)年3月28日開通。大正10(1921)年頃、軌道敷設工事が行なわれていた期間には、子どもたちが敷設途中の線路を走る作業用の運搬車両を「トゥダヌヌ アッチェル (戸棚が歩く)」などとはやし立てながら追っていくこともあった。

急な上り勾配になっているところがあり、そこを通るときには人の乗り降りができるぐらいゆっくりとした速度で走っていた。

一時期、ガソリンカーも走っていた。



《聞き取り調査風景》

■沖縄県営鉄道 嘉手納線：嘉手納・野国・平安山・桑江・北谷・大山・真志喜・大謝名・牧港・城間・内間・安里・与儀・古波蔵・那覇の15駅があった。

岩山



クンディヌシー

ハンジャヌウィーヤードウイ（平安山ヌ上屋取）とシチャシードウヤードウイ（下勢頭屋取）とのおよその境になる岩。周囲の土質はアカマチクーで、上質な畑であった。

ハンジャヌウィーヤードウイ（平安山ヌ上屋取）の人たちの墓が多くあった。

現在は嘉手納基地内である。シーは残っているが、木々が生い茂り、岩肌は見えなくなっている。

ヤマグワンニー

集落の北西方向、カーシヌポントウーの南側にある小高い岩山。ハンジャヌウィーヤードウイ（平安山ヌ上屋取）の人たちの墓があった。大きな墓が2基あり、そのうちの1基であるカーミナクーバカは屋号サカヤ（酒屋）、もう1基のヒラフチバカは屋号タルージツチャク（樽勢理客）の墓だった。他にも、屋号カマダーウンチュー（蒲太ウンチュー）、屋号アラグシク（新城）、屋号カミーアラグシクグワー（亀新城小）の小さな墓が3基あった。

大きな墓は36坪ぐらいの広さがあり、墓の内部はニチンクサーク（奥行2間×幅9尺／3.6m×2.7m）で、棚は5段、あるいは7段あった。大きなカーミナクーバカのボージは、1寸5分のゆるやかな勾配であった。話者によると、その屋根の上でモーアシビをしたと言う。50～60名ぐらい上がれるほどだった。周囲を含めると100坪ぐらいの広さがあった。大正3（1914）年生の話者が生まれる以前からあった墓である。あまりにも立派な墓だったので、役人に見つからないようにと、カヤ（茅）で墓を覆って隠したという話があった。

旧暦8月15日の十五夜にはここにタマガイを見に行った。

現在は嘉手納基地内である。北に向かい、国道58号線の東側沿いにある。戦前は岩山だったが、現在は木々で鬱蒼としている。

グシクンニー

集落の南西方向にあった岩山。シーの頂上に上る道が東側にあった。頂上は平坦で広く、フナウクイをする場所であった。船が那覇を出て、残波岬に隠れるまで見えた。本土に出稼ぎに行く人などを太鼓をたたきながら、ダンジュカリユシで見送っていた。

サングワチャーには、子どもたち1人1人に重箱があった。その重箱を持って、グシクンニーの頂上の平坦なところへ行き、そこでご馳走を食べた。「ウジュー ヒラシーガ ンジャン（お重を開きに

■アカマチクー：黒味がかった赤土でサラサラしている。

■嘉手納基地：沖縄本島中部にある極東最大の米空軍基地。

■シー：岩山。

■カーミナクーバカ：屋根が亀のような形をした墓。

■ヒラフチバカ：屋根が平板な墓。

■ボージ：屋根。

■モーアシビ：農村で夜、若い男女が野原に出て遊ぶこと。三味線・歌・踊りなどをして楽しむ。

■タマガイ：凶兆。火の玉が家の上に高く上がったりすること。

■嘉手納基地：沖縄本島中部にある極東最大の米空軍基地。

■シー：岩山。

■フナウクイ：見はらしのいい場所から、旅に出る人の安全を願い、船を見送ること。

■ダンジュカリユシ：船出の祝い歌。身内のものが旅をするとき、一族が集落の広場あるいは高台に集まって航海の無事を祈願し、これを歌った。

■サングワチャー：旧暦3月3日にごちそうを持って浜辺へ行き、身を清め、楽しく遊ぶ行事。子どもの健康祈願として、重箱のごちそうを食べさせる例もある。

行った)」と言う。

グシクンニーの周辺はイシャーラグワーだった。土質はアカマチクーで、少し黒ずんだ土であった。芋やサトウキビを作っていた。

後に、監視哨^{かんししやう}が作られてからは、カンシショーと呼ぶようになった。昭和20(1945)年3月頃には、米軍攻撃が激しくなり、監視哨としての業務はトゥクガージーの自然壕^{ごう}の方に移っていた。

→下勢頭屋取のトゥクガージーを見よ。

土手



タカアブサー

集落の東側、アカミチーの途中にあった土手^{どて}。高いところは2mぐらいあり、幅は30mぐらいあった。薪取り^{たきぎ}の帰りなどに、土手を利用して小休止する場所だった。

家もなく、寂しい^{さび}所であったため、シチャシードゥヤードゥイ(下勢頭屋取)の青年達は、ここを夜に通るときには歌いながら通っていた。

池沼



クシントーヌクムイ

集落の北側、クシントーとケンドーが交差するところにあったクムイ。クシントーは雨が降らないと流れができなかったが、このクムイにはいつも水が溜^たまっており、家畜(馬・牛)に水浴びをさせていた。クムイに下りるところは石畳^{かちく}になっていた。しかし、日照りが長く続き、このクムイの水が涸^かれたときにはシナビ(砂辺)のノーリグワーに行き、馬に水浴びをさせていた。

→砂辺・砂辺ヌ前屋取のノーリグワーを見よ。

掘井戸



ヤードゥイガー

共同井戸。屋号カーヌハタ(川ヌ端):44の南側にあった。明治43(1910)年に集落で最初に掘った井戸である。話者によると、明治42(1909)年に生まれた古老が、掘ったばかりのヤードゥイガーの水をウブミジとした話を聞いたと言う。この井戸を掘る前までは、ハマガー(浜川)まで水汲みに行っていた。

最初の頃はタグイガーであったが、その後チンガーに変わった。深さは14尋(21m)ぐらいだった。大きな水脈が地下にあり、水量が豊富だった。井戸の縁石^{えんせき}には綱跡^{あじ}が残っていた。

下の方はガマになっていた。

■イシャーラグワー:土に石ころが混ざった土地。石原。イサーラとも言う。

■アカマチクー:黒味がかかった赤土。サラサラしている。

■監視哨:敵の動きを監視するところ。

■クムイ:池。沼。



◀聞き取り調査風景▶

■ウブミジ:産湯に使う水。

■タグイガー:つるべをたぐって水を汲む井戸。

■チンガー:つるべ井戸。

■ガマ:洞窟。ほら穴。

橋

クシントーヌハシ

クシントーとケンドーが交差するところに架かる橋。長さ10m、幅6mぐらいで、アーチ型のきれいな橋であった。欄干があり、そこに腰掛けて休んだり、三味線を弾いて遊んだりしていた。

現在は嘉手納基地内で、橋は壊されて暗渠になっている。

■嘉手納基地：沖縄本島中部にある極東最大の米空軍基地。

停車場

エキ

県営鉄道嘉手納線の平安山駅。エキグラーとも言う。細長いホームで、日よけの小屋があった。エキの周辺は、店などもなく、乗客が乗り降りするだけの駅であった。普段は中学生が通学のために利用しているだけで、祭りがあるとき以外は客も少なかった。

■沖縄県営鉄道 嘉手納線：嘉手納・野国・平安山・桑江・北谷・大山・真志喜・大謝名・牧港・城間・内間・安里・与儀・古波蔵・那覇の15駅があった。

建築物

フミキリ

踏切。2か所あったうちの1つ。ナカミチとケービンミチが交差するところにあった。ナカミチに沿って水の流れがあり、排水のため、アンチャーが作られていた。その上に踏切があった。流れの大きいところは、幅1mぐらいあり、流れは海へ続いていた。踏切の表示はなく、遮断機もなかった。

■アンチャー：暗渠。

フミキリ

踏切。2か所あったうちの1つ。ウフドーミチとケービンミチが交差するところにあった。踏切の表示はなく、遮断機もなかった。

役場

ヤクバ

ソイヤクバとも言う。集落の南端にあり、ウフドーミチに面していた。ヤクバの敷地内、西側のほうに井戸があり、さらにその西側にはソエイシチヤがあった。



〈聞き取り調査風景〉

公共施設

ソエイシチヤ

村営質屋。大正12(1923)年9月に開設。伊礼肇村長の時代に北谷村が作った質屋である。ヤクバの西側に位置し、ウフドーミチに面していた。建物は平屋の瓦ぶきで、壁は高く、白塗りの漆喰で窓は小さかった。開所3年目の大正15(1926)年に倉庫一棟を増築した。話者によると、両方の建物とも9坪ぐらいで、三間マシン

(三間幅の真四角) だったのではないかと言う。質草^{しちくさ}として、夏は冬物を入れ、冬は夏物を入れていた。元金^{がんきん}を払えない人は利子だけ払い、質草を入れ替えていた。昼間は行かず、朝早くか、夜出入りしていた。大繁盛^{だいはんじょう}していた。村民にとって、一番身近な金融機関^{きんゆうきかん}であった。当時、郵便局長の給料が12円程度で、10円ある家は金持ちだった。

昭和12(1937)年、小作農家支援政策^{こさくのうかしえんせいさく}として、政府の施策を受け、質草以外の貸し金業務を質屋に行なわせた。農民が土地を購入する場合、購入代の80%を借りることができた。業務担当は当初、崎原盛栄氏が行ない、山川長栄氏に引き継がれた。

質屋は、昭和10(1935)年までに県下で2市10町村に設立されていた。

ノーマインドージョー

農民道場。北谷農事訓練所^{ちやたんのおうじくうれんじょ}の通称である。北谷村^{ちやたんそん}が計画し、昭和14(1939)年に作られた。ヤクバ敷地の北側にあった農業指導機関である。運営は農会が行なっていた。敷地は200坪ぐらいで、一部を研修農地にしていた。シナビ(砂辺)の方にも研修用地があった。建物は平屋の瓦ぶきで学校の3教室ぐらいの広さがあった。農業指導^{ぎしゆ}の技手^{ぎしゆ}がいて、村民に砂糖の製造方法^{いも}、芋の植え方、ユリ(百合)の栽培方法などの指導をしていた。当初、主任は農業技手の長嶺由松氏で、他には吉田実男氏が県駐在の農業技手であった。

研修生は村内の農業青年から、各集落の農会支部長の推薦で決められていた。研修は年2回程あり、1回に10~15名を定員としていた。研修中は1週間寝食をともにし、費用は全額北谷村負担であった。

芋^{いも}の植え方^{うね}には畝立て植えと平植えの2つの方法があった。嘉手納農林学校^{かてな}での品評会に、畝立植えの芋を出品して入選したことがある。サトウキビは25号(1225号)を奨励していた。

昭和19(1944)年の戦争前まで農業指導を行ない、多くの研修生^{はいしゆつ}を輩出していたが、十・十空襲後は、那覇^{なは}や首里^{しゅり}から国頭^{くにがみ}へ避難する人たちの宿泊所にあてられるようになった。

学校



ガッコー

北谷尋常高等小学校。昭和16(1941)年に北谷国民学校となった。ハンジャヌウィーヤードウイ(平安山ヌ上屋取)の人たちはガッコーと言い、近隣の人たちはハンジャヌウィーガッコーと言っていた。



◀聞き取り調査風景▶

■嘉手納農林学校：沖縄県立農林学校。国頭農林学校がその前身。大正3(1916)年に嘉手納に移設された。

■十・十空襲：昭和19(1944)年10月10日、南西諸島に対して行なわれた米軍最初の大空襲のこと。

■北谷尋常高等小学校：明治35(1902)年に北谷尋常小学校と野国尋常小学校の二校が合併し、平安山ヌ上屋取に開校した。昭和16(1941)年の「国民学校令」により、学校名が国民学校へと変わった。

瑞慶覽朝蒲氏が大正15(1926)年から昭和7(1932)年まで校長を勤め、戦争前は稲嶺盛昌氏が勤めていた。

コの字型で4校舎あった。北側の新しい校舎東側の壁には棚がお宮のように作っており、御真影が掲げられていた。新校舎は教室の壁を外して講堂として使うことができた。そのときには御真影の方を向いて整列した。話者によると、講堂にいる間は顔を上げることができず、顔を上げると厳しく叱られたと言う。

校区に入っていた集落は、イリー(伊礼)、ハンザン(平安山)、ハマガー(浜川)、シナビヌメーヤールイ(砂辺ヌ前屋取)、シナビ(砂辺)、ウィーシードゥヤードゥイ(上勢頭屋取)、シチャシードゥヤードゥイ(下勢頭屋取)、チュンナーグワヤードゥイ(喜友名小屋取)、野里、千原屋取、そしてハンジャヌウィーヤードゥイ(平安山ヌ上屋取)だった。

ガッコウの南角の鉄棒の近くに、マーイサーがあった。

ナカミチとケンドーの交差する角にデイゴの木があった。

戦時中、ガッコウの校舎は日本軍が使い、生徒は飛行場作りに駆り出された。ハマガー(浜川)の聞き取り情報によると、昭和18~19(1943~44)年の夏頃、ハマガー(浜川)のサーターヤーモーに茅ぶきの教室を作り、1~3年生の低学年児童はそこで勉強したと言う。ウィーシードゥヤードゥイ(上勢頭屋取)、シチャシードゥヤードゥイ(下勢頭屋取)の低学年児童は、それぞれ集落のジムスで授業を受けていたと言う。十・十空襲後は、ほとんど授業は行なわれなかった。

→上勢頭屋取・下勢頭屋取のジムスを見よ。

建物



コーチャージュータク

校長住宅。ガッコウ敷地の東側に隣接していた。昭和9(1934)年にガッコウが増築されたときに一緒に作られた。

製糖小屋



サーターヤー

共同製糖小屋。屋号カーヌハタ(川ヌ端):44の北側にあった。最初はハンジャヌウィーヤードゥイ(平安山ヌ上屋取)全体で使用していたが、のちにクシグミが所有するようになった。

屋号タルージツチャク(樽勢理客)、屋号カーヌハタ(川ヌ端)、屋号カマーチバナグワー(蒲知花小)、屋号クルマーチバナグワー(車知花小)、屋号クシヌジツチャク(後ヌ勢理客)、屋号ユージ(与儀)、屋号ウシーアラグシク(牛新城)、屋号クシヌタルージツ

■御真影：学校などに配布された天皇皇后の写真。天皇皇后の分身として、丁寧に扱われていた。

■野里：現在の嘉手納町域にあった集落。野里馬場があった。

■千原屋取：現在の嘉手納町域にあった。エイサーが有名な集落だった。

■マーイサー：集落の広場などに置いてある大小の堅い、丸い石。青年たちが力試しをする。

■十・十空襲：昭和19(1945)年10月10日、南西諸島に対して行なわれた米軍最初の大空襲のこと。



◀聞き取り調査風景▶

チャク（後又樽勢理客）などで共同使用していた。

砂糖を作るときに燃やす薪は、桃原あたりの松を購入して馬で運んできた。適当な長さに切って薪とした。

製糖時期の日雇の賃金は、女性の場合は一日30銭であった。

砂糖は60丁で600円ぐらい稼げた。普通は20～30丁作っていた。

サーターヤー

屋号サーターニー（砂糖根）：31の敷地の南側にあった。

屋号サーターニー（砂糖根）、屋号サーターニーグワー（砂糖根小）、屋号タルーサーターニーグワー（樽砂糖根小）、屋号カミーサーターニーグワー（亀砂糖根小）、屋号ニーファ（禰覇）、屋号ニーファグワーヌイリ（禰覇小ヌ西）などで共同使用していた。

サーターヤー

ミーヤーヌサーターヤーとも言う。屋号ミーヤー（新屋）：27の南西側にあった。

屋号ミーヤー（新屋）、屋号ヒラグワーニー（坂小根）、屋号イリヌジツチャクグワー（西ヌ勢理客小）、屋号ウガンニー（御願根）などで共同使用していた。

広場



ウシモーグワー

クンディヌシーからアカミチーをはさんだ南側にあった広場。

昭和7～8（1932～33）年頃まで、ウシオーラセーをしていた。そんなに広くなかった。

サーターヤーモー

クシグミヌサーターヤーモーとも言う。青年たちが集まって、エイサーの練習をしていた。

15日のウークイがすむと同時にみんな集まって来て、エイサーに繰り出した。深夜までエイサーのにぎわいが続き、演者も観衆も忙しい一日だった。

エイサーは隣集落同士のイーサーであった。今年、シチャシードウヤードウイ（下勢頭屋取）やウィーシードウヤードウイ（上勢頭屋取）のエイサーがハンジャンヌウィーヤードウイ（平安山上原屋取）に来ると、来年はハンジャンヌウィーヤードウイ（平安山ヌ上屋取）からお返しをするイーシンケーシンという形をとった。ウィーシードウヤードウイ（上勢頭屋取）、シチャシードウヤードウイ（下勢

■ウシオーラセー：闘牛。牛と牛を闘わせる農村部の伝統的な娯楽競技。ウシオーラシーとも言う。

■エイサー：旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。

■ウークイ：各家で祖霊を送る行事。送り盆。

頭屋取)、シナビ(砂辺)、クエヌメーヤードウイ(桑江ヌ前屋取)、
シンバルヤードウイ ヌグン
 千原屋取、野国などのエイサーが来ていた。ハンジャヌウィーヤードウイ(平安山ヌ上屋取)はカジマヤーに位置していたので、集落をほとんどのエイサーが通^{とお}って行った。他の集落のエイサーが入ってくる時には、集落の入口で舞^まって迎え入れた。女性たちはウサンデーのゴボウ、こんぶ とうふ 昆布、豆腐などを休憩所になっている家に持って行き、エイサーシンカをもてなした。ウケーメーも炊いた。エイサーシンカはナカユクイでごちそうを食べて元気をつけ、集落内を回ってから帰って行った。ハンジャヌウィーヤードウイ(平安山ヌ上屋取)のエイサーが別の集落に行っても同じようなもてなしを受けた。

ムンチャリナー

屋号ウガンニー(御願根):18の敷地の南側にあった広場。ケンドーから屋号ウガンニー(御願根)の南側にある小道に入るところは幅が広がっており、小さな広場になっていた。この隣近所の家々が、穀物を干すムンチャリナーとして利用していた。

マーイサーが置かれていた。

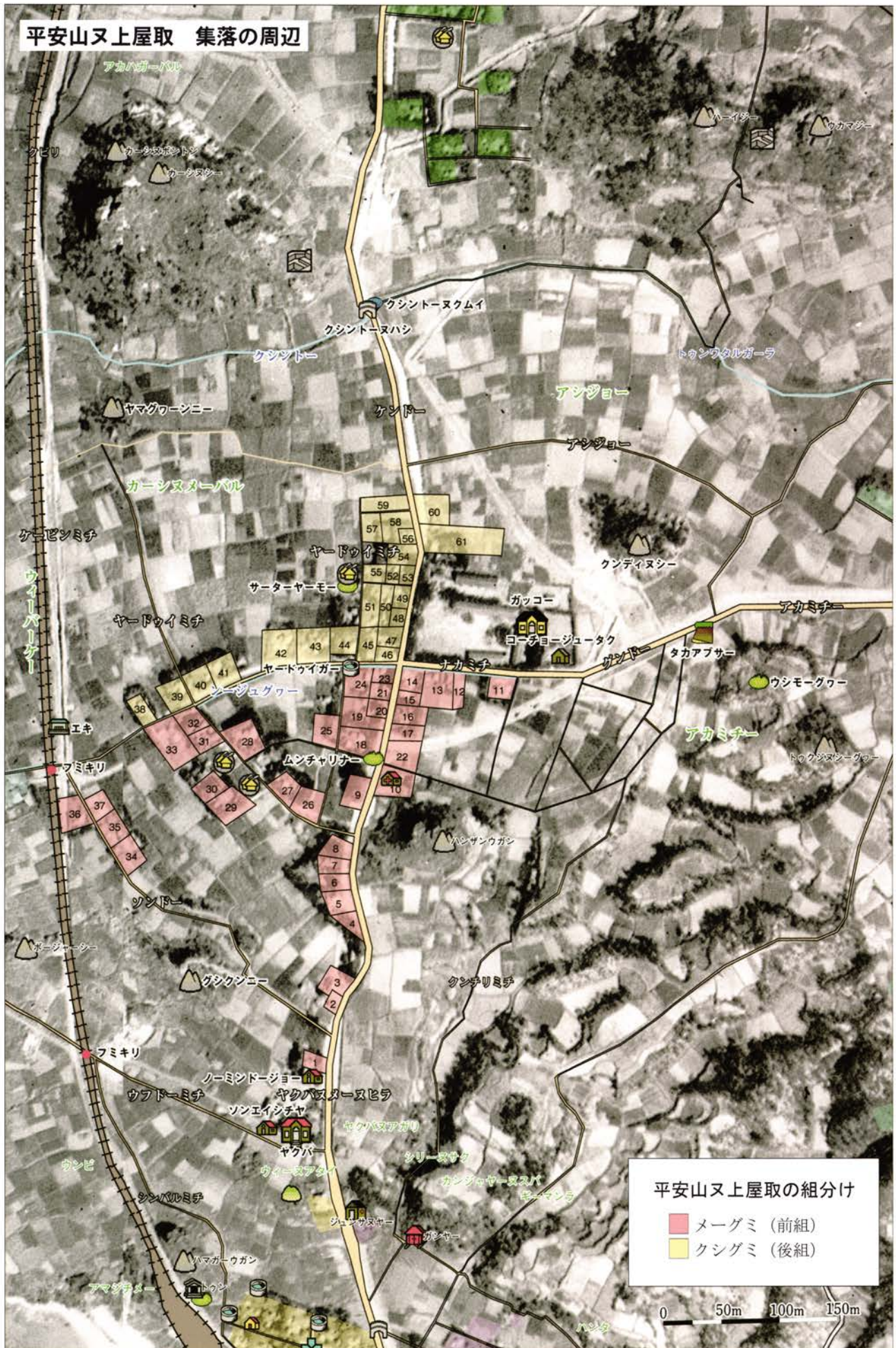
- 千原屋取：現在の嘉手納町域にあった。エイサーが有名な集落だった。
- 野国：現在の嘉手納町域にあった。県営鉄道嘉手納線の野国駅があった。
- エイサー：旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。
- カジマヤー：十字路。道が交差するところ。
- ウサンデー：おさがり。供物をさげたもの。
- エイサーシンカ：エイサー仲間。
- ウケーメー：おかゆ。
- ナカユクイ：中休み。

- マーイサー：集落の広場などに置いてある大小の堅い、丸い石。青年たちが力試しをする。



◀聞き取り調査風景▶

平安山又上屋取 集落の周辺



平安山又上屋取の組分け

- メーグミ (前組)
- クシグミ (後組)

0 50m 100m 150m

喜友名小屋取

・ チュンナーグワーヤードウイ

チュンナーグワーヤードウイ（喜友名小屋取）

北谷町域北側一帯に広がっていた屋取集落。戸数は48軒で、そのうちカーラヤーは屋号ウシーアシンミ（牛安次嶺）と屋号サンルーアシンミ（三良安次嶺）の2軒だけであった。

集落はメーグミとクシグミの2つに組分けされる。クシグミは、さらにアガリグミとイリグミに分けられた。話者によると、この組分けの由来は、あるトゥシヌルーに3軒の葬式があったことから始まったと言う。一度に3軒の手伝いをするのは大変であるために、メーグミ、アガリグミ、イリグミの3つに組分けするようになったと言う。

チュンナーグワーヤードウイ（喜友名小屋取）はハンジャヌウィーヤードウイ（平安山ヌ上屋取）とともに、字浜川に属していた。学事奨励会も一緒に行っていた。

主業は農業で、芋やサトウキビを作っていた。また、柑橘類の一種であるオートーやカーブチャーなどが、各家に10本ぐらいあり、その実を買いに来る人がいた。サトウキビと同じく、換金作物の1つとなっていた。また、それらの木々は屋敷囲いの意味もあった。

集落内の馬はメーグミ-9頭、アガリグミ-2頭、イリグミ-4頭の計15頭であった。畑が少なかったため、耕すために使う牛馬を飼う必要がなく、堆肥も必要なかった。そのため、家畜の数はそれほど多くなかった。食肉用としては、牛がメーグミ-9頭、イリグミ-5頭の計14頭であった。豚は各家で飼われていた。屋号ウシーアシンミ（牛安次嶺）は闘牛用のクティ牛を飼っていた。集落内では1軒だけで、久米島まで買い付けに行ったと言う。

自転車を所有している家は、屋号メーイトウムラ（前糸村）、屋号カナーイトウムラ（加那糸村）、屋号アガリイトウムラグワー（東糸村小）の3軒だった。

屋号ウシーアシンミ（牛安次嶺）と屋号サンルーアシンミ（三良安次嶺）の2軒には畳があった。

サーターヤーが6か所あった。サーターグルマを回すために馬を使っており、その馬を追うのは子どもの仕事であった。サーターヤーの借り賃は、薪を燃やした後の灰であった。この灰は堆肥に良いため、ちゃんと管理されていた。できあがった砂糖は、那覇の通堂まで馬車で運んでいた。馬車はメーグミ-7台、アガリグミ-1台、イリグミ-2台の計10台あった。1台に8~10丁ほど積むことができた。砂糖1丁（120斤）の値段は、特等・1等は12円以上で、あまり質の良くないものは5円であった。

集落内の4か所にユシミヌカドゥという拝所があったらしいが、その場所のはっきりわからない。現在は、成人病検診センター沿い

■カーラヤー：瓦ぶきの家。

■トゥシヌルー：大晦日の夜。

■学事奨励会：学童の勉強を励ます会。

■クティ牛：雄牛。

■サーターヤー：製糖小屋。

■サーターグルマ：サトウキビを圧搾する装置。



◀聞き取り調査風景▶

の道を北方向へ進み、県営砂辺団地（15号棟）の道向かいに合祀所を作り、「ゆしみぬ神」として「ゆがふの神」と「うぶ井戸」とともに祀られている。

チュンナーグワーヤードウイ（喜友名小屋取）所有のガンやガンヤーはなかった。そのため、シチャシードウヤードウイ（下勢頭屋取）のガンをお金を払って借りていた。ガンは4人で肩に担いで運び、道具入れを持つ人が1人付き添う。その5人は、葬式の終わった晩に、板を紐でくくりつけた竹を持って、マブヤーワカシを行なった。「ウネウネウネ。クマクマクマ。アネアネアネ。」と唱える。まな板・包丁・つき臼を置き、その回りを回ってから蹴飛ばし、喪家から500mほど走った。戻ってきてから、葬式のときに使った花輪などを門の前で燃やした。戦後、チュンナーグワーヤードウイ（喜友名小屋取）のガンを作ったが、火葬になったためにガンを使うことはなくなった。

マーイサーが、屋号カミーヒジャグワー（亀比嘉小）：29のカジマヤーのところに4個ぐらい置いてあった。大きいものは150斤（90kg）、小さいものは30斤（18kg）ぐらいの重さであった。

【集落で行なわれる主な年中行事】

- 旧暦2月2～3日<ニングワチャー>：大きい家を借り、40歳以下のニーセーター、40歳以上のタンメーというふうに2か所に分かれ、各家庭から豆腐、肉、ジュシーメーなどのごちそうを持ち寄って食べた。男性のみで行なわれていた。
- 旧暦7月<盆>：エイサーを行なう。

集落域は米軍に接收され、現在も嘉手納基地内である。そのため、人々は他集落へ分散して暮らしている。しかし、郷友会を中心としてニングワチャーなどの集まりは続けられており、親睦を深めている。



《合祀所》

- ガン：籠。葬式の時、死者の棺を入れて墓地まで運ぶためのもの。
- ガンヤー：籠を納めておく小屋。
- マブヤーワカシ：死者が迷わずに彼岸に行けるように祈願を捧げる行事。
- 北谷町では昭和28(1953)年に沖縄市の火葬場を使用するようになり、従来の風葬から火葬へと移行した。
- マーイサー：集落の広場などに置いてある大小の堅い丸い石。青年たちが力試しをする。
- カジマヤー：十字路。道が交差するところ。

- ニングワチャー：旧暦2月に行なわれる行事。集落や組単位で酒宴を開き、余興をして楽しむ。
- ニーセーター：若者の組。
- タンメー：年寄りの組。
- ジュシーメー：炊き込みご飯。
- エイサー：旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。
- 嘉手納基地：沖縄本島中部にある極東最大の米空軍基地。



《聞き取り調査風景》

チュンナーグワーヤードゥイ（喜友名小屋取）

組

メーグミ

前組。集落の組分けの1つ。集落はメーグミとクシグミの2つに組分けされる。メーグミは17軒だった。

クシグミ

後組。集落の組分けの1つ。集落はメーグミとクシグミの2つに組分けされる。クシグミは31軒だった。さらにクシグミは、アガリグミとイリグミに分けられた。

アガリグミ

東組。集落の組分けの1つ。クシグミの中で東側の13軒をアガリグミと言う。

イリグミ

西組。集落の組分けの1つ。クシグミの中で西側の18軒をイリグミと言う。

河川

メーヌトー

集落の南側を流れていた川。しかし、いつも水があるわけではなく、雨が降ったときだけ流れができた。

ハンジャンヌウィーヤードゥイ（平安山ヌ上屋取）の人たちはクシントーと言う。

現在は嘉手納基地内であるが、地形は残っている。

→平安山ヌ上屋取のクシントーを見よ。

クシヌトー

クマジックとも言う。集落の北側、野里の境界あたりを東から西へと流れていた川。しかし、いつも水があるわけではなく、天気の良い日には流れはなかった。雨が降ったときには道にまで水があふれるほどだった。そのため、子どもが流されて亡くなるという水難事故があり、その事故の後からは、雨が降ると迎えがくるまで子どもたちを学校から帰さなかった。

戦前、チュンナーグワーヤードゥイ（喜友名小屋取）と野里の境界あたりは大きな松が生い茂り、家もなく、怖い場所だった。ウワーグワーマジムンやアヒラーマジムンが出ると言われていた。



《聞き取り調査風景》



《メーヌトー》

■嘉手納基地：沖縄本島中部にある極東最大の米空軍基地。

■野里：現在の嘉手納町域にあった集落。野里馬場があった。

■ウワーグワーマジムン：豚のお化け。

■アヒラーマジムン：アヒルのお化け。

話者によれば、昼間は繁った松の下が休憩所として良かったと言う。2～3名で抱えるほどの大きな松があったが、その松は戦争のときに日本軍が切って防空壕作りに使ったらしい。

県道

ケンドー

県道。道の両側に松が生えていたが、戦争時に日本軍が切って防空壕作りに使ったらしい。

チューナーグワーヤードウイ（喜友名小屋取）から嘉手納までは、ケンドーを歩いて1時間ぐらいかかった。

ガッコーへの通学路として利用していた。

馬車道

バシャミチ

馬車道。屋号ミチバタイシチャグワー（道端石川小）：14から屋号イシチャグワー（石川小）：45の前を通って、シチャシードウヤードウイ（下勢頭屋取）へ行く道。小さい馬車道だったので、馬車のすれ違いはできなかった。

バシャミチ

馬車道。屋号カジマヤーアシンミグワー（カジマヤー安次嶺小）：12から屋号アガリイトゥムラグワー（東糸村小）：3の前を通る道。小さい馬車道だったので、馬車のすれ違いはできなかった。

岩山

ウカマジー

集落の南側にあった岩山の1つ。ウカマジーの南側には、防空壕のようなほら穴があった。幅2間(3.6m)、奥行き10間(18m)ほどの大きさだった。

話者によれば、昭和2(1927)年頃まではウカマジーには昔の人の骨があったが、教材にするためなのか、沖縄中の小・中学校が取って行って、いつの間にか全部なくなっていたと言う。

現在は嘉手納基地内であるが、戦前に日本軍によって作られた砲台の跡が残されている。

ハーイジー

集落の南側にあった岩山の1つ。ハーイのように尖っていた。



《聞き取り調査風景》



《ウカマジー》



《ウカマジー》

■嘉手納基地：沖縄本島中部にある極東最大の米空軍基地。

■ハーイ：針。

丘

フナウクイモー

屋号ミチバタイシチャグワー（道端石川小）：14の北側で、ケンドーのすぐ側そばにあった。とてもきれいなモーグワーだった。そこからは海が見えるので、船が出るときには、チジングワーを打ち、ダンジュカリユシで見送っていた。しかし、フナウクイは昭和19（1944）年からは禁止されていた。

クシムイ

チュンナーグワーヤードウイ（喜友名小屋取）と野里ヌザトゥ キョウカイの境界あたりで、クシヌトーよりも北側にあった。

池沼

グシチングムイ

チュンナーグワーヤードウイ（喜友名小屋取）とシチャシードウヤードウイ（下勢頭屋取）の境界きょうかいにあったクムイ。屋号イシチャグワー（石川小）：45の近くで、シチャシードウヤードウイ（下勢頭屋取）へ行く道のすぐ側そばにあった。クムイの形は丸く、直径4～5間（7.2～9m）、深さは1m50cmぐらいだった。

グシチングムイから泥どろを出して、いたずらをするこもあった。結婚式の前夜にコーガーキーした遊び仲間が、豆腐や天ぷらなどのごちそうをもらいにやってきたとき、ちゃんとしたごちそうわたを渡せば問題はないが、コーレー（唐辛子）を仕込んだものを渡すと、次の日にグシチングムイから出した泥を、通り道もに盛られた。話者は3回ほど、そんないたずらをしたことがあると言う。

メーヌトーヌクムイ

メーヌトーの流れの途中にあったクムイ。ケンドーの側そばにあった。水が溜たまっていたので、そこで馬に水浴びをさせていた。

掘井戸

トーナカー

カーヌトーとも言う。屋号カナークジャ（加那古謝）：18の西側にあった共同井戸。深さは6尋（9m）ぐらいあり、タグイガーだった。

旧暦2月3日のニングワチャーと旧暦12月24日のウガンプトウチのときにおが拝んでいた。

■モーグワー：原野。野原。原っぱ。

■チジングワー：つづみ（鼓）。

■ダンジュカリユシ：船出の祝い歌。身内のものが旅をするとき、一族が集落の広場あるいは高台に集まって航海の無事を祈願し、これを歌った。

■フナウクイ：見はらしのいい場所から、旅に出る人の安全を願い、船を見送ること。

■野里：現在の嘉手納町域にあった集落。野里馬場があった。

■クムイ：池。沼。

■コーガーキー：ほおかむり。

■クムイ：池。沼。

■タグイガー：つるべをたぐって水を汲む井戸。

■ニングワチャー：旧暦2月に行なわれる行事。集落や組単位で酒宴を開き、余興をして楽しむ。

■ウガンプトウチ：神仏にかけた願を解くこと。

橋



ハシ

メーヌトーとケンドーが交差するところに架かる橋。

学校



ガッコー

ちやたんこくみん

北谷国民学校。ハンジャヌウィーヤードウイ（平安山ヌ上屋取）にあったので、ハンジャヌウィーガッコーとも言う。通学には主にケンドーを利用していた。

戦時中、日本軍の石部隊が駐留していた。そのため、生徒たちはサーターヤーに集まって勉強していた。

製糖小屋



サーターヤー

共同製糖小屋。集落に6か所あったうちの1つ。屋号ジルーアシンミ（次郎安次嶺）：8の南側にあったサーターヤーである。

屋号ジルーアシンミ（次郎安次嶺）、屋号アガリイトゥムラグワー（東糸村小）、屋号ジルーアシンミグワー（次良安次嶺小）、屋号シターアシンミグワー（思太安次嶺小）、屋号コーフーアシンミグワー（工夫安次嶺小）、屋号カナーイトゥムラ（加那糸村）の6軒で共同使用していた。

地主への借り賃は、砂糖を作るときに燃やした薪の灰であった。灰は堆肥となるため、きちんと管理されていた。

サーターヤー

製糖小屋。集落に6か所あったうちの1つ。屋号サンルーアシンミ（三良安次嶺）：10の南側にあったサーターヤーである。個人所有だった。

サーターヤー

製糖小屋。集落に6か所あったうちの1つ。屋号タルーヒジャグワー（樽比嘉小）：31の南側にあったサーターヤーである。個人所有だった。

サーターヤー

共同製糖小屋。集落に6か所あったうちの1つ。屋号ウシーアシンミ（牛安次嶺）：38の南側にあったサーターヤーである。

屋号ウシーアシンミ（牛安次嶺）、屋号カミーアシンミグワー（亀安次嶺小）などで共同使用していた。

■北谷尋常高等小学校：明治35（1902）年に北谷尋常小学校と野国尋常小学校の二校が合併し、平安山ヌ上屋取に開校した。昭和16（1941）年の「国民学校令」により、学校名が国民学校へと変わった。

■石部隊：第62師団独立歩兵第12大隊の通称。



＜聞き取り調査風景＞



＜現地調査・嘉手納基地内＞

戦時中、ガッコーに石部隊が駐留するようになってからは生徒たちはこのサーターヤーに集まって勉強していた。

サーターヤー

製糖小屋。集落に6か所あったうちの1つ。屋号クブヌワカサマチ（クブヌ若狭町）：35の東側にあったサーターヤーである。個人所有だった。

サーターヤー

製糖小屋。集落に6か所あったうちの1つ。屋号ミーヤーワカサマチグワー（新屋若狭町小）：23の北側にあったサーターヤーである。個人所有であった。

採石場



イシアナー

2か所あったうちの1つ。ケンドーの近くにあった。

16名で担ぐほどの大きな石が採れ、墓石やフルの囲いなどに使われていた。小さな石などはケンドーの修復に使われた。

イシアナー

2か所あったうちの1つ。ウカマジーの西南側にあった。

拝所



ビジュル

メーグミの拝所。屋号ヤマーハマガージー（山浜川地）：17のところにあった。ニングワチャーのときに拝んでいた。

現在は、成人病検診センター沿いの道を北方向へ進み、県営砂辺団地（15号棟）の道向かいに合祀所を作り、「ゆがふの神」として「ゆしみぬ神」と「うぶ井戸」とともに祀られている。

ビジュル

アガリグミとイリグミの拝所。屋号サンルーアシンミ（三良安次嶺）：10の北側にあった。ニングワチャーのときに拝んでいた。

現在は、合祀所に祀られている。

広場



クシムイグワーヌモー

50坪ぐらいの小さいモーグワーだった。特にいい景色でもなかったの、そこで行事をしたり、集まるということなどはなかった。

■石部隊：第62師団独立歩兵第12大隊の通称。



《現地調査・嘉手納基地内》

■フル：便所。石で囲んだもので、中に豚を飼い、糞は豚の飼料となった。

■ニングワチャー：旧暦2月に行なわれる行事。集落や組単位で酒宴を開き、余興をして楽しむ。



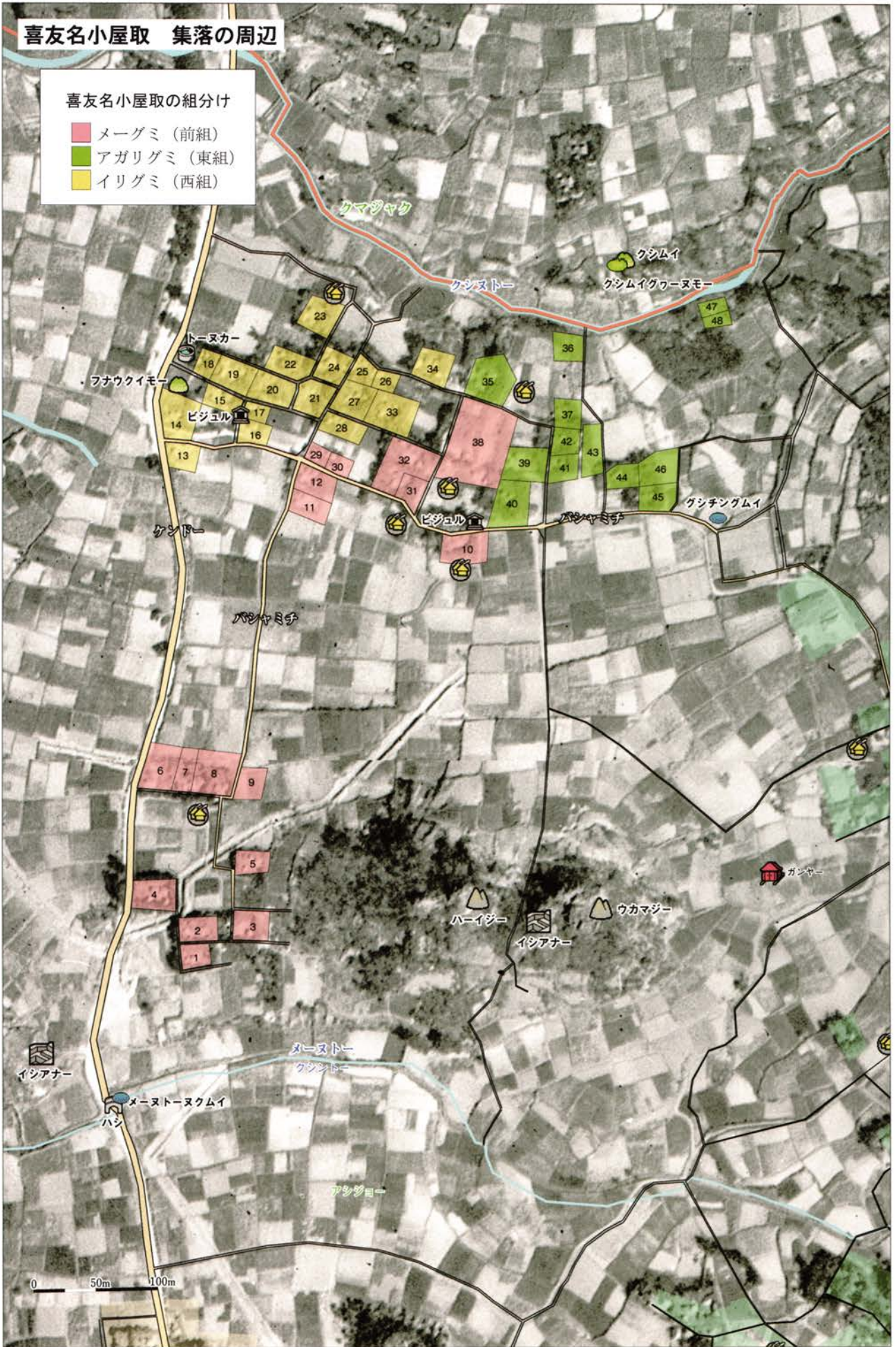
《ゆがふの神の碑》

■モーグワー：原野。野原。原っぱ。

喜友名小屋取 集落の周辺

喜友名小屋取の組分け

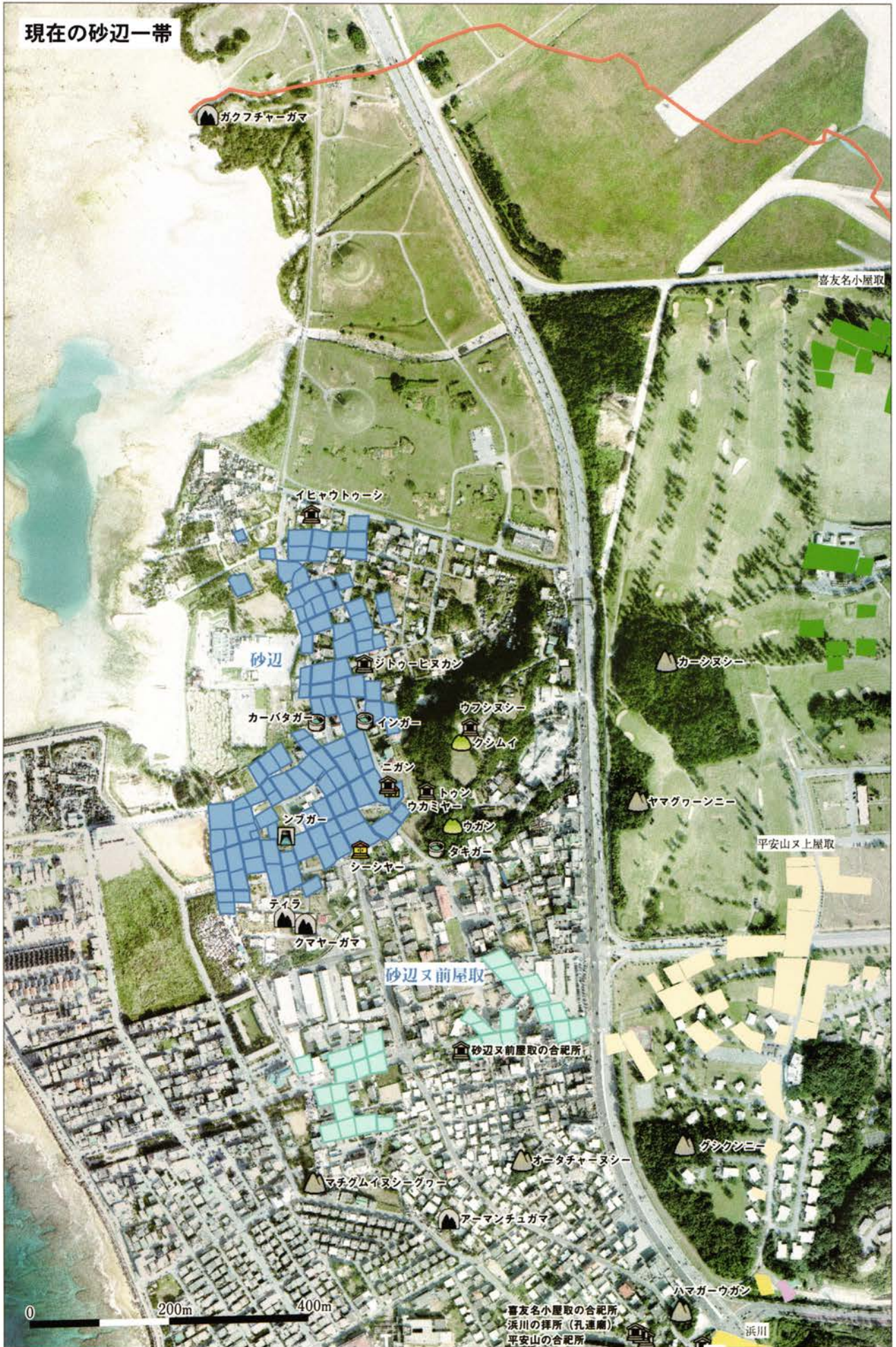
- メーグミ (前組)
- アガリグミ (東組)
- イリグミ (西組)



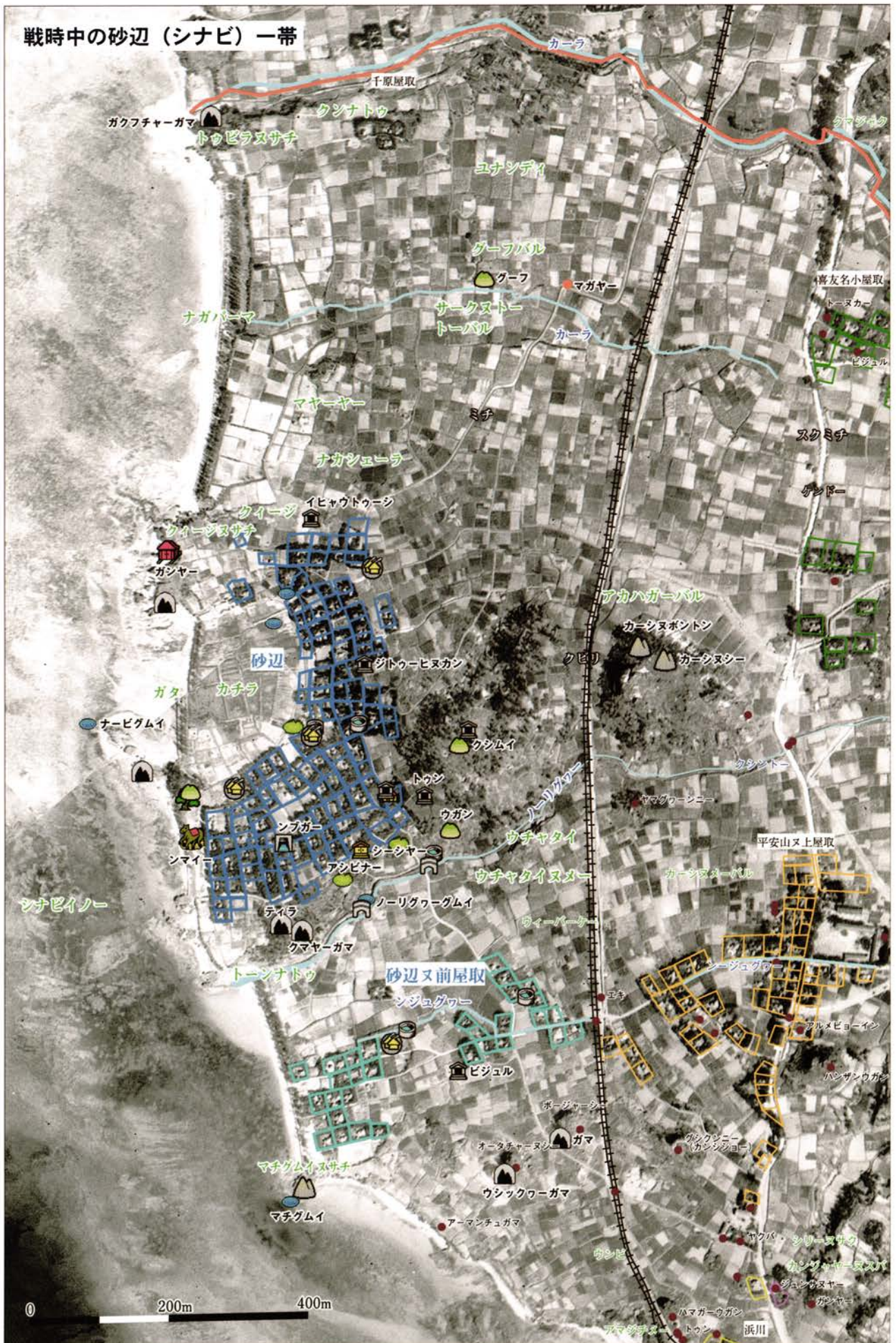
砂辺一带



現在の砂辺一带



戦時中の砂辺（シナビ）一帯



～ カジマヤー (97歳の祝い) ～



砂辺ヌ前屋取

シナビヌメーヤールイ

シナビヌメーヤールイ（砂辺ヌ前屋取）

北谷町域西側、東シナ海に面した屋取集落。戸数は29軒で、そのうちカーラヤーは、屋号カーニー（川根）、屋号ウフヤートウキシグワー（大屋渡慶次小）、屋号ウフヤーカリカルグワー（大屋嘉手苧小）、屋号ナカドゥマイ（仲泊）の4軒だった。また、半分だけ瓦ぶきという屋号カミーチシャバ（亀喜舎場）もあった。

屋敷囲いにはガジマル、フクギ、ユーナ（オオハマボウ）などを利用することが多かった。

集落は2つに組分けされる。東側のテツドー寄りの15軒をイーヤールイと言ひ、西側の海岸寄りの14軒をシチャヤールイと言った。

首里の土族に連なる家が多いが、国頭の屋古から移住してきた家もあった。

主業は農業で、主に芋やサトウキビなどを作っていた。屋号マカルートウキシグワー（真苧渡慶次小）と屋号ヤマートウキシグワー（山渡慶次小）の2軒が漁業を営んでいた。

馬車を所有していたのは、屋号カーニー（川根）、屋号チャングワー（喜屋武小）、屋号ウフヤートウキシグワー（大屋渡慶次小）の3軒であった。

シナビヌメーヤールイ（砂辺ヌ前屋取）のムラガーは、イーヌカーとサーターヤーヌカーの2か所だったが、飲み水として利用していたのはイーヌカーだけであった。個人のカーは、イーヤールイに5軒、シチャヤールイに9軒の計14軒あった。シチャヤールイのカーは浅く、2尋（3m）ぐらいの深さしかなかった。潮が混ざるので、海の近くにはカーはなかった。戦後しばらくは水道がなかったが、外人住宅が造られるようになってからは米軍が水道を引いた。

サーターヤーは1か所のみで、屋号カーニー（川根）：14の東側にあった。5軒で共同使用していた。その他の人たちは嘉手納の製糖工場へ出荷していた。

拝所はイーヌカーとビジュルの2か所であった。どちらもニングワチャーのときに拝む場所であった。現在はイーヌカー、サーターヤーヌカー、個人井戸の3つを祀った合祀所がある。また、その隣にはビジュルの祠もある。

マーイサーは100斤（60kg）のものが2つあった。屋号ウフヤートウキシグワー（大屋渡慶次小）：9の前の道と、屋号ウフヤーカリカルグワー（大屋嘉手苧小）：10の側にあった。

【集落で行なう主な年中行事】

●旧暦2月2～4日<ニングワチャー（クシユクワーシー）>：豊作祈願の祭り。イーヌカー、サーターヤーヌカー、ビジュルを拝

■カーラヤー：瓦ぶきの家。



＜聞き取り調査風景＞

■ムラガー：集落の共同井戸。

■カー：井戸。

■サーターヤー：製糖小屋。

■嘉手納製糖工場：沖縄製糖株式会社の嘉手納工場のこと。明治45（1912）年創業。

■ビジュル：霊石として祀られる石。

■ニングワチャー：旧暦2月に行なわれる行事。集落や組単位で酒宴を開き、余興をして楽しむ。

■マーイサー：集落の広場などに置いてある大小の堅い、丸い石。青年たちが力試しをする。

む。3日間仕事を休んで、屋号ウフヤーカリカルグワー（大屋嘉手苅小）：10や屋号ウフヤートウキシグワー（大屋渡慶次小）：9のような大きな家を借りてヤードウとし、そこに集まって遊んだ。ソーミンチャンプルー、ジュージー、豆腐とうふなどのごちそうを作り、1日目と2日目は夜通し遊んだ。そして、3日目にサンミンワックワシしょけいひとかくいわって、諸経費を計算し、各家割りにした。昭和12～13（1937～38）年頃まで、ニングワチャーを行なっており、シナビヌメーヤールイ（砂辺ヌ前屋取）集落全体として一番大きい行事だった。

●旧暦7月13～15日<エイサー>：15日のウークイが終わった後にエイサーを行なった。シナビヌメーヤールイ（砂辺ヌ前屋取）のアヤグは千原エイサーと同じだった。一番強い者が先頭に立った。他集落のエイサーとかち合うと、弱い者が強い者に道を譲ゆずっていた。昔、サキガーマは酒を入れるものではなく、武器を入れるものだったと言う。エイサーは大正時代まではあったようだが、昭和時代には絶えてしまっていた。

集落域には、住宅地が広がっている。また、海のすぐ側そばの集落だったが、現在は埋め立てられ、宮城区みやぎとなっている。

■ヤードウ：一時的に集会所にあてられる家。

■ソーミンチャンプルー：そうめん炒め。

■ジュージー：炊き込みご飯。

■ニングワチャー：旧暦2月に行なわれる行事。集落や組単位で酒宴を開き、余興をして楽しむ。

■ウークイ：各家で祖霊を送る行事。送り盆。

■エイサー：旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。

■アヤグ：明治時代にできた踊り。宮古民謡調のリズムで、男女が集団で踊る。

■千原エイサー：現在の嘉手納町域にあった千原屋取のこと。エイサーが有名な集落だった。

■サキガーマ：酒甕。



《聞き取り調査風景》



《合祀所》

砂辺ヌ前屋取 屋号地図

砂辺ヌ前屋取の家の配置
 (数字は屋号番号)

+++++ 鉄道

河川

道路

緑の文字
 地域の名称 (小さい文字は他の集落の呼び名)



シナビヌメーヤールイ（砂辺ヌ前屋取）

組

イーヤールイ

上屋取。集落の組分けの1つ。イーヤールイグワーとも言う。集落はイーヤールイとシチャヤールイの2つに分けられ、イーヤールイはガッコーミチのヒラグワーから鉄道寄りにある、東側の15軒を言う。

イーヤールイの方が、シチャヤールイより、やや高いところに位置していた。土質は主にマージだった。

シチャヤールイ

下屋取。集落の組分けの1つ。集落はイーヤールイとシチャヤールイの2つに分けられ、シチャヤールイはガッコーミチのヒラグワーから海岸寄りにある西側の14軒を言う。

土質は主に砂地だったが、海岸沿いは岩が多く砂浜ではなかった。

河川

ンジュグワー

集落の北側を東西に流れていた浅い川。キシヤミチとガッコーミチが交差するあたりから、集落の中心を走る道の北側沿いを流れ、ウフドーミチとの十字路あたり、屋号シナビグワー（砂辺小）：17の後ろで北側の畑に流れ込んでいた。子どもの胸のあたりぐらいの深さだった。普段は涸れていて、雨が降ったときだけ水が流れた。

ノーリグワー

集落の北方向を東西に流れていた川。シナビヌメーヤールイ（砂辺ヌ前屋取）とシナビ（砂辺）^{きょうかい}の境界あたりを流れていた。普段は溜め池のように水が溜まっているだけで、雨が降ったときだけ流れになっていた。名前の由来は不明。

流れの中に、すり鉢状になったノーリグワーグムイがあった。

小ハル名

ヌンドウルチジー

屋号タルートウキシグワー（樽渡慶次小）：4の北側あたり、ガッコーミチから南側の土地を言う。

■鉄道：沖縄県営鉄道嘉手納線。

■マージ：赤土質の土壌。マージでできた芋は小さいが美味しい。

■ヒラグワー：坂道。



《聞き取り調査風景》

郡道

ガッコーミチ

学校道。集落内の中心を東西に走る道を言う。海辺の屋号タケーシグワー（高江洲小）：11 から屋号イリー（伊礼）：22 の前を通り、ハンジャヌウィーヤードウイ（平安山ヌ上屋取）のナカミチへと続き、学校に至る道。

→平安山ヌ上屋取のナカミチを見よ。

村道

ウフドーミチ

ノーリグワーのあたりから、屋号チャン（喜屋武）：29 や屋号サンラーカリカルグワー（三良嘉手苺小）：20 の前を通り、鉄道までの道を言う。鉄道から東側はハンジャヌウィーミチと言う。

→平安山ヌ上屋取のハンジャヌウィーミチを見よ。

坂道

ヒラグワー

ガッコーミチの一部、イーヤールイとシチャールイの境界あたりの坂。海に向かい、屋号ナーカカリカルグワー（中嘉手苺小）：18 を通りすぎるあたりから屋号カーニー（川根）：14 の前までが10mほどの長さのゆるやかな坂道になっていた。途中からふたまたに分かれていた。

鉄道

ケービン

軽便鉄道。県営鉄道嘉手納線のことを言う。汽車に乗るときには平安山駅を利用していった。話者によると、お金がなかったので、仕事や買い物で嘉手納まで行くときには線路沿いに歩いて行くことが多く、たまにしか利用しなかったと言う。話者の1人は、祖父に連れられて那覇まで行くときに2回ほど乗ったことがあると言う。

岩山

マチグムイヌシーグワー

屋号マカルートウキシグワー（真苺渡慶次小）：1 の先にある岩。シーに上る階段が3段ほどあった。シーは保安林で覆われ、護岸のあるところはモクマオー（トキワギョリュウ）が植えられていた。イノーが大きく、旧暦6～8月頃のスクが寄る時期には集落のみんなで、エンダーでスク捕りをした。モクマオーの護岸あたりなどの高い所から、スクがやって来るのがよく見えた。

■北谷尋常高等小学校：明治35（1902）年に北谷尋常小学校と野国尋常小学校の二校が合併し、平安山ヌ上屋取に開校した。昭和16（1941）年の「国民学校令」により、学校名が国民学校へと変わった。

■鉄道：沖縄県営鉄道 嘉手納線



《聞き取り調査風景》

■沖縄県営鉄道 嘉手納線：嘉手納・野国・平安山・桑江・北谷・大山・真志喜・大謝名・牧港・城間・内間・安里・与儀・古波蔵・那覇の15駅があった。

■シー：岩山。

■イノー：礁池。

■スク：アイゴの幼魚。

■エンダー：魚具の一種。

戦時中は護岸^{ごがん}沿いに、シナビ（砂辺）のトーンナトゥのシーからマチグムイヌシーグワーまで、幅2mぐらいの道を掘^{たん}っていた。弾薬^{やく}を運んだりするための道だった。また、岩と岩の間に機関銃^{きかんじゆう}を設置^ました。松の木^{まつ}を切り、とがらせてから海に向けて設置し、敵が来るのを阻^{はば}むようにしていた。

→砂辺のトーンナトゥを見よ。

洞窟



ウシクワーガマ

海岸から少し上がったところで、オータチャーの西側のハルミチの側^{そば}にあったガマ。名前の由来は不明。ガマの入口は大きく、のぞくと水が見え、石を投げ込むと水音がした。話者によると、中には塩水^たが溜まっていたようなので、海とつながっていたのではないかと言う。危ないからと、子どもたちは親にガマへ行くことを禁じられていた。

ガマの上はシーグワーで、見晴らしが良く、木々はあまり生えていなかった。

シナビヌメヤールイ（砂辺ヌ前屋取）には漁業^{いとな}を営む家が2軒あり、海岸沿いは網^ほを干すのに良い場所であった。

現在は住宅になっているため、正確な場所はわからない。

→浜川のオータチャーヌシーを見よ。

ガマ

ボージャージーの側^{そば}を通^{とお}るウフドーミチの真下にあったガマ。雨が降ったときに雨宿りする場所として利用していた。

戦時中は防空壕^{ぼうくうごう}として使用され、10名以上の人たちが入ることができた。

→浜川のボージャージーを見よ。

池沼



ノーリグワーグムイ

ノーリグワーの中にあるクムイ。シチャヤールイ^{とお}を通って、シナビ（砂辺）に至る道があった。その道とノーリグワーが交差するあたりに年中水が溜^たまっていた。話者によると、すり鉢^{ぼち}状になっており、正確な深さはわからないが、一番深いところはかなりの深さがあったと言う。子どもたちが泳いで遊んだり、馬に水浴びをさせたりしていた。

■シー：岩山。

■ハルミチ：農道。畑の中の道。

■ガマ：洞窟。ほら穴。

■シーグワー：岩。



〈聞き取り調査風景〉

■クムイ：池。沼。

礁池

マチグムイ

屋号マカルートウキシグワー（真苺渡慶次小）：1の先にある岩から10mぐらい行った海の中にあった。大きいイノーだった。

日本軍が手榴弾てりゅうだんを投げて魚を捕ったり、水浴びとをしたりしていた。

掘井戸

イーヌカー

共同井戸。2か所あったうちの1つ。屋号クシヌアラグシク（後ヌ新城）：27の西側角に位置しており、深さ9尋（13.5m）ぐらいのクルマガーだった。飲み水として利用するのはこのイーヌカーだけなので、集落の人たちみんな使っていた。

拝所はいしよでもあり、旧暦2月2日のニングワチャーおがのときに拝んだ。

現在は住宅が建っているため、正確な場所はわからない。合祀所ごうししよが作られ、サターヤーヌカー、個人井戸とともに祀まつられている。

サターヤーヌカー

共同井戸。サターヤーの東側にあった。サターヤーで使う水くを汲むところだった。水は少なく、製糖時期にしか使わなかった。

合祀所ごうししよが作られ、イーヌカー、個人井戸とともに祀まつられている。

製糖小屋

サターヤー

共同製糖小屋。屋号カーニー（川根）：14の東側の広場にあった。150坪ぐらいの広さがあった。屋号カーニー（川根）、屋号ウフヤーカリカルグワー（大屋嘉手苺小）、屋号ウフヤートウキシグワー（大屋渡慶次小）、屋号チャングワー（喜屋武小）、屋号シマブクグワー（島袋小）の5軒で共同利用していた。

その他、ほとんどの家は嘉手納製糖工場へ出荷していた。工場から馬車を借りてサトウキビを運んでいた。

拝所

ビジュル

屋号ナーカカリカルグワー（中嘉手苺小）：18の西側の畑にあり、後ろのハルミチに近い場所にあった。

旧暦2月2日のニングワチャーおがのときに拝んでいた。

1960年代に、ビジュル、サターヤーヌカー、イーヌカー、個人井戸ごうしを合祀した。現在も、旧暦2月2日のニングワチャーのときに豊作祈願、健康祈願をしている。



《聞き取り調査風景》

■クルマガー：滑車につるべ縄をかけて水を汲む井戸。

■ニングワチャー：旧暦2月に行なわれる行事。集落や組単位で酒宴を開き、余興をして楽しむ。



《合祀所》

■嘉手納製糖工場：沖縄製糖株式会社の嘉手納工場のこと。明治45（1912）年創業。

■ビジュル：霊石として祀られる石。

■ハルミチ：農道。畑の中の道。



《ビジュル》



砂辺

シナビ

シナビ (砂辺)

北谷町域北端の海岸沿いに広がった集落。戸数は105軒で、そのうちカーラヤーは9軒だった。景色の良いンマイヤーやアシビなどで有名な集落であった。

集落は屋号アガリジョー (東門) : 49 から屋号クシヌチカジャン (後又津嘉山) : 56 の前を通る道^{とお}を境^{さかい}にして、南側がメンダカリ、北側がイリンダカリの2つに組分けされる。さらに、メンダカリはメーチンジュとメーナカチンジュに、イリンダカリはイリナカチンジュとイリチンジュに分けられていた。

集落の成立は古く、『琉球国由来記』に名前がある。もともとは知念村^{ねんそん}・玉城村^{たまぐすくそん}からながれてきたと言い伝えられている。

主業は農業で、芋^{イモ}やサトウキビを作っていた。その他、ユリ (百合) の栽培も一時期行なわれていた。海に近いが、それぞれの家庭でイジャイをするぐらいで、船を持っている家はなく、漁師もいなかった。しかし、グングワチャーのときは、千原屋取^{シンバルヤードウイ}から船を借りて船遊びをした。商店が、屋号ガジマルシチャ (ガジマル下) : 5、屋号リンドーグワー (林堂小) : 74、屋号チチンミグワー (月見小) : 6、屋号ウィーヌインガー (上ヌ犬川) : 60、屋号ニシイリーグワー (西伊礼小) : 75 の5軒あった。屋号ガジマルシチャ (ガジマル下) は、日用品を扱う雑貨店^{あつか}でシナビ (砂辺) では一番大きな店だった。酒、そうめん、カチューグワー、アミグワー、メリケン粉、石油などを売っていた。屋号ニシイリーグワー (西伊礼小) では酒だけ売っていた。塩^{たばこ}や煙草^{せんぱいせい}は専売制で、シナビ (砂辺) には売っている店はなかった。ハンジャヌウィーヤードウイ (平安山ヌ上屋取) にはあった。

サーターヤーが3か所あった。イリチンジュのサーターヤーは屋号カマーチニングワー (蒲知念小) : 99 の東側、イリナカチンジュのサーターヤーは屋号メーヌチャングワー (前ヌ喜屋武小) : 64 の南側、メーチンジュとメーナカチンジュのサーターヤーは屋号メンティーラ (前照屋) : 17 の北側にあった。嘉手納製糖工場へ出荷することもあり、そのときは人が担いで徒歩^{かつ}で運ぶか、馬車^{とほ}で運んでいた。

マーイサーは、ンマイヤーとナカミチ^{そば}の側にあった。ナカミチのほうのマーイサーは、綱引きのカヌチを抜くところの道路脇に置かれていた。小さいのが40斤 (24kg) で、大きいのは90斤 (54kg) ぐらいあった。小さいマーイサーは寄附され、現在、町立浜川^{はまがわ}小学校にある。

カーシヌポントンの北側、ケンドー^{そば}の側にマカヤ (チガヤ) やゲーン (ススキ) がたくさん生えている場所があった。ガイモーと言

■カーラヤー：瓦ぶきの家。

■アシビ：歌・三味線・踊りなどを楽しむこと。また、村芝居・祭りなど、仕事を休んで行なう演芸・娯楽。

■『琉球国由来記』：琉球国の地誌。全21巻。

■イジャイ：いさり。火を使う、夜の漁。

■グングワチャー：旧暦5月に行なわれる行事。集落や組単位で酒宴を開き、余興をして楽しむ。

■千原屋取：現在の嘉手納町域にあった。エイサーが有名な集落だった。

■カチューグワー：かつおぶし。

■アミグワー：飴玉。

■メリケン粉：小麦粉。

■サーターヤー：製糖小屋。

■嘉手納製糖工場：沖縄製糖株式会社の嘉手納工場のこと。明治45 (1912) 年創業。

■マーイサー：集落の広場などに置いてある大小の堅い、丸い石。青年たちが力試しをする。

■カヌチを抜くところ：綱引きのときに、雄綱と雌綱のつなぎ目に棒を通す場所。綱引きの中央。

■ガイモー：屋根を葺くのに使う茅を生やしていた野原。

う。竹などを杭のように打ち、持ち主がいることを知らせた。現在は村有地となっているところが多い。カヤ（茅）はキューガヤーと言って、家畜小屋に敷き、その後、畑の堆肥を作るのに使った。屋根を葺くためのカヤ（茅）は、昭和年代からは他集落からヤンバルダキガヤ（リュウキュウチク）やマカヤ（チガヤ）を買い入れて使うようになっていたので、シナビ（砂辺）集落内のガイモーのカヤ（茅）はあまり使われなくなっていた。

集落から外に出るときは、主に徒歩だった。テツドーを使うのはムンチューのシーミーや出兵の見送りをするために那覇に行くときくらいだった。平安山駅から那覇までは38銭だった。学生割引では4か月分の定期が11円で買えた。他の乗り物には路線バスがあり、那覇から名護までのケンドーを運行していた。しかし、普通はバスに乗ることもあまりなかった。話者の1人は、昭和16（1941）年頃に大宜味村田港の澱粉工場建設作業のために、ハンジャヌウィーヤードゥイ（平安山ヌ上屋取）からバスに乗って、名護に行った経験があると言う。芝居を見るときも、嘉手納の劇場へ徒歩で出かけていたと言う。

【集落で行なわれる主な年中行事】

●旧暦8月9日<カンカー>：牛の内臓に火を通したものを供えて祈願を行なう。岩か木などに牛をつるしあげ、眉間をユーチで割って屠殺した。屠殺する場所は決まっているわけではなく、アガリジョーモーグワー、ウシモー、浜などで行なわれた。祈願が終わると、供えものをユーナ（オオハマボウ）の葉に入れてみんなで食べた。肉はチュマジンといって、2～3斤（1.2～1.8kg）ぐらいつつ小分けにして、各家庭に割り当てた。骨は集落の入口であるアシビナーの前の通りと、出口である屋号ミードウンチ（新殿内）：103を過ぎたあたりのガジマルやウガンジュに立てかけるなどして魔よけとした。

●旧暦8月15～17日<ムラアシビ>：8月15日はンマイーで前座として、獅子舞や「長者の大主」といった決まった演目を行なった。16～17日にアシビナーで行なうのが本番で、組踊りや芝居などの演劇や、アヤグや夕千鳥といった舞踊など、さまざまな演目を行なった。芝居は3日間という取り決めだったが、少しづつ日延べして、1か月近くやることもあった。

集落域は米軍に接収されていたが、昭和29（1954）年に戻ることができた。アシビで有名だった集落だけあって、現在も「砂辺ぬ浜まつり&十五夜あしび」を開催し、にぎやかである。

■キューガヤー：堆肥用の茅。

■ムンチュー：門中。父系血縁による一族。主に祖先祭祀を行なう集団。

■シーミー：清明祭。旧暦3月に行なう祖先供養の行事。

■新垣平尾バス：戦前の乗合自動車。那覇～名護間を運行。

■カンカー：集落に悪疫が入ってくるのを防ぐための行事。

■ユーチ：小型のおの。手おの。

■ウガンジュ：拝所。

■ムラアシビ：歌・三味線・踊りなどを楽しむこと。また、村芝居、祭りなど、仕事を休んで行なう演芸・娯楽。

■長者の大主：集落の行事のなかで演じられる祝儀舞踊。

■組踊り：沖縄独特の伝統楽劇。

■アヤグ：明治時代にできた踊り。宮古民謡調のリズムで、男女が集団で踊る。

■夕千鳥：昭和初期にシナビ（砂辺）に伝えられた群舞。男女と千鳥役の全12人で踊る。



◀砂辺ぬ浜まつり&十五夜あしび▶

シナビ（砂辺）

組

メーチンジュ

集落の組分けの1つ。集落の一番南側の28軒を言う。綱引きのときにはメーナカチンジュとともに、メンダカリに含まれた。

メーナカチンジュ

集落の組分けの1つ。メーチンジュとイリナカチンジュの間に^{あいだ}ある20軒を言う。綱引きのときにはメーチンジュとともに、メンダカリに含まれた。

イリナカチンジュ

集落の組分けの1つ。イリチンジュとメーナカチンジュの間に^{あいだ}ある24軒を言う。綱引きのときにはイリチンジュとともに、イリンダカリに含まれた。

イリチンジュ

集落の組分けの1つ。集落の一番北側の33軒を言う。綱引きのときにはイリナカチンジュとともに、イリンダカリに含まれた。

村渠

メンダカリ

前村渠。集落の組分けの1つ。屋号アガリジョー（東門）：49から屋号クシヌチカジャン（後又津嘉山）：56の前を通る道^{とお}を境^{さかい}にして2つに組分けされた。道から南側をメンダカリと言い、メーチンジュとメーナカチンジュからなる。綱引きのときにもこの組分けに従ってメンダカリとイリンダカリで勝負をする。

イリンダカリ

後村渠。集落の組分けの1つ。屋号アガリジョー（東門）：49から屋号クシヌチカジャン（後又津嘉山）：56の前を通る道^{とお}を境^{さかい}にして2つに組分けされた。道から北側をイリンダカリと言い、イリチンジュとイリナカチンジュからなる。綱引きのときにもこの組分けに従って、イリンダカリとメンダカリで勝負をする。

河川

カーラ

集落の北方向にあった川。クマジャクと呼ばれる谷から流れ出し



《聞き取り調査風景》



《現地調査・嘉手納基地内》

で、現在の北谷町^{ちやたん}と嘉手納町^{かてな}の境^{さかい}を流れて海^{そぞ}に注いでいた。雨が降ったときだけ流れができていた。

特に名前がついているわけではなかったが、河口から川の沿岸一帯がクンナトゥと呼ばれていたので、クンナトゥヌカーラグワーとも言う。

ハーミチから続いている馬車道は、この川にさえぎられて終わっていた。橋は架かっていたがなかった。

→喜友名小屋取のクシヌトーを見よ。

カーラ

集落の北方向にあった川。トヌカーラグワーとも言う。チュンナーグワーヤードウイ（喜友名小屋取）集落や、その周辺の畑などから水が集まって川になり、グーフの南側^{とお}を^{とお}通って、マヤーヤーの北側に流れ込んでいた。雨が降ったときだけ流れができていた。カーラから北側はユナンディと呼ばれた。

現在は米軍^{はいすいこう}の排水溝として使われている。流れは、戦前より多少南側に移動し、川幅も広がっている。

ノーリグワー

集落の南端を流れていた川。雨が降ったときだけ流れができていた。特に、その流れにあるノーリグワーグムイやその周辺を言う。

小ハル名

クンナトゥ

現在の北谷町^{ちやたん}と嘉手納町^{かてな}の境^{さかい}に、雨が降ると流れが^おできるカーラがあり、その川沿いの一帯を言う。畑地で、主に芋^{イモ}が作られていた。千原屋取^{チハラヤドウイ}があったあたりである。

ユナンディ

集落からクマジャクへ向かう馬車道を進み、マヤーヤーやカーラを越えた一帯を言う。土質はアカマチクーで、上質の畑があった。サトウキビ^{イモ}、芋^{イモ}、豆類^{マメ}、マージン（もちきび^{ムギ}）、麦、野菜などを作っていた。

→喜友名小屋取のクシヌトーを見よ。

グーフバル

グーフの一帯を言う。土質はマージで、良質の畑地だった。サトウキビのほか、ユリ（百合）の栽培もしていた。



◀ノーリグワー上流▶

■千原屋取：現在の嘉手納町域にあった。エイサーが有名な集落だった。

■アカマチクー：黒味がかった赤土。サラサラしている。

■マージ：赤土質の土壤。マージでできた芋は小さいが美味しい。

マヤーヤー

グーフの側を流れるカーラの南側にあった丘。周囲はアカマチクーの良質な畑で、サトウキビ、芋、粟、マージン（もちきび）などを作っていた。松、ソテツ、アダンなどで囲まれていた。

3～4基の破風墓があった。

マヤーユーレイが出るという話もあった。

現在、嘉手納基地の陸軍貯油施設の南端、黙認耕作地があるあたりであるが、マヤーヤーは現存していない。

サークヌトー

グーフの南側を流れるカーラ沿いの、低くなっている一帯を言う。畑の防護林として植えられたソーシギ（ソウシジュ）が生えているあたりである。流れが運んでくる土が溜まり、フェージャーの上質な畑地になっていた。

トーバル

カーラ沿いの地域で、マガヤーからグーフのあたりは、川の南岸が周りの土地より低く、クブンになっていた。そのため、この一帯をトーバルと呼んでいた。土質はアカマチクーで、上質の畑地だった。サトウキビを主として、芋、大豆なども作っていた。近くには畑の防護林として植えられたソーシギ（ソウシジュ）が20本ほど生えていた。

ナカシェーラ

集落の北側一帯を言う。ほとんどが畑地で、良い土質だった。ユリ（百合）を栽培し、球根を出荷していた。

現在の嘉手納基地の陸軍貯油施設内の一基残された破風墓のあたりである。墓は屋号カミーイリーグワー（亀伊礼小）のものである。墓を北面にして、勾配になったところから西側をナカシェーラと言う。戦前は平坦な土地だったが、現在は少し起伏がある。範囲はそれほど広くない。

クィージ

クィージヌサチあたりを言う。一部、芋を育てる畑があった。

アカハガーバル

アカハガーとも言う。カーシヌポントンの北東側でクビリの近くの地域を言う。赤土がむき出しになるほど禿げあがっていた。面積はあまり大きくなかった。シナビ（砂辺）から見るとやや高い位置にあった。芋、サトウキビ、トーフマーミ（大豆）、トーマーミ

■アカマチクー：黒味がかかった赤土。サラサラしている。

■破風墓：破風型の屋根で、岩壁を背にして造られている墓。

■マヤーユーレイ：ネコの幽霊。

■嘉手納基地：沖縄本島中部にある極東最大の米空軍基地。

■黙認耕作地：米軍基地内で米軍が緊急に必要なでない土地を、地主に一定条件のもと、農耕などに使用することを認めた地域。

■フェージャー：薄黄色のやわらかい土。ねばりが少なく、耕しやすい。フェージャーで作った芋は美味しい。

■クブン：窪地。

■アカマチクー：黒味がかかった赤土。サラサラしている。

■嘉手納基地：沖縄本島中部にある極東最大の米空軍基地。

■破風墓：破風型の屋根で、岩壁を背にして造られている墓。



＜聞き取り調査風景＞

(そら豆) などを作っていた。

現在の「砂辺」バス停留所^{ていりゅうじょ}よりもやや北の位置である。

ウチャタイ

ウガンの東側で、ノーリグラーの川沿いを言う。屋号グンナンの墓があった。話者によると、この墓には、ジーシガーミの中にクガニがあったという言い伝えがあると言う。また、アカルチ・クルルチという力自慢の兄弟^{ほうむ}が葬^{ほうむ}られているとも言う。

また、屋号グンナンの墓の側^{そば}にムラバカもあった。アーチ型の門を持ち、そこをくぐると普通の墓の門があるという造りで、ジョンタバカと呼ばれていた。現在も墓は残っているが、アーチ門はなくなっている。

話者によると、昭和63(1988)年に道路整備を行なったときに、墓のあたりからたくさんの古銭^{こせん}が出土^{しゅつど}したと言う。

ウチャタイは、幽霊が出そうだということで怖^{こわ}がられていた。現在も怖^{こわ}がられている。

ウチャタイヌメー

ウチャタイの南西一帯で、ノーリグラーを渡^{わた}ったあたりを言う。近辺は畑だった。作物は主に芋^{イモ}やサトウキビで、他に麦^{ムギ}やトーマーミ(大豆)なども作っていた。

ムラウチ

村内。集落の屋敷地一帯を言う。ホーグマーチが点在し、その内側はすべてムラウチとされていた。話者によると、「ホーグは集落とハルの境^{さかい}」だと言う。

ホーグ

【※編注：位置不明確のため、地図上には記載していない】

村境の松^{マツ}。集落を囲むようにして、ウフシヌシーの下から屋号マサーインガーグラー(マサー犬川小):104の屋敷のあたりまで、松の大木が6~7本、点々と生えていた。この松はホーグマーチと呼ばれ、松の立っているところより内側がムラウチとされていた。話者によると、「ホーグは集落とハルの境^{さかい}」だと言う。ホーグマーチは、蔡温松^{さいおんマツ}と同じくらいの大木だった。

話者によると、昭和3~4(1928~29)年頃まではあったが、切り倒して売ったかして、昭和6(1931)年頃にはなくなってしまうと言ったと言う。

■ジーシガーミ：厨子褌。洗骨後の遺骨を納めるためのもの。

■クガニ：黄金。

■アカルチ・クルルチ：「砂辺に、グルンナーのアカルチ、クルルチという人がおっいたらしいですよ。その人は大へんな武士だったらしいですよ。その人が、「この風水は、このままではいけない。三つの岩のケースを作ろう。」と言って、砂辺の高い岩のてっぺんに、約二トンほどもあるかなあと思われる石なんです。その石をはるかてっぺんに上げてありましたよ。」

★話者：砂辺出身の花城氏『北中城の民話』p303より

■ムラバカ：集落の共同墓。



◀聞き取り調査風景▶

■蔡温松：三司官として農業・林業に大きな業績を残した蔡温の指導によって植えられた松。

岬

シナビトウガイ 【※編注：位置不明確のため、地図上には記載していない】

キュー（桑江）の聞き取り情報によると、シナビ（砂辺）の方にある岬だと言う。

トゥビラヌサチ

集落の北方向、ガクフチャーガマがあった岬。トゥビラとも言う。トゥビラ（トベラ）が生えていた。

クィーヅヌサチ

集落の北西、ガンヤーがあったところの岬。

マカルーイリーグワーヌサチ

屋号マカルーイリーグワー（真苺伊礼小）：1の西側にあった岬。

マチグムイヌサチ

シナビヌメーヤールイ（砂辺ヌ前屋取）の屋号マカルートウキシグワー（真苺渡慶次小）の近くにあった岬。岬の先端から約10m先にマチグムイがあった。

岬の上には芝草が生えていて、子どもの遊び場になっていた。また、小学校の海水浴に来たときはここに着物を脱いでいた。

潟

カチラ

集落の西側、海岸の側に広がる^{しつちたい}湿地帯。足を踏み入ると、60cmぐらの深さまで沈み込んだ。一面にガマ（蒲）が生えていた。

湧き水が湧いている場所が2～3か所あり、ワクガーと呼ばれていた。満ち潮になると、水がわずかに吹き上がるので、その場所がわかった。

戦争が始まる前から昭和18（1943）年ぐらいまで、コイ（鯉）の養殖が行なわれていた。また、カチラの陸寄りのところにカズラを、海寄りのところには稲を植えていた。

ガタ

ンマイーから北に向かい、ガクフチャーガマのあたりまでの海岸には護岸が作られており、それをガタと言う。

トーンナトゥ

ノーリグワーの河口。ンナトゥグワーとも言う。トーは「唐」で、

■ガンヤー：籠を納めておく小屋。



《聞き取り調査風景》



《現地調査・嘉手納基地内》

中国という意味だと言われている。話者によると、昔は山原船がトーンナトゥに入っていたと言う。

ガマの下に4基ほどの墓があり、戦後はさらに3基ほど増えた。トーンナトゥにある屋号ユナシチャ（与那下）の墓の甕の下には金が埋められているという伝え話もあった。

浜

ナガバーマ

クィージヌサチから北へ向かい、ガクフチャーガマのあたりまでの砂浜を言う。昭和初期、県によってセメント造りの護岸が建造された。カチラの下からンマイー、ナガバーマにかけての範囲に造られた。カチラの下が昭和6(1931)年頃で、ナガバーマが昭和12～13(1937～38)年頃に完成した。防風林としてモクマオー（トキワギョリュウ）がたくさん植えられていたが、昭和19～20(1944～45)年にかけてすべて伐採された。伐採されたモクマオーは、クマヤーガマの防空壕に使われたり、米軍の上陸を妨害するためにリーフに立てられたりした。しかし、米軍の艦砲射撃や爆弾で破壊され、上陸直前の3月26日頃には一本も残っていなかった。沖縄戦の米軍上陸は、ナガバーマから始まった。

現在は嘉手納基地の陸軍の貯油施設敷地内の、海岸沿いに走るパトロール用道路より海側である。

現在の砂浜は戦前より後退している。話者によれば、嘉手納基地建設のときに砂が採取されたためではないかと言う。

イチャーバーマグワー

マカルーイリーグワーヌサチからシナビヌメーヤールイ（砂辺ヌ前屋取）との境界近くまでを言う。話者によると、短い浜なのでイチャーバーマと呼んだと言う。

昭和10(1935)年前後に、シナビ（砂辺）あたりの浜で次々に護岸が作られた。イチャーバーマグワーもその1つだった。保安林もあった。子どもたちがよく遊びに行く場所の1つだった。

現在の町営砂辺団地の北側あたりである。護岸の一部が残っている。

イノー

シナビイノー

集落の西側の海に広がるリーフ。ハンジャンイノーにクチがあり、そこから船で出入りできた。シナビ（砂辺）の人たちはこのイノーにイジャイに出ていた。主に子どもが海に入って、セーグワー（小さな

■山原船：沖縄本島北部、俗称ヤンバルと中南部を往来していた交易船。

■ガマ：洞窟。ほら穴。



《聞き取り調査風景》

■嘉手納基地：沖縄本島中部にある極東最大の米空軍基地。



《聞き取り調査風景》

■イジャイ：いさり。火を使う、夜の漁。

なエビ)、タクグラー (小さなタコ)、シガヤー (タコ的一种)、イビ (エビ)、カニなどを捕っていた。タクグラーは、昼は沖の方について捕りにくいので、夜になって大人が手網を使って捕っていた。旧暦2~3月にかけては、引き潮のときにアーサ (あおさ) を取っていた。スヌイ (モズク) も取れたが、食用ではなく、もっぱら子どもが、ぬるぬるしているスヌイで滑^{すべ}って遊ぶために取っていた。他にも、ところてんや糊の材料になるチヌマタ (海藻の一種) を集め、売りに行くこともあった。

県道

スクミチ

旧県道。集落の東方向にあり、南北に走っていた道。ハンジャヌウィーヤードゥイ (平安山ヌ上屋取) からクマジャクを通^{とお}って嘉手納^{かで}に向かう道。

スクミチという言葉は、戦前でも年寄りが使うような古い言葉だった。

→喜友名小屋取のクシヌトーを見よ。

村道

ウフドーミチ

シナビ (砂辺) からガッコーやヤクバへ向かう大きな道。

→平安山ヌ上屋取のガッコー、ヤクバを見よ。

馬車道

ナカミチ

屋号ミーティーラ (新照屋) :29 から屋号イリメーグラー (伊礼前小) :40 までを言う。道幅は2間 (3m) ぐらいだったが、屋号ユナシチャグラー (与那下小) :38 の前は3間 (4.5m) ぐらいの広さがあったので、綱引きのときにカヌチを抜くところとして使われた。ムラウチで一番大きい道だった。

ミチ

馬車^{とお}が通る道。シナビ (砂辺) のムラウチから北に向かい、クマジャクに抜ける。

ハーマミチ

カチラの東側沿いを通^{とお}る馬車道。カチラの南東端にあったウシモーから屋号ユージグラー (与儀小) :95 までを言う。屋号ユージグラー (与儀小) を過ぎたところからはハーマミチとは呼ばないが、



◀聞き取り調査風景▶

■スクミチ：宿道。王府時代に首里城と地方の番所 (役所) を結んだ道。

■カヌチを抜くところ：綱引きのときに雄綱と雌綱のつなぎ目に棒を通す場所。綱引きの中央。

道自体はさらに北へ伸び、現在の嘉手納町へと続いていた。道幅は1間半（2.7m）くらいで、馬車が一台通ることができた。

坂道

ユクヒラ

ミッチャヌヒラグワーとも言う。屋号グンナン：72の側を通り、北東へ上っていく道。100mぐらいの坂になっていた。急坂であるため、馬車だと上まで上ることができなかった。人も休み休み上るほどだった。上質の畑やモーがあり、モーアシビも行なわれていた。また、坂の上には墓がたくさんあり、ガンを運ぶときにはユクヒラを通していった。

切り通し

クビリ

カーシヌシーとクシムイにはさまれた坂道。軽便鉄道の線路に沿って、南向けにゆるやかに下る坂になっていた。線路が敷設される前は、カーシヌシーとクシムイはひとつにつながっていた。クビリ（くびれ）のタナカ（真ん中）とも言う。クビリの西側、クシムイの裏側にあたる場所は畑になっていた。

現在、国道58号線と境になるフェンスに沿って走っている嘉手納基地内の道路である。

岩山

カーシヌシー

クシムイから軽便鉄道の線路をはさんで東側にあった岩山。鉄道が敷設される前はカーシヌシーとクシムイはひとつにつながっていた。

頂上付近にカーシヌポントンがある。

現在は嘉手納基地内にある。戦前よりも低くなっている。

カーシヌポントン

カーシヌシーの頂上あたりに、ポントンと呼ばれる大岩があった。話者によると、軽便鉄道に乗ってキュー（桑江）やイリー（伊礼）あたりから見ると人が座っているように見えたと言う。ポントンは読谷方面からも見ることもできた。遠くから見ると人の頭くらいだが、上ってみるとかなりの大きく、6人ぐらい座れるほどだった。インギーマー（ハリツルマサキ）がたくさん生えていた。

シナビ（砂辺）でムラアシビがあるときは、12～13歳の子どもを中心に15～20名でポントンに出向き、鉦や太鼓を叩いて、

■モー：原野。野原。原っぱ。

■モーアシビ：農村で夜、若い男女が野原に出て遊ぶこと。三味線・歌・踊りなどをして楽しむ。

■ガン：籠。葬式するとき、死者の棺を入れて墓地まで運ぶためのもの。

■嘉手納基地：沖縄本島中部にある極東最大の米空軍基地。

■ポントン：丸い球。橋のらんかんの擬宝珠（ぎぼし）などを言う。



◀カーシヌポントン▶

■ムラアシビ：歌・三味線・踊りなどを楽しむこと。また、村芝居・祭りなど、仕事を休んで行なう演芸・娯楽。

ムラ芝居の始まりを告げた。鉦や太鼓の音は、チュンナーグワーヤードゥイ（喜友名小屋取）、ハンジャヌウィーヤードゥイ（平安山ヌ上屋取）、シチャシードゥヤードゥイ（下勢頭屋取）などの周辺の集落まで聞こえていた。

ポントンは、下の方を石ではさまれていて落ちないようにしていた。話者によると、昔、ポントンでよそ者が宝物を探していたらポントンが落ちたので、シナビ（砂辺）の人たち総出で元に戻したという伝え話があると言う。

内陸のほうからシナビ（砂辺）の海岸にかけて、いくつかの岩山が点在するが、それらはハブが嘔みつくような形に並んでいて、カーシヌシーがハブの頭にあたると言う。ポントンはシナビ（砂辺）集落のフンシゲーシの役割をしていた。

現在は嘉手納基地内である。ポントンは半分ぐらいに削られ、根元の部分しか残っていない。戦時中の艦砲射撃でなくなったのか、戦後、飛行場作りに使われたためか、定かではない。

洞窟



クマヤーガマ

集落の南端にあるガマ。クマヤーとも言う。話者によると、自然のままのガマで、そこで祈願や行事を行なうことはなく、とりたてて用事もないので中に入る人はめったにいなかったと言う。

十・十空襲の後、昭和19（1944）年末頃にクマヤーガマを防空壕として使うために清掃や工事が行なわれた。戦前から、クマヤーガマとティラは、人がなんとか通れる程度の隙間でつながっていたが、その隙間を広げてティラとつなげた。また、天井には6つの通気口が開けられた。300人余りの人々が避難し、1人の死傷者も出なかったと言われている。

戦後、シナビ（砂辺）集落全域が米軍に接収されている間に、ガマの入口が埋められ、わからなくなってしまっていた。その後、昭和31（1956）年に返還されたが、貸住宅ブームがあったために、ガマ付近は全部敷きならされてしまい、そのまま家が建てられた。そのため、現在は住宅地となっている。平成元（1989）年にガマの入口が発見され、発掘調査が行なわれた。入口付近からヒスイ、簪、貝の装飾品が出土したほか、風葬が行なわれていたため、古い頭蓋骨などがたくさん発見された。人骨は、ガマ入口隣に納骨堂を設けて移した。現在は、ガマ内には子宝に恵まれるというリュウグーシン（子宮神）と病気を治す神様が祀られていて、鳥居や石碑が建っている。リュウグーシンは女性がお産をすところなので男は入ってはいけないといわれているが、戦前はそのような話は伝わって

■ムラ芝居：集落の人たちが演じる芝居。

■ポントン：丸い球。橋のらんかんの擬宝珠（ぎぼし）などを言う。

■フンシゲーシ：地相が悪くて、悪い気が流れ込んでくるのを防ぐもの。

■嘉手納基地：沖縄本島中部にある極東最大の米空軍基地。

■ガマ：洞窟。ほら穴。

■十・十空襲：昭和19（1945）年10月10日、南西諸島に対して行なわれた米軍最初の大空襲のこと。



◀クマヤーガマ



◀クマヤーガマ

なかった。

現在の砂辺区公民館から南西に100mほど行ったところにある。

ティラ

集落の南端にあるガマ。拝所として拝まれていた。聖域とされていたことと、ガマの中がせまかったため、中に入る人はあまりいなかった。旧暦8月15日頃にティラメーという拝み行事がある。旧暦9月には、各家ごとで、重箱1つに揚げ豆腐、芋のてんぷら、魚などのごちそうを作って、それぞれ都合のいい日に拝みに行く。旧暦9月15日に行くが、9月いっぱいならいつでもよかった。

ティラの周辺は畑だった。入口の側には松が1本生えていて、その周りにはアダンが生えていた。

ティラとクマヤーガマは、人がなんとか通れる程度の間でつながっていたが、十・十空襲の後、昭和19(1944)年末頃にクマヤーガマを防空壕として使うために行なわれた工事のときに、その隙間を広げてクマヤーガマとつなげた。

戦後、シナビ(砂辺)集落全域が米軍に接収されている間に、ガマの入口が埋められ、わからなくなってしまっていた。その後、昭和31(1956)年に返還されたが、貸住宅ブームがあったために、ティラ付近は全部敷きならされてしまい、そのまま家が建てられた。そのため、現在は住宅地となっている。平成元(1989)年にガマの入口が発見され、発掘調査が行なわれた。

現在の砂辺区公民館から南西に100mほど行ったところにある。

トゥイヌヤーガマ

ンマイの下にあったガマ。話者によると、南向きで風よけになるためか、よく鳥が出入りしているのを見たと言う。特に台風のとときには風を避けるために鳥が入ってきていたと言う。

10人ぐらい入れるガマで、冬など寒い季節はこの中でモーアシビをすることもあった。

現在、ンマイの南に作られた砂辺馬場公園内であるが、ガマの入口は埋もれている。

トゥルクガマ

ガンヤーの南側にあった小さな三角形のガマ。かつては護岸が岬の崖に突き当たるところにあった。屋号ミードウンチ(新殿内)の墓があるところの崖にあたる。

■ガマ：洞窟。ほら穴。



《ティラ》

■十・十空襲：昭和19(1944)年10月10日、南西諸島に対して行なわれた米軍最初の空襲のこと。

■ガマ：洞窟。ほら穴。

■モーアシビ：農村で夜、若い男女が野原に出て遊ぶこと。三味線・歌・踊りなどをして楽しむ。

■ガマ：洞窟。ほら穴。

ガクフチャーガマ

集落の北方向の海岸にあったガマ。トゥピラヌサチの北面にガマの入り口がある。乞食が住んでいた。ガマの上や周囲には墓がたくさんあった。

現在の北谷町^{ちやたん}と嘉手納町^{かてな}との境界線上で、嘉手納基地^{かてな}の誘導灯^{ゆうどうとう}の下となる。

丘

グーフ

カーラの北側、マガヤーの西側にあった小さな岩。グーフムイ、グーフムイグワーとも言う。グーフはニービのように堅くて黒っぽい石だった。

グーフでは昭和18(1943)年ぐらいまでモーアシビが行なわれていた。シナビ^{シンバルヤードウイ}(砂辺)と千原屋取の両方から男女が集まっていた。

グーフの近くにソーシギ(ソウシジュ)があった。話者によると、このあたりに畑を持っていた人が、防風林^{ぼうふうりん}として植えたのではないかと言う。また、グーフ近くの畑では、コーブシ(ハマスゲ)やヤファタ(ムラサキカタバミ)などの雑草を抜いたら、グーフの近くに捨てていた。

現在は国道58号線に重なっている。

クシムイ

拝所^{はいしょ}のあるムイ。集落のクシにあたるのでクシムイと言う。鉄道が敷設される前はカーシヌシーとつながっていた。クシムイの東側と南側、3分の1くらいまで上ったあたりから軽便鉄道まで畑が広がっていた。イシグーが多い土地で、それほど畑作向きの土地ではなかったが、芋^{イモ}や豆^{マメ}を作っていた。

クシムイの中や南側と西側の麓^{ふもと}には墓があった。

頂上にはウフシヌシーがある。

戦後、クシムイの北側では米軍がコーラル^{さいくつ}を採掘していた。

ウガン

クシムイの南側で、ノーリグワー^{そば}の側にあったムイ。以前はカーシヌポントンとつながっていたが、鉄道が敷設されたため、切り離された。ウタキとも言う。拝所^{はいしょ}であり、旧暦^{ついでち}の朔日や十五日に屋号ニードウクル(根所^{おが})の家人が拝んでいた。ニードウクル一家の者以外の人間がここで木の枝を取ったり折ったりすると、祟^{たた}られると言われていた。そのため、普通の人は、このウガンをシジダカサン^{おそ}と言って畏れ、拝むことはあまりなかった。しかし、集落の行事と

■ガマ：洞窟。ほら穴。

■嘉手納基地：沖縄本島中部にある極東最大の米空軍基地。

■ニービ：赤くざらざらした堅い土質。

■モーアシビ：農村で夜、若い男女が野原に出て遊ぶこと。三味線・歌・踊りなどをして楽しむ。

■千原屋取：現在の嘉手納町域にあった。エイサーが有名な集落だった。

■ムイ：丘。山。

■クシ：後ろ。

■イシグー：さんご礁などを砕いた細かい砂利。

■コーラル：サンゴの死骸が小石や砂利になったもの。



《クシムイ》

■シジダカサン：神々しい。神の霊力が高い。聖地などについて言う。

して行なうムラシーミーのときには、ウガンでも祈願を行なっていた。

話者によると、たくさん生い茂^{しげ}っていた木を家屋造りのために乱伐^{らんぱつ}されたら困るという意味があったかもしれないが、本当に祟^{たた}りもおきたと言う。昭和19(1944)年、掩体壕^{えんたいごう}を作ることになったときには、シナビ(砂辺)集落では軍に出資を願い出て、祈願を行なってから樹木の伐採^{ばつさい}をした。祈願を行なわずに伐採したときは、作業員にけが人や病人が出るがあったという。

ンマイームイ

ンマイの北側にはンマイームイと呼ばれる丘が隣接し、南は屋号マカルーイリーグワー(真苺伊礼小):1あたりの小さなシーのところまで広がっていた。ムラアシビなどの行事やモーアシビをする場所だった。

17本位の立派な松^{マツ}があり、そのうちもっとも東側にあった古い松は特にホーヤーマーチと呼ばれていた。しかし、現在ある松はすべて戦後のものである。また、ンマイームイの東側斜面にはたくさんのソテツが生えていた。

現在、「米軍上陸地モニュメント」があるところである。

池沼



イチ

池。屋号ユージグワー(与儀小):95の南側にあった。浅かったが、広さは100坪ぐらいあった。大雨が降ると雨水でいっぱいになる。湧き水^わではなかった。家畜^{かちく}(馬・牛)に水浴びをさせたり、芋^{イモ}を洗ったりするのに使っていた。

イチ

池。カチラ^{そば}の側にあった。きれいな水が湧いており、それが溜まって池になっていた。カチラとつながっており、その一部になっていた。農作業の帰りに家畜^{かちく}(馬・牛)に水浴びをさせたり、芋^{イモ}を洗ったりするのに使っていた。子どもが泳いで遊んだりする場所でもあった。

ノーリグワーグムイ

ノーリグムイとも言う。ノーリグワーの途中、土地の高低差のために滝になるところがあり、その滝壺のところには常に水が溜まっていた。それをノーリグワーグムイと言う。2尋(3m)ほどの深さがあった。広さは馬が泳げるぐらいに広がった。雨が降るといっば

■ムラシーミー：集落で行なう墓参り。集落の共同墓地や拝所で祈願をささげる。

■掩体壕：射撃がしやすいように、また敵弾から身を守るための壕。

■シー：岩山。

■ムラアシビ：歌・三味線・踊りなどを楽しむこと。また、村芝居・祭りなど、仕事を休んで行なう演芸・娯楽。

■モーアシビ：農村で夜、若い男女が野原に出て遊ぶこと。三味線・歌・踊りなどをして楽しむ。

■米軍上陸地モニュメント：北谷町の平和祈念のシンボルとして、平成3(1991)年4月1日に建立されたもの。



〈聞き取り調査風景〉

いになり、ノーリグワグムイから溢れ出た水は海へと流れた。馬に水浴びをさせたり、子どもが飛び込みをして遊んだりするところだった。

話者によると、シナビ（砂辺）の人以外にも、近くのハンジャヌウィーヤードウイ（平安山ヌ上屋取）やシナビヌメーヤールイ（砂辺ヌ前屋取）の人たちも使っていたのではないかと言う。

礁池



ナービグムイ

ンマイムイから海に突き出した岬のすぐ先にあった。イノーが潮流にえぐられてできた。鍋の底に似た形をしていたので、ナービグムイと言う。潮が引いたときには深さ2m、直径10mぐらいあった。ボラなどの魚も入り込んでいた。子どもたちが泳ぎや潜りの練習をする遊び場所に使っていた。

マチグムイ

シナビヌメーヤールイ（砂辺ヌ前屋取）のマチグムイヌサチにある岩から10mぐらいのところにあった。広くて深いクムイで、夏になると北谷小学校の海水浴場として使われた。昭和3～4（1928～29）年頃から石段を積むなどして少しづつ整備し、昭和6（1931）年からは毎年、教師の監視のもとで、北谷小学校の児童全員が海水浴を行っていた。

昭和20（1945）年頃には、日本軍がここで手榴弾を投げて魚をとったり、海水浴もしていた。

現在は埋め立てられている。

→砂辺ヌ前屋取のマチグムイヌサチを見よ。

湧水井戸



ンブガー

屋号ウサーチカジャングワー（ウサー津嘉山小）：19の東側にある湧き水。ホーヤーガーとも言う。縦型の洞窟に似た形をしているが、深さはなく、数段降りたところで人が通れないせまきになり、その先は湧き水で満たされている。水量が豊富だったが、戦前からすでに飲料水や生活用水としては使われておらず、主に拝所として拝まれていた。

子どもが生まれたときに、ンブガーの水を音をたてないように汲み、眉間に水をつけた。水を汲むときにプルプル震えると、子どもが喘息になると言われた。若水もンブガーから汲んでいた。ニープといってもバナナの葉を帽子のようなかたちにしたもので、それを

■イノー：礁池。

■クムイ：池。沼。

■北谷尋常高等小学校：明治35（1902）年に北谷尋常小学校と野国尋常小学校の二校が合併し、平安山ヌ上屋取に開校した。昭和16（1941）年の「国民学校令」により、学校名が国民学校へと変わった。



《ンブガー》



《ンブガー》

■ニープ：ひしゃく。

使ってゆっくり汲んだ。

ンブガーの入り口にアカギが1本生えていた。

現在のニービの石碑の基部は戦前からの石である。

掘井戸



タキガー

ウガンの南西側の麓にある湧泉。拝所でもあった。ウガンガー、タキグサイウカーとも言う。

旧暦1月7日にナンカヌシクという祈願を行なった。菜の花、芋など、畑の作物を酒とともに供えた。

戦前、平安山ヌルは白い着物を着て、この井戸で手足を清めてから、トゥンなどムラウチの拝所を拝んだという。

シジダカサンと言われ、畏れられていたので、普通の人あまり訪れなかった。

カーバタガー

共同井戸。屋号ウチインガーグワー（内犬川小）：63の敷地内にあった。もともとはチンガーだったが、昭和7～8（1932～38）年頃にポンプ井戸に整備された。深さは3尋（4.5m）、井戸の口の幅は普通の井戸の倍くらいあった。

メーチンジュの人々がお茶を入れる水として使っていた。また、カーバタガー周辺の家は、手足を洗ったり、芋や野菜、農具などを洗ったり、洗濯をしたりするのも使っていた。

この井戸をムラ行事として拝むことはなかったが、ウコールと、インガントウーのような小さな無銘の石碑がおかれていて、個人で拝みにきていた。

共同井戸は、それぞれの井戸があるチンジュの人々が年に一回、カーザレーを行っていた。カーバタガーは、イリチンジュの人が掃除していた。

現在も郷友会の予算で整備している。

インガー

共同井戸。屋号ウィーヌインガー（上ヌ犬川）：60の屋敷前、西側にあった。ほとんどの家に井戸があったが、この井戸の水も飲料水として共同利用されていた。炊事や、芋や手足を洗ったりするためにも用いられた。

現在の井戸の深さは4mぐらいだが、戦前はずっと浅かった。井戸があった位置もずれており、現在は道路の真ん中あたりだが、そこから2mほど西側にあった。

■ニービ：赤くざらざらした堅い土質。

■平安山ヌル：平安山祝女。伊礼・平安山・浜川・砂辺・桑江の5集落の祭祀を管轄していた。平安山の屋号ヌドゥルチがヌルだった。

■シジダカサン：神々しい。神の霊力が高い。聖地などについて言う。



《カーバタガー》

■チンガー：つるべ井戸。

■ウコール：御香炉。線香をたてる炉。

■インガントウー：石敢當。中国起源の除災招福の石柱。

■カーザレー：井戸掃除。



《インガー》

橋



ガイセンバシ

ウガンの南西側にあり、ノーリグワーに架かっていた橋。木橋だったが、3回ほど水に流されたので、昭和13(1938)年頃に石橋に改築した。改築当時は日中戦争が始まったばかりの時期だったので、勝利を祈願するという意味で、伊礼肇村長がガイセンバシ(凱旋橋)と命名したと言う。

馬車も通ることができた。また、コンクリートで高さ60cmぐらいのランカングワーが作られていた。ときどきモーアシビも行なわれていた。

出征する兵士は、ニードゥクルを拜んでからこの橋を渡り、発っていった。

ユタカバシ

ノーリグワーとシナビヌメーヤールイ(砂辺ヌ前屋取)の屋号カーニー(川根)に続く道に架かっていた橋。

昭和18~19(1943~44)年の1~2月頃に作られた。話者によると、完成後すぐに、沖縄戦が始まったので、そのときに壊されたと思われると言う。ごく短い間しかかかっていなかったため、名称などははっきりしない。戦死者を集落に迎えるときはこの橋を渡らせたと言う。

製糖小屋



サーターヤー

共同製糖小屋。屋号メンティーラ(前照屋):17の北側の道路をはさんで向かいにあった。2か所並んでいたが、昭和年代には1か所しか使われていなかった。

メーチンジュとメーナカチンジュの人たちが共同使用していた。

サーターヤー

共同製糖小屋。屋号メーヌチャングワー(前ヌ喜屋武小):64の南側にあった。

イリナカチンジュの人たちが共同使用していた。

サーターヤー

共同製糖小屋。屋号カマーチニングワー(蒲知念小):99の西側、道をはさんだ向かい側にあった。

イリチンジュの人たちが共同使用していた。

■ランカングワー：欄干。

■モーアシビ：農村で夜、若い男女が野原に出て遊ぶこと。三味線・歌・踊りなどを楽しむ。



〈現地調査・嘉手納基地内〉

拝所



イヒャウトゥーシ

集落の一番北側にある^{はいしよ}拝所。伊平屋の^{いへや}按司^{あじ}を^{ようはい}遥拝するための拝所で、ごく小さなムイグワーになっていた。カンカー、イヒャウトゥーシウガミなどの祈願行事を行なった。

現在の^{すなべ}砂辺スポーツランドの前の道が^か嘉手納^な基地の^{ちよゆ}陸軍貯油施設のフェンスに突き当たる地点から、やや南側にある。

ジトゥーヒヌカン

話者によると、もとはジトゥデーの屋敷だったが、^{はいはんちけん}廃藩置県でジトゥデーが^{なほ}那覇に引き揚げたあと、残ったヒヌカンを^{まつ}祀っていると^{ほこら}言う。簡単な石垣で囲った小さな祠があり、中に^{サンゴ}香炉が置いてあった。祠の屋根はテーブル珊瑚が石化したヒライサーと呼ばれる石をかぶせただけのものだったので、台風がくるたびに^{こわ}壊れてしまい、そのうち直されなくなり、なくなってしまった。

現在は、^{すなべ}砂辺戸主会によって^{こんりゅう}建立された^{ほこら}祠がある。

ウフシヌシー

クシムイの頂上にある大岩。拝所として^{おが}拝まれていた。

話者によると、^{ハンザン}平安山ヌルはここに^{おが}拝みにきたことはないと言う。平安山ヌルが^{シナビ}（砂辺）で祈願を行なう場所は^{トゥン}トゥンだけで、他の^{おが}拝所には行かなかったと言う。

現在も^{おが}香炉が置いてある。

ニガン

屋号ニードウクル（^{はいしよ}根所）：51の敷地にあった^{おが}拝所。母屋とは別棟の建物になっていた。話者によると、^{ウカミヤー}ウカミヤーと比べると格が下で、線香をあげるぐらいしかなかったと言う。

現在も、母屋の北西側に小さな小屋が建てられている。

トゥン

^{ハンザン}平安山ヌルが^{シナビ}（砂辺）に来て^{おが}拝んでいた^{はいしよ}拝所。クシムイの西側に崖になったところがあって、その岩陰に^{おが}香炉を置いてあるだけで、建物などはなかった。

トゥンの前方は小さな広場になっていて、^{ウマチー}ウマチーの前には草刈りをしていた。『琉球国由来記』には^{シナビ}（砂辺）の人たちが^{イモ}芋の神酒六完を^{おが}供えるとあるが、戦前の段階では神酒は^{おが}供えていなかった。

現在は小さな建物と碑がある。

■按司：古琉球～琉球王府時代の位階名。

■嘉手納基地：沖縄本島中部にある極東最大の米空軍基地。

■ジトゥデー：地頭代。地方役人の長。現在の村長に近い。

■ヒヌカン：台所に祀られる火の神。かまど神。また、ノロ火の神。地頭火の神など、集落の公的祭祀の場にもなる。

■ヒライサー：テーブル珊瑚が石化した平たい石。

■平安山ヌル：平安山祝女。伊礼・平安山・浜川・砂辺・桑江の5集落の祭祀を管轄していた。平安山の屋号ヌンドウチがヌルだった。

■ウマチー：稲麦などの農耕に関して行なわれる祭り。

■『琉球国由来記』：琉球国の地誌。全21巻。

神家

ウカミヤー

シナビ（砂辺）集落のニガンまつを祀はいしよっている拝所。ほとんどの行事の祈願きがんはウカミヤーで行なわれる。屋号ニードウクル（根所）：51の敷地内に別棟の建物として建てられていた。

現在でも、屋号ニードウクル（根所）の敷地内にあり、赤瓦屋根の大きな屋敷となっている。

ニードウクル

クシムイの西側に隣接している家の屋号。屋号ニードウクル（根所）：51のことである。敷地内にはウカミヤーがある。

シーシヌウグワンのときの獅子舞ししまいなどもここが出立点となる。出征兵士しゅっせいへいしたちはここに立ち寄り、拝おがんでから出立した。

馬場

ンマイー

集落の南西側にあった馬場。17本位の立派な松まつがあり、そのうち一番東側にあった古い松は特にホーヤーマーチと呼ばれていたが、現在ある松はすべて戦後のものである。北側にはンマイームイと言う丘が隣接していた。その東側斜面にはたくさんのソテツが生えていた。

ンマイーでは、旧暦1月20日にンマスーブが行なわれていた。ウィーシードウヤードウイ（上勢頭屋取）、シチャシードウヤードウイ（下勢頭屋取）、宜野湾村ぎのわんせん、越来村ごえくそんなどから出場馬が集まった。馬はきれいに飾られていて、どれくらい美しい足並みで走れるかを競い、速さよりも美しさが重視された。馬は北側のムイふもとの麓から出発して南のほうに向かって走った。観客はンマイームイから競争を観戦かんせんしていた。

旧暦4月にはアブシバレーを行なった。ンマイーの浜から、芭蕉バショウで作った虫かごに入れたヘンサー（カメムシの一種）を海に流した。

旧暦8月15日から3日間行なわれるムラアシビの初日は、ンマイーでシーシマーシや「長者の大主」などが演じられた。

昭和6（1931）年頃から、辻遊郭の遊女たちや那覇なはの小学生が、汽車に乗ってンマイーまで遠足に来るようになった。ンマイーの浜で潮干狩りをしたり、リレーなど運動会のようなことをして遊んでいた。また、糸満いとまんの漁船が沖に船を停泊させて、ンマイーの浜に上がって休憩することもあった。

話者によると、昭和11（1936）年頃、新聞社が沖縄八景を決める投票かいさいを開催したので、シナビ（砂辺）でも投票用紙を手に入れる

■ニガン：集落の神官。ニガンのいる家をニードウクルと言う



《ウカミヤー》

■ンマスーブ：馬の飾りや歩き方の美しさを競う。

■アブシバレー：旧暦4月頃に行なわれる害虫よけの行事。

■ムラアシビ：歌・三味線・踊りなどを楽しむこと。また、村芝居・祭りなど、仕事を休んで行なう演芸・娯楽。

■シーシマーシ：獅子舞。

■長者の大主：集落の行事のなかで演じられる祝儀舞踊。

ために各戸で新聞を取って投票運動をしたが、八景には選ばれなかったと言う。

戦時中は、青年学校や嘉手納農林学校の生徒が軍事教練に使っていた。

広場

アシビナー

屋号メーリンドー（前林堂）：34の南側の広場。ムラアシビを行なう場所で、芝居の舞台を作るときの礎石があった。

ホーヤーガジマルが生えており、子どもたちの遊び場所だった。

現在の砂辺区公民館の駐車場あたりである。

ウフカーニーモー

ンブガーの上はモーになっていて、ウフカーニーモーと呼ばれていた。近くに帽子クマーのヤードウがあったので、帽子編みの作業が終わると若者たちがウフカーニーモーに集まってモーアシビをしていた。

アガリジョーモー

屋号アガリジョー（東門）：49の南側にあった広場。旧暦8月9日のカンカーのときに、牛を屠殺した場所の1つ。

ウシモー

イリナカチンジュのサーターヤーの西側にあり、カチラに面していた。牛や馬に水浴びさせたあとなどに、このモーに放って遊ばせていた。屋号ミーガーグワー（ミーガー小）は牛を2～3頭飼っていて、よくウシモーで遊ばせていた。

シナビ（砂辺）ではアガリジョーモーとウシモーの2か所でカンカーの祈願を行っていた。カンカーはもとは2月と8月の年2回行っていたが、昭和初期には、年1回、8月9日にだけ行なうようになっていた。

獅子屋

シーシャー

獅子舞の獅子を納める小屋。屋号ウフティーラ（大照屋）：48の南側にあった。屋根は赤瓦で、壁は杉板でできていた。

普段、獅子は箱におさめられて、シーシャーに安置されていた。

旧暦7月17日のシーシヌウグワンや、旧暦8月15日の十五夜のときに獅子舞を舞う。

■嘉手納農林学校：沖縄県立農学校。国頭農学校がその前身。大正3（1916）年に嘉手納に移設された。

■ムラアシビ：歌・三味線・踊りなどを楽しむこと。また、村芝居・祭りなど、仕事を休んで行なう演芸・娯楽。

■モー：原野。野原。原っぱ。

■帽子クマー：アダンの葉やこよりで帽子を作る内職。

■ヤードウ：一時的に集会所にあてられる家。

■モーアシビ：農村で夜、若い男女が野原に出て遊ぶこと。三味線・歌・踊りなどをして楽しむ。

■カンカー：集落に悪疫が入ってくるのを防ぐための行事。

■モー：原野。野原。原っぱ。

■カンカー：集落に悪疫が入ってくるのを防ぐための行事。



《シーシャー》

龕屋



ガンヤー

クィージヌサチにあった。瓦ぶきのガンヤーだった。

現在は小さな畑や野原になっていて、近くには木の碑が建てられているが、ガンヤーの跡^{あと}は残っていない。

■ガンヤー：龕を納めておく小屋。

標木



ホーヤーマーチ

ンマイームイに生えていた松^{マツ}。ムイの上の東寄り、集落に最も近いところに生えていた。ホーグにある松や蔡温松^{さいおんマツ}と同じくらい古い大木だった。ンマイームイには、十数本の松が生えていたが、これらは戦時中に伐採^{ばっさい}されるなどしてだいぶ数が減ってしまった。

■蔡温松：三司官として農業・林業に大きな業績を残した蔡温の指導によって植えられた松。

その他

マガヤー

シナビ（砂辺）からクマジャクの方へ向かう馬車道はグーフの南側あたりでバンジョーガニーのように直角に曲がっていた。そこをマガヤーと言う。

■バンジョーガニー：かね尺。直角に曲がったものさし。

～ ちやたん 8月15夜遊び ～

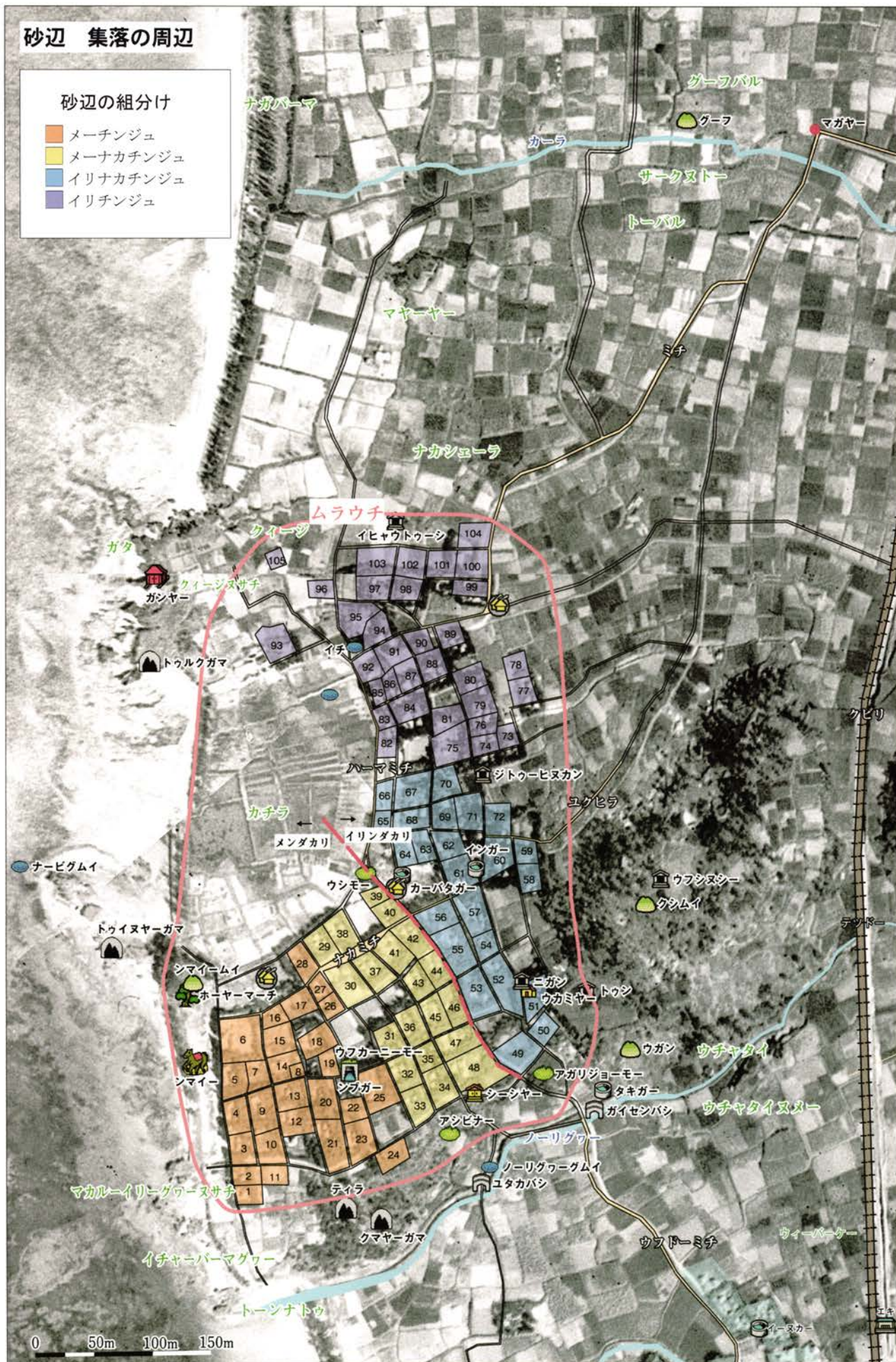
<夕千鳥>



砂辺 集落の周辺

砂辺の組分け

- 梅チンジュ
- 梅ナカチンジュ
- イリナカチンジュ
- イリチンジュ



上勢頭屋取



現在の上勢頭屋取

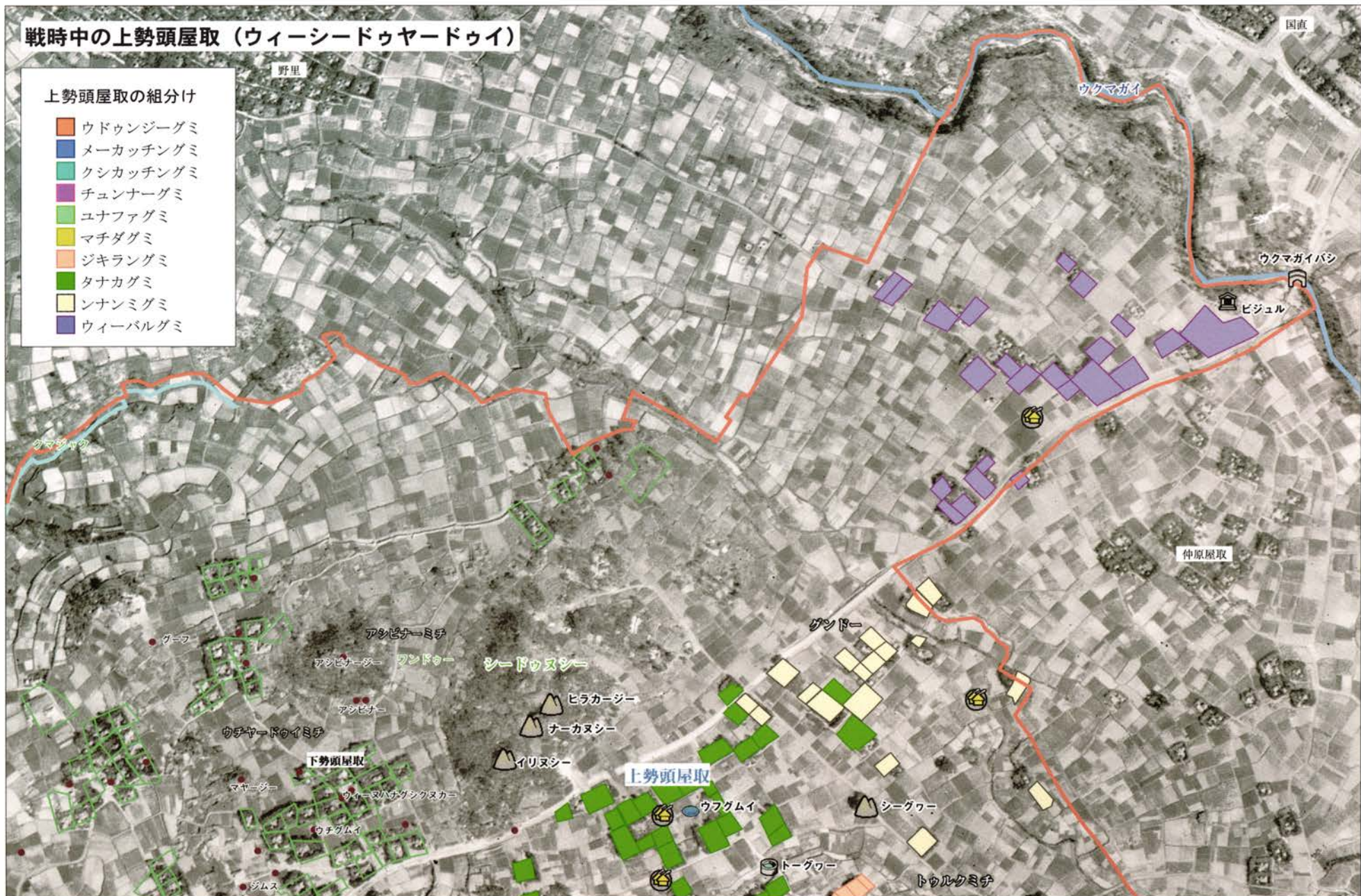


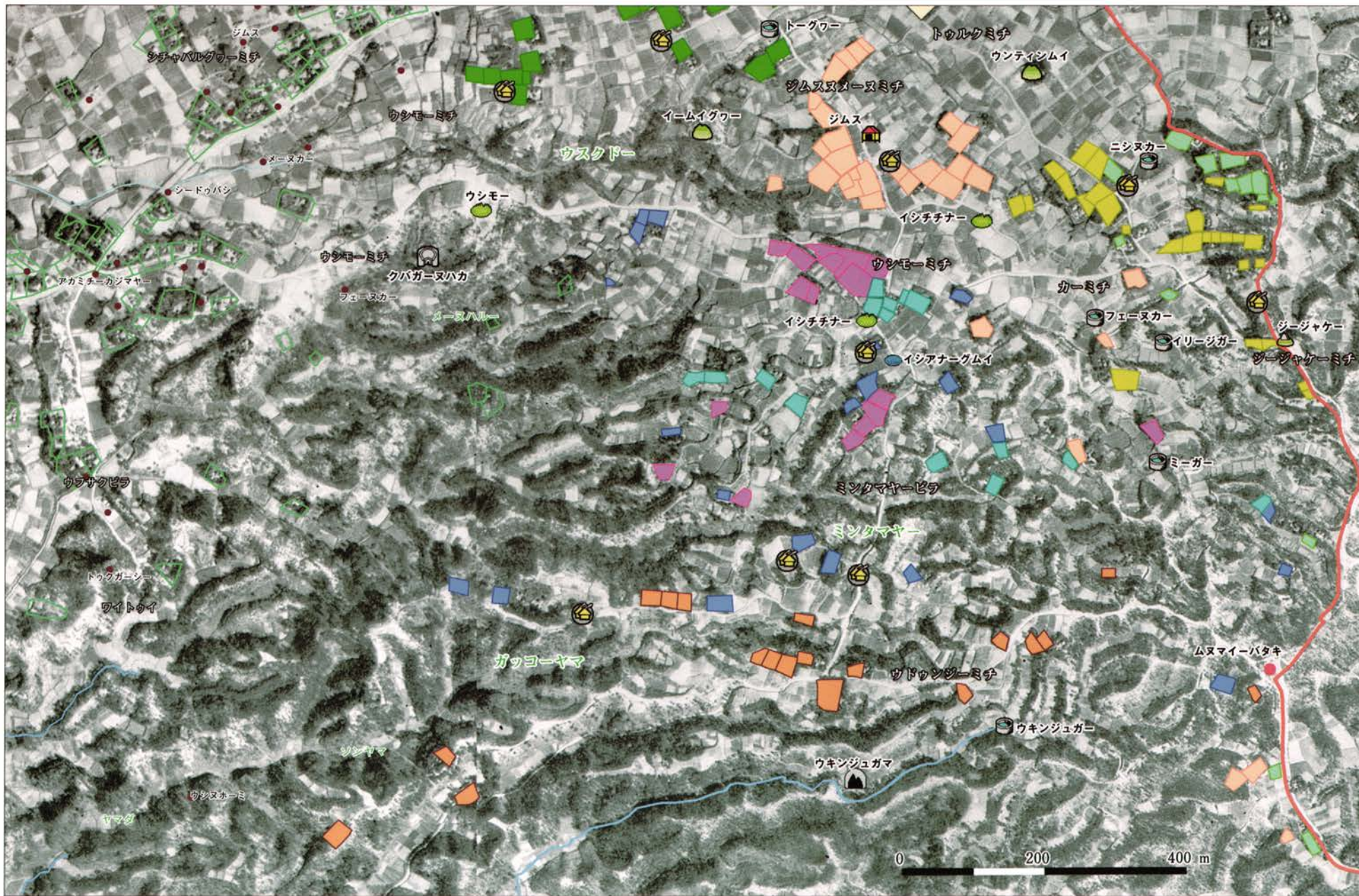


戦時中の上勢頭屋取 (ウィーシードゥヤードゥイ)

上勢頭屋取の組分け

- ウドゥンジーグミ
- メーカッチングミ
- クシカッチングミ
- チュンナーグミ
- ユナファグミ
- マチダグミ
- ジキラングミ
- タナカグミ
- シナンミグミ
- ウィーバルグミ





ウィーシードゥヤードゥイ（上勢頭屋取）

北谷町域北東部一帯に広がる^{ヤードゥイ}屋取集落。戸数は220軒で、そのうちカーラヤーは20軒ほどであった。

ウィーシードゥヤードゥイ（上勢頭屋取）は、主に血縁的つながりで小集落に分かれており、それらを「組」と呼んでいた。ウィーバルグミ、タナカグミ、ンナンミグミ、ジキラングミ、マチダグミ、ユナファグミ、チュンナーグミ、メーカッチングミ、クシカッチングミ、ウドウンジグミの10組である。「組」は昭和に入ってから使うようになった呼び方で、それ以前は「ジキランヤードゥイ」のように「ヤードゥイ」と呼んでいた。

ウィーシードゥヤードゥイ（上勢頭屋取）は首里・那覇・泊・久米の士族が入植してできた屋取集落で、その入植時期は約200年ほど前と考えられる。近世期から近代にかけてはシチャシードゥヤードゥイ（下勢頭屋取）と合わせて「勢頭七組」と称されていた。

「勢頭七組」とは田仲組・稲嶺組・瑞慶覧組・与那覇組・喜友名組・勝連組と、サクガーヤードゥイ（佐久川屋取）である。字浜川、字伊礼、字平安山、字桑江に分散して広がっていた。大正10

（1921）年、「勢頭七組」は上勢頭・下勢頭の行政字として、それぞれ独立し、区長がおかれた。このとき字桑江に属していた御殿地^{ヤードゥイ}屋取がウドウンジグミとして加わった。しかし、行政字としての上勢頭が成立したあとも、地籍は字伊礼、字平安山、字桑江のままだった。地籍字として成立するのは昭和26（1951）年の土地所有権確認事業を経てからである。昭和10（1935）年頃、勝連組がメーカッチングミとクシカッチングミに分かれた。同じ時期に与那覇屋取から勢理客組が分離した。その後の昭和12～13（1937～38）年頃に勢理客組はマチダグミに名称を改めた。昭和26（1951）年には、行政字国直（地籍字は野里）に属していた喜屋武組がンナンミグミに加わり、昭和60（1985）年に再びンナンミグミから分離して、ウィーバルグミに名称を改めた。

主業は農業で、芋やサトウキビを作っていた。副業でカマンタやパーキなど竹細工の生産が行なわれており、それらは仲買業者や商人によって買い取られ、那覇や山原に出荷された。特にカマンタは、近隣集落からシードゥカマンタと称されるほど有名だった。

サーターヤーは、各組に1～3か所、総計で12か所あり、親戚関係のある家で共同使用していた。個人所有のサーターヤーも4か所あった。また、それぞれのサーターヤーにはクムイがついていた。

集落全体で拝む拝所はなかったが、ンナンミグミのビジュル、ウィーバルグミのビジュルのように、「組」単位で拝む場所があった。

水タンクが20基ほどあった。「天水を大量に生活用水として利

■カーラヤー：瓦ぶきの家。



◀聞き取り調査風景▶

■サクガーヤードゥイ：シチャシードゥヤードゥイ（下勢頭屋取）のこと。最初の入植者である佐久川家の名を取って、サクガーヤードゥイとも言う。

■カマンタ：大なべのふた。茅・藁などを編んで作る。

■パーキ：ざる。かご。

■山原（ヤンバル）：沖縄本島北部、国頭郡の俗称。

■サーターヤー：製糖小屋。

■クムイ：池。沼。

■ビジュル：霊石として祀られる石。

用出来るようになったのは、あちこちに瓦屋根がふえてきた昭和の初め頃からである。- 略 - 瓦屋根の先にティー（樋）を掛けてもらい、屋根の雨水をコンクリートタンクに集めた。」（『上勢頭字誌・上巻』より引用）また、家々には溜め池が掘られた。「各戸の庭にクムイを掘り生活用水として利用した。ある家には3つものクムイがあった。（『北谷町史・民俗下』より引用）

【集落で行なわれる主な年中行事】

●旧暦2月2～3日<ニングワチャー（クスツクィー）>：「ヤードゥイ（上勢頭の中の小組単位の集落）のニングワチャーヤードゥ（クシュツクィーの会場にあたる家）の上座の真ん中で、長老が土帝君の像を心の中で念じつつ五穀豊穡の祈りを捧げた。- 略 - 初日は、青年組と老年組の何人かで井戸拝み（カーウガミ）をする。二日目は青年組の家でシンムイ（四角いお膳にごちそうを盛り桃花の小枝をさして飾ったもの）を造り、午後になると、竹竿の先に藁束で作った輪を大根の花や桃の花で飾った旗頭を先頭に、シンムイをかつぎ、三線でトーシンドーイをかきならし、全員踊りながらミチジュネーイ（パレード）をしながら、老年組の宿にチジワタイする。」（『上勢頭字誌・上巻』より引用）

●旧暦5月<ハルヤマスーブ>：「農事奨励の方法として、村役場主催で各字対抗の原勝負がおこなわれていた。勝負の対象は家畜・農作物の優劣や、緑肥などの手入れ状態を数人の審査員が各字を回って審査し、その功績を発表した。」（『上勢頭字誌・上巻』より引用）

●旧暦7月15日<ヤイサー>：各組ごとで行なっていたが、他集落へ行く場合には組を越えて集まった。男性のみで行なわれる。「上勢頭では十五日の晩、ウークイがすむと、事務所の庭（ジムスヌナー）やシーグワー、石付庭（イシチチナー）に近くの若者が集まり、数週間前から練習していたエイサーを始める。上勢頭の瑞慶覧組は事務所の庭、稲嶺組はシー小、田仲組は首里喜友名の前と各ヤードゥイ、それぞれ広場から始まって各家々を夜通しめぐり歩いた。」（『上勢頭字誌・上巻』より引用）

●旧暦9月9日<チクザキ（クングワチクニチー）>：「戦前は毎年九月九日には上勢頭と下勢頭の境にある牛毛（ウシモー）（闘牛場）で、盛大な闘牛大会が行われた。」（『上勢頭字誌・上巻』より引用）

集落域は米軍に接收され、現在も嘉手納基地内である。そのため、人々は他集落へ分散して暮らしている。しかし、郷友会を中心として『上勢頭誌』の発行や、さまざまな活動を行ない、親睦を深めている団結の強い集落である。



＜聞き取り調査風景＞

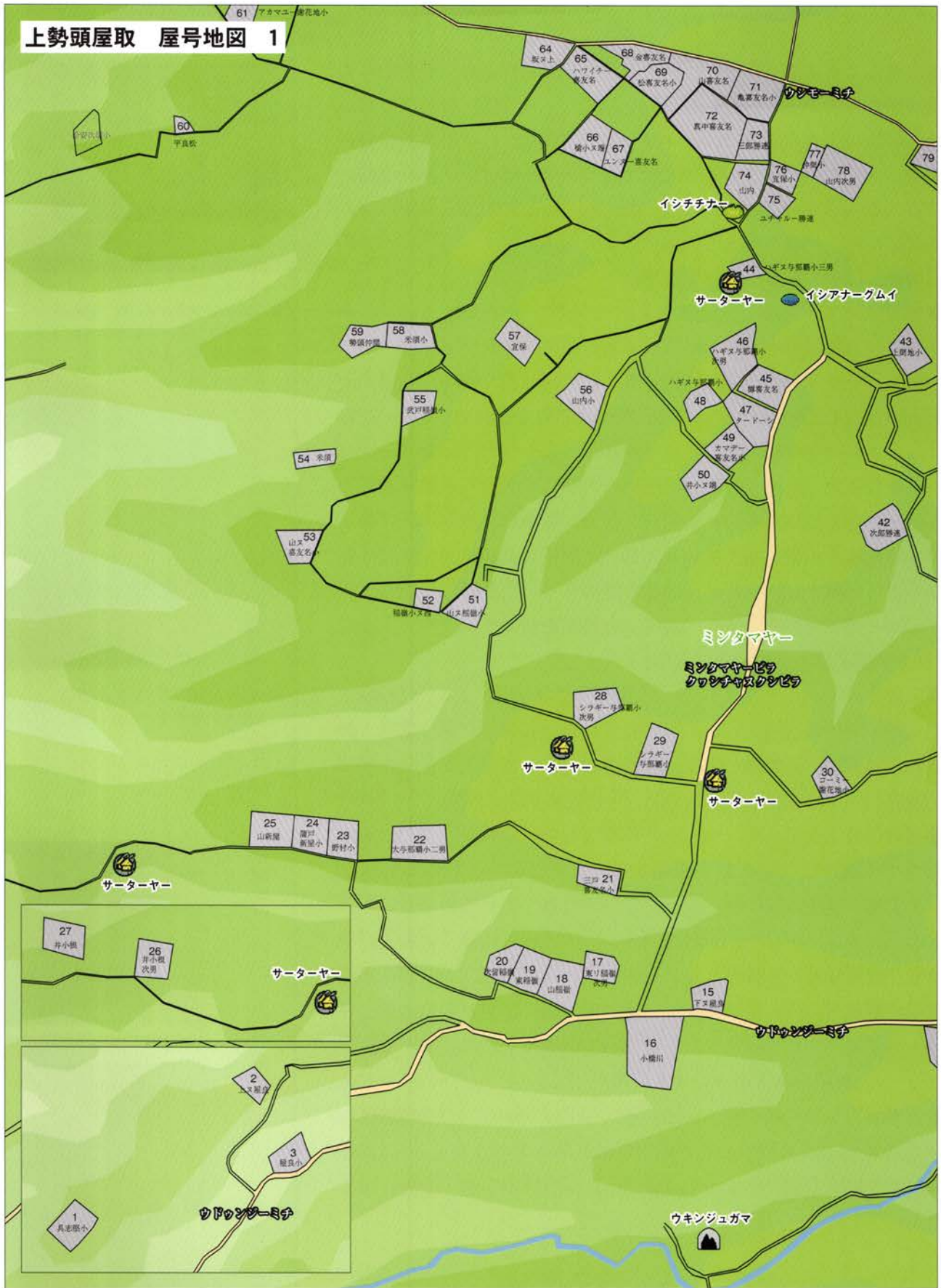
■ニングワチャー：旧暦2月に行なわれる行事。集落や組単位で酒宴を開き、余興をして楽しむ。

■ハルヤマスーブ：耕地や農作物の優劣を集落同士で競う行事。

■ヤイサー（エイサー）：旧暦7月に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。

■嘉手納基地：沖縄本島中部にある極東最大の米空軍基地。

上勢頭屋取 屋号地図 1



上勢頭屋取の家の配置 (数字は屋号番号)



鉄道



河川

(小さい文字は他の集落の呼び名)

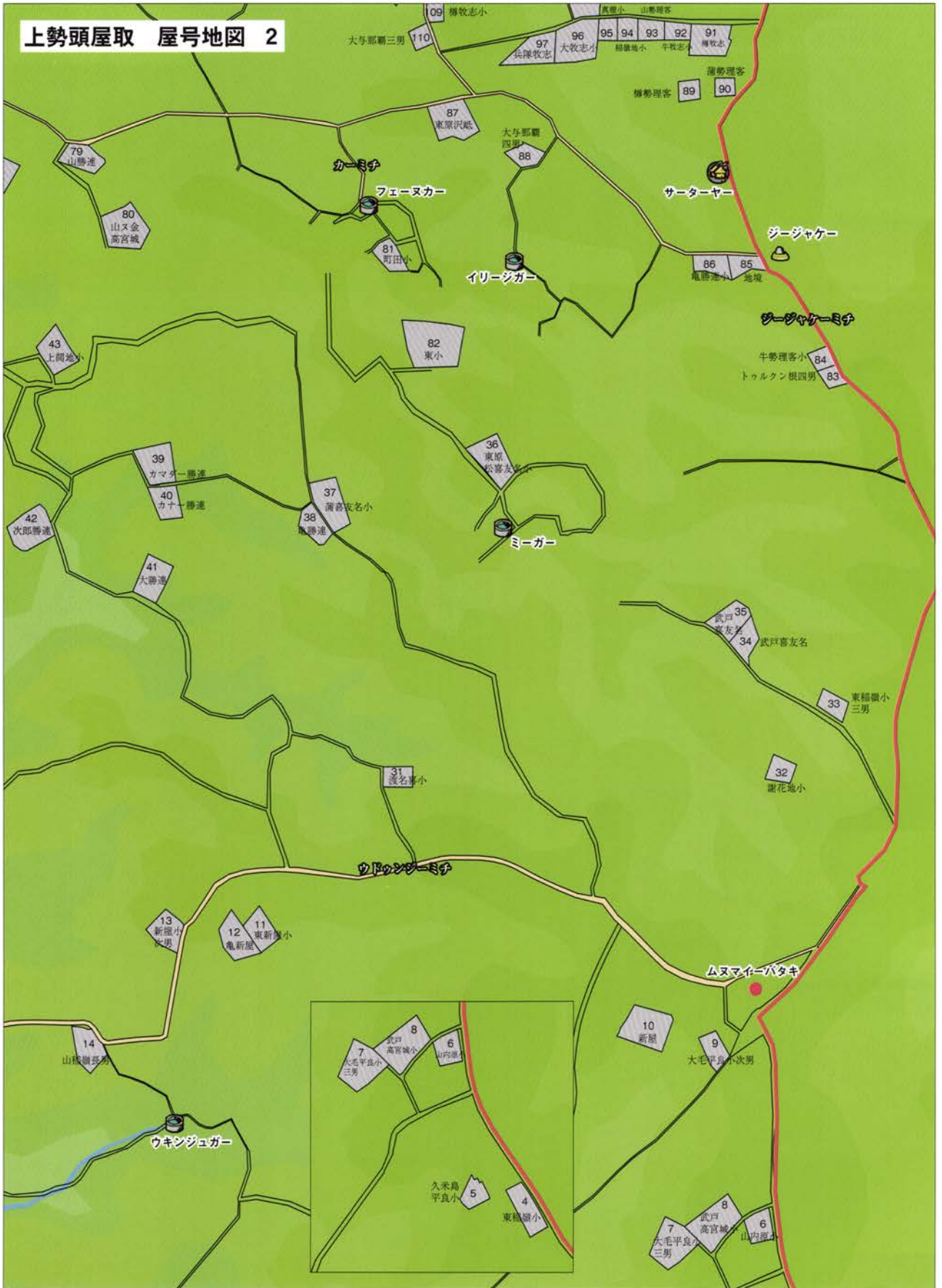


道路

(小さい文字は他の集落の呼び名)

緑の文字 地域の名称 (小さい文字は他の集落の呼び名)

上勢頭屋取 屋号地図 2



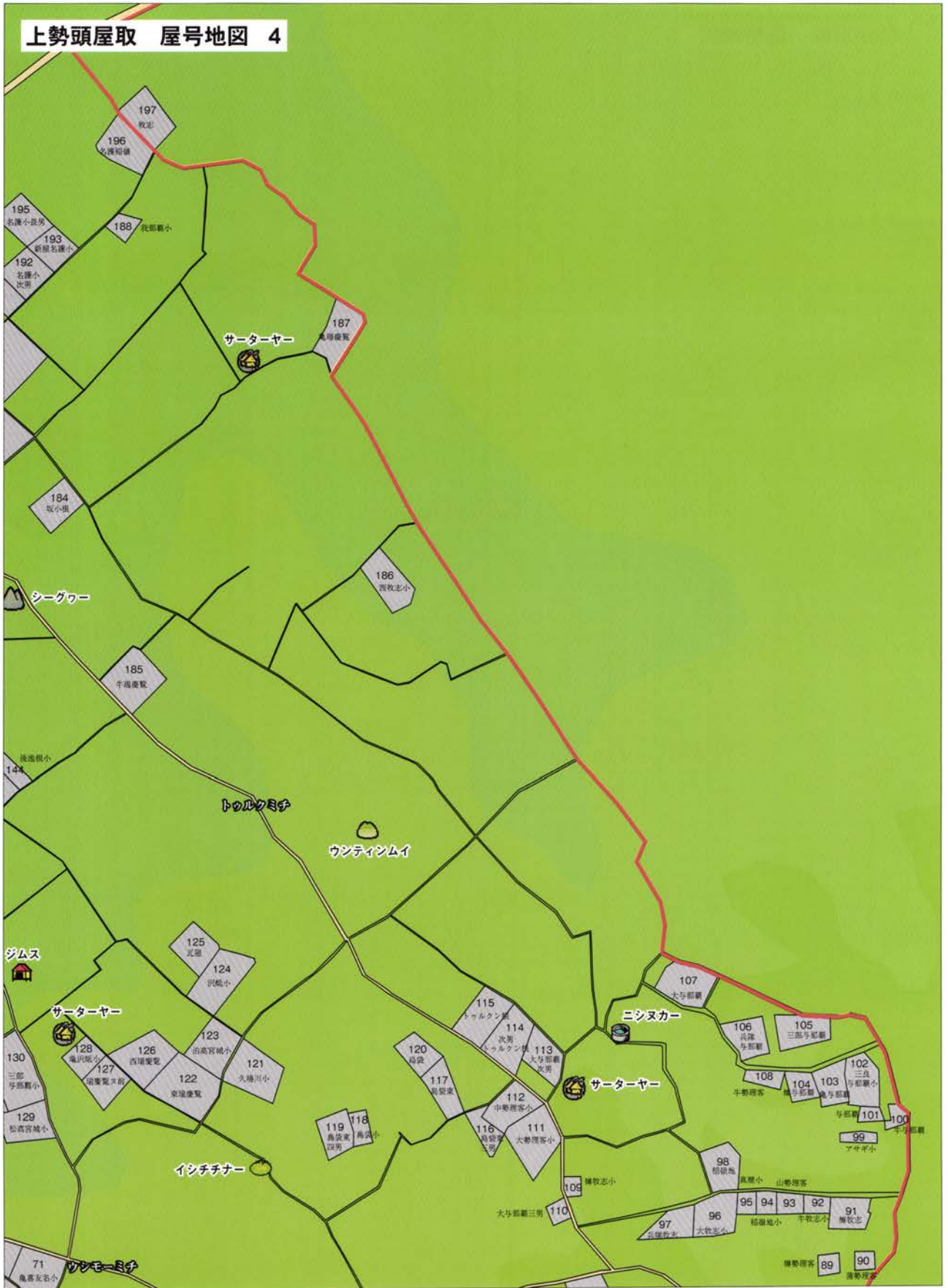
	上勢頭屋取の家の配置 (数字は屋号番号)		河川 (小さい文字は他の集落の呼び名)
			道路 (小さい文字は他の集落の呼び名)
	鉄道		緑の文字 地域の名称 (小さい文字は他の集落の呼び名)

上勢頭屋取 屋号地図 3



 <p>上勢頭屋取の家の配置 (数字は屋号番号)</p>	 <p>河川 (小さい文字は他の集落の呼び名)</p>
 <p>鉄道</p>	 <p>道路 (小さい文字は他の集落の呼び名)</p>
<p>緑の文字 地域の名称 (小さい文字は他の集落の呼び名)</p>	

上勢頭屋取 屋号地図 4



上勢頭屋取 屋号地図 5



<p> 上勢頭屋取の家の配置 (数字は屋号番号)</p> <p> 鉄道</p>	<p> 河川 (小さい文字は他の集落の呼び名)</p> <p> 道路 (小さい文字は他の集落の呼び名)</p> <p>緑の文字 地域の名称 (小さい文字は他の集落の呼び名)</p>
--	---

ウィーシードゥヤードゥイ（上勢頭屋取）

組

ウドウンジグミ

御殿地組。集落の組分けの1つ。19軒あった。

大正10(1921)年頃、上勢頭に行政区として加わった。

「勝連御殿の別荘（別宅）があった土地に人々が入植してきたので、組名を御殿地とよぶようになったという。小橋川・屋良・稲嶺・仲村渠家が続いて入植したようである。」（『上勢頭字誌・上巻』より引用）

メーカッチングミ

前勝連組。集落の組分けの1つ。21軒あった。

昭和10(1935)年頃、カッチングミ（勝連組）がメーカッチングミとクシカッチングミの2組に分かれた。

クシカッチングミ

後勝連組。集落の組分けの1つ。15軒あった。

昭和10(1935)年頃、カッチングミ（勝連組）がメーカッチングミとクシカッチングミの2組に分かれた。

チュンナーグミ

喜友名組。集落の組分けの1つ。17軒あった。

ユナファグミ

与那覇組。集落の組分けの1つ。14軒あった。

マチダグミ

町田組。集落の組分けの1つ。27軒あった。

ユナファヤードゥイ（与那覇屋取）からジッチャクグミ（勢理客組）が分離し、昭和12～13(1937～38)年頃にマチダグミに名前を改めた。マチダグミという呼び方が定着したのは戦後のことである。

ジキラングミ

瑞慶覧組。集落の組分けの1つ。31軒あった。

タナカグミ

田仲組。集落の組分けの1つ。35軒あった。



〈聞き取り調査風景〉

ンナンミグミ

稲嶺組。集落の組分けの1つ。18軒あった。

ウィーバルグミ

上原組。集落の組分けの1つ。23軒あった。

戦後、上勢頭の行政区に加わった。戦前は字野里あざに属していて、チャングミ（喜屋武組）と呼ばれていた。

「現在の嘉手納町在字野里から分離。野里には上の原、中の原、下の原があり、上勢頭の行政区分のとき、「上の原」の地名をとって上原組となる。- 略 - 戦後の昭和二十三年頃、稲嶺組に加入した。た。そして昭和六十年頃に「上原組」として独立し、現在に至る。／戦前は「ヒージャーバル」とも呼ばれていた。」（『上勢頭誌・上巻』より引用）

河川

ウクマガイ

ウィーバルグミに近いところを流れていた川。ウクマガイバシかが架かっていた。北谷村ちやたんそんと越來村こえくそんの境界きょうかいになっていた。流れは野里ヌザトウの後ろそそを流れて、海に注いでいた。

「イシジャク池より西の方にある溝（雨降りには川になる）が、上勢頭上原組の北側のウクマガイである。- 略 - 橋の上から西の上下の方を見ると、曲がりくねった大きな溝の所々に、水たまりとなった大小の池がある感じの川である。橋の下には敷石をつめ洗濯場として利用された。大きな池は水浴場、下方は牛、馬の水浴び場となっていた。／池の下方は幅の広い川底になり、両側は高い崖になっているが、その崖下には大きな松の木等も生えていた。左側の崖の上には小高い丘がある。その西側の麓に上原組のビジュル（拝所）がある。そこから約五百メートルくらい川下の方に行くと、ほとんど直角に左に曲がり、また一五〇メートル位行くと、直角に右に曲がっていく。この場所を曲（マガイ）という。そこから野里部落の後方に流れ、そして野国川に注ぐ。ウクマガイは下方に行くに連れて曲折した流れとなり、この蛇行する流れのことをウクマガイとよんだ。」（『上勢頭字誌・上巻』より引用）



《ウクマガイバシ》

山地

シードゥヌシー

ウィーシードゥヤードゥイ（上勢頭屋取）集落の境界きょうかいとされていた岩山。ヒラカージー、ナーカヌシー、イリヌシーの3つの岩山が並び立っていた。その麓ふもとには墓がたくさんあった。

ガッコーヤマ

ウドウンジグミのはずれにある山地。村有地だった。

校舎建築のための木材を取ることになり、学生たちがクスノキ（楠）などを植えた。2～3年ほどのあいだ、上級生が放課後に草刈りをして管理していた。

谷間

ミンタマヤー

谷間にできた水たまり。馬に水浴びをさせたり、子どもが泳いで遊んだりした。

「ミンタマヤー（水溜）／イシアナーグムイから、タルー喜友名小、タードーシ（喜友名）の側を通り御殿地に向かうと、中間位の所に大きな谷間がある。そこがミンタマヤーである。」（『上勢頭誌・上巻』より引用）

ウスクドー

「イームイ小のあたりから次第に深く広くなった溝は、イームイ小の北麓からはウスクドーになる。喜友名組と瑞慶覧組と田仲組の間の大きな溝状の谷である。大雨の時は、ウンティムイの前あたりからの水が集まり大きな川になる。」（『上勢頭字誌・上巻』より引用）

郡道

グンドー

「北谷国民学校（平安山）前の県道の支道を始発点として、下勢頭の真ん中を横断し、シードウヌシーの麓に沿って北谷村国直まで東西に伸びている道。」（『上勢頭誌・上巻』より引用）

馬車道

ジージャケーミチ

ジージャケーのあるところを通っている道。

「与那覇組と越来村字山内との地境を走り、ウドウンジ（御殿地）まで大きく迂回して字伊禮に行き着く道。」（『上勢頭誌・上巻』より引用）

ジムスヌメーヌミチ

ナカミチとも言う。

「集落の中心部を通る道。平安山中勢頭原と平安山上勢頭原の境を走る馬車道。」（『北谷町史・民俗下』より引用）

■ジージャケー：土地の境界。

ウシモーミチ

「北側（中央）の招待席の背後には、牛毛道とよばれる白い道が上勢頭から下勢頭に向かって走っていた。闘牛のある日には、その道の両側に俄か露天商が立ち並び、ジーマーミ、ミカン、ハチャグミ、タンナファクルー、アップリグワー、ていんぶらー、アイスケーキ、冷たい飲み物等々が売られ、ずいぶんと賑わいを見せていた。」（『上勢頭字誌・上巻』より引用）

ウドウンジーミチ

ウドウンジグミのあたりを東西に通る道。クエー（桑江）に近いほうをナルカーミチとも言う。

現在の県立北谷高等学校と北谷ゴルフ練習場の間を抜けて、クエー（桑江）へと続いていた。

生活道

カーミチ

ウシモーミチからフェーナカーに向かって分岐した道。

坂道

クワシチャヌクシビラ

「小橋川家の後の坂道。ミンタマヤーミチの南端。」（『北谷町史・民俗下』より引用）

ミンタマヤービラ

ミンタマヤーから北に向けてのぼっていく坂道。クワシチャヌクシビラとも言う。昭和12～13（1937～38）年頃にウィーシードゥヤードゥイ（上勢頭屋取）の人たち総出で道の補修をした。それまでは傾斜が急だったので馬車は通れなかったが、この改良によって馬車が通れるようになった。

トロッコ軌道

トゥルクミチ

サトウキビを運ぶために使われたトロッコ軌道。国直を経由して嘉手納の製糖工場に向かう。製糖工場は、戦前の嘉手納農林学校、現在の町立嘉手納中学校の近くにあった。

話者によると、この道の近くで、石に押し潰されて亡くなった人がいて、幽霊やイニンピーが出るという話があったと言う。



〈現地調査・嘉手納基地内〉

■国直：現在の嘉手納町域にあった屋取集落。

■嘉手納製糖工場：沖縄製糖株式会社の嘉手納工場のこと。明治45（1912）年創業。

■嘉手納農林学校：沖縄県立農林学校。国頭農学校がその前身。大正3（1916）年に嘉手納に移設された。

■イニンピー：ひとだま。死者の遺念が火となって現れるとされるもの。

岩山

イリヌシー

集落の北側にあったシードゥヌシーの1つ。

現在は、米軍に整地^{せいち}されてほとんどなくなってしまったが、西側の一部分だけが残っている。

シチャシードゥヤードゥイ（下勢頭屋取）の聞き取り情報によると、ウチヤードゥイの東側にある岩をタカジ、あるいはタッチューとも言い、フィラカージーからの一連のシーであると言う。3つのシーが並んでおり、フィラカージーの西側に位置し、グンドー寄り^{やり}で槍^{とが}のように尖ったシーであった。ウィーシードゥヤードゥイ（上勢頭屋取）の人たちは、シー全体を総称^{そうしやう}してシードゥヌシーと言う。

ナーカヌシー

集落の北側に3つ並んでいた大きな岩山の1つ。

「ナーカヌシーはイリヌシーとヒラカージーとの間にあり、ヒラカージーより小さく、面積も狭く三つのシーのうちで最も低い。麓は広く松が生い茂り墓地地帯になっていた。ハブの生息地として知られ、普段はなかなか人の行かないところだった。」（『上勢頭誌・上巻』より引用）

ヒラカージー

集落の北側に3つ並んでいた大きな岩山の1つ。ヒラカージーからは読谷村^{よみたんそん}まで見渡すことができた。

「ヒラカージーは、田仲組の北西4～500米のところに位置し、横に連なる三つのシー（勢頭巖嶂）のうち一番大きな北側のものである。」（『上勢頭誌・上巻』より引用）

シーグワー

もともとは稲嶺一族^{いなみね}の拝所^{はいしよ}だったが、現在は字有地となり、ウィーシードゥヤードゥイ（上勢頭屋取）全体の拝所として、旧暦9月9日などに祈願^{きがん}が行なわれている。

戦前は、シーグワーからトゥルクミチをへだてた隣に、ヤイサーができるくらいの原っぱがあった。

洞窟

カーブヤーガマ

【※編注：位置不明確のため、地図上には記載していない】

「ウキンジュガマの西側の方に約九〇メートル離れた所に、もう一つ大きなガマがある。カーブヤーガマ（蝙蝠洞窟）とよぶ。入り口は屈んで入る位だが、天井は竿でも届かぬ位の高さである。入り



◀現地調査・嘉手納基地内▶



◀シーグワー▶

■ヤイサー（エイサー）：旧暦7月の盆の夜に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。

口は斜入形だが、少し入ると側面から水が湧き出していて、奥に流れ込んでいる。」(『上勢頭誌・上巻』より引用)

ウキンジュガマ

「以前は盗賊の隠れ家となっていたウキンジュガマとカーブヤマガマだが、沖縄戦の時には上勢頭の人々を戦火から守り、百数十人の人々の命を救った洞窟である。／ウキンジュガマには御殿地組の人々や平安山上周辺の人が入っていて助かったのである。」(『上勢頭字誌・上巻』より引用)

キュー(桑江)の聞き取り情報によると、現在の北谷交通^{ちやたんこうつう}の側^{そば}にあるガマで、大雨の時には、そこから水が流れ出るらしいと言う。また、ガマの中は人が立って入れるほど大きく、県立北谷高等学校^{ちやたん}のあたりまで続いているらしいと言う。

アブヤマー

【編注：位置不明確のため、地図上には記載していない】

「アブヤマー(洞窟山)／ミンタマヤーから曲がりくねった谷間を西に行くと、アブヤマーがある。／この谷間には大木は少なく、ところどころに数本生えているだけである。アブヤマーは、戦時中^{ひなんごう}避難壕^{どうくつ}として多くの人に利用された洞窟である。この谷間の下手(西方)は学校山である。」(『上勢頭誌・上巻』より引用)

マヤーガマ

【※編注：位置不明確のため、地図上には記載していない】

「フェーナカーの水が流れ込む下方にある洞穴である。町田組と勝連組との境にある土手の下の方にある。周囲は畑になっているが、低地帯になっていて、雨が降ると水の流れていくところがなく、フェーナカーから流れる水と一緒にこの洞窟に流れ込む。人も入れないような小さい穴だが、水があふれて周囲の畑を浸すことがある。」(『上勢頭誌・上巻』より引用)

ヤマシシガマ

【※編注：位置不明確のため、地図上には記載していない】

「テララーグワの西の方の谷間の土手に、大人二名くらいが入って座るくらいの洞窟がある。これがヤマシシガマである。」(『上勢頭誌・上巻』より引用)

丘

イームイグワ

ジキラングミの人がフナウキをした丘。船がシナビ(砂辺)のあたりを過ぎるまで見ることができた。那覇^{なは}から船が出て通り過ぎるまで4時間ほどかかったが、そのあいだ、太鼓^{たいこ}を叩き、ダンジュ



《ウキンジュガマ》

■ガマ：洞窟。ほら穴。

■フナウキ：見はらしのいい場所から、旅に出る人の安全を願い、船を見送ること。

カリユシを歌いながら見送りつづけた。

マッコー（ハリツルマサキ）がたくさん生えていて、子どもたちはマッコーをとるために、この丘によく登^{のぼ}っていた。

イーマシグーフ 【※編注：位置不明確のため、地図上には記載していない】

フナウクイをする高台。イームイグワーより少し高かった。

イーマジグワヌグーフ

【※編注：位置不明確のため、地図上には記載していない】

「ジキラングミのサーターヤーから東南一キロほど先の丘。」

（『上勢頭誌・上巻』より引用）

ウンティンムイ

「シー小の側を通っているトロッコ道を町田組の方に向かって二五〇メートル位行くと、道の左側一畑（チュファタキ）奥に小高い岩山がある。これがウンティンムイである。-略-ウンティンムイの周りは平坦な畑になっているので、畑の中の小高い岩山という感じである。面積もあまり広くはない。周囲の畑は赤土だが、このムイだけが岩山となっており、麓は、大きな墓や小さな堀込墓が取り巻いていて、大きな松の木も所々に生えている。」（『上勢頭誌・上巻』より引用）

池沼



イシアナーグムイ

「イシアナーグムイ（採石場跡の池）／喜友名組の山内家の門前に石チチナー（力試し用丸石置き場）と称する広場がある。その石チチナーの側から、南にゆるい坂道を下ってゆくと、道の右側下に採石場跡にため池がある。これがイシアナーグムイである。／昔、このあたりには石切場が所々にあり、イシアナーグムイもその一つで、一番大きい石切場の跡である。-略-クムイ（池）ではコイの養殖も行われていた。また、餓鬼大将たちが、大人の目を盗んで、真っ裸で泳ぎ遊ぶところでもあった。」（『上勢頭誌・上巻』より引用）

ウフグムイ

「平安山中勢頭原一一五の角。子供の水浴、洗濯。扇形状の池。深さは二メートルほど。」（『北谷町史・民俗下』より引用）

■ダンジュカリユシ：船出の祝い歌。身内のものが旅をするとき、一族が集落の広場あるいは高台に集まって、航海の無事を祈願し、これを歌った。

■フナウクイ：見はらしのいい場所から、旅に出る人の安全を願い、船を見送ること。



◀現地調査・嘉手納基地内▶

掘井戸

トーグラー

イームイグラーの麓に、雨が降ったときだけ水が流れる川があり、その側にあつた井戸。

ニシヌカー

ウフユナファヌメヌカー、ミカジチガーともいう。屋号ウフユナファ（大与那覇）：107の南西にあつた井戸。井戸の石積みは崩れにくいように組まれていた。また、井戸の脇に石の台が立てられており、その台に桶を置いて柄杓で水を汲み入れていた。台に乗っているの、桶を頭に乗せるのが楽だった。井戸の前面から水が流れ出すようになっていて、その水を利用してターンム（田芋）畑を作っていた。

フェーヌカー

生活用水として重要な井戸だった。

現在は軍用地の境界にあるので、囲いがされているが、いまでも揉みに訪れる人が多い。

「東原沢岬の方から少し勝連組に下っていくと、道の左側の畑一つ隔てた土手の下にある杓井戸がフェーヌカーである。造り方はニシヌカーと同じであり、水量も同じ位である。こちらも上勢頭のウブガー（産育井戸）の一つである。」（『上勢頭誌・上巻』より引用）
現在、合祀所に祀られているカーの1つ。

イリージガー

滑車はなく、綱で引きあげる井戸で、3～4mの深さであった。

現在は、嘉手納基地内となっている。

「イリージガーは伊礼家の山林の番をしたり、畑の小作人達に利用させるために掘った井戸で、また伊礼の土地にあるのでその名がついている。」（『上勢頭誌・上巻』より引用）

ミーガー

「共同のニブガー（浅い井戸）。伊礼原四九二。飲料水として喜友名組と勢理客組が利用。共同ニブガー。」（『北谷町史・民俗下』より引用）

現在、合祀所に祀られているカーの1つ。



《ニシヌカー》



《ふえぬカーの碑》

■嘉手納基地：沖縄本島中部にある極東最大の米空軍基地。



《ミーガーの碑》

イーマグワーヌメヌカー

【※編注：位置不明確のため、地図上には記載していない】

現在、合祀所ごうししょまつに祀られているカーの1つ。

ウフジツチャクグワーヌメヌカー

【※編注：位置不明確のため、地図上には記載していない】

「共同井戸、ニープガー（柄杓井戸、浅い井戸）」（『上勢頭誌・上巻』より）

ウキンジュガー

「御殿地組の新屋小の南。山稻嶺の東側の土手の下にウキンジュガー（ニープガー・杓井戸）がある。水量豊かで、早魃時にも水があり、遠くから水汲みに来る人達もいた。」（『上勢頭誌・上巻』より引用）

橋



ウクマガイバシ

ウクマガイかに架かっていた橋。幽霊が出ると怖こわがられていたが、子どもたちはときどき川に泳ぎに行っていた。

「国直カジマヤー（十字路）から上原組に向かって郡道を下ると500m位の所に砦がある。ウクマガイ砦である。昔は橋はなく元道を利用していた。この北谷と越来の境界にある元道は現在もあるが、雨降りには渡れず難渋した場所である。／明治初期（二、三年）に本格的な木橋になったが、それでも床板が腐り所々に穴が出来て、女や子どもは下の元道を利用した。大正十二年（一九二三年）頃、石積の橋になり、橋幅、川幅も広く補強された。」（『上勢頭字誌・上巻』より引用）

製糖小屋



サーターヤー

製糖小屋。ウドゥンジーグミにあったサーターヤー。ヤマーミーヤー（山新屋）：25の西側にあった。

サーターヤー

共同製糖小屋。カッチングミに2か所あったうちの1つ。シラギーユナファグワージナン（シラギー与那覇小次男）：28の南西側にあった。



《いーま小ぬめーぬかーの碑》



《ウキンジュガー》



《ウクマガイバシ》

サーターヤー

共同製糖小屋。カッチングミに2か所あったうちの1つ。シラギーユナファグワー（シラギー与那覇小）：29の東側にあった。

サーターヤー

共同製糖小屋。チュンナーグミにあったサーターヤー。屋号ハギヌユナファグワーサンナン（ハギヌ与那覇小三男）：44の西隣にあった。チュンナーグミ、メーカッチングミ、クシカッチングミ、ウドウンジーグミの人たちで共同使用していた。

サーターヤー

共同製糖小屋。ユナファグミに2か所あったうちの1つ。屋号ウフユナファジナン（大与那覇次男）：113の東隣にあった。

サーターヤー

【※編注：位置不明確のため、地図上には記載していない】

共同製糖小屋。ユナファグミに2か所あったうちの1つ。

サーターヤー

製糖小屋。マチダグミに2か所あったうちの1つ。屋号カマーシツチャク（蒲勢理客）：90の南側にあった。

サーターヤー

【※編注：位置不明確のため、地図上には記載していない】

製糖小屋。マチダグミに2か所あったうちの1つ。

サーターヤー

共同製糖小屋。ジキラングミのサーターヤー。1か所のみ。屋号カミータクシグワー（亀沢岬小）：128の北西側にあった。

サーターヤー

共同製糖小屋。タナカグミに3か所あったうちの1つ。屋号タルヌグニ（樽野国）：148の西隣にあった。クバガーチチョーデーが使用していた。

サーターヤー

共同製糖小屋。タナカグミに3か所あったうちの1つ。屋号スイチュンナーミーヤー（首里喜友名新屋）：163の東隣にあった。チュンナーチチョーデーが使用していた。

サーターヤー

共同製糖小屋。タナカグミに3か所あったうちの1つ。屋号ジャ



《聞き取り調査風景》

■クバガーチチョーデー：久場川一族。

■チュンナーチチョーデー：喜友名一族。

ファナジグワー（謝花地小）：147の西隣にあった。タナカチヨーデーが使用していた。

サーターヤー

共同製糖小屋。ンナンミグミのサーターヤー。1か所のみ。屋号カミージキラン（亀瑞慶覧）：187の西側にあった。

サーターヤー

ウィーバルグミの共同製糖小屋。屋号チャン（喜屋武）：213の西側にあった。ウィーバルグミには、他にも個人所有のサーターヤーが2か所あった。

拝所

ビジュル

「ウクマガイ砦の西方に、川の土手の所から小高く盛り上がった小山がある。これが上原後（イーバルヌクシ）のシー小で、そのシー小の西の麓に上原組のビジュルがある。裾野の所は芝の生えた広場になっている。広場の周りは松林に囲まれた拝所である。広場の橋の方から川辺に下りる小道がある。現在も金網の側に残っている。」（『上勢頭誌・上巻』より引用）

集会所

ジムス

「字の事務所が出来たのは大正十年のことである。ノ字の事務所は字の諸行事を遂行する中心機関であり地理的にもほぼ字の中心に位置していた。村屋は普通近くに広場と拝所を持つが、上勢頭の事務所には拝所はなかった。東側の門の方には国旗掲揚柱があった。」（『上勢頭誌・上巻』より引用）

広場

ウシモー

「ウシモー（闘牛場）…勝連組、喜友名組から下勢頭赤道に通じる通学路の途中に、三方を観覧席で囲んだ見事な闘牛場であった。田仲組からも声の届く位の近さにあった。ノ面積も広く、三方が高い土手に囲まれている。道に面した方の土手の上は広場になり、道の側に大きな松が数本あった。東と西には大きな松の木が生え、自然の地形が段々になった見物席があり、道側の広場の両方から牛の出入り口がある。ノ - 略 - ノ当時の闘牛は村内はもちろんのこと、近隣の村々からも参加が多く、見物人も手弁当持参で観戦にき

■タナカチヨーデー：田仲一族。



《びじゆる之碑》

たものである。／ - 略 - ／ウシモーは終戦後、軍用地となり整地されて米軍人軍属用の住宅地となっている。（『上勢頭字誌・上巻』より引用）

イシチチナー

屋号ヤマチ（山内）：74 の家の前にあった、クシカッチングミのイシチチナー。丸石が3～4個置いてあった広場。若者や子どもなどが石を持ち上げて力^{ちからだめ}試しをして遊んだ。石は14～15kgのものから100kgくらいのものであった。

イシチチナー

屋号クバガーグワー（久場川小）：121 の近く、南側にあったジキラングミのイシチチナー。丸石が4個くらい置いてあった広場。若者や子どもなどが石を持ち上げて力^{ちからだめ}試しをして遊んだ。

亀甲墓



クバガーヌバカ

屋号クバガー（久場川）のカーミナクーバカである。この墓のあるあたりから上勢頭に入る。

現存する墓である。

境界標



ジージャケー

「町田組の後ろあたりに、石柱に刻んだ測量点があり、その付近をジージャケーと称した。」（『上勢頭誌・上巻』より引用）

その他 ●

ムヌマイーバタキ

三角の形をした畑。サンカクバタキグワーとも言う。

ものに取りつかれた人が、よく迷^{まよ}わされていた。

現在の町立北谷^{ちやたん}小学校の西側あたりとなる。

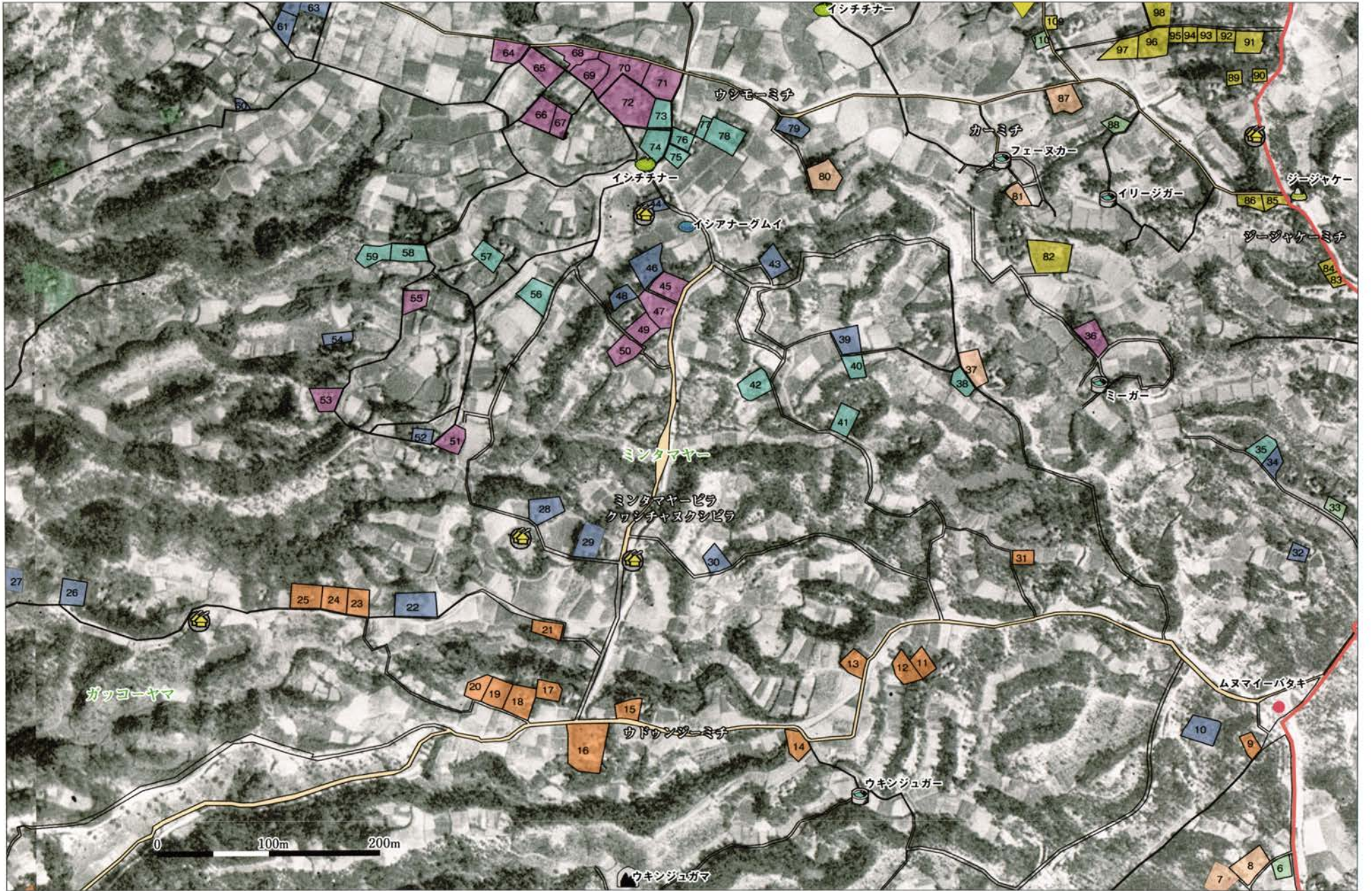


＜現地調査・嘉手納基地内＞

■カーミナクーバカ：屋根が亀の甲のような形をした墓。

～ 上原組のビジュアルとウクマガイ砦 ～

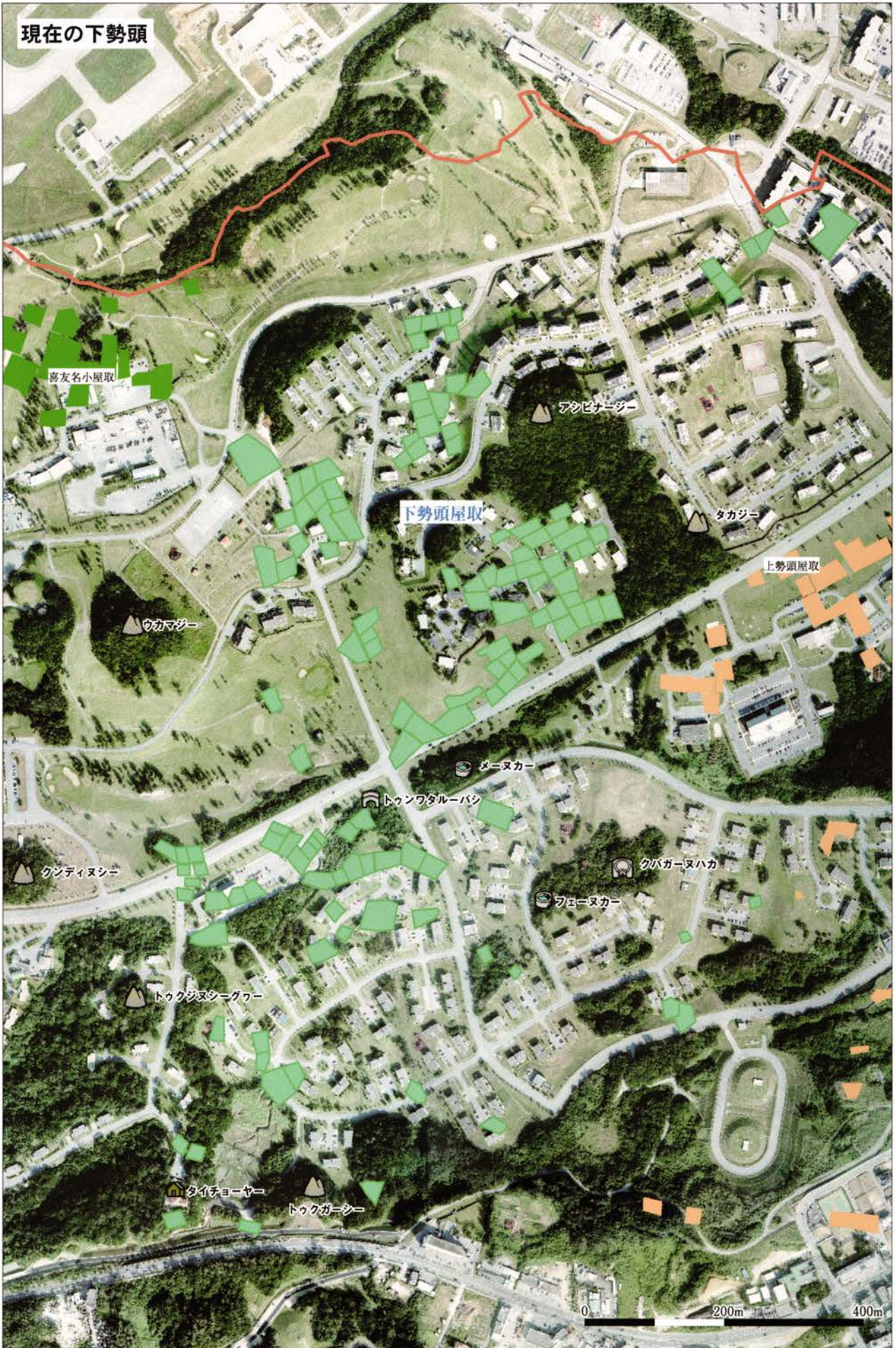




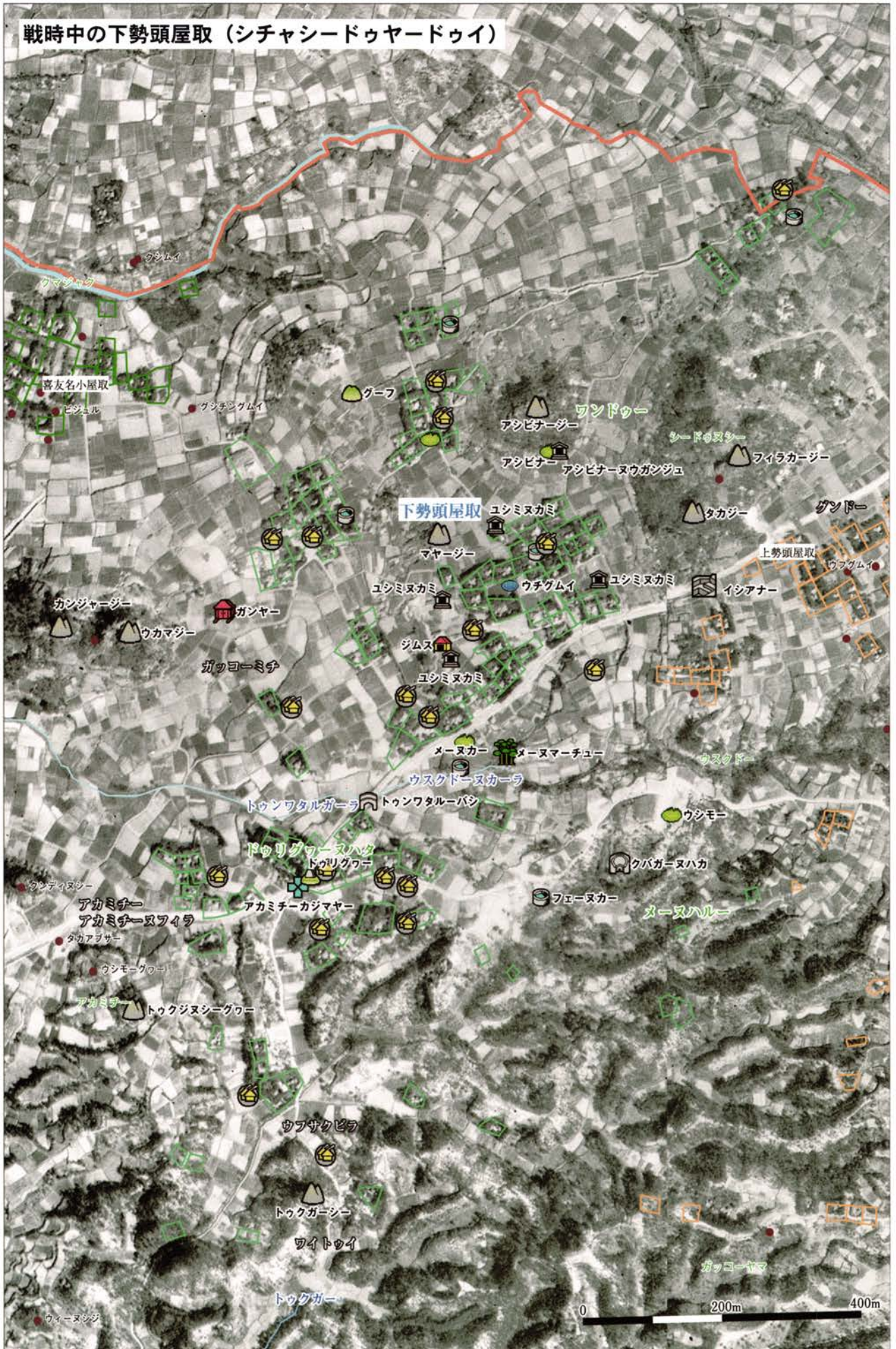
下勢頭屋取



現在の下勢頭



戦時中の下勢頭屋取 (シチャシードウヤードウイ)



シチャードゥヤードゥイ（下勢頭屋取）

北谷町域北側一帯に広がる^{ヤードゥイ}屋取集落。戸数は135軒で、そのうちカーラヤーは40軒ほどであった。最初の入植者である佐久川家の名を取って、**サクガーヤードゥイ**と言うこともある。字浜川に属していたが、大正9(1920)年に^{ぶんりどくりつ}分離独立し、下勢頭区となった。

農業を中心とした比較的裕福な集落で、闘牛やアシビなどで有名だった。屋号スズキ(鈴木)にはラジオがあった。

集落の組分けは**イチクミ**、**ニクミ**、**サンクミ**、**ヨクミ**の4つに分かれていた。綱引きには、南側の**イチクミ**と**ニクミ**が**メーヌダカリ**、北側の**サンクミ**と**ヨクミ**が**クシンダカリ**の2つに分かれた。

入植当初はトウクガーから馬で水を運んでいた。その後、**メーヌカー**、**フェーヌカー**を掘り、共同使用していた。大正～昭和時代にかけて、各家に井戸を掘るようになった。水の出が異なるので、それぞれ掘る深さが違い、**ウフサク**周辺は7～8尋(10.5～12m)、**ウチャードゥイ**周辺は^{じばん}地盤が高いので36～38m掘った。季節によっても水の深さは変わった。カージナは寄り集まってチナウチをして、各自のものを使っていた。スルガージナと言う。また、水タンクが**イチクミ**-2基、**ニクミ**-6基、**ヨクミ**-3基あった。屋根が茅ぶきから瓦ぶきに代わり始めたのは、大正時代に入ってからで、その後、昭和10(1935)年代からタンクが設置された。水対策の一環として、各市町村が70円の^{ほじょきん}補助金を出して^{しょうれい}奨励していたが、個人には出ないので、何名かで共同名義にしていた。

サーターヤーが**イチクミ**-7か所、**ニクミ**-4か所、**サンクミ**-3か所、**ヨクミ**-5か所あった。血縁中心、あるいは隣近所で組を作っていた。サトウキビを絞る^{しぼ}クルマナーと、その絞った汁を炊く小屋があった。クルマナーには鉄輪のクルマが3個生まれ、中心のクルマに付けられた10mほどの丸太の端を、馬が引っ張ってクルマを回した。そのクルマの間にサトウキビを^{はさ}挟みこんで絞る。絞られたキビ汁は小さな溝を通り、小屋の中にある竈の上の丸鍋に流れる仕組みになっていた。溜まったキビ汁は角鍋に移し、少量の石灰を入れて煮詰める。煮詰まった砂糖汁は更に冷やし用小鍋に入れ、棒でかきまわし、これを冷やして樽に詰めた。樽10斤(6kg)、樽の蓋5斤(3kg)、砂糖120斤(72kg)の1丁135斤(81kg)の黒糖の製品が出来た。砂糖を製造する時期を**サーター**ジーと言う。3月末になり、製糖が終わった農家では、ごちそうを作って、親戚や一緒に働いた人々とシースピーの喜びにひたった。昭和12～13(1937～38)年頃、イシアナーの南側に製糖工場があり、^{はつどうき}発動機と呼んでいた。2～3年後、^{ヌザトク}野里の方に移った。

ガンヤーは**ウカマジー**の東側に位置していた。ガンをコー、ンマ、

■カーラヤー：瓦ぶきの家。

■アシビ：歌・三味線・踊りなどを楽しむこと。また、村芝居・祭りなど、仕事を休んで行なう演芸・娯楽。



《フェーヌカー》

■カージナ：井戸の縄。

■チナウチ：綱(縄)を綯うこと。

■スルガージナ：シュロで作った縄。

■サーターヤー：製糖小屋。

■クルマナー：サトウキビを圧搾する装置を据えた広場。

■クルマ：サトウキビを圧搾する装置。

■サータージー：砂糖を製糖する時期。

■シースピー：行事や作業を無事に終えること。

■野里：現在の嘉手納町域にあった集落。野里馬場があった。

■ガンヤー：竈を納めておく小屋。

アカンマーとも言う。ガンで送られるのは男は7歳、女は9歳以上からで、「ンマに乗せる」と表現した。死者を入れると300斤（180kg）になり、ガンの前後に2人ずつの計4人のガンカタミヤーが肩に担いで運んだ。妻が妊娠している人は、ガンカタミヤーにならなかった。ガンは組み立て式であり、墓からの帰りは、下の台と上の櫓を取り外して小さくした。ガンヤーに納めるときはチカバクも一緒に納めた。戦前、チカバクは2つあった。

カヤモーが、屋号ウフジンカ（大源河）：51の前やウマヌナガニーを越したあたりなどにあった。管理された牧草地で茅を作っており、無断で草刈りをすることはできなかった。マカヤー（チガヤ）とダキガヤがあった。ダキガヤは母屋に使った。家畜小屋で使うこともあった。

【集落で行なわれる主な年中行事】

●旧暦2月2日～3日<ニングワチャーグワー>：1日目はメーダカリとクシンダカリに分かれて行なわれた。その中でも、さらに29歳までのニーシェーター、30～49歳までのヤクミー、50歳以上のタンメーの3組に分かれ、ヤードゥに集まって行なわれた。ニーシェーターから年長者に三枚肉、天ぷら、豆腐などのごちそうを差し上げた。2日目はアシビナーに集合し、合同祭をした。ヤードゥは輪番制で、水の便や台所の設備、部屋の大きさなどを考慮して決められていた。

●旧暦6月16日<綱引き>：屋号シチャヌハナグシク（下ヌ花城）：96の屋敷前で、メーダカリとクシンダカリに分かれて行なわれた。綱引きの後はムンチャリナーで沖縄相撲をした。

●旧暦6月25日・7月17日・8月10日・9月9日<ウシオーラセー>：年に4回闘牛が行なわれるが、6月・7月・8月は練習試合で、9月9日が本試合だった。

●旧暦7月7日<旗スガシー>：芝居の旗やアシビに使う道具を虫干しする。

●旧暦7月<盆>：ヤイサーを行なう。

●旧暦10月～11月<アシビ>：10月か11月の農閑期に行なわれたが、毎年あるわけではなかった。7月頃に、クィーシラビチ（声調べ）という試験をしてから役が振り分けられた。シチャードゥヤードゥイ（下勢頭屋取）は8つの演目を持っていた。

集落域は米軍に接收され、現在も嘉手納基地内である。そのため、人々は他集落へ分散して暮らしている。しかし、郷友会を中心として『下勢頭誌』の発行や、さまざまな活動を行ない、親睦を深めている団結の強い集落である。

■ガン：籠。葬式の時、死者の棺を入れて墓地まで運ぶためのもの。

■ガンカタミヤー：ガンを担ぐ人。

■ガンヤー：籠を納めておく小屋。

■チカバク：ガンを解体して納める箱。

■カヤモー：屋根を葺くのに使う茅を生やしていた野原。

■ニングワチャー：旧暦2月に行なわれる行事。集落や組単位で酒宴を開き、余興をして楽しむ。

■ニーシェーター：若者の組。

■ヤクミー：壮年の組。

■タンメー：年寄りの組。

■ヤードゥ：一時的に集会所にあてられる家。

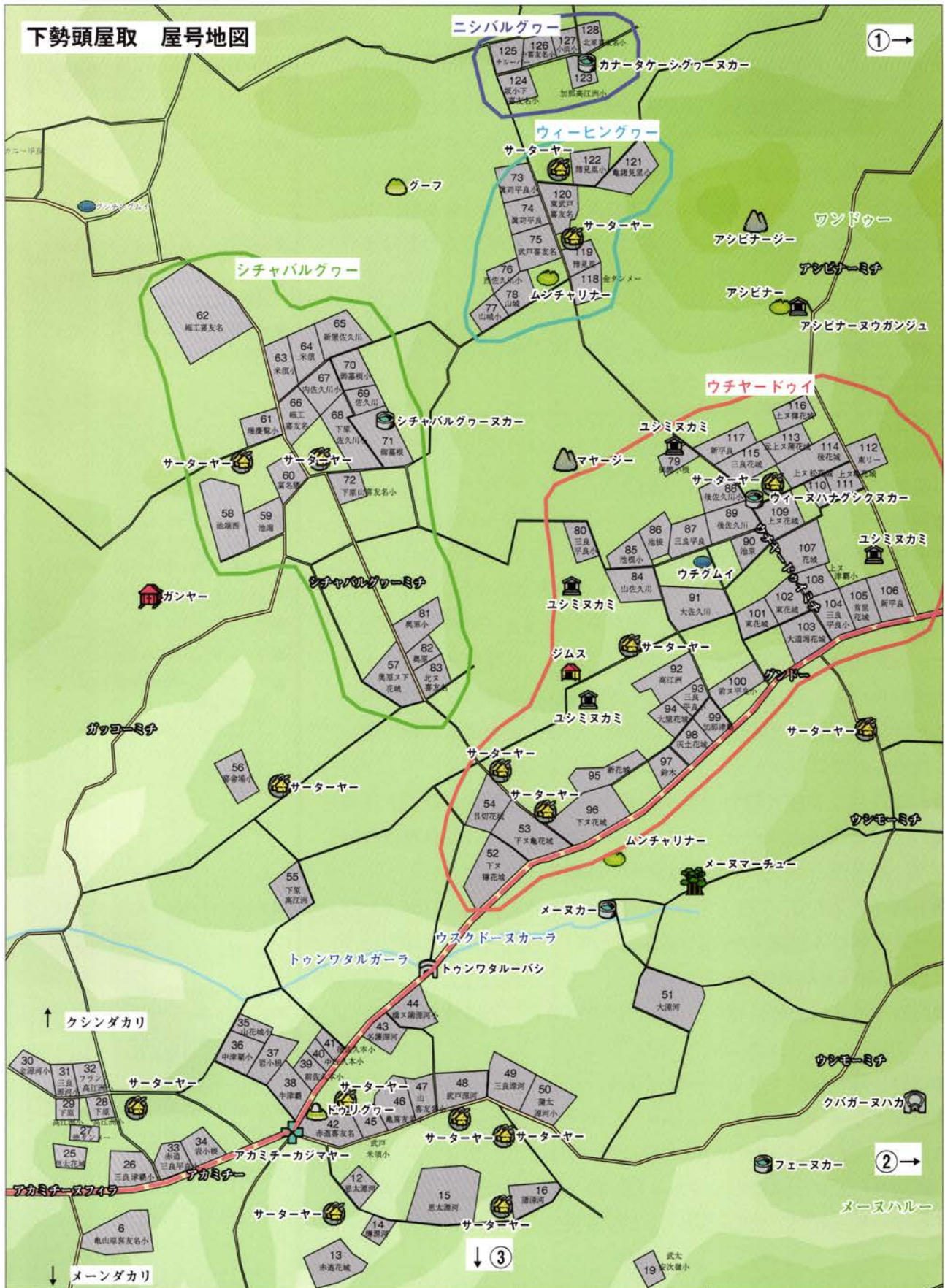
■ウシオーラセー：闘牛。牛と牛を戦わせる農村部の伝統的な娯楽競技。ウシオーラセーとも言う。

■アシビ：歌・三味線・踊りなどを楽しむこと。また、村芝居・祭りなど、仕事を休んで行なう演芸・娯楽。

■ヤイサー（エイサー）：旧暦7月の盆に行なわれる行事。各集落の青年たちが行列をなして踊り、各家を回る。

■嘉手納基地：沖縄本島中部にある極東最大の米空軍基地。

下勢頭屋取 屋号地図



下勢頭屋取の家の配置 (数字は屋号番号)



鉄道



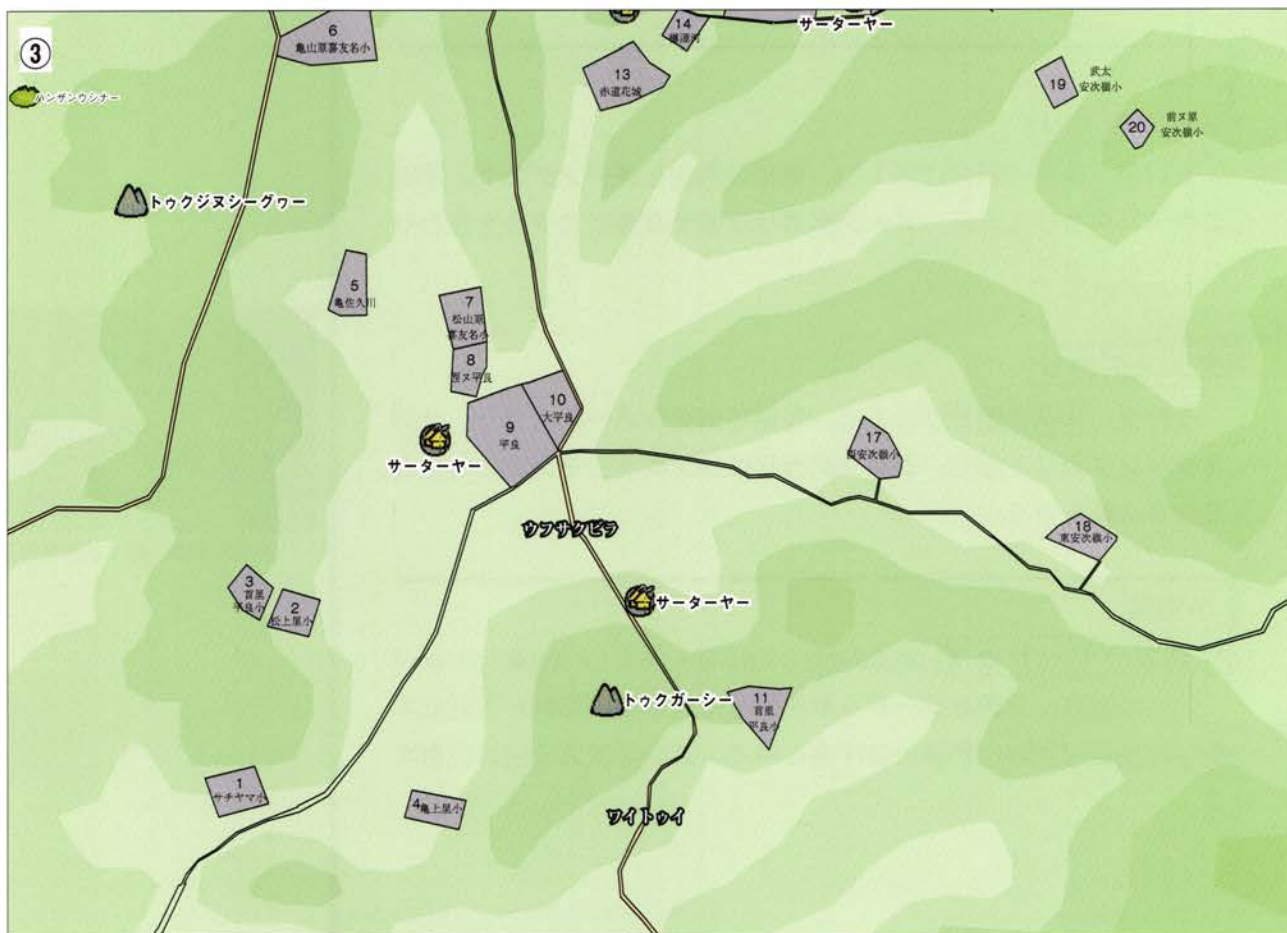
河川 (小さい文字は他の集落の呼び名)



道路 (小さい文字は他の集落の呼び名)



緑の文字 地域の名称 (小さい文字は他の集落の呼び名)



シチャシードゥヤードゥイ（下勢頭屋取）

組

イチクミ

1組。集落の組分けの1つ。グンドーから南側に位置する33軒を言う。行事のときにはニクミとともにメーンダカリに含まれた。

ニクミ

2組。集落の組分けの1つ。グンドー沿いの北側37軒を言う。行事のときにはイチクミとともにメーンダカリに含まれた。

サンクミ

3組。集落の組分けの1つ。ヤガグワーヤードゥイとウチヤードゥイの北半分を合わせた25軒を言う。行事のときにはヨクミとともにクシンダカリに含まれた。

ヨクミ

4組。集落の組分けの1つ。ニシバルグワー、ウィーヒングワー、シチャバルグワーを合わせた37軒を言う。行事のときにはサンクミとともにクシンダカリに含まれた。

村渠

メーンダカリ

前村渠。集落の組分けの1つ。集落の南側をメーンダカリ、北側をクシンダカリと言う。メーンダカリはイチクミとニクミを合わせた70軒を言う。

クシンダカリ

後村渠。集落の組分けの1つ。集落の南側をメーンダカリ、北側をクシンダカリと言う。クシンダカリはサンクミとヨクミを合わせた62軒を言う。

小集落

サクガーヤードゥイ

【※編注:位置不明確のため、地図上には記載していない】

佐久川屋取。シチャシードゥヤードゥイ（下勢頭屋取）の村立てをした最初の^{ヤードゥイ}屋取。集落のほぼ真ん中で、ユシミヌカミ内に位置する。



〈聞き取り調査風景〉



〈現地調査・嘉手納基地内〉

ウチヤードゥイ

内屋取。ジムスが位置する集落の真ん中あたりである。シードゥバシの東方～屋号ミーテラ（新平良）：106～アシビナー～屋号サンドゥーテラグワー（三良平良小）：80の近くのマヤージー帯の37軒を言う。

シチャシードゥヤードゥイ（下勢頭屋取）の村立てをしたと言われる佐久川家がある。

シチャバルグワー

下原小。ウチヤードゥイの西側、ウカマジーの東側一帯である。シチャバルグワーミチ沿いの屋号ウクバル（奥原）：82からチュンナーグワーヤードゥイ（喜友名小屋取）寄りの屋号シェークーチュンナー（細工喜友名）：62あたりまでの20軒を言う。

ウィーヒングワー

上辺小。アシビナージーの西側である。屋号ントーチュンナー（武戸喜友名）：75他、17軒を言う。

地形的に一段高くなっている。同じヨクミのシチャバルグワーは一段低くなっていたので、下の組が上の組をウィーヒングワーと言っていた。

ニシバルグワー

北原小。集落の一番北側で、アシビナージーの北側に位置する6軒を言う。

ヤガグワーヤードゥイ

屋我小屋取。集落の北東はずれで、フィラカージーの北側に位置する屋我姓の7軒を言う。

河川

トゥクガー

9か所ある拝所の1つ。イリー（伊礼）とハンザン（平安山）のあいだ間を流れていた川。ナガサンニーとも言う。ハンザン（平安山）やハマガー（浜川）の集落からは距離的に遠いので、一番トゥクガーを利用していたのは、2kmぐらいの距離だったシチャシードゥヤードゥイ（下勢頭屋取）であった。

入植当時はトゥクガーの水を馬で運んで飲用していた。その後、共同井戸であるフェーヌカーやメーヌカーを掘り、大正から昭和にかけては個人の井戸が掘られるようになった。



◀聞取り調査風景▶

トゥクガーは水量が豊富で、水は冷たかった。カニ、エビ、チンポラー（巻貝）、スップヤー（黒い魚）などがたくさんいた。学校帰りには、田んぼの草で石の間をふさいで水を溜め、そこで泳いで遊んでいた。水が冷たいため、唇が黒くなった。

昭和19(1944)年頃、日本軍の石部隊の兵隊が水浴び場所として使っていた。

現在は国道道路沿いのトゥクガーシーの南側に位置する谷間にイジュングチがある。昔、ここ一帯は山だった。もう山はなくなってしまい、水量も少なくなっている。

→伊礼・平安山のトゥクガーを見よ。

トゥンワタルガーラ

ウカマジーとカーシヌシーの南側を流れて、シナビ（砂辺）に流れていく川。普段、水はなく、雨が降ったら流れができる川であった。以前、水はウカマジーの前の古墓のところに流れていたが、現在は米軍が堰き止めて、タイチョーヤーのところに流している。

→砂辺のカーシヌシーを見よ。

ウスクドーナカーラ

集落の中、メーヌカーの側を通って東から西へ流れる川。普段、水はなく、雨が降ったら流れができる川であった。

谷間

ワンドゥー

ウチャードゥイから北へ向かい、アシビナーヂーとフィラカーヂーの間の盆地を言う。地形的に高い所に位置しており、また岩と岩の間であるため、北風が強く吹く場所であった。

小ハル名

ドゥリグワーヌハタ

ドゥリグワーあたりを言う。屋号アカミチチュンナー（赤道喜友名）：42の側であった。家の前に、ガジマルがあって、その周囲はアシビドゥクルになっていた。晩になると、青年たちがドゥリグワーをさわってくるという遊びがあった。

メーヌハルー

ウシモーの南西あたりを言う。屋号メーヌハルーテーラグワー（前ヌ原平良小）：23の他、2軒の屋敷があった。

■石部隊：第62師団独立歩兵第12大隊の通称。

■国道道路：県道23号線 国体記念道路

■イジュングチ：泉口。泉の湧き出るところ。



《ワンドゥー》

■アシビドゥクル：遊び場所。



《現地調査・嘉手納基地内》

郡道

グンドー

ソンドー、ウフミチとも言う。メーヌハルーの人たちは、この道とおを通して学校に行くので、ガッコーミチと言っていた。

北谷国民学校の側ちやたんが起点となり、そこからアカミチーヌフィラそばまでは上りであった。さらに進み、トゥンワタルーバシからグンドー沿いにある墓1基まで上り坂であった。そこからウィーシードゥヤードゥイ（上勢頭屋取）の屋号コーチョージキラン（校長瑞慶覧）のところまでは平坦くだだった。少し下り気味でウクマガイへ行き、クンノーイカジマヤーまでは上り気味となる。

グンドーの補修ほしゅう工事は、サトウキビの収穫時期に入る前の11月頃に集落単位で行なっていた。年に1～2回ほどあり、担当範囲はシチャシードゥヤードゥイ（下勢頭屋取）とハンジャヌウィーヤードゥイ（平安山ヌ上屋取）の境界きょうがいの道からアシビナーミチ入口いりぐちまでだった。一世帯から13歳以上の者が1人出て、イシグーを敷きならす作業を2～3日かけて行なった。日当が30銭にっとうぐらいせんもらえた。

グンドー沿いの屋号シチャヌハナグシク（下ヌ花城）：96屋敷前で綱引きが行なわれていた。

現在の嘉手納基地ゲート1からゲート2につながる道とほぼ一致している。

→上勢頭屋取のウクマガイを見よ。

アカミチー

シチャシードゥヤードゥイ（下勢頭屋取）とハンジャヌウィーヤードゥイ（平安山ヌ上屋取）の境界さかいからアカミチーカジマヤーまでの道。イシグーは敷かれておらず、赤土あかつちのままであった。雨が降るとよく滑すべった。

馬車道

ウチャードゥイミチ

ウチャードゥイの中を通る道。グンドー沿いの屋号ウフミチバタハナグシク（大道端花城）：103から北へ向かい、屋号ウグワングワーニー（御願小根）：79の前を通り、ウィーヒングワーへ行く道。馬車も通ることができた。

ウシモーミチ

ウシナーミチとも言う。毎日、集落から牛を引っ張って行く道。2か所あるうちの1つ。グンドーからアカミチカジマヤーを右に折れ、ウシモーへ行く道である。

■北谷尋常高等小学校：明治35（1902）年に北谷尋常小学校と野国尋常小学校の二校が合併し、平安山ヌ上屋取に開校した。昭和16（1941）年の「国民学校令」により、学校名が国民学校へと変わった。

■クンノーイカジマヤー：現在の嘉手納町域にあった国直屋取にあった十字路。

■イシグー：さんご礁などを砕いた細かい砂利。

■嘉手納基地：沖縄本島中部にある極東最大の米空軍基地。



◀現地調査・嘉手納基地内▶

ウシモーミチ

ウシナーミチとも言う。毎日、集落から牛を引っ張って行く道。2か所あるうちの1つ。グンドー沿いの屋号ウフミチバタハナグシク（大道端花城）：103 から南側へ向かい、ウシモーへ行く道である。

ガッコーミチ

北谷国民学校前のグンドーからクンディヌシーの前を左に折れ、シチャバルグワーとおを通り、ウィーヒングワー、ニシバルグワーとアシビナージーの間を抜け、ヤガグワーヤードゥイへと続く道。

昭和8（1933）年頃、シチャバルグワーからウスクドーヌカーラまで畑をつぶして、馬車道を作った。それ以前は、馬車の通れない1m幅ぐらいの狭い道であった。昭和12（1937）年以降に、ウスクドーヌカーラからグンドーのシチャシードゥヤードゥイ（下勢頭屋取）とハンジャヌウィーヤードゥイ（平安山ヌ上屋取）の境まで馬車道となった。

→平安山ヌ上屋取のクンディヌシーを見よ。

アシビナーミチ

グンドー沿いの屋号ミーテーラ（新平良）：106 から北へ向かう道。アシビナージーへと続き、ウチャードゥイを過ぎたあたりからワンドゥーに入る。

この一帯は地形的に高いところに位置し、フィラカージーとアシビナージーの間であるため、北風が強く吹く場所であった。大正3（1914）年生まれの人が13歳の頃に、アシビナーミチの道普請をしたと言う。

生活道

シチャバルグワーミチ

グンドーのアカミチーカジマヤー、トゥンワタルーバシを過ぎ、屋号シチャヌカミーハナグシク（下ヌ亀花城）：53 から北へ向かう道。シチャバルグワーの中を通り、チュンナーグワーヤードゥイ（喜友名小屋取）へと続く。

坂道

ウフサクビラ

アカミチーカジマヤーから南へ向かい、ウフサクに至る道の途中までを言う。屋号アカミチーチュンナー（赤道喜友名）：42 からトゥクガーへ行く坂道。急な坂なので、馬車に荷物を少ししか積むことができなかった。

■北谷尋常高等小学校：明治35（1902）年に北谷尋常小学校と野国尋常小学校の二校が合併し、平安山ヌ上屋取に開校した。昭和16（1941）年の「国民学校令」により、学校名が国民学校へと変わった。



〈現地調査・嘉手納基地内〉

アカミチヌフィラ

アカミチヌヒラグワー、アカミチヌピラとも言う。北谷国民学校^{ちやたんこくみん}やタカアブサーを過ぎたところから、屋号シターハナグシク（思太花城）:25の前までのグンドーを言う。ゆるやかな坂道であった。その一帯は赤土で、雨が降るとよく滑った。

→平安山ヌ上屋取のタカアブサーを見よ。

切り通し

ワイトゥイ

岩山を切り取った道。集落の南西側、屋号スイテーラグワー（首里平良小）:11の前を通る道。トゥクガーに行く道で、馬一頭が通れるぐらいの道幅だった。

岩山



フィラカージー

ウチャードゥイの東側に3つ並んでいたシー。フィラカージーを境にして西側がシチャシードゥヤードゥイ（下勢頭屋取）、東側はウィーシードゥヤードゥイ（上勢頭屋取）になる。

一番大きなシーをフィラカージーと言うが、3つ並んだシーを総称してフィラカージーと言うこともある。3つの中で、グンドー寄りのシーはタカジーと言い、真ん中のシーには特別の呼称はなかった。

フィラカージーの一番上のモーグワーで、時々フナウクイをしていた。船が那覇から出て、読谷残波岬に隠れるまで見えていた。普段はジムスの西側やグーフなどでフナウクイすることが多かった。

また、集落内行事、特にアザアシビがあるときには、フィラカージーに上り、鉦をたたいて隣接の集落である山内、諸見里、ハンザン（平安山）、ハマガー（浜川）、イリー（伊礼）、国直、桑江島屋^{ドゥイ}取あたりまで呼びかける場所として利用した。

タカジー

ウチャードゥイの東側に3つ並んでいたシーの中で、グンドー寄りで槍のように尖ったシー。タッチューとも言う。一番大きなシーはフィラカージーと言うが、3つ並んだシーを総称してフィラカージーと言うこともある。真ん中のシーには特別の呼称はない。

ウィーシードゥヤードゥイ（上勢頭屋取）の人たちは、シー全体を総称してシードゥヌシーと言っていた。

■北谷尋常高等小学校：明治35（1902）年に北谷尋常小学校と野国尋常小学校の二校が合併し、平安山ヌ上屋取に開校した。昭和16（1941）年の「国民学校令」により、学校名が国民学校へと変わった。

■シー：岩山。

■モーグワー：原野。野原。原っぱ。

■フナウクイ：見はらしのいい場所から、旅に出る人の安全を願い、船を見送ること。

■アザ：下勢頭屋取で言うアザ（字）は集落の意味。

■アシビ：歌・三味線・踊りなどを楽しむこと。また、村芝居・祭りなど、仕事を休んで行なう演芸・娯楽。

■国直：現在の嘉手納町域にあった屋取集落。

■桑江島屋取：国直の南側にあった屋取集落。

■シー：岩山。

アシビナー

アシビナーの北側にある岩山。話者によると、アシビナーでアシビを始めたのが明治19(1886)年頃からなので、その頃からアシビナーと呼ぶようになったのではないかと言う。

嘉手納基地内に現存している高い岩山である。

マヤージ

屋号サンドウターラグワ (三良平良小):80の北側にあった岩山。話者によると、マヤージと言うが、必ずしもそこにネコを吊るすわけではなく、吊るされているのを見たこともないと言う。名前の由来は不明。

現在も嘉手納基地内に原形が残っている。立派なシーである。しかし、戦前はどこから見てもシーが見えたが、戦後は草刈りや薪取りもしなくなったために、木が生い茂っている。

ウカマ

シチャバルグワの西側にあった岩山。話者によると、ウカマの東側には遺骨がたくさんあり、集落が開拓される前から風葬地帯だったのではないかと言う。

ウカマとカンジャーの北側は石切り場だった。一級品の石で、墓石や石垣などに使われていた。シチャシードウヤードウイ(下勢頭屋取)の人たちは墓を作る時、ここから石を調達していた。

話者によると、戦時中、ウカマの防空壕は海軍の一番大きな高射砲が設置されていたが、一発も撃っていないと言う。

現在も嘉手納基地内に残っている。戦前はどこから見ても岩が見えていたが、現在は木が生い茂り、岩が見えなくなっている。

→喜友名小屋取のウカマを見よ。

カンジャー

ウカマの北西側に連なって位置するシー。

トゥクジヌシーグワ

集落の西はずれにあった岩。このシーから草や石を取ると祟りがあると言われている。話者によると、トゥクジヌシーグワから石を取って豚小屋を作ったら、豚の様子がおかしくなり、取った石を戻したという伝説があると言う。タマガイが出たり、骨なども多く、草刈りには行かなかった。

嘉手納基地内に現存している小さなシーグワである。

■アシビ：歌・三味線・踊りなどを楽しむこと。また、村芝居・祭りなど、仕事を休んで行なう演芸・娯楽。

■嘉手納基地：沖縄本島中部にある極東最大の米空軍基地。

■ネコの死骸を葬るときに木の枝に吊るす習俗が沖縄各地にみられ、そうすると化けネコにならずに成仏すると言う。

■シー：岩山。



《マヤージ》

■シー：岩山。

■タマガイ：凶兆。火の玉が家の上に高く上がったりすること。

■嘉手納基地：沖縄本島中部にある極東最大の米空軍基地。

■シーグワ：岩山。

トウクガーシー

アカミチーカジマヤーから南へ向かい、ウフサクビラを^{くだ}下ったところにあった岩山。

^{ふうそう}風葬地帯でもあった。

昭和20(1945)年3月頃、米軍の^{こうげき}攻撃が激しくなり、カンシショーでの業務ができなくなった。そのため、トウクガーシーの自然壕に^{かんししゅう}監視哨業務を移した。

現在は^{かてな}嘉手納基地内である。^{こくたい}国体道路から^{あいだ}国道58号線に向けて、右手にあるイーグルロッジと山の上のタイチョーヤーとの間にあるシーである。

→浜川のカンシショーを見よ。

林

メーヌマーチュー

メーヌカーの北東側にあった^{まつ}松林。メーヌマーチューグワーとも言う。周囲は畑で、このメーヌマーチューのところは、サトウキビの^つ枯れ葉を積むところだった。ファーガラマジミドゥクルと言う。

土地はやせていたが、ナーバ(キノコ)を探したり、子どもたちの遊び場所でもあった。また、ネコが死んだときに^つ吊るす場所でもあった。イニンビーもよく出た。

現在は^{かてな}嘉手納基地内である。戦前はたくさんの松があったが、7~8本が残っているだけとなった。

丘

グーフ

アシビナージーの西側にあった。周辺はイシャーラ畑だった。シチャバルグワーの人たちは、グーフでフナウクイをしていた。戦後、米軍がイシグーを取ったため、現在は穴が開いている。

池沼

ウチグムイ

9か所ある^{はいしよ}拝所の1つ。ナーカヌクムイとも言う。屋号サンドウーテーラ(三良平良):87の南側にあった大きなクムイ。

掘井戸

メーヌカー

9か所ある^{はいしよ}拝所の1つ。集落の真ん中あたりで、ウシモーの北東側にある。南側に住んでいる人はクシヌカーと言うこともある。7~8尋(10.5~12m)の深さだった。

■監視哨：敵の動きを監視するところ。

■嘉手納基地：沖縄本島中部にある極東最大の米空軍基地。



《メーヌマーチュー》

■ファーガラマジミドゥクル：落葉を積むところ。

■嘉手納基地：沖縄本島中部にある極東最大の米空軍基地。

■ネコの死骸を葬るときに木の枝に吊るす習俗が沖縄各地にみられ、そうすると化けネコにならずに成仏すると言う。

■イニンビー：ひとだま。死者の遺念が火となって現れるとされるもの。

■イシャーラ：土に石ころが混ざった土地。イサーラとも言う。

■フナウクイ：見はらしのいい場所から、旅に出る人の安全を願い、船を見送ること。

■イシグー：さんご礁などを砕いた細かい砂利。

■クムイ：池。沼。



《メーヌカー》

入植当時はトゥクガーの水を馬で運んで飲用していた。その後、共同井戸であるフェーナカーやメーナカーを掘り、大正から昭和にかけては個人の井戸が掘られるようになった。

メーナカーは、釣瓶の滑車が出てからは柱を立てて、クルマガーとなった。

嘉手納基地内に現存し、井戸の縁石には釣瓶の綱の跡を見ることができる。

フェーナカー

9か所ある拝所の1つ。イチクミからは、ニシヌカーと言う。谷間にあり、フェーナカーの頂上にはウシモーがある。話者によると、ウシモー一帯の山の水が染み込んで、フェーナカーに流れ込んでいるのではないかと言う。7～8尋（10.5～12m）ぐらいの深さで、澄み切ったきれいな水であった。井戸の右側にある角柱はウーケイシーの役目をしていた。

入植当時はトゥクガーの水を馬で運んで飲用していた。その後、共同井戸であるフェーナカーやメーナカーが掘られた。話者によると、ウィーシードゥヤードゥイ（上勢頭屋取）の人たちも一緒になって井戸を作ったのではないかと言う。大正から昭和にかけては個人の井戸が掘られるようになった。

小満芒種の大雨の時には、水は泉のように溢れ出た。乾燥した土地に浸水するほどであった。

昭和17～8（1942～43）年頃に突然水が吹き出し、それが長い間続いていた。

明治30（1900）年代生まれの女性の方々は、18歳ごろまでフェーナカーで水を汲んでいたという。

カーウガミは旧暦9月9日に行っていた。また、出征する前にもフェーナカーを拝んでいた。

嘉手納基地内に、原形のままで現存しており、井戸の縁石に釣瓶の綱の跡を見ることができる。

シチャバルグワヌカー

4か所あった共同井戸のうちの1つ。屋号ウファカニー（御墓根）：71の後ろにあった。石囲いされた大きいガジマルの北側、2～3m離れたところにあった。深さは22尋（33m）だった。

現在は嘉手納基地内で、ガジマルはあるが、井戸は残っていない。

ウィーナハナグシクヌカー

4か所あった共同井戸のうちの1つ。屋号イーヌハナグシク（上ヌ花城）：109の北側、サーターヤーの側にあった。深さは20尋



《メーナカー》

■クルマガー：滑車につるべ縄をかけて水を汲む井戸。

■嘉手納基地：沖縄本島中部にある極東最大の米空軍基地。

■ウーケイシー：桶を頭に載せるための台。



《フェーナカー》

■小満芒種：沖縄で雨の多い季節。梅雨期。5月中旬～6月下旬頃を言う。

■カーウガミ：井戸の神様を拝む。

■嘉手納基地：沖縄本島中部にある極東最大の米空軍基地。



《シチャバルグワヌカー》

(30m) だった。

カーターケーシグワーヌカー

4か所ある共同井戸のうちの1つ。屋号カーターケーシグワー (加那高江洲小) :123 のところにあった。深さは21尋 (31.5m) だった。

ウフヤガヌカー

4か所ある共同井戸のうちの1つ。屋号ウフヤガ (大屋我) :135 の西側にあった。深さは27尋 (40.5m) で、シチャシードウヤードウイ (下勢頭屋取) で一番深い井戸だった。

橋

トゥンワタルーバシ

北谷国民学校前のグンドーからアカミチーカジマヤーを過ぎたところにあった。橋の手前には屋号ハシヌハタジンカグワー (橋ヌ端源河小) :44 があった。アカミチーから来ると橋までは下り坂で、橋を過ぎると上り坂になっていた。

コンクリート製の橋になってからは、シードウバシと言うようになった。

話者によると、最近まで石積みのアーチが少し残っていたと言う。今回の現地調査のときには、石積みは残っていたものの、アーチは崩れていた。米軍がコンクリートで伸ばした跡も残っている。

十字路

アカミチーカジマヤー

屋号アカミチチュンナー (赤道喜友名) :42 前の交差点。ウシモーミチ、ウフサク、グンドーへ下る道との交差点。

製糖小屋

サーターヤー

共同製糖小屋。イチクミに7か所あったうちの1つ。屋号スイテラグワー (首里平良小) :11 の北側にあった。

使用者は屋号スイテラグワー (首里平良小)、屋号イリアシンミグワー (西安次嶺小)、屋号アガリアシンミグワー (東安次嶺小)、屋号カミーサクガー (亀佐久川) の4軒だった。維持費は使用者みんなを出していた。

■北谷尋常高等小学校：明治35 (1902) 年に北谷尋常小学校と野国尋常小学校の二校が合併し、平安山ヌ上屋取に開校した。昭和16 (1941) 年の「国民学校令」により、学校名が国民学校へと変わった。



◀聞き取り調査風景▶

サーターヤー

共同製糖小屋。イチクミに7か所あったうちの1つ。イリヌテラ（西ヌ平良）：8の西側にあった。

使用者は屋号イリヌテラ（西ヌ平良）、屋号ウフテラ（大平良）、屋号テラ（平良）の3軒だった。維持費は使用者みんなを出していた。

サーターヤー

共同製糖小屋。イチクミに7か所あったうちの1つ。屋号アカミチハナグシク（赤道花城）：13の北側にあった。

使用者は屋号アカミチハナグシク（赤道花城）、屋号シタージンカ（思太源河）、屋号ノートクミシグワー（武戸米須小）の3軒だった。維持費は使用者みんなを出していた。

サーターヤー

共同製糖小屋。イチクミに7か所あったうちの1つ。屋号カマージンカ（蒲源河）：16の西側、屋号シタージンカ（思太源河）：15との間あいだにあった。

使用者は屋号カマージンカ（蒲源河）、屋号カマダージンカグワー（蒲太源河小）の2軒だった。維持費は使用者みんなを出していた。

サーターヤー

製糖小屋。イチクミに7か所あったうちの1つ。屋号サンラージンカ（三良源河）：49の南西側にあった。

サーターヤー

共同製糖小屋。イチクミに7か所あったうちの1つ。屋号ノートージンカ（武戸源河）：48の南側にあった。

使用者は屋号ノートージンカ（武戸源河）、屋号ハシヌハタジンカグワー（橋ヌ端源河小）の2軒だった。維持費は使用者みんなを出していた。

サーターヤー

共同製糖小屋。イチクミに7か所あったうちの1つ。屋号アカミチチュンナー（赤道喜友名）：42の北東側にあった。

使用者は屋号アカミチチュンナー（赤道喜友名）、屋号カミーヤンバルチュンナーグワー（亀山原喜友名小）、屋号サンーティエラ（三良平良）の3軒だった。維持費は使用者みんなを出していた。



《聞き取り調査風景》



《現地調査・嘉手納基地内》

サーターヤー

共同製糖小屋。ニクミに4か所あったうちの1つ。屋号シチャバルタケーシグワー（下原高江洲小）：28の東側にあった。

使用者は屋号シチャバルタケーシグワー（下原高江洲小）、屋号ウシーチファ（牛津覇）、屋号サンラージシカグワー（三良源河小）、屋号フランスタケーシグワー（フランス高江洲小）、屋号シターハナグシク（思太花城）の5軒だった。維持費は使用者みんなを出していた。



◀現地調査・嘉手納基地内▶

サーターヤー

共同製糖小屋。ニクミに4か所あったうちの1つ。屋号ミーチリハナグシク（目切花城）：54の北東側にあった。

使用者は屋号ミーチリハナグシク（目切花城）、屋号ウフヤーハナグシク（大屋花城）の2軒だった。維持費は使用者みんなを出していた。



◀聞き取り調査風景▶

サーターヤー

共同製糖小屋。ニクミに4か所あったうちの1つ。屋号シチャヌハナグシク（下ヌ花城）：96の北側にあった。

使用者は屋号シチャヌハナグシク（下ヌ花城）、屋号シチャヌカミーハナグシク（下ヌ亀花城）の2軒だった。維持費は使用者みんなを出していた。

サーターヤー

共同製糖小屋。ニクミに4か所あったうちの1つ。屋号ウフミチバタハナグシク（大道端花城）：103からグンドーをはさんだ南側にあった。

使用者は屋号ウフミチバタハナグシク（大道端花城）、屋号アガリハナグシク（東花城）、屋号ウグワングワーニー（御願小根）、屋号アガリー（東リー）、屋号スイハナグシク（首里花城）、屋号クシハナグシク（後花城）、屋号イーヌチファグワー（上ヌ津覇小）の7軒だった。維持費は使用者みんなを出していた。



◀聞き取り調査風景▶

サーターヤー

共同製糖小屋。サンクミに3か所あったうちの1つ。屋号ウフサクガー（大佐久川）：91の西側にあった。

使用者は屋号ウフサクガー（大佐久川）、屋号ヤマースクガー（山佐久川）、屋号タケーシ（高江洲）、屋号イチバル（池原）、屋号屋号カナーチファ（加那津覇）の5軒だった。維持費は使用者みんなを出していた。

サーターヤーと屋敷の間にデイゴがあり、よくハブがいた。

サーターヤー

共同製糖小屋。サンクミに3か所あったうちの1つ。屋号イーヌハナグシク（上ヌ花城）：109の北側にあった。

使用者は屋号イーヌハナグシク（上ヌ花城）、屋号イーヌタルーハナグシク（上ヌ樽花城）、屋号イーヌマチーハナグシク（上ヌ松花城）、屋号イーヌカミーハナグシク（上ヌ亀花城）の4軒だった。維持費は使用者みんなを出していた。

サーターヤー

共同製糖小屋。サンクミに3か所あったうちの1つ。屋号マチーヤガ（松屋我）：134の東側にあった。

使用者は屋号マチーヤガ（松屋我）、屋号ウフヤガ（大屋我）、屋号ウシーヤガ（牛屋我）、屋号メーヤガ（前屋我）、屋号タルーヤガ（樽屋我）、屋号ウシーヤガ（牛屋我）の6軒だった。維持費は使用者みんなを出していた。

サーターヤー

共同製糖小屋。ヨクミに5か所あったうちの1つ。屋号チサバグワー（喜舎場小）：56の東側にあった。

使用者は屋号ミーハナグシク（新花城）、屋号ヘーチチャハナグシク（灰土花城）、屋号シチャバルタケーシグワー（下原高江洲小）、屋号ウクバル（奥原）の5軒だった。維持費は使用者みんなを出していた。

サーターヤー

共同製糖小屋。ヨクミに5か所あったうちの1つ。屋号ジキラングワー（瑞慶覧小）：61の南西側にあった。ジキラングワーヌサーターヤーとも言う。

使用者は屋号ジキラングワー（瑞慶覧小）、屋号クミシ（米須）、屋号ミーヤーサクガーグワー（新屋佐久川小）、屋号フナクシ（富名腰）、屋号シチャバルサクガーグワー（下原佐久川小）、屋号ウチサクガーグワー（内佐久川小）、屋号シチャバルヤマーチュンナーグワー（下原山喜友名小）の7軒だった。維持費は使用者みんなを出していた。

サーターヤーのクルマナーを平たく、きれいなガジマルが覆っていた。ガジマルは端っこにあった。ガジマルから南側がサーターヤーであった。ガジマルは現存する。



＜聞取り調査風景＞



＜現地調査・嘉手納基地内＞

■クルマナー：サトウキビを圧搾する装置。

サーターヤー

共同製糖小屋。ヨンクミに5か所あったうちの1つ。屋号シェークーチュンナー（細工喜友名）：66の南側にあった。

使用者は屋号シェークーチュンナー（細工喜友名）、屋号ウファカニー（御墓根）、屋号ウファカニーグワー（御墓根小）、屋号クムイヌハタ（池端）、屋号クムイヌハタイリー（池端西）の5軒だった。維持費は使用者みんなを出していた。

昔、井戸があったので、井戸の神様として石垣で囲ってあった。戦後、井戸は埋められた。

サーターヤー

共同製糖小屋。ヨンクミに5か所あったうちの1つ。屋号アガリントーチュンナー（東武戸喜友名）：120の南側にあった。

使用者は屋号アガリントーチュンナー（東武戸喜友名）、屋号シントーチュンナー（武戸喜友名）、屋号ヤマグシク（山城）、屋号ヤマグシクグワー（山城小）、屋号イリサクガーグワー（西佐久川小）、屋号カニータンマー（金タンマー）の6軒だった。維持費は使用者みんなを出していた。

サーターヤー

共同製糖小屋。ヨンクミに5か所あったうちの1つ。屋号ムルンザトゥグワー（諸見里小）：122の西側にあった。

使用者は屋号ムルンザトゥグワー（諸見里小）、屋号ムルンザトゥ（諸見里）、屋号カミームルンザトゥグワー（亀諸見里小）、屋号クシサクガー（後佐久川）、屋号クシサクガーグワー（後佐久川小）、屋号ミーテーラ（新平良）の6軒だった。維持費は使用者みんなを出していた。

採石場



イシアナー

タカジーの南側にあった。グンドーに敷くイシグーは、ここから採石されていた。

拝所



アシビナーヌウガンジュ

9か所ある拝所の1つ。アシビナーの南側にあった。その周囲は畑であった。

2月の豊年祈願をするところである。

現在、嘉手納基地内で、昔の石段と思われる石積みは残っている



《現地調査・嘉手納基地内》

■ イシグー：さんご礁などを砕いた細かい砂利。

■ 嘉手納基地：沖縄本島中部にある極東最大の米空軍基地。

が、ウコールはなくなっている。

ユシミヌカミ

ウチャードゥイの四隅に神様を祀^{まつ}ったうちの1つ。屋号サンドウーテラグワー（三良平良小）：80の南西側にあった。

ユシミヌカミ

ウチャードゥイの四隅に神様を祀^{まつ}ったうちの1つ。ジムスの前にあった。

ユシミヌカミ

ウチャードゥイの四隅に神様を祀^{まつ}ったうちの1つ。屋号ミーテラ（新平良）：106の北側に位置する。

ユシミヌカミ

ウチャードゥイの四隅に神様を祀^{まつ}ったうちの1つ。屋号ウグワングワーニー（御願小根）：79の側^{そば}にあった。一番北側の神様である。

集会所



ジムス

昭和2（1927）年頃に建てられた事務所。見はらしの良い高台に位置していた。遠くは浦添^{うらそえ}ようどれ付近までよく見えた。

ジムスの西側、墓地の上にソテツが植えられていたところがあり、そこでフナウキをしていた。那覇^{なは}を出港した船は、ウカマジーのところに来ると、シーで遮られて船影が見えなくなった。

法螺^{ほら}を吹き鳴らして、諸行事の連絡をする場所でもあった。

アシビナーで行なっていたアザアシビを、昭和2（1927）年からジムスで行なうようになった。

広場



ウシモー

ウシナー、シードウウシナーとも言う。シチャシードウヤードゥイ（下勢頭屋取）とウィーシードウヤードゥイ（上勢頭屋取）の間あたりにあった闘牛場^{とうぎゅうじょう}。ウシオーラセーのときには、ドラ、鉦^{かね}、太鼓^{たいこ}などを鳴らして、青年^{おうえん}たちが応援した。ウシオーラセーをした後は、余興^{よきょう}として沖縄相撲^{すもう}などをした。

話者によると、観覧席^{かんらんせき}を作って、ナーとして整備^{せいび}したのは、明治30（1897）年頃で、それ以前はモーの状態^{じょうたい}で、ウシオーラセーをしていたのではないかと言う。

■ウコール：御香炉。線香をたてる炉。



《合祀所》

■浦添ようどれ：浦添城跡北側の崖にある英祖王統と尚寧王の墓。

■フナウキ：見はらしのいい場所から、旅に出る人の安全を願い、船を見送ること。

■シー：岩山。

■アザ：下勢頭屋取で言うアザ（字）は集落の意味。

■アシビ：歌・三味線・踊りなどを楽しむこと。また、村芝居・祭りなど、仕事を休んで行なう演芸・娯楽。

■ウシオーラセー：闘牛。牛と牛を闘わせる農村部の伝統的な娯楽競技。ウシオーラシーとも言う。

■ナー：広場。

■モー：原野。野原。原っぱ。

現在は嘉手納基地内^{かでな}で、空き地となっている。話者によると、地下は石であるために杭^{くい}が打てず、そこに家は作れないと言う。

アシビナー

ウチャードゥイの北側にある広場。明治19(1886)年頃から、この広場でアザアシビをするようになった。南側にはアシビナーヌウガンジュがあり、その側^{そば}に舞台を作って芝居などをしていた。その後アザアシビは、昭和2(1927)年頃にアシビナーからジムスへと場所を移して続けられた。

ムンチャリナー

屋号シチャヌハナグシク(下ヌ花城)⁹⁶のところ、グンドーをはさんだ南側にあった。200坪以上の広さがあった。

豆や、製糖期に出るウージガラを干したりする場所だった。農閑期には子どもたちの遊び場所となり、ムートウトウエーなどをして遊んでいた。また、綱引きの後に、沖縄相撲をする場所でもあった。マーイサーが大127斤(76.2kg)・中55斤(33kg)・小30斤(18kg)の3つあった。

ムンチャリナー

屋号ソートーチュンナー(武戸喜友名)⁷⁵のところにあった。100坪ぐらいの広さがあった。

龕屋



ガンヤー

ガンを納めておく小屋。ウカマジーの東側で、シチャバルグワーとの間^{あいだ}にあった。

亀甲墓



クバガーヌハカ

ウィーシードゥヤードゥイ(上勢頭屋取)の屋号クバガー(久場川)のカーミナクーバカ^{そくりょう}。測量の基準となる貴重な墓^{きちょう}である。この墓からウィーシードゥヤードゥイ(上勢頭屋取)となる。

現在は嘉手納基地内^{かでな}である。現存^{げんぞん}している。

境界標



ドゥリグワー

屋号アカミチチュンナー(赤道喜友名)⁴²の屋敷^{そば}の側にあった。2mぐらいの盛土の上に、幅30cm、厚み7~8cmぐらいの平

■嘉手納基地：沖縄本島中部にある極東最大の米空軍基地。

■アザ：下勢頭屋取で言うアザ(字)は集落の意味。

■アシビ：歌・三味線・踊りなどを楽しむこと。また、村芝居・祭りなど、仕事を休んで行なう演芸・娯楽。

■ウージガラ：サトウキビの絞り殻。

■ムートウトウエー：子どもの遊び。プロレスごっこのようなもの。

■マーイサー：集落の広場などに置いてある大小の堅い、丸い石。青年たちが力試しをする。



◀現地調査・嘉手納基地内▶

■カーミナクーバカ：屋根が亀の甲のような形をした墓。

■嘉手納基地：沖縄本島中部にある極東最大の米空軍基地。



◀クバガーヌハカ▶

たい石を置き、畑の境界の目印にしていた。

建築物

タイチョーヤー 【※編注：P374「現在の下勢頭屋取」の地図に記載】

隊長家。話者によると、米軍航空隊の准将の住居らしいと言う。昭和42～43(1967～68)年頃、コンクリートから赤瓦に変わった。戦前の屋号サチヤマグワー(サチヤマ小)：1の屋敷跡あとに建てられている。終戦当時からタイチョーヤーと言っていた。

現在は嘉手納基地内である。国体道路沿いに見上げると、屋根の一部が見える。

■嘉手納基地：沖縄本島中部にある極東最大の米空軍基地。

■国体道路：県道23号線 国体記念道路

～ ちやたん 8月15日夜遊び ～
＜チンクと棒術＞



下勢頭屋取 集落の周辺

下勢頭屋取の組分け

- イチクミ (一組)
- ニクミ (二組)
- サンクミ (三組)
- ヨンクミ (四組)



小字名

大字と小字

日本国の行政では、土地の整理・管理・認証を行なうのに市・区・町・村・字という区画をもうけ、地番をわりふっている。市・区・町・村の下位単位である「字」は、「大字」とも呼ばれ、地番をふるための最小単位になっている。また、「字」の下位区分に「小字」があって、こちらは土地の登記手続きなど限られた場面で用いられている。

この土地区画制度は明治時代にはじまる。日本本土では明治 22 (1889) 年の市区町村制実施によって、近世期の土地制度を土台に土地区画が再編され、大字・小字という区分が設定されたが、沖縄県の場合は明治 41 (1908) 年、沖縄県及島嶼町村制の実施によって、近世琉球期の土地制度を土台とする大字と小字が設定された。大字は、近世琉球で「村」と呼ばれていた行政単位をもとにしており、その「村」をより細かく区画していた「はる」が小字の設定とむすびついた。

北谷村の大字

北谷村内の大字の名称と区域は、明治時代に、近世琉球期の「村」の名称と区域をもとに設定され、昭和 20 (1945) 年の沖縄戦までほとんど変わることがなかった。

《沖縄戦以前の北谷村の地籍字名》

北谷・玉代勢・伝道・桑江・伊礼・平安山・浜川・砂辺

(現在は嘉手納町域に含まれる字 → 野里・野国・屋良・嘉手納)

ただし、大正初期から昭和 14 (1939) 年頃にかけて、地籍上の大字とは別に、行政字とよばれる区画が次々に設置された。行政字は集落のまとまりをもとに設定されたもので、土地制度にかかわる編成単位というよりは、自治にかかわる集団区分の単位であり、行政組織の末端部的な機能をもっていた。

《昭和 15 (1940) 年頃の行政字名》

北前、北谷、玉代勢、伝道、玉上、桑前、昭和通、桑江、桑後、
謝苺、桃原、伊礼、平安山、浜川、砂辺、下勢頭、上勢頭

行政字の設置は、住民からは本字からの分離独立と受け取られていたようである。しかし、行政字はあくまで行政上の集団区分であり、土地区画の単位としては先述の地籍字がかわらず用いられていた。

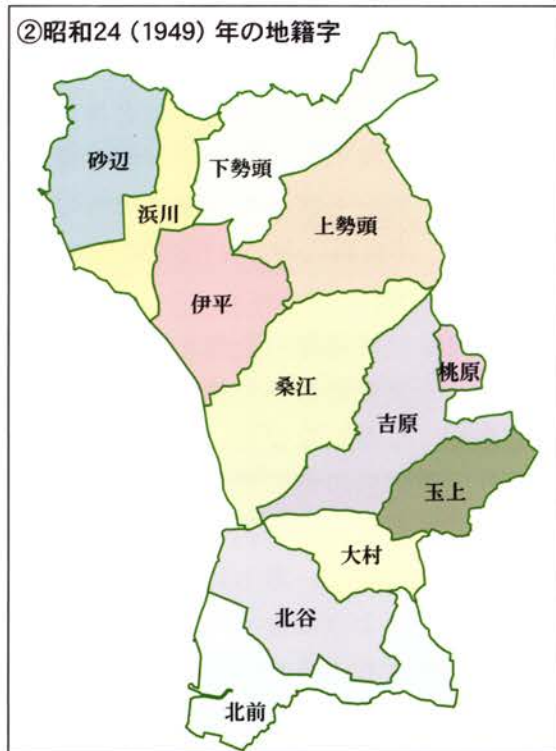
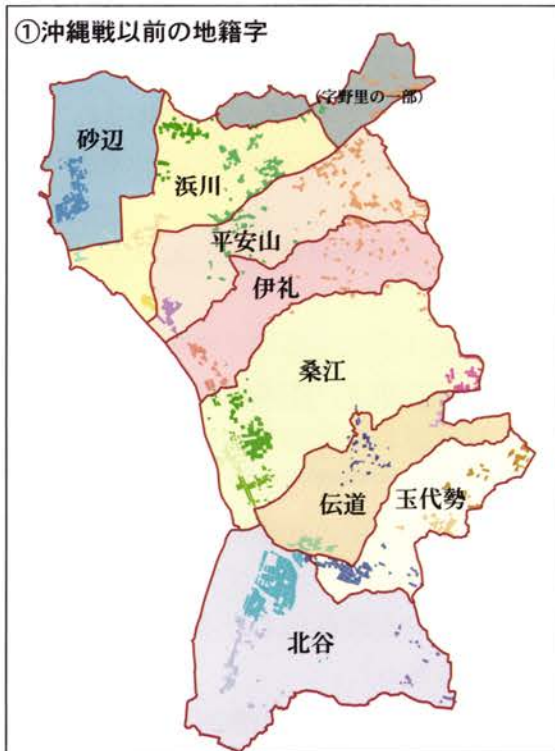
地籍字の再編が行なわれたのは、昭和 21 (1946) 年から昭和 24 (1949) 年にかけてのことである。沖縄戦によって土地関係の公簿や地図、登記簿などが消失してしまったため、米軍政府は、昭和 21 (1946) 年、沖縄諮詢会を通じて各村に村土地所有権委員会を設置し、地籍調査にとりかからせた。その際、北谷村では、同時に地籍字の再編も行なわれた。

《再編後の地籍字名 (昭和 24 (1949) 年に確定)》

北前・北谷・大村・玉上・桃原・桑江・伊平・上勢頭・下勢頭・浜川・砂辺

(現在は嘉手納町域に含まれる字 → 国直・野里・野国・兼久・水釜・
嘉手納・屋良・東・久得)

この 20 の字ごとに字土地所有権委員会が設置され、昭和 21 (1946) 年から昭和 23 (1948) 年末まで、地籍調査と測量作業が行なわれた。現在北谷町域で用いられている大字・小字の名称は、この地籍字の再編と地籍調査によって確定されたものである。



上の図は、沖繩戦以前と、沖繩戦後再編された地籍字の^{ちせきあざ}違いを示したものである。戦前は行政字のなかに名前が出ていた北前、玉上、桃原、下勢頭、上勢頭が、地籍字として編成されている。なお、字玉上は、戦前の行政字玉上は「たまうえ」と読まれていたようで、戦後、地籍字になってからは「たかがみ」と読まれている。

字大村、吉原、伊平は、戦後の字再編によって新設され、名前がつけられた。字大村は戦前の字伝道の一部と字玉代勢の一部、字吉原は戦前の字伝道と桑江の一部、字伊平は戦前の字伊礼と字平安山の一部が合併して新設された。



平成17 (2005) 年現在、北谷町域の土地区画は21区画ある。昭和24 (1949) 年と比べて増加したのは、埋立地に新設された字や、埋立地隣接区域の区画整理で再編された字である。字北前の海岸沿いの一部は北前1丁目、字北谷の海岸沿いは北谷1丁目・2丁目となった。また、字桑江・伊平の海岸沿いと、その沖の埋立地は字美浜と美浜1丁目～3丁目、浜川漁港のあるあたりは字港、字浜川と字砂辺沖の埋立地は字宮城と名づけられた。埋立地の字名には、美浜や港など、まったく新しく作られた名称があらわれるが、これらの名称は、方言的な要素や伝統的な地名との関連が薄く、非常に日本語の地名らしい響きを持っている。

小字の表記と読み

ところで、北谷村内の大字の名称表記は、漢字表記も日本語での読みも固定化されており、戦前も戦後も一定の表記が広く定着している。一方、北谷村内の小字名は、大字名にくらべて、表記も読みも時期によって揺れがみられる。

原因は、沖縄県において明治期から現在まで続いている、言語表記法の揺れにあるといつてよいだろう。

小字名は、沖縄県の土地が日本政府の管理制度に組み入れられる過程で作られ、日本政府のつくる文書のなかで使われることを想定されていることから、本質的には日本語の単語である。しかしながら、小字名はほとんどの場合、琉球語の地形語や地名から命名されており、琉球語の地形語や地名が持つ歴史や、琉球語としての発音と強い結びつきを保っていた。そして、小字名の制度が沖縄県に導入された明治期後半の沖縄県は、主要な言語であった琉球語に、おもに公的な場面での書きことばや話しことばとして、日本語が急速に入り交じるようになっていたが、この入り交じって使われる琉球語と日本語とを自由自在に表記できるような、合理的な表記方法は定まっていなかった。

結果、小字名を文字表記するには、琉球語向けの規則と日本語向けの規則がごちゃまぜに適用された。方言語彙の意味に対応する漢字・かなを用いられるかと思えば、方言語彙の音のほうだけを重視して漢字・かなをあてることもあり、そして一つの小字名のなかでこの両者を組み合わせることもあった。このように小字名ごとにばらばらな基準で表記が確定されると、今度は漢字表記された小字名を音読みで読むのか訓読みで読むのか、方言的に読むのか日本語的に読むのか、というような、読みに関する問題もうまれたのである。

この節では、北谷町域内の小字名について、漢字ではどのように書き、方言としてはどのように読んでいるか、『北谷町史 第1巻 付録』から小字名の漢字表記と小字名の方言読みを引用して一覧として示すことにした。また、この小字名の一覧には、今回の「北谷町の陸地地名」調査で聞き取りされた情報から、小字ごとの土質と土地利用状況、小字名の由来と思われる地名などの情報を付け加えた。

凡例

地籍字 北谷 —— ①

1 安良波原 (アラハバル) —— ③

② 方言語形はアラハバル (北谷ヌ前屋取)。

土質

利用

作物

2 佐阿天原 (サーティンバル)

チャタンヌメーヤドゥイ (北谷ヌ前屋取) の話者によれば、戦前はサーティンバル、サーティンバルのような呼び名は使っていなかったという。海沿いは砂地だった。④

土質 ジャーガル、砂地

利用 畑地

作物

⑤

①所属地籍字名

②小字番号

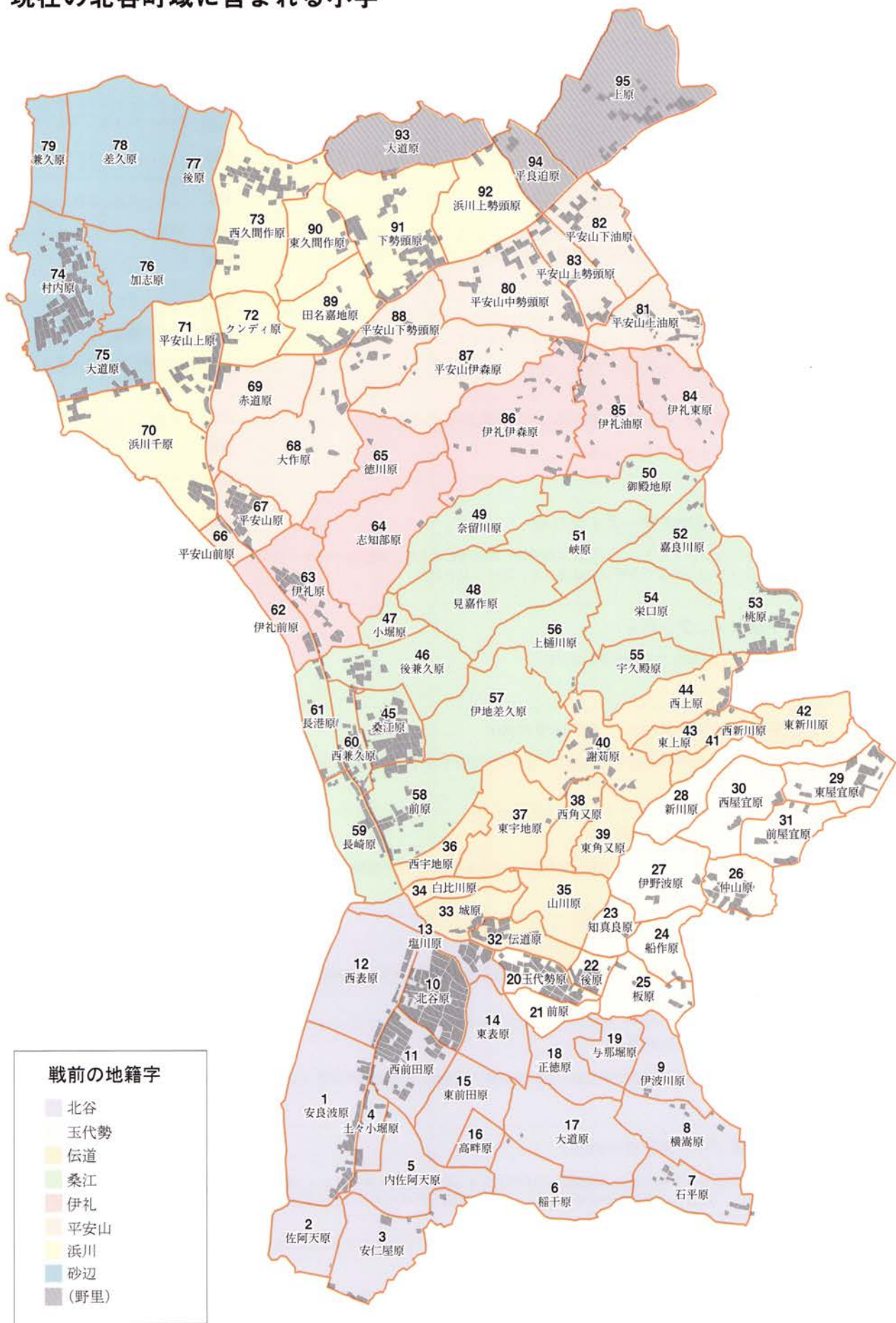
③小字名の漢字表記

() 内は方言読み

④今回の調査で確認された情報。〈集落名〉は、その方言語形を回答した集落名。

⑤土質と土地利用

現在の北谷町域に含まれる小字



地籍字 北谷

1 安良波原 (アラハバル)	土質	
方言語形はアラハバル (北谷ヌ前屋取)。	利用	
	作物	
2 佐阿天原 (サーティンバル)	土質	ジャーガル、砂地
チャタンヌメーヤードゥイ (北谷ヌ前屋取) の話者によれば、戦前はサーティンバル、サーティンバルのような呼び名は使っていなかったという。海沿いは砂地だった。	利用	畑地
	作物	
3 安仁屋原 (アンニャバル)	土質	ジャーガル
方言語形は確認できなかった。タードーシが多かった。チャギーがたくさんあった。	利用	水田、畑地
	作物	米、芋、サトウキビ、豆、蔬菜
4 土々小堀原 (ドゥルクムイバル、ルルクムイバル)	土質	ジャーガル
方言語形はドゥルクムイ (北谷)。	利用	畑地
	作物	サトウキビ
5 内佐阿天原 (ウチサーティンバル)	土質	
チャタンヌメーヤードゥイ (北谷ヌ前屋取) の話者によれば、戦前はサーティンバル、サーティンバルのような呼び名は使っていなかったという。	利用	
	作物	
6 稲干原 (ンニフシバル)	土質	ジャーガル、マージ
方言語形はンニフスー (北谷ヌ前屋取)。	利用	畑地、墓地
	作物	
7 石平原 (イシンダバル、イシンラバル)	土質	マージ
方言語形はイシンダバル (石平屋取)。イシンダヤードゥイ (石平屋取) の集落が広がっていた。	利用	畑地、宅地
	作物	サトウキビ、芋
8 横嵩原 (ユクタキバル)	土質	マージ
方言語形はユクタキバル (北谷ヌ前屋取)、ヨコタケバル (石平屋取)。名前の由来は不明。	利用	畑地
	作物	サトウキビ、芋
9 伊波川原 (イハガーバル)	土質	マージ
方言語形はイハガーバル (石平屋取、玉代勢)。イハガーという小川が流れていた。	利用	原野、畑地
	作物	芋
10 北谷原 (チャタンバル)	土質	
調査では方言語形が確認できなかった。チャタン (北谷) の家屋敷が広がっていた。	利用	宅地
	作物	
11 西前田原 (イリメンターバル)	土質	ジャーガル
方言語形はメンター (北谷ヌ前屋取)、イリメンタ (北谷)、メンターグワー (北谷)。チャタン (北谷) の家屋敷が広がっている一帯の南側。アガリメンタとイリメンタを合わせた一帯をメンターと呼んでいた。	利用	水田、宅地
	作物	米
12 西表原 (イリムティバル)	土質	
方言語形はイリムティバル (北谷)。チャタン (北谷) の家屋敷の広がっている一帯の西側。海岸近くまで田んぼが広がっていた。キシヤミチより東側にはサトウキビの畑もあった。	利用	水田、畑地
	作物	米、サトウキビ

13 塩川原 (スーカール)	方言語形はスーカール〈北谷〉。スーガーという井戸があった。	土質 利用 水田、畑地、宅地、茅野 作物 米、田芋、蔬菜など
14 東表原 (アガリムティバル)	方言語形はアガリムティバル〈北谷、玉代勢〉。チャタン (北谷) の家屋敷の広がっている一帯の東側。ユビター (深田) が多かった。	土質 利用 水田 作物 米、蔬菜
15 東前田原 (アガリメンターバル)	方言語形はアガリメンタ〈北谷〉、メンターバル〈北谷〉。アガリメンタとイリメンタを合わせた一帯をンターと呼んでいた。	土質 利用 水田、畑地 作物 米、芋、サトウキビ
16 高畔原 (タカブシバル)	方言語形はタカブシバル〈北谷〉。名前の由来はわからない。メンターの一部。土が良質で、チャタン (北谷) では一等地だった。	土質 粘土質の良質な土 利用 畑地 作物 芋、サトウキビ
17 大道原 (ウフドーバル)	方言語形はウフドーバル〈石平屋取、北谷〉。名前の由来はわからない。	土質 マージ、イシグー 利用 畑地 作物 芋、サトウキビ
18 正徳原 (ソートウクバル)	方言語形はソートウクバル〈北谷〉、ソートク、ソートウク〈玉代勢〉。名前の由来はわからない。耕地は少なく、墓がたくさんあった。昭和10年代、ハワイ移民から戻った人が百合の栽培を広めていた。	土質 利用 畑地、墓地、松林 作物 百合
19 与那堀原 (ユナファイバル)	方言語形はユナファイバル〈北谷〉。名前の由来はわからない。ソートウクバルを登りきったところがユナファイバルだった。	土質 利用 作物
地籍字 玉代勢		
20 玉代勢原 (タメーシバル)	調査では方言語形が確認できなかった。タメーシ (玉代勢) の家屋敷が広がっていた。	土質 利用 宅地、畑地 作物
21 前原 (メーバル)	方言語形はメーバル〈玉代勢〉。タメーシ (玉代勢) の家屋敷が広がっている一帯の南側。	土質 利用 畑地、茅野、松林 作物
22 後原 (クシバル)	方言語形はクシバル〈玉代勢〉。タメーシ (玉代勢) の家屋敷が広がっている一帯の北側。この一帯はクシヌヤードウイグワーと呼ばれていた。	土質 利用 畑地、宅地 作物 サトウキビ
23 知真良原 (チマラバル)	聞き取り情報なし。	土質 利用 作物
24 船作原 (フナジャクバル)	方言語形はフナジャクバル〈玉代勢〉、フナズクバル〈仲山屋取〉。ナケーマヤードウイ (仲山屋取) の話者によれば、船底のような形をしているからフナズクバルと言ったという。	土質 利用 松林、原野 作物

25 板原 (イチャバル)	土質	
方言語形はイチャバル(玉代勢)。この一帯にはイチャバルヤードゥイと呼ばれる小集落があった。	利用	畑地、宅地
	作物	芋、サトウキビ
26 仲山原 (ナケーマバル)	土質	ジャーガル、ウズマ
方言語形はナケーマバル(仲山屋取)、フナズクバル(仲山屋取)。ナケーマヤードゥイ(仲山屋取)の家屋敷が広がっていた。	利用	畑地、宅地
	作物	サトウキビ、大豆
27 伊野波原 (ヌーフアバル)	土質	ジャーガル、マージ
方言語形はヌーフアバル(玉代勢、仲山屋取)。南側にヌーフアガーラが流れていた。ナケーマヤードゥイ(仲山屋取)ではヌーフアジとも言っていた。	利用	畑地
	作物	芋、サトウキビ、大豆
28 新川原 (アラカーバル)	土質	
方言語形はアラカーバル(仲山屋取)。北側にアラカーが流れていた。	利用	畑地
	作物	芋、サトウキビ
29 東屋宜原 (アガリヤジバル)	土質	マージ、ジャーガル
方言語形はアガリバル(仲山屋取)。クシヤジの家屋敷と畑があった。真ん中はジャーガルの土地で周囲はマージ。雨が降ったときだけ流れる川があり、その周辺はチューチチジャーガル。	利用	畑地、宅地
	作物	芋、サトウキビ
30 西屋宜原 (イリヤジバル)	土質	マージ
方言語形はイリバル(仲山屋取)。イリヤジの家屋敷と畑があった。	利用	畑地、宅地
	作物	
31 前屋宜原 (メーヤジバル)	土質	マージ、ジャーガル
方言語形は、メーバル(仲山屋取)。メーヤジの家屋敷と畑があった。	利用	畑地、宅地
	作物	芋、サトウキビ
地籍字 伝道		
32 伝道原 (ディンドーバル、リンドーバル)	土質	
方言語形はリンドーバル(伝道)。リンドー(伝道)のほぼ全部の家屋敷が含まれていた。	利用	宅地、畑地
	作物	芋、サトウキビ、豆など
33 城原 (グスクバル)	土質	
方言語形はグスクバル(北谷、伝道)。チャタングスクー帯を指すハル名。現在も黙認耕作地がある。	利用	畑地、茅野
	作物	サトウキビ
34 白比川原 (シルヒージャーバル)	土質	
方言語形はシルヒージャーバル(伝道)。北側にシルヒージャーが流れている。田んぼもあったが、あまりいい田ではなかった。	利用	畑地、水田
	作物	米、サトウキビ
35 山川原 (ヤマガーバル)	土質	
方言語形はヤマガーバル(玉代勢、伝道)。ヤマガーという湧き水があった。チャタン(北谷)、タメーシ(玉代勢)、伝道(リンドー)の人の墓があった。	利用	畑地、墓地
	作物	
36 西宇地原 (イリウージバル)	土質	
方言語形はイリウージバル(伝道)、ウージバル(伝道、謝苺屋取)。戦前はアガリウージバルとイリウージバルをあわせてウージバルと呼んでいた。墓がたくさんあった。	利用	畑地、水田、墓地、松林
	作物	米

37 東宇地原 (アガリウージバル)	土質	
方言語形はアガリウージバル〈伝道〉、ウージバル〈伝道、謝苺屋取〉。戦前はアガリウージバルとイリウージバルをあわせてウージバルと呼んでいた。松の木を切つて、薪に利用していた。	利用	山林、松林
	作物	
38 西角又原 (イリチヌマタバル)	土質	
方言語形はチヌマタバル〈伝道〉。戦前はアガリチヌマタバルとイリチヌマタバルをあわせてチヌマタバルと呼んでいた。ほとんど山林で、草刈りや薪取りに行った。	利用	山林
	作物	
39 東角又原 (アガリチヌマタバル)	土質	
方言語形はチヌマタバル〈伝道〉。戦前はアガリチヌマタバルとイリチヌマタバルをあわせてチヌマタバルと呼んでいた。	利用	山林
	作物	
40 謝苺原 (ジャーガルバル)	土質	ジャーガル、フェージャー
方言語形はジャーガルバル〈崎門屋取、謝苺屋取〉。ジャーガルヤードゥイ (謝苺屋取) の家屋敷が広がっていた。全体が粘りけのあるジャーガル土質で、雨が降ると耕作が難しかった。	利用	畑地、山林
	作物	芋、サトウキビ
41 西新川原 (イリアラカーバル)	土質	
調査では方言語形が確認できなかった。	利用	畑地
	作物	
42 東新川原 (アガリアラカーバル)	土質	
調査では方言語形が確認できなかった。リンドー (伝道) の話者によれば、山林に薪を取りに入ったという。サチジョーヤードゥイ (崎門屋取) では、耕地も少しあったがはげ地だったので麦畑に利用していたという。	利用	山林、畑
	作物	麦
43 東上原 (アガリウィバル)	土質	
聞き取り情報なし。	利用	
	作物	
44 西上原 (イリウィバル)	土質	
方言語形はイリウィバル〈崎門屋取〉。トーバルガーから流れる小川の周囲に田んぼを作っていた。戦後、米軍が土で埋めたので、地形が変わっている。	利用	畑地、水田
	作物	米

地籍字 桑江

45 桑江原 (キューバル)	土質	ジャーガル、砂地
方言語形はキューバル〈桑江〉。キュー (桑江) の家屋敷が広がっていた。	利用	宅地
	作物	
46 後兼久原 (クシガニクバル)	土質	砂地
方言語形はクシガニク〈桑江〉。柔らかい砂地で、良質の畑地だった。また、キューヌクシヤードゥイ (桑江又後屋取) の話者は、クシガニクバルという名称は、戦後になって聞いたという。	利用	宅地、畑地
	作物	芋、サトウキビ、落花生
47 小堀原 (クムイバル)	土質	ジャーガルとニービを混ぜたような土質
方言語形はクムイグチー〈桑江、桑江又後屋取〉。50~100坪ぐらいの水田があった。土質はタードーンに似ているがもっとほろほろしていた。ナーシルダー (苗代) があった。	利用	水田、畑地
	作物	米

48 見嘉作原 (ミカサクバル)	土質 マージ、ジャーガル 利用 山林、水田、畑地 作物 米
方言語形はミカサクバル、ミカザク<桑江>。マージとジャーガルが入り混じっていた。クエー(桑江)の話者は、この付近がクエー(桑江)集落の発祥地と聞いたことがあり、昭和初期頃までは石垣や屋敷跡のようなものも残っていたという。	
49 奈留川原 (ナルカーバル)	土質 利用 作物
聞き取り情報なし。	
50 御殿地原 (ウドウンジバル)	土質 利用 山林 作物
調査では方言語形が確認できなかった。ウドウンジヤードゥイと呼ばれる15軒くらの小集落があった。クエー(桑江)の話者によればクエー(桑江)の人の畑はなかったが、山林は持っていたかもしれないという。	
51 峡原 (ハサマバル)	土質 イーフ混じりの土 利用 畑地 作物 芋、サトウキビ
方言語形はハサマバル<桑江>。	
52 嘉良川原 (カラガーバル)	土質 利用 作物
方言語形はユヒングワヌハタ<桑江>、ユヒングワヌメー<崎門屋取>。カラガーバルという名前は聞いたことがないという。	
53 桃原 (トーバル)	土質 利用 作物
聞き取り情報なし。	
54 栄口原 (イーグチバル)	土質 フェージャー 利用 山林、畑地 作物 芋
方言語形はイーグチバル<桑江、崎門屋取>。現在の栄口区。	
55 宇久殿原 (ウクドゥンバル)	土質 ジャーガル、フェージャー 利用 山林、畑地 作物 芋
方言語形はウクルンバル<桑江、崎門屋取、謝苺屋取>。ウクルンカラグワが流れていた。この一帯は山林が多く、山番がいた。また、ニンブチャーの家が一軒あった。	
56 上樋川原 (イーヒジャーバル)	土質 フェージャー 利用 畑地、水田 作物 米
方言語形はイーヒージャーバル、ヒージャーバル<桑江>。イーヒージャーという湧き水があった。イーヒージャーからの水を利用して、一部に水田もつくられていた。山番が住んでいた。	
57 伊地差久原 (イチジャクバル)	土質 ジャーガル 利用 山林、畑地 作物 芋、サトウキビ
方言語形はイチジャク<桑江>。	
58 前原 (メーバル)	土質 砂地 利用 畑地 作物 落花生
方言語形はメーバル、メンターバル<桑江>。クエヌメーヤードゥイ(桑江又前屋取)の話者によれば、メーバルというハルナーは聞いたことがないという。	
59 長崎原 (ナガサチバル)	土質 粘土質の固い土 利用 作物
調査では方言語形が確認できなかった。名前の由来も不明。	

60 西兼久原 (イリガニクバル)	土質 砂地 利用 畑地 作物 芋、サトウキビ
方言語形はイリガニク、イリガニクバル(桑江)。キュー(桑江)の家屋敷が広がる一帯の西側にあたる。軽便鉄道よりは東側。	
61 長港原 (ナガンナトゥバル)	土質 利用 畑地、宅地 作物
方言語形はナガンナトゥバル(桑江)。沖にキューンナトゥと呼ばれる入り江があった。海岸のすぐそばにはハマヤードゥイと呼ばれていた小集落があった。ハマヤードゥイには漁師が多かった。	

地籍字 伊礼

62 伊礼前原 (イリーメーバル)	土質 利用 作物
方言語形はメーバル(桑江)。イリーバルの西側。イリー(伊礼)の家屋敷が広がる一帯からみて海側。	
63 伊礼原 (イリーバル)	土質 タードーシ 利用 作物
方言語形はイリーバル(伊礼)。イリー(伊礼)の家屋敷が広がる一帯。家屋敷の裏手、山手側のほうもイリーバルに入る。山手側はタードーシ。	
64 志知部原 (シチブバル)	土質 アカマージ 利用 畑地 作物 芋、サトウキビ、大豆
方言語形はシチブバル(伊礼)。	
65 徳川原 (トゥクガーバル)	土質 利用 畑地、山林 作物
方言語形はトゥクガーバル(伊礼)。	
84 伊礼東原 (イリーアガリバル)	土質 利用 作物
方言語形はアガリバル(上勢頭屋取)。	
85 伊礼油原 (イリーアンダバル)	土質 利用 作物
方言語形はアンダバル(上勢頭屋取)。	
86 伊礼伊森原 (イリーイームイバル)	土質 利用 作物
方言語形はイームイグワー、イリムイ(上勢頭屋取)。戦前はこの地域にイームイグワーという丘があり、この一帯をイリムイとも呼んでいた。イームイバルとは呼んでいなかった。	

地籍字 平安山

66 平安山前原 (ハンジャンメーバル)	土質 利用 作物
開取り情報なし。	
67 平安山原 (ハンジャンバル)	土質 利用 作物
開取り情報なし。	

68 大作原 (ウフサクバル)	土質	フェージャー
方言語形はウフサクバル (伊礼)。ウフサクー帯は山と谷が入り組んだ地形だった。谷底に畑地や水田があったが、80%は山林だった。土質が悪く、耕作に向いていない土地だった。	利用	山林、畑地、水田
	作物	サトウキビ、米
69 赤道原 (アカミチバル)	土質	赤土
方言語形はアカミチーバル (平安山)、アカミチー (平安山又上屋取、下勢頭屋取)。この一帯は赤土が広がっていた。耕作には向いていなかった。この一帯に広がる家々はまとめてアカミチーシンカとも呼ばれていた。	利用	畑地、宅地、山林
	作物	
80 平安山中勢頭原 (ハンジャンナカシードゥバル)	土質	
方言語形はナカシードゥバル (上勢頭屋取)。	利用	
	作物	
81 平安山上油原 (ハンジャンウィアングバル)	土質	
方言語形はアングバル (上勢頭屋取)。	利用	
	作物	
82 平安山下油原 (ハンジャンシチャアングバル)	土質	
方言語形はアングバル (上勢頭屋取)。	利用	
	作物	
83 平安山上勢頭原 (ハンジャンイーシードゥバル)	土質	
方言語形はウィーシードゥバル (上勢頭屋取)。	利用	
	作物	
87 平安山伊森原 (ハンジャンイームイバル)	土質	
方言語形はイームイグワー、イリムイ (上勢頭屋取)。	利用	
	作物	
88 平安山下勢頭原 (ハンジャンシチャシードゥバル)	土質	赤土
方言語形はシチャシードゥバル (下勢頭屋取)。シチャシードゥヤードウイ (下勢頭屋取) のイチクミ (1組) の家屋敷が集まっていた。	利用	畑地、宅地
	作物	
地籍字 浜川		
70 千原 (シンバル)	土質	砂地、アカマチクー
方言語形はシンバル (浜川、砂辺又前屋取)、ハマガーシンバル (平安山又上屋取)。シンバル一帯は土が浅く、おもに芋が生産されていて、良質の芋ができた。	利用	畑地、宅地
	作物	芋、サトウキビ、キビ、豆類、百合
71 平安山上原 (ハンジャンウィーバル)	土質	アカマージに似た土質
方言語形はハンジャンニーバル (浜川)、ハンジャンヌウィーバル (平安山又上屋取)。ハンジャンヌウィーヤードウイ (平安山又上屋取) の家屋敷が広がっていた。砂と土が混ざったようなアカマージに似た土質で、良質の芋ができた。	利用	畑地、宅地
	作物	芋、サトウキビ、大豆
72 クンデ原 (クンディバル)	土質	
方言語形はクンディバル (平安山又上屋取)。クンディヌシーという岩山があった。この一帯は上質な畑だった。	利用	畑地
	作物	
73 西久間作原 (イリクマサクバル)	土質	フェージャー
方言語形はイリクマサク (喜友名小屋取)。北側にクマジャクという谷間がある。フェージャーブククワイという水を多く含んだ土地で、芋作りには適さず、おもにサトウキビを作っていた。	利用	畑地、宅地
	作物	サトウキビ

89 田名嘉地原 (タナカジバル)	土質 マージ
方言語形はタナカジ〈平安山ヌ上屋取、下勢頭屋取〉。石一つないマージで、非常に良い土地だった。	利用 畑地、宅地
	作物
89 田名嘉地原 (タナカジバル)	土質 マージ
方言語形はタナカジ〈平安山ヌ上屋取、下勢頭屋取〉。石一つないマージで、非常に良い土地だった。	利用 畑地、宅地
	作物
90 東久間作原 (アガリクマサクバル)	土質
方言語形はアガリクマサク〈喜友名小屋取〉。北側にクマジヤクという谷間があった。イリクマサクの東側のハル。	利用 畑地
	作物 サトウキビ、蔬菜など
91 下勢頭原 (シチャシードゥバル)	土質
方言語形はシチャシードゥバル〈喜友名小屋取、下勢頭屋取〉。シチャシードゥヤードゥイ (下勢頭屋取) の中心地であるウチャードゥイの家屋敷が広がっていた。	利用 畑地、宅地
	作物
92 浜川上勢頭原 (ハマガーウィシードゥバル)	土質
方言語形はハマガーウィシードゥバル〈下勢頭屋取〉。	利用
	作物

地籍字 砂辺

74 村内原 (ムラウチバル)	土質
方言語形はムラウチ〈砂辺〉。シナビ (砂辺) の家屋敷が集まっていた一帯。	利用 宅地、畑地
	作物 芋、サトウキビ
75 大道原 (ウフドーバル)	土質 マージ、アカマチクー
方言語形はウフドーバル〈砂辺ヌ前屋取〉、ウフドー〈砂辺〉。水たまりが多かった。芋がよくできる、上質の畑だった。	利用 宅地、畑地
	作物 芋、サトウキビ、大豆、麦、キビ、野菜
76 差久原 (サークバル)	土質 アカマチクー
方言語形はサークバル〈砂辺〉。やや勾配があり、周りのハルより少し標高が高めの地域だった。昭和初期の一時期、テッポウユリの栽培も行われていた。	利用 畑地、墓地
	作物 芋、サトウキビ、大根、百合
77 加志原 (カーシバル)	土質
方言語形はカーシバル〈砂辺ヌ前屋取、砂辺〉。カーシヌシーという岩山があった。シナビ (砂辺) では、戦前はキシヤミチから東側をカーシバルと言っていた。	利用 畑地、墓地、茅野
	作物 芋、サトウキビ、豆類
78 後原 (クシバル)	土質 ジンニ
方言語形はクシバル〈喜友名小屋取、砂辺〉。クシムイの北側一帯。シナビ (砂辺) では、戦前はキシヤミチの西側の一部地域も含めてクシバルと呼んでいた。	利用 畑地
	作物 芋、サトウキビ、大豆、キビ、粟など
79 兼久原 (カニクバル)	土質 砂地
方言語形はカニクバル〈砂辺〉。カニクバルの範囲は、戦前、ナガバーマと呼ばれていた地域とほぼ一致している。	利用 畑地
	作物 落花生、そら豆、スイカ、サトウキビなど

地籍字 野里

93 大道原 (ウフドーバル)	土質
方言語形はウフドーバル〈下勢頭屋取〉。	利用
	作物

94 平良迫原 (ティーラサクバル)

方言語形はテールヌサク〈下勢頭屋取〉、フィージャーバル〈上勢頭屋取、下勢頭屋取〉。

土質**利用****作物**

95 上原 (ウィバル)

方言語形はウィバル〈下勢頭屋取、上勢頭屋取〉、フィージャーバル〈上勢頭屋取、下勢頭屋取〉。ウィバルヤードゥイとよばれる小集落があった。シチャシードゥヤードゥイ(下勢頭屋取)の話者によれば、戦前、お年りたちはフィージャーバルと呼ぶことが多かったが、この呼称の由来はわからないという。

土質**利用** 畑地、宅地**作物**

調査の経過

調査日誌

(※集落別に記載。話者名の敬称略。順序不同。)

北谷又前屋取

- ・平成16(2004)年12月16日(木) 聞き取り調査 (話者：德里進・新田宗信)
- ・平成16(2004)年12月24日(木) 聞き取り調査 (話者：德里進・新田宗信)
- ・平成17(2005)年1月13日(木) 聞き取り調査 (話者：德里進・新田宗信)
- ・平成17(2005)年1月20日(木) 聞き取り調査 (話者：德里進・新田宗信)

石平屋取

- ・平成17(2005)年3月25日(金) 聞き取り調査 (話者：新垣善春)

北谷

- ・平成15(2003)年4月18日(金) 聞き取り調査 (話者：新城馨)
- ・平成15(2003)年4月24日(木) 聞き取り調査 (話者：新城馨)
- ・平成15(2003)年4月25日(金) 聞き取り調査 (話者：仲村渠敏子)
- ・平成15(2003)年5月1日(木) 聞き取り調査 (話者：新城馨)
- ・平成15(2003)年5月2日(金) 聞き取り調査 (話者：仲村渠敏子)
- ・平成15(2003)年5月8日(木) 聞き取り調査 (話者：新城馨)
- ・平成15(2003)年5月9日(金) 聞き取り調査 (話者：仲村渠敏子)
- ・平成15(2003)年5月15日(木) 聞き取り調査 (話者：新城馨)
- ・平成15(2003)年5月16日(金) 聞き取り調査 (話者：仲村渠敏子)
- ・平成15(2003)年6月3日(火) 北谷の拝み見学 [ユッカヌヒー]
- ・平成15(2003)年6月5日(木) 聞き取り調査 (話者：新城馨)
- ・平成15(2003)年6月6日(金) 聞き取り調査 (話者：仲村渠敏子)
- ・平成15(2003)年6月12日(木) 聞き取り調査 (話者：新城馨)
- ・平成15(2003)年6月13日(金) 聞き取り調査 (話者：仲村渠敏子)
- ・平成15(2003)年6月14日(土) 北谷の拝み見学 [五月ウマチー]
- ・平成15(2003)年6月19日(木) 聞き取り調査 (話者：新城馨)
- ・平成15(2003)年6月20日(金) 聞き取り調査 (話者：仲村渠敏子)
- ・平成15(2003)年6月26日(木) 聞き取り調査 (話者：新城馨)
- ・平成15(2003)年7月3日(木) 聞き取り調査 (話者：新城馨)
- ・平成15(2003)年7月4日(金) 聞き取り調査 (話者：仲村渠敏子)
- ・平成15(2003)年7月10日(木) 聞き取り調査 (話者：新城馨)
- ・平成15(2003)年7月11日(金) 聞き取り調査 (話者：仲村渠敏子)
- ・平成15(2003)年7月17日(木) 聞き取り調査 (話者：新城馨)
- ・平成15(2003)年7月24日(木) 聞き取り調査 (話者：新城馨)

玉代勢

- ・平成13(2001)年10月31日(水)長老祭参加
- ・平成15(2003)年1月17日(金)聞き取り調査
(話者:大城喜信・知念チヨ・島袋雅夫・嘉手納永周)
- ・平成15(2003)年1月24日(金)聞き取り調査
(話者:大城喜信・知念チヨ・島袋雅夫・嘉手納永周)
- ・平成15(2003)年1月31日(金)聞き取り調査
(話者:大城喜信・知念チヨ・島袋雅夫・嘉手納永周)
- ・平成15(2003)年2月7日(金)聞き取り調査
(話者:大城喜信・知念チヨ・島袋雅夫・嘉手納永周)
- ・平成15(2003)年2月21日(金)聞き取り調査
(話者:大城喜信・知念チヨ・島袋雅夫・嘉手納永周)
- ・平成15(2003)年2月28日(金)聞き取り調査
(話者:大城喜信・知念チヨ・島袋雅夫・嘉手納永周)
- ・平成15(2003)年3月7日(金)聞き取り調査
(話者:大城喜信・知念チヨ・島袋雅夫・嘉手納永周)
- ・平成16(2004)年2月20日(金)チブガー復元セレモニー参加

伝道

- ・平成15(2003)年8月22日(金)聞き取り調査(話者:座喜味忠正)
- ・平成15(2003)年8月27日(金)聞き取り調査(話者:座喜味忠正)
- ・平成15(2003)年10月2日(木)聞き取り調査(話者:座喜味忠正)

仲山屋取

- ・平成16(2004)年11月12日(水)聞き取り調査(話者:崎浜盛栄)
- ・平成16(2004)年11月16日(火)聞き取り調査(話者:崎浜盛栄)
- ・平成16(2004)年11月24日(水)聞き取り調査(話者:崎浜盛栄)
- ・平成16(2004)年12月1日(水)聞き取り調査(話者:崎浜盛栄)

屋宜屋取

- ・平成16(2004)年12月10日(金)聞き取り調査(話者:米須清太郎)

桑江又前屋取

- ・平成17(2005)年3月16日(水)聞き取り調査(話者:真栄城兼徳)
 - ・平成17(2005)年4月12日(水)聞き取り調査(話者:真栄城兼徳・仲本朝信)
 - ・平成17(2005)年6月28日(水)聞き取り調査
(話者:真栄城兼徳・仲本朝信・桑江又前屋取郷友会の皆さん)
-

桑江又中屋取

- ・平成16(2004)年 4月27日(火) 聞き取り調査(話者:比嘉昌信)
 - ・平成16(2004)年 5月25日(火) 聞き取り調査(話者:比嘉昌信)
 - ・平成16(2004)年 6月 1日(火) 聞き取り調査(話者:比嘉昌信)
 - ・平成16(2004)年 6月15日(火) 聞き取り調査(話者:比嘉昌信)
-

桑江

- ・平成11(1999)年10月20日(水) 聞き取り調査(話者:座喜味次郎)
 - ・平成15(2003)年10月31日(金) 聞き取り調査(話者:座喜味次郎)
 - ・平成15(2003)年11月 6日(木) 聞き取り調査(話者:座喜味次郎)
 - ・平成15(2003)年11月13日(木) 聞き取り調査(話者:座喜味次郎)
 - ・平成15(2003)年11月28日(金) 聞き取り調査(話者:座喜味次郎)
 - ・平成15(2003)年12月12日(金) 聞き取り調査(話者:座喜味次郎)
 - ・平成15(2003)年12月19日(金) 聞き取り調査(話者:座喜味次郎)
 - ・平成16(2004)年 1月 9日(金) 聞き取り調査(話者:座喜味次郎)
 - ・平成16(2004)年 1月16日(金) 聞き取り調査(話者:座喜味次郎・石川良栄)
 - ・平成16(2004)年 1月30日(金) 聞き取り調査(話者:座喜味次郎)
 - ・平成16(2004)年 2月26日(金) 聞き取り調査(話者:座喜味次郎)
 - ・平成16(2004)年 3月12日(金) 聞き取り調査(話者:座喜味次郎)
 - ・平成16(2004)年 4月 2日(金) 聞き取り調査(話者:座喜味次郎)
 - ・平成16(2004)年 4月16日(金) 聞き取り調査(話者:座喜味次郎・仲村渠操)
 - ・平成16(2004)年 4月21日(水) 現地調査(話者:座喜味次郎)
 - ・平成16(2004)年 5月14日(金) 現地調査(話者:座喜味次郎)
 - ・平成16(2004)年 6月25日(金) 現地調査(話者:座喜味次郎)
-

桑江又後屋取

- ・平成17(2005)年 2月18日(金) 聞き取り調査(話者:知念清)
 - ・平成17(2005)年 2月25日(金) 聞き取り調査(話者:知念清)
-

謝苺屋取

- ・平成16(2004)年 7月23日(金) 聞き取り調査(話者:目取真興正)
 - ・平成16(2004)年 7月30日(金) 聞き取り調査(話者:目取真興正)
 - ・平成16(2004)年 8月 6日(金) 聞き取り調査(話者:目取真興正)
 - ・平成16(2004)年 8月13日(金) 聞き取り調査(話者:目取真興正)
 - ・平成16(2004)年 8月20日(金) 現地調査(話者:目取真興正)
-

崎門屋取

- ・平成16(2004)年 9月17日(金) 聞き取り調査(話者:比嘉思保)
- ・平成16(2004)年 9月24日(金) 聞き取り調査(話者:比嘉思保)

- ・平成16(2004)年 9月30日(金) 聞き取り調査(話者:比嘉思保)
-

桃原屋取

- ・平成16(2004)年10月22日(金) 聞き取り調査(話者:目取真浩二)
 - ・平成16(2004)年10月29日(金) 聞き取り調査(話者:津嘉山寛信)
 - ・平成16(2004)年11月 2日(火) 聞き取り調査(話者:津嘉山寛信)
 - ・平成16(2004)年11月 5日(金) 聞き取り調査(話者:津嘉山ムト)
-

伊礼

- ・平成12(2000)年 7月 7日(金) 聞き取り調査
(話者:田里加那・砂辺鉄正・屋良朝盛・
幸地真正・渡慶次賀享・安和守礼・島袋文栄)
 - ・平成12(2000)年10月25日(水) 聞き取り調査
(話者:幸地真正・渡慶次賀享・安和守礼・島袋文助)
 - ・平成12(2000)年11月10日(金) 聞き取り調査
(話者:幸地真正・渡慶次賀享・安和守礼・島袋文助)
 - ・平成14(2002)年 6月21日(金) 聞き取り調査
(話者:幸地真正・渡慶次賀享・安和守礼・島袋文助)
 - ・平成14(2002)年 6月28日(金) 聞き取り調査
(話者:幸地真正・安和守礼・島袋文助)
 - ・平成14(2002)年 7月 5日(金) 聞き取り調査
(話者:幸地真正・渡慶次賀享・安和守礼・島袋文助)
 - ・平成14(2002)年 7月12日(金) 聞き取り調査
(話者:幸地真正・渡慶次賀享・安和守礼・島袋文助)
 - ・平成14(2002)年 7月26日(金) 聞き取り調査
(話者:幸地真正・安和守礼・島袋文助)
 - ・平成14(2002)年 8月 2日(金) 聞き取り調査
(話者:幸地真正・渡慶次賀享・安和守礼・島袋文助)
 - ・平成14(2002)年 8月 9日(金) 聞き取り調査
(話者:幸地真正・渡慶次賀享・安和守礼・島袋文助)
 - ・平成14(2002)年 9月21日(金) 伊礼の獅子舞見学 [八月十五夜]
 - ・平成14(2002)年10月11日(金) 現地調査
-

平安山

- ・平成11(1999)年10月 4日(月) 聞き取り調査(話者:照屋文吉・糸村昌吉)
 - ・平成12(2000)年 9月 1日(金) 聞き取り調査
(話者:照屋文吉・島袋善吉・糸村昌吉・玉城清松)
 - ・平成12(2000)年10月18日(水) 聞き取り調査
(話者:照屋文吉・糸村昌吉・比嘉忠光・島袋豊吉・玉城清松)
-

浜川

- ・平成12(2000)年 7月28日(金) 聞き取り調査
(話者：新垣高明・島袋吉盛・島袋正雄・新垣政男・新垣裕)
- ・平成13(2001)年 2月28日(木) 聞き取り調査
(話者：新垣高明・島袋吉盛・島袋正雄・新垣政男)
- ・平成13(2001)年 3月14日(水) 聞き取り調査
(話者：新垣高明・島袋吉盛・島袋正雄・新垣政男)
- ・平成13(2001)年 3月19日(月) 現地調査(話者：平安山郷友会の皆さん)
- ・平成13(2001)年 7月24日(火) 聞き取り調査(話者：新垣政男)
- ・平成13(2001)年 7月27日(金) 聞き取り調査(話者：新垣政男)

平安山又上屋取

- ・平成12(2000)年 7月14日(金) 聞き取り調査
(話者：新城長佐・町田宗盛・町田宗棟・新城勇・新城長助)
- ・平成12(2000)年 9月11日(月) 聞き取り調査
(話者：新城長佐・町田宗盛・町田宗棟)
- ・平成12(2000)年 9月18日(月) 聞き取り調査
(話者：町田宗盛・町田宗棟・新城長助)
- ・平成12(2000)年 9月25日(月) 聞き取り調査
(話者：町田宗盛・町田宗棟・新城長助)
- ・平成13(2001)年 3月16日(金) 聞き取り調査
(話者：新城長佐・町田宗盛・町田宗棟)
- ・平成13(2001)年 4月13日(金) 聞き取り調査(話者：新城長助)
- ・平成13(2001)年 4月20日(金) 聞き取り調査(話者：新城長助)
- ・平成13(2001)年 4月27日(金) 聞き取り調査(話者：新城長助)

喜友名小屋取

- ・平成12(2000)年 2月17日(木) 聞き取り調査(話者：糸村昌輝・糸村ツル)
 - ・平成12(2000)年 2月23日(水) 聞き取り及び現地調査
(話者：糸村昌輝・糸村ツル・安次嶺主栄
防衛施設局：喜友名朝考)
 - ・平成13(2001)年10月26日(金) 聞き取り調査(話者：糸村昌輝)
 - ・平成13(2001)年11月 2日(金) 聞き取り調査(話者：糸村昌輝・糸村ツル)
 - ・平成13(2001)年11月 7日(水) 聞き取り調査(話者：糸村昌輝・糸村ツル)
 - ・平成14(2002)年 1月16日(水) 聞き取り調査(話者：安次嶺主栄)
 - ・平成14(2002)年11月 1日(金) 聞き取り調査(話者：比嘉文清・比嘉静子)
 - ・平成14(2002)年11月 7日(木) 聞き取り調査(話者：比嘉文清・比嘉静子)
 - ・平成14(2002)年11月22日(金) 聞き取り調査(話者：比嘉文清・比嘉静子)
-

砂辺又前屋取

- ・平成13(2001)年 3月 7日(水) 聞取り調査
(話者:新城弘・新城タケ・嘉手苺林興・島袋正章)
- ・平成13(2001)年 3月15日(木) 聞取り調査
(話者:新城弘・新城タケ・嘉手苺林興・島袋正章)
- ・平成13(2001)年 3月22日(木) 聞取り調査
(話者:新城弘・新城タケ・嘉手苺林興・島袋正章)
- ・平成13(2001)年 9月14日(木) 聞取り調査
(話者:新城弘・新城タケ・嘉手苺林興・島袋正章)

砂辺

- ・平成11(1999)年 9月30日(木) 聞取り調査(話者:与儀正仁)
- ・平成11(1999)年11月17日(木) 聞取り及び現地調査
(話者:砂辺孝正・糸数基・照屋徳吉・
新里眞盛・渡慶次盛明・与儀正仁)
- ・平成11(1999)年11月29日(月) 現地調査(話者:砂辺孝正・与儀正仁)
- ・平成12(2000)年 6月22日(木) 聞取り調査
(話者:照屋徳吉・砂辺孝正・国場永信・与儀正仁)
- ・平成12(2000)年 8月21日(月) 現地調査
(話者:照屋徳吉・砂辺孝正・国場永信)
- ・平成13(2001)年12月11日(火) 現地調査
- ・平成14(2002)年 1月25日(金) 聞取り調査
(話者:新里眞盛・国場永信・砂辺孝正・与儀正仁)
- ・平成14(2002)年 1月30日(水) 聞取り調査
(話者:照屋徳吉・新里眞盛・国場永信・砂辺孝正・与儀正仁)
- ・平成14(2002)年 2月 6日(水) 聞き取り調査
(話者:照屋徳吉・新里眞盛・国場永信・砂辺孝正・与儀正仁)
- ・平成14(2002)年 2月15日(金) 聞取り調査
(話者:照屋徳吉・新里眞盛・国場永信・砂辺孝正・与儀正仁)
- ・平成14(2002)年 2月20日(水) 聞取り調査
(話者:照屋徳吉・新里眞盛・国場永信・砂辺孝正・与儀正仁)
- ・平成14(2002)年 2月21日(木) 聞取り調査
(話者:照屋徳吉・新里眞盛・国場永信・砂辺孝正・与儀正仁)
- ・平成14(2002)年 3月22日(金) 聞取り調査
(話者:照屋徳吉・新里眞盛・国場永信・
砂辺孝正・与儀正仁・松田静造)
- ・平成14(2002)年 5月24日(金) 聞取り調査
(話者:照屋徳吉・新里眞盛・国場永信・与儀正仁)

上勢頭屋取

- ・平成11(1999)年 7月 2日(水) 聞き取り調査(話者:高宮城實・喜友名朝昭)
- ・平成11(1999)年 7月 9日(金) 聞き取り調査(話者:高宮城實・喜友名朝昭)
- ・平成11(1999)年 7月21日(水) 聞き取り調査(話者:高宮城實・喜友名朝昭)
- ・平成11(1999)年 8月11日(水) 聞き取り調査(話者:喜友名朝昭)
- ・平成11(1999)年 8月13日(金) 現地調査(話者:稲嶺盛幸)
- ・平成11(1999)年 9月17日(金) 現地調査(話者:稲嶺盛幸)
- ・平成14(2002)年 4月25日(木) ニシヌカーの碑建立セレモニー参加
- ・平成15(2003)年11月20日(木) 上原組ビジュルの碑建立セレモニー参加

下勢頭屋取

- ・平成11(1999)年 8月 6日(金) 聞き取り調査(話者:喜友名朝永・花城可祐)
- ・平成11(1999)年11月 2日(火) 聞き取り調査
(話者:喜友名朝永・花城可祐・花城可盛・源河朝金)
- ・平成12(2000)年 3月 8日(水) 聞き取り調査
(話者:喜友名朝永・花城可祐・花城可盛)
- ・平成12(2000)年 3月24日(金) 現地調査
(話者:喜友名朝永・花城可祐・源河朝金
防衛施設局:喜友名朝考)
- ・平成12(2000)年 4月28日(金) 聞き取り調査
(話者:喜友名朝永・花城可祐・源河朝金・花城可盛)
- ・平成12(2000)年 5月26日(金) 聞き取り調査
(話者:喜友名朝永・花城可祐・源河朝金・花城可盛)
- ・平成13(2001)年12月 5日(水) 聞き取り調査
(話者:花城可祐・源河朝金・花城可盛)
- ・平成13(2001)年12月14日(金) 聞き取り調査
(話者:花城可祐・源河朝金・花城可盛)
- ・平成14(2002)年 1月 9日(水) 聞き取り調査
(話者:花城可祐・源河朝金・花城可盛)

千原

- ・平成11(1999)年12月 7日(火) 現地調査(話者:知花包喜)
-

おわりに

『北谷町陸地地名調査』は、戦前の北谷町域にあった陸地上の地名を主な対象とした調査事業である。調査リストに挙げていた地名はのべ1901項目、そのうち、発音や意味、位置などを確認できた地名としてこの報告書に記載した地名は1111語である。

この調査をはじめた当初はハルナーと呼ばれる、ある一定の地域をさす方言語彙を調査するつもりでいた。しかし、調査をはじめると、ハルナー以外にもたくさんの地名が、すでに失なわれたり、失なわれつつある地名として飛び出してきた。そこで、ハルナーだけでなく、北谷町域内にあるすべての地名を調査対象にすることにした。

ところで、地名が消滅していくのには大きく二つの側面があって、ひとつは方言そのものが使われなくなったり、日本語の影響を受けて発音や意味に揺れが出たりするという言語的な要因、もうひとつは、ある地名がつけられていた景観が消滅していたり、あるいは大きく変容していたりするという物理的な要因である。北谷町で地名を調査する場合にも、消滅しつつある北谷方言の一部として地名の発音や意味を聞いて書き留めておくことと同時に、言語や風景が急激な変化にさらされる以前の北谷町の風景や、そこに暮らす人々の空間認識や暮らしぶりも記録する必要がある。

そこで、地名の示す場所を比定したり、発音や意味を記録することに加え、その地名の示す場所が生活にどう関わっていたのかを重視して聞き取りを行なうことにした。また、「大正頃から沖縄戦直前までに使われていた地名」というふうに時期を限定し、話者の持つ何十年分もの土地と生活の記憶のなかからの絞ってお話を伺うことにした。

このように方針を定めていくなかで、この調査を、単に聞き取り資料を集めるだけの行為で終わらせてはならないという意識も生まれた。今回の調査結果は、いま北谷町域に暮らす人々が自分たちの生活空間に対する理解を深めようとするときに、北谷町域という土地がかつてはどのような姿であったか、この土地での生活がどのようなであったかということ、すぐに思い描けるようなかたちにまとめなければならない。このようなことを念頭におきながら、調査と資料整理を続けた。

それにしても、調査も資料整理も試行錯誤の連続だった。作業が進めば進むほどさまざまな課題が見えてきたが、時間や作業量におされて、多くを見過ごさざるを得なかった。

残された課題の筆頭としては、今回の調査では対象から外した戦後の地名の調査・記録保存作業がある。戦後から現在までの60年のあいだに、はやくも消えてしまった地名や、やがて消えていけよう地名がたくさんある。戦前の地名と違い、戦後の地名の多くは文字記録として残されているが、聞き取りによる資料収集ももちろん必要になるだろう。

また、今回の調査でもっとも足りなかったのは、集落の社会的環境についての聞き取りである。特に各屋取集落の成立や性格、また各集落のなかでの、より小さな集団区分である「クミ」「サターグミ」「ヤードゥイ」などの成立過程や性格についての情報が不足している。これらの集落内での集団区分の名称や、区分の仕方や、その成立過程というのは、各集落の生活様式や空間的な認識と密接に関係しているのだが、調査員自身の勉強不足もあり、十分な聞き取りをなしえなかった。

他に大きな課題として、今回の調査で得られた地名の言語学的な分析がある。本報告書においても、地名ひとつひとつの意味やことばとしての歴史について、なんらかの考察を

付すのが理想だったろう。しかし、実際の作業は分析・考察の段階にはまるで追いつかなかった。ただ、地名を分析するということは、よく似た地形語を探したり、語源らしい古語をピックアップするといった作業だけで終わるものでもない。琉球語および日本語の体系全体を見ながら、地名のひとつひとつの語構成要素単位で、意味の分析をしなくてはならないだろう。これは北谷町の地名だけでなく、琉球語圏で地名を調査し、分析していくことにつきまとう課題であると思う。

課題は山のようにあるが、北谷町域全体というまとまった量で、地名に関する情報を調査記録し、公開したという点で、この地名調査事業の意義は大きいと考える。この事業がこれほどの成果を達成できたのは、話者の方々が、何度も、何時間もかかる聞き取り調査に快く応じてくださり、ときには現地調査として長い距離を一緒に歩いてくださったからである。話者の方々に教えていただいた戦前の地名や土地の様子や暮らしぶりといった情報のすべてが、他で得ることは決してできない、貴重なものである。長い時間と多大な労力を割いてくださった話者の方々には、心より御礼を申しあげたい。

また、北谷町内の各集落の郷友会や各行政区の区長の方々、町外の自治体の方々には、話者の紹介、聞き取り調査の際の場所提供、祈願行事の取材承諾など、さまざまな面ではかりしれない御助力をいただいた。それから、渡邊康志氏にはGISソフト導入の全般にわたって御指導いただいた。もしGISソフトが使えなかったら、調査用の資料づくりにも、データの整理にもいっそうの時間がかかっていただろうし、この報告書も今あるようなかたちには仕上げられなかっただろう。また、沖縄コロニー印刷の方々には、図版や注の多いこの厄介な体裁の報告書の印刷をお願いし、さまざまなわがままに応えていただいた。他にも、たくさんの方々から数々の御指導や御協力をいただいて、この報告書はできあがった。御協力くださったすべての方々に厚く御礼を申しあげたい。

【参考文献】

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 『北谷町史 第一巻 ～ 第六巻』 | (北谷町史編集委員会) |
| 『北谷町史 別巻 近代統計資料』 | (北谷町史編集委員会 1987) |
| 『戦時体験記録 北谷町』 | (北谷町役場 1995) |
| 『北谷村誌』 | (北谷村役所 1961) |
| 『北谷町文化財調査報告書第15集 北谷町の拝所』 | (北谷町教育委員会 1995) |
| 『北中城の民話』 | (北中城村教育委員会 1995) |
| 『北谷字誌』 | (金城至盛 1986) |
| 『旧字伊礼郷友会誌』 | (北谷町旧字伊礼郷友会 2004) |
| 『上勢頭誌 (上・中・下)』 | (旧字上勢頭郷友会 1997、1993、1998) |
| 『下勢頭誌 (戦前編・戦後編)』 | (下勢頭郷友会 2001、2005) |
| 『沖縄大百科事典 (上・中・下)』 | (沖縄タイムス社 1983) |
| 『沖縄語辞典』 | (大蔵省印刷局 1998) |

〈資料〉

屋号一覽

1 北谷ヌ前屋取

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
1	シターンナンミグワー	シター稲嶺小		テーラ小の家を借りて住んでいた。
2	ウサーナカマ	ウサー名嘉真		
3	ナカンダカリ	仲村渠		
4	ウファイファグワー	大伊波小		
5	ミーイファグワー	新伊波小		
6	マツートーマ	松当真		
7	ハシヌフェーヌナンミグワー	橋ヌ南ヌ稲嶺小	瓦	屋根がセメンガーラ（セメントの瓦）だった。
8	トゥクトーマグワー	徳当真小		
9	トーマヌアガリ	当真ヌ東		
10	ウフトーマ	大当真	瓦	屋根が赤瓦だった。
11	トーバルグワー	桃原小		
12	ウサーアンナヤー	ウサーアンナヤー		
13	カマーアンナヤー	蒲アンナヤー	瓦	
14	カマルーアンナヤー	蒲戸アンナヤー		
15	メンタートーマグワー	メンター当真小	瓦	フィリピンに出稼ぎに出ていた。
16	ハシヌフェーナカチグワー	橋ヌ南仲地小	瓦	ハシヌハターナカチグワー（橋ヌ端仲地小）ともいった。
17	ペルーヤラグワー	ペルー屋良小	瓦	ペルーに出稼ぎに出ていた。
18	クワシチャヌクシー	小橋川ヌ後	瓦	
19	ハシヌフェー	橋ヌ南		
20	スナングワー	楚南小	瓦	アミダイ（屋根の庇）だけ瓦だった。小さい商店で、タバコ、しょうゆ、塩、お菓子、雑貨などを売っていた。
21	アラタグワー	新田小		
22	カミーナンミグワー	亀稲嶺小		
23	ンターナンミグワー	武太稲嶺小		カタカシラ（沖縄風のまげ）を結ったおじいさんがいた。
24	サンラーナンミ	三良稲嶺		
25	マチヤーンナンミグワー	店稲嶺小	瓦	以前、商店だったらしいが、昭和年代には店はやっていなかった。ハワイに移民したのでハワイイチーナンミグワー（ハワイイチー稲嶺小）ともいった。離れは瓦葺きだった。
26	カミーナンミグワー	亀稲嶺小		
27	カカジ	嘉数	瓦	28：嘉数の娘が住んでいた。
28	カカジ	嘉数	瓦	屋根が赤瓦だった。
29	ミチバタンナンミグワー	道端稲嶺小		
30	ウカミヤラグワー	御神屋良小	瓦	
31	サンラーヤラグワー	三良屋良小		
32	ミチバタヤラグワー	道端屋良小		
33	カーラバタンナンミ	川端稲嶺		
34	ンターヤラグワー	武太屋良小		
35	イリンナンミグワー	西稲嶺小		
36	ヤマーンナンミグワー	ヤマー稲嶺小		ナンミグワースジナン（稲嶺小ヌ次男）ともいう。

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
37	カマーヤラグワー	蒲屋良小		
38	タルーンナンミグワー	樽稲嶺小		
39	カーラバタグワー	川端小		
40	メーヒントゥナ	前辺土名		
41	ナーカヒントゥナグワー	中辺土名小		
42		(貸家)		空家で、貸家としてつかわれていた。
43	ヒントゥナメー	辺土名前	瓦	ブラジルに出稼ぎに出ている。
44	ヒントゥナ	辺土名		ブラジルに移住していた。
45	ナーカ	ナーカ		
46	ナーカナカチ	ナーカ仲地		
47	ウサーンナンミグワー	ウサー稲嶺小	瓦	ジナンウサーンナンミグワー(次男ウサー稲嶺小)ともいった。ブラジルに移住していた。
48	ナーカグワー	ナーカ小		
49	ナカチヌメー	仲地ヌ前	瓦	
50	ウフナカチ	大仲地	瓦	
51	クシナカチ	後仲地		
52	ナカチヌクシ	仲地ヌ後		
53	ヤマーナカチグワー	ヤマー仲地小		
54	クラカグワー	久高小		クラカグワー(久高小)、シンビークダカ(シンビー久高)ともいった。
55	クラカグワー	久高小		荷馬車で運送業をしていた。
56	ウシーヒントゥナグワー	ウシー辺土名小		
57	トゥンチグワー	殿内小	瓦	
58	ユナファ	ユナファ	瓦	村役場職員をしていた。
59	シチャユナファグワー	下ユナファ小		
60	シェークーヒントゥナグワー	大工辺土名小		先代が大工をしていたらしい。昭和年代には大工はやっていなかった。
61	サチバルスー	崎原スー		
62	ナカンダカリヌメー	仲村渠ヌ前		
63	ヤマーンナンミグワー	ヤマー稲嶺小		農業と兼業で馬車運送業もやっていた。
64	ナカンダカリ	仲村渠	瓦	
65	ウフミーヤグワー	大新屋小	瓦	
66	クシクエーグワー	後桑江小		イリクエーグワー(西桑江小)、あるいはシェークークエーグワー(大工桑江小)ともいった。大工をしていた。
67	メーイリグワー	前西小		
68	クシイリグワー	後西小		

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
69	クシミヤーグワー	後ミヤー小		ミヤーグワー（ミヤー小）、ハッバイコーミヤーグワー（ハッバイコーミヤー小）ともいった。ハッバイコーとは、ハワイで働く場所のことか働き者のことをいう言葉だったようだ。
70	サンラーユナファグワー	三良ユナファ小		
71	タンマー	田港（空家）		空家。タンマー（田港）の屋敷があった。
72	ブラジルユナファグワー	ブラジルユナファ小	瓦	ブラジルに出稼ぎにいった帰ってきた。
73	ブラジルンナンミグワー	ブラジル稲嶺小	瓦	ブラジルに出稼ぎにいった帰ってきた。
74	トゥクーヒントゥナグワー	徳辺土名小		トタン屋をしていた。
75	カーヌチビ	川ヌチビ		
76	マチューナカズニグワー	マチュー仲宗根小		
77	アガリンナンミグワー	東稲嶺小		
78	フティマヌメー	普天間ヌ前		宜野湾村普天間から移住してきた。
79	ジナンフティマヌメー	次男普天間ヌ前		
80	アガリユナファグワー	東ユナファ小		
81	アガリナカズニグワー	東仲宗根小		
82	ウフンナンミ	大稲嶺		
83		（屋敷跡）		アガリマージャグワー（東真喜屋小）の屋敷跡。
84	マージャグワー	真喜屋小		
85	シターンナンミグワー	シター稲嶺小		
86	ウシーンナンミグワー	ウシー稲嶺小		ウサーンナンミグワー（ウサー稲嶺小）ともいった。
87	トゥクーナンミグワー	徳稲嶺小	瓦	
88	タルーナカズニグワー	樽仲宗根小		
89	ナカマ	名嘉真		
90	フティマヌメーグワー	普天間ヌ前小		
91		（屋敷跡）		ウバナータンメーの屋敷跡。
92	クルマーヒントゥナグワー	車辺土名小		人力車を引く仕事をしていた。那覇から読谷まで出していた。
93	カマーヒントゥナ	蒲辺土名	瓦	厩が二階建てだった。
94	クシクラカグワー	後久高小		帽子クマー（バナマ帽子を編む内職）をする人のヤードゥ（集まるところ）になっていた。
95	トゥクーミヤーグワー	徳新屋小		
96	メーナカチ	前仲地		
97	イリナカチグワー	西仲地小		
98	タナカナカチグワー	田中仲地小		
99	クシナカチグワー	後仲地小	瓦	
100	ティーラグワー	照屋小		
101	シムチーターリー	シムチーターリー		スムチーターリーともいった。サンジンソー（易者）をしていた。
102	グスクママージャグワー	城間真喜屋小（貸家）		グスクママージャグワー（城間真喜屋小）の家があったが、フィリピンに移民に出ているので、貸家になっていた。
103	カナーナカチグワー	カナー仲地小		
104	ウサーヒントゥナグワー	ウサー辺土名小		
105	ターバ	田場（空家）	瓦	空家。ターバ（田場）の屋敷があった。

2 石平屋取

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
1	シムカタ	シムカタ		
2	イリムラユシグワー	西村吉小		イリムライシグワーともいった。
3	ヤマームラユシ	山村吉		
4	マチダ	松田		
5	ウフムラユシ	大村吉		
6	アガリムラユシグワー	東村吉小		
7	マンナカナンミ	真中稲嶺		
8	カナグスク	金城		
9	メーナカマ	前仲間		
10	ンジュグワー	伊集小		
11	ナカマヌクシ	仲間ヌ後	瓦	
12	シムジョー	下門	瓦	
13	ヤマーアラカチ	ヤマー新垣		
14	イーザトゥ	上里		
15	ムラユシヌアガリ	村吉ヌ東	瓦	
16	ナンミ	稲嶺		
17	サンラーナンミグワー	三良稲嶺小		
18	サチハマヌメー	崎浜ヌ前		
19	クシヌアラカチグワー	後ヌ新垣小		
20	カニクバルグワー	兼久原小		
21	チャタンバルー	北谷原		
22	メーヤジ	前屋宜		
23	ヤージグワー	屋宜小		
24	ヤラグワー	屋良小	瓦	
25	サチバルグワー	崎原小	瓦	
26	イチャバルアラカチ	池原新垣	瓦	
		(貸家)		貸家。ナカグスクイシシダのウフアラカチという家が持ち主だった。

3 北谷

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
1	クンミ	小嶺		馬車で運送業をしていた。
2	カミリンドー	嘉味伝道		
3	フティマヌメー	普天間ヌ前		
4	ナカムトゥグワー	仲本小		カーラヤー（瓦屋根の家）だったかもしれない。県庁職員をしていた。
5	ンナンミグワー	稲嶺小		戦前、戸主の息子が那覇で洗濯屋をしていて、戦後、北谷で洗濯屋を続けていたので、戦後は屋号をセンタクヤーンナンミともいった。
6	タケーシ	高江洲		クワーディーサータケーシ（クワーディーサー高江洲）ともいった。
7	メータマグシクグワー	前玉城小	瓦	
8	メーティーラ	前照屋	瓦	戸主は村役場職員で、の息子は教員（校長）をしていた。おばあさんは豆腐屋をやっていた。
9	イサグワー	伊佐小	瓦	ハワイに移民経験後、帰村。二階建てだった。
10	ターバ	田場	瓦	フィリピンに移民して戻ってきた。戻ってきてから瓦屋根の家を建てた。
11	カニクナーグスクグワー	兼久宮城小		
12	カンジェークグワー	金細工小		他集落から移住。本家は伝道にあった。
13	イファグワー	伊波小		カニクイファグワー（兼久伊波グ小）ともいった。
14	ティーラグワー	照屋小	瓦	カニクティーラグワー（兼久照屋小）ともいった。
15	ハワイシーシグワー	ハワイ末吉小		ハワイに移民経験後、帰村。
16	ミーイリー	新伊礼		
17	ナービナク	ナービナク		貸家。この家を借りて住んでいた人は屋号はナービナクとあったが、体の大きな人だったので、ヒータイタンメー（兵隊タンメー）というあだ名で呼ばれていた。
18	タマグシクグワー	玉城小	瓦	商店。専売品（タバコ・塩）、石油、酒、そうめんなどを売っていた。
19	ガニク	我如古		
20	イリナーデーラ	西宮平小	瓦	
21	スナングワー	楚南小	瓦	他集落から移住。
22	クシタマグスクグワー	後玉城小		ハワイ移民経験後、帰村。
23	カニクナーカグワー	兼久名嘉小		
24	フクチグワー	福地小		家を借りて住んでいた。家の持ち主は36：伊礼築登之小だったかもしれない。
25	マカビグワー	真壁小		貸家に間借りしていた。
26	メーリンドーグワー	前伝道小		ハワイ移民経験後、帰村。
27	ユースーイーマグワー	友松上間小		
28	（トーフーシカンヌースー）	（豆腐シカンヌースー）		屋号ははっきりしないが、戸主が豆腐が嫌いだったため、トーフーシカンヌースーというあだ名で呼ばれていた。上間一門。
29	イリー	伊礼	瓦	村役場吏員や、村長を出している家。伊礼肇の実家。

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
30	リンドーマテーシグワー	伝道又吉小		
31	ナカイリー	中伊礼	瓦	戸主の息子が教員。
32	クラムトゥ	蔵元		
33	ニーケーシーシグワー	二階末吉小	瓦	フィリピン移民経験後、帰村。二階建てだった。一階の戸は上げ戸になっていて、商店ができる構えになっていたが、商店としてはつかわれていなかった。
34	ティーラ	照屋		
35	マチシマ	松島		フィリピン移民経験後、帰村。上勢頭・下勢頭が平安山ヌ上から移住。
36	イリーチクドゥングワー	伊礼築登之小		
37	ムチヌヤートウキシ	ムチヌヤー渡慶次		左官をしていた。家を借りて住んでいた。家の持ち主は209：上江洲小。
38	イサヤー	伊佐屋（貸家）		貸家。イサヤー（伊佐屋）という家の屋敷だったが、戸主一家は南洋に移民していて、貸家に出していた。
39	キューグワー	桑江小		
40	ヒジャ	比嘉	瓦	戸主は読谷出身のおばあさんで、娘が北谷の人に嫁いだので、そのついで屋敷を借りて住んでいた。那覇から古着を仕入れて、カミアチネー（行商）をしていた。
41	カニクマテーシグワー	兼久又吉小		
42	ハワイーアラカチグワー	ハワイー新垣	瓦	
43	グーガグワー	呉我小		戸主の息子は俳人の呉我春男。
44	イシジェークマテーシグワー	石細工又吉小		農業が主体だったが、石工も兼業していた。
45	ヤンバルイリーグワー	山原伊礼小		
46	シールビ	シールビ		
47	マンナカシーシグワー	真中末吉小	瓦	
48	カマーイリーグワー	蒲伊礼小		
49	アイクイリペーチン	アイク西ペーチン	瓦	イリペーチン（西ペーチン）ともいった。アイクは、田や水路、河などに設置して小魚や蟹を捕る竹細工のかごのこと。
50	カンバーシーシグワー	カンバー末吉小		
51	マカーイーシグワー	マカー上江洲小		
52	シールビ	シールビ		52：シールビと53：嘉数小は、一つの敷地を共有して、二軒の屋敷を建てていた。
53	カカジグワー	嘉数小		52：シールビと一つの敷地を共有して屋敷を建てていた。
54	カーラヤーイーシグワー	瓦屋上江洲小	瓦	
55	カニクイーマグワー	兼久上間小		
56	イエーマイリーグワー	八重山伊礼小		母屋の他に、県道側には貸し屋を建てていた。貸家は瓦葺き。
57		（貸家）	瓦	貸家。持ち主は56：八重山伊礼小。山原出身の人が借りて、薬局と助産婦をしていた。
58	トーバルグワー	桃原小	瓦	
59	イファグワー	伊波小		村役場職員をしていた。
60	ナカンダカリグワー	仲村渠小（空家）		空家。ナカンダカリグワー（仲村渠小）の屋敷があった。

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
61	シラギ	白毛		
62	クラントー	クラントー	瓦	客馬車で運送業をしていた。
63	リンドーペーチングワー	伝道親雲上小		
64	イリカナグスクグワー	西金城小		屋根は一部が瓦葺き。
65	ナカカナグスクグワー	中金城小	瓦	金融機関の職員だった。
66	アガリカナグスクグワー	東金城小	瓦	ハワイ移民経験後、帰村。
67	メーヌハルーヤマガー	前ヌ原山川		
68	メーヌハルーイリーグワー	前ヌ原伊礼小		
69	メーヌハルーヤマザトウグワー	前ヌ原山里小		
70	メーヌハルーチカジャングワー	前ヌ原津嘉山小		
71	メーヌハルーアガリーグワー	前ヌ原アガリー小		
72	ヤンムトゥ	山本（空家）		空家。ヤンムトゥ（山本）の屋敷があった。
73	ヤマムラグワー	山村小		
74	マカビ	真壁	瓦	商店をしていた。
75	サチマージャ	崎真喜屋		
76	シーシ	末吉		
77	シーサーニー	シーサー根	瓦	
78	アガリーモー	アガリー毛		
79	アガリーマ	東上間		「与那覇小」という家が、一時的に間借りしていた。
80	タメーシチカジャン	玉代勢津嘉山		
81	マスルイ	榭取		サンジンソー（易者）をしていた。
82	ヤマガーグワー	山川小		
83	ジョーグチグワー	門口小（空家）		空家。ジョーグチグワー（門口小）の屋敷があった。
84	イリチカジャングワー	西津嘉山小		
85	クルーイリペーチン	黒西ペーチン		
86	ナカヤマガー	中山川		
87	クバグワー	久場小		他集落から移住。
88	ナカチ	仲地		
89		（貸家）		貸家。メーチカジャン（前津嘉山）という家が家主。
90	ハワイイーマグワー	ハワイ上間小	瓦	ハワイ移民経験後、帰村。
91	ムラウチターバグワー	村内田場小		謝苜屋取から移住。
92	サンナンイーマ	三男上間		イーマヌサンナン（上間ヌ三男）ともいった。ハワイに移民した。
93	ジラータケーシグワー	次郎高江洲小		
94	メーペータマグスクグワー	前辺玉城小		
95	ヌンドゥルチグワー	野武殿内小		離れは瓦屋根だった。
96	カミーイリーグワー	亀伊礼小		
97	イーマチカジャン	上間津嘉山（貸家）		貸家。イーマチカジャン（上間津嘉山）という屋号の家が家主だった。
98	メーペーカカジ	前辺嘉数		
99	クチャーイーグワー	区長上江洲小		

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
100	メーイーマ	前上間		
101	アガリモーグワー	東毛小	瓦	
102	マチャータケーシグワー	松高江洲小 (空家)		空家。マチャータケーシグワー (松高江洲小) の屋敷があったが、空家になっていたと思う。
103		(屋敷跡)		屋敷跡のみ残っていた。もとはグェードウチという家の屋敷があった。
104	ナーザトウグワー	宮里小		
105	ミー	ミー	瓦	客馬車で運送業をしていた。
106	マチャーヒジャ	店比嘉	瓦	商店。雑貨を売っていた。首里から移住。107:伊礼小と一軒の屋敷になっていて、県道側のほうを間借りしていた。
107	イリーグワー	伊礼小		106:店比嘉に屋敷の一部(県道側)を貸していた。
108	シマブク	島袋		大工、ウーキジェーク(桶作り職人)をしていた。
109	ンマイーヌハタヤマガー	馬場ヌハタ山川	瓦	
110	ンマイーヌハタイリパーチン	馬場ヌハタ西パーチン (貸家)		貸家。ンマイーヌハタイリパーチン(馬場ヌハタ伊礼パーチン)の屋敷だったが、戦前から戦中にかけて一家はフィリピンに移民していて貸家になっていた。
111	シーシグワー	末吉小 (空家)		空家。敷地のうち県道側のほうを112:仲本小が借りていた。
112	ナカムトウグワー	仲本小		ダンパチャーナカムトゥ(断髪屋仲本)ともいった。ダンパチャー(理髪店)をしていた。111:末吉小の敷地のうち県道側のほうに住んでいた。
113	メーヌヤータケーシグワー	前ヌ屋高江洲小		
114		(貸家)		貸家。113:前ヌ屋高江洲が、県道沿いに2、3軒の貸し屋専用の家を建てていた。
115	ヤマガー	山川		
116	トゥンチグワー	殿内小		首里から移住。
117	トゥンチグワー	殿内小		伝道から移住。
118	ピシタケーシグワー	ピン高江洲小		
119	アミク	天久		
120	ヤマザトウ	山里		
121	ナカンダカリ	仲村渠	瓦	
122	ジョーグチ	門口		
123	ウフヤマガー	大山川		チャタンヤマガー(北谷山川)ともいった。高倉を持っていた。
124	ムラウチシールビ	村内シールビ		
125	アガリー	アガリー		農業と兼業で馬車での運送業をしていた。
126	メーヌハルアガリーグワー	前ヌ原アガリー小		
127	アガリヤマガー	東山川	瓦	村役場職員をしていた。
128		(貸家)		貸家。181:細工金城小が購入し、娘婿の「崎原」という人に貸していた。
129	デークグワー	大工小		メーヌデークグワー(前ヌ大工小)ともいった。那覇で商売をしていたが、十空襲のあと北谷に戻ってきた。
130		(空家)		空家。155:東江小が持ち主。

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
131	ウフイーマ	大上間		高倉を持っていた。北谷集落の上間一門のムートウヤー（本家）。
132	ナカタケーシ	中高江洲		
133	ミーイーマグワー	新上間小		
134	メーリンドー	前伝道	瓦	
135	メーカナグシク	前金城		
136	ムラヤーヌアガリマテーシグワー	村屋ヌ東又吉小		
137	メーヤンムトゥ	前山本（空家）		空家。メーヤンムトゥ（前山本）の屋敷があった。
138	クシマテーシ	後又吉		
139	ナカミチイーマ	中道上間	瓦	ブラジル移民経験後、帰村。戦争直前に屋根を瓦葺きにした。
140	イリイーマ	西上間		
141	イファ	伊波	瓦	銀行頭取をしていた。家には高倉があったかもしれない。
142	マチャタマグシク	店玉城	瓦	商店。米、そうめん、缶詰などを売っていた。首里崎山から移住。もとはバシャムチャー（馬車引き）だった。
143	イリグワー	西小		
144	ターバグワー	田場小	瓦	ンマイーヌハタターバグワー（馬場ヌハタ田場小）ともいう。ターバグワーの娘が、与那原から薪を売りに来ていたバシャムチャー（馬車引き）の息子と結婚して、この家に住んでいた。
145	ユービンチク	郵便局	瓦	那覇から移住。郵便局だった。
146	ンマイーヌハタタケーシ	馬場ヌハタ高江洲	瓦	終戦時点の村長の家。以前は嘉手納製糖工場の職員として勤務していた。
147	イリマテーシグワー	西又吉小	瓦	教員だった。
148	アガリマテーシグワー	東又吉小		
149		（空家）		空家。185: チチンミ（吉味）が家主。
150	ヒジャヤー	比嘉屋	瓦	おばあさんの1人住まいだった。位牌を管理していた。
151	ヤンムトゥ	山本	瓦	
152	ウフカナグスク	大金城		離れが瓦葺きで、母屋はカヤ葺き。
153	ウフブーニチカジャン	大骨津嘉山		
154	ウィーバルリンドー	上原伝道		
155	アガリーグワー	アガリー小		
156	アガリイーマグワー	東上間小	瓦	ミーチリーイーマグワー（目切上間小）ともいった。村役場職員だったが、のちに移民した。
157	サケーニー	堺根	瓦	
158	ウフイージ	大上江洲	瓦	
159	カドゥヌタケーシグワー	角高江洲小		
160	カミーティーラ	亀照屋		
161	クシデーグワー	後大工小		
162	チカジャンペーチン	津嘉山ペーチン	瓦	
163	クシマスルイグワー	後枡取小	瓦	

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
164	タケー	タケー		
165	ナーファヤー	那覇屋	瓦	
166	ミーヤーイリー	新屋伊礼		
167	ウフタケーシ	大高江洲 (貸家)		貸家。ウフタケーシ (大高江洲) の屋敷だったが、家族は住んでおらず、貸家として使われていた。
168	ミーダムイグワー	梅田森小		
169	クシタケーシ	後高江洲		
170	ナカミーダムイ	中梅田森		
171	クシミーダムイ	後梅田森	瓦	戸主は教員をしていて、退職した後は、シンシーサー (砂糖の樽に貼る証明書) を書く仕事をしていた。
172	カーラヤー	瓦屋	瓦	
173	ナーカ	名嘉		ウフナーカ (大名嘉)、あるいはシェークナーカ (細工名嘉) ともいった。大工をしていた。
174	イーダ	栄田		山内から移住。
175	ナカビグワー	ナカビ小		
176	スントーイリパーチン	村頭西パーチン	瓦	
177	クシヤマガー	後山川 (空家)		空家。クシヤマガー (後山川) の屋敷があった。
178		(廃屋)		屋敷跡。グシチャーマチャーという人が住んでいたが、昭和13年頃には住む人がいなくなり、廃屋になっていたと思う。
179	ウチマ	内間		
180	アラカチグワー	新垣小		玉代勢出身の人で、のちに玉代勢に戻った。新垣小が引っ越した後、家はドーギーイージグワー (道義上江洲小) が購入した。
181	シェークーカナグシク	細工金城		石工で、フール (沖縄式便所) づくりを専門にしていた。
182		(貸家)		屋号ではないが、ムジチュータンメーという呼び名があった。首里から移住してきた老夫婦が家を借りて隠居生活をしていた。特に仕事を持っていなかったため、無禄という意味のムジチューとあだ名がついた。アカバナの生け垣があった。
183		(貸家)		水質の良い井戸があった。
184	イリパーチン	西パーチン		イリパーチングワー (西パーチン小) ともいった。
185	チチンミ	チチンミ		
186	クラニー	蔵根 (貸家)		貸家。クラニー (蔵根) の一家は南洋に移民していたが、屋敷跡は残っていて、離れが貸し屋に使われていた。
187	イリナーカグワー	西名嘉小		離れが瓦葺きで、母屋はカヤ葺き。北玉小学校の教員などに貸し出していた。
188	ナーカ	名嘉	瓦	ナビナーカグワー (ナビ名嘉小)、あるいはガッコヌメナーカ (学校又前名嘉) ともいった。
189	マージャ	真喜屋		
190	ティーラグワー	照屋小	瓦	商店。191: 大村と一つの敷地にあった。
191	オームラ	大村		190: 照屋小と一つの敷地にあった。県道から奥側。

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
192	マチヤヤマガー	店山川	瓦	商店。専売品（タバコ）、米、雑貨などを売っていた。また、敷地内の離れには親戚にあたる人が住んでいて、自転車の修理販売をしていた。
193	リンドーペーチン	伝道ペーチン		
194	アラカチ	新垣		トーフヤーアラカチ（豆腐屋新垣）ともいった。首里から移住。
195	チーヤーサチバル	乳屋崎原		197：乳屋崎原の分家。
196	イサヌヤー	医者ヌ屋	瓦	
197	チーヤーサチバル	乳屋崎原		牛乳屋。乳牛を飼っていて、乳を絞って瓶詰めにして配達していた。屋根は一部が瓦葺き。搾乳・製造する建物はトタン葺きにコンクリづくり。
198	クワーシヤー	菓子屋	瓦	菓子店。200：新城の家を借りていた。パンの製造・販売をおこなっていて、「島袋菓子店」と看板も掲げていた。
199	イリー	伊礼		200：新城の家を借りていた。197：菓子屋の敷地のうち、南側は菓子屋の屋敷で、北側は伊礼の屋敷となっていた。
200	アラグシク	新城	瓦	
201	ナーカグワーアンマー	ナーカグワーアンマー		メーリンドーグワー（前伝道小）ともいった。与那原から薪を売りにくるバシヤムチャー（馬車引き）が止まる宿を経営していた。ナーカグワーアンマーは宿を経営していた女主人の呼び名。
202	メーウフグシク	前大城	瓦	理髪店をしていた。玉代勢集落から移住。メーウフグシクが入る前はハネジグワーという一家が住んでいたが、よそに移った。
203	マスドゥイグワー	枳取小		マスルイグワーとも発音する。
204	タンマグワー	田港小		のちに集落のなかのほうに引っ越した。タンマグワーが引っ越したあと、この場所にはサチバル（崎原）という屋号の家が入った。
205	マチヤイーザトゥ	店上里	瓦	商店。雑貨を売っていた。親の代では大工もしていた。
206	ナカジョー	仲門		
207	チナ	（貸家）	瓦	209：上江洲小が瓦屋根の屋敷を建て、貸しに出していた。歯医者の子ナ（喜納）が借りていた。
208	タンナファ	玉那覇		風呂屋。首里から移住。北玉小学校北東角にある十字路の向かい側にユーフルヤー（風呂屋）を開いていた。
209	イージグワー	上江洲小	瓦	ジオーイージグワー（ジオー上江洲小）ともいった。カナダ移民経験後、帰村。二階建てだった。
210	マチヤイーマグワー	マチヤ上間小	瓦	商店。専売品（酒、塩、タバコ）、そうめん、缶詰、学用品などを売っていた。当主は教員をしていて、その母親と嫁が店を経営していた。以前は屋号をバンジュヌイリーともっていた。
211	シマブク	島袋		洋服屋をしていた。
212	カーグワーヌイー	川小ヌ上	瓦	種付け豚を飼育していた。玉上から移住。
213	ガッコーヌクシタケーシ	学校後高江洲		
214	イリティーラグワー	西照屋小		

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
215	クシナーデーラ	後宮平		クシナーグスクグワー（後宮城小）ともいったかもしれない。
216	ナカドゥマイグワー	仲泊小		
217	イリグワー	西小		農業と兼業で、石工や養豚をしていた。仲山屋取から移住。
218	クシイサヤグワー	後伊佐屋小		
219	ナカムトゥ	仲本	瓦	祖先は首里系統。
220	カマーティーラグワー	カマー照屋小		
221	イサヤグワー	伊佐屋小		メイサヤグワー（前伊佐屋小）ともいった。
222	ウフティーラグワー	大照屋小	瓦	
223	ジローナーカグワー	次郎名嘉小		筆耕（現在の代書士）をやっている。村役場に通っていた。また、八重山の炭坑へ出稼ぎする人の募集もしていた。
224	マンキーナーカグワー	満亀名嘉小		戸主の名前が満亀だったので、屋号に満亀とつけた。
225	イシジェークヤー	石細工屋		
226	クダ	久田		首里から移住。祖先は首里系統。
227	イリチカザン	西津嘉山		チカザングワー（津嘉山小）ともいった。産業組合の事務をしていた。
228	クラントーグワー	蔵当小（空家）		空家。クラントーグワー（蔵当小）の屋敷があった。
229	メーヒジャグワー	前比嘉小		
230	カーヌハタグワー	川ヌ端小		
231	ワカザチン	若座喜味		236 前比嘉小と若座喜味は、戸主は老人だったが、シーシケーラシ（獅子舞）のときにはいつもこの両名がシーシを演じていた。
232	メーグスクイージグワー	前城上江洲小		
233		（貸家）		貸家。
234	ヒジャ	比嘉		
235	メーグスクチカザン	前城津嘉山	瓦	
236		（空家）		空家。
237	イリヒジャグワー	西比嘉小		
238	イーザチン	上座喜味（空家）		空家。イーザチン（上座喜味）の屋敷があった。残っていた屋敷は津嘉山門中が一族で管理していた。
239	ヌンドゥルチ	ヌンドゥルチ		神屋。

4 玉代勢

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
1	クエドウンチ	桑江殿内	瓦	母屋が瓦葺きでシム(台所)はカヤ葺きだった。
2	シチャチカジャングワー	下津嘉山小		昔はサンラーチカジャングワー(サンラー津嘉山小)ともいったかもしれない。
3	アサトウグワー	安里小		
4	ティーラペーチン	照屋親雲上	瓦	夫婦ともに教員をしていた。
5	ナカマ	仲間	瓦	レンガ造りの水タンクがあった。
6	シチャナカムトウグワー	下仲本小		ナカムトウグワー(仲本小)ともいう。
7	スイナカムトゥ	首里仲本		産業組合の職員。首里から移住してきた。
8	ハナウチ	花打		母屋はカヤ葺きで、シム(台所)と離れは瓦葺き。個人でサーターヤーを持っていた。
9	メーハナウチ	前花打		メーヌハナウチ(前ヌ花打)ともいった。
10	ナカムトゥ	仲本	瓦	
11	ククムクルン	ククムク殿		
12	カカジグワー	嘉数小		
13	アガリンヤー	東ン屋		ペルー移民経験後、帰村。戻ってから、コンクリートの垣をつくった。
14	イリジョー	西門		
15	シバ	志場		中城村仲順か喜舎場から移住してきたらしい。ウカミヤー(神を祀っている家)で、仲順から拝みに来る人もいた。
16	アサトゥ	安里		
17	カーラヤーリンドー	瓦屋傳道	瓦	玉代勢で最初に瓦葺きになった家。
18	アラカチペーチン	新垣親雲上		屋敷囲いが板塀だった。
19	ヒジャ	比嘉	瓦	戦争直前に瓦葺きになった。
20	カカジ	嘉数	瓦	以前、郵便局長をしていた。
21	タルーイーマ	樽上間(空家)		空家。タルーイーマ(樽上間)の屋敷があった。
22	カーバタ	川端(空家)		空家。カーバタ(川端)の屋敷があった。
23	ハンタ	繁田	瓦	屋根は瓦で、カキジユクイ(軒に雨よけのひさしをかける造り)だった。家畜小屋も瓦葺き。チンガー(滑車つきの井戸)があった。台湾で校長をしていた。
24	モーイー	毛井		
25	ミーティーラ	新照屋		
26	イーマ	上間		しょうゆなどを行商していた。
27	メーヌヤー	前ヌ屋		
28	ミーヤー	新屋		
29	シーシ	末吉	瓦	
30	ウフグスク	大城		クミグラ(米倉)があった。倉の下は厩になっていた。
31	メーウフグシク	前大城		
32	シナー	砂名(空家)		空家。シナーの屋敷があった。
33	メーヌシナーグワー	前ヌ砂名小		

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
34	ナカムトゥグワー	仲本小		イースナカムトゥグワー（上又仲本小）ともいった。
35	アラカチ	新垣		戦後、屋号がアラカチ（新垣）からナカチニン（中知念）に変わった。
36	ヤマガー	山川（空家）		空家。
37	ナカミチチカジャングワー	中道津嘉山小		
38	ナカミチティーラ	中道照屋		
39	クシミヤー	後新屋		
40	クシアラカチ	後新垣		
41	シマブクペーチン	島袋親雲上		
42	イースチカジャン	上又津嘉山（空家）		空家。イースチカジャン（上又津嘉山）の屋敷があった。一家はペルーに移民した。
43	ミーヤシチ	新屋敷		
44	シェークーチカジャングワー	大工津嘉山小		屋敷の前に洞窟があったため、以前は屋号をガマヌメーチカジャングワー（ガマヌ前津嘉山小）といていた。木工大工の棟梁をやっていた。
45	アガリミーヤー	東新屋		
46	アガリリンドー	東傳道		
47	アガリジョー	東門	瓦	屋根は瓦で、カキジュクイ（軒に雨よけのひさしをかける造り）だった。二階がある厩があった。
48	ウズマーグワー	ウズマー小		
49	アラカチグワー	新垣小		ウフアラカチグワー（大新垣小）ともいった。大工をしていた。
50	クシスティーラ	後又照屋		
51	ジラーチカジャン	ジラー津嘉山		
52	カマーシナーグワー	カマー砂名小		
53	ハナウチグワー	花打小		
54	ヒジャグワー	比嘉小		
55	アガリナカムトゥ	東仲本		
56	ミーアガリジョー	新東門		
57	マチャーシーシグワー	マチャー末吉小	瓦	石工で、墓、フール（沖縄式便所）造りを専門にしていた。
58	マチューアジャマグワー	マチュー安座間小		
59	カナーシーシグワー	加那末吉小		帽子クマー（パナマ帽子を編む内職）の作業をする場所になっていた。
60	ミーアラカチグワー	新新垣小	瓦	
61	グシチン	具志堅	瓦	
62	サチバルグワー	崎原小（空家）		空家。サチバルグワー（崎原小）の屋敷があった。
63	シチャアジャマグワー	下安座間小		馬車で運送業をしていた。チンガー（滑車つきの井戸）があった。
64	クシアガリジョー	後東門		
65	カミーヒジャ	カミーヒジャ	瓦	屋根は一部が瓦だった。
66	アラカチ	新垣		シチャヌアラカチ（下又新垣）ともいった。

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
67	アガリグワー	東小	瓦	玉上から移住。サチバルアガリグワー（崎原東小）ともいった。
68	ナバーヒジャグワー	ナバー比嘉小		商店。そうめん、鰹節、石油、酒などを売っていた。
69	カミーアジャマグワー	カミー安座間小	瓦	
70	マンナカアジャマグワー	真ン中安座間小		
71	ウフアザマグワー	大安座間小（空家）		空家。
72	イージャトウグワー	上里小		
73	アジャマ	安座間		ヤブー（鍼灸師）をしていた。
74	アガリヒジャグワー	東比嘉小		戸主が背の高い人で、あだ名をとって屋号をタッチユーヒジャグワーということがあった。
75	シチャヌアラカチ	下ヌ新垣		
76	クラントー	板原蔵武当		クラントー（蔵武当）ともいった。

5 伝道

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
1	カナーイリー	加那伊礼		
2	ヒラ	ヒラ		
3	カーヌハタチカジャングワー	川ヌ端津嘉山小	瓦	
4	ナカミヤ	中新屋	瓦	
5	イリーグワー	伊礼小		
6	アガリミーヤ	東新屋		空家。おばあさんが一人暮らしをしていたが、昭和7、8年頃に亡くなり、それから空家だった。
7	タンバラ	タンバラ		家族のほとんどがペルーに移民していて、老夫婦が住んでいた。孫娘も一緒に住んでいたかもしれない。戦前に老夫婦が亡くなり、空家になっていたかもしれない。
8	チカジャン	津嘉山		
9	トゥンチ	殿内	瓦	
10	カーヌイー	カーヌ上（空家）		空家。首里に引っ越した。
11	メーヌヤー	メーヌヤー	瓦	嘉手納製糖工場からの依頼を受けて、サトウキビの出荷を請け負っていた。
12	ウフヤー	ウフヤー	瓦	瓦屋根の倉を持っていたので、カーラグラ（瓦倉）とも呼ばれた。個人で井戸を所有していた。
13	ナガタイグワー	長田井小		
14	ナガタイ	長田井		
15	バシガーイリー	バシガー伊礼		
16	ミーイリー	新伊礼		
17	イーバシガー	イーバシガー（空家）		空家。戸主が引っ越して行って、空家になっていた。
18	リンドー	伝道		ナガタイチカジャングワー（ナガタイ津嘉山小）ともいった。
19	ティラペーチン	照屋親雲上		貸家。戸主は住んでいなかった。
20	イリミーヤシチグワー	西新屋敷小		
21	イリーチクルン	伊礼築登之		
22	ミーヤシチイリー	新屋敷伊礼		おばあさんと孫が住んでいた。
23	カーヌメー	カーヌ前		もともとはディンドーガーのところに家があったらしい。
24	チファヌク	津波古		
25	ミーヤシチグワー	新屋敷小		

6 仲山屋取

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
1	イリサチバルグワー	西崎原小		
2	ハナドーサチバルグワー	花堂崎原小	瓦	おじいさんが石工をしていた。息子は村会支部長をしていた。荷馬車を持っていた。
3	ユシガー	ユシガー		
4	ウフ	ウフ		仲山屋取にいちばん古く入植してきた家。
5	セーコーアガリグワー	盛功東小		アガリグワー（東小）、サーターヤーニー、サーターヤーアガリグワー（サーターヤー東小）ともいった。
6	クシウズマーグワー	後ウズマー小	瓦	移民に出ていた。
7	ナーカグワー	ナーカ小		
8	フクジグワー	福地小		
9	メーウズマーグワー	前ウズマー小	瓦	移民に出ていた。
10	ナカウズマーグワー	中ウズマー小		戦前の区長の家。移民経験あり。
11	カミーナーカグワー	カミーナーカ小	瓦	
12	ナーカグワー	ナーカ小		農業と兼業でバナマ帽編みをしていた。
13	ウズマー	ウズマー		ハワイに移民に出ていた。
14	シチャアガリグワー	下東小		
15	ニオーサチバルグワー	ニオー崎原小		
16	ウフサチハマ	大崎浜	瓦	
17	トゥクーサチバル	徳崎原	瓦	戸主は村役場職員で、村議会議員もした。
18	ウフサチバル	大崎原	瓦	
19	カマーアガリグワー	カマー東小		フィリピン移民の経験あり。
20	ヤマーアガリ	ヤマー東		
21	カーヌウィー	川ヌ上		シチャヌカーという井戸が近くにあった。
22	ヤマーサチバルグワー	ヤマー崎原小		
23	サンナンヤマーサチバルグワー	三男ヤマー崎原小		
24	ガイモー	ガイモー		
25	ナーカヌアガリ	ナーカヌ東	瓦	
26	ナーカ	ナーカ	瓦	
27	サンラーマンナカサチバルグワー	三良真中崎原小		
28	カマドーアガリグワー	蒲戸東小		
29	ウィーヌミーヤー	上ヌ新屋	瓦	
30	イーサチハマグワー	上崎浜小		北玉小学校の補助教員をしていた。
31	マチューアガリグワー	マチュー東小		荷馬車で運送業をしていた。
32	クシグワー	クシ小		
33	サーターヤーニー	サーターヤーニー		

7 屋宜屋取

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
1	マチークミシグワー	松米須小	瓦	
2	カマドゥークミシグワー	蒲戸米須小		
3	サンナンマチークミシグワー	三男松米須小		シンシータークミシグワー（先生ター米須小）ともいった。フィリピン移民をしていて、フィリピンで小学校の教員をしていた。
4	アガリバルグワー	東原小		
5	ターヌハタグワー	田ヌ端小		
6	ハナグシク	花城	瓦	ブラジルに移民していた。
7	ターヌハタ	田ヌ端		
8	イリクミシグワー	西米須小		
9	ハルーウンチュー	ハルーウンチュー		
10	セージチューサチハマグワー	セージチュー崎浜小		戸主がセージチューという名前だった。
11				屋号は不明。長男はブラジル移民に出ていて、おばあさんと娘しか住んでいなかった。家を貸家になっていた。
12	ハンタクミシグワー	ハンタ米須小		
13	グシチヌミー	グシチヌミー		グシチ（ススキ）がたくさん生えているなかに家があった。
14	イリマテーシグワー	西又吉小		
15	サンラーマテーシ	三良又吉		
16	トゥクジョーグワー	徳門小		
17	ミーヤーマテーシグワー	新屋又吉小		
18	アガリマテーシグワー	東又吉小		
19	ウフマテーシ	大又吉		
20	トゥミザトゥグワー	豊見里小		
21	タカラグワー	多嘉良小		
22	フィシチグワー	平敷小		
23	ハマムトゥグワー	浜元小		
24	クシトゥミザトゥグワー	後豊見里小		
25	カミーマテーシグワー	亀又吉小		
26	モーニークミシグワー	モーニー米須小		
27	ジキラン	瑞慶覧		
28	タカーイサグワー	タカー伊佐小		
29	メーユヒングワー	前饒辺小		
30	サーターヤーニューヒングワー	砂糖屋根饒辺小		
31	イリユヒングワー	西饒辺小		
32	ユヒン	饒辺		
33	ミーヤージュヒングワー	新屋饒辺小		
34	ヤマージュヒングワー	山饒辺小		
35	カマージュヒングワー	蒲饒辺小		

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
36	コーフースナングワー	工夫楚南小		
37	サンラースナングワー	三良楚南小		
38	マチャースナングワー	マチャー楚南小		
39	ウシークミシ	ウシー米須		
40	ジラークミシ	次良米須		

8 桑江又前屋取

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
1	クニシグワー	国吉小		
2	トゥカシチ	渡嘉敷		トンネウハタートゥカシチ（トンネルハター渡嘉敷）ともいった。
3	カーラヤーカンジャグワー	瓦屋カンジャー小	瓦	シーンニーカンジャグワー（シーンニーカンジャー小）、シーグワーカンジャグワー（シー小カンジャー小）ともいった。鍛冶屋をしていた。
4	トンネルヤー	トンネルヤー		タタンチュクヤー（畳屋）をしていた。繁盛していた。
5	ムルンジャトウグワー	諸見里小		6：大諸見里の分家。
6	ウフムルンジャトウ	大諸見里		
7	スナグワー	楚南小		
8	カナグスクグワー	金城小		小料理屋をしていた。
9	イズミ	泉		
10	ユーフルヤー	ユーフルヤー		カンジャーヤー（鍛冶屋）ともいった。風呂屋と鍛冶屋をしていた。鍛冶は鋏、釜、鍋などを作っていた。日進食堂という名前の食堂もしていた。
11	アラグスク	新城		
12	ショージュヤー	ショージュ屋		荷馬車で運送業をしていた。那覇や国頭に行っていた。醤油をまとめて仕入れてきて、それをおばあさんが売っていた。もともとは首里出身で、昭和初期頃に桑江又中屋取に移り住み、さらに桑江又前屋取に家を借りて引っ越した。
13	マチヤナージャトウグワー	マチヤ宮里小	瓦	ナージャトウグワー（宮里小）ともいった。宮里商店。雑貨、お菓子を売っていた。大きな店だった。
14	スバヤーナカチ	スバヤー仲地		ソバ屋をしていたが、昭和10年代には廃業していた。家の造りは普通の民家だった。
15	トゥクータンメー	徳タンメー		トゥクータンメーター、あるいはトゥクーナカチ（トゥクー仲地）ともいった。商店。雑貨を売っていた。
16	トーフヤー	豆腐屋		トーフヤグシクマグワー（トーフヤー城間小）ともいった。豆腐を売っていた。
17	ナカムトウ	仲本		父はブリキ屋で、ジョウロややかんなどを作って売っていた。息子は洋裁店を開いて仕立てをしていた。他に、傘屋、床屋、自転車屋もしていた。店は家の向かいの屋敷を借りてやっていた。自転車は、越来の役場吏員の人がよく修理などで使っていた。
18	ハーヤー	ハーヤー		歯医者。準医師。もともと桑江又前屋取の人ではないが、17：ナカムトウの娘を嫁にしたため桑江又前屋取に住んでいた。
19	ウフナカチ	大仲地	瓦	
20	マチヤナカチグワー	マチヤ仲地小		商店。雑貨を売っていた。
21	チューシャバメーグスク	駐車場真栄城		バシャムチャー（馬車運送業者）の休憩所。お茶やちょっとした茶請けを出したりしていた。屋敷内に馬も馬車も10台ぐらいつなげる。
22	シンシーメーグスク	先生真栄城		戸主が教員だったので屋号にシンシーとついた。

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
23	ウフメーグスク	大真栄城		
24	ヤマーメーグスク	ヤマー真栄城		
25	セークーカンジャーグワー	細工カンジャー小		26：大カンジャーの分家。以前、鍛冶屋をしていた。
26	ウフカンジャー	大カンジャー		以前、鍛冶屋をしていた。
27	サカヤグスクマ	酒屋城間		グスクマ（城間）ともいった。大正の頃、首里から移ってきた。酒を販売していた。
28	シンシーハナグスク	シンシー玻名城		首里から移住してきて間もなかった。
29	アラグスクグワー	新城小		ニージョー（新城）ともいった。農業と兼業で北玉小の用務員をしていた。
30	ヒャージョー	比屋定		
31	イファグワー	伊波小		
32	マダンバシ	真玉橋		田場小の敷地内にあった貸家を借りていた。桑江又中屋取の兄弟のところから魚を買ってきて、家で売っていた。
33	ナカチ	仲地		
34	マチューメーグスク	マチュー真栄城		マチューメーグスクグワー（マチュー真栄城小）ともいった。
35	カジマヤーターバグワー	カジマヤー田場小	瓦	大きな赤瓦屋根の家で、集落の集会によく使われた。謝苺からの分家なのでグワーがつく。
36	ナービナク	ナービナク		大正年間までは鍋の修理を職業にしていたので、屋号をナービナクと呼んでいた。
37	チュンナーグワー	喜友名小		
38	サーターヤーチズカグワー	サーターヤー喜如嘉小	瓦	屋根はセメント瓦だった。
39	ウフハマジョー	大浜門		
40	ウフナカンダカリ	大仲村渠		クルースターともいった。
41	ハマジョーグワー	浜門小		39：大浜門の分家。
42	チジュカグワー	喜如嘉小		43: 喜如嘉小と区別する場合は、戸主の名をとって「喜如嘉小のタルーヤッチー」のように呼んだ。
43	チジュカグワー	喜如嘉小		42: 喜如嘉と区別する場合は、戸主の名をとって「喜如嘉小のシターヤッチー」のように呼んだ。
44	マキン	牧志		
45	クルマーナカチ	クルマー仲地		荷馬車で運送業をしていた。
46	チカジャンペーチン	津嘉山ペーチン		
47	サクマ	佐久間		
48	ハイタチャーチズカグワー	配達喜如嘉小	瓦	ハイタチャー（配達）ともいった。郵便配達員をしていた。屋根はセメント瓦だった。
49	ナカンダカリ	仲村渠		
50	ナカフドゥ	仲程	瓦	屋根はセメント瓦だった。荷馬車で運送業をしていた。
51	クニシグワー	国吉小		49: 仲村渠の貸家を借りていた。戦争の頃には空家になっていた。
52	ノムラグワー	野村小		
53	イーゾ	上江洲		

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
54	ミージョー	新城		
55	スナングワー	楚南小		
56	ハイタチーシマブク	配達島袋		郵便配達員をしていた。
57	シンジャトウ	新里		石工をしていた。
58	チーチャー	チーチャー	瓦	トゥミザトウグワー（豊見里小）ともいった。屋根は赤瓦だった。チーチャー（牛乳屋）をしていた。北谷、屋宜仲山から牛乳を仕入れていたらしい。自転車で配達していた。
59	イーマチクドゥングワー	上間チクドゥン小		
60	ティーラリョカン	照屋旅館	瓦	リョカングワー（旅館小）、テルヤリョカン（照屋旅館）ともいった。赤瓦葺きの二階建てだった。簡易宿舎をしていた。
61	アガリナカチグワー	東仲地小		屋敷が広く、東側と西側にアサギみたいなものがあり、皆の遊び場だった。1 m 20 ~ 30 cmの塀があり、その上でも遊んだ。
62	ナーカナカチグワー	中仲地小		
63	ハナグスク	花城		おじいさんが時々馬車で運送の仕事をしていた。
64	チュンナー	喜友名	瓦	屋根は赤瓦だった。理髪店をしていた。
65	クワーシヤーヤマグスク	菓子屋山城	瓦	クワーシヤー（菓子屋）、ヤマグスククワーシヤー（山城菓子屋）ともいった。赤瓦葺きの二階建てだった。昭和12年頃までアイスクーキー、氷など菓子の製造と販売をおこなっていた。卸しを取って配達していた。
66	マキシ	牧志	瓦	屋根が赤瓦だった。商店と写真屋をしていた。通り沿いは雑貨商で奥は写真屋。のちにクニシグワー（国吉小）が入り、昭和19（1944）年頃中頃まで住んでいた。
67	ヨギ	与儀	瓦	祖母と女の子だけの家。北玉小の教員たちが部屋を借りていた。
68	マチヤトゥカシチ	マチヤ渡嘉敷		トゥカシチグワー（渡嘉敷小）ともいった。瀬戸物屋。陶器、茶碗などの陶器類を売っていたほか、米などの食料品も売っていた。
69	カララ	金良		
70	グスクマグワー	城間小		荷馬車で運送業をしていた。
71	ムシルウチャーヤマチグワー	ムシルウチャー山内小		以前はむしろを作っていたので、屋号にムシルウチャーとついた。話者の小さいころには、むしろは作っていなかった。
72	アラグスクグワー	新城小		
73	ダンパチャーナンミ	ダンパチャー稲嶺	瓦	理髪店。家の造りが向いているためにダンパチャー（理髪店）をやる人がいつも借りていた。ダンパチャーチュンナー（断髪喜友名）の次にヤマチ（山内）が入り、ヤマチが南洋移民に出たあと、戦争直前の時期はダンパチャーナンミが入っていた。
74	ミーナカンダカリ	新仲村渠	瓦	商店。タバコ、塩などの専売品を売っていた。

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
75	リョカングワー	旅館小	瓦	カナグスクグワー（金城小）ともいった。宿を営していた。宿泊部屋は3～4畳半ほどの広さだった。
76	ヤラグワー	屋良小		桑江駅に搬入・搬出する運送業者のとりまとめ役をしていた。大きな堀があり、鯉を養殖していた。一時期、ソバ屋もしていた。漁業組合役員もやっていたかもしれない。
77	ホカマ	外間	瓦	ヤブー（鍼灸師）をしていた。屋根はセメント瓦だった。
78	ショーユヤーシマブク	醤油屋島袋		商店。雑貨、醤油などを売っていた。
79	イチバルグワー	池原小	瓦	大きな新しい店。屋根はセメント瓦だった。
80	マテーシ	又吉	瓦	屋根はセメント瓦だった。
81	マチヤナカチグワー	マチヤ仲地小	瓦	ナカチグワー（仲地小）ともいった。商店。そうめん、油、駄菓子、雑貨などを扱っていた。屋根はセメント瓦だった。

9 桑江ヌ中屋取

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
1	ウールグワー	小渡小		位牌やおぼんに漆を塗る仕事をしていた。
2	ダンバチヤーナンミ	ダンバチヤー稲嶺	瓦	
3	ヤマダグワー	山田小		貸家を借りて住んでいた。
4	トーフヤーウワン	豆腐屋大湾		ウワン（大湾）ともいった。豆腐を作って売っていた。
5	ジープ	宜保		
6	チシグワー	喜瀬小		サンジンソー（易者）をしていた。
7	トーフヤーチカジャングワー	豆腐屋津嘉山小		チカジャングワー（津嘉山小）ともいった。農業と兼業で、豆腐を作って売っていた。
8	タンナファ	玉那覇		農業と兼業で、豆腐を作って売っていた。
9	ヒラカー	平川	瓦	
10	エーコードー	栄光堂		アグニ（粟国）ともいった。商店。雑貨を売ったり、自転車の修理・販売などを扱っていた。
11	ナーカヌヤー	ナーカヌ屋		本部から移住。
12	グスクマグワー	城間小		首里から移住。首里では酒のこうじをつくっていた。昭和10年頃までは酒を売っていた。
13	ムランナンミ	村稲嶺	瓦	
14	テーラグワー	平良小	瓦	瓦葺きで二階建ての家だった。採石、石切りをしていた。以前は旅館もしていた。
15	ナガタ	永田		商店。タバコ、塩などを売っていた。鹿児島出身の人だった。
16	メーヌヤー	前ヌ屋		漁師、石工をしていた。もともとは本部出身の家系。
17	トーヤマグワー	当山小		
18	トーヤマグワー	当山小		
19	トゥクマージャ	徳マージャ		昭和12～13年頃まで、老夫婦が住んでいた。
20	ミームトゥブ	新本部	瓦	本部から移住。醤油の製造と販売を行っていた。家の前には製造場があった。
21	ヒジャグワー	比嘉小		
22	メーグスクグワー	真栄城小		村役場職員をしていた。
23	ヤマダグワー	山田小（空家）		空家。
24	ニーファグワー	瀬瀬小		離れが瓦屋根だった。離れは教員などが借りていた。
25	チーフアウワングワー	チーフア大湾小	瓦	チーフアともいう。村芝居でチーフアという役が上手だった。
26	ハマヌニーファグワー	浜ヌ瀬瀬小	瓦	屋根は一部が瓦だった。農業と兼業で漁業もしていた。
27	チブヤ	チブヤ		那覇の壺屋から移住。漁業をしていた。
28	ニーファ	瀬瀬		以前はウーヌミーニーファ（ウーヌミー瀬瀬）ともいっていた。家の周囲にウー（芭蕉）が生えていた。漁業をしていた。
29	ガサミーチニングワー	ガサミー知念小		ガサミ、あるいはガサマーともいった。
30	クラグワー	クラ小	瓦	

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
31	クジャ	古謝		30：クラ小の貸家。嘉手納出身の人。
32	イチンニー	イチンニー		桑江集落から引っ越してきた。桑江にあったときの家は池のそばだったのでこの屋号がついた。
33		(貸家)		貸家で、いろいろな人が出たり入ったりしていたが、戦争の時期は空家だった。
34	マチーンナンミ	マチー稲嶺	瓦	
35	ジラーンナンミ	ジラー稲嶺		ジローンナンミ（ジロー稲嶺）、ンナンミ（稲嶺）ともいった。
36	マチダグワー	松田小		農業と兼業で大工をしていた。
37	シマブク	島袋		魚の行商をしていた。
38	ナカチグワー	仲地小		農業と兼業で帽子クマー（パナマ帽子編み）をしていた。
39	イジーカミースー	伊芸カミースー		おじいさんが1人で暮らしていた。名前がカミーだったので、屋号をイジーカミースーと呼んでいた。
40	アーシヤマースー	泡瀬ヤマースー		イシジェーク（石工）をしていた。
41	ナカチグワー	仲地小		農業と兼業で帽子クマー（パナマ帽子編み）をしていた。
42	ウフンジャ	大見謝		布団の打ち直しを請け負っていた。山原出身の人。
43	マチヤチニングワー	マチヤ知念小		農業と兼業で商店をしていた。
44	サンナンヒジャグワー	三男比嘉小		漁業をしていた。
45	マチューヒジャグワー	松比嘉小		漁業をしていた。
46	ユナンヒジャグワー	四男比嘉小		漁業をしていた。
47	ロクナンヒジャグワー	六男比嘉小		漁業をしていた。
48	チョーナンヒジャグワー	長男比嘉小		読谷村から移住。桑江ヌ中屋取の比嘉一門のムートゥヤー（本家）。漁業をしていた。
49	グナンーヒジャグワー	五男比嘉小		漁業をしていた。
50	キーヌシチャー	木ヌ下		屋敷をおおうほどのカジマルの木が生えていた。
51	イチマンヤー	糸満屋	瓦	
52	チブヤ	チブヤ		那覇の壺屋から移住。漁業をしていた。
53	ニーファグワー	襦覇小		
54	ウラサチグワー	浦崎小		本部から移住。漁業をしていた。
55	ヤンバルンナンミ	山原稲嶺		
56	ブラジルンナンミ	ブラジル稲嶺		戸主のおじいさんはブラジルに移民していて、おばあさんが1人で住んでいた。
57	ウナガ	翁長		山原から移住。バクヨー（馬の仲買）をしていた。
58	クダカ	久高		
59	ガナファ	我那覇		帽子クマー（パナマ帽子編みの内職）をする人が集まるところだった。
60	アガリーグワー	アガリー小		
61	ンナンミグワー	稲嶺小		帽子クマー（パナマ帽子編み）をしていた。
62		(貸家)	瓦	貸家。

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
63	ヘンナグワー	辺名小		魚の行商をしていた。
64	ワラマチースー	ワラマチー主		老人の一人暮らしだった。ウチナービーグ(蘭草の一種)でゴザを作っていた。
65	クシヌクラニーグワー	後クラニー小		
66	アガリーグワー	アガリー小		
67	クラニー	クラニー	瓦	
68	カニクグワー	兼久小		
69	ホーイグワー	ホーイ小		桑江集落のホーイ小からの分家。農業と兼業で魚の行商もしていた。
70	ウサークラニーグワー	ウサークラニー小		
71	カマーチニングワー	カマー知念小(空家)		空家。カマーチニングワー(カマー知念小)という家の屋敷があった。一家は南洋に出稼ぎに出ていて、屋敷にトートーメーだけ置いてあった。
72	マツシマグワー	松島小		漁業。
73	ワチナグイグワー	湧稲国小		
74	ボシューヒチャーチニングワー	募集ヒチャー知念小		日本本土の紡績工場や海外移民を斡旋する仕事をしていた。
75	バシヤムチャーチニングワー	馬車ムチャー知念小		荷馬車で運送業をしていた。
76	マツシマ	松島		
77	ウフミチニー	大道根		漁業と農業を兼業していた。
78	シナビグワー	砂辺小		
79	カニムトゥ	兼本		網作りをしていた。
80	ヤマチグワー	山内小		イシジェーク(石工)をしていた。
81	ナビースー	ナビースー		オーシロ(大城)ともいった。ナビーというのは戸主のワラビナー(童名)。今帰仁のほうから移住してきたらしい。漁業と農業を兼業していて、舟を持っていた。タコやジャコ貝をとっていた。
82	ウワングワー	大湾小		
83	イリクラニーグワー	西クラニー小		
84	イリスホーイグワー	西ヌホーイ小		
85	ワチナグイ	湧稲国		
86	チカジャン	津嘉山		チカジャングワー(津嘉山小)ともいった。以前はヤブー(鍼灸師)をしていたかもしれない。
87	シナビグワー	砂辺小		サンルーシナビグワー(サンルー砂辺小)ともいった。漁業をしていた。

10 桑江

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
1	ナーカンダースー	ナーカンダースー		
2	メーヌシチャグイグワー	前ヌ下グイ小		
3	ナーカシチャグイグワー	中下グイ小		
4	ヒジャグワー	比嘉小		
5	チカジャングワー	津嘉山小	瓦	
6	メーリンドー	前伝道		南洋に移民経験あり。
7	メーチカジャン	前津嘉山		
8	ヒジャグワー	比嘉小	瓦	アサギ(離れ)だけ瓦だったが、後に母屋も瓦にした。
9	アガリリンドー	東伝道	瓦	
10	シチャグイ	下グイ		
11	リンドーグワー	伝道小		クチョーリンドーグワー(区長伝道小)ともいった。
12	リンドーグワー	伝道小		
13	ヒジャグワー	比嘉小		
14	スルペーチングワー	スルペーチン小		
15	アワ	安和		茅葺きか瓦葺きかはっきり覚えがないが、瓦葺きだったかもしれないという。
16	ホーイ	ホーイ	瓦	
17	ウフシチャグイ	大下グイ		
18	スルペーチン	スルペーチン		
19	メンター	メンター		以前は屋号をメーヌハルースルペーチングワー(前ヌ原スルペーチン小)といていたかもしれない。
20	メーダ	真栄田		戸主を指す「メーラノオトー」(戦後はメーラヌタンメーと呼んだ)という呼び方があり、屋号のようにも使っていた。大工をしていた。
21	ユナグシク	与那城	瓦	ユナグスクとも発音する。
22	ウフグスク	大城		
23	タンナファグワー	玉那覇小	瓦	サカヤータンナファグワー(酒屋玉那覇小)ともいった。酒屋をしていた。現在の当主の3代前に首里から移住してきた。
24	ヤマーヒジグワー	山ヒジ小		
25	タンナファグワー	玉那覇小		
26	ヤンバルヤーグワー	山原屋小		
27	ヤマヒジグワー	山ヒジ小		
28	チカジャングワー	津嘉山小		帽子クマー(パナマ帽子編み)をしていた。
29	サンラージャチングワー	三良座喜味小		
30	ヤンバルヤー	山原屋		現在の当主の3代ほど前に名護市の安和あたりから移住してきたらしい。昭和初期頃に南洋に移民経験あり。
31	クシシチャグイグワー	後下グイ小(空家)		空家。一家で移民していた。
32		(貸家)		貸家。十空襲の後に那覇からトーマ(当間)という人が来てこの家を借りていた。

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
33	イーマグワー	上間小		
34	ナカミチジャチングワー	中道座喜味小		
35	ナカンダカリ	仲村渠	瓦	
36	イリー	伊礼	瓦	ンマヌヤー（厩舎）に2階があった。
37	トースヤグワー	当ヌ屋小		
38	トースヤー	当ヌ屋		
39	ミーヤー	新屋		
40	ヤマヒジ	山ヒジ		
41	メーリンドー	前伝道		メーヌリンドー（前ヌ伝道）ともいった。
42	リンドー	伝道		
43	アガリジャチン	東座喜味	瓦	
44	ナーカジャチン	中座喜味		
45	ジャチン	座喜味		ウフジャチン（大座喜味）ともいった。母屋は茅葺きだったが、シム（台所）は瓦葺きだった。
46	ヤマヒジグワー	山ヒジ小		

11 桑江ヌ後屋取

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
1	ンマイヌハタチニン	馬場ヌハタ知念		ヤマニーグワー（山根小）ともいった。4: ヤマニーチニンググワーと兄弟。
2	カヨーダグワー	嘉陽田小		
3	イユトウヤーチニンググワー	イユトウヤー知念小		農業と兼業で漁業をしていた。
4	ヤマニーチニンググワー	山根知念小		もともとはもっと山手に家があったので屋号にヤマニーとついた。
5	ナンヨーチニンググワー	南洋知念小		ナンヨーイチチニンググワー（南洋イチ知念小）ともいった。主人が南洋にいった。
6	カマレーミドゥルマ	カマレー目取真		
7	ヌザトウジーチニンググワー	野里地知念小		家の敷地は、もともと野里の人が持っていた土地だったらしい。
8	ムルシマ	盛島		
9	ウフハージョー	大比屋定	瓦	
10	カナークワシチャグワー	カナークワシチャ小		
11	カマーアワグワー	カマー安和小（貸家）		貸家。カマー安和小（カマー安和小）の屋敷を、のちに与那覇という人が借りていた。
12	ジナンチニンググワー	次男知念小		14: サカヤ知念小の次男。
13	カミーナーザトウグワー	カミー宮里小	瓦	
14	サカヤチニンググワー	サカヤ知念小		自家製造で酒を造っていた。戸主は村役場職員をしていた。
15	ウフチニン	大知念		農業と兼業で馬車引きをしていた。
16	ナーザトウグワー	宮里小		
17	ジナンナーザトウグワー	次男宮里小（空家）		空家。ジナンナーザトウグワー（次男宮里小）の屋敷があった。昭和20年頃には一家で南洋に移民していた。18: ウフナーザトウの分家で、屋号をウフナーザトウジナン（大宮里次男）ともいった。
18	ウフナーザトウ	大宮里		
19	ウフナーグスクグワー	大高宮城小		
20	ナーグスクグワー	高宮城小		
21	ジルーナーグスクグワー	次郎高宮城小	瓦	
22	カーラヤーナーグスクグワー	瓦屋高宮城小	瓦	
23	ナーグスクグワー	高宮城小（空家）		空家。ナーグスクグワー（高宮城小）の屋敷があった。一家はフィリピンに移民していたが戦争で全滅してしまった。
24	ランブーアワグワー	ランブー安和小	瓦	
25	クワシチャグワー	クワシチャ小		
26	ハマヌクワシチャグワー	浜ヌクワシチャ小		
27	イリムティーナーグスクグワー	西ムティー高宮城小	瓦	高宮城姓の家は集落の中心部に多く、そこから見て西側だからイリムティーと屋号がついた。
28	イリムティーチニンググワー	西ムティー知念小		

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
29	イージグワー	上江洲小		
30	タンナファ	玉那覇		
31	サンラーハージョーグワー	サンラー比屋定小		ひさしだけ瓦葺きだった。
32	クワシチャ	クワシチャ		
33	ユナファグワー	与那覇小		商店。雑貨、飴玉、米、缶詰などを売っていた。
34	グヤグワー	グヤ小		商店。雑貨、菓子などを売っていた。
35	マチューハージョー	マチュー比屋定		ハージョー（比屋定）ともいった。
36	イリカヨードグワー	西嘉陽田小		農業と兼業で、戸主が石工をしていた。
37	ウフサクマ	大佐久間		サクマ（佐久間）ともいった。
38	カヨード	嘉陽田		
39	サクマ	佐久間		
40	ウフカヨード	大嘉陽田		
41	ミドゥルマグワー	目取真小		
42	カマンタクワシチャグワー	カマンタクワシチャ小		クワシチャグワー（クワシチャ小）ともいった。仕事は農業だったが、以前に竹細工をやっていて、カマンタなどを作っていたのではないかと思う。

12 謝苜屋取

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
1	コンゴロートーヤマグワー	コンゴロー当山小		コンゴロー、あるいはコンゴロートーヤマ(コンゴロー当山)ともいった。
2	ウカミグワーウンメー	ウカミ小ウンメー		おばあさんが法事やムラ行事の拝みを行っていた。ユタみたいなもの。
3	ウフターバ	大田場	瓦	謝苜で一番の財産家。大きいうちだった。
4	サンラータンマグワー	三郎田港小		山の中だった。女性ばかり10名ぐらいの家だった。
5	クブンターバ	クブン田場	瓦	2~30坪ぐらいの大きなうちだった。家の前が広場のようになっていて、向上会などの集落行事に利用した。
6	アカムヤーミドゥルマ	アカムヤー目取真		アカムヤーという小山の近くにあったため、屋号にアカムヤーとつけた。
7	カマダーミドゥルマ	カマダー目取真		農業と兼業で、荷馬車でサトウキビの運送やマチヤ(商店)の品物の運送をしていた。那覇から金武まで行っていたらしい。
8	ナコー	名幸	瓦	
9	メーヌハルーミドゥルマグワー	前ヌ原目取真小		メーヌハルーミドゥルマグワー(前ヌ原目取真小)ともいった。
10	ミーヤーターバグワー	新屋田場小		マチヤターバグワー(マチヤ田場小)ともいった。昔は商店をしていたらしい。
11	ジラーミドゥルマグワー	ジラー目取真小		
12	シムチーキンラ	シムチー金良	瓦	サンジンソー(易者)をしていた。家はいつも客でいっぱいだった。出張もしていた。
13	カーラヤー	瓦屋	瓦	
14	チュンナーグワー	チュンナー小		
15	ウフトーヤマ	大当山		
16	サーターニーナカムラグワー	サーターニー中村小		サーターヤーの近くにあった。
17	ナーカナカムラグワー	中中村小		
18	カイグンナカムラグワー	海軍中村小		戸主が海軍所属の退役軍人だった。戦前、角帽をかぶって剣を下げている姿が見られた。
19	アガリナカムラグワー	東中村小		
20	アラカチグワー	新垣小		
21	オーミチ	大ミチ		おばあさんが1人で住んでいた。おもしろいおばあさんで、しょっちゅう人を笑わせていた。平安座出身の人だった。
22	ナカンミグワー	ナカンミ小		
23	メーナカムラグワー	前中村小		
24	ウフナカムラ	大中村		
25	アガリターバグワー	東田場小		
26	マーチュートーヤマ	マーチュー当山		マーチューモー(ジャーガルモーの別名)の近くにあった。クルマガー(滑車付きの井戸)があった。下が見えないぐらい深かった。
27	カミーミドゥルマ	カミー目取真		

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
28	メーヌミドゥルマ	前ヌ目取真	瓦	共同使用の水タンクがあった。大きなうちで、教育委員会で保存している。建築年代は1890年、明治23年頃。平成5年まで住居として使い続けられたが、家屋建て直しをきっかけに、北谷町が費用を負担して解体する条件で、家に使われていた資材がそっくり寄付された。
29	クシヌミドゥルマ	後ヌ目取真	瓦	井戸と水タンクがあった。井戸は深さ1m40～50cm。家の敷地内ではなく、ちょっと東側にあった。
30	イリトーヤマ	西当山		井戸、水タンクがあった。井戸の深さ4～5mで、早魃には涸れる。
31	ウフナーザトゥ	大宮里	瓦	水タンクがあった。大きなうち。20～30坪ぐらい。
32	ナーザトゥグワー	宮里小	瓦	共同使用の水タンクがあった。大きなうち。20～30坪ぐらい。
33	ナバーナカムラグワー	ナバー中村小		商店。酒、雑貨、日用品を売っていた。
34	カマーナカムラグワー	カマー中村小		
35	ハンジャンカナ	ハンジャンカナ		ナカムラグワー（中村小）ともいった。
36	クシナーザトゥグワー	後宮里小		
37	トーヤマグワー	当山小		
38	ソーキチトーヤマグワー	宗吉当山小		井戸があった。ニープガー（柄杓でくめる井戸）で、早魃だと涸れる。
39	イーストーヤマグワー	上ヌ当山小		
40	サンラートーヤマグワー	三良当山小		
41	マチュートーヤマグワー	マチュー当山小		
42	イーヌミドゥルマグワー	上ヌ目取真小		井戸があった。深さ1mぐらいのニープガー（柄杓でくめる井戸）で、早魃だと涸れる。
43	タルーミドゥルマ	タルー目取真		
44	ヘンナグワー	ヘンナ小		
45	チュンナーグワー	チュンナー小		商店。日用品、米などを売っていた。馬車で那覇から品物を仕入れていた。井戸があった。深さは2mぐらい。早魃には涸れる。
46	ウサーミドゥルマ	ウサー目取真		
47	サクマ	佐久間		農業と兼業で山番をしていた。謝苜屋取の組やサーター組には入っていない。
48	アラタ	新田		農業と兼業で山番をしていた。謝苜屋取の組やサーター組には入っていない。
49	サクマ	佐久間		農業と兼業で山番をしていた。謝苜屋取の組やサーター組には入っていない。47、48、49の家のあるあたりは山林の中で、昼でも怖いぐらい、松がしげっていた。

13 崎門屋取

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
1	メーサチジョーグワー	前崎門小 (空家)		空家。夫婦で南洋へ移民した。
2	トゥクンミグワー	徳嶺小	瓦	屋根はセメント瓦だった。
3	トゥクンミ	徳嶺 (空家)		空家。一家は南洋あたりへ移民した。
4	メーナカムラグワー	前仲村小		
5	メーサチジョー	前崎門		
6	ナカサチジョー	中崎門	瓦	屋根はセメント瓦だった。クルマガー (滑車つきの井戸) と水タンクがあった。水タンクはセメント造り。
7	イチンニーグワー	池根小		
8	アガリサチジョー	東崎門		
9	サチジョー	崎門	瓦	赤瓦の屋根だった。水タンクがあった。門中のムートウヤー (本家) は沖縄市にある。元はヒジャシマブクから移ってきたらしい。
10	マンナカサチジョー	真中崎門		サンラースーともいった。
11	イチンニー	池根		道向こうに細長い池があった。
12	ミーヤー	新屋		
13	ウクバル	奥原		ヤマクー (木こり) をしていた。
14	カマラーサチジョー	蒲田崎門		
15	リーグンニーグワー	リーグン根小		水タンクがあった。タンクはセメント造り。
16	ナカガワ	中川		商店。酒、缶詰などを売っていた。戸主は本土出身の人で、崎門屋取出身の人と結婚したため崎門屋取に住んでいた。15: リーグン根小の離れを借りて小さな商店をしていた。
17	リーグンニー	リーグン根	瓦	赤瓦の屋根だった。クルマガー (滑車つきの井戸) があった。普段は農業をしていたが、製糖の時期だけ嘉手納製糖工場に勤めていた。
18	ウサーサチジョー	ウサー崎門 (空家)		空家。ウサーサチジョー (ウサー崎門) の屋敷があった。一家は南洋に移民した。
19	アガリサチジョーグワー	東崎門小 (空家)		空家。アガリサチジョーグワー (東崎門小) の屋敷があった。一家はペルーに移民した。ずっと昔は商店をしていたらしい。
20	サチジョーグワー	崎門小		
21	サンラーサチジョー	三郎崎門	瓦	クルマガー (滑車つきの井戸) があった。屋根はセメント瓦だった。
22	マチャ	店	瓦	戦前では大きいほうの店で、缶詰類・米・酒・味噌・タバコなどを売っていた。屋根はセメント瓦だった。北谷集落出身の人。
23	ミーヤーグワー	新屋小		一家はほとんど南洋に移民して、おばあさんが1人で住んでいた。
24	ミーサチジョー	新崎門	瓦	屋根は赤瓦だった。水タンクがあった。タンクはセメント造り。

14 桃原屋取

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
1	イリカミグワー	西亀谷小	瓦	水タンクがあった。丸い水タンクが3、4つあった。
2	マチューヒャーグングワー	マチュー比屋根小		
3	ウフヒャーグングワー	大比屋根小	瓦	ヤブーヒャーグングワー（ヤブー比屋根小）ともいった。ヤブー（鍼灸師）をしていた。井戸と水タンクを持っていた。井戸の深さは18尋。
4	イリヒャーグングワー	西比屋根小	瓦	水タンクがあった。
5	イリヒャーグングワー	西比屋根小		ミドゥルマヌクシー（目取真ヌ後）ともいった。農業と兼業で竹細工をしていた。
6	ウフミドゥルマ	大目取真		
7	シェークーミドゥルマ	大工目取真		大工の棟梁だった。
8	イシグーフー	石グーフー		
9	ナガドー	長堂		ナガドーイラファ（長堂伊良波）、あるいはメーヌイラファ（前ヌ伊良波）ともいった。
10	ウフヒャーグングワースー	大比屋根小ヌスー		3：大比屋根小のおじさんが住んでいた。商店。駄菓子、酒、豆腐などを売っていた。タバコも売っていたかもしれない。店は昭和初期までしていた。
11	ジルーミドゥルマグワー	次良目取真小		
12	クムイニー	クムイニー		メーマチューヒャーグングワー（前マチュー比屋根小）ともいった。農業と兼業で竹細工をしていた。
13	ユナバルグワー	与那原小		
14	トーヤマ	当山		
15	ミドゥルマグワー	目取真小		メーヌミドゥルマグワー（前ヌ目取真小）ともいった。
16				屋号ははっきりしないが、9：長堂の親戚が住んでいた。ヤマーイラファグワー（ヤマー伊良波小）という屋号だったかもしれない。石工をしていた。
17	メークシントーグワー	前後ン当小	瓦	農業と兼業で竹細工をしていた。水タンクがあった。
18	サンルーイラファグワー	三良伊良波小		
19	メーヌイラファ	前ヌ伊良波		
20	イラファグワー	伊良波小		
21	メーユナバルグワー	前与那原小		
22	メーヒャーグングワー	前比屋根小		
23	ウエユナバル	上与那原		インナー、インナーユナバルグワー（インナー与那原小）ともいった。北玉小学校で教員をしていた。
24	アガリイラファ	東伊良波		井戸があった。深さ10尋。飲料にはあまり使わない井戸だった。北側は段差があり、道から1m 50cmぐらい上がって畑だった。
25	マンナカグワー	真ン中小		集落のほぼ中心だから真ン中小と屋号がついた。
26	カミーグワー	亀谷小		
27	サンルーヒャーグングワー	三良比屋根小		
28	ミドゥルマグワー	目取真小		
29	タルーヒャーグングワー	タルー比屋根小		
30	アガリマチューヒャーグングワー	東マチュー比屋根小		
31	カミーグワースクシー	亀谷小ヌ後		ジラーヒャーグングワー（次良比屋根小）ともいった。
32	クシントー	後ン当		
33	マチューヒャーグングワー	マチュー比屋根小		
34	メーヒャーグングワー	前比屋根小		

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
35	ミーヤグワー	新屋小		マンナカヒヤグングワー（真中比屋根小）ともいった。
36	ヒヤグングワー	比屋根小		
37	クシユナバルグワー	後与那原小		
38		(屋敷跡)		空き地で、畑にしていた。屋敷の跡だけ残っていた。
39		(屋敷跡)		空き地で、畑にしていた。屋敷の跡だけ残っていた。
40	マチューカミグワー	松亀谷小		
41	カミーヒヤグン	カミー比屋根		馬車を持っていた。
42	ウシーカミグワー	ウシー亀谷小		
43	クルク	クルク		夫婦二人で住んでいた。
44	クシカミグワー	後亀谷小		
45	イシジェークーカミグワー	石大工亀谷小		石工。
46	ヒヤグンヌウンメー	比屋根ヌウンメー		おばあさんが一人暮らししていた。

15 伊礼

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
1	チサバ	チサバ	瓦	ナガサヌニー（ナガサヌ根）ともいった。商店。鯉節や雑貨などを売っていた。風呂屋もしていた。ナガサから水を引いて風呂を沸かしていた。また、客馬車で運送業をしていたほか、村競馬に出す乗馬用の馬も飼っていた。
2	メーマシグワー	前升小		
3	メースティーラグワー	前ヌ照屋小		村役場職員をしていた。家族には教員もいた。
4	カナティーラグワー	加那照屋小		商店。専売品（タバコ、塩）、そうめん、鯉節、米を売っていた。他に馬車で運送業と小料理屋もしていた。
5	グヤ	呉屋		帽子クマー（パナマ帽子を編む内職）の作業をする場所になっていた。
6	アガリティーラグワー	東照屋小		戦前の区長の家。石工をしていた。
7	メーマシ	前升	瓦	長男が教員をしていた。
8	ミーヤグワー	新屋小		
9	メースチチンミグワー	前ヌチチンミ小		
10	ヒチャグイグワー	ヒチャグイ小		
11	アダンナグワー	安谷屋小		
12	ウフチチンミ	大チチンミ		
13	タルーチチンミグワー	樽チチンミ小		
14	チチンミ	チチンミ		
15	タンバル	田原		農業と兼業で竹細工をしていた。パーキ（ざる）作りを専門にしていたが、そのほかにもいろいろとつくっていた。
16	イーマグワー	上間小		
17	クシヌティーラグワー	後ヌ照屋小		
18	コーチグワー	幸地小		馬車で運送業のほか、木工品を作っていた。
19	カディカル	嘉手苺		一家のなかに、満鉄職員になった人がいた。
20	タサトゥ	田里		
21	ククバ	国場		大正から昭和初期頃に、人力車を引く仕事をしていた。
22	アシンミ	安次嶺	瓦	商店。専売品（タバコ、塩）、酒などを売っていた。ンマスーブ（馬比べ）に出す乗馬用の馬を飼っていた。
23	アワ	安和		教員をしていた。また、家族には満鉄職員になった人がいた。
24	メースアガリジョー	前ヌ東門		帽子クマー（パナマ帽子を編む内職）の作業をする場所になっていた。
25	カナグシク	金城		サンシンカナグシク（三味線金城）ともいった。三味線造りの職人だった。
26	テーラグワー	平良小		大正から昭和初期にかけて小料理屋をしていた。
27	タサトゥ	田里		豆腐を売っていた。
28	ナーグシク	宮城		砂糖づくりなどにつかう石灰を製造・販売していた。石灰はサンゴを焼いてつくっていた。
29	ウシーアシンミグワー	ウシー安次嶺小	瓦	バシャムチャー（馬車運送業）のほか、小料理屋をしていた。馬車は客馬車だった。
30	チュンナー	喜友名		バシャムチャー（馬車運送業）をしていた。馬車は客馬車。
31	カミーアワグワー	カミー安和小		

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
32	ヤラグワー	屋良小	瓦	
33	クジャー	古謝		
34	タルーアワグワー	樽安和小		
35	トゥナチ	渡名喜		
36	イシジェークーカナグシク	石工金城		石工をしていた。
37	メーヌミーヤーグワー	前ヌ新屋小		
38	ミーヤー	新屋		帽子クマー（パナマ帽子を編む内職）の作業をする場所になっていた。
39	クシヌアガリジョー	後ヌ東門		

16 平安山

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
1	グヤグワー	呉屋小		
2	アワグワー	安和小		
3	アガリイトムラ	東糸村		
4	ナーカイトムラ	中糸村		ナーカチュンナー（中喜友名）ともいった。
5	イリイトムラ	西糸村		
6	メーヌイトゥムラグワー	前ヌ糸村小		
7	ダンパチャー	断髪屋		
8	ナーファイトムラ	那覇糸村		
9	ウードゥグワー	小渡小		
10	タマグスクグワー	玉城小		
11	メーヌウフヤグワー	前ヌ大屋小		
12	タケーシ	高江洲		
13	カナーリンドー	加那林道		
14	ナカジャグワー	名嘉座小		
15	マージャグワー	マージャ小		
16	ナカムトゥ	仲本		
17	ティーラシンシー	照屋先生		
18	イリウフヤグワー	西大屋小		
19	アガリウフヤグワー	東大屋小		
20	ヌンドゥルチグワー	祝女殿内小		
21	イリー	伊礼		
22	ヤマトウシマグワー	大和島小		
23	アガリジョーグワー	東門小		
24	ヌンドゥルチ	祝女殿内		
25	カマーイリーグワー	蒲伊礼小		
26	ナカザ	名嘉座		
27	カーラヤーマテーシグワー	瓦屋又吉小		
28	ウードゥグワー	小渡小		
29	ウードゥグワー	小渡小		
30	サンダーマテーシグワー	三良又吉小		
31	ナーカヌヤー	仲之屋		
32	イリヒジャグワー	西比嘉小		
33	ナーカヌヤグワー	仲之屋小		
34	ウードゥグワー	小渡小		
35	カナーウフヤ	加那大屋		
36	イリウフヤグワー	西大屋小		
37	ウフヤ	大屋		
38	ミチバタウフヤグワー	道端大屋小		
39	ナカンダカリ	仲村渠		
40	クシヌヒジャグワー	後ヌ比嘉小		
41	ヤマガーグワー	山川小		巡査をやっていた。家が駐在所だった。

17 浜川

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
1	ウクマ	奥間		
2	メーヌウナファグワー	前ヌ小那覇小		
3	メーヌヤシチグワー	前ヌ屋敷小		
4	ヒジャグワー	比嘉小		タルーヒジャグワー（樽比嘉小）ともいった。南洋に移民していた。
5	カミーイリーグワー	上伊礼小		
6	マンナカウナファグワー	真中小那覇小		
7	ウナファグワー	小那覇小		村役場職員をしていた。
8	カーラヤー	瓦屋		
9	シチャグイ	下グイ		
10	シチャグイグワー	下グイ小		
11	ナカンダカリグワー	仲村渠小		
12	シマブク	島袋		トゥクーンシーメー（徳シーメー）ともいった。
13	マチヤグワー	店小		商店。雑貨を売っていた。
14	ユージャ	与座		
15	ティーラペーチン	照屋ペーチン		
16	ウンティングワー	運天小		
17	シマブク	島袋		
18	ティーラ	照屋		
19	クシウナファグワー	後小那覇小		
20	クラニー	蔵根		
21	ウィーヌナカンダカリグワー	上ヌ仲村渠小		

18 平安山又上屋取

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
1	ヤクバヌクシ	役場ヌ後		井戸があった。
2	カマダーウンチュー	蒲太ウンチュー		
3	インガー	インガー		理髪店をしていた。砂辺から移住。
4	テラグワー	テラ小		
5	ニーファグワー	禰覇小		
6	ヒラグワーニー	坂小根		井戸があった。
7	アシンミグワー	アシンミ小		
8	シェークーウンチュー	大工ウンチュー		
9	ンジュグワー	伊集小		
10	アルミ	有銘		アルミヌイサヌヤー（有銘ヌ医者ヌ屋）ともいった。個人経営の診療所。共同井戸があった。
11	ナカバルグワー	名嘉原小		野里から移住。
12	カニクグワー	カニク小		国直から移住。
13	タケーシ	タケーシ		
14	ニーケーシマブク	ニーケー島袋		商店。酒、米、そうめん、昆布、メリケン粉、下駄、反物などを売っていた。那覇から移住。
15	チシャバグワー	喜舎場小		
16	アガリアラグシク	東新城		井戸があった。
17	カミーアラグシクグワー	亀新城小		
18	ウガンニー	御願根		井戸があった。平安山又上屋取のムートゥヤー（本家）。
19	サカヤ	酒屋		サカヤアラグシク（酒屋新城）ともいった。商店。
20	スバヤーウンティングワー	蕎麦屋運天小		ソバ屋をしていた。
21	ンナンミ	稲嶺		
22	カナグシク	金城		商店。専売品（タバコ）、雑貨、コンブ、かつお節、そうめんなどを売っていた。
23	アラグシク	新城		
24	イジャシチャ	イジャシチャ		
25	ヒータイスー	兵隊主		
26	ニーファ	禰覇		井戸があった。
27	ミーヤー	新屋	瓦	ミーヤージツチャクグワー（ミーヤー勢理客小）ともいうが、これは他の集落の人が呼ぶときの屋号で、平安山又上屋取の人にはミーヤーで通じた。
28	イリヌジツチャクグワー	西ヌ勢理客小		井戸があった。
29	ニーファグワーヌイリ	禰覇小ヌ西		井戸があった。
30	ニーケーグワー	ニーケー小		
31	サーターニー	砂糖根		
32	グジーバークグワー	グジーバー小		
33	カミーサーターニーグワー	亀砂糖根小		
34	ミーヤーヌカミーバーバー	ミーヤーヌカミーバーバー		
35	ニーファグワーヌイリヌジナン	禰覇小ヌ西ヌ次男		井戸があった。
36	ナカドゥマイグワー	仲泊小		
37	シンバルチバナグワー	シンバル知花小		嘉手納町千原屋取から移住。
38	タルーサーターニーグワー	樽砂糖根小		井戸があった。
39	サンドゥウンチュー	サンドゥウンチュー		イリヌジツチャクイリ（西ヌ勢理客西）ともいった。井戸があった。

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
40	イリヌジツチャク	西ヌ勢理客		井戸があった。
41	ンジュヌマチヤ	伊集ヌ店		商店。酒、米、メリケン粉、食物などを売っていた。
42	マチシマ	松島		井戸があった。
43	カーヌハタジナン	川ヌ端次男		井戸があった。
44	カーヌハタ	川ヌ端		
45	タルージツチャク	樽勢理客		
46	カミシマグワー	亀島小		
47	サーターニーグワー	砂糖根小		
48	トゥンドーシマブク	通堂島袋		ソバ屋をしていた。
49	サンドウージツチャク	三郎勢理客		
50	カミーチバナグワー	亀知花小		
51	クシヌタルージツチャク	後ヌ樽勢理客		
52	クルマーチバナグワー	車知花小		那覇、首里で人力車を引く仕事をしていた。
53	カマーチバナグワー	蒲知花小		屋根はアミダイガラ（軒先が瓦葺き）だった。
54	チバナ	知花		
55	ウィーマジーグワー	上間地小		
56	シンジャトウ	新里		
57	チョータローウンチュー	長太郎ウンチュー		
58	クシヌジツチャクグワー	後ヌ勢理客小		ウンティンジツチャクグワー（運天勢理客小）と呼んでいたが、20: 蕎麦屋運天小が入ってきたあと、クシヌジツチャクグワー（後ヌ勢理客小）と呼ぶようになったと思う。
59	ユージ	与儀		
60	イチバルグワー	池原小		
61	ウシーアラグシク	牛新城		

19 喜友名小屋取

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
1	メーイトゥムラ	前糸村		メーヌイトゥムラ（前ヌ糸村）ともいった。
2	カナーイトゥムラ	加那糸村		
3	アガリイトゥムラグワー	東糸村小		
4	ウフイトゥムラ	大糸村		ウフヤーイトゥムラ（大屋糸村）ともいった。
5	ジラーアシンミグワー	次良安次嶺小		
6	コーフーアシンミグワー	工夫安次嶺小		戸主がケンドーコーフ（県道工夫、県道の保守・管理作業者）をしていた。崎門屋取から比謝橋までを担当していたらしい。
7	シターアシンミグワー	思太安次嶺小		空家。日本本土への出稼ぎか、海外への移民で空家になっていたかもしれない。
8	ジルーアシンミ	次良安次嶺		
9	ナカドゥマイグワー	仲泊小		
10	サンルーアシンミ	三良安次嶺	瓦	
11	メーヌアシンミグワー	前ヌ安次嶺小		アシンミグワー（安次嶺小）ともいった。
12	カジマヤーアシンミグワー	カジマヤー安次嶺小		
13	ウシーワカサマチ	牛若狭町		東組の35: クブヌ若狭町からの分家だが、妻の縁戚関係から西組に入っていた。
14	ミチバタイシチャグワー	道端石川小		ウフミチバタ（大道端）ともいった。
15	マチューテラグワー	松平良小		東組の44: 大平良小からの分家だが、妻の縁戚関係から西組に入っていた。
16	ントゥーハマガージーグワー	武戸浜川地小		
17	ヤマーハマガージー	山浜川地		
18	カナークジャ	加那古謝		
19	カミーワカサマチ	亀若狭町		イリヌカミーワカサマチ（西ヌ亀若狭町）ともいった。
20	ナーカワカサマチグワー	中若狭町小		ボージャーワカサマチグワー（ボージャー若狭町小）ともいった。ボージャーという呼び名は、廃藩置県のあと、集落ではじめて断髪した人がこの一家にいたため。
21	ンートゥーワカサマチグワー	武戸若狭町小		
22	ウサーハマガージー	ウサー浜川地		
23	ミーヤーワカサマチグワー	新屋若狭町小		
24	ハマガージー	浜川地		ウフハマガージー（大浜川地）ともいった。もとはハマガー（浜川）集落の人の土地だったため、屋号にハマガージーとついた。
25	カミーワカサマチ	亀若狭町		カルヌワカサマチ（角ヌ若狭町）ともいった。
26	カマルーワカサマチ	カマルー若狭町		
27	ニオーワカサマチ	仁王若狭町		
28	ニオーワカサマチヌメー	仁王若狭町ヌ前		
29	カミーヒジャグワー	亀比嘉小		パーキーヒジャグワー（パーキー比謝小）ともいった。パーキ（ざる）を主とする竹細工をしていた。作ったパーキはよその集落まで売りに行ったり、那覇などにも卸したりもしていた。
30	タンメーヒジャグワー	タンメー比嘉小		
31	タルーヒジャグワー	樽比嘉小		
32	カミーアシンミグワー	亀安次嶺小		
33	アガリカミーワカサマチ	東亀若狭町		
34	カマーワカサマチ	カマー若狭町		

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
35	クブヌワカサマチ	クブヌ若狭町		屋敷のあるあたりが窪地だった。この地域は井戸が深いので、井戸を掘りやすい窪地に家を建てた。
36	マーチヌミークジャ	松ヌミーク古謝 (空家)		空家。松林の中にあった。18:加那古謝と親戚。お年寄りの女性が1人で住んでいて、戦前すでに亡くなっていた。
37	ワカサマチ	若狭町		
38	ウシーアシンミ	牛安次嶺	瓦	
39	ントゥーテラグワー	武戸平良小		
40	メーヌワカサマチグワー	前ヌ若狭町小		
41	カマラーテラグワー	カマラー平良小		
42	サンルーテラグワー	三良平良小		
43	トーニシ	トーニシ		トーニシワカサマチグワー (トーニシ若狭町小) ともいった。
44	ウフテラグワー	大平良小		
45	イシチャーグワー	石川小		イシチャー (石川) ともいった。
46	カニーテラ	カニー平良		
47	クワシチャグワー	小橋川小		
48	カナグシクグワー	金城小		ホートゥータンメーともいった。

20 砂辺又前屋取

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
1	マカルトウキシグワー	真苺渡慶次小		砂辺又前屋取に2軒あった漁師の家のひとつ。井戸があった。
2	カミートウキシ	亀渡慶次		
3	ヤマートウキシグワー	山渡慶次小		砂辺又前屋取に2軒あった漁師の家のひとつ。井戸があった。
4	タルトウキシグワー	樽渡慶次小		井戸があった。
5	カマドウーチシャバグワー	蒲戸喜舎場小		井戸があった。
6	カミーチシャバ	亀喜舎場	瓦	屋根は一部が瓦葺き。井戸があった。
7	シマブクグワー	島袋小		井戸があった。
8	メーデーラ	真栄平		
9	ウフヤートウキシグワー	大屋渡慶次小	瓦	トウキシグワー（渡慶次小）ともいった。井戸があった。馬車を持っていた。
10	ウフヤーカリカルグワー	大屋嘉手苺小	瓦	カリカルグワー（嘉手苺小）ともいった。井戸があった。
11	タケーシグワー	高江洲小		
12	ムトゥブカリカル	本部嘉手苺		
13	アラカチ	新垣		
14	カーニー	川根	瓦	シマブクグワー（島袋小）ともいった。井戸があった。馬車を持っていた。
15	ウフカーニーグワー	大川根小		
16	イファグワー	伊波小		
17	シナビグワー	砂辺小		
18	ナーカカリカルグワー	中嘉手苺小		イーヌカリカルグワー（上又嘉手苺小）ともいった。井戸があった。
19	ンーターチシャバグワー	武太喜舎場小		井戸があった。
20	サンラーカリカル	三良嘉手苺		井戸があった。
21	ナカドゥマイ	仲泊	瓦	屋根はセメント瓦だった。
22	イリー	伊礼		
23	ミーヤーカディカルグワー	新屋嘉手苺小		
24	チャングワー	喜屋武小		ミーヤーチャングワー（新屋喜屋武小）ともいう。馬車を持っていた。
25	スクンミ	祝嶺		
26	ウフヤーアラグシク	大屋新城		
27	クシヌアラグシク	後又新城		井戸があった。
28	ウフヤーチャングワー	大屋喜屋武小		馬車を持っていた。
29	チャン	喜屋武		井戸があった。

21 砂辺

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
1	マカルーイリーグワー	真苺伊礼小		
2	ミーガー	ミーガー		
3	メンダカリ	前村渠		
4	メーククバグワー	前国場小		
5	ガジマルシチャ	ガジマル下		商店。酒、そうめん、かつお節、鮎玉、メリケン粉、石油などの日用品を売っていた。
6	チチンミグワー	月見小	瓦	商店をしていた。
7	カミーティーラ	亀照屋		
8	ウカーニーグワー	大川根小		
9	メーユージグワー	前与儀小		
10	メーイリーグワー	前伊礼小		
11	カンジャー	カンジャー		
12	ンマニーグワー	ンマニー小		
13	メーヌミーガーグワー	前ヌミーガー小		
14	メーヌティーラグワー	前ヌ照屋小		
15	メーユージ	前与儀		
16	チカジャンヤグワー	津嘉山屋小		
17	メンティーラ	前照屋	瓦	
18	ウシーマチダグワー	牛松田小		
19	ウサーチカジャングワー	ウサー津嘉山小		
20	メーヌチカジャン	前ヌ津嘉山		
21	メーヌイリー	前ヌ伊礼		
22	ウフティーラグワー	大照屋小	瓦	
23	チョンナーグワー	チョンナー小		下勢頭から移住。前名嘉小の屋敷に入った。
24	カミジャーチニングワー	カミジャー知念小		
25	ウフカーヌウィー	大川ヌ上		
26	カーグワーニー	川小根		
27	サーターニーヌティーラグワー	サーターニーヌ照屋小		
28	ミーイリーグワー	新伊礼小		サーターニー (砂糖根)、あるいはサーターニーヌカマルー (砂糖根ヌカマルー) ともいった。
29	ミーティーラ	新照屋		
30	ユナシチャグワーヌジナン	与那下小ヌ次男		戸主の名前をとってシンポー (真保)、あるいはシンポーユナシチャグワー (真保与那下小) ともいった。
31	チンチクドゥングワー	知念築殿小		
32	ヒジャ	比嘉		
33	アガリティーラグワー	東照屋小		
34	メーリンドー	前林堂		
35	クシヌウフカーニー	後ヌ大川根		
36	ミーヤーイリー	新屋伊礼	瓦	
37	マチダグワーイリー	松田小伊礼		
38	ユナシチャグワー	与那下小		
39	グンナングワー	グンナン小		
40	イリメーグワー	伊礼前小		
41	クラムトゥ	蔵元		
42	ミーヤー	新屋	瓦	

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
43	チカジャングワー	津嘉山小		
44	ヌクイリー	ヌク伊礼	瓦	
45	マンナカイリー	真中伊礼	瓦	
46	ユナシチャ	与那下		馬を持っていた。
47	チカジャンリンドー	津嘉山林堂		
48	ウフティーラ	大照屋		
49	アガリジョー	東門		
50	アガリー	アガリー		
51	ニードウクル	根所		
52	マチダ	松田		
53	クシイリー	後伊礼		クシリーともいった。
54	ニオーンマー	仁王ンマー		
55	ナーカグワー	名嘉小		
56	クシヌチカジャン	後ヌ津嘉山		
57	ウィーヌイリー	上ヌ伊礼		
58	カミジューククバグワー	亀寿国場小		
59	テーラン	テーラン		
60	ウィーヌインガー	上ヌ犬川		商店をしていた。
61	リンドー	林堂		
62	カーバタ	川端		
63	ウチインガーグワー	内犬川小	瓦	カーラヤーインガーグワー (瓦屋犬川小) ともいった。
64	メースチャングワー	前ヌ喜屋武小		
65	ハーマヌハタ	浜ヌ端		
66	ゲンジロー	源次郎		
67	ニシマチダ	西松田		
68	メーククバジナン	前国場二男		グーニーククバ (グーニー国場)、あるいはグーニーアッピーグワーともいった。
69	チャン	喜屋武		
70	シナビグワー	砂辺小		
71	ミーガーグワー	ミーガー小		馬を持っていた。
72	グンナン	グンナン		
73	ウィーヌチャングワー	上ヌ喜屋武小		
74	リンドーグワー	林堂小		商店をしていた。
75	ニシイリーグワー	西伊礼小		商店。酒屋。酒だけ売っていた。
76	ミードウンチグワー	新殿内小		
77	ウサーンチューター	ウサーンチューター		
78	コーフーインガーグワー	工夫犬川小		テツドーコーフ (鉄道工夫。鉄道の保守・管理をする職) をしていた。
79	ウィーヌインガーグワー	上ヌ犬川小		
80	ニシナーカグワー	西名嘉小		
81	ニシシナビグワー	西砂辺小		
82	カミーイリー	亀伊礼		
83	ヤマーククバグワー	山国場小		
84	ニシイリー	西伊礼		
85	ニシマチダグワー	西松田小		
86	カマルーイリーグワー	カマルー伊礼小		
87	カミーイリーグワー	亀伊礼小		

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
88	カナーリンドー	加那林堂		
89	カマーインガーグワー	蒲犬川小		
90	カミーマチダグワー	亀松田小		
91	フェーチインガー	フェーチ犬川		
92	イチヌハタ	池ヌ端		
93	ハナグスクグワー	花城小		
94	ククバグワー	国場小		
95	ユージグワー	与儀小		
96	ウシーニシイリーグワー	牛西伊礼小		
97	カマダーリンドーグワー	カマダー林堂小		
98	ウサーインガーグワー	ウサー犬川小		
99	カマーチニングワー	蒲知念小		
100	マーチューグワーニー	松小根		
101	ヤマーシナビグワー	山砂辺小	瓦	
102	カマデーミーガーグワー	カマデー新川小		
103	ミードウンチ	新殿内		
104	マサーインガーグワー	マサー犬川小		
105	グシチャーヤー	グシチャーヤー		

22 上勢頭屋取

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
1	グシチングワー	具志堅小		
2	ウィーヌヤラ	上ヌ屋良		
3	ヤラグワー	屋良小		
4	アガリンナンミグワー	東稲嶺小		
5	クミジマテーラグワー	久米島平良小		
6	ヤマチバルグワー	山内原小		
7	ウフモーターラグワーサンナン	大毛平良小三男		
8	ントゥーナグシクグワー	武戸高宮城小		
9	ウフモーターラグワージナン	大毛平良小次男		
10	ミーヤー	新屋		
11	アガリミーヤーグワー	東新屋小		
12	カミーミーヤー	亀新屋		
13	ミーヤーグワージナン	新屋小次男		
14	ヤマーンナンミチョーナン	山稲嶺長男		
15	シチャヌヤラ	下ヌ屋良		
16	クワシチャ	小橋川		
17	アガリンナンミジナン	東り稲嶺次男		
18	ヤマーンナンミ	山稲嶺		
19	アガリンナンミ	東稲嶺		
20	ジルーンナンミ	次留稲嶺		
21	サンドウチュンナーグワー	三戸喜友名小		
22	ウフユナファグワージナン	大与那覇小二男		ウフユナファグワー（大与那覇小）ともいった。
23	ヌムラグワー	野村小		
24	カマダーミーヤーグワー	蒲戸新屋小		
25	ヤマーミーヤー	山新屋		
26	カーグワーンニージナン	井小根次男		
27	カーグワーンニー	井小根		
28	シラギーユナファグワージナン	シラギー与那覇小次男		
29	シラギーユナファグワー	シラギー与那覇小		
30	コーミージャハナジグワー	コーミー謝花地小		
31	トゥナチグワー	渡名喜小		
32	ジャハナジグワー	謝花地小		
33	アガリンナンミグワーサンナン	東稲嶺小三男		
34	ントウーチュンナー	武戸喜友名		
35	ントウーチュンナー	武戸喜友名		
36	アガリバルマチーチュンナーグワー	東原松喜友名小		
37	カマーチュンナーグワー	蒲喜友名小		
38	カミーカッチン	亀勝連		
39	カマダーカッチン	カマダー勝連		
40	カナーカッチン	カナー勝連		
41	ウフカッチン	大勝連		
42	ジルーカッチン	次郎勝連		
43	イマジグワー	上間地小		
44	ハギヌユナファグワーサンナン	ハギヌ与那覇小三男		

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
45	タルーチュンナー	樽喜友名		
46	ハギヌユナファグワージナン	ハギヌ与那覇小次男		
47	タードーシ	タードーシ		
48	ハギヌユナファグワー	ハギヌ与那覇小		
49	カマデーチュンナーグワー	カマデー喜友名小		
50	カーグワーヌハタ	井小ヌ端		
51	ヤマヌナンミグワー	山ヌ稲嶺小		
52	ンナンミグワーヌイリ	稲嶺小ヌ西		
53	ヤマヌチュンナーグワー	山ヌ喜友名小		
54	クミシ	米須		
55	ントゥーンナンミグワー	武戸稲嶺小		
56	ヤマチグワー	山内小		
57	ジープ	宜保		
58	クミシグワー	米須小		
59	シードウナカマ	勢頭仲間		ナカマ(仲間)ともいった。
60	テラマーチュー	平良松		
61	アカマユージャハナジグワー	アカマユー謝花地小		ウシモーヌアガリ(牛毛ヌ東)ともいった。
62	ジャハナジグワー	謝花地小		
63	ウフジャハナジー	大謝花地		
64	フィラスウィー	坂ヌ上		
65	ハワイチーチュンナー	ハワイチー喜友名		
66	ハシグワーヌハタ	橋小ヌ端		
67	ユンヌーチュンナー	ユンヌー喜友名		
68	カニーチュンナー	金喜友名		
69	マチーチュンナーグワー	松喜友名小		
70	ヤマーチュンナー	山喜友名		
71	カミーチュンナーグワー	亀喜友名小		
72	マンナカチュンナー	真中喜友名		
73	サンドゥーカッチン	三郎勝連		
74	ヤマチ	山内		
75	ユチャルーカッチン	ユチャルー勝連		
76	ジープグワー	宜保小		
77	ナカマグワー	仲間小		
78	ヤマチジナン	山内次男		
79	ヤマーカッチン	山勝連		
80	ヤマヌカニーナーグシク	山ヌ金高宮城		
81	マチダグワー	町田小		
82	アガリグワー	東小		
83	トゥルクンニーユナン	トゥルクン根四男		
84	ウシージッチャクグワー	牛勢理客小		
85	ジージャケー	地境		
86	カミーカッチングワー	亀勝連小		
87	アガリバルタクシ	東原沢岬		
88	ウフユナファユナン	大与那覇四男		
89	タルージッチャク	樽勢理客		
90	カマージッチャク	蒲勢理客		
91	タルーマチシ	樽牧志		

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
92	ウシーマチシグワー	牛牧志小		
93	ヤマージッチャク	山勢理客		
94	ンナンミジグワー	稲嶺地小		
95	マカビグワー	真壁小		
96	ウフマチシグワー	大牧志小		
97	ヒータイマチシ	兵隊牧志		
98	ンナンミジー	稲嶺地		
99	アサギグワー	アサギ小		
100	ウシーユナファ	牛与那覇		
101	ユナファ	与那覇		グーフともいった。
102	サンダーユナファグワー	三良与那覇小		
103	カミーユナファ	亀与那覇		
104	タルーユナファ	樽与那覇		
105	サンドウユナファ	三郎与那覇		
106	ヒータイユナファ	兵隊与那覇		
107	ウフユナファ	大与那覇		
108	ウシージッチャク	牛勢理客		
109	タルーマチシグワー	樽牧志小		
110	ウフユナファサンナン	大与那覇三男		
111	ウフジッチャクグワー	大勢理客小		
112	ナーカジッチャクグワー	中勢理客小		
113	ウフユナファジナン	大与那覇次男		
114	ジナントゥルクンニー	次男トゥルクン根		
115	トゥルクンニー	トゥルクン根		
116	シマブクヌアガリサンナン	島袋東三男		
117	シマブクヌアガリー	島袋東		
118	シマブクグワー	島袋小		
119	シマブクヌアガリーユナン	島袋東四男		
120	シマブク	島袋		
121	クバガーグワー	久場川小		
122	アガリジキラン	東瑞慶覧		
123	トゥマイナーグシクグワー	泊高宮城小		
124	タクシグワー	沢岷小		
125	カーラヤー	瓦屋		
126	イリジキラン	西瑞慶覧		
127	ジキランヌメー	瑞慶覧ヌ前		
128	カミータクシグワー	亀沢岷小		
129	マチーナーグシクグワー	松高宮城小		角小（カドゥグワー）ともいった。
130	サンドウユナファグワー	三郎与那覇小		
131	クムイニーグワー	池根小		
132	カミージャファナジー	亀謝花地		
133	カニーナーグシク	金高宮城		
134	カジマヤーニー	十字路根		
135	スンガーチュンナー	寒川喜友名		
136	カミージャファナジージュナン	亀謝花地次男		
137	ジムショヌメーナーグシク	事務所ヌ前高宮城		
138	ヌチャナーグシク	貫木屋高宮城		ヌチャ（貫木屋）ともいった。

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
139	マチシマ	松島		
140	カミーナーグシク	亀高宮城		
141	クムイニー	池根		クムイニーナーグシク（池根高宮城）ともいった。
142	カマドゥナーグシク	蒲戸高宮城		
143	ジルーナーグシク	次郎高宮城		
144	クシクムイニーグワー	後池根小		
145	カーヌウィー	井ヌ上		
146	マカルチュンナー	真茹喜友名		
147	ジャファナジグワー	謝花地小		
148	タルヌグニ	樽野国		
149	ハジシクバガーグワー	ハジシク場川小		
150	マチークバガー	松久場川		
151	ウフクバガーグワー	大久場川小		
152	クバガー	久場川		
153	カミークバガー	亀久場川		
154	ウフクバガー	大久場川		
155	ミチヌシチャ	道ヌ下		
156	サンドウークバガー	三戸久場川		
157	チュンナーヌイリ	喜友名ヌ西		
158	ウフチュンナー	大喜友名		
159	チュンナーヌクシ	喜友名ヌ後		
160	ウフタナカグワー	大田仲小		
161	ジルータナカ	次郎田仲		
162	カマドゥチュンナー	蒲戸喜友名		
163	スイチュンナーミーヤー	首里喜友名新屋		スイチュンナーグナン（首里喜友名五男）ともいった。
164	スイチュンナーヌイリ	首里喜友名ヌ西		
165	スイチュンナー	首里喜友名		
166	クムイニー	池根		
167	クムイヌニーグワー	池根小		
168	クムイヌウィー	池ヌ上		
169	ウフタナカ	大田仲		
170	ントウータナカ	武戸田仲		
171	ジルーチュンナー	次郎喜友名		
172	サンドウーチュンナー	三戸喜友名		
173	マチーチュンナー	松喜友名		
174	クシチュンナーグワー	後喜友名小		
175	ントウーチュンナー	武戸喜友名		
176	ナケーマ	仲栄真		
177	ジルーヌグングワー	次郎野国小		ウフヌグニ（大野国）ともいった。
178	ジルージキラン	次郎瑞慶覧		
179	カジマヤーンニータナカグワー	十字路根田仲小		
180	コーチョージキラン	校長瑞慶覧		
181	フェーヌナンミ	南ヌ稻嶺		
182	シードウンナンミ	勢頭稲嶺		
183	クシバルークバガーグワー	後原久場川小		
184	ヒラグワンニー	坂小根		
185	ウシージキラン	牛瑞慶覧		

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
186	イリマチシグワー	西牧志小		
187	カミージキラン	亀瑞慶覧		
188	ジャーファグワー	我那覇小		
189	ヌグニグワー	野国小		
190	カマデータナカ	カマデー田仲		
191	ジャーファ	我那覇		
192	ナググワージナン	名護小次男		
193	ミーヤーナググワー	新屋名護小		ナググワー（名護小）ともいった。
194	ジキラングワー	瑞慶覧小		
195	ナググワーチョーナン	名護小長男		ミーヤーナググワー（ミーヤー名護小）ともいった。
196	ナグンナンミ	名護稲嶺		
197	マチシ	牧志		
198	カンジャーグシクマ	鍛冶屋城間		
199	マチューフクジグワー	松福地小		
200	アファグン	阿波根		
201	ヤマージキラン	山瑞慶覧		
202	ユナファグワー	与那覇小		
203	マチーチャン	松喜屋武		
204	ヤガグワー	屋我小		
205	カミーフクジグワー	亀福地小		
206	サンラーフクジグワー	三良福地小		
207	ヤジマテーシグワー	屋宜又吉小		
208	カンジャーグシクマグワー	鍛冶屋城間小		
209	イサグワー	伊佐小		
210	カンジャーウフンミグワー	鍛冶屋大嶺小		
211	カマーフクジグワー	蒲福地小		
212	ナーカフクジグワー	中福地小		
213	チャン	喜屋武		
214	ウフフクジ	大福地		
215	ウフヤー	大屋		
216	クシヌチャングワー	後ヌ喜屋武小		
217	ウフンミ	大嶺		
218	イリマテーシグワー	西又吉小		
219	アガリマテーシグワー	東又吉小		
220	カディカル	嘉手苺		仲原屋取から移住。戦後、仲原に戻った。

23 下勢頭屋取

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
1	サチヤマグワー	サチヤマ小		井戸があった。深さは7尋 (10, 5 m)。
2	マチーイーザトゥグワー	松上里小		
3	スイテーラグワー	首里平良小		カマーバーチーともいった。パナマ帽子編みの内職をする人が集って作業していた。
4	カミーイーザトゥグワー	亀上里小		
5	カミーサクガー	亀佐久川		
6	カミーヤンバルチュンナーグワー	亀山原喜友名小		井戸があった。深さは9尋 (13, 5 m)。
7	マチーヤンバルチュンナーグワー	松山原喜友名小		
8	イリヌテーラ	西ヌ平良		
9	テーラ	平良		
10	ウフテーラ	大平良		井戸があった。深さは約6尋 (9 m)。
11	スイテーラグワー	首里平良小		
12	シタージンカ	思太源河		
13	アカミチハナグシク	赤道花城		井戸があった。深さは13尋 (19, 5 m)。
14	タルージンカ	樽源河		井戸があった。深さは13尋 (19, 5 m)。
15	シタージンカ	思太源河		井戸と水タンクがあった。井戸は深さは13尋 (19, 5 m)。
16	カマージンカ	蒲源河		井戸があった。深さは13尋 (19, 5 m)。
17	イリアシンミグワー	西安次嶺小		井戸があった。深さは7尋 (10, 5 m)。
18	アガリアシンミグワー	東安次嶺小		井戸があった。深さは7尋 (10, 5 m)。
19	ンターアシンミグワー	武太安次嶺小		
20	メーヌハルアシンミグワー	前ヌ原安次嶺小		
21	チルーバー	チルーバー		アシンミ (安次嶺) ともいった。
22	マチーアシンミグワー	松安次嶺小		
23	メーヌハルーテーラ	前ヌ原平良		井戸があった。深さは15尋 (22, 5 m)。
24	ウシーバー	ウシーバー		アシンミ (安次嶺) ともいった。
25	シターハナグシク	思太花城		
26	サンドウチファグワー	三良津覇小		
27	トゥクータンメー	徳タンメー		
28	シチャバルタケーシグワー	下原高江洲小		
29	シチャバルタケーシグワー	下原高江洲小		
30	カニージンカグワー	金源河小		
31	サンドウジンカグワー	三良源河小		
32	フランスタケーシグワー	フランス高江洲小		戸主が若いときにフランス領ニューカレドニアに移民に出ているため、屋号にフランスとつけられるようになった。井戸があった。深さは12尋 (18 m)。
33	アカミチサンドウテーラグワー	赤道三良平良小		水タンクがあった。
34	シーグワーニー	岩小根		
35	ヤマーハナグシクグワー	山花城小		チチヌーリともいった。パナマ帽子編みの内職をする人が集って作業していた。
36	ナーカチファグワー	中津覇小		井戸があった。深さは12尋 (18 m)。
37	シーグワーニー	岩小根		
38	ウシーチファ	牛津覇		
39	メーサクムトゥグワー	前佐久本小		水タンクがあった。

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
40	ナーカサクムトゥグワー	中佐久本小		
41	クシサクムトゥグワー	後佐久本小		
42	アカミチチュンナー	赤道喜友名		商店。酒などを売っていた。井戸があった。深さは13尋(19.5m)。
43	ナグジンカ	名護源河		水タンクがあった。
44	ハシヌハタジンカグワー	橋ヌ端源河小		
45	ンートークミシグワー	武戸米須小		
46	カミーチュンナーグワー	亀喜友名小		
47	ヤマーチュンナーグワー	山喜友名小		パナマ帽子編みの内職をする人が集って作業していた。
48	ンートージンカ	武戸源河		井戸があった。深さは13尋(19.5m)。
49	サンラージンカ	三良源河		井戸があった。深さは13尋(19.5m)。
50	カマダージンカグワー	蒲太源河小		
51	ウフジンカ	大源河		井戸があった。深さは13尋(19.5m)。
52	シチャヌタルーハナグシク	下ヌ樽花城		井戸があった。深さは13尋(19.5m)。
53	シチャヌカミーハナグシク	下ヌ亀花城		井戸があった。深さは16尋(24m)。
54	ミーチリハナグシク	目切花城		井戸があった。深さは16尋(24m)。
55	シチャバルタケーシ	下原高江洲		水タンクがあった。
56	チサバグワー	喜舎場小		戸主が中城村(現北中城村)喜舎場の出身だったため、屋号にチサバとつけた。
57	ウクバルヌシチャハナグシク	奥原ヌ下花城		
58	クムイヌハタイリー	池端西		
59	クムイヌハタ	池端		水タンクがあった。
60	フナクシ	富名腰		
61	ジキラングワー	瑞慶覧小		
62	シェークーチュンナー	細工喜友名		
63	クミシグワー	米須小		
64	クミシ	米須		
65	ミーヤーサクガー	新屋佐久川		水タンクがあった。
66	シェークーチュンナー	細工喜友名		井戸があった。深さは17尋(25.5m)。
67	ウチサクガーグワー	内佐久川小		
68	シチャバルサクガーグワー	下原佐久川小		
69	サクガー	佐久川		下原佐久川小(シチャバルサクガーグワー)ともいったかもしれない。
70	ウファカニーグワー	御墓根小		
71	ウファカニー	御墓根		
72	シチャバルヤマーチュンナーグワー	下原山喜友名小		
73	マカルーテーラグワー	眞苺平良小		
74	マカルーテーラ	眞苺平良		
75	ンートーチュンナー	武戸喜友名		井戸と水タンクがあった。井戸は深さ21尋(31.5m)。
76	イリサクガーグワー	西佐久川小		
77	ヤマグシクグワー	山城小		
78	ヤマグシク	山城		
79	ウグワングワーニー	御願小根		
80	サンドウーテーラグワー	三良平良小		井戸があった。深さは25尋(37.5m)。
81	ウクバルグワー	奥原小		
82	ウクバル	奥原		井戸があった。深さは16尋(24m)。

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
83	ニシヌチユナー	北ヌ喜友名		
84	ヤマースクガー	山佐久川		
85	クムイニグワー	池根小		
86	クムイニー	池根		
87	サンドウテラ	三良平良		
88	クシサクガーグワー	後佐久川小		パナマ帽子編みの内職をする人が集って作業していた。
89	クシサクガー	後佐久川		
90	イチバル	池原		井戸があった。深さは20尋(30m)。
91	ウフサクガー	大佐久川		井戸があった。深さは20尋(30m)。
92	タケーシ	高江洲		井戸があった。深さは18尋(27m)。
93	サンドウテラグワー	三良平良小		
94	ウフヤーハナグシク	大屋花城		井戸があった。深さは17尋(25, 5m)。
95	ミーハナグシク	新花城		井戸があった。
96	シチャヌハナグシク	下ヌ花城		井戸があった。深さは12尋(18m)。
97	スズキ	鈴木		商店。雑貨、酒を売っていた。水タンクがあった。
98	ヘーチチャハナグシク	灰土花城		メーハギハナグシク(メーハギ花城)ともいった。井戸があった。深さは16尋(24m)。
99	カナーチファ	加那津覇		
100	メーヌテラグワー	前ヌ平良小		
101	アガリハナグシク	東花城		水タンクがあった。
102	アガリハナグシク	東花城		井戸と水タンクがあった。井戸の深さは18尋(27m)。
103	ウフミチバタハナグシク	大道端花城		井戸があった。深さは16尋(24m)。
104	サンドウテラグワー	三郎平良小		
105	スイハナグシク	首里花城		
106	ミーテラ	新平良		
107	ハナグシク	花城		
108	イーヌチファグワー	上ヌ津覇小		
109	イーヌハナグシク	上ヌ花城		井戸があった。
110	イーヌマチャーハナグシク	上ヌ松花城		
111	イーヌカミーハナグシク	上ヌ亀花城		
112	アガリー	東リー		
113	ムトゥイーヌカマーハナグシク	元上ヌ蒲花城		
114	クシハナグシク	後花城		
115	サンラーハナグシク	三良花城		井戸があった。深さは20尋(30m)。
116	イーヌタルーハナグシク	上ヌ樽花城		
117	ミーテラ	新平良		
118	カニータンメー	金タンメー		
119	ムルンザトゥ	諸見里		
120	アガリントーチユナー	東武戸喜友名		
121	カミームルンザトゥグワー	亀諸見里小		
122	ムルンザトゥグワー	諸見里小		
123	カナータケーシグワー	加那高江洲小		
124	ヒラグワーシチャユナーグワー	坂小下喜友名小		
125	チルーバー	チルーバー		アシンミ(安次嶺)ともいった。
126	ナーカチユナーグワー	中喜友名小		
127	クバマグワー	小浜小		

番号	方言表記	漢字表記	屋根	備考
128	ニシバルチュンナーグワー	北原喜友名小		
129	ウシーヤガ	牛屋我		
130	メーヤガ	前屋我		
131	ウシーヤガ	牛屋我		
132	ウシーヤガ	牛屋我		ヘイショー（平松）ともいった。
133	タルーヤガ	樽屋我		
134	マチーヤガ	松屋我		
135	ウフヤガ	大屋我		

サターグミ（砂糖組）

サトウキビの生産と製糖は、戦前の北谷町域住民の生活の中心にあった。各集落には必ず一つ以上のサターヤー（製糖作業を行なう小屋と広場）があった。年中行事のなかでもいちばん楽しみにされたニングワチャーは、製糖作業の終わり頃に行なわれる行事で、クスッキー、クシユクイなどの別名でもわかるとおり、年間を通したサトウキビ生産を終えたあとの慰労の宴でもあった。

そのサトウキビ生産のなかでも、製糖作業は人手のかかる大変な作業だった。サターグマという大がかりな装置を使って大量のサトウキビを絞り、その絞り汁をサターヤーの大鍋で何時間、何日もかけて煮詰めて精製していく。設備も人手も必要になるので、多くの場合は、数軒、あるいは集落全体など、複数の家庭で協力して製糖作業を行なった。

そのような、製糖作業で協力しあう集団単位は、サターグミと呼ばれていた。

サターグミは、サターヤーの近くに家や畑がある家庭で構成される場合と、親戚や門中など血縁関係のある家庭で構成される場合があった。

今回の地名調査では、サターグミに関する聞き取り調査は徹底できず、どの家庭がどのサターグミに属したかという詳細な情報は、23集落のうちの限られた集落でしか聞き取りできなかった。詳しく聞き取りができた集落のうち、血縁関係を中心に組分けされている例としてタメーシ（玉代勢）を、近接する家庭で組分けされている例としてシナビ（砂辺）の2集落のサターグミを挙げておく。

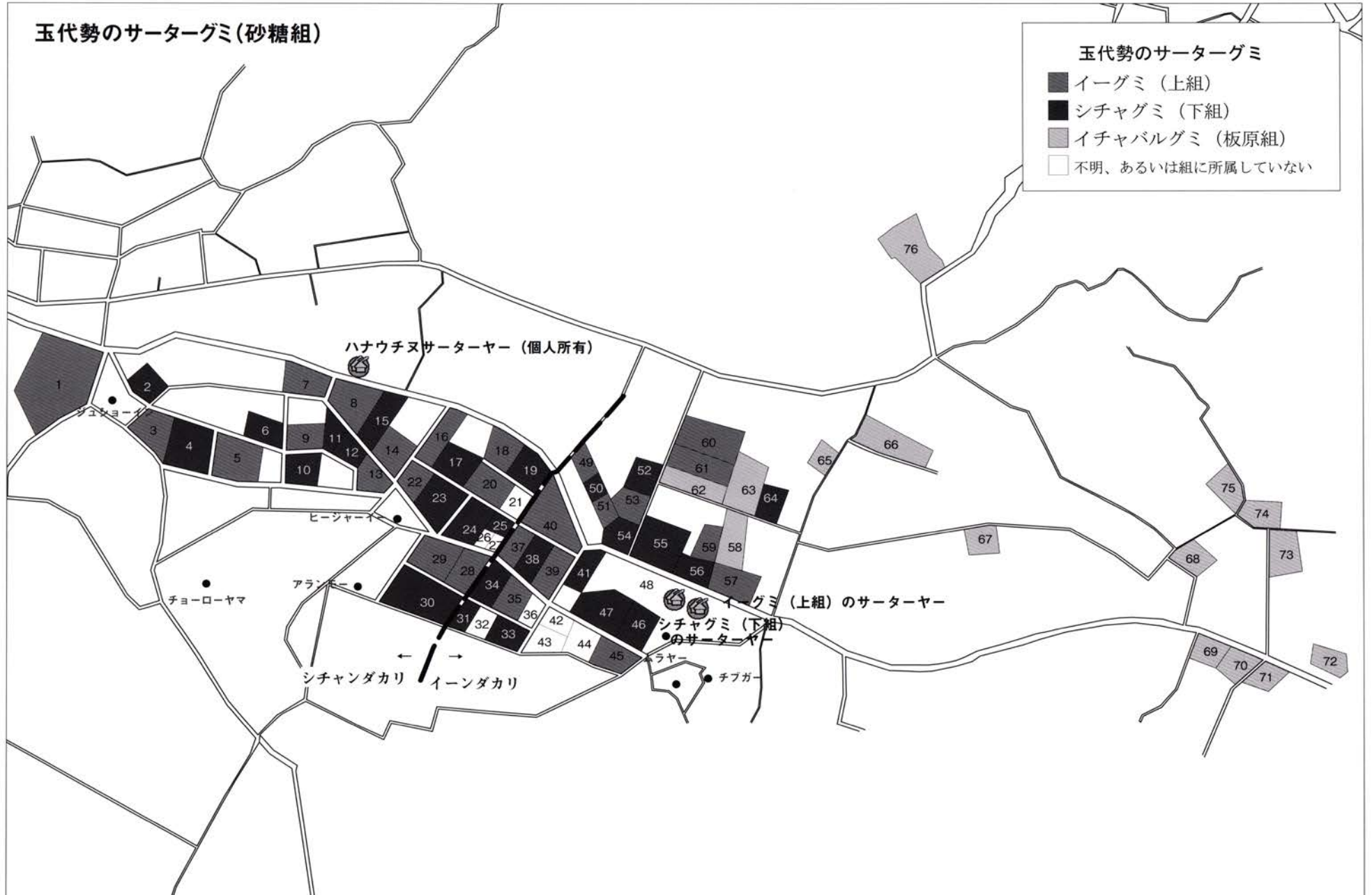
タメーシ（玉代勢）には共同で使用されるサターヤーが2つあり、サターグミは、イーグミ（上組）とシチャグミ（下組）の2つに分かれていた。組分けはおもに血縁関係でなされているため、空間的に見た場合には、イーグミに属する家庭とシチャグミに属する家庭が入り交じっている。

シナビ（砂辺）には共同で使用されるサターヤーが3つあって、サターグミは3つに分かれていた。組分けはシナビ（砂辺）の集落のなかの地域区画を基準に設定されていて、タメーシ（玉代勢）とは対照的に、空間的な区画でもって、どの家がどのサターグミに属するかがはっきりと分かれていた。サターグミごとの固有名称はないが、集落の南半分の区域にあたるメーチンジュとメーナカチンジュでひとつのサターグミ、集落の北側にあるイリナカチンジュでひとつのサターグミ、イリチンジュでひとつのサターグミを構成していた。

玉代勢のサターグミ(砂糖組)

玉代勢のサターグミ

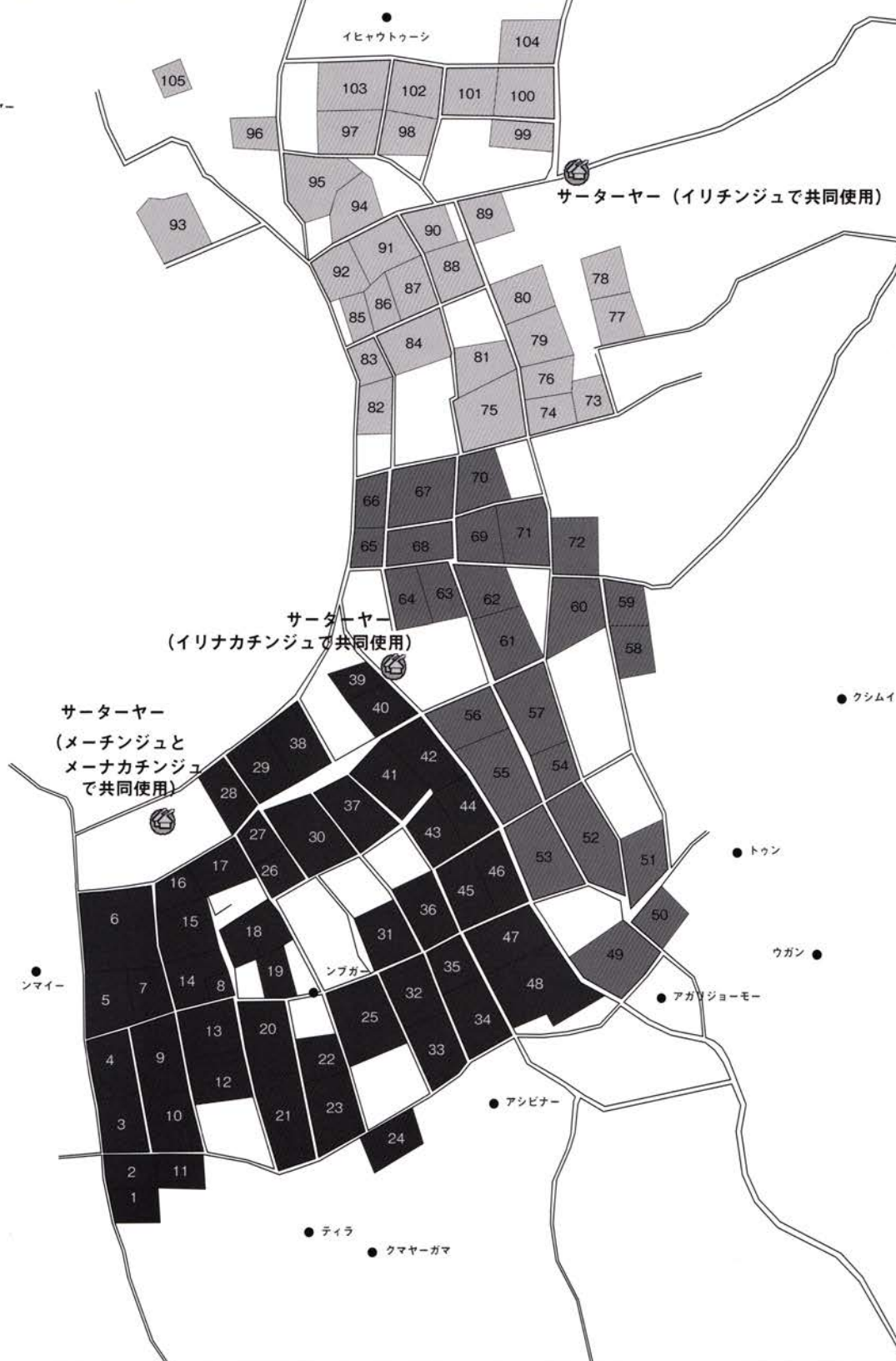
- イーグミ (上組)
- シチャグミ (下組)
- イチャバルグミ (板原組)
- 不明、あるいは組に所属していない



砂辺のサーターグミ (砂糖組)

砂辺のサーターグミ

- メーチンジュ・メーナカチンジュ
- イリナカチンジュ
- イリチンジュ



項目索引

凡例

アーマンチュガマ	洞窟	274	(17)
----------	----	-----	------

地名 区分 ページ 集落番号

ゴシック体で太字の地名 集落概況
通常のゴシック体の地名 項目にあげられている地名
 明朝体で小さい文字の地名 項目地名の別称

集落番号一覧

1	北谷ヌ前屋取	12	謝苜屋取
2	石平屋取	13	崎門屋取
3	北谷	14	桃原屋取
4	玉代勢	15	伊礼
5	伝道	16	平安山
6	仲山屋取	17	浜川
7	屋宜屋取	18	平安山ヌ上屋取
8	桑江ヌ前屋取	19	喜友名小屋取
9	桑江ヌ中屋取	20	砂辺ヌ前屋取
10	桑江	21	砂辺
11	桑江ヌ後屋取	22	上勢頭屋取
		23	下勢頭屋取

ア - オ

アーマンチュガマ	洞窟	274	(17)
アカギヤマー	山地	114	(6)
アカハガー	崖	114	(6)
アカハガー	小ハル名	327	(21)
アカハガーバル	小ハル名	327	(21)
アカヒラー	坂道	143	(8)
アカミチー	小ハル名	285	(18)
アカミチー	郡道	286	(18)
アカミチー	郡道	383	(23)
アカミチーカジマヤー	十字路	389	(23)
アカミチーヌフィラ	坂道	385	(23)
アカミチーピラ	坂道	385	(23)
アカミチヌヒラグワー	坂道	385	(23)
アカムヤー	丘	208	(12)
アガリ	組	205	(12)
アガリウタキ	拝所	71	(3)
アガリガー	湧水井戸	230	(14)
アガリグミ	砂糖組	205	(12)
アガリグミ	組	301	(19)
アガリジョーモー	広場	342	(21)
アガリトーバル	集落	217	(13)

アガリトーバル	集落	229	(14)
アガリバルー	小ハル名	128	(7)
アガリバルー	小ハル名	218	(13)
アガリヤードウイ	組	28	(1)
アガリヤードウイ	組	41	(2)
アガリンダカリ	村渠	93	(5)
アサギ	神家	279	(17)
アザモー	広場	210	(12)
アシジョー	小ハル名	285	(18)
アシジョー	生活道	288	(18)
アシビナー	広場	231	(14)
アシビナー	広場	342	(21)
アシビナー	広場	395	(23)
アシビナーギー	広場	162	(9)
アシビナーギー	広場	181	(10)
アシビナージー	岩山	386	(23)
アシビナーヌウガンジュ	拝所	393	(23)
アシビナーミチ	馬車道	384	(23)
アシビモーグワー	広場	162	(9)
アブヤマー	洞窟	362	(22)
アマジチマー	小ハル名	271	(17)
アラカー	河川	94	(5)
アラカー	河川	229	(14)
アラカーガーラ	河川	113	(6)
アラカチヌカー	掘井戸	246	(15)
アラニモー	丘	84	(4)
アラハミチ	生活道	30	(1)
アラピラー	坂道	64	(3)
アラピラー	坂道	83	(4)
アラファヌシー	岩瀬	30	(1)
アラファヌシー	岩瀬	66	(3)
アランモー	丘	84	(4)
アルミノイサヌヤー	病院	258	(16)
アルメビョーイン	病院	258	(16)
アンチョー	橋	31	(1)
アンチョー	橋	258	(16)
アンチョー	橋	276	(17)
アンブシモー	丘	143	(8)
アンブシモー	野原	159	(9)
アンブシモー	野原	174	(10)
アンブシモー	丘	174	(10)
アンブスーヤマグワー	丘	174	(10)
イーグチ	河川	60	(3)
イーグチガーラ	河川	82	(4)
イーグチガーラ	河川	60	(3)
イーグミ	砂糖組	81	(4)
イーザチンヤマ	丘	65	(3)

イートウシ	小ハル名	29	(1)	イチグスク	丘陵	141	(8)
イートウシ	小ハル名	62	(3)	イチクミ	組	380	(23)
イートウシガーラ	河川	59	(3)	イチゴ	組	58	(3)
イートウシグムイ	池沼	30	(1)	イチャバーマグワー	浜	330	(21)
イートウシバル	小ハル名	62	(3)	イチャバルモー	丘陵	82	(4)
イーヌアタイ	丘	65	(3)	イチャバルヤードウイ	小集落	81	(4)
イーヌカー	掘井戸	208	(12)	イチンニーグムイ	池沼	220	(13)
イーヌカー	掘井戸	318	(20)	イトムラヌサターヤー	製糖小屋	258	(16)
イーヌモー	丘	220	(13)	イナグガー	掘井戸	99	(5)
イーヒージャー	湧水井戸	175	(10)	イハガー	河川	42	(2)
イーマガチ	魚垣	66	(3)	イハガー	河川	59	(3)
イーマガニク	小集落	241	(15)	イヒャウトウーシ	拝所	340	(21)
イーマガニクヌカー	掘井戸	246	(15)	イリ	組	205	(12)
イーマガニクヌサターヤー	製糖小屋	247	(15)	イリー	集落	238	(15)
イーマグワーヌメヌカー	掘井戸	365	(22)	イリーガチ	魚垣	159	(9)
イーマジグワーヌグーフ	丘	363	(22)	イリーガチ	魚垣	175	(10)
イーマシグーフ	丘	363	(22)	イリーグワー	集落	238	(15)
イーマヤードウイ	小集落	241	(15)	イリーグワーヌサターヤー	製糖小屋	246	(15)
イームイグワー	丘	362	(22)	イリーグワーヌメヌハシ	橋	176	(10)
イーヤールイ	組	315	(20)	イリーグワーメヌハシ	橋	192	(11)
イーヤールイグワー	組	315	(20)	イリージガー	掘井戸	364	(22)
イーンダカリ	村渠	81	(4)	イリウィーバル	小ハル名	218	(13)
イーンダカリ	村渠	93	(5)	イリウタキ	拝所	71	(3)
イーンバカ	掘込墓	182	(10)	イリガー	掘井戸	276	(17)
イサヌヤー	商業	54	(3)	イリグミ	砂糖組	205	(12)
イシアナー	採石場	305	(19)	イリグミ	組	301	(19)
イシアナー	採石場	393	(23)	イリグワーガタ	洞	29	(1)
イシアナーグムイ	池沼	363	(22)	イリチンジュ	組	325	(21)
イシグーガマ	洞窟	84	(4)	イリトーバル	集落	217	(13)
イシチチナー	広場	368	(22)	イリナカチンジュ	組	325	(21)
イシピラー	坂道	173	(10)	イリヌカー	掘井戸	276	(17)
イシマラ	洞窟	117	(6)	イリヌシー	岩山	361	(22)
イジュングワー	湧水井戸	118	(6)	イリヌヤマ	山地	114	(6)
イジュングワー	湧水井戸	129	(7)	イリバル	小ハル名	128	(7)
イシンダヒージャー	湧水井戸	43	(2)	イリヤードウイ	組	28	(1)
イシンダミチ	村道	83	(4)	イリヤードウイ	組	41	(2)
イシンダミチ	村道	96	(5)	イリヤマ	山地	242	(15)
イシンダヤードウイ	集落	38	(2)	イリンダカリ	村渠	325	(21)
イシンダヤードウイ	集落	28	(1)	イリンダカリ	村渠	93	(5)
イシンダヤードウイ	集落	59	(3)	インガー	掘井戸	338	(21)
イシンダヤードウイ	集落	82	(4)	インナー	広場	230	(14)
イチ	池沼	174	(10)	ウィーグミ	組	113	(6)
イチ	池沼	245	(15)	ウィーシードウヤードウイ	集落	350	(22)
イチ	池沼	257	(16)	ウィーヌアタイ	小ハル名	270	(17)
イチ	池沼	336	(21)	ウィーヌシジ	岩山	273	(17)
イチグシク	丘陵	155	(9)	ウィーヌハナグシクヌカー	掘井戸	388	(23)
イチグスク	丘陵	95	(5)	ウィーバーケー	小ハル名	285	(18)

ウィーバルグミ	組	358	(22)	ウチャタイヌメー	小ハル名	328	(21)
ウィーヒングワー	小集落	381	(23)	ウティガー	河川	82	(4)
ウージガー	湧水井戸	98	(5)	ウドゥンジーグミ	組	357	(22)
ウージバル	小ハル名	95	(5)	ウドゥンジーミチ	馬車道	360	(22)
ウージバル	小ハル名	206	(12)	ウナガスクシヌカー	河川	141	(8)
ウーチヌカー	湧水井戸	245	(15)	ウナガスクシヌカー	河川	170	(10)
ウーチヌカー	湧水井戸	257	(16)	ウフイジュン	湧水井戸	129	(7)
ウードゥグワーヌメーヌカーラグワー	河川	170	(10)	ウフカーニーモー	広場	342	(21)
ウカー	掘井戸	176	(10)	ウフグムイ	池沼	363	(22)
ウカマジー	岩山	302	(19)	ウフサクピラ	坂道	384	(23)
ウカマジー	岩山	386	(23)	ウフジツチャクグワーヌメーヌカー	掘井戸	365	(22)
ウカミヤー	神家	279	(17)	ウフシヌシー	拝所	340	(21)
ウカミヤー	神家	341	(21)	ウフチドー	小ハル名	115	(6)
ウガン	丘	335	(21)	ウフドーミチ	村道	287	(18)
ウガンガー	掘井戸	338	(21)	ウフドーミチ	村道	316	(20)
ウガンジュ	拝所	193	(11)	ウフドーミチ	村道	331	(21)
ウキンジュガー	掘井戸	365	(22)	ウフヌカー	湧水井戸	118	(6)
ウキンジュガマ	洞窟	362	(22)	ウフミチ	村道	115	(6)
ウククヌメーヌモーグワー	広場	74	(3)	ウフミチ	郡道	383	(23)
ウクマガイ	河川	358	(22)	ウフモー	広場	119	(6)
ウクマガイバシ	橋	365	(22)	ウフモー	広場	130	(7)
ウクルンカーラグワー	河川	206	(12)	ウフヤガヌカー	掘井戸	389	(23)
ウクルンカーラグワー	河川	217	(13)	ウフユナファヌメーヌカー	掘井戸	364	(22)
ウクルンワイトウイ	切り通し	219	(13)	ウマニーミチ	生活道	115	(6)
ウシツクワーガマ	洞窟	317	(20)	ウマヌナガニー	山地	377	(23)
ウシナー	広場	394	(23)	ウミヌカー	湧水井戸	159	(9)
ウシナーミチ	馬車道	383	(23)	ウミヌカーグワー	湧水井戸	159	(9)
ウシナーミチ	馬車道	384	(23)	ウミミチ	生活道	173	(10)
ウシヌホーミ	岩山	244	(15)	ウランダビシ	干瀬	63	(3)
ウシモー	広場	342	(21)	ウワンクーラー	潟	29	(1)
ウシモー	広場	367	(22)	ウンティンムイ	丘	363	(22)
ウシモー	広場	394	(23)	ウンビ	小ハル名	270	(17)
ウシモーグワー	広場	294	(18)	エキ	停車場	277	(17)
ウシモーミチ	馬車道	360	(22)	エキ	停車場	291	(18)
ウシモーミチ	馬車道	383	(23)	エキグワー	停車場	69	(3)
ウシモーミチ	馬車道	384	(23)	エキグワー	停車場	85	(4)
ウスクガー	湧水井戸	67	(3)	エキグワー	停車場	100	(5)
ウスクドー	谷間	359	(22)	エキグワー	停車場	291	(18)
ウスクドーヌカーラ	河川	382	(23)	エキヌメーヌカーラグワー	河川	170	(10)
ウスクヌイジュングワー	湧水井戸	67	(3)	エキヌメーヌハシグワー	鉄橋	177	(10)
ウタキ	丘	335	(21)	エンナー	野原	97	(5)
ウチアラカー	小ハル名	206	(12)	エンナーモー	野原	97	(5)
ウチアラカー	小ハル名	218	(13)	エンブスモー	丘	174	(10)
ウチグムイ	池沼	387	(23)	エンブスモーグワー	丘	174	(10)
ウチヤードウイ	小集落	381	(23)	オーカワジョー	丘陵	94	(5)
ウチヤードウイミチ	馬車道	383	(23)	オータチャー	岩山	273	(17)
ウチャタイ	小ハル名	328	(21)	オータチャー	岩山	317	(20)

オータチャーヌシー 岩山 273 (17)

カ - コ

カー 掘井戸 257 (16)
 カーシヌシー 岩山 332 (21)
 カーシヌポントゥー 岩山 286 (18)
 カーシヌポントン 岩山 332 (21)
 カーシヌメーバル 小ハル名 286 (18)
 カーニーモー 広場 101 (5)
 カーストー 掘井戸 303 (19)
 カーバタガー 掘井戸 338 (21)
 カーブヤーガマ 洞窟 361 (22)
 カーミチ 生活道 360 (22)
 カーラ 河川 269 (17)
 カーラ 河川 325 (21)
 カーラ 河川 326 (21)
 カーラグラ 建物 102 (5)
 カーラグラジー 小ハル名 114 (6)
 カーラグワー 河川 141 (8)
 カーラグワー 河川 155 (9)
 カーラバタ 小ハル名 171 (10)
 カーリーモー 広場 279 (17)
 ガイセンバシ 橋 339 (21)
 ガクフチャーガマ 洞窟 335 (21)
 カジマヤー 十字路 193 (11)
 ガタ 湧 329 (21)
 カチグワーヌチビ イノー 156 (9)
 カチャーラ イノー 156 (9)
 カチラ 湧 329 (21)
 ガッコー 学校 292 (18)
 ガッコー 学校 304 (19)
 ガッコーミチ 郡道 271 (17)
 ガッコーミチ 郡道 316 (20)
 ガッコーミチ 馬車道 384 (23)
 ガッコーミチ 村道 115 (6)
 ガッコーミチ 郡道 383 (23)
 ガッコーヤマ 山地 359 (22)
 カッチングミ 組 357 (22)
 カナータケーシグワーヌカー 掘井戸 389 (23)
 カニク 小集落 59 (3)
 カニクヤールイ 小集落 59 (3)
 カニマンウファカ 掘込墓 75 (3)
 ガマ 洞窟 317 (20)
 カミガー 掘井戸 276 (17)
 カミグサイヌナーシルダ 田 71 (3)

カミヤー 拝所 221 (13)
 カムドーグムイ 池沼 129 (7)
 カヨーダヌクシヌカー 河川 189 (11)
 カヨーダヌクシヌクムイ 池沼 174 (10)
 カヨーダヌクシヌクムイ 池沼 191 (11)
 カンカーヌカミ 拝所 180 (10)
 カンシショー 岩山 273 (17)
 カンシショー 岩山 290 (18)
 カンジャージー 岩山 386 (23)
 カンジャーヌスバ 谷間 269 (17)
 カンジャーヤーヌスバ 谷間 255 (16)
 カンジャーヤーヌメーミチ 馬車道 243 (15)
 カンタ 小ハル名 61 (3)
 カンタヌカー 湧水井戸 67 (3)
 カンタヌカーグワー 湧水井戸 67 (3)
 カンタバル 小ハル名 61 (3)
 ガンヤー 籠屋 46 (2)
 ガンヤー 籠屋 74 (3)
 ガンヤー 籠屋 86 (4)
 ガンヤー 籠屋 101 (5)
 ガンヤー 籠屋 146 (8)
 ガンヤー 籠屋 162 (9)
 ガンヤー 籠屋 182 (10)
 ガンヤー 籠屋 194 (11)
 ガンヤー 籠屋 231 (14)
 ガンヤー 籠屋 248 (15)
 ガンヤー 籠屋 259 (16)
 ガンヤー 籠屋 343 (21)
 ガンヤー 籠屋 395 (23)
 ギーマンラ 小ハル名 270 (17)
 キジャマ 小ハル名 171 (10)
 キジャマミチ 生活道 172 (10)
 キシャミチ 鉄道 64 (3)
 キシャミチ 鉄道 256 (16)
 キシャミチ 鉄道 243 (15)
 キシャミチヌウィー 小ハル名 61 (3)
 キシャミチヌシチャ 小ハル名 61 (3)
 キタタマショーガッコー 学校 69 (3)
 キタタマショーガッコー 学校 100 (5)
 キタマエ 行政字名 28 (1)
 キョードーセートー 工場 70 (3)
 キラマジー 岩山 244 (15)
 ギークトーバル 集落 217 (13)
 ギークトーバル その他 229 (14)
 クィージ 小ハル名 327 (21)
 クィージヌサチ 岬 329 (21)
 グーフ 丘 335 (21)

グーフ	丘	387	(23)	クシヌミチ	生活道	272	(17)
グーフバル	小ハル名	326	(21)	クシヌヤードウイグワー	小集落	81	(4)
グーフムイ	丘	335	(21)	クシベー	村渠	255	(16)
グーフムイグワー	丘	335	(21)	クシミチ	村道	63	(3)
クエー	集落	166	(10)	クシミチ	村道	83	(4)
クエーウリグチ	生活道	128	(7)	クシミチ	生活道	96	(5)
クエーエキ	駅	144	(8)	クシミチ	馬車道	243	(15)
クエーエキ	駅	177	(10)	クシムイ	丘	303	(19)
クエーエキ	駅	192	(11)	クシムイ	丘	335	(21)
クエークシ	集落	186	(11)	クシムイグワーヌモー	広場	305	(19)
クエーグチ	津口	156	(9)	クシヤードウイ	組	28	(1)
クエーナカ	集落	152	(9)	クシヤードウイ	組	41	(2)
クエーヌエキ	駅	160	(9)	クシヤードウイ	組	127	(7)
クエーヌエキ	駅	144	(8)	クシヤードウイ	集落	186	(11)
クエーヌクシ	集落	186	(11)	クシヤードウイグワー	小集落	81	(4)
クエーヌクシヤードウイ	集落	186	(11)	クシヤジ	組	127	(7)
クエーヌクシヤードウイ	集落	169	(10)	クシヤマ	山地	127	(7)
クエーヌナカ	集落	152	(9)	クシヤマガーラ	河川	127	(7)
クエーヌナカヤードウイ	集落	152	(9)	クシユバー	小ハル名	61	(3)
クエーヌナカヤードウイ	集落	169	(10)	クシダカリ	村渠	58	(3)
クエーヌメー	集落	138	(8)	クシダカリ	村渠	169	(10)
クエーヌメーエキ	駅	144	(8)	クシダカリ	村渠	217	(13)
クエーヌメーカジマヤー	十字路	144	(8)	クシダカリ	村渠	380	(23)
クエーヌメーヤードウイ	集落	138	(8)	クシントー	河川	285	(18)
クエーヌメーヤードウイ	集落	169	(10)	クシントーヌカーラグワー	河川	285	(18)
クエーメー	集落	138	(8)	クシントーヌクムイ	池沼	290	(18)
クエーンナトゥ	津口	190	(11)	クシントーヌハシ	橋	291	(18)
クエーンナトゥ	津口	156	(9)	グスク	丘陵	60	(3)
クエーンマイー	馬場	146	(8)	グスクヒヌカン	拝所	60	(3)
クエーンマイー	馬場	162	(9)	グソーンマイー	小ハル名	83	(4)
クエーンマイー	馬場	180	(10)	クバガーヌハカ	亀甲墓	368	(22)
クエーンマイー	馬場	194	(11)	クバガーヌハカ	亀甲墓	395	(23)
クガニグムイ	礎池	31	(1)	クビリ	切り通し	332	(21)
クガニモー	丘	84	(4)	クブグワー	谷間	229	(14)
クシカッチングミ	組	357	(22)	クマジャク	谷間	301	(19)
クシグミ	組	285	(18)	クマヤー	洞窟	333	(21)
クシグミ	組	301	(19)	クマヤーガマ	洞窟	333	(21)
クシグミヌサーターヤーモー	広場	294	(18)	クミアイ	公共施設	69	(3)
グシクンニー	岩山	289	(18)	クミエー	公共施設	69	(3)
グシチングムイ	池沼	303	(19)	クムイ	池沼	43	(2)
クシヌカー	掘井戸	246	(15)	クムイ	池沼	97	(5)
クシヌカー	掘井戸	275	(17)	クムイ	池沼	97	(5)
クシヌカー	掘井戸	387	(23)	クムイ	池沼	143	(8)
クシヌカーラ	河川	241	(15)	クムイ	池沼	191	(11)
クシヌカジマヤー	十字路	277	(17)	クムイ	池沼	230	(14)
クシヌクムイ	池沼	245	(15)	クムイグチー	小ハル名	171	(10)
クシヌトー	河川	301	(19)	クムイグチー	小ハル名	189	(11)

クラニースージ	生活道	158	(9)
クラニースージ	生活道	173	(10)
クラニースクシヌカー	掘井戸	276	(17)
クランモー	広場	247	(15)
クランモーヌブガー	掘井戸	245	(15)
クランモーヌカー	掘井戸	245	(15)
クランモーヌムイ	丘	244	(15)
クランモーフェーヌカー	掘井戸	246	(15)
クルマナー	広場	181	(10)
クワーシャーカジマヤー	十字路	177	(10)
クワーディーサーグムイ	池沼	66	(3)
クワーディーサービジュル	拝所	72	(3)
クワクシ	集落	186	(11)
クワシチャヌクシピラ	坂道	360	(22)
クワシチャングシーヌメーヌミチ	馬車道	29	(1)
クワナカ	集落	152	(9)
クワマエ	集落	138	(8)
クンチリミチ	生活道	272	(17)
クンディヌシー	岩山	289	(18)
グンドー	郡道	287	(18)
グンドー	郡道	359	(22)
グンドー	郡道	383	(23)
クンナトゥ	小ハル名	326	(21)
クンナトゥヌカーラグワー	河川	326	(21)
ケービン	鉄道	316	(20)
ケービンヌシチャー	小ハル名	189	(11)
ケービンミチ	鉄道	190	(11)
ケービンミチ	鉄道	243	(15)
ケービンミチ	鉄道	256	(16)
ケービンミチ	鉄道	288	(18)
ゲキジョー	建物	145	(8)
ケンドー	県道	29	(1)
ケンドー	県道	42	(2)
ケンドー	県道	63	(3)
ケンドー	県道	95	(5)
ケンドー	県道	142	(8)
ケンドー	県道	157	(9)
ケンドー	県道	172	(10)
ケンドー	県道	190	(11)
ケンドー	郡道	229	(14)
ケンドー	県道	242	(15)
ケンドー	県道	255	(16)
ケンドー	県道	271	(17)
ケンドー	県道	286	(18)
ケンドー	県道	302	(19)
ケンドー	郡道	218	(13)
ゴー	戦時施設	102	(5)

コーチョージュータク	建物	293	(18)
ゴガン	その他	142	(8)
ゴガン	その他	157	(9)
ゴガン	その他	172	(10)
ゴングローミチ	郡道	172	(10)

サ ー ソ

サークヌトー	小ハル名	327	(21)
サーターグムイ	池沼	117	(6)
サーターグムイ	池沼	220	(13)
サーターヤー	製糖小屋	31	(1)
サーターヤー	製糖小屋	45	(2)
サーターヤー	製糖小屋	70	(3)
サーターヤー	製糖小屋	85	(4)
サーターヤー	製糖小屋	100	(5)
サーターヤー	製糖小屋	119	(6)
サーターヤー	製糖小屋	130	(7)
サーターヤー	製糖小屋	145	(8)
サーターヤー	製糖小屋	178	(10)
サーターヤー	製糖小屋	193	(11)
サーターヤー	製糖小屋	209	(12)
サーターヤー	製糖小屋	221	(13)
サーターヤー	製糖小屋	230	(14)
サーターヤー	製糖小屋	258	(16)
サーターヤー	製糖小屋	278	(17)
サーターヤー	製糖小屋	293	(18)
サーターヤー	製糖小屋	304	(19)
サーターヤー	製糖小屋	318	(20)
サーターヤー	製糖小屋	339	(21)
サーターヤー	製糖小屋	365	(22)
サーターヤー	製糖小屋	389	(23)
サーターヤーグムイ	池沼	230	(14)
サーターヤーグムイ	池沼	275	(17)
サーターヤーヌカー	掘井戸	318	(20)
サーターヤーミチ	村道	64	(3)
サーターヤーモー	広場	74	(3)
サーターヤーモー	丘	174	(10)
サーターヤーモー	広場	279	(17)
サーターヤーモー	広場	294	(18)
サーラバシ	橋	31	(1)
サーラバシ	橋	68	(3)
サカミチ	坂道	116	(6)
サカミチ	坂道	116	(6)
サクガーヤードゥイ	小集落	380	(23)
サチジョーヤードゥイ	集落	214	(13)

サチジョーヤードウイ	集落	205	(12)	ジムスヌメーヌミチ	馬車道	359	(22)
サチバルモー	野原	117	(6)	ジャーガルシンディリー	坂道	219	(13)
サンカクバタキグワー	その他	368	(22)	ジャーガルピラ	坂道	97	(5)
サンギョークミアイ	公共施設	69	(3)	ジャーガルピラ	坂道	207	(12)
サンクミ	組	380	(23)	ジャーガルピラ	坂道	219	(13)
サングウチャーモー	広場	279	(17)	ジャーガルミチ	郡道	96	(5)
サンゴ	組	58	(3)	ジャーガルミチ	郡道	142	(8)
シーグワー	岩山	361	(22)	ジャーガルミチ	郡道	158	(9)
シーサーニー	広場	74	(3)	ジャーガルミチ	郡道	190	(11)
シーサーヤー	獅子屋	247	(15)	ジャーガルミチ	郡道	207	(12)
シーシヤー	獅子屋	73	(3)	ジャーガルミチ	郡道	218	(13)
シーシヤー	獅子屋	342	(21)	ジャーガルモー	広場	210	(12)
ジージャケー	境界標	368	(22)	ジャーガルヤードウイ	集落	202	(12)
ジージャケーミチ	馬車道	359	(22)	ジャーガルヤードウイ	集落	93	(5)
シードウウシナー	広場	394	(23)	ジャーガルヤードウイ	集落	169	(10)
シードウヌシー	山地	358	(22)	ジャリグムイ	礮池	191	(11)
シードウバシ	橋	389	(23)	ジュサンウコール	拝所	72	(3)
シガイガーラ	河川	94	(5)	ジュショーイン	寺	72	(3)
シガイガーラ	河川	206	(12)	ジュショーイン	寺	86	(4)
シガイガーラ	河川	114	(6)	ジュショーイン	寺	100	(5)
シガイグムイ	池沼	114	(6)	ジュンサヌヤー	交番	178	(10)
シガイピラ	坂道	96	(5)	ジュンサヌヤー	交番	278	(17)
シガグムイ	池沼	97	(5)	ジョーミチャーバカ	掘込墓	195	(11)
ジキラングミ	組	357	(22)	ジョーミチャーバカ	掘込墓	182	(10)
ジキラングワースターヤー	製糖小屋	392	(23)	ショーワードーリ	行政字名	155	(9)
ジキランミチ	村道	96	(5)	シラハマ	浜	271	(17)
ジキランミチ	村道	63	(3)	シラヒージャー	河川	141	(8)
シチャグミ	砂糖組	81	(4)	シラヒージャー	河川	170	(10)
シチャグミ	組	113	(6)	シラヒカワ	河川	170	(10)
シチャシードウヤードウイ	集落	376	(23)	シリーヌサク	谷間	255	(16)
シチャヌカー	掘井戸	118	(6)	シリーヌサク	谷間	269	(17)
シチャヌトー	小ハル名	115	(6)	シリンカー	河川	94	(5)
シチャバルグワー	小集落	381	(23)	シルバシ	橋	68	(3)
シチャバルグワースターヤー	掘井戸	388	(23)	シルヒージャー	河川	60	(3)
シチャバルグワーマチ	生活道	384	(23)	シルヒージャー	河川	82	(4)
シチャヤールイ	組	315	(20)	シルヒージャー	河川	93	(5)
シチャンダカリ	村渠	81	(4)	シルヒージャー	河川	170	(10)
シチャンダカリ	村渠	93	(5)	シンバルミチ	生活道	272	(17)
ジッチャクグミ	組	357	(22)	シンヨークミアイ	公共施設	69	(3)
ジトウヒヌカン	拝所	340	(21)	スーガー	掘井戸	67	(3)
シナビ	集落	322	(21)	スーガー	掘井戸	98	(5)
シナビイノー	イノー	330	(21)	スーティーチャーヤマグワー	丘	274	(17)
シナビトウガイ	岬	329	(21)	スクミチ	県道	331	(21)
シナビヌメーヤールイ	集落	312	(20)	スターケイ	その他	102	(5)
シマブクヌスターヤー	製糖小屋	258	(16)	スミムンガー	掘井戸	67	(3)
ジムス	集会所	367	(22)	セーネンモー	広場	210	(12)
ジムス	集会所	394	(23)	セーマイショ	公共施設	161	(9)

セーマイジョ	公共施設	145	(8)	チャタンサンカ	その他	81	(4)
ソンエイシチャ	公共施設	278	(17)	チャタンサンカ	その他	93	(5)
ソンエイシチャ	公共施設	291	(18)	チャタンジー	小ハル名	218	(13)
ソンドー	村道	287	(18)	チャタンシジー	丘陵	60	(3)
ソンドー	郡道	383	(23)	チャタンターブックワ	水田地帯	62	(3)
ソニヤクバ	役場	291	(18)	チャタンターブックワ	水田地帯	95	(5)
ソニヤマ	山地	242	(15)	チャタントンネル	トンネル	68	(3)

タート

タイショーイイン	商業	54	(3)	チャタンヌメー	集落	24	(1)
タイチョーヤー	建築物	396	(23)	チャタンヌメーヤードウイ	集落	24	(1)
タカアブサー	土手	244	(15)	チャタンバシ	橋	99	(5)
タカアブサー	土手	290	(18)	チャングミ	組	358	(22)
タカガマ	洞窟	244	(15)	チューザイショ	交番	178	(10)
タカジー	岩山	385	(23)	チュンナーグミ	組	357	(22)
タキガー	掘井戸	338	(21)	チュンナーグワヤードウイ	集落	298	(19)
タキグサイウカー	掘井戸	338	(21)	チョーローヤマ	丘	64	(3)
ダキヤマ	山地	114	(6)	チョーローヤマ	丘	84	(4)
ダキヤマ	山地	171	(10)	チンガー	掘井戸	98	(5)
ダキヤマウタキ	洞窟	173	(10)	ティーチバシグワー	橋	68	(3)
タッチュー	岩山	385	(23)	ティーチマーチャー	標木	147	(8)
タナカグミ	組	357	(22)	ティーチマーチュー	標木	147	(8)
タマウエ	行政字名	113	(6)	ティーチマチャー	標木	182	(10)
タマウエ	行政字名	127	(7)	ティーラヌヤマ	山地	242	(15)
タマタ	谷間	83	(4)	ティラ	洞窟	334	(21)
タマタ	谷間	95	(5)	ディンドーミチ	村道	63	(3)
タマタ	谷間	114	(6)	テラグワグムイ	池沼	257	(16)
タマタガーラ	河川	114	(6)	テラグワグムイ	池沼	274	(17)
タメーシ	集落	78	(4)	テラグワースージ	生活道	158	(9)
タメーシミチ	村道	63	(3)	テッキョー	鉄橋	31	(1)
チニンヤードウイ	集落	186	(11)	テッキョー	鉄橋	69	(3)
チヌマタバル	小ハル名	95	(5)	テッキョー	鉄橋	145	(8)
チブガー	湧水井戸	85	(4)	テッキョー	鉄橋	160	(9)
チャタン	集落	54	(3)	テッキョー	鉄橋	178	(10)
チャタンイシンダ	その他	41	(2)	テッキョー	鉄橋	277	(17)
チャタンイノー	イノー	63	(3)	テツドー	鉄道	272	(17)
チャタンエキ	停車場	69	(3)	テンブスーヤマグワー	丘	191	(11)
チャタンガーラ	河川	60	(3)	テンブスーヤマグワー	丘	174	(10)
チャタンガーラ	河川	82	(4)	デンブンコージョー	工場	178	(10)
チャタンガーラ	河川	93	(5)	デンブンコージョー	工場	192	(11)
チャタンガーラ	河川	141	(8)	トゥイヌヤーガマ	洞窟	334	(21)
チャタンガーラ	河川	170	(10)	トゥーティークー	拜所	86	(4)
チャタングスク	丘陵	60	(3)	トゥールガマ	洞窟	117	(6)
チャタングスク	丘陵	94	(5)	トゥクガー	河川	241	(15)
チャタンサンカ	その他	59	(3)	トゥクガー	河川	255	(16)

トゥクガー	河川	381	(23)
トゥクガーシー	岩山	387	(23)
トゥクジヌシーグワー	岩山	386	(23)
トゥタティハラガー	崖	114	(6)
トゥタティハラガー	崖	128	(7)
トゥピラ	岬	329	(21)
トゥピラヌサチ	岬	329	(21)
トゥラジ	小ハル名	206	(12)
トゥラジ	小ハル名	218	(13)
トゥラジバル	小ハル名	218	(13)
トゥラジミチ	生活道	219	(13)
ドゥリグワー	境界標	395	(23)
ドゥリグワーヌハタ	小ハル名	382	(23)
トゥルク	トロッコ軌道	229	(14)
トゥルクガマ	洞窟	334	(21)
トゥルクミチ	トロッコ軌道	360	(22)
トゥン	拝所	72	(3)
トゥン	拝所	179	(10)
トゥン	拝所	247	(15)
トゥン	拝所	258	(16)
トゥン	拝所	278	(17)
トゥン	拝所	340	(21)
トゥンクィールー	池沼	30	(1)
トゥントウングムヤー	池沼	245	(15)
トゥンワタルーバシ	橋	389	(23)
トゥンワタルガーラ	河川	382	(23)
トーグワー	掘井戸	364	(22)
トーヌカー	掘井戸	303	(19)
トーヌカーラグワー	河川	326	(21)
トーバル	小ハル名	327	(21)
トーバルガー	湧水井戸	221	(13)
トーバルガー	湧水井戸	230	(14)
トーバルガーラ	河川	206	(12)
トーバルガーラ	河川	217	(13)
トーバルグムイ	池沼	220	(13)
トーバルヤードゥイ	集落	226	(14)
トーマグワーヌクシヌクムイ	池沼	30	(1)
トーマヌカー	掘井戸	257	(16)
トーヤマヌカー	掘井戸	208	(12)
トーンナトゥ	渦	329	(21)
トロッコ	トロッコ軌道	43	(2)
トントングムイ	池沼	191	(11)
トンネルヤマ	丘陵	155	(9)
トンネルヤマ	丘陵	141	(8)

ナ ー ノ

ナーカヌクムイ	池沼	387	(23)
ナーカヌシー	岩瀬	30	(1)
ナーカヌシー	岩山	361	(22)
ナーカヌシーグワー	岩瀬	175	(10)
ナージクピラ	坂道	116	(6)
ナージクピラ	坂道	129	(7)
ナーシルダ	田	71	(3)
ナーシルダ	田	71	(3)
ナーシルダ	田	86	(4)
ナービグムイ	池沼	84	(4)
ナービグムイ	池沼	97	(5)
ナービグムイ	礁池	337	(21)
ナービグムイ	池沼	114	(6)
ナカ	組	205	(12)
ナカイサーラ	小ハル名	61	(3)
ナカイサーラバル	小ハル名	61	(3)
ナカグスクイシンダ	その他	42	(2)
ナガサ	河川	241	(15)
ナガサンニー	河川	381	(23)
ナガサンニーヌハシ	橋	257	(16)
ナカシェーラ	小ハル名	327	(21)
ナカズニモー	広場	119	(6)
ナカチヤードゥイ	集落	138	(8)
ナカヌシー	岩瀬	66	(3)
ナガバーマ	浜	330	(21)
ナカミチ	馬車道	83	(4)
ナカミチ	生活道	96	(5)
ナカミチ	生活道	173	(10)
ナカミチ	馬車道	243	(15)
ナカミチ	生活道	256	(16)
ナカミチ	生活道	271	(17)
ナカミチ	郡道	287	(18)
ナカミチ	馬車道	331	(21)
ナカミチ	馬車道	359	(22)
ナカヤードゥイ	組	28	(1)
ナカヤードゥイ	組	127	(7)
ナカヤードゥイ	集落	152	(9)
ナカヤジ	組	127	(7)
ナケーマヤードゥイ	集落	110	(6)
ナルカー	河川	169	(10)
ナルカー	河川	189	(11)
ナルカー	河川	241	(15)
ナルカーミチ	馬車道	360	(22)
ニードゥクル	神家	341	(21)
ニーヌファ	拝所	179	(10)

ニーファグワースージ	生活道	158	(9)	ハナウチヌサーターヤー	製糖小屋	86	(4)
ニガン	拝所	340	(21)	ハマガー	集落	266	(17)
ニクミ	組	380	(23)	ハマガーウガン	岩山	272	(17)
ニゴー	組	58	(3)	ハマガーティーラスヤマ	山地	242	(15)
ニシヌカー	掘井戸	364	(22)	ハンザン	集落	252	(16)
ニシヌカー	掘井戸	388	(23)	ハンザンウガン	岩山	256	(16)
ニシヌトーングワー	津口	156	(9)	ハンザンウシナー	広場	258	(16)
ニシハラガー	イノー	155	(9)	ハンジャヌウィーエキグワー	停車場	277	(17)
ニシバルグワー	小集落	381	(23)	ハンジャヌウィーガッコー	学校	292	(18)
ヌーファガーラ	河川	113	(6)	ハンジャヌウィーガッコー	学校	304	(19)
ヌーファバシ	橋	99	(5)	ハンジャヌウィーピラ	坂道	288	(18)
ヌーファバシ	橋	118	(6)	ハンジャヌウィーミチ	郡道	287	(18)
ヌーファピラ	坂道	115	(6)	ハンジャヌウィーヤードウイ	集落	282	(18)
ヌールジー	小ハル名	62	(3)	ハンジャヌクシー	崖	269	(17)
ヌンドゥルチジー	小ハル名	315	(20)	ハンジャンモーリー	干瀬	256	(16)
ノーミンドージョー	公共施設	292	(18)	バンジュ	その他	75	(3)
ノーリグムイ	池沼	336	(21)	ハンタ	崖	269	(17)
ノーリグワー	河川	315	(20)	ヒージャーイー	丘	84	(4)
ノーリグワー	河川	326	(21)	ヒージャーガマ	洞窟	116	(6)
ノーリグワグムイ	池沼	317	(20)	ヒージャーガマ	洞窟	129	(7)
ノーリグワグムイ	池沼	336	(21)	ヒージャーモー	丘	117	(6)
ノリバ	停車場	85	(4)	ビジュル	拝所	72	(3)

ハ - ホ

ハーイジー	岩山	302	(19)	ビジュル	拝所	145	(8)
バーケーモー	小ハル名	115	(6)	ビジュル	拝所	161	(9)
ハージョークシ	河川	169	(10)	ビジュル	拝所	180	(10)
ハーナムイ	拝所	222	(13)	ビジュル	拝所	210	(12)
ハーマミチ	馬車道	331	(21)	ビジュル	拝所	210	(12)
ハイスイコー	河川	189	(11)	ビジュル	拝所	305	(19)
ハイスイコー	河川	170	(10)	ビジュル	拝所	318	(20)
ハイスイロ	河川	141	(8)	ビジュル	拝所	367	(22)
ハシ	橋	160	(9)	ヒラカージー	岩山	361	(22)
ハシ	橋	192	(11)	ヒラカースージ	生活道	159	(9)
ハシ	橋	304	(19)	ヒラグワー	坂道	316	(20)
ハシグワー	橋	67	(3)	フィラカージー	岩山	385	(23)
ハシグワー	橋	176	(10)	フェーヌカー	掘井戸	364	(22)
ハシグワー	橋	176	(10)	フェーヌカー	掘井戸	388	(23)
ハシグワー	橋	176	(10)	フェーヌトーングワー	津口	157	(9)
ハシグワー	橋	177	(10)	フェーハラガー	イノー	156	(9)
バシャミチ	馬車道	302	(19)	フェーヤチガマ	灰焼窯	247	(15)
ハツドーキ	工場	45	(2)	フシクブ	掘井戸	44	(2)
ハツドーキ	工場	70	(3)	フテンマガーラ	河川	42	(2)
ハツドーキミチ	村道	64	(3)	フテンマバシ	橋	44	(2)
ハツドーキミチ	村道	96	(5)	フテンマヒージャー	湧水井戸	44	(2)
				フトウキントーミチ	生活道	115	(6)
				フトウキントーミチ	生活道	128	(7)
				フナウクイモー	丘	65	(3)
				フナウクイモー	広場	119	(6)
				フナウクイモー	広場	162	(9)

フナウクイモー	丘	219	(13)
フナウクイモー	丘	230	(14)
フナウクイモー	丘	303	(19)
フミキリ	建築物	277	(17)
フミキリ	建築物	291	(18)
ヘイジョー	集落	282	(18)
ヘーヤチガマ	灰焼窯	161	(9)
ホーグ	小ハル名	328	(21)
ボージバカ	洞窟	116	(6)
ボージャージー	岩山	273	(17)
ホースガー	湧水井戸	208	(12)
ホースガー	湧水井戸	98	(5)
ホーヤーガー	湧水井戸	337	(21)
ホーヤーマーチ	標木	343	(21)
ポトン	池沼	66	(3)

マ - モ

マーイサーモー	広場	210	(12)
マーイシモー	広場	222	(13)
マーチュー	林	43	(2)
マーチューモー	広場	210	(12)
マーマーズグムイ	池沼	43	(2)
マガヤー	その他	343	(21)
マカルーイリーグワーヌサチ	岬	329	(21)
マタジ	小ハル名	61	(3)
マタジヌシーグワー	岩瀬	66	(3)
マチグムイ	礁池	318	(20)
マチグムイ	礁池	337	(21)
マチグムイヌサチ	岬	329	(21)
マチグムイヌシーグワー	岩山	316	(20)
マチダグミ	組	357	(22)
マックルーウシナー	広場	259	(16)
マテーシグワーガマ	洞窟	129	(7)
マヤーガマ	割れ目	143	(8)
マヤーガマ	割れ目	159	(9)
マヤーガマ	洞窟	362	(22)
マヤージー	岩山	386	(23)
マヤーヤー	小ハル名	327	(21)
マルグムヤー	池沼	30	(1)
ミーガー	掘井戸	364	(22)
ミーミチ	村道	96	(5)
ミーミチ	生活道	173	(10)
ミーミチ	村道	64	(3)
ミーヤースーターヤー	製糖小屋	294	(18)
ミカジチガー	掘井戸	364	(22)

ミジグルマー	建築物	248	(15)
ミジタンク	水タンク	209	(12)
ミチ	馬車道	331	(21)
ミッチャヌヒラグワー	坂道	332	(21)
ミフーダ	田	71	(3)
ミヤギビョーイン	商業	54	(3)
ミンタマヤー	谷間	359	(22)
ミンタマヤーピラ	坂道	360	(22)
ムーズニ	スニ	157	(9)
ムヌマイーバタキ	その他	368	(22)
ムラウチ	小集落	59	(3)
ムラウチ	小集落	81	(4)
ムラウチ	小ハル名	328	(21)
ムラヌサーターヤー	製糖小屋	193	(11)
ムラヌサーターヤー	製糖小屋	246	(15)
ムラヤー	集会所	73	(3)
ムラヤー	集会所	86	(4)
ムンチャリナー	広場	295	(18)
ムンチャリナー	広場	395	(23)
メーカッチングミ	組	357	(22)
メーグシクジマ	小ハル名	62	(3)
メーグスクジマグワー	小ハル名	90	(5)
メーグミ	組	285	(18)
メーグミ	組	301	(19)
メーチンジュ	組	325	(21)
メーナカチンジュ	組	325	(21)
メーナカムラグワークシヌクムイ	池沼	220	(13)
メーヌウカミガー	掘井戸	275	(17)
メーヌカー	湧水井戸	44	(2)
メーヌカー	掘井戸	130	(7)
メーヌカー	掘井戸	275	(17)
メーヌカー	掘井戸	387	(23)
メーヌトー	河川	301	(19)
メーヌトーヌクムイ	池沼	303	(19)
メーヌハルー	小ハル名	62	(3)
メーヌハルー	小ハル名	382	(23)
メーヌマーチュー	林	387	(23)
メーヌマーチューグワー	林	387	(23)
メーヌミチ	生活道	271	(17)
メーベ	村渠	255	(16)
メーベミチ	村道	64	(3)
メーマシヌサーターヤー	製糖小屋	246	(15)
メーミチ	村道	96	(5)
メーミチ	馬車道	243	(15)
メーヤードウイ	組	28	(1)
メーヤードウイ	組	41	(2)
メーヤードウイ	組	127	(7)

メーヤードウイ	集落	138	(8)
メーヤジ	組	127	(7)
メーヤジバル	小ハル名	128	(7)
メーダカリ	村渠	217	(13)
メーダカリ	村渠	380	(23)
メンター	小ハル名	29	(1)
メンター	小ハル名	61	(3)
メンターグムイ	池沼	175	(10)
メンターグワー	小ハル名	61	(3)
メンターミチ	生活道	64	(3)
メンダカリ	村渠	58	(3)
メンダカリ	村渠	169	(10)
メンダカリ	村渠	325	(21)
モーグワーヌメー	広場	101	(5)

ヤ - ユ

ヤードウイガー	掘井戸	290	(18)
ヤードウイミチ	馬車道	287	(18)
ヤードウイミチ	馬車道	288	(18)
ヤガグワーヤードウイ	小集落	381	(23)
ヤカビヌヒラ	坂道	207	(12)
ヤクバ	役場	291	(18)
ヤクバヌアガリ	小ハル名	270	(17)
ヤクバヌメー	小ハル名	270	(17)
ヤクバヌメーヌヒラ	坂道	288	(18)
ヤジナケーマ	その他	113	(6)
ヤジナケーマ	その他	127	(7)
ヤジバンタピラ	坂道	116	(6)
ヤジバンタピラ	坂道	129	(7)
ヤジヤードウイ	集落	124	(7)
ヤマガー	湧水井戸	98	(5)
ヤマガーグワーピラ	坂道	272	(17)
ヤマガーピラ	坂道	272	(17)
ヤマガーミチ	馬車道	256	(16)
ヤマガマー	拝所	100	(5)
ヤマガマーモー	広場	101	(5)
ヤマグワー	丘	274	(17)
ヤマグワーンニー	岩山	289	(18)
ヤマシシガマ	洞窟	362	(22)
ヤマシロビョーイン	商業	54	(3)
ヤマダ	谷間	242	(15)
ヤマダヌミチ	馬車道	243	(15)
ユーピンチク	商業	54	(3)
ユクヒラ	坂道	332	(21)
ユシミヌカミ	拝所	394	(23)

ユタカバシ	橋	339	(21)
ユナファグミ	組	357	(22)
ユナンディ	小ハル名	326	(21)
ユヒングワーヌハタ	小ハル名	171	(10)
ユヒングワーヌメー	小ハル名	218	(13)
ヨンクミ	組	380	(23)

ラ - ロ

ランカングワー	橋	246	(15)
リュウグーシン	拝所	161	(9)
リュウグーシン	拝所	180	(10)
リュウグーシン	拝所	278	(17)
リンドー	集落	90	(5)
リンドーガー	掘井戸	98	(5)
リンドーミチ	村道	96	(5)
ローラーバシ	橋	68	(3)
ローラーバシ	橋	209	(12)
ローラーバシグワー	橋	177	(10)

ワ - ン

ワイトウイ	切り通し	208	(12)
ワイトウイ	切り通し	385	(23)
ワチナグイスージ	生活道	158	(9)
ワンドウー	谷間	382	(23)
ンージュグワー	河川	285	(18)
ンジュグワー	河川	315	(20)
ンナトゥグワー	潟	190	(11)
ンナトゥグワー	潟	242	(15)
ンナトゥグワー	潟	329	(21)
ンナンミグミ	組	358	(22)
ンナンミスージ	生活道	158	(9)
ンブガー	掘井戸	176	(10)
ンブガー	湧水井戸	337	(21)
ンマアミシグムイ	池沼	66	(3)
ンマアミシグムイ	池沼	245	(15)
ンマイー	馬場	73	(3)
ンマイー	馬場	341	(21)
ンマイー	馬場	180	(10)
ンマイームイ	丘	336	(21)
ンマヌクチー	十字路	31	(1)
ンマヌナガニー	山地	171	(10)
ンマヌファ	拝所	180	(10)

93967

北谷町文化財調査報告書 第24集

北谷町の地名

－戦前の北谷の姿－

編集 北谷町教育委員会
2006(平成18)年3月
沖縄県北谷町字桑江226番地
電話 (098)936-3490

印刷 沖縄コロニー印刷
沖縄県浦添市宮城4-9-17
電話 (098)877-3344
